

子どもと子育て及び結婚に関する調査
結果報告書

令和6年3月
青森県子どもと子育て及び結婚に関する調査
のための検討委員会
青森県

調査概要

調査概要

1. 調査の目的

近年の出生率の低下、晩婚化、核家族化、都市化の進展、女性の社会参画など、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化している状況において、一人ひとりが安心と幸せを実感し、結婚から子育てに希望と喜びを持てる青森県づくりを進めていくための施策の基礎資料を得ることを目的とする。

また、本調査で把握した県民の子育ての現状や子育て支援及び結婚に関する県民ニーズ等については、令和6年度に策定を予定している次期次世代育成支援行動計画及び令和6年度以降の施策の立案に反映させるものである。

2. 調査の対象等

- ・調査実施地域 青森県全域
- ・調査対象 0～18歳の子どもの親、20～39歳の独身者
- ・標本数 0～18歳の子どもの親 2,000人
20～39歳の独身者 3,000人
- ・抽出方法 住民基本台帳をサンプリング台帳とした層化二段無作為抽出法により抽出
なお、0～18歳の子どもがいる世帯データがないため、令和4年10月1日時点での18歳未満人口を母集団とし、20～39歳の独身者については、住民基本台帳からは婚姻情報が得られないため、20～39歳人口を母集団とした。

【0～18歳の子どもの親】

地区名	市郡名	18歳未満人口	標本抽出数
青森地区	青森市	35,447	437
	東津軽郡	1,909	24
津軽地区	弘前市	21,992	272
	黒石市	4,044	50
	平川市	4,222	52
	中津軽郡	171	2
	南津軽郡	3,932	49
西北五地区	五所川原市	6,252	77
	つがる市	3,631	45
	西津軽郡	1,447	18
	北津軽郡	3,972	48
上十三地区	十和田市	8,136	100
	三沢市	6,053	75
	上北郡	12,911	160
八戸地区	八戸市	32,327	399
	三戸郡	7,091	86
下北地区	むつ市	7,010	86
	下北郡	1,627	20
合計		162,174	2,000

【20～39歳の独身者】

地区名	市郡名	20～40歳未満人口	標本抽出数
青森地区	青森市	42,403	654
	東津軽郡	2,085	32
津軽地区	弘前市	30,654	473
	黒石市	4,981	77
	平川市	4,843	75
	中津軽郡	170	3
	南津軽郡	4,416	68
西北五地区	五所川原市	7,124	110
	つがる市	4,275	66
	西津軽郡	1,508	24
	北津軽郡	4,278	66
上十三地区	十和田市	9,547	147
	三沢市	7,794	120
	上北郡	14,989	231
八戸地区	八戸市	37,283	575
	三戸郡	8,180	126
下北地区	むつ市	8,176	126
	下北郡	1,816	27
合計		194,522	3,000

3. 調査方法

インターネットによるウェブ回答

4. 回収結果

0～18歳の子どもの親

・調査票回答総数 737 (回収率 36.9%)

20～39歳の独身者

・調査票回答総数 579 (回収率 19.3%)

5. 調査実施期間

・令和5年9月11日～9月25日

子どもと子育て及び結婚に関する調査
(子どもを持つ親対象)

結果報告書

令和6年3月

青森県

目次

調査結果のまとめ	1
調査結果	
・回答者のプロフィール	14
・結婚に対する意識について	32
・理想の子ども数・現実の子ども数について	51
・妊娠・出産について	62
・仕事と子育ての両立について	68
・夫婦の家事・育児参加について	83
・育児に関する意識について	100
・保育環境について	133
・子ども数の減少について	144
・子育て支援のための行政への要望等について	150
資料編	
・自由回答まとめ	
・調査票	

調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

< 1 > 結婚に対する意識について

(1) 結婚した年齢と知り合ったきっかけ

現在のパートナーと結婚した年齢は「25～29歳」の割合が45.5%と最も大きく、次いで、「24歳以下」が22.7%、「30～34歳」が21.1%、「35～39歳」が5.6%の順になっている。

男女別では、「25～29歳」の割合が男性42.3%、女性の46.7%と男女ともに最も大きくなっている。「24歳以下」では男性14.1%に対して女性が25.4%と女性が11.3ポイント大きくなっており、「30～34歳」では男性27.6%に対して女性が18.9%と男性が8.7ポイント大きくなっている。

結婚平均年齢では全体で27.9歳、男性が29.3歳、女性が27.4歳となっている

知り合ったきっかけは、「友人や兄弟姉妹を通じて(30.7%)」の割合が最も大きく、次いで「職場や仕事の関係で(29.0%)」、「学校で(9.8%)」の順となっている。

男女別では「友人や兄弟姉妹を通じて(男性24.6%、女性32.8%)」の割合は女性の方が大きく、「職場や仕事の関係で(男性32.5%、女性27.9%)」は、男性が大きくなっている。

(2) 交際する前の結婚に対する意識

現在のパートナーと交際する前の結婚に対する意識について、「適当な時期が来たら結婚と考えていた(50.3%)」の割合が最も大きく、次いで「なるべく早めに結婚したいと考えていた(26.7%)」、「特に考えていなかった(14.4%)」、「生涯独身でもよいと考えていた(7.3%)」の順となっている。

男女別では、「適当な時期が来たら結婚と考えていた(男性59.5%、女性47.0%)」割合は男性が女性より大きい、「なるべく早めに結婚したいと考えていた(男性22.7%、女性28.2%)」、「生涯独身でもよいと考えていた(男性4.3%、女性8.4%)」割合は女性の方が大きくなっている。

(3) 結婚する前に考えていた結婚の条件

「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が最も大きく51.7%となっている。次いで、「子どもができること(持つこと)」が34.7%、「パートナーの雇用が安定すること」が28.6%となっている。

男女別では、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は女性(55.9%)が男性(39.9%)よりも16ポイント大きくなっている。「子どもができること(持つこと)」は男性(34.4%)女性(34.9%)と男女の差はあまり見られない。「パートナーの雇用が安定すること」は、女性(36.1%)が男性(6.7%)よりも29.4ポイント大きくなっている。また、「自分の雇用が安定すること」は、男性(31.3%)が女性(8.0%)よりも23.3ポイント大きくなっている。

（４）結婚する前に考えていたパートナーの条件

パートナーの条件を３つまであげてもらったところ、「一緒にいて楽しいこと（66.3%）」の割合が最も大きく、「価値観が近いこと（55.3%）」、「金銭感覚（27.8%）」、「経済力があること（25.0%）」の順となっている。

男女別では、男性は「容姿が好みであること」が22.7%、「家事や家計を任せられること」が15.3%となっており、「容姿が好みであること」は12.2ポイント、「家事や家計を任せられること」は11.1ポイント女性より大きくなっている。女性は、「経済力があること」が31.9%、「金銭感覚」は31.7%、「家事分担」は13.9%となっており、「金銭感覚」は15.1ポイント、「経済力があること」は27ポイント、「家事分担」は11.4ポイント男性より大きくなっている。

「一緒にいて楽しいこと」の割合は男性69.3%に対して女性65.3%と男性が大きく、「価値観が近いこと」は男性54.6%、女性55.7%とほぼ同じ、「金銭感覚」は男性16.6%、女性31.7%、「経済力があること」は男性4.9%、女性31.9%と、女性の方が大きくなっている。

（５）結婚を最終的に決めた直接のきっかけ

現在のパートナーとの結婚を決めた直接のきっかけについて、「年齢的に適当な時期だと感じた（36.0%）」の割合が最も大きく、次いで「子どもができた（28.0%）」、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった（11.9%）」の順となっている。

男女別では、「年齢的に適当な時期だと感じた（男性38.6%、女性8.7%）」は男性が女性より大きい、「子どもができた（男性21.4%、女性52.3%）」、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった（男性13.5%、女性21.7%）」は女性の割合が大きくなっている。

（６）結婚することの利点

結婚することの利点を３つまであげてもらったところ、「子どもや家族を持てる（71.6%）」の割合が最も大きく、次いで「精神的な安らぎの場が得られる（47.7%）」、「人間として成長できる（24.1%）」、「経済的に余裕が持てる（14.8%）」の順となっている。

男女別では、「子どもや家族を持てる」、「経済的に余裕が持てる」については、女性の割合（それぞれ75.1%、20.3%）が男性より大きい。また、「社会的信用や対等な関係が得られる」は男性（14.2%）が女性（6.9%）より7.3ポイント大きく、「経済的に余裕が持てる」は女性（20.3%）が男性（9.2%）より11.1ポイント大きくなっている。

（７）結婚することの不利益

結婚することの不利益を３つまであげてもらったところ、「自由に使えるお金が減る（42.2%）」が最も大きく、次いで「やりたいことの実現が制約されてしまう（40.4%）」、「子育て・家事等の負担が重くなる（32.1%）」、「特に不利益はない（26.5%）」の順となっている。

男女別では、「自由に使えるお金が減る」の割合は男性（51.0%）が女性（33.5%）より17.5ポイント大きくなっているが、「やりたいことの実現が制約されてしまう」は男性（40.1%）、女性（40.8%）とあまり差は見られない。「子育て・家事等の負担が重くなる」は女性（45.2%）が男性（19.1%）よりも26.1ポイント大きくなっている。また、「特に不利益はない」は男性（29.0%）が女性（23.8%）より5.2ポイント大きくなっている。

(8) 年齢別の離婚経験

離婚経験の有無は、「ある (20.9%)」、「ない (78.2%)」、「答えたくない (0.9%)」となっている。男女別では、「ある (男性 15.4%、女性 22.6%)」については女性が男性より大きく、「ない (男性 83.5%、女性 76.5%)」となっている。

回答者の年齢別にみると「34歳以下 (男性 7.7%、女性 26.1%)」、「35～44歳 (男性 13.5%、女性 22.0%)」、「45歳以上 (男性 20.0%、女性 21.5%)」と、男性は「45歳以上」、女性は「34歳以下」の割合が最も大きく、各年代で女性の割合が男性より大きくなっている。

＜2＞理想の子ども数・予定の子ども数について

（１）理想とする子ども数

理想とする子ども数は、男女ともに「２人（男性 44.4%、女性 43.8%）」の割合が最も大きく、次いで「３人（男性 41.9%、女性 42.9%）」となっている。

平成 30 年度に実施した前回調査と比べて、「２人（前回：男性 39.8%、女性 38.8%）」を理想とする割合が男性で 4.6 ポイント、女性で 5 ポイント増加、「３人（前回：男性 40.0%、女性 44.5%）」を理想とする割合が男性で 1.9 ポイント増加、女性で 1.6 ポイント減少している。

理想とする子ども数の平均は 2.61 人で、前回調査（2.60 人）と同等となっている。

（２）予定の子ども数

予定している子どもの数は、男女ともに「２人（男性 42.2%、女性 47.8%）」の割合が最も大きく、次いで「３人（男性 34.9%、女性 28.9%）」となっている。

予定する子ども数の平均は 2.36 人で、前回調査（2.33 人）より増加している。

また、理想とする子ども数と一致している人の割合は、「１人（77.3%）」が最も大きく、次いで「２人（62.6%）」、「３人（50.1%）」となっている。全体の一致率は 55.6% で前回調査の 61.7% より 6.1 ポイント小さくなっている。

理想とする子ども数が多くなるにつれ、予定の子ども数は、「２人」の場合 21.5%、「３人」の場合 45.6%、「４人」の場合 50.1%、「５人以上」の場合は 77.8% と少なくなっている。

（３）予定の子ども数が少ない理由

理想の子ども数より、予定の子ども数が少ない人にその理由を 2 つまであげてもらったところ、「子どもの教育にお金がかかるから（37.3%）」の割合が最も大きく、次いで「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから（29.3%）」、「高年齢になってから生むのはいやだから（20.8%）」、「子育ての心理的、肉体的負担が重いから（18.6%）」、「前回の妊娠・出産が大変だったから（9.9%）」の順となっている。

前回調査と比べて、順位は同じであるが、「子どもの教育にお金がかかるから（前回 45.7%）」が 8.4 ポイント減少している。また、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから（前回 35.6%）」が 6.3 ポイント、「高年齢になってから生むのはいやだから（前回 25.6%）」が 4.8 ポイント減少しており、「子育ての心理的、肉体的負担が重いから（前回 16.4%）」が 2.2 ポイント増加している。

< 3 > 妊娠・出産について

(1) 不妊治療の経験

不妊治療を経験したことがある人は、「ある(13.8%)」、「ない(84.8%)」、「答えたくない(1.4%)」となっている。男女別では、「ある(男性12.0%、女性14.4%)」、「ない(男性84.0%、女性85.1%)」となっている。

また、現在、不妊治療を行っている人は、「している(0.5%)」、「していない(98.4%)」、「答えたくない(1.1%)」となっている。男女別では、「している(男性0.6%、女性0.5%)」、「していない(男性96.0%、女性99.1%)」となっている。

(2) 不妊治療で困ったこと

不妊治療で困ったことを3つまであげてもらったところ、「治療中の心理的負担(59.8%)」の割合が最も大きく、「金銭的負担(53.9%)」、「仕事と治療の両立(47.1%)」、「治療中の身体的負担(21.6%)」の順となっている。

＜４＞仕事と子育ての両立について

（１）生計の主たる担い手

生計の主たる担い手を聞いたところ、「パートナー（57.2%）」、「本人（40.0%）」となっている。

男女別では、男性は「本人」が91.4%と最も大きく、次いで「パートナー」が5.7%、女性は「パートナー」が73.0%で最も大きく、次いで「本人」が24.1%となっている。

（２）就労形態の変化と時期

結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけに回答者又はパートナーの仕事の仕方が変わったか聞いたところ、「変わった（63.6%）」、「変わらなかった（36.4%）」となっている。

仕事の仕方が「変わった」時期としては、「出産した時（25.5%）」が最も大きく、次いで、「妊娠した時（25.4%）」、「産後休暇・育児休暇後の復職時（22.2%）」、「結婚した時（11.3%）」、「子どもが小学校に入った時（9.4%）」となっている。

仕事の仕方が変わった内容は、「退職した（38.4%）」と「一時休職した（6.2%）」を合わせた就労中止が44.6%を占め、「勤務形態が変わった（18.1%）」、「転職した（17.3%）」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった（7.7%）」の就労継続は43.1%となっている。

前回調査と比べて、「退職した（前回47.6%）」の割合が9.2ポイント減少、就労中止（前回53.8%）も9.2ポイント減少しているのに対して、就労継続（前回35.3%）は7.8ポイント増加している。

（３）仕事をやめた理由

結婚や子育てをきっかけに「退職した」と答えた人に、仕事をやめた理由を3つまであげてもらったところ、「仕事と子育ての両立が難しくなった（難しくなると思った）から（25.6%）」が最も大きく、次いで「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから（24.4%）」、「子育てに専念したいと思ったから（22.8%）」、「仕事と家事の両立が困難だから（18.3%）」の順となっている。

前回調査と比べて、「仕事と子育ての両立が難しくなったから（前回26.6%）」、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから（前回22.3%）」の割合は1～2.1ポイント減少している。

（４）子育てと職業を両立する上で必要な職場の制度

子育てと仕事を両立しやすくするために、職場にどのような制度が必要だと思うか3つまであげてもらったところ、「子どもの病気やけがの時に休暇が取れる（59.7%）」が最も大きく、次いで「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする（45.3%）」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする（36.5%）」の順となっている。

男女別では、「子どもの病気やけがの時に休暇が取れる」の割合は女性62.4%に対し男性50.9%となっているが、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」は男性50.3%に対し女性43.7%、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」は男性45.7%に対し女性33.5%となっている。

< 5 > 夫婦の家事・育児参加について

(1) 夫婦の子育ての役割分担の実態と期待

子育てに関する夫婦間の役割分担の実態について、全体を10として配分してもらったところ、男性は自分の役割分担が4以下であると感じている人が69.4%を占めているのに対し、女性は6以上であると感じている人が82.9%を占めている。

期待としてどの程度の役割分担が適切と考えているかを見ると、男女ともに半々の分担がよいと考えている人が多い（男性62.6%、女性48.3%）。

(2) 夫婦の家事の役割分担の実態と期待

家事に関する夫婦間の役割分担の実態について、全体を10として配分してもらったところ、男性は自分の役割分担が4以下であると感じている人が65.0%を占めているのに対して、女性は6以上であると感じている人が76.3%を占めている。

期待としてどの程度の役割分担が適切と考えているかを見ると、男女ともに半々の分担がよいと考えている人が最も多い。（男性60.1%、女性46.0%）

男性では、自分の分担が妻よりも少ない4以下が全体の8.0%で、前回調査に比べて40.7ポイント減少している。

女性では、自分の分担を4以下とする回答が49.2%で、前回調査に比べて47.8ポイント増加している。また、6以上が全体の4.8%で前回調査（64.0%）に比べて59.2ポイント減少している。性別に関係なく、女性が多く分担することが適切と考えている人は少なくなっている。

(3) 自分自身の子育てへの関わり

自分自身の子育てへの関わりについて評価してもらったところ、「十分である」、「ある程度は十分である」の合計が女性85.8%に対し男性66.8%となっている。

(4) パートナーの子育てへの関わり

パートナーの子育てへの関わりについて評価してもらったところ、「十分である」、「ある程度は十分である」の合計が男性89.5%に対し女性60.5%となっている。特に、「十分である」について、男性51.5%に対し女性14.3%となっており、夫の妻に対する評価の高さに比べて妻の夫に対する評価が低い結果となっている。

(5) 子育てに関してパートナーに望むこと

子育てに関してパートナーに何を望むか3つまであげてもらったところ、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい（30.9%）」、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい（25.8%）」、「家事や子育てをもっと分担してほしい（24.4%）」の順となっている。

(6) 3歳までに利用したことがある制度や施設

お子さんが3歳になるまでの間、利用したことがある制度や施設を3つまであげてもらったところ、「産前・産後休業制度（40.4%）」が最も大きく、次いで「認定こども園（34.9%）」、「育児休業制度（ご自身）（34.3%）」の順となっている。

男女別では、「産前・産後休業制度」の割合は女性44.4%に対し男性27.4%、「育児休業制度（ご自身）」の割合は女性41.9%に対し男性9.7%となっている。

(7) 今後利用したい制度や施設

今後利用したい制度や施設を3つまであげてもらったところ、「特にない (42.9%)」の割合が最も大きく、次いで「放課後児童クラブ (20.2%)」、「認定こども園 (14.9%)」の順となっている。

男女別では、「特にない」の割合は男性 44.0%に対し女性 42.6%、「放課後児童クラブ」は男性 20.6%に対し女性 20.1%、「認定こども園」は男性 14.3%に対し女性 15.2%と、全体的に大きな差はない。

＜6＞育児に関する意識について

（１）子どもを生み育てることの喜びや良さ

子どもを生み育てることの喜びや良さを3つまであげてもらったところ、「子どもに愛情を注ぐことができる（60.8%）」の割合が最も大きく、次いで「子どもを育てることによって自分が成長する（56.9%）」、「家族の結びつきを強める（48.4%）」の順となっている。

前回調査と比べて、順位は1位と2位が入れ替わり、「子どもに愛情を注ぐことができる（前回67.8%）」が7ポイント、「子どもを育てることによって自分が成長する（前回69.9%）」が13ポイントの減少となっている。

（２）子育てをする上での不安や悩み

子育てをする上での不安や悩みを持っているか聞いたところ、82.1%（男性74.3%、女性84.7%）が「持っている（持っていた）」と回答した。

「持っている」と回答した方に、3つまで辛さや不安、悩みをあげてもらったところ、「子どもの教育にお金がかかる（43.0%）」の割合が最も大きく、次いで「子ども自身に関すること（子どもの健康、勉強、性格やくせ、友人など）（31.2%）」、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない（28.6%）」の順となっている。

上位3項目以外では、男性で「出産・子育てにお金がかかる（26.9%）」、女性で「自分の自由時間がない（26.3%）」の割合が大きくなっている。

今回1位の「子どもの教育にお金がかかる」は、今回調査より追加されたが、前回調査と比べて、「子ども自身に関すること（前回37.6%）」が6.4ポイント減少、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない（前回30.8%）」が2.2ポイント減少している。

（３）子育ての不安や悩みの相談先

子育ての不安や悩みの相談先を聞いたところ、「パートナー（66.4%）」の割合が最も大きく、次いで「パートナー以外の家族や親族（58.6%）」、「友人・知人（57.9%）」、「学校・保育所・幼稚園の先生（25.2%）」の順となっている。

男女別では、「パートナー（男性75.4%、女性63.5%）」の割合は男性の方が大きい、「パートナー以外の家族や親族（男性37.7%、65.2%）」、「友人・知人（男性45.1%、61.9%）」、「学校・保育所・幼稚園の先生（男性14.3%、女性28.7%）」は女性の方が大きくなっている。

また、相談の結果、不安や悩みが解決するなど満足したかの問いについては、「満足した（18.6%）」、「まあまあ満足した（62.7%）」となっており、合計すると81.3%が満足している結果となっている。

（４）児童虐待の関心度

児童虐待について関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」、「やや関心がある」の合計が男性77.7%、女性79.4%となっている。「とても関心がある」については、男性37.1%に対し女性29.6%で男性が7.5ポイント大きくなっている。

(5) 児童虐待の原因と未然防止の方策

なぜ児童虐待が起こると思うか3つまであげてもらったところ、「経済環境（貧困など）（59.6%）」の割合が最も大きく、次いで「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある（56.4%）」、「子育てに対する不安（28.5%）」の順となっている。

男女別では、「経済環境（貧困など）」の割合は男性 66.3%に対し女性 57.4%、「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」の割合は男性 60.6%に対し女性 55.3%と、男性の割合が大きくなっている。また、「子どもの特性（癩癩が激しい、こだわりが強いなど）」の割合は男性 14.3%に対し女性 25.7%と、女性が 11.4 ポイント大きくなっている。

また、虐待の未然防止のための方策については、「親子が気軽に集える場所を増やす（45.2%）」、「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること（44.1%）」、「行政などによる家庭訪問の機会を増やす（42.1%）」、「子育てに関する相談窓口を拡充する（41.8%）」の順となっている。

(6) 子育ての知識と情報源

子育ての知識を主にどこから得ているのか3つまであげてもらったところ、「友人・知人（50.3%）」が最も大きく、次いで「インターネット、SNS（46.4%）」、「自分やパートナーの親（44.2%）」、「保育所や幼稚園（22.7%）」、「パートナー（21.6%）」の順となっており、以下、「育児書や雑誌（16.1%）」と続いている。

前回調査と比べて、情報源が「自分や配偶者の親（前回 59.1%）」は 14.9 ポイント減少、「友人・知人（前回 58.1%）」は 7.8 ポイント減少、「インターネット、SNS（前回 33.4%）」は 13 ポイント増加している。

男女別では、「パートナー（男性 61.1%、女性 9.3%）」の割合は男性の方が大きいですが、他の項目では女性の割合が多く、特に「友人・知人（37.1%、54.4%）」、「保育所や幼稚園（9.7%、26.7%）」、「インターネット、SNS（42.3%、47.8%）」は女性の方が大きくなっている。

＜7＞保育環境について

（１）本県の保育環境

本県の保育環境について聞いたところ、「満足」、「まあまあ満足」の合計が50.5%（男性50.3%、女性50.4%）となっている。「満足」については、男性14.9%に対し女性8.2%で女性が6.7ポイント小さくなっている。

（２）保育施設入所状況

お子さんを保育施設に入所させているか、あるいは、過去に入所させていたことがあるか聞いたところ、91.5%（男性89.1%、女性92.2%）が「ある」と回答した。

「入所させていない」「入所させていなかった」理由を、3つまであげてもらったところ、「幼稚園に通わせなかったから（39.7%）」の割合が最も大きく、次いで「自宅で育てたかったから（27.0%）」、「就労要件等を満たすことが出来ず、入所させられなかった（17.5%）」の順となっている。

男女別では、「就労要件等を満たすことが出来ず、入所させられなかった」の割合は、女性（22.7%）の方が男性（5.3%）より17.4ポイント大きくなっている。

（３）保育サービス等の希望

保育サービス等で充実してほしいことを3つまであげてもらったところ、「土曜・休日保育（49.4%）」が最も大きく、次いで「病児保育（49.0%）」、「延長保育（40.7%）」、「一時預かり（26.5%）」の順となっている。

男性では「土曜・休日保育」の割合が52.6%と最も大きくなっており、女性では「病児保育」の割合が最も大きく、女性（55.6%）の方が男性（28.0%）よりも27.6ポイント大きくなっている。

＜8＞子ども数の減少について

（１）少子化に対する県の取り組みについての考え

少子化に対する県の取り組みについての考えを1つあげてもらったところ、「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う（61.4%）」の割合が最も大きく、「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる（15.3%）」、「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取組（12.6%）」の順となっている。

男女別では、「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」の割合は、男性（70.8%）の方が女性（58.5%）より12.3ポイント大きくなっており、「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる」では、女性（17.8%）の方が男性（7.4%）よりも10.4ポイント大きくなっている。

（２）出生率向上に必要なこと

出生率を向上させるために必要なことを3つまであげてもらったところ、「子育てや教育の経済的負担が減ること（77.2%）」の割合が最も大きく、次いで「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること（47.5%）」、「子育て世代の所得の増加（46.7%）」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること（29.2%）」の順となっている。

男女別では、「子育てや教育の経済的負担が減ること」は男女差はあまり見られないが、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」の割合は、女性49.9%に対し男性40.0%、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること」の割合は男性39.4%に対し女性26.0%と差が見られる。

＜9＞子育て支援のための行政への要望等について

（１）青森県における子育て環境

青森県は子育てしやすい環境が整っているかの問いについて、「どちらとも言えない」の割合が39.7%で最も大きく、「やや思う」24.2%、「あまり思わない」23.1%、「思わない」10.3%、「思う」が2.7%となっている。「思う」と「やや思う」を合計が26.9%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が33.4%となっており、「思わない」と「あまり思わない」の合計が6.5ポイント大きい。

男女別では、「思う」「やや思う」の合計（男性28.6%、女性26.2%）は男性の方が女性より2.4ポイント、「思わない」「あまり思わない」の合計（男性30.9%、女性34.2%）は女性の方が男性より3.3ポイント大きくなっている。

（２）青森県での子育てで満足や充実していること

青森県での子育てで満足や充実していることを5つまであげてもらったところ、「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導（48.8%）」の割合が最も大きく、次いで「自然環境（47.6%）」、「保育環境（26.2%）」、「妊娠や出産にかかる費用の援助（25.5%）」の順となっている。

男女別では、「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合は、女性50.6%に対し男性43.4%、「自然環境」の割合は男性54.3%に対し女性45.5%、「保育環境」の割合は男性33.1%に対し女性23.9%と7ポイント以上の差が見られる。

（３）県に期待する政策

健やかに子どもを生み育てるため、県に期待する政策を5つまであげてもらったところ、「教育費の負担を減らす（63.0%）」の割合が最も大きく、次いで「児童手当や扶養控除を増額する（48.7%）」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする（38.7%）」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する（29.9%）」、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する（27.3%）」の順となっている。

前回調査と比べて、「教育費の負担を減らす（前回59.8%）」が3.2ポイント増加しているのに対して、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする（前回47.4%）」が8.7ポイント減少している。

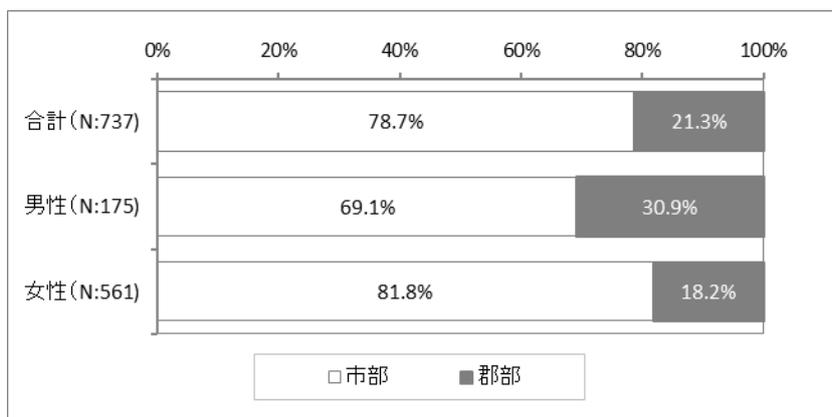
調査結果

以下では、調査結果について、平成 30 年度に実施した「子どもと子育てに関する調査」（以下「前回調査」という。）との比較を交えながら、設問ごとに記述する。

回答者のプロフィール

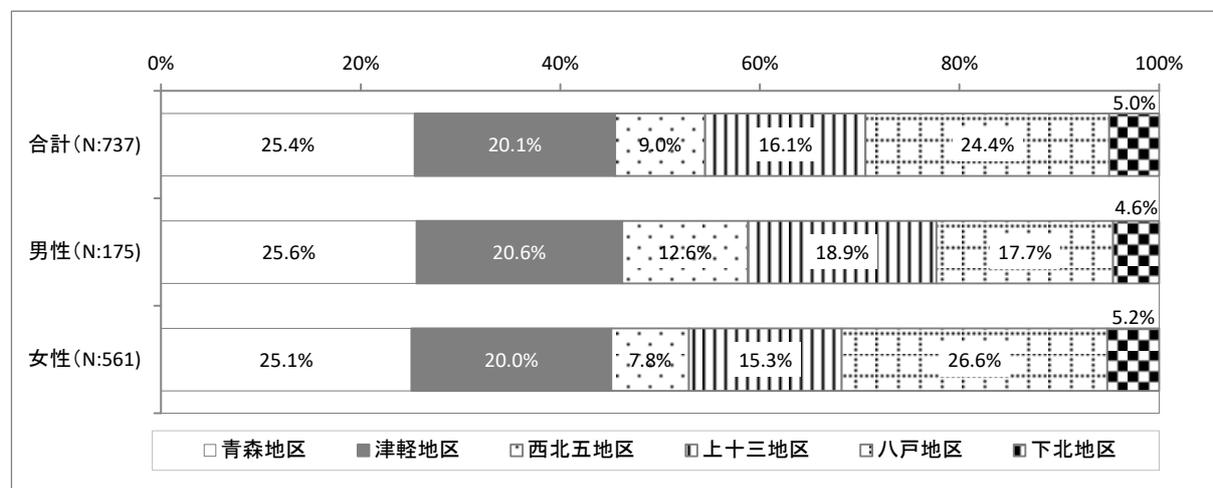
問1. あなたがお住まいの市町村名をご記入ください。

・市部・郡部別



市部と郡部の比率は4：1となっており、前回調査とほぼ同等の割合になっている。

・地区



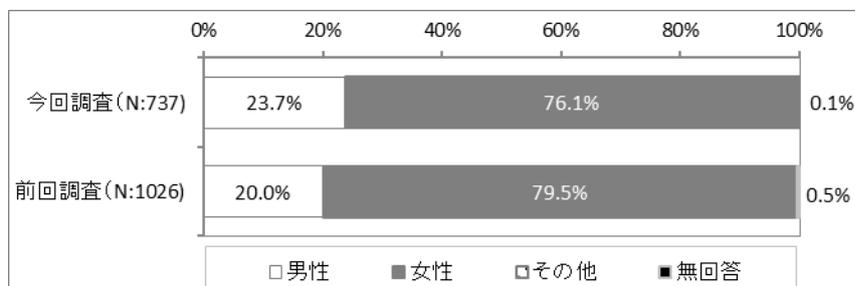
居住地区は、「青森地区」、「津軽地区」「八戸地区」が20%超、「上十三地区」が15%超、「西北五地区」、「下北地区」が10%以下となっている。

【男女別】

男性では「青森地区」の割合が25.6%、女性では「八戸地区」の割合が26.6%と最も大きくなっている。

問2. あなたの性別を教えてください。

・ 回答者の性別



男女の比率は3：8であり、前回調査と比べて男性の割合が3.4ポイント増加している。

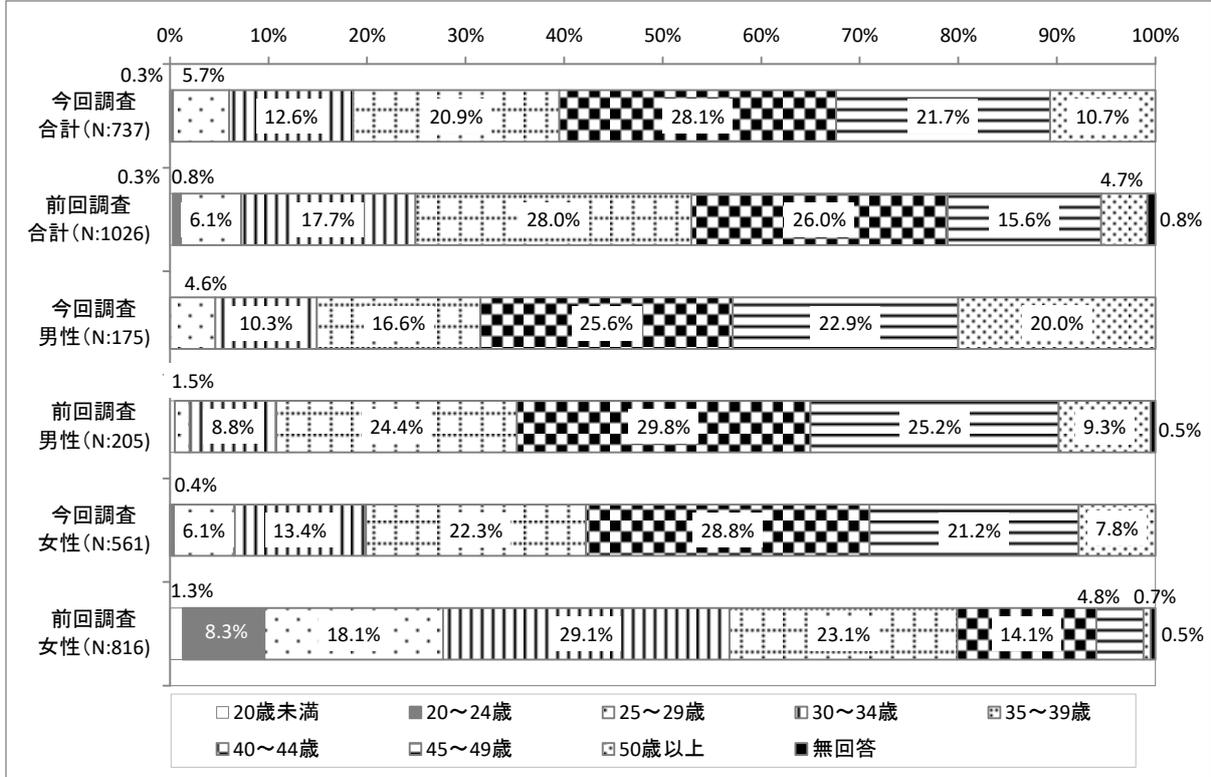
その他は1件、0.1%である。

※前回調査 0.5%は無回答

性別「その他」の回答は1件であり、調査結果では「その他」の方の回答内容が判別可能な問があるため、集計結果の掲載をなしとしている箇所がある。

問3. あなたとあなたのパートナーの年齢をお答えください。(令和5年9月1日現在)

・回答者の年齢

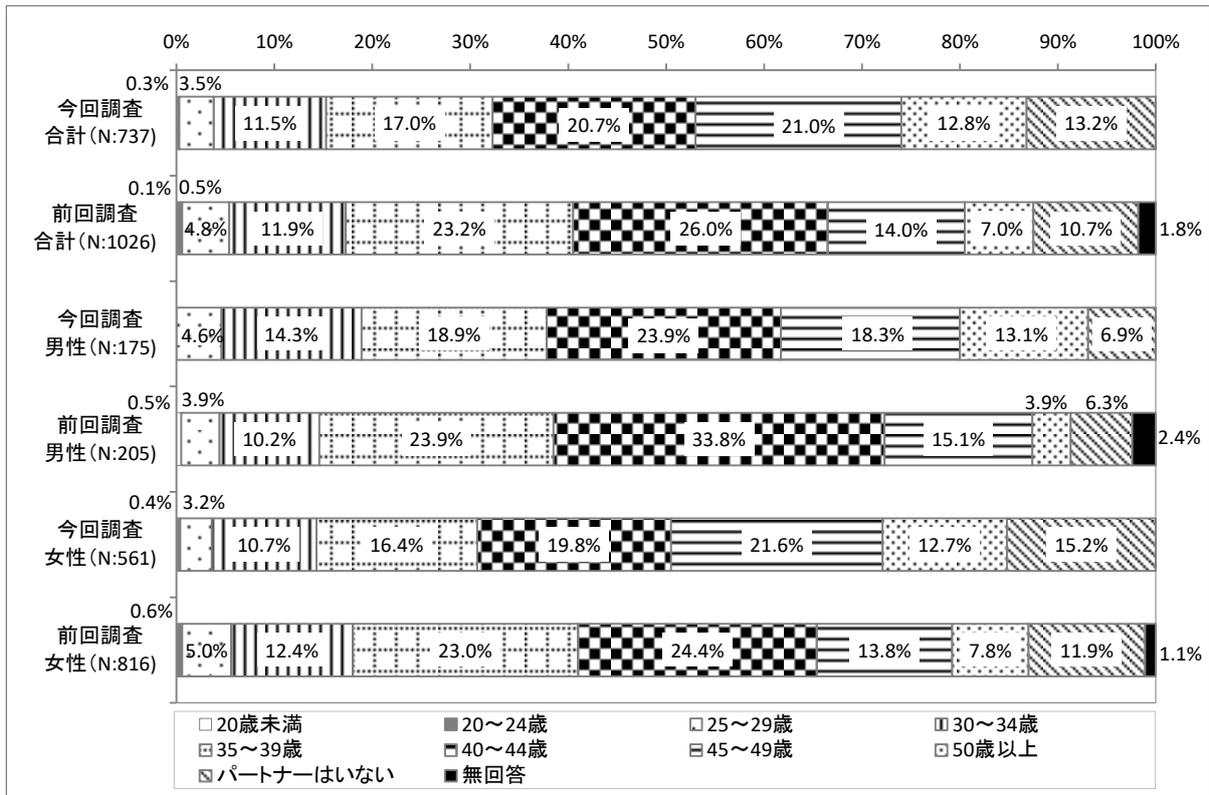


回答者本人の年齢は、「20歳未満」、「20～24歳」、「25～29歳」が10%未満、「30～34歳」、「50歳以上」が15%未満、「35～39歳」、「40～44歳」、「45～49歳」が20%台となっている。「34歳以下」の割合は全体の18.6%となっており、前回調査と比べ6.3ポイント減少している。

【男女別】

男女とも40歳台が約半数となっている。男性では、女性よりも「50歳以上」が12.2ポイント大きく、「35～39歳」が5.7ポイント小さい。女性では、前回調査と比べて「40～44歳」、「45～49歳」、「50歳以上」の割合が増加している。

・パートナーの年齢



「20歳未満」、「20～24歳」、「25～29歳」が10%未満、「30～34歳」、「35～39歳」、「50歳以上」が10%台、「40～44歳」、「45～49歳」が20%台となっており、「35～39歳」、「40～44歳」が前回調査と比べて減少、「45～49歳」「50歳以上」が増加している。

【男女別】

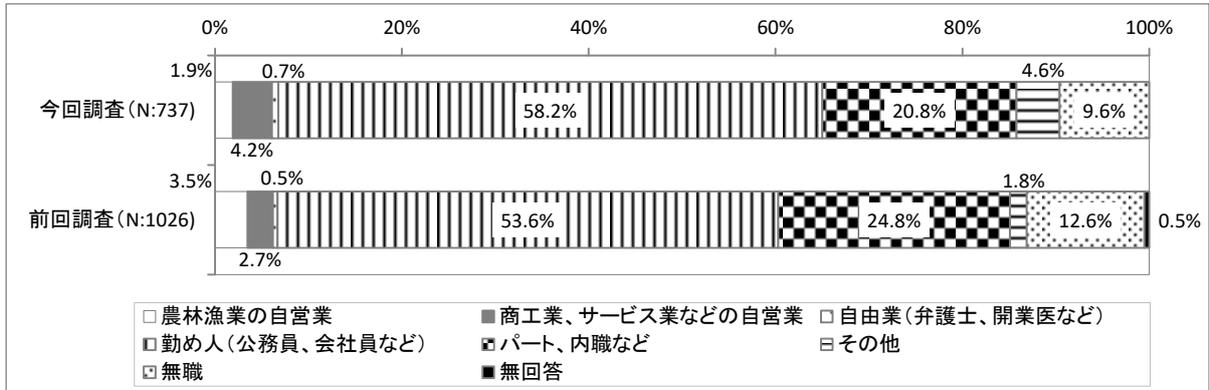
夫（グラフ中の女性）では、「45～49歳」の割合が21.6%と最も大きく、次いで「40～44歳」19.8%、「35～39歳」16.4%の順となっている。

妻（グラフ中の男性）では、「40～44歳」の割合が23.9%と最も大きく、次いで「35～39歳」18.9%、「45～49歳」18.3%の順となっている。

「パートナーはいない」の割合は女性の方が大きく、前回調査と比べて女性が3.3ポイント増加している。

問4. あなたとあなたのパートナーのご職業をお答えください。

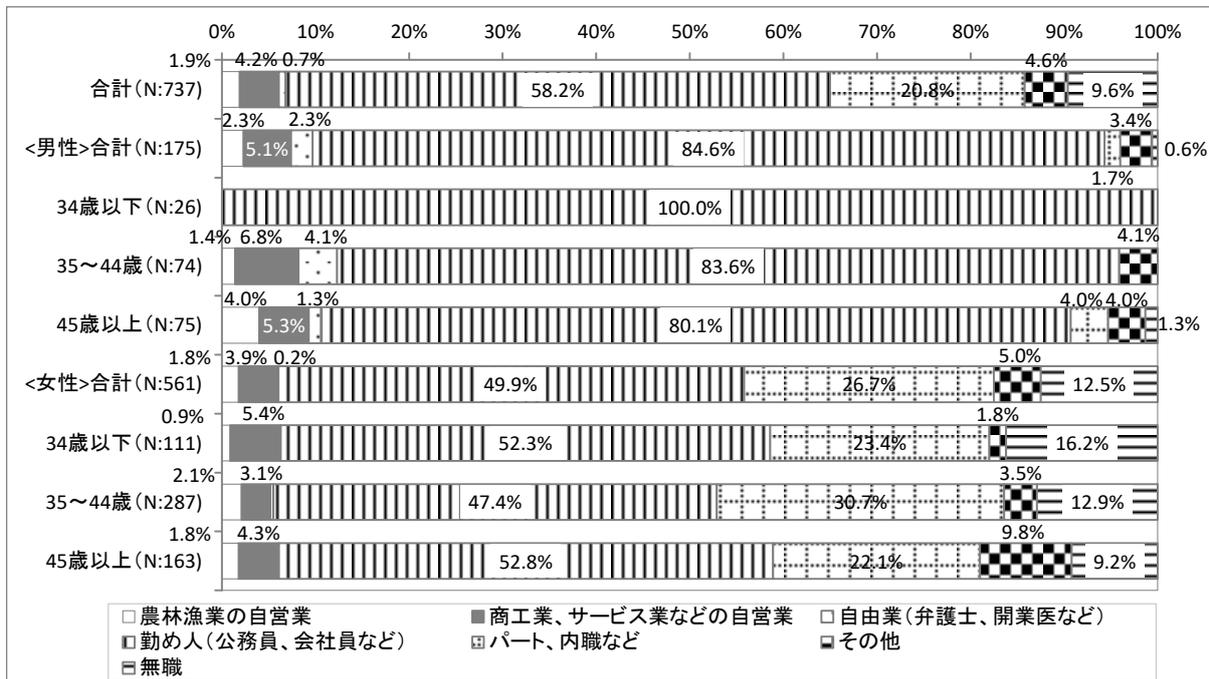
・ 本人の職業



「勤め人」が 58.2%、次いで「パート、内職など」が 20.8%、「無職」が 9.6%の順となっている。

前回調査と比べて「勤め人」の割合が 4.6 ポイント増加、「パート、内職など」が 4.0 ポイント減少している。

・ 男女別、年齢別の本人の職業



【男女別】

男性では、「勤め人」の割合が 84.6%と最も大きく、次いで「商工業、サービス業などの自営業」5.1%、「その他」3.4%、「農林漁業の自営業」、「自由業（弁護士、開業医など）」2.3%、「パート、内職など」1.7%、「無職」0.6%の順となっている。

女性では、「勤め人」が 49.9%と最も多く、次いで「パート、内職など」26.7%、「無職」12.5%、「その他」5.0%、「商工業、サービス業などの自営業」3.9%、「農林漁業の自営業」1.8%の順となっており、男性よりも「無職」、「パート、内職など」の割合が大きく、「勤め人」の割合が小さくなっている。

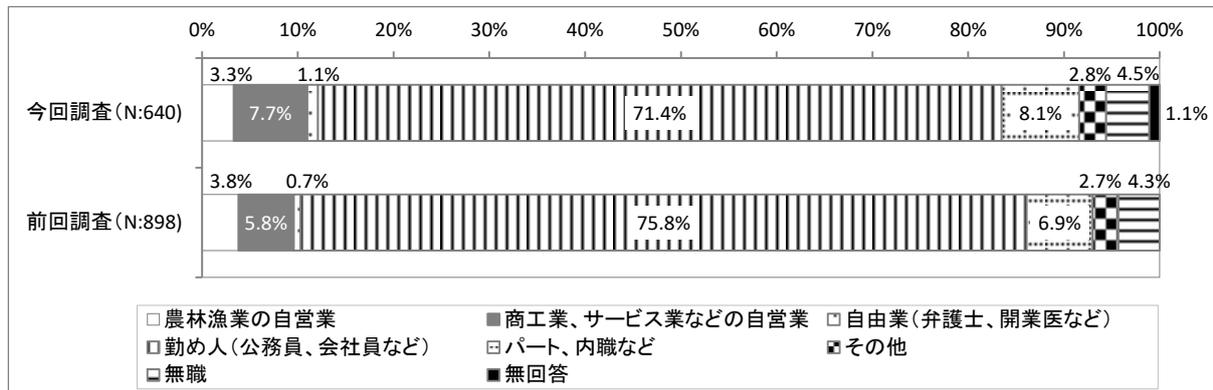
【男性年齢別】

「勤め人」の割合は、「34歳以下」で 100%となっている。「35～44歳」、「45歳以上」の各年代で 80%以上と大きな割合を占めている。

【女性年齢別】

「35～44歳」については「勤め人」の割合が他の年代より小さく、「パート、内職など」では他の年代より大きくなっている。「無職」の割合は年代が下がるごとに大きくなっている。

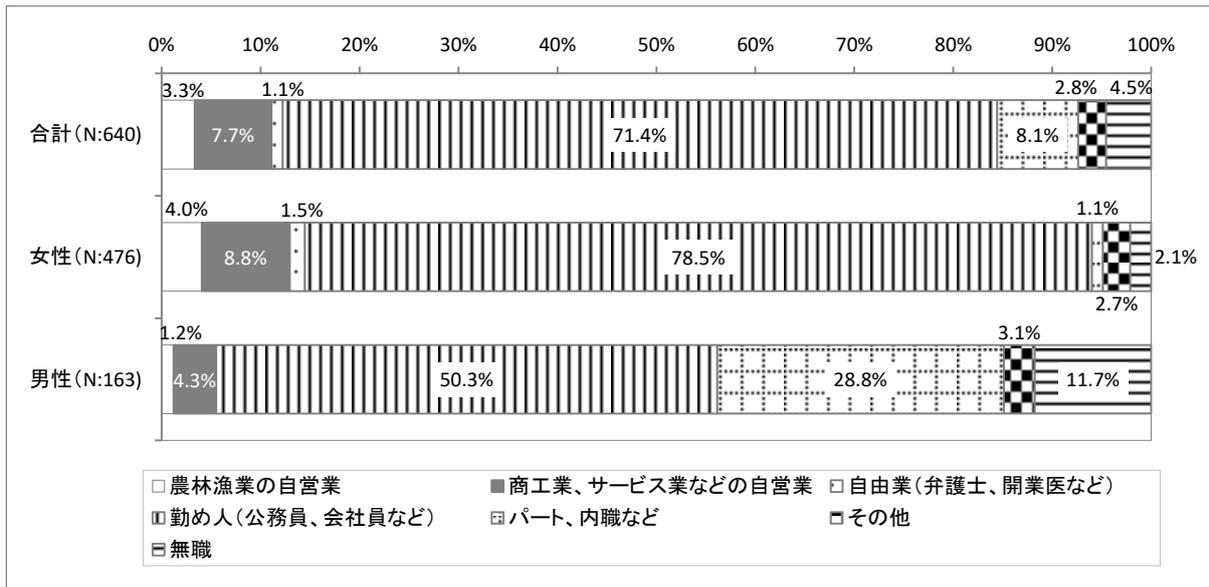
・パートナーの職業



「勤め人」が 71.4%、「パート、内職など」が 8.1%、「商工業、サービス業などの自営業」7.7%、「無職」が 4.5%となっている。

前回調査と比べて、「勤め人」が 4.4ポイントの減少、「商工業、サービス業などの自営業」が 1.9ポイント、「パート、内職など」が 1.2ポイントの増加となっている。

・男女別のパートナーの職業

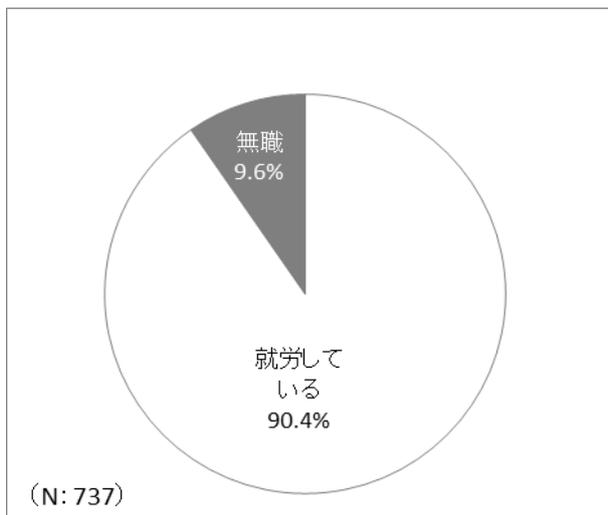


【男女別】

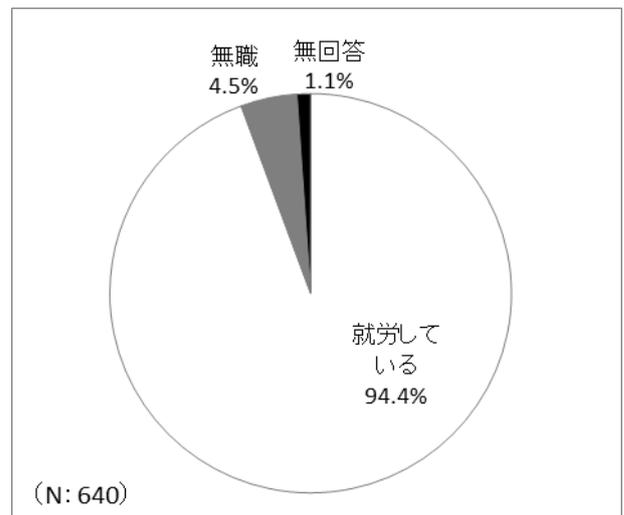
夫(グラフ中の女性)の職業では、「勤め人」の割合が78.5%と最も大きく、次いで「商工業、サービス業などの自営業」8.8%、「農林漁業の自営業」が4.0%の順となっている。

妻(グラフ中の男性)の職業は、「勤め人」50.3%、「パート、内職など」28.8%、「無職」11.7%、「商工業、サービス業などの自営業」4.3%、「その他」3.1%の順となっている。

・就労の有無(回答者)



・就労の有無(パートナー)



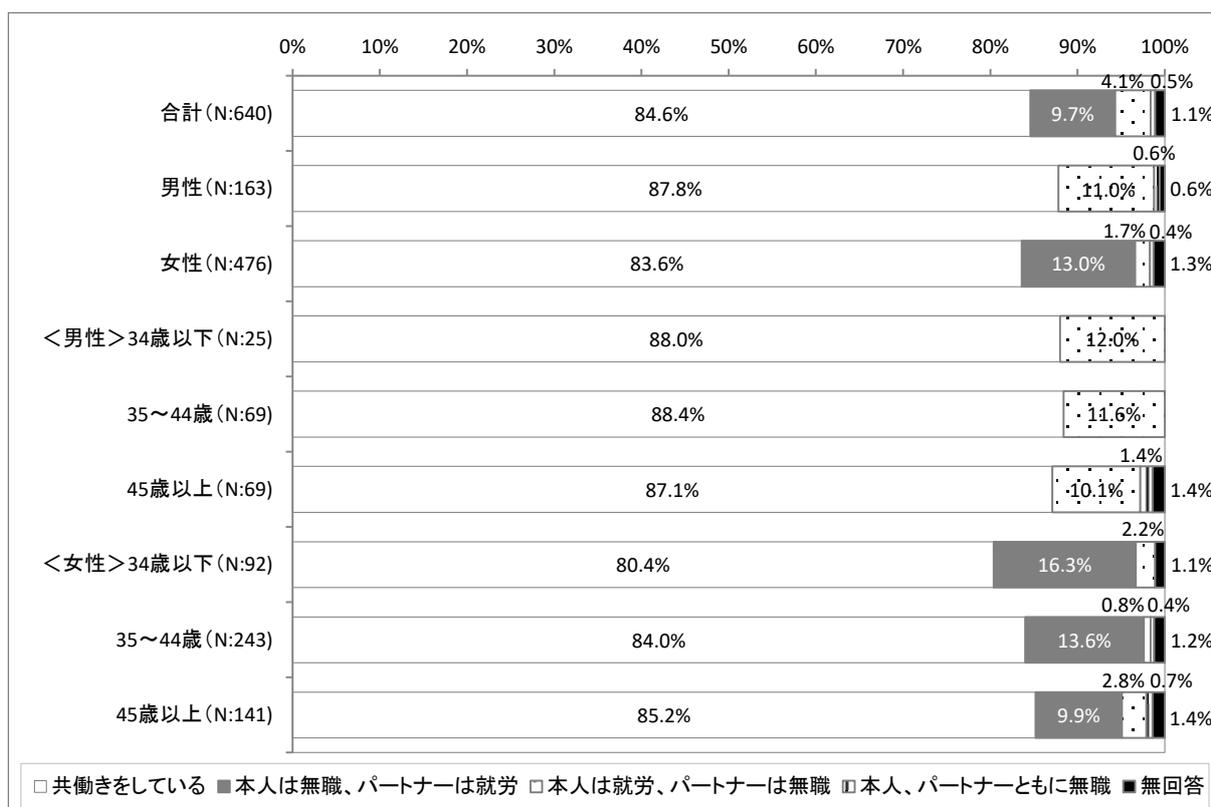
【回答者】

「就労している」が90.4%、「無職」が9.6%となっている。

【パートナー】

「就労している」が94.4%、「無職」が4.5%となっている。

・ 共働きの有無



「共働きをしている」が84.6%となっており、前回調査の72.8%と比べて割合が増加している。前回調査と比べて「本人は無職、パートナーは就労」は9.7%で2.2ポイント減少、「本人は就労、パートナーは無職」4.1%で前回調査の3.8%と比べて大きな差はない。

【男女別】

男性の「共働きをしている」の割合が87.8%と、女性（83.6%）よりも大きくなっている。女性では「本人は無職、パートナーは就労」の割合が13.0%と、男性（0.0%）よりも大きくなっている。なお、「本人は就労、パートナーは無職」は、男性11.0%に対し女性1.7%と9.3ポイントの差が見られる。

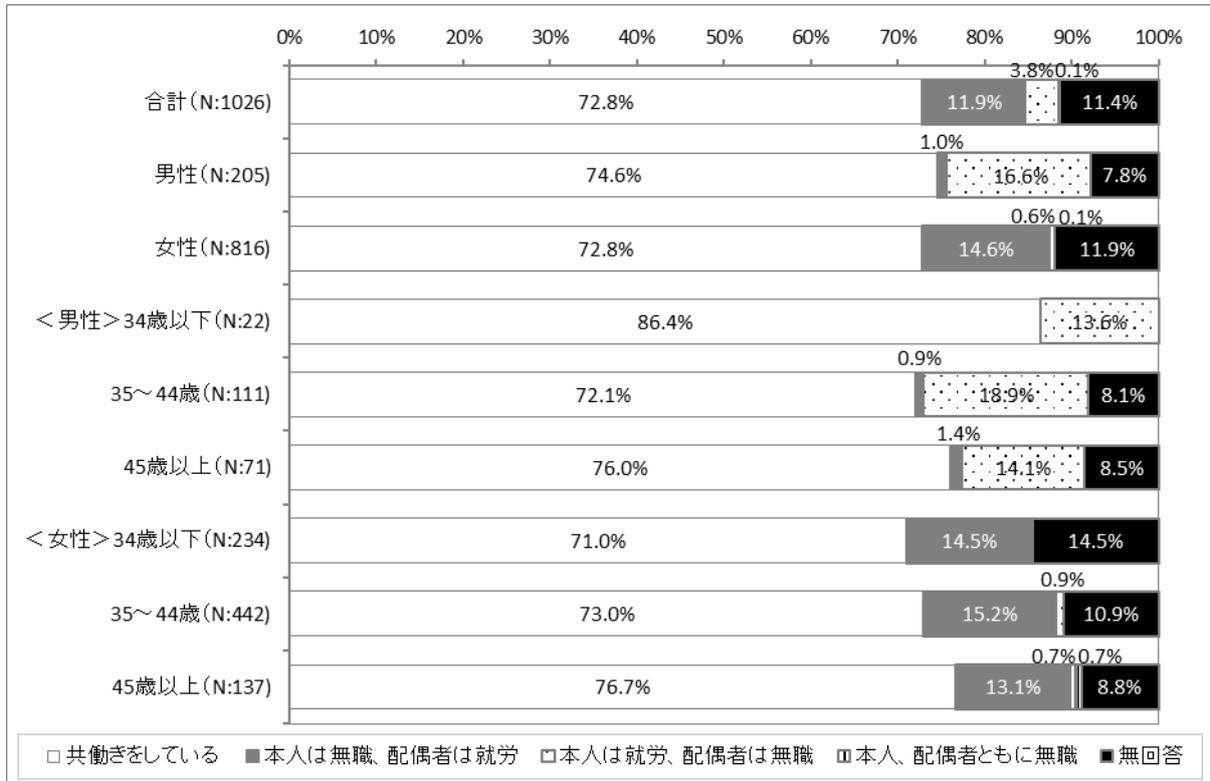
【男性年齢別】

「共働きをしている」は、全ての年代においての割合が88%前後となっている。「本人は就労、パートナーは無職」の割合は全ての年代において、11%前後となっている。

【女性年齢別】

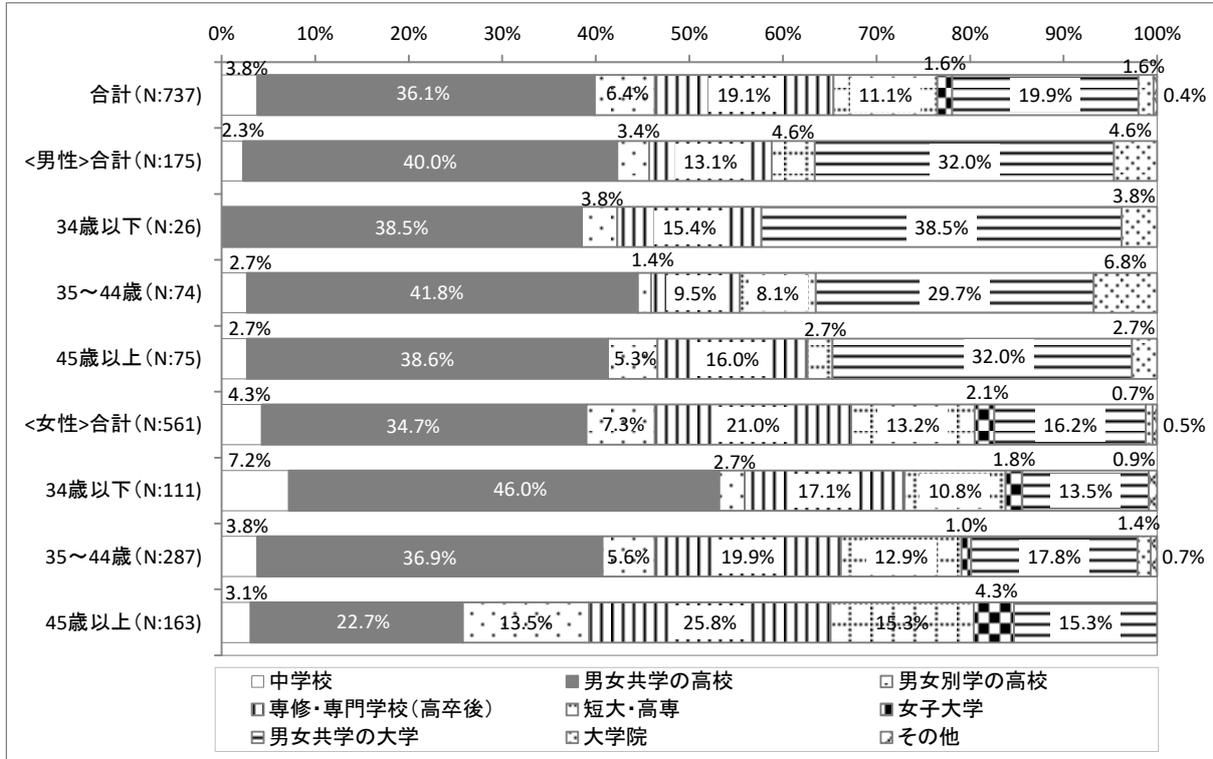
「共働きをしている」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」では85.2%となっている。「本人は無職、パートナーは就労」の割合は、「34歳以下」で16.3%となっており、年代が下がるにつれて大きくなっている。

(参考) 前回調査



問5. あなたとあなたのパートナーの最終学歴をお答えください。

・ 本人の最終学歴



「男女共学の高校」36.1%、次いで「男女共学の大学」19.9%、「専修・専門学校（高卒後）」19.1%、「短大・高専」11.1%の順となっている。

【男女別】

男性では、「男女共学の高校」の割合が40.0%と最も大きく、次いで「男女共学の大学」32.0%、「専修・専門学校（高卒後）」13.1%、「大学院」と「短大・高専」4.6%、「男女別学の高校」3.4%、「中学校」2.3%の順となっている。

女性では、「男女共学の高校」の割合が34.7%と最も大きく、次いで「専修・専門学校（高卒後）」21.0%、「男女共学の大学」16.2%、「短大・高専」13.2%、「男女別学の高校」7.3%、「中学校」4.3%の順となっている。

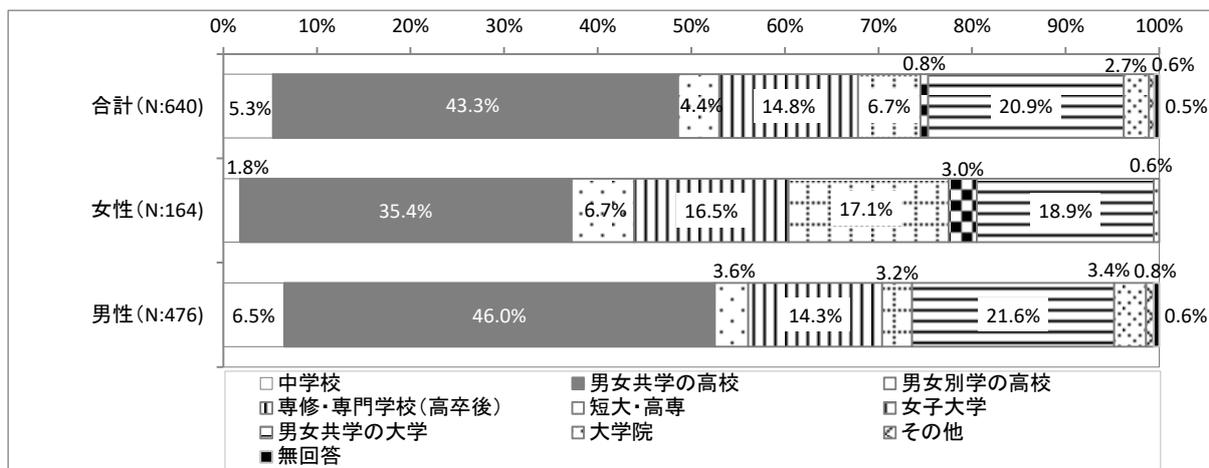
【男性年齢別】

「男女共学の高校」の割合は、「35～44歳」で41.8%、「45歳以上」38.6%、「34歳以下」38.5%と全ての年代で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「男女共学の高校」の割合は、「34歳以下」で46.0%、「35～44歳」36.9%と最も大きくなっている。「45歳以上」では「専修・専門学校（高卒後）」が25.8%で最も大きくなっている。

・パートナーの最終学歴



「男女共学の高校」の割合が43.3%、次いで「男女共学の大学」20.9%、「専修・専門学校（高卒後）」が14.8%の順となっている。

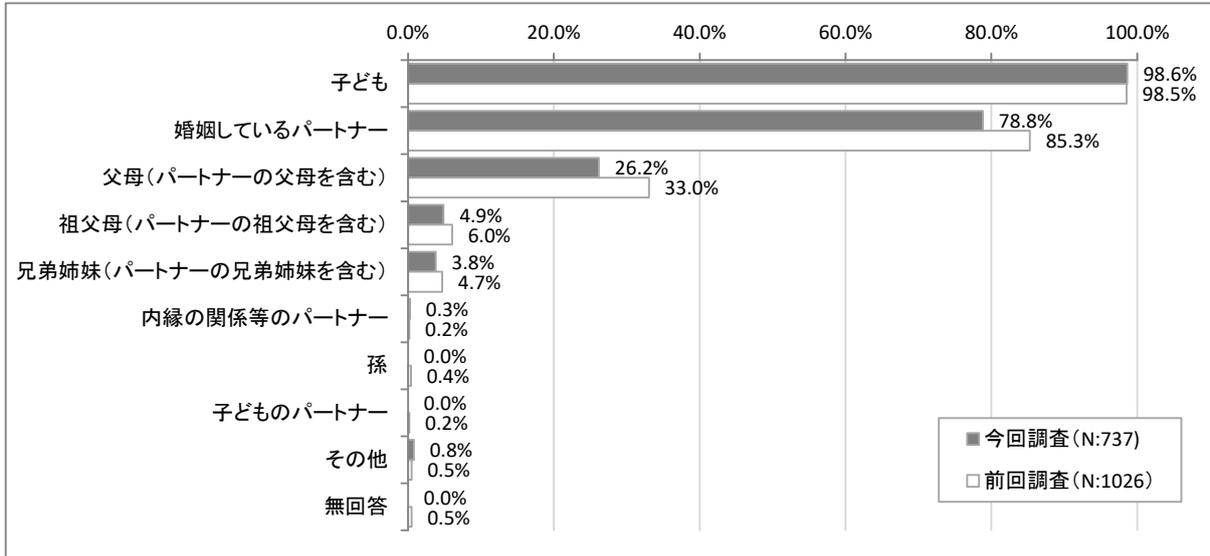
【男女別】

夫（グラフ中の女性）の最終学歴では、「男女共学の高校」が35.4%、次いで「男女共学の大学」18.9%、「短大・高専」17.1%、「専修・専門学校（高卒後）」16.5%の順となっている。

妻（グラフ中の男性）の最終学歴は、「男女共学の高校」46.0%、次いで「男女共学の大学」21.6%、「専修・専門学校（高卒後）」14.3%、「中学校」6.5%の順となっている。

問6. 現在、あなたと同居している方を、次のうちからすべて選んでください。
 (あなたから見た続柄でお答えください。)(複数選択)

・同居している人



回答者の98.6%が「子ども」と、また78.8%が「婚姻しているパートナー」と同居しており、次いで「父母」との同居26.2%の順となっている。それ以外の続柄との同居の割合は、「祖父母」、「兄弟姉妹」5%未満となっている。

前回調査と比べて、「子ども」の割合はほぼ同じ、「婚姻しているパートナー」は6.5ポイント、「父母」は6.8ポイント小さくなっている。

・ 地区別、共働きの有無別の同居している人

	婚姻しているパートナー	子ども	父母（パートナーの父母を含む）	孫	祖父母（パートナーの祖父母を含む）	子どものパートナー	兄弟姉妹（パートナーの兄弟姉妹を含む）	内縁の関係等のパートナー	その他
合計 (N:737)	78.8%	98.6%	26.2%	-	4.9%	-	3.8%	-	0.8%
青森地区 (N:187)	78.6%	97.9%	19.8%	-	2.7%	-	4.8%	-	1.6%
津軽地区 (N:148)	77.0%	98.6%	28.4%	-	5.4%	-	2.7%	-	0.7%
西北五地区 (N:66)	80.3%	98.5%	37.9%	-	6.1%	-	4.5%	-	1.5%
上十三地区 (N:119)	84.0%	99.2%	32.8%	-	7.6%	-	5.9%	-	-
八戸地区 (N:180)	76.7%	99.4%	22.8%	-	5.6%	-	2.8%	-	0.6%
下北地区 (N:37)	78.4%	97.3%	24.3%	-	-	-	-	-	-
共働きをしている (N:542)	91.1%	100.2%	24.5%	-	5.0%	-	2.8%	-	0.7%
本人は無職、パートナーは就労 (N:62)	88.7%	100.0%	17.7%	-	3.2%	-	4.8%	-	3.2%
本人は就労、パートナーは無職 (N:26)	84.6%	100.0%	26.9%	-	-	-	7.7%	-	-
本人、パートナーともに無職 (N:3)	100.0%	66.7%	-	-	-	-	-	-	-

【地区別】

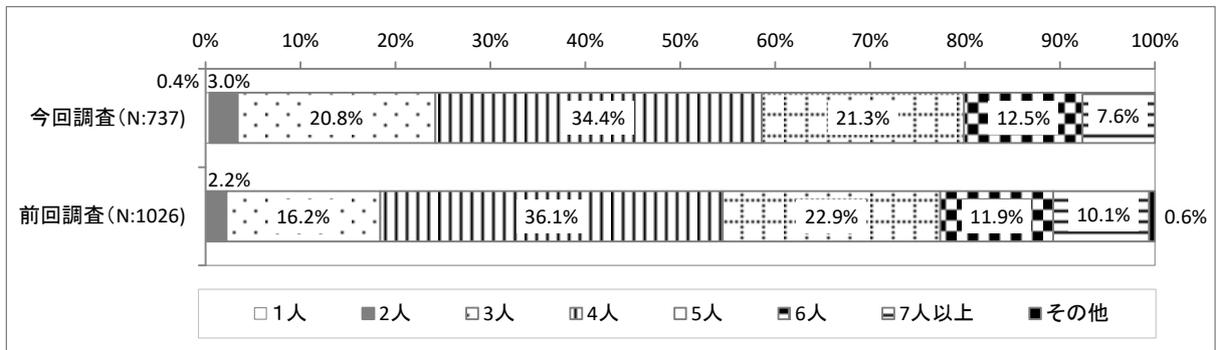
「婚姻しているパートナー」、「子ども」との同居については、地区で大きな違いは見られない。「父母」との同居については、「西北五地区」の割合 37.9%が他地区（19.8～32.8%）よりも大きくなっている。

【共働きの有無別】

「婚姻しているパートナー」との同居については、「共働き」が 91.1%と本人またはパートナーのどちらかが就労している場合よりも大きい。「子ども」との同居については、「本人、パートナーともに無職」が 66.7%となっており、他の就労状況よりも小さい。「父母（パートナーの父母も含む）」との同居については、「本人は就労、パートナーは無職」26.9%、「共働き」24.5%、「本人は無職、パートナーは就労」が 17.7%となっている。

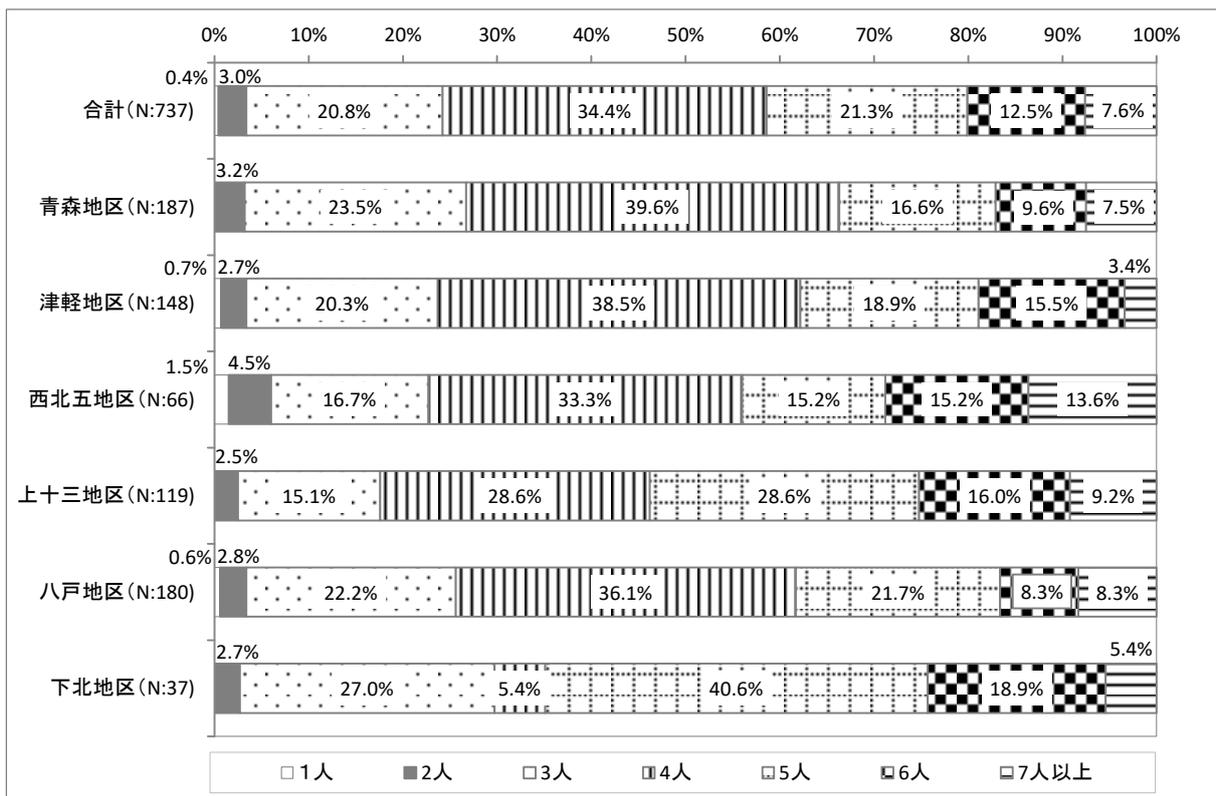
問7. 現在、あなたが一緒に暮らしている家族の人数は、あなたを含めて何人ですか。

・一緒に暮らしている家族の人数



「4人」の割合が34.4%と最も大きく、次いで「5人」21.3%、「3人」20.8%の順となっており、前回調査と比べて「7人以上」の割合が2.5ポイント減少、「3人」が4.6ポイント増加している。

・地区別の一緒に暮らしている家族の人数

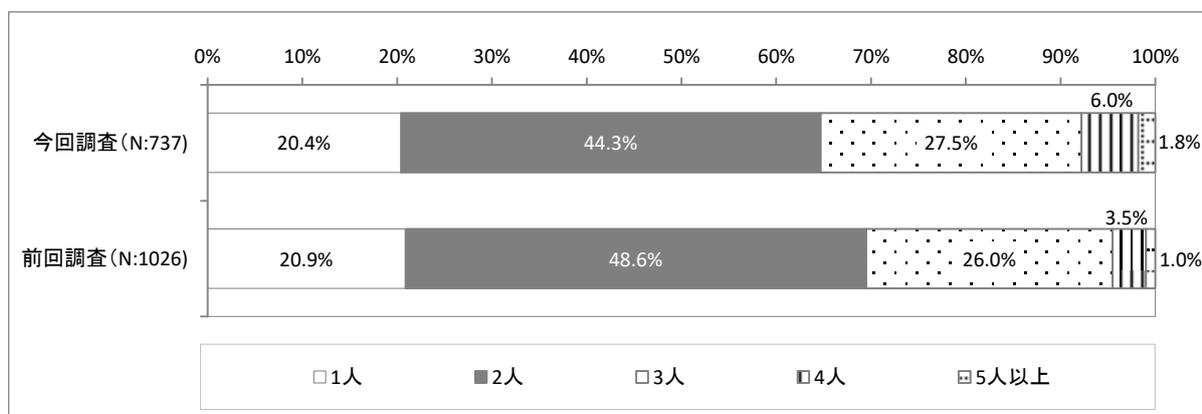


【地区別】

5人以上の割合は、「下北地区」64.9%が他地区（33.7～53.8%）よりも大きくなっている。「4人」の割合は「青森地区」が39.6%、「3人」の割合は「下北地区」が27.0%で、他地区よりも大きくなっている。

問8. お子さんは何人いらっしゃいますか。(別居中の子も含めてください)

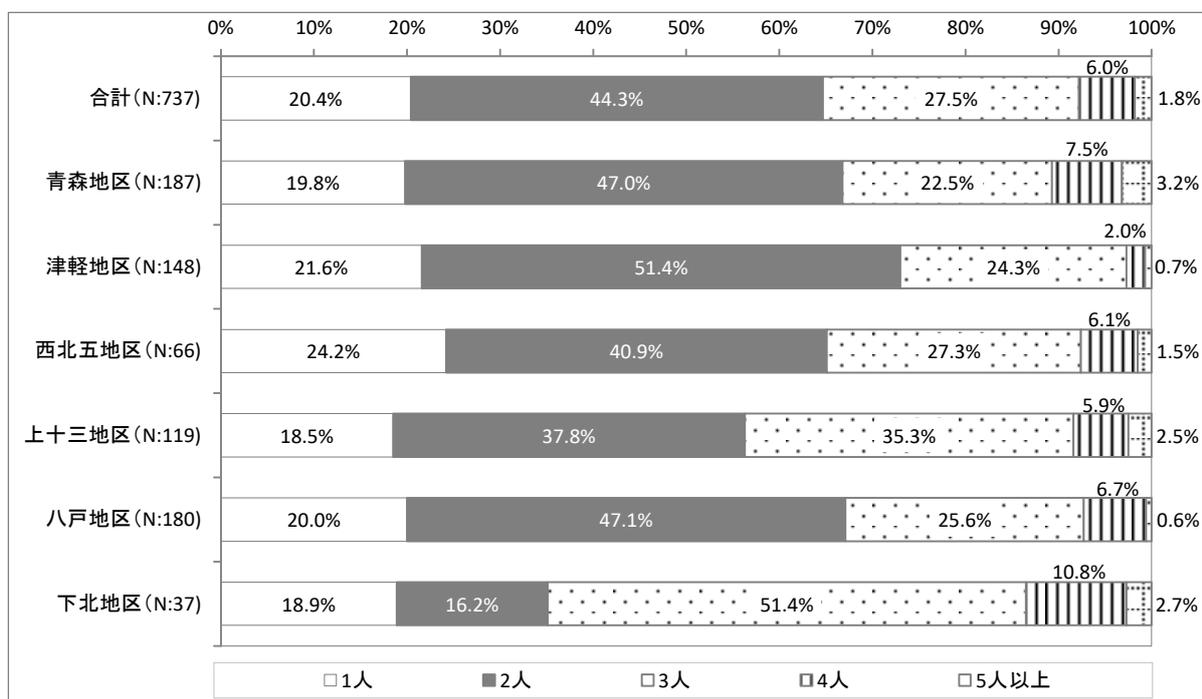
・子どもの人数



「2人」の割合が44.3%と最も大きく、次いで「3人」27.5%、「1人」20.4%の順となっている。

前回調査と比べて、「3人」、「4人」の割合が増加し、「1人」「2人」が減少している。

・地区別の子どもの人数



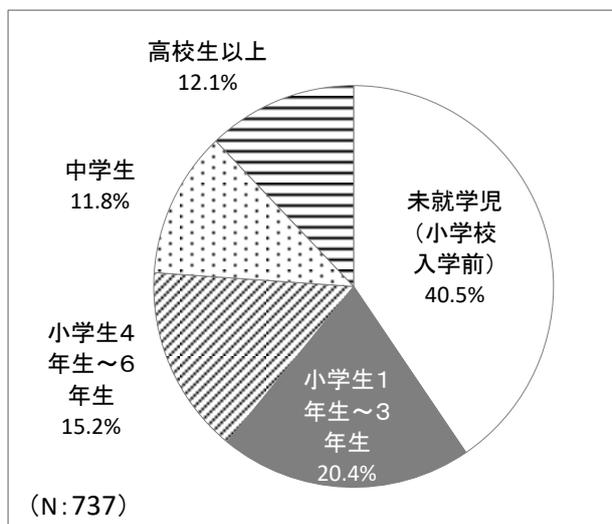
【地区別】

「下北地区」以外では「2人」の割合が37.8~51.4%と最も大きくなっている。

「1人」については、「西北五地区」の割合が24.2%と他地区の18.5~21.6%と比べ大きくなっており、「3人」については「下北地区」の割合が51.4%と、他地区の22.5~35.3%に比べて大きくなっている。

問9. お子さんの就学状況についてお答えください。

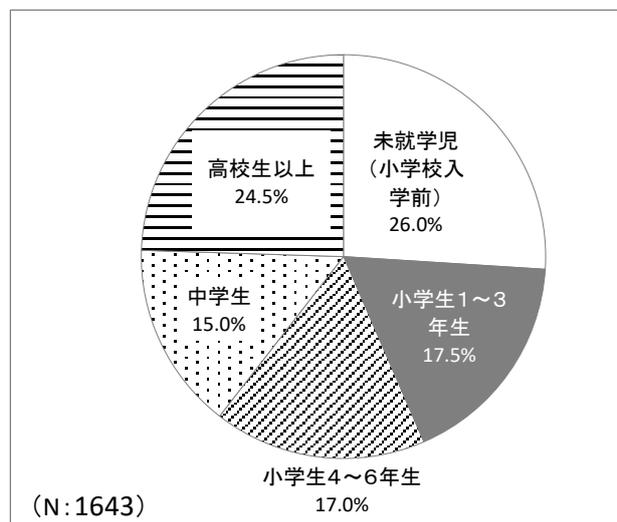
(1) 一番下の子どもの就学状況



「未就学児」の割合が 40.5%と最も大きく、次いで「小学生1年生～3年生」20.4%、「小学生4年生～6年生」15.2%、「中学生」11.8%の順となっている。

前回調査では「未就学児」53.1%、「小学生」33.1%、「中学生」12.7%、「高校生以上」0.5%という割合、順位となっており、「未就学児」が12.6ポイント減少、「小学生」が2.5ポイント、「中学生」が0.9ポイント減少しているが、「高校生以上」は11.6ポイント増加している。

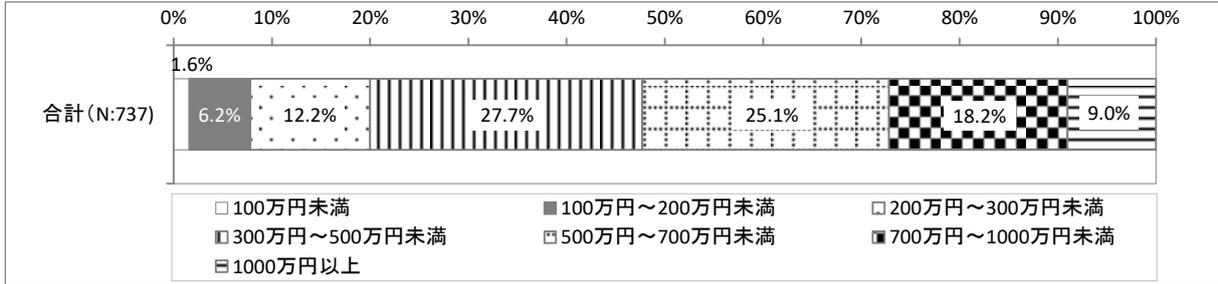
(2) 子ども全員の就学状況



「小学生」の計が34.5%、「未就学児」が26.0%、「高校生以上」が24.5%、「中学生」が15.0%の構成となっている。前回調査では、「未就学児」35.0%、「小学生」35.4%、「中学生」16.4%、「高校生以上」9.1%の割合となっており、「高校生以上」が15.4ポイント増加している。

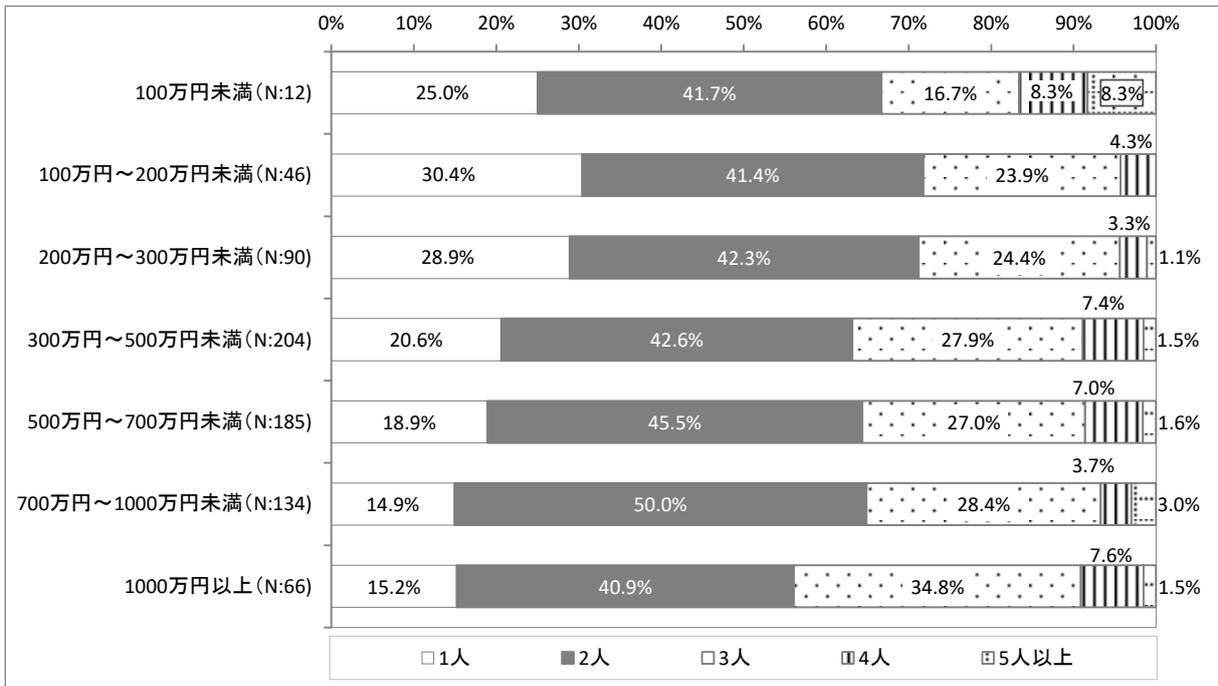
問10. あなたの世帯の合計年収についてお答えください。

・世帯の年収



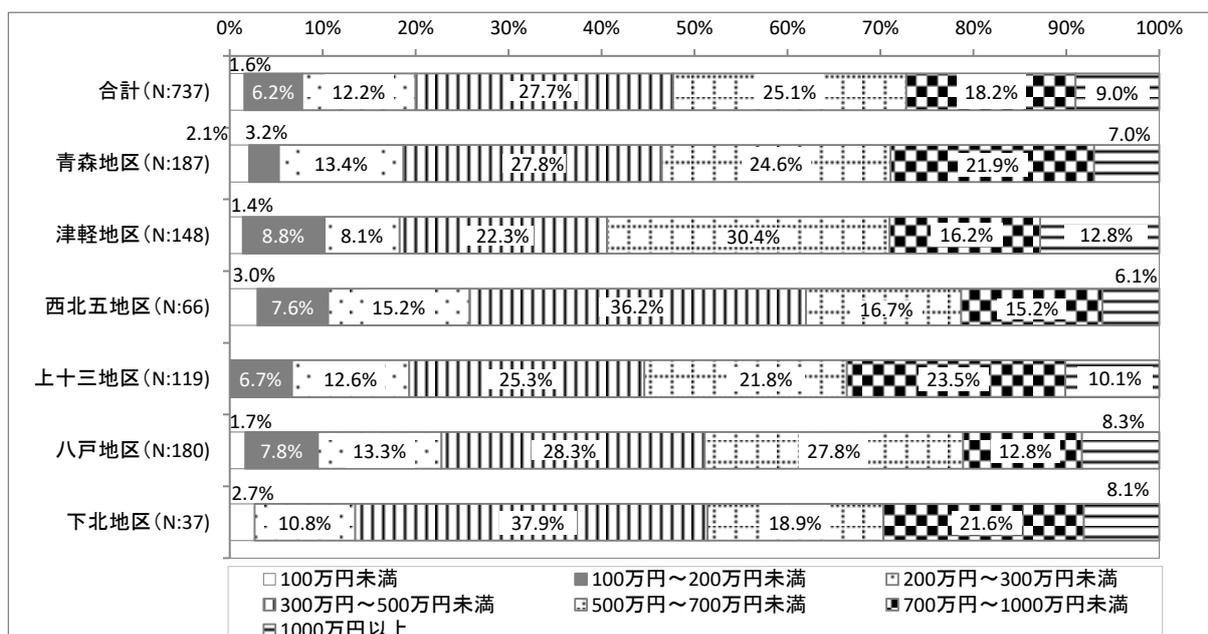
「300万円～500万円未満」が27.7%で最も多く、次いで「500万円～700万円未満」25.1%、「700万円～1000万円未満」18.2%、「200万円～300万円未満」が12.2%となっている。

・世帯年収別の子ども的人数



全ての年収区分で子ども「2人」の割合が40.9～50.0%と最も大きくなっている。「1人」については「100万円～200万円未満」の割合が30.4%と最も大きく、年収が上がるにつれ小さくなっていく。「3人」については「1000万円以上」の割合が34.8%と最も大きくなっている。

・ 地区別の世帯年収

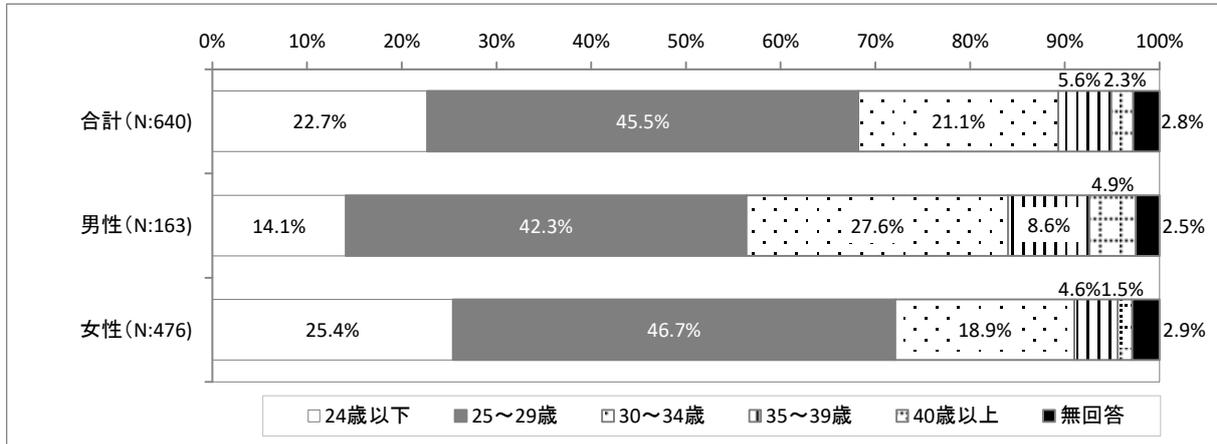


500万円以上の収入は、「津軽地区」が59.4%と他地区（38.0～55.4%）よりも大きくなっている。500万円未満の収入は、「西北五地区」が62.0%と他地区（40.6～51.4%）よりも大きくなっている。500万円未満の収入区分ごとでは、「300万円～500万円未満」は「下北地区」37.9%、「200万円～300万円未満」は「西北五地区」15.2%、「100万円～200万円未満」は「津軽地区」8.8%が他地区に比べて割合が大きくなっている。

結婚に対する意識について

問11. あなたが現在のパートナーと結婚した年齢をお答えください。(パートナーがいる方のみ)

・結婚した年齢



「25～29歳」の割合が45.5%と最も大きくなっている。次いで、「24歳以下」が22.7%、「30～34歳」が21.1%、「35～39歳」が5.6%の順になっている。

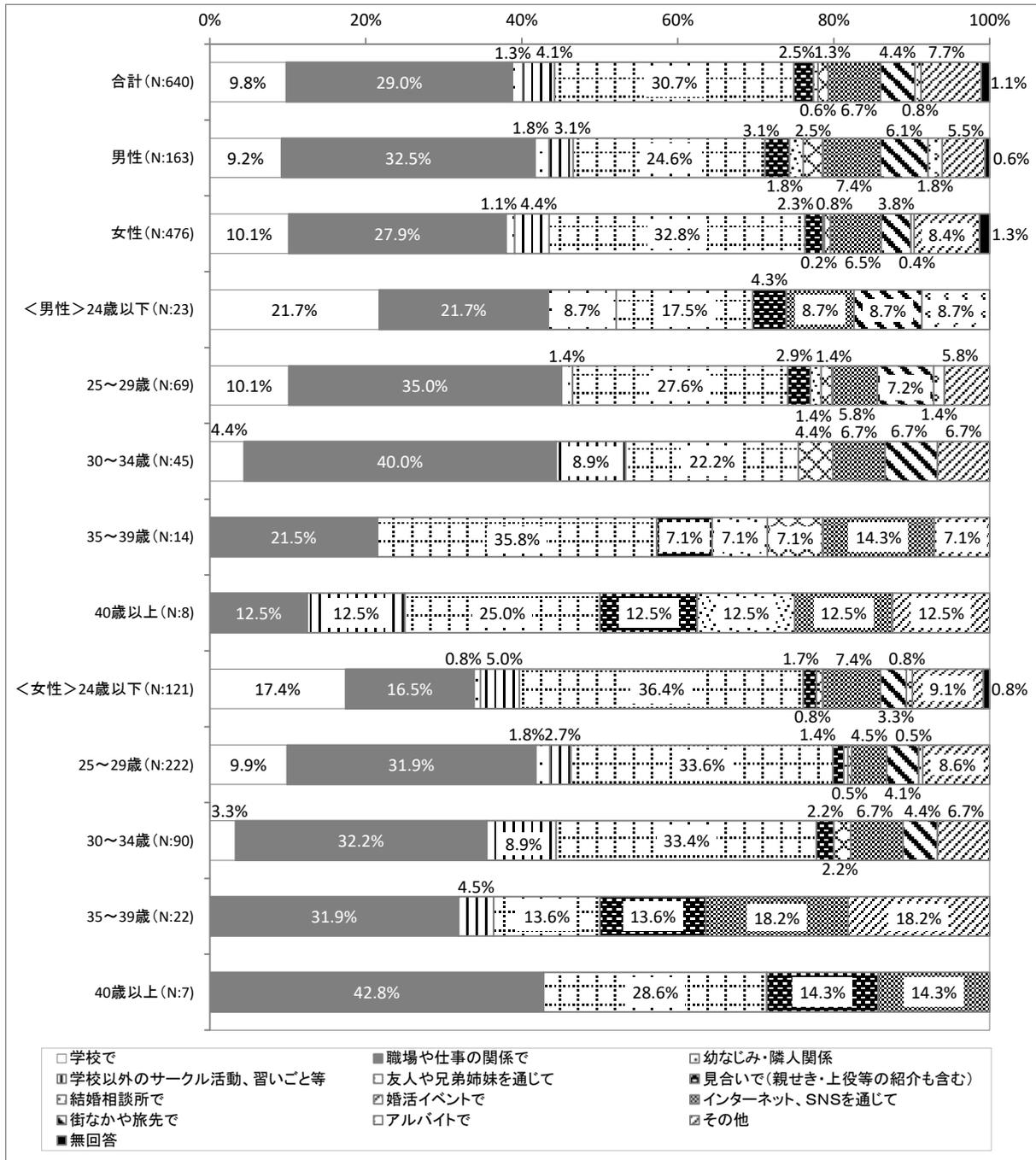
【男女別】

「25～29歳」の割合が男性42.3%、女性の46.7%と男女ともに最も大きくなっている。「24歳以下」では男性14.1%に対して女性が25.4%と女性が11.3ポイント大きくなっており、「30～34歳」では男性27.6%に対して女性が18.9%と男性が8.7ポイント大きくなっている。

結婚平均年齢では全体で27.9歳、男性が29.3歳、女性が27.4歳となっている。

問12. あなたが現在のパートナーと知り合ったきっかけについてお答えください。
(パートナーがいる方のみ)

・結婚した年齢別の知り合ったきっかけ



「友人や兄弟姉妹を通じて」の割合が30.7%と最も大きく、次いで「職場や仕事の関係で」が29.0%、「学校で」が9.8%の順となっている。他のきっかけについてはいずれも8%未満となっている。

【男女別】

「友人や兄弟姉妹を通じて」は、女性の割合（32.8%）が男性（24.6%）よりも大きくなっている。「職場や仕事の関係で」は、男性の割合（32.5%）が女性（27.9%）より大きくなっている。

【男性年齢別】

「職場や仕事の関係で」は、「30～34歳」の割合（40.0%）が最も大きくなっている。「学校で」は年齢が下がるにつれて大きくなっており、「24歳以下」で21.7%と最も大きくなっている。

また、「40歳以上」では、「見合いで」、「結婚相談所で」、「その他」の割合がそれぞれ12.5%で他年代より大きくなっている。「インターネット、SNSを通じて」は、「35～39歳」が14.3%、「40歳以上」が12.5%で他年代より大きくなっている。

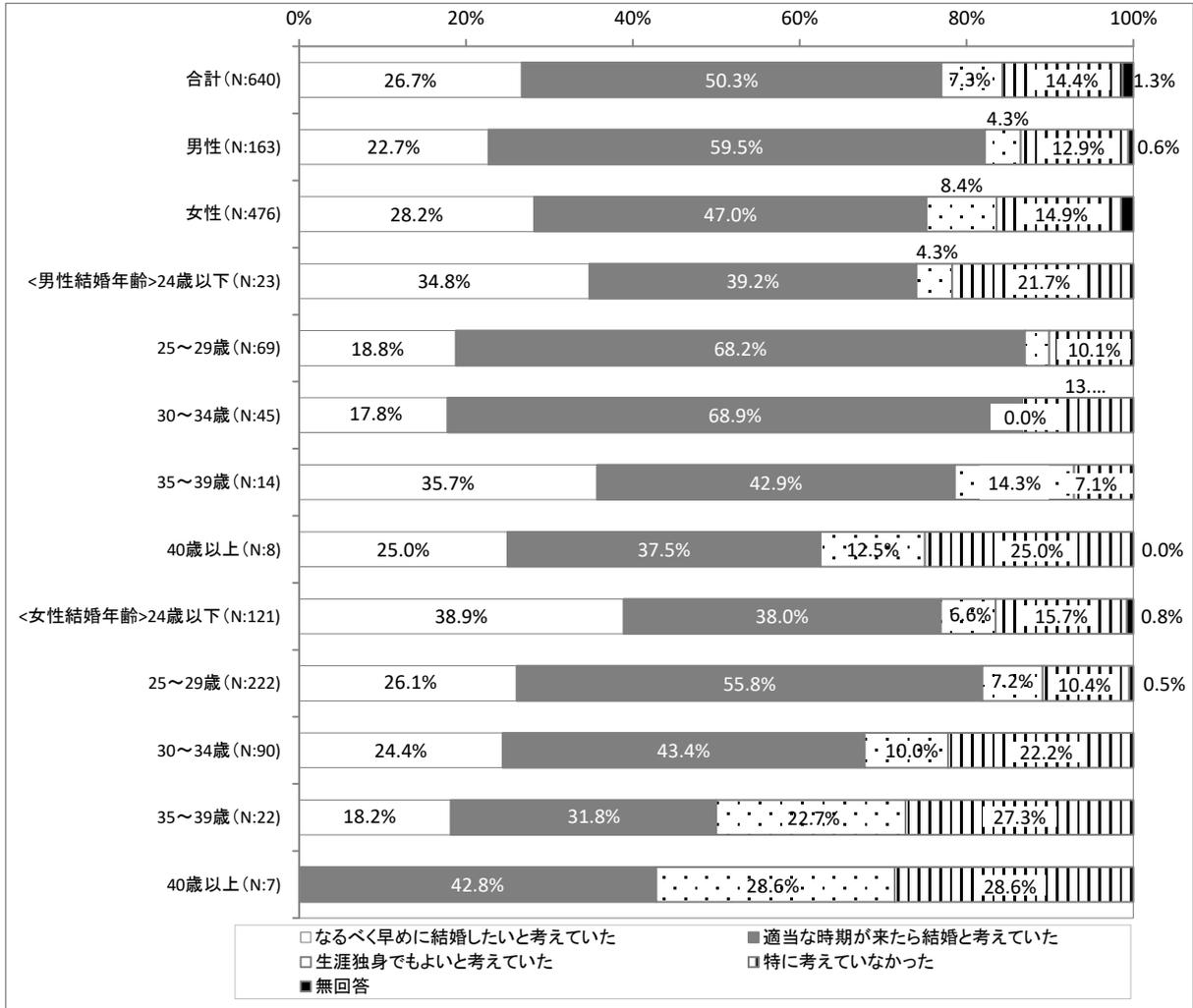
【女性年齢別】

「職場や仕事の関係で」は、「40歳以上」が42.8%で最も大きく、「友人や兄弟姉妹を通じて」は、「24歳以下」で36.4%と最も大きくなっている。「学校で」は男性と同様、年齢が下がるにつれて大きくなっており、「24歳以下」で17.4%と最も大きくなっている。

また、「35～39歳」では、「インターネット、SNSを通じて」、「その他」の割合がそれぞれ18.2%で他年代より大きくなっている。

問13. 現在のパートナーと交際する前のあなたの結婚に対する意識についてお答えください。
(パートナーがいる方のみ)

・結婚した年齢別の意識



「適当な時期が来たら結婚と考えていた」の割合が最も大きく 50.3%となっている。次いで、「なるべく早めに結婚したいと考えていた」が 26.7%、「特に考えていなかった」が 14.4%、「生涯独身でもよいと考えていた」が 7.3%の順となっており、前回調査とほぼ同等の割合になっている。

【男女別】

「適当な時期が来たら結婚と考えていた（男性 59.5%、女性 47.0%）」割合は男性が女性より大きい、「なるべく早めに結婚したいと考えていた（男性 22.7%、女性 28.2%）」、「生涯独身でもよいと考えていた（男性 4.3%、女性 8.4%）」割合は女性の方が大きくなっている。

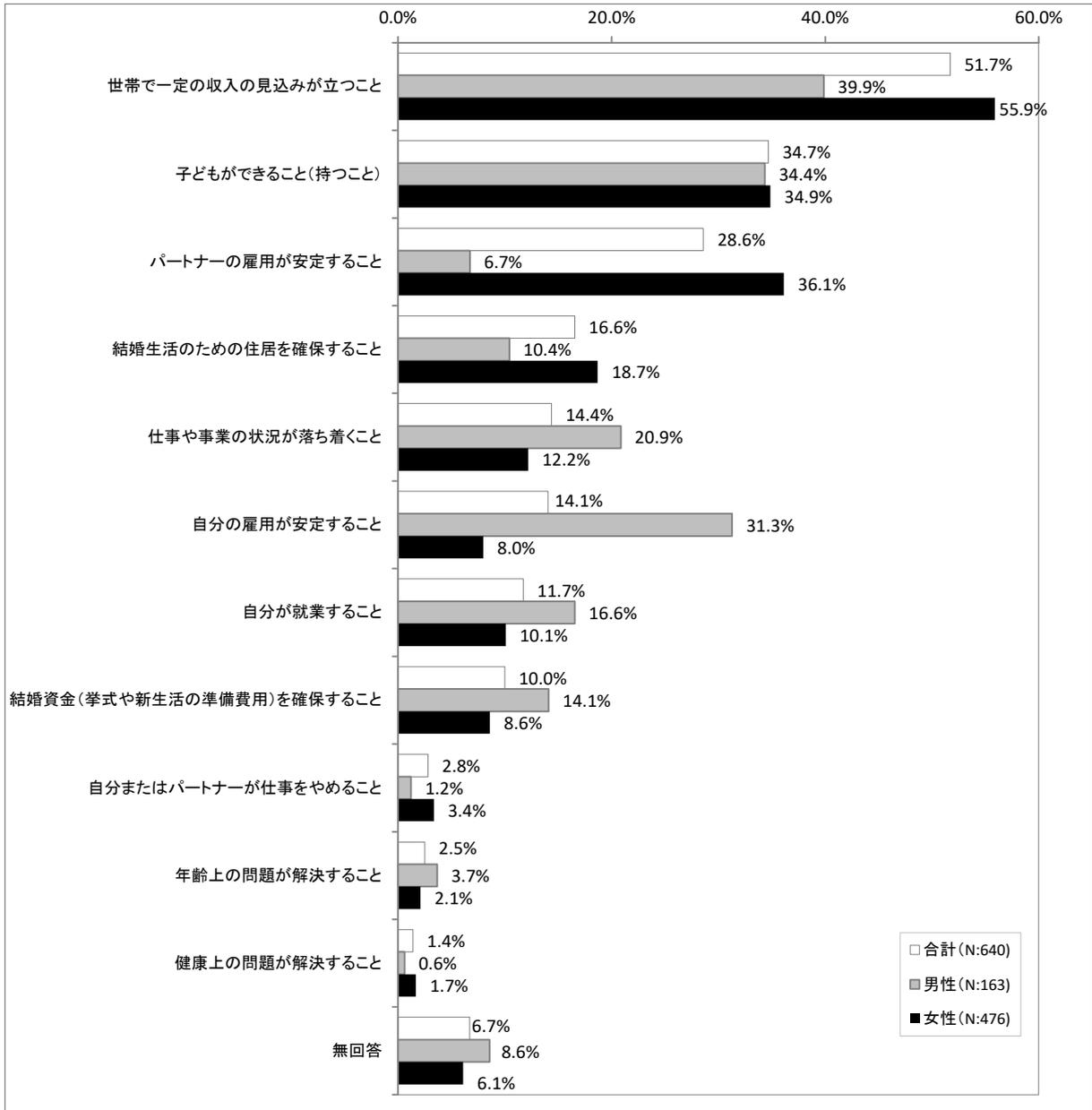
【男性結婚年齢別】

「適当な時期が来たら結婚と考えていた」が「30～34歳」が68.9%と最も大きく、次いで「25～29歳」が68.2%となっている。「なるべく早めに結婚したいと考えていた」は「35～39歳」で35.7%、「24歳以下」で34.8%となっている。「生涯独身でもよいと考えていた」は「35～39歳」で14.3%、「特に考えていなかった」は「40歳以上」25.0%と他年代と比べて大きい。

【女性結婚年齢別】

「適当な時期が来たら結婚と考えていた」が「25～29歳」が55.8%と最も大きく、「なるべく早めに結婚したいと考えていた」は「24歳以下」で38.9%と他年代より大きくなっている。「生涯独身でもよいと考えていた」は「40歳以上」で28.6%、「特に考えていなかった」は「40歳以上」で28.6%と他年代に比べて大きい。

問14. あなたが現在のパートナーと結婚する前に考えていた結婚の条件についてお答えください。
(パートナーがいる方のみ)



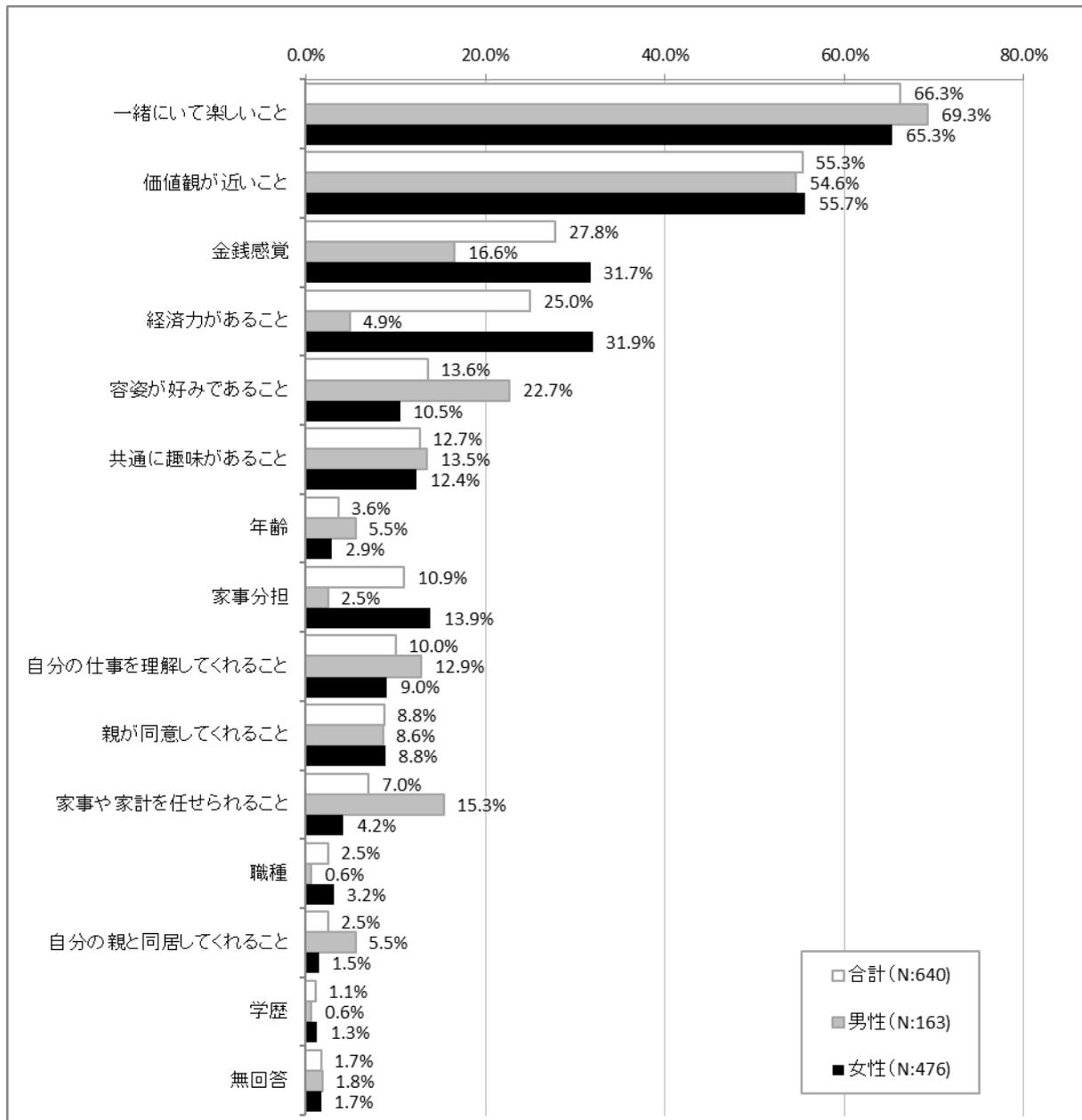
「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が最も大きく 51.7%となっている。次いで、「子どもができること (持つこと)」が 34.7%、「パートナーの雇用が安定すること」が 28.6%となっている。

【男女別】

「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は女性 (55.9%) が男性 (39.9%) よりも 16 ポイント大きくなっている。「子どもができること (持つこと)」は男性 (34.4%) 女性 (34.9%) と男女の差はあまり見られない。「パートナーの雇用が安定すること」は、女性 (36.1%) が男性 (6.7%) よりも 29.4 ポイント大きくなっている。また、「自分の雇用が安定すること」は、男性 (31.3%) が女性 (8.0%) よりも 23.3 ポイント大きくなっている。

問15. あなたが現在のパートナーと結婚する前に考えていたパートナーの条件についてお答えください。(パートナーがいるかたのみ)(3つまで)

・男女別結婚相手条件



「一緒にいて楽しいこと」の割合が66.3%と最も大きく、次いで「価値観が近いこと」が55.3%、「金銭感覚」が27.8%、「経済力があること」が25.0%、「容姿が好みであること」が13.6%、「共通に趣味があること」が12.7%の順になっている。他の項目については全て11%以下となっている。

【男女別】

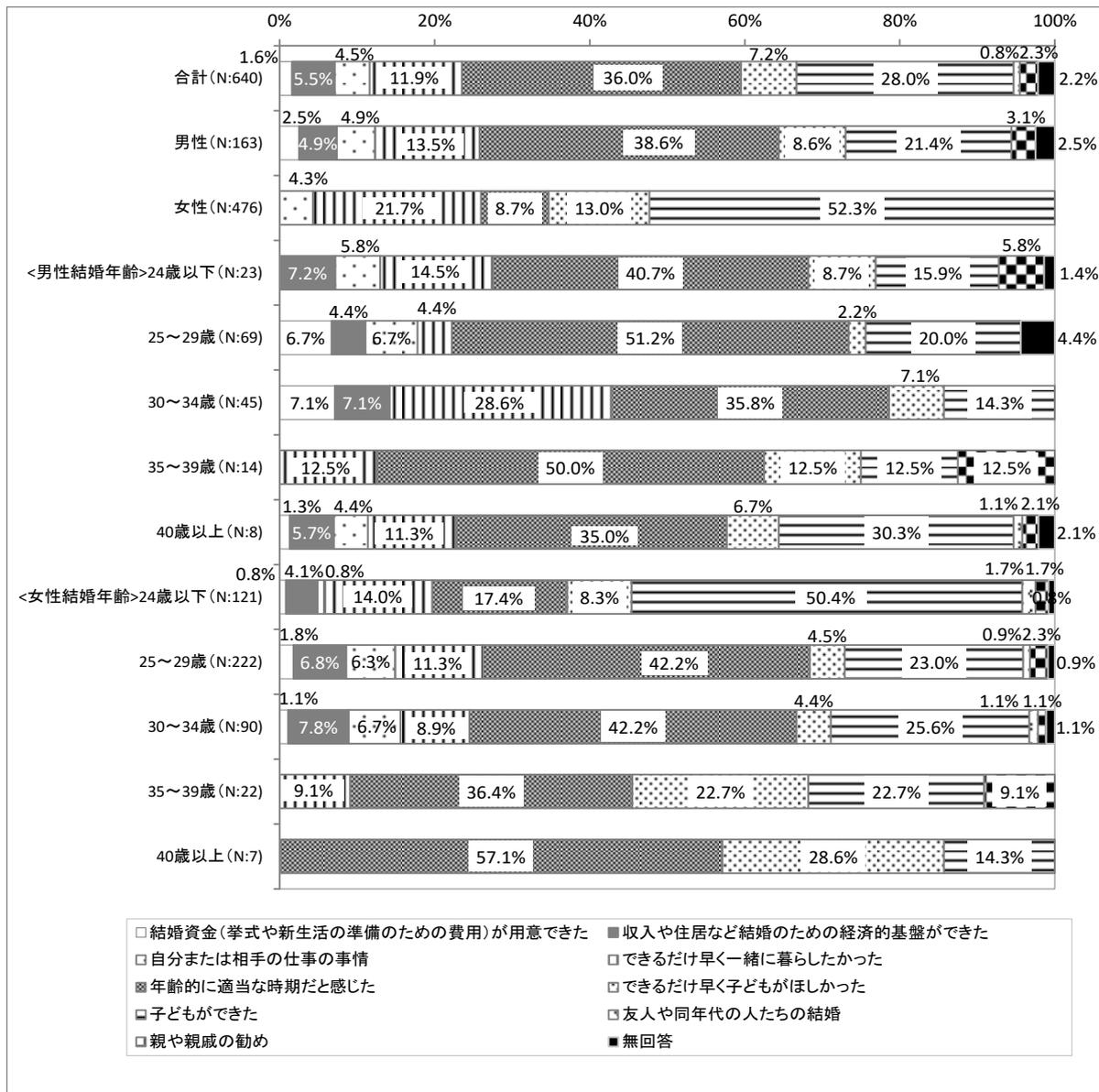
上位2項目で、「一緒にいて楽しいこと」の割合は男性（69.3%）が女性（65.3%）より4ポイント大きく、「価値観が近いこと」は女性（55.7%）が男性（54.6%）と1.1ポイントの差がある。

また、男性は「容姿が好みであること」が22.7%、「家事や家計を任せられること」が15.3%となっており、「容姿が好みであること」は12.2ポイント、「家事や家計を任せられること」は11.1ポイント女性より大きくなっている。

女性は、「経済力があること」が31.9%、「金銭感覚」は31.7%、「家事分担」は13.9%となっており、「金銭感覚」は15.1ポイント、「経済力があること」は27ポイント、「家事分担」は11.4ポイント男性より大きくなっている。

問16. あなたが現在のパートナーとの結婚を最終的に決めた直接のきっかけは何ですか。
(パートナーがいる方のみ)

・結婚した年齢別の結婚を最終的に決めた直接のきっかけ



「年齢的に適当な時期だと感じた」の割合が36.0%と最も大きく、次いで「子どもができた」が28.0%、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」が11.9%の順となっている。他のきっかけについてはいずれも10%未満となっている。

【男女別】

「年齢的に適当な時期だと感じた」の割合は、男性の割合（38.6%）が女性（8.7%）よりも大きくなっている。「子どもができた（男性 21.4%、女性 52.3%）」、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった（男性 13.5%、女性 21.7%）」は、女性の割合が男性より大きくなっている。

【男性結婚年齢別】

「年齢的に適当な時期だと感じた」の割合は、「25～29歳」が 51.2%で最も大きく、次いで「35～39歳」が 50.0%となっている。

「40歳以上」では、「子どもができた」30.3%が他年代より大きくなっている。「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」は「30～34歳」が 28.6%で他年代より大きくなっている。

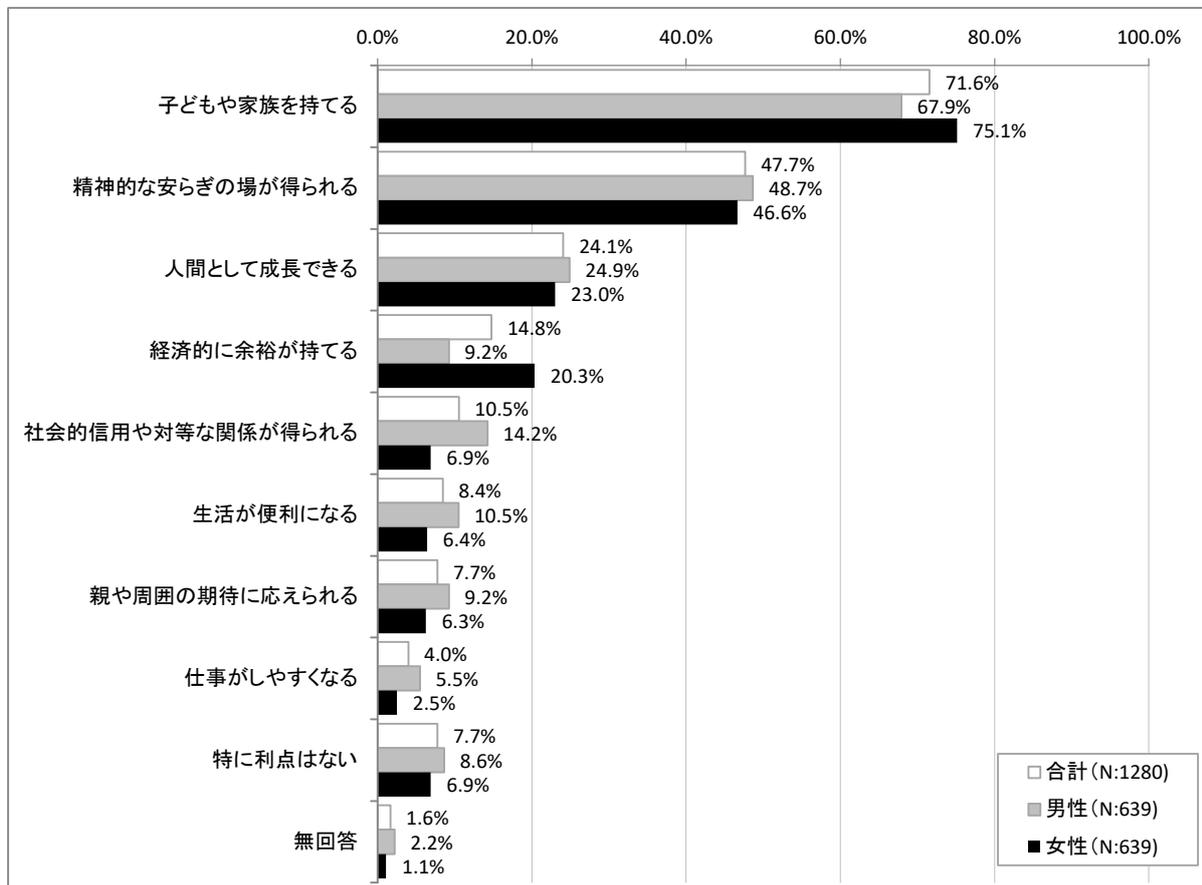
【女性結婚年齢別】

「年齢的に適当な時期だと感じた」の割合は、「40歳以上」が 57.1%で最も大きく、「子どもができた」は、「24歳以下」で 50.4%と最も大きくなっている。

また、「40歳以上」では、「できるだけ早く子どもがほしかった」の割合（28.6%）が他年代より大きくなっている。

問17. あなたとあなたのパートナーは、結婚することの利点はどのようなことだと思いますか。
(パートナーがいる方のみ)(3つまで)

・結婚することの利点（回答者とパートナーの合計）

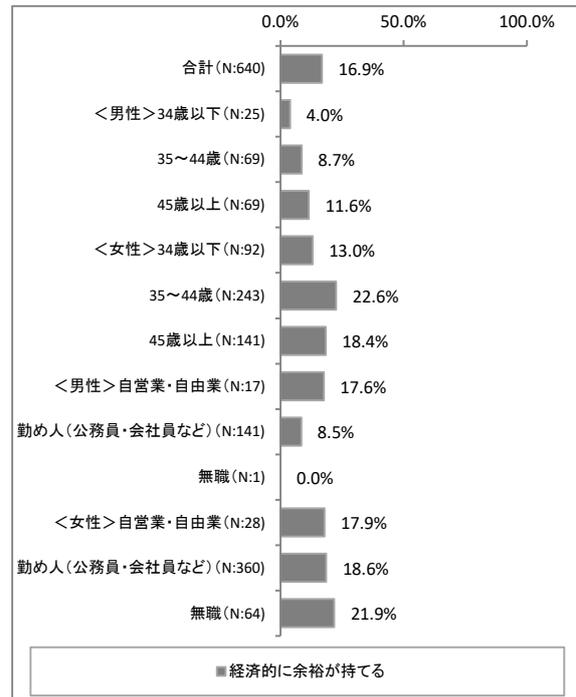
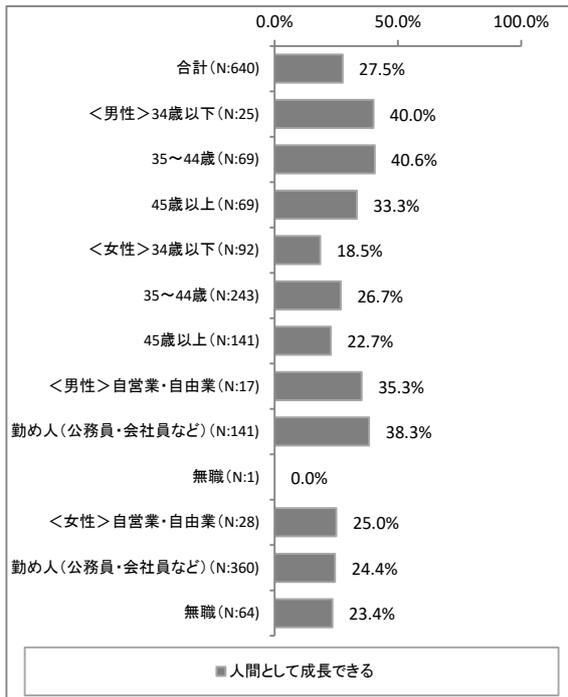
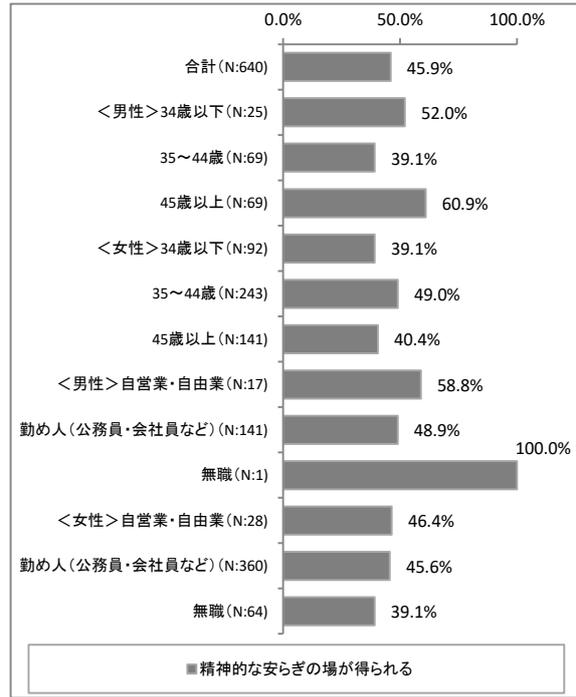
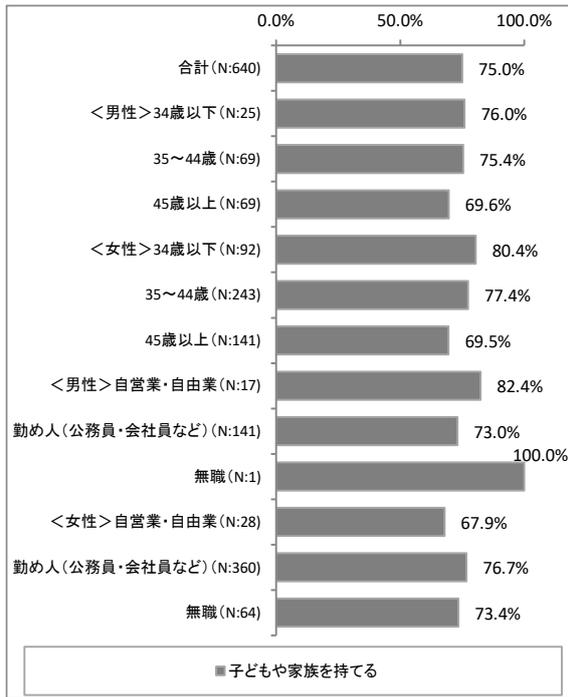


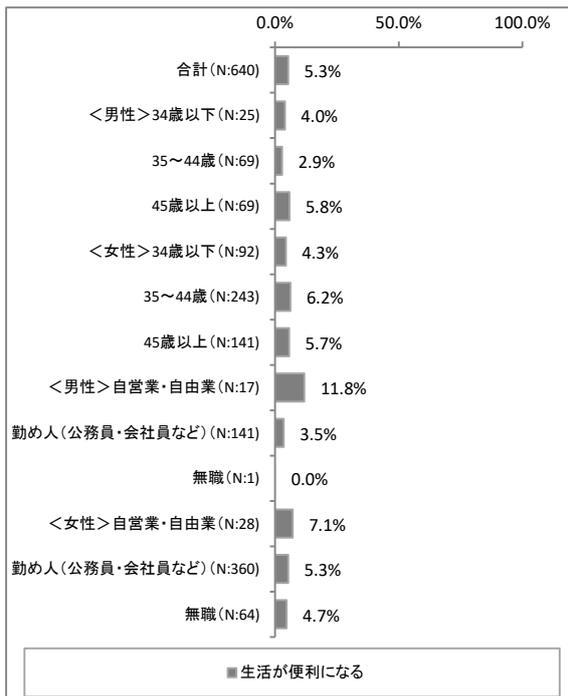
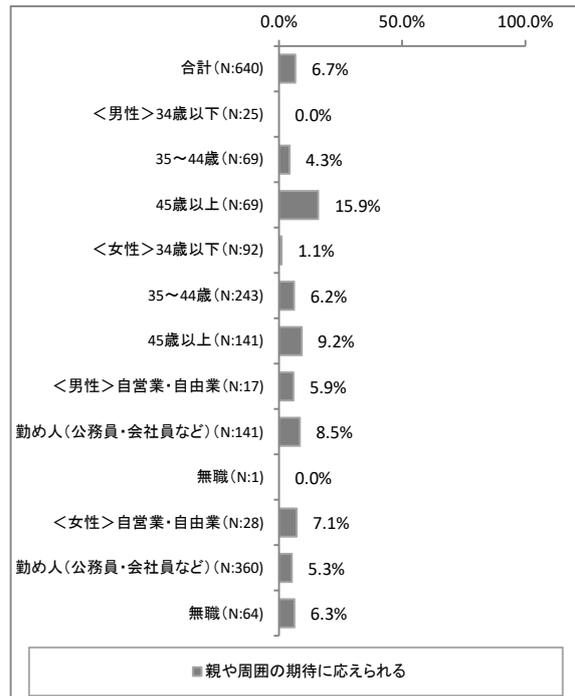
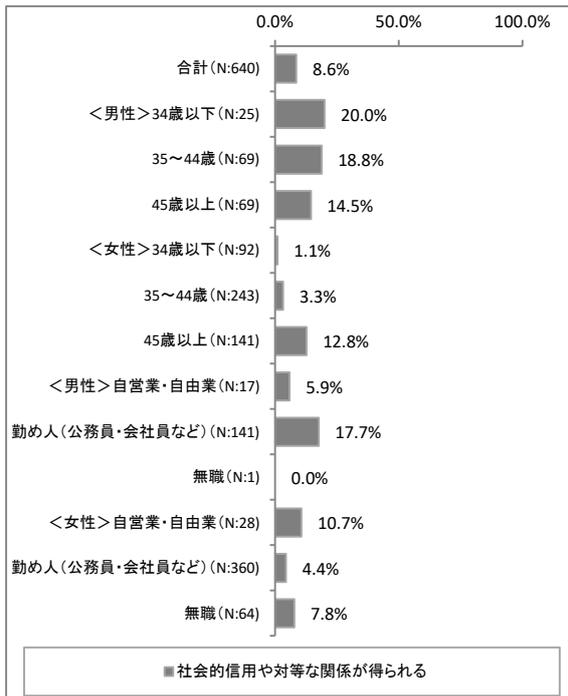
「子どもや家族を持てる」の割合が71.6%と最も大きく、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」47.7%、「人間として成長できる」24.1%、「経済的に余裕が持てる」14.8%、「社会的信用や対等な関係が得られる」10.5%の順となっており、他の項目は10%以下となっている。

【男女別】

「子どもや家族を持てる」、「経済的に余裕が持てる」については、女性の割合（それぞれ75.1%、20.3%）が男性より大きい。また、「社会的信用や対等な関係が得られる」は男性（14.2%）が女性（6.9%）より7.3ポイント大きく、「経済的に余裕が持てる」は女性（20.3%）が男性（9.2%）より11.1ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の結婚することの利点（回答者本人）





【男性年齢別】

「子どもや家族を持てる」については、「45 歳以上」の割合が 69.6%で他の年代より小さい。「精神的な安らぎの場が得られる」については、「45 歳以上」の割合が 60.9%と大きくなっている。

「親や周囲の期待に応えられる」、「経済的に余裕が持てる」については、「45 歳以上」の割合（それぞれ 15.9%、11.6%）が大きくなっている。

【女性年齢別】

「子どもや家族を持てる」については、各年代ともほぼ70%以上で男性と同じ傾向である。また、「精神的な安らぎの場が得られる」、「人間として成長できる」、「経済的に余裕が持てる」について、「35～44 歳」の割合（それぞれ 49.0%、26.7%、22.6%）が他の年代よりも大きくなっている。

【男性職業別】

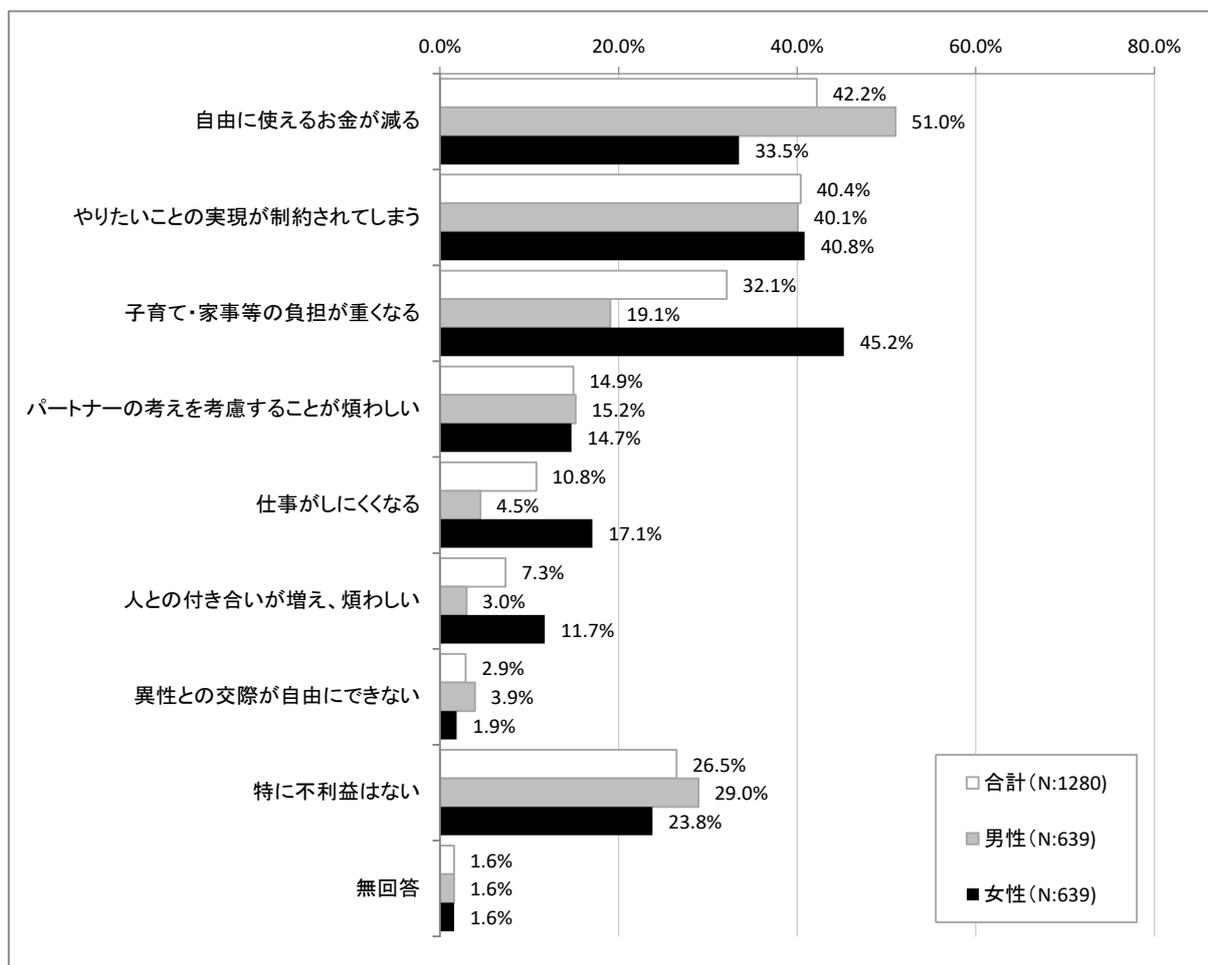
「子どもや家族を持てる」「精神的な安らぎの場が得られる」の上位項目については、「自営業・自由業」の割合（それぞれ 82.4%、58.8%）が「勤め人」より大きくなっている。「人間として成長できる」については、「勤め人」の割合（38.3%）が「自営業・自由業」より大きくなっている。

【女性職業別】

「子どもや家族を持てる」が「勤め人」の割合（76.7%）が「自営業・自由業」より大きくなっている。「精神的な安らぎの場が得られる」、「人間として成長できる」、「社会的信用や対等な関係が得られる」については、「自営業・自由業」の割合（それぞれ 46.4%、25.0%、10.7%）が「勤め人」より大きくなっている。

問18. あなたとあなたのパートナーは、結婚することの不利益はどのようなことだと思いますか。
(パートナーがいるかたのみ)(3つまで)

・結婚することの不利益（回答者とパートナーの合計）

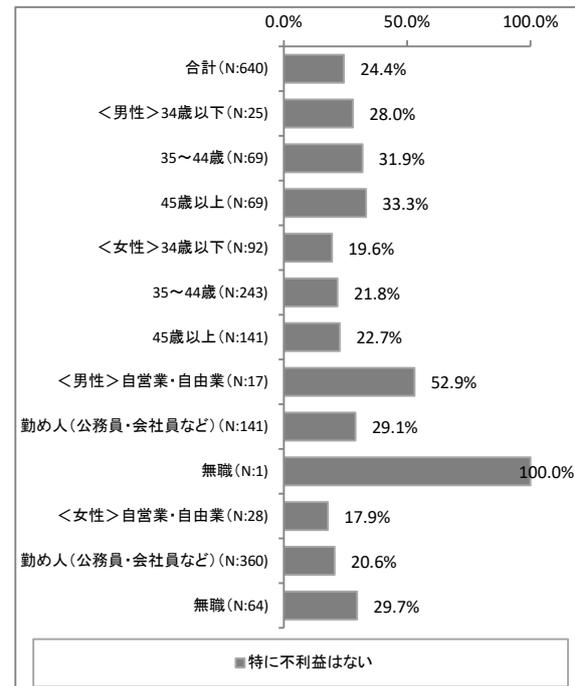
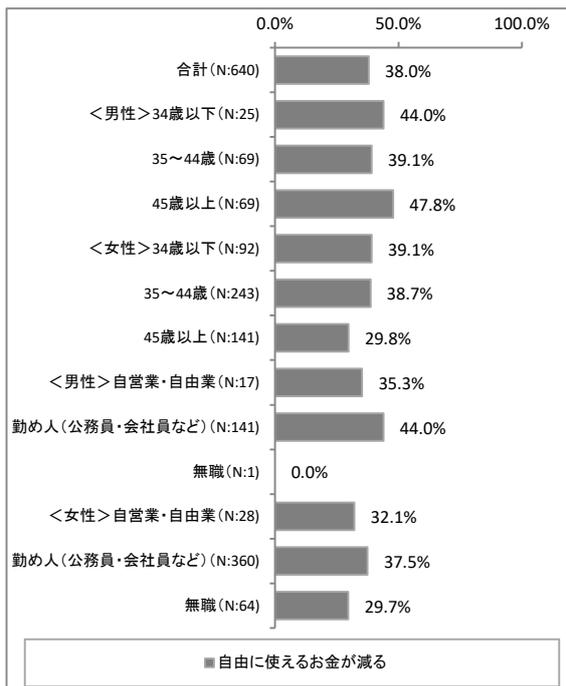
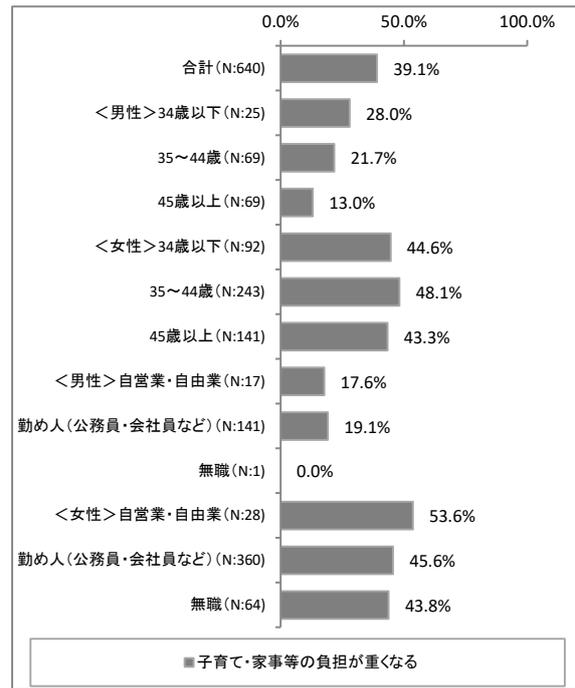
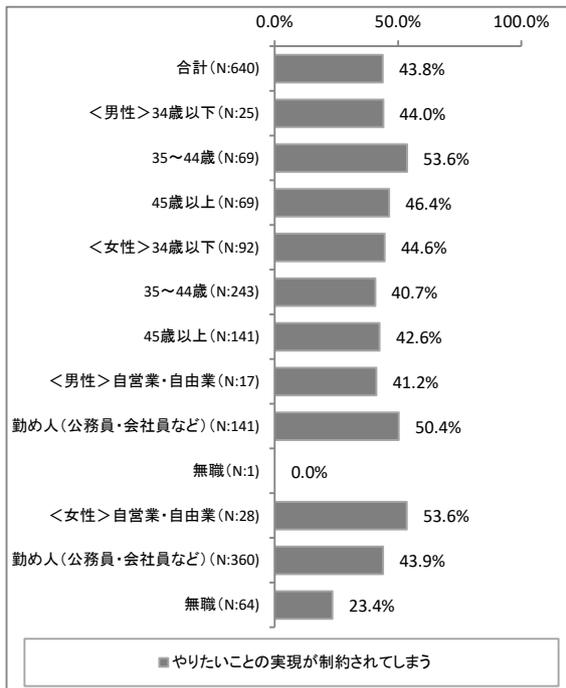


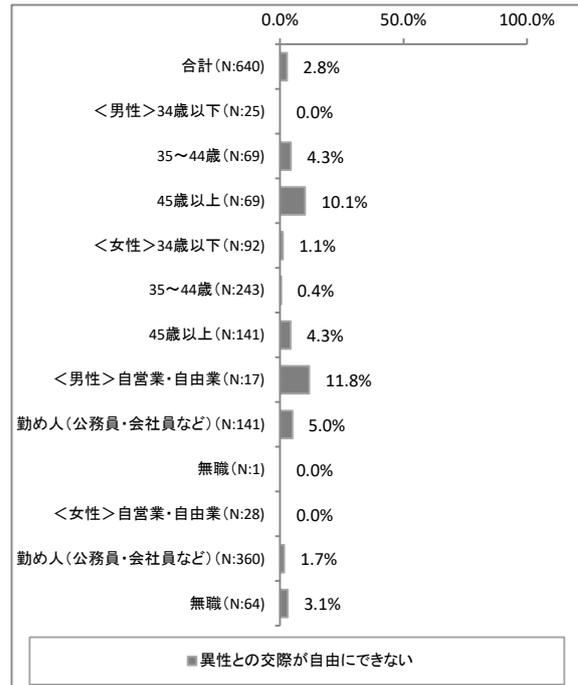
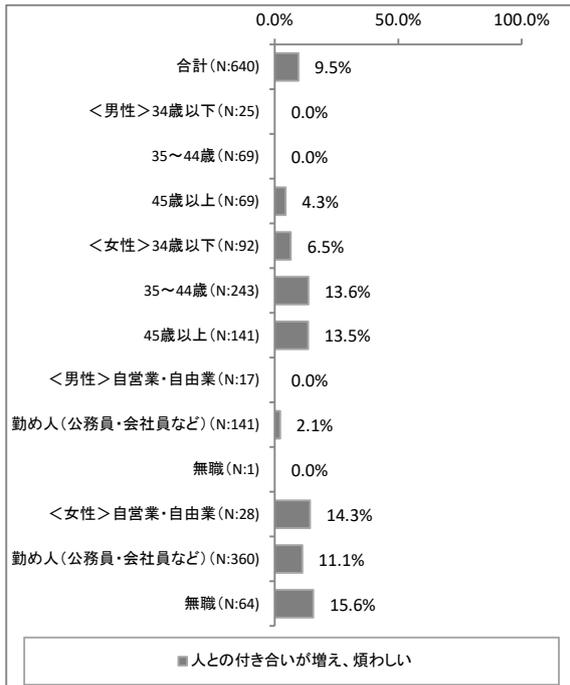
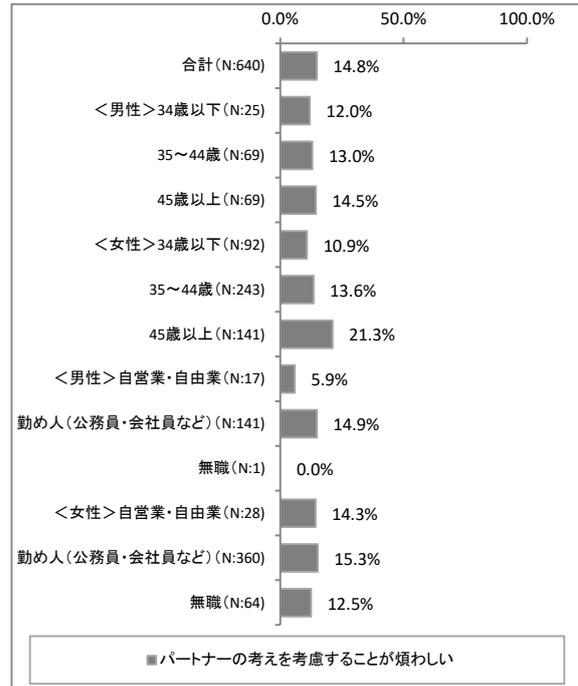
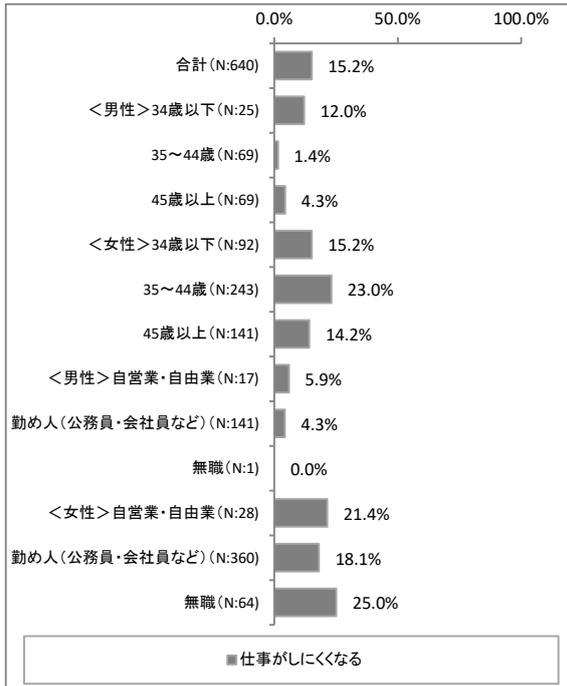
「自由に使えるお金が減る」の割合が42.2%と最も大きく、次いで「やりたいことの実現が制約されてしまう」40.4%、「子育て・家事等の負担が重くなる」32.1%、「特に不利益はない」26.5%、「パートナーの考えを考慮することが煩わしい」14.9%の順となっている。

【男女別】

「自由に使えるお金が減る」の割合は男性（51.0%）が女性（33.5%）より17.5ポイント大きくなっているが、「やりたいことの実現が制約されてしまう」は男性（40.1%）、女性（40.8%）とあまり差は見られない。「子育て・家事等の負担が重くなる」は女性（45.2%）が男性（19.1%）よりも26.1ポイント大きくなっている。また、「特に不利益はない」は男性（29.0%）が女性（23.8%）より5.2ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の結婚することの不利益（回答者本人）





【男性年齢別】

「やりたいことの実現が制約されてしまう」の割合は「35～44 歳」(53.6%)、「自由に使えるお金が減る」の割合は「45 歳以上」(47.8%) が他の年代より大きくなっている。「子育て・家事等の負担が重くなる」については、「34 歳以下」の割合 (28.0%) が他の年代よりも大きくなっている。「特に不利益はない」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45 歳以上」の割合 (33.3%) が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「子育て・家事等の負担が重くなる」の割合は、「35～44 歳」(48.1%)、「やりたいことの実現が制約されてしまう」の割合は「34 歳以下」(44.6%) が他の年代より大きくなっている。「自由に使えるお金が減る」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34 歳以下」で(39.1%)最も大きくなっている。「特に不利益はない」の割合は、男性年齢別と同じく年代が上がるにつれて大きくなっており、「45 歳以上」の割合 (22.7%) が最も大きくなっている。

【男性職業別】

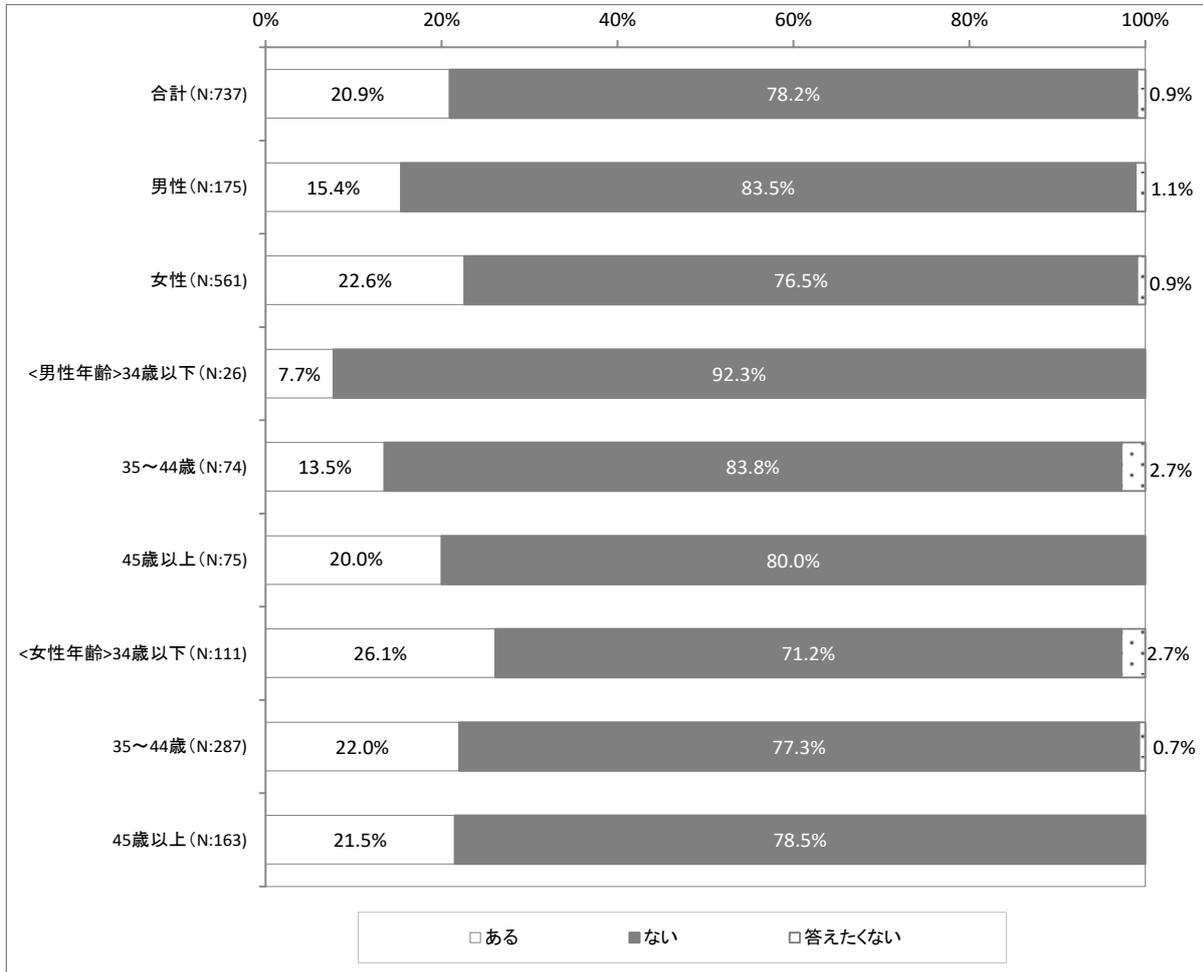
「やりたいことの実現が制約されてしまう」、「自由に使えるお金が減る」については、「勤め人」の割合 (それぞれ 50.4%、44.0%) が「自営業・自由業」より大きくなっている。「特に不利益はない」については、「自営業・自由業」の割合 (52.9%) が「勤め人」(29.1%) より大きくなっている。

【女性職業別】

「子育て・家事等の負担が重くなる」、「やりたいことの実現が制約されてしまう」は、「自営業・自由業」の割合 (それぞれ 53.6%、53.6%) が他の就業状況より大きく、「自由に使えるお金が減る」については、「勤め人」の割合 (37.5%) が他の就業状況より大きくなっている。「特に不利益はない」については、「無職」の割合 (29.7%) が他の就業状況より大きくなっている。

問19. あなたはこれまでに離婚した経験がありますか。

・年齢別の離婚経験



離婚した経験が「ある」(20.9%)、「ない」(78.2%)の比率は2：8となっている。

【男女別】

離婚した経験が「ある」について、女性の割合(22.6%)が男性(15.4%)よりも7.2ポイント大きくなっている。

【男性年齢別】

離婚した経験が「ある」人の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合(20.0%)が最も大きくなっている。次いで「35～44歳」が13.5%、「34歳以下」が7.7%となっている。

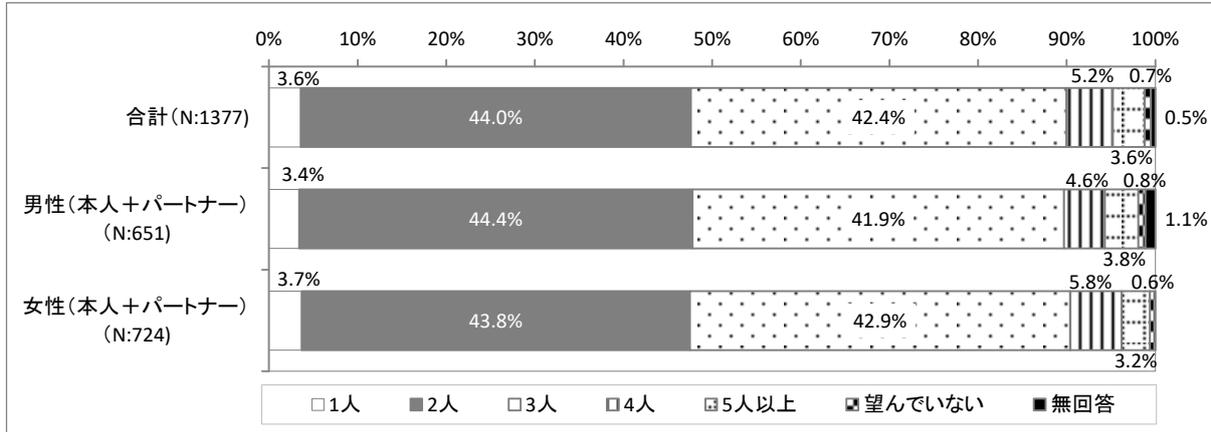
【女性年齢別】

離婚した経験が「ある」人の割合は、男性とは反対に年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」の割合(26.1%)が最も大きくなっている。

理想の子ども数・現実の子ども数について

問20. あなたとあなたのパートナーにとって理想的な子どもの数は何人ですか。

・理想とする子ども数（回答者とパートナーの合計）



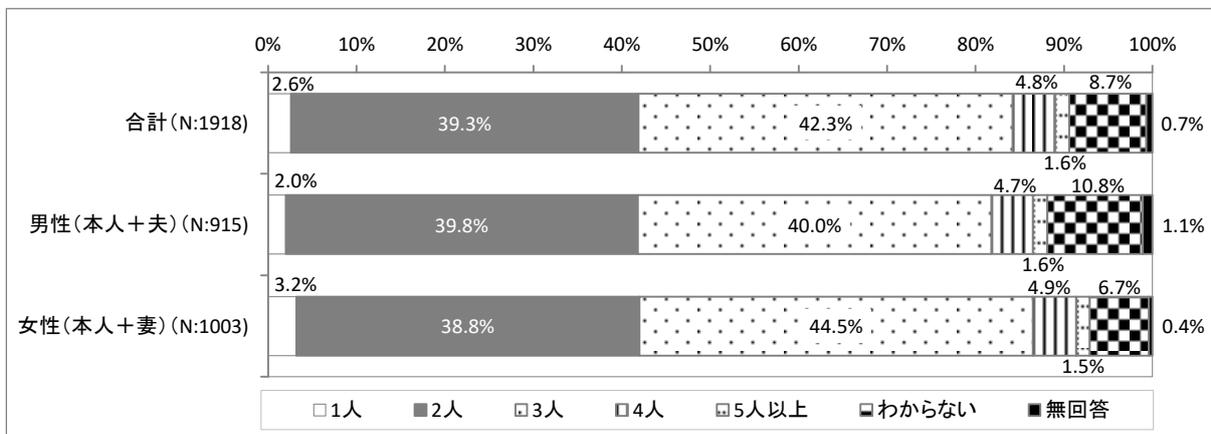
「2人」の割合が44.0%で最も大きく、次いで「3人」42.4%、「4人」5.2%の順となっている。前回調査では、「3人」42.3%、「2人」39.3%、「4人」4.8%の割合、順位となっており、前回と比べて「2人」と「3人」の順位が入れ替わり、「2人」が4.7ポイント増加している。

理想とする子ども数の平均値は2.61人であり、前回調査(2.60人)と大きな差はみられない。

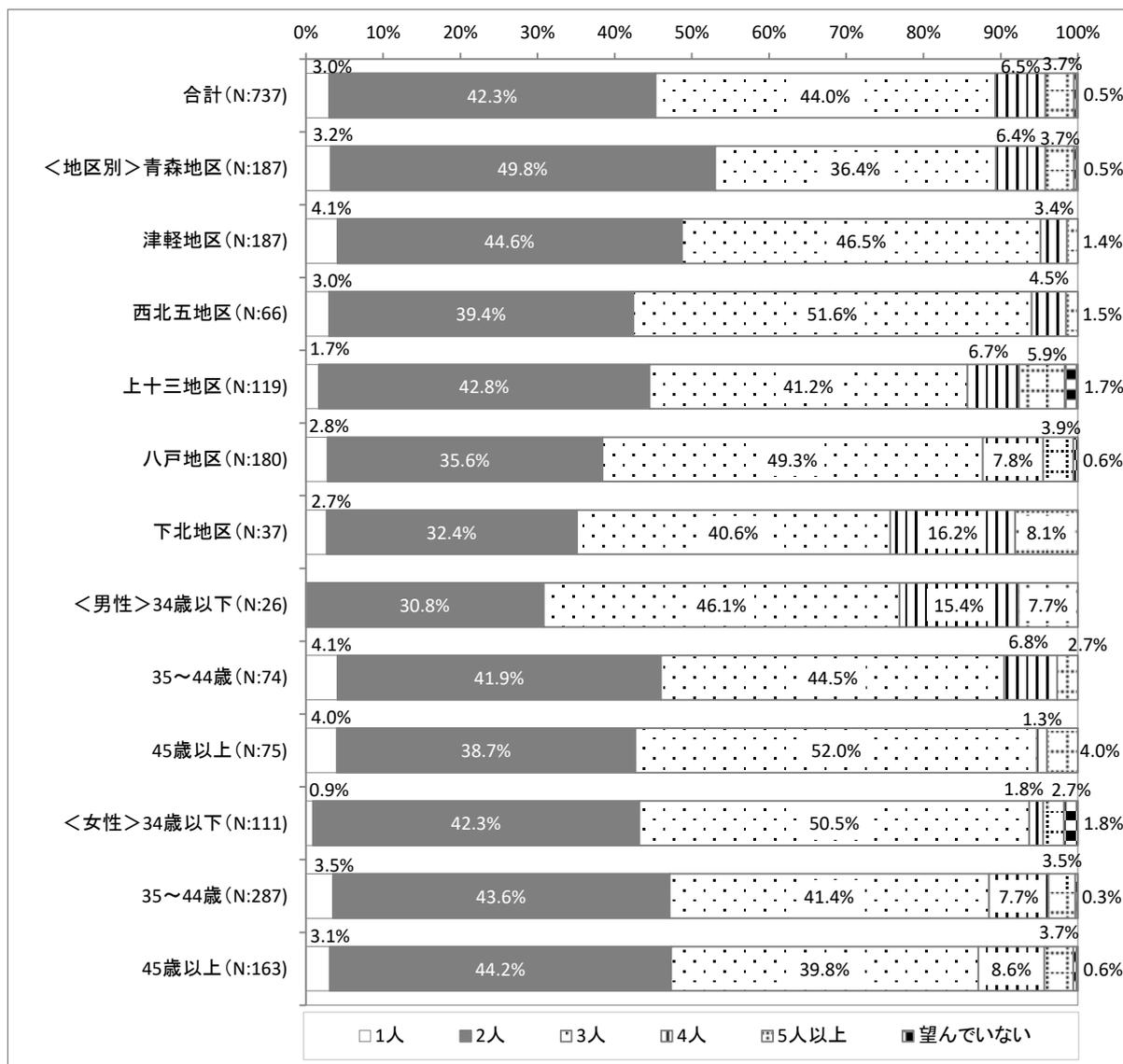
【男女別】

全項目において差は1ポイント以下となっている。

(参考) 前回調査



・ 地区別、性・年齢別、理想とする子ども数（回答者本人）



【地区別】

「1人」については、各地区の割合は1.7%~4.1%となっている。

「1人」と「2人」を合計した「2人以下」では、「青森地区」の割合が53.0%と最も大きく、「下北地区」35.1%よりも17.9ポイント大きくなっている。

3人以上については、「下北地区」の割合が64.9%と最も大きく、次いで「八戸地区」が64.0%となっており、他地区（46.5~57.6%）よりも大きくなっている。

【男性年齢別】

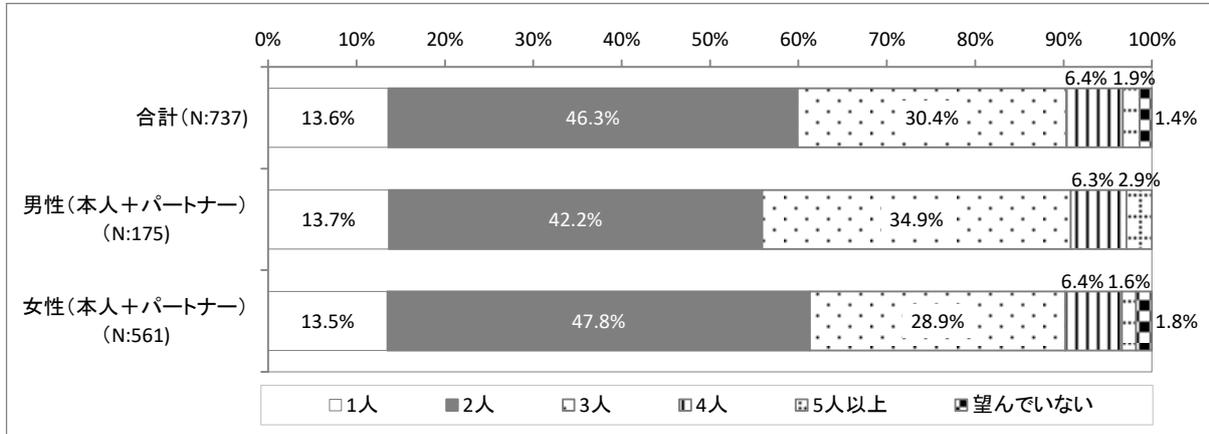
年代を問わず「3人」が44.5～52.0%と大きい。また、「2人」の割合は「35～45歳」で41.9%と、他の年代よりも大きくなっている。

【女性年齢別】

「3人」が「34歳以下」で50.5%と最も大きくなっており、「3人」、「2人」の割合は年代を問わず大きくなっている。

問21. あなたとあなたのパートナーは、現実何人の子どもを持つ予定ですか。現在おられるお子さんも含めてお答えください。

・ 予定の子ども数（回答者とパートナーの合計）



「2人」の割合が46.3%で最も大きく、次いで「3人」30.4%、「1人」13.6%の順となっている。

前回調査と比べて「1人」「4人」「5人以上」の割合が増加、「2人」「3人」が減少している。予定する子ども数の平均は2.36人で、前回調査2.33人より増加した。

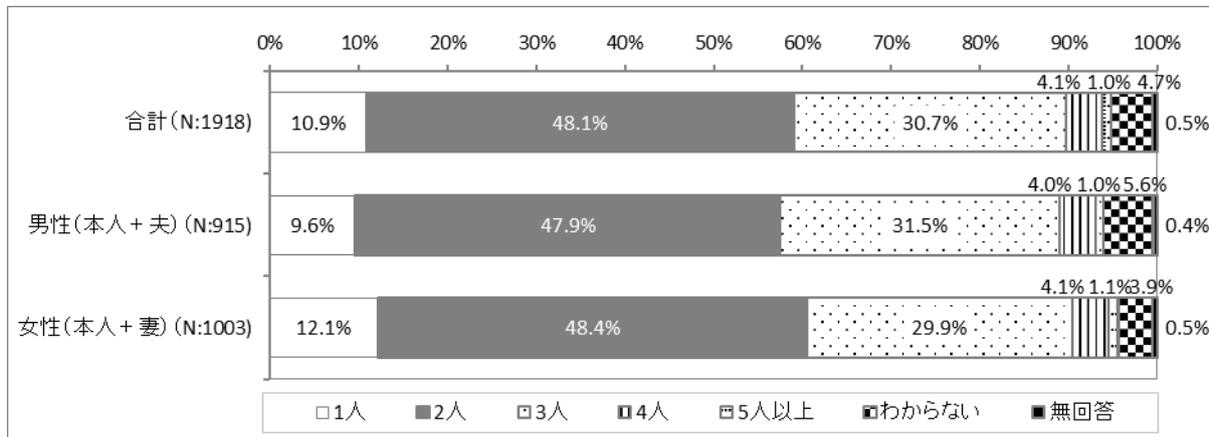
【男女別】

「1人」については、男性（本人+夫）、女性（本人+妻）とも、ほぼ同様の割合（それぞれ13.7%、13.5%）となっている。

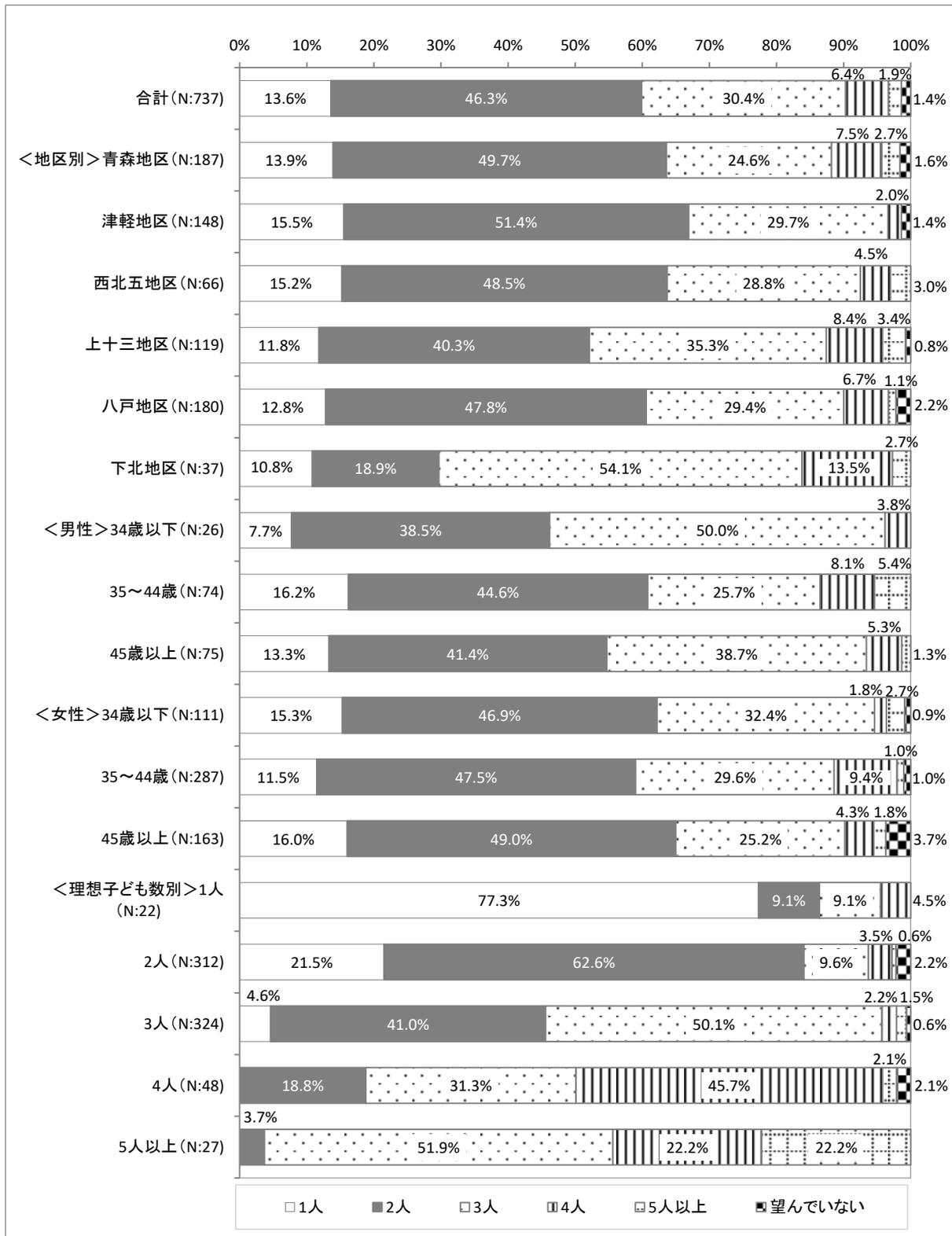
「2人」については、男性の割合（42.2%）が女性の割合（47.8%）よりも5.6ポイント小さい。

「3人」では男性の割合が6ポイント大きくなっている。

（参考）前回調査



・ 地区別、性・年齢別の予定の子ども数と理想とする子ども数（回答者本人）



【地区別】

「1人」については、各地区の割合は10.8%～15.5%となっている。「2人」については、「下北地区」の割合が18.9%と他地区（40.3～49.7%）よりも小さくなっている。

「1人」と「2人」を合計した「2人以下」では、「津軽地区」、「西北五地区」、「青森地区」、「八戸地区」の割合が60.6～66.9%と、「上十三地区」52.1%、「下北地区」29.7%よりも大きくなっている。

3人以上については、「下北地区」の割合が70.3%と他地区（32.1～47.1%）よりも大きくなっている。

【男性年齢別】

「3人」については、「34歳以下」の割合が一番大きく50.0%となっている。「1人」「2人」は「35～44歳」の年代の割合が（それぞれ16.2%、44.6%）最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「2人」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で49.0%と最も大きくなっている。「3人」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で32.4%と最も大きくなっている。

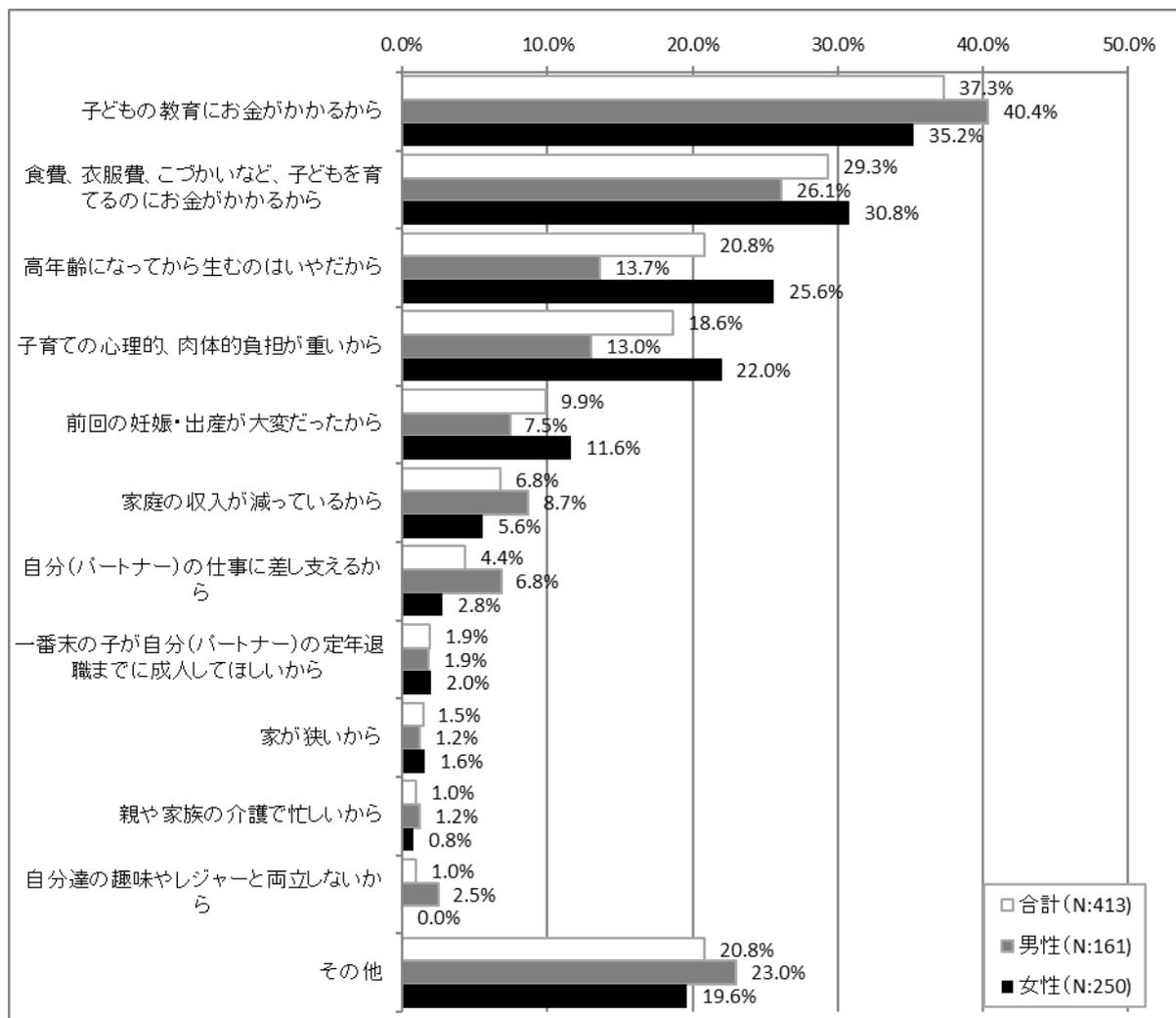
【理想とする子ども数との関連】

理想とする子ども数と一致している人の割合は、「1人（77.3%）」が最も大きく、次いで「2人（62.6%）」、「3人（50.1%）」となっている。全体の一致率は55.6%で前回調査の61.7%より6.1ポイント小さくなっている。

理想とする子ども数が多くなるにつれ、予定の子ども数は、「2人」の場合21.5%、「3人」の場合45.6%、「4人」の場合50.1%、「5人以上」の場合77.8%と少なくなっている。

問22. (問20「理想とする子ども数」よりも問21「予定の子ども数」が少ない方にお聞きします)
「理想とする子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。
(2つまで)

・ 予定の子ども数が少ない理由 (回答者とパートナーの合計)



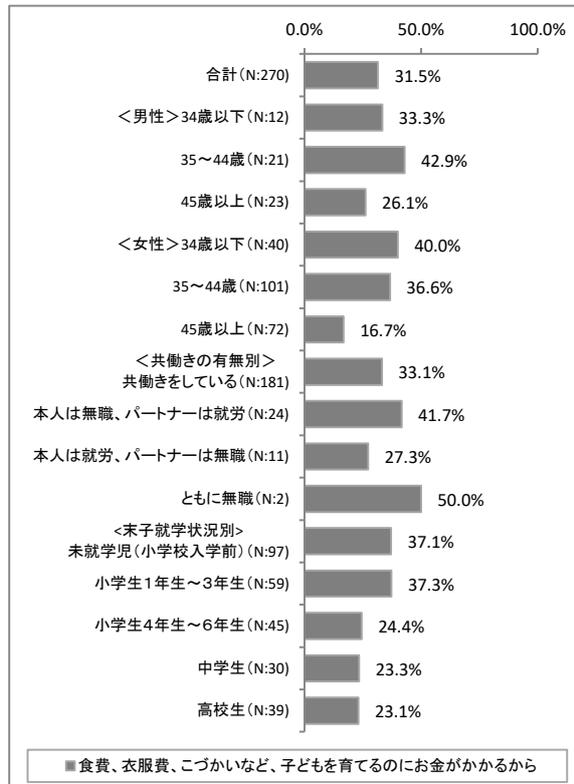
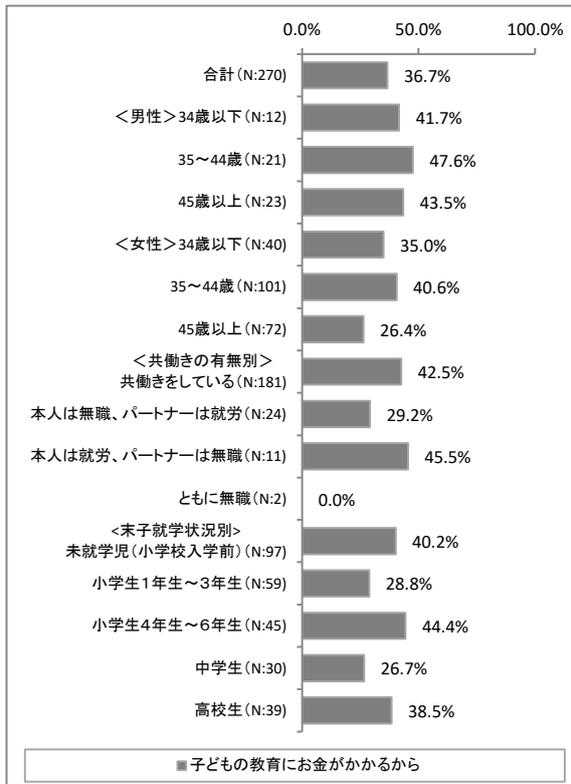
「子どもの教育にお金がかかるから」の割合が 37.3%と最も大きく、次いで「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」29.3%、「高年齢になってから産むのはいやだから」20.8%、「子育ての心理的・肉体的負担が重いから」18.6%、「前回の妊娠・出産が大変だったから」9.9%の順となっている。

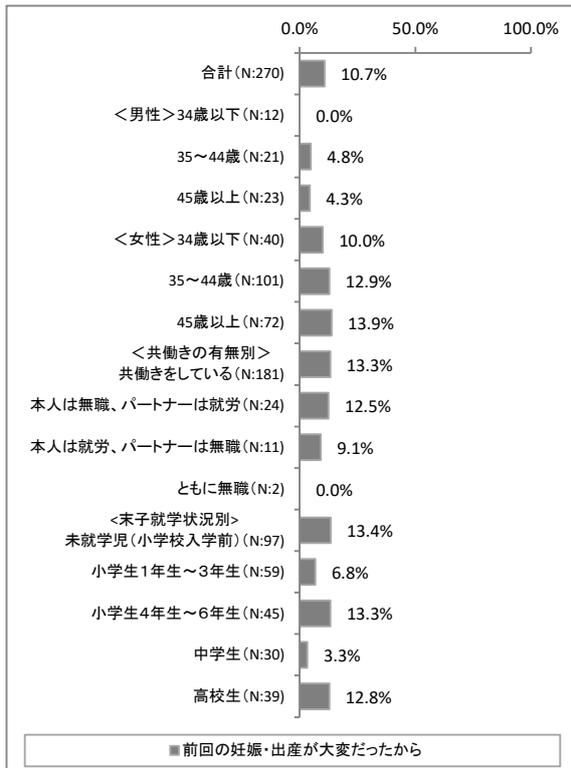
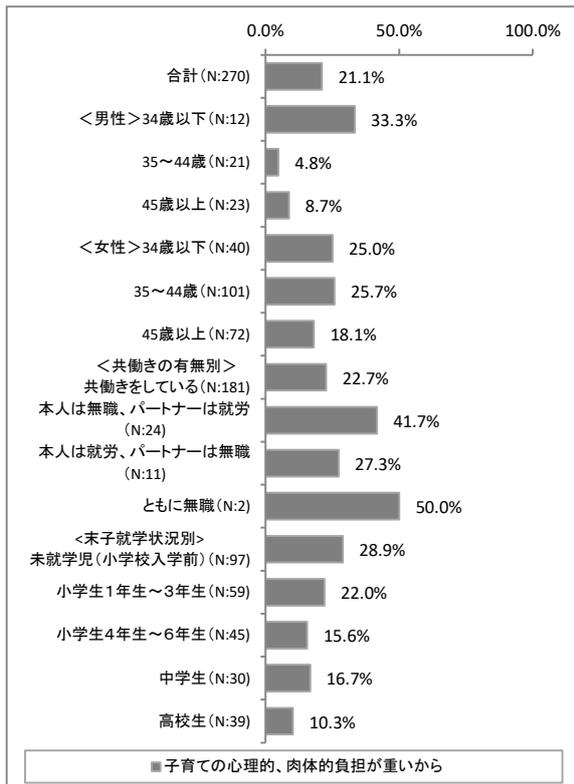
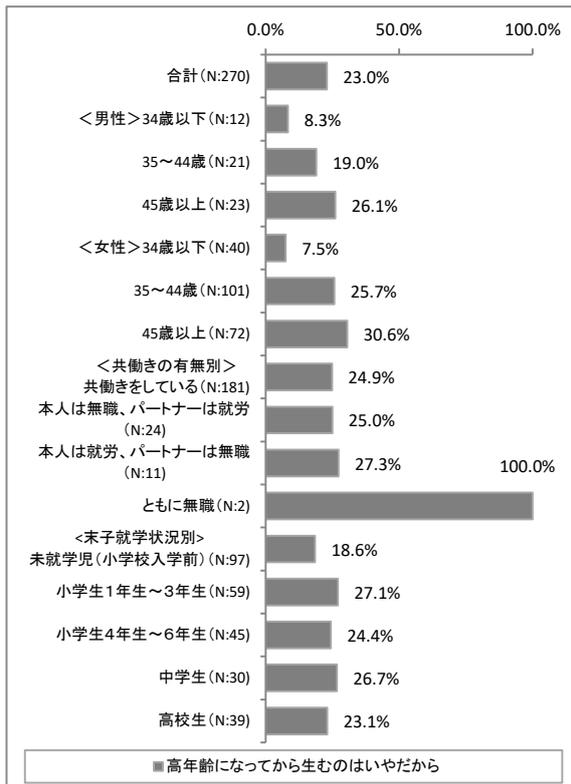
前回調査では、「子どもの教育にお金がかかるから」45.7%、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」35.6%、「高年齢になってから産むのはいやだから」25.6%、「育児の心理的・肉体的負担が重いから」16.4%、「前回の妊娠・出産が大変だったから」9.9%という割合、順位となっており、前回と比べて、「子どもの教育にお金がかかるから」が 8.4 ポイント、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」が 6.8 ポイント、「高年齢になってから産むのはいやだから」が 4.8 ポイント減少しており、「子育ての心理的・肉体的負担が重いから」が 2.2 ポイント増加している。

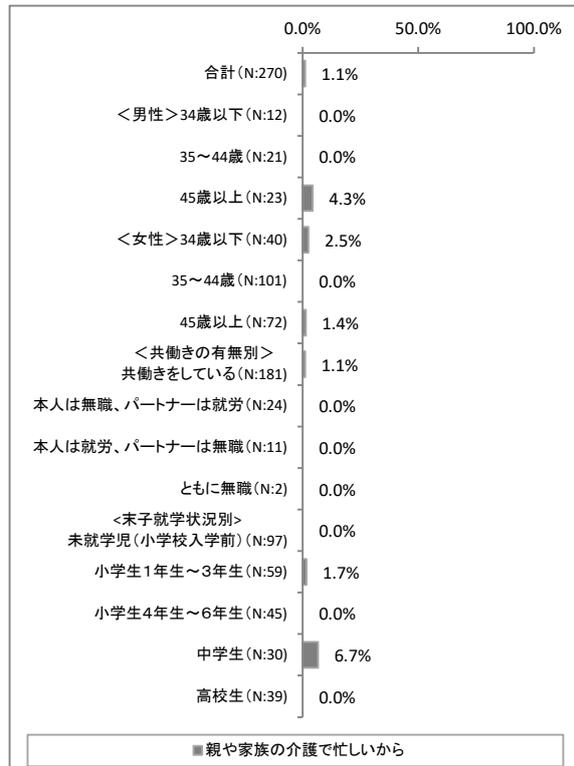
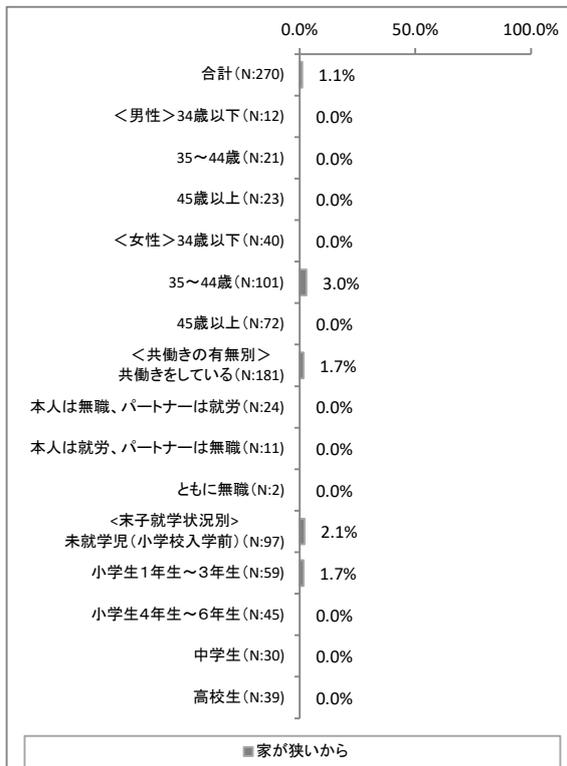
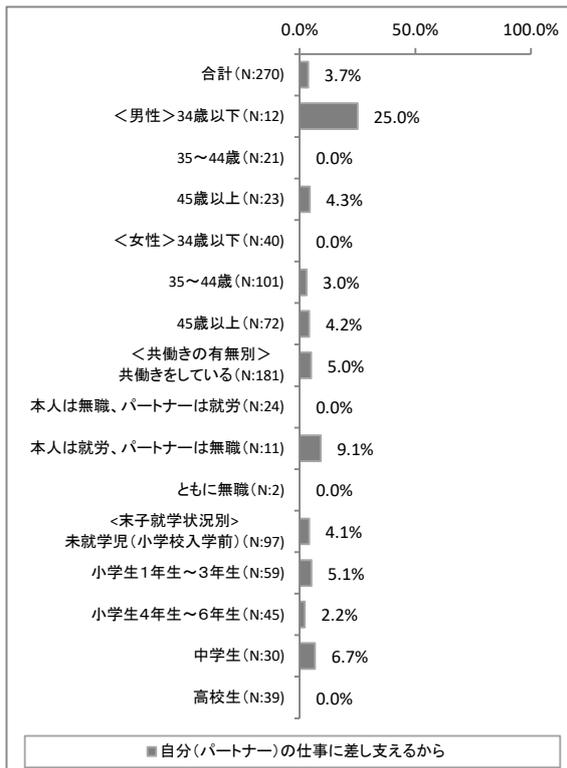
【男女別】

「子どもの教育にお金がかかるから」は男性 40.4%、女性 35.2%で男性が 5.2 ポイント大きい。「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」については男性 26.1%、女性 30.8%で女性が 4.7 ポイント多い。「高年齢になってから産むのはいやだから」と「子育ての心理的・肉体的負担が重いから」では、女性の割合が男性よりもそれぞれ 11.9 ポイント、9 ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、共働きの有無別、末子就学状況別の予定の子ども数が少ない理由（回答者本人）







【男性年齢別】

「子どもの教育にお金がかかるから」、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」については、「35～44歳」の割合（それぞれ47.6%、42.9%）が最も大きくなっているが、前回調査と比べて「子どもの教育にお金がかかるから」は6.9ポイント減少している。

「高年齢になってから産むのはいやだから」については「45歳以上」の割合（26.1%）が、他の年代よりも大きくなっているが、前回調査と比べて21.8ポイント減少している。

【女性年齢別】

「子どもの教育にお金がかかるから」については「35～44歳」の割合（40.6%）、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」については、「34歳以下」の割合（40.0%）が最も大きい。

「高年齢になってから産むのはいやだから」については「45歳以上」の割合（30.6%）が他の年代よりも大きくなっており男性と同じ傾向である。

【共働きの有無別】

「共働きをしている」で「子どもの教育にお金がかかるから」が42.5%と大きくなっており、「本人は無職、パートナーは就労」では「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」「子育ての心理的、肉体的負担が重いから」がどちらも41.7%と割合が大きくなっている。「本人は就労、パートナーは無職」では「子どもの教育にお金がかかるから」の割合（45.5%）が大きくなっている。

【末子就学状況別】

「未就学児」で「子どもの教育にお金がかかるから」、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」の割合（それぞれ40.2%、37.1%）が大きくなっている。

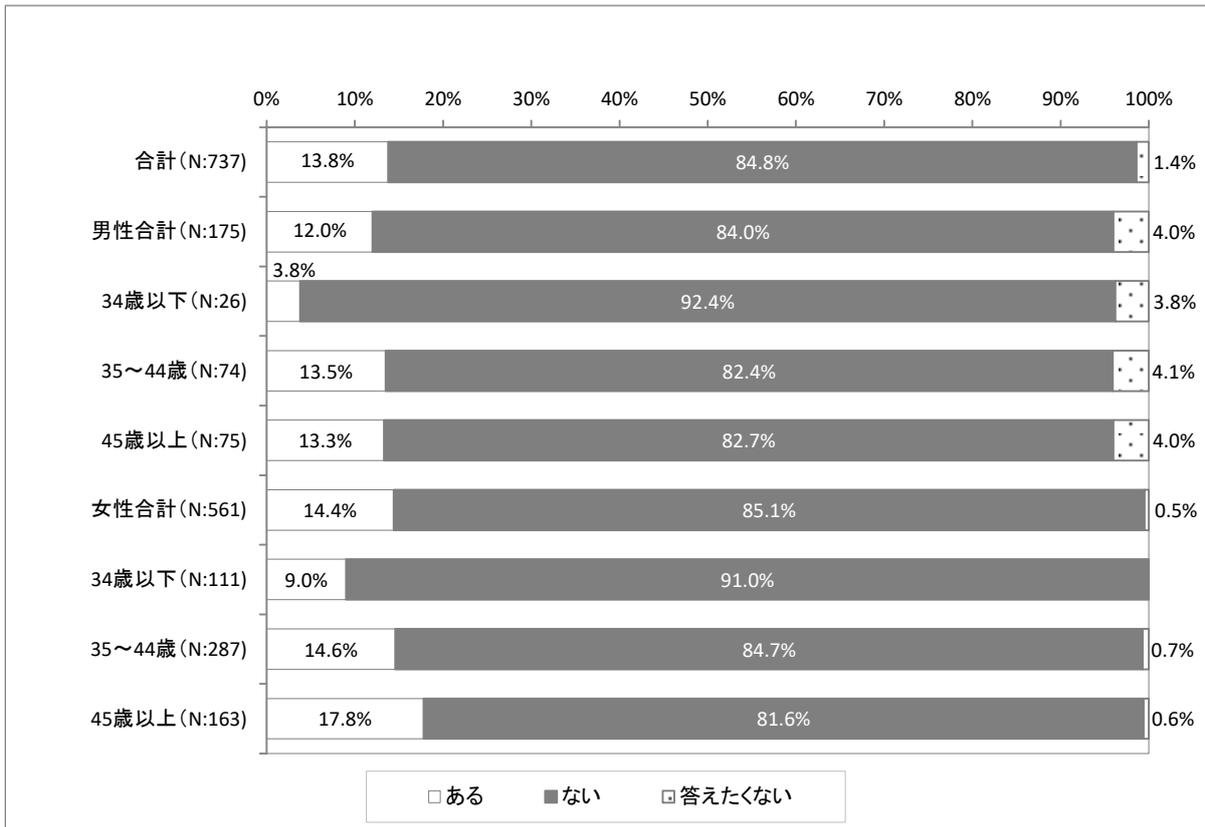
「小学生1年生～3年生」では、「食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから」の割合が37.3%、「小学生4年生～6年生」では、「子どもの教育にお金がかかるから」の割合が44.4%と大きくなっている。

「中学生」は「高年齢になってから産むのはいやだから」、「子どもの教育にお金がかかるから」の割合（どちらも26.7%）、「高校生」は「子どもの教育にお金がかかるから」の割合（38.5%）が大きくなっている。

妊娠・出産について

問23. 過去に不妊治療の経験はありますか。

・ 不妊治療の経験



全体では「ない」が 84.8%、「ある」が 13.8%、「答えたくない」が 1.4%となっており、「ない」が「ある」より 71 ポイント大きくなっている。

【男女別】

「ある」は、男性が 12.0%、女性が 14.4%となっている。

【男性年齢別】

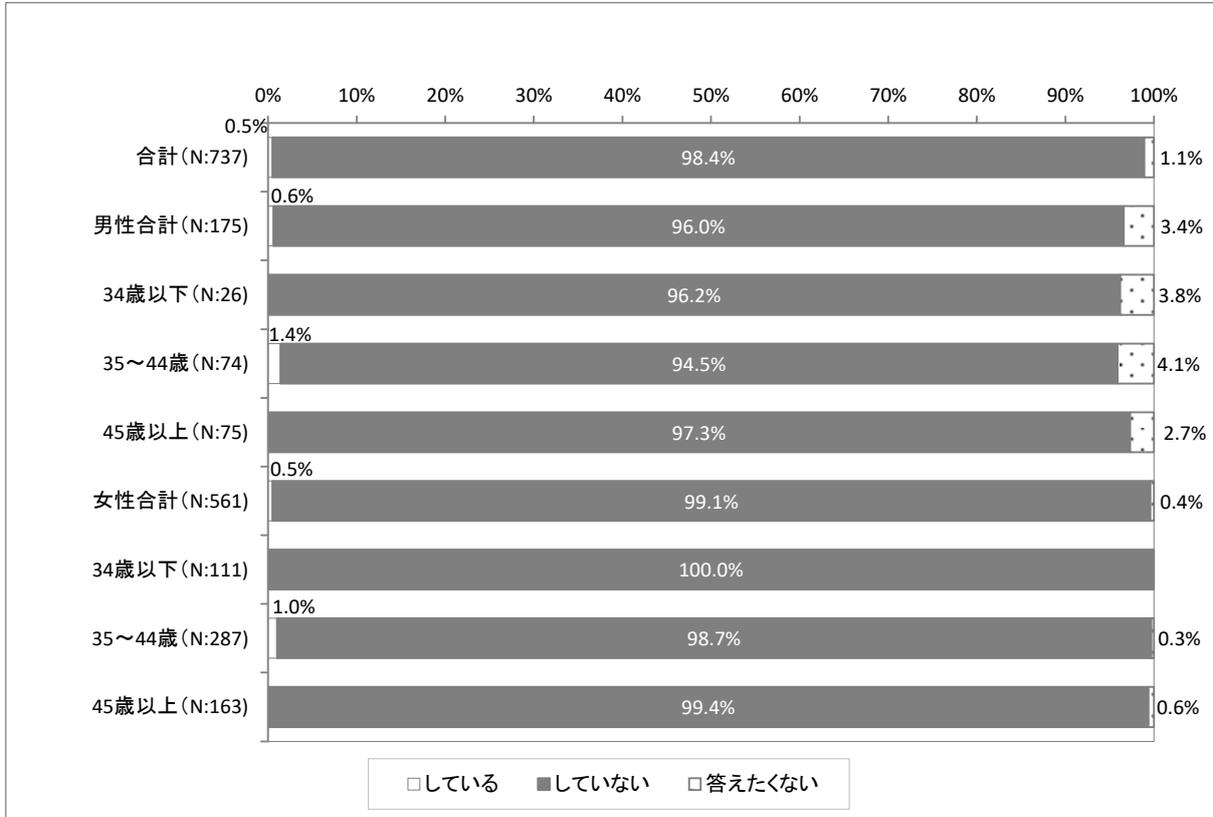
「ある」は、「35～44 歳」の割合（13.5%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「ある」は、「45 歳以上」の割合（17.8%）が最も大きく、年代が下がるにつれ「35～44 歳」14.6%、「34 歳以下」9.0%と小さくなっている。

問24. 現在、不妊治療をしていますか。

・現在、不妊治療をしているか



全体では「している」が 0.5%、「していない」が 98.4%、「答えたくない」が 1.1%となっている。

【男女別】

「している」は、男性が 0.6%、女性が 0.5%となっており、大きな差はない。

【男性年齢別】

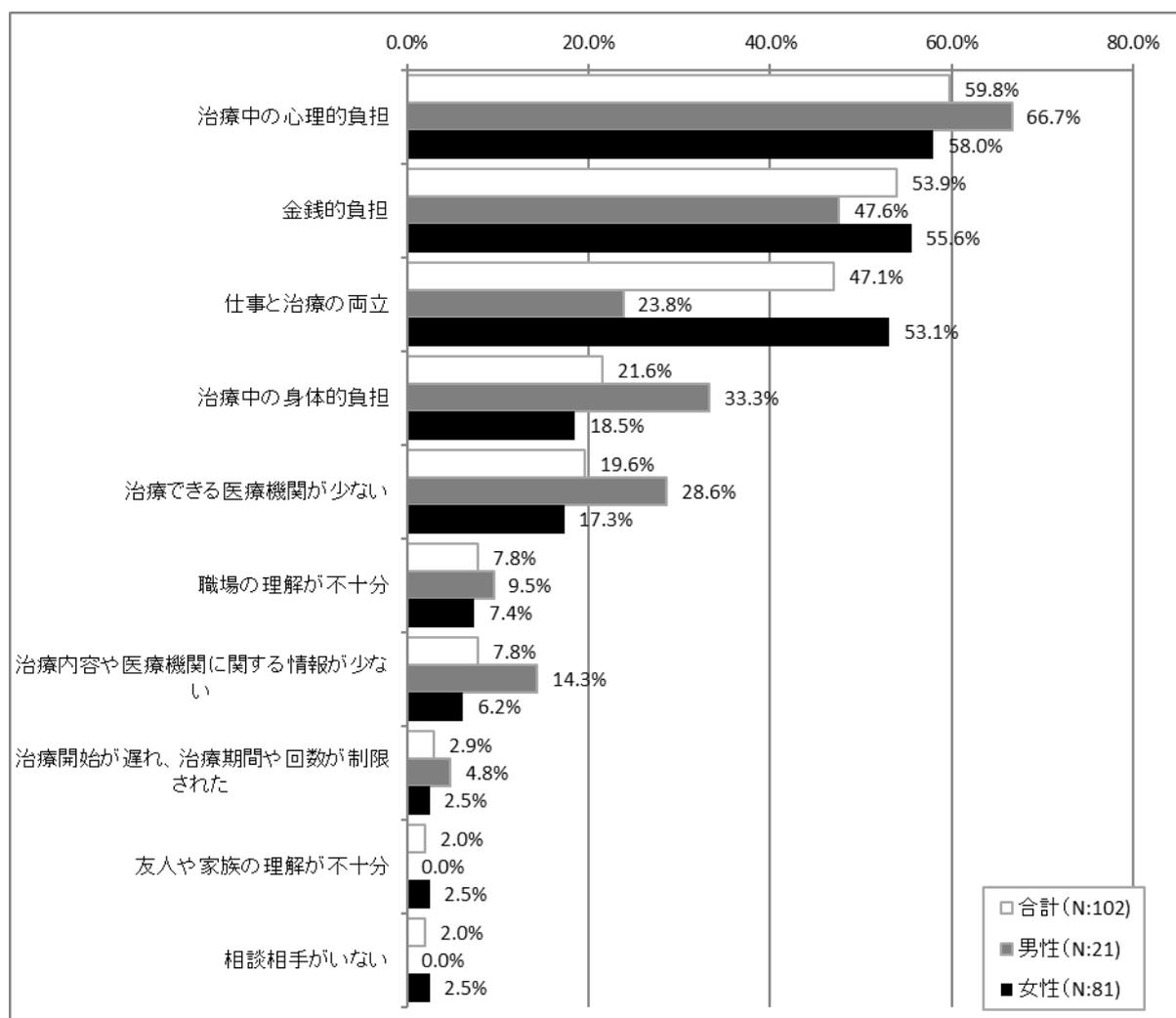
「している」は、「35～44歳」の割合（1.4%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「している」は、男性同様「35～44歳」の割合（1.0%）が最も大きくなっている。

問25. (問23で「1. ある」または問24で「1. している」と回答した方にお聞きします)
不妊治療で困ったことはどんなことですか。(3つまで)

・不妊治療で困ったこと

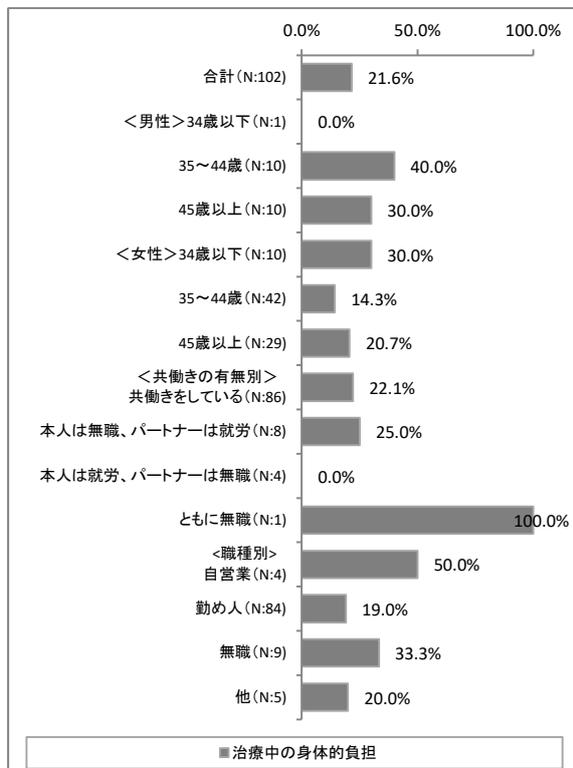
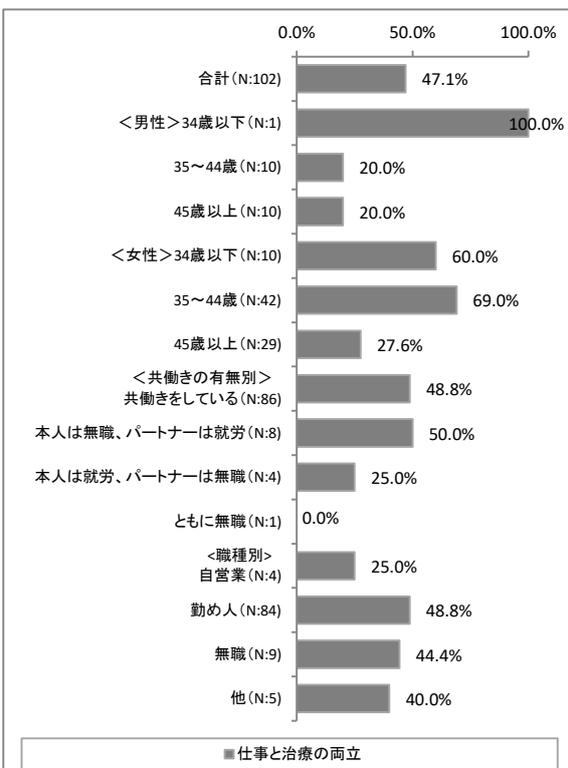
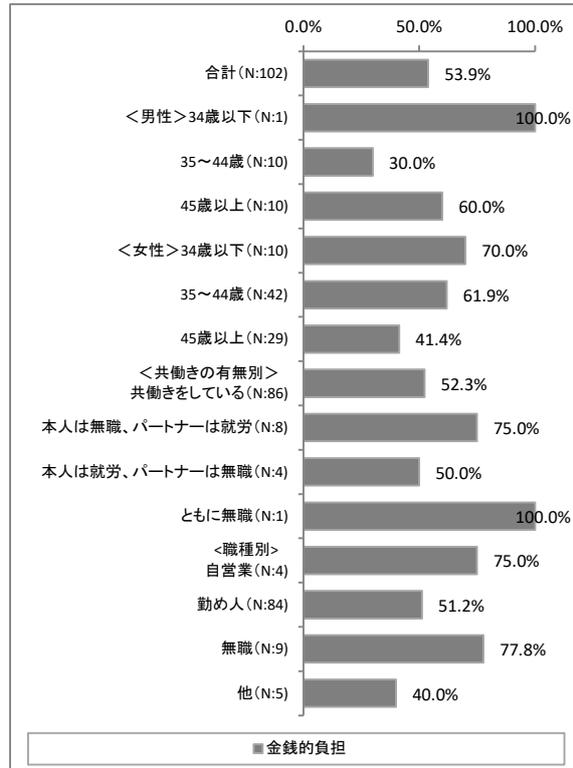
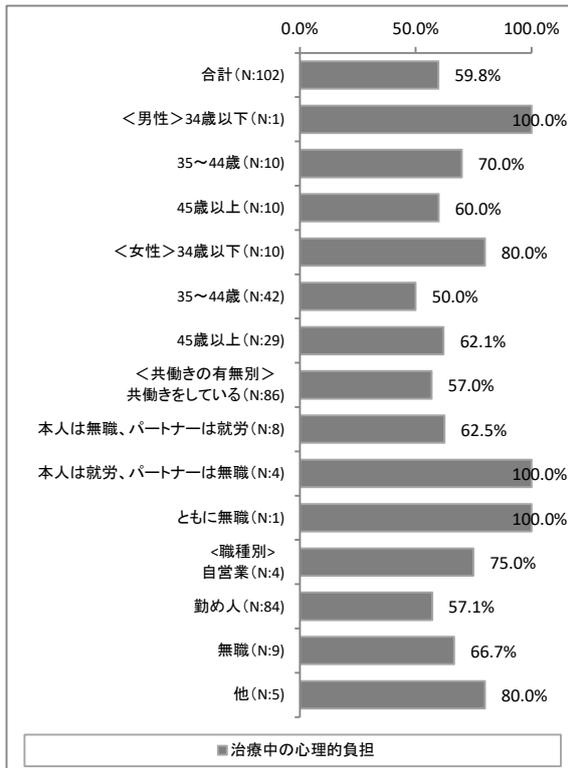


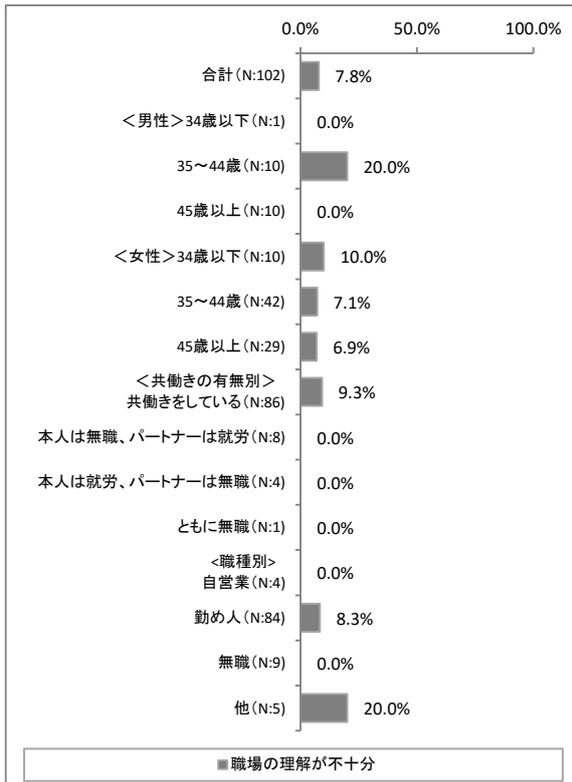
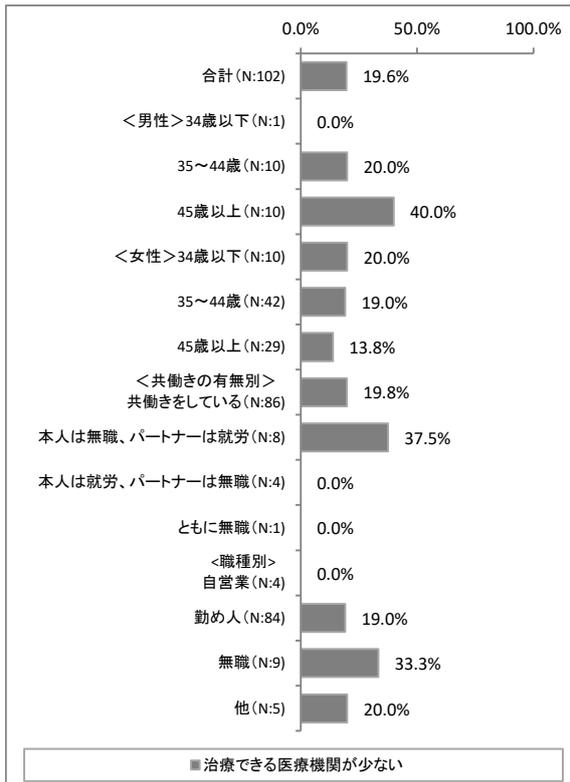
「治療中の心理的負担」が 59.8%と最も大きく、次いで「金銭的負担」53.9%、「仕事と治療の両立」47.1%、「治療中の身体的負担」21.6%、「治療できる医療機関が少ない」19.6%の順となっており、他の項目は10%以下となっている。

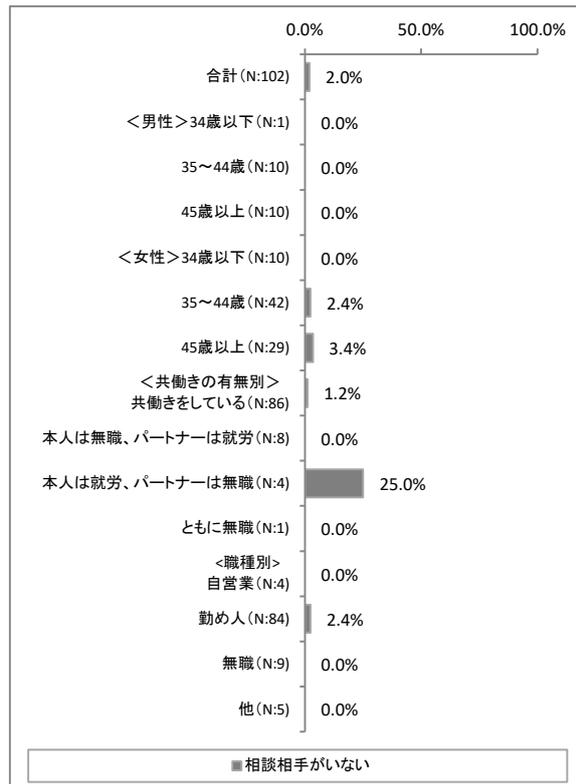
【男女別】

「治療中の心理的負担」の割合は男性 66.7%に対して女性 58.0%、「金銭的負担」は男性 47.6%、女性 55.6%、「仕事と治療の両立」については、女性の割合 (53.1%) が男性 (23.8%) より 29.3 ポイント大きい。また、「治療中の身体的負担」は男性 (33.3%) が女性 (18.5%) より 14.8 ポイント大きく、「治療できる医療機関が少ない」では男性 (28.6%) が女性 (17.3%) より 11.3 ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、共働きの有無別、職業別の不妊治療で困ったこと







【男性年齢別】

「治療中の心理的負担」については、「35～44歳」の割合（70.0%）が最も大きく、「金銭的負担」については「45歳以上」の割合（60.0%）が、他の年代よりも大きくなっている。

【女性年齢別】

「治療中の心理的負担」、「金銭的負担」については、「34歳以下」の割合（それぞれ80.0%、70.0%）が大きい。

「仕事と治療の両立」については、「35～44歳」（69.0%）の割合が最も大きい。

【共働きの有無別】

「共働きをしている」で「治療中の心理的負担」が57.0%と大きくなっており、「本人は無職、パートナーは就労」では「金銭的負担」が75.0%と割合が大きくなっている。「本人は就労、パートナーは無職」では「治療中の心理的負担」の割合（100%）が大きくなっている。

【職種別】

「自営業」で「金銭的負担」「治療中の心理的負担」の割合（どちらも75.0%）、「治療中の身体的負担」の割合（50.0%）が大きくなっている。

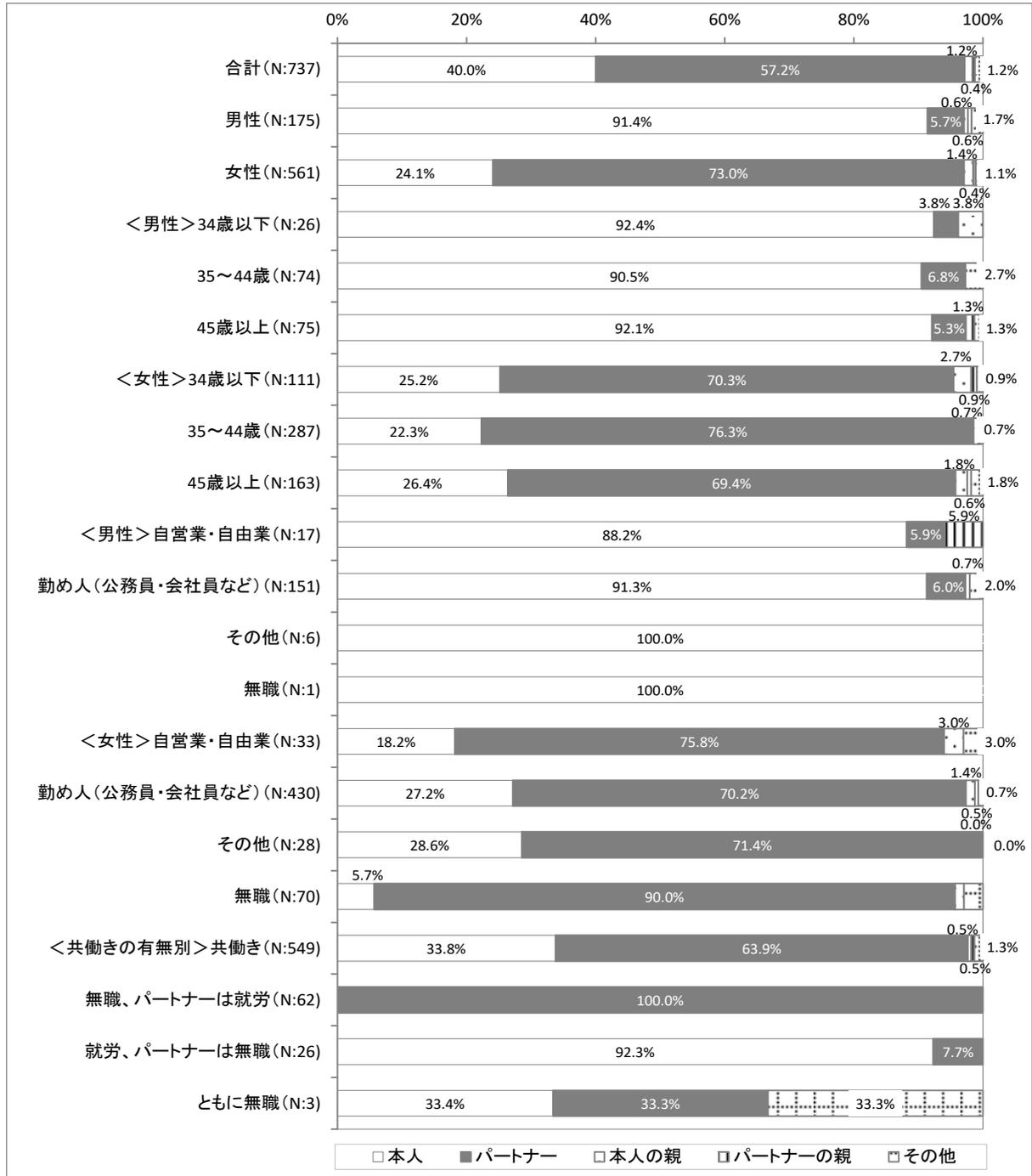
「勤め人」で「治療中の心理的負担」、「金銭的負担」の割合（それぞれ57.1%、51.2%）が大きくなっている。

「無職」では「金銭的負担」、「治療中の心理的負担」の割合（それぞれ77.8%、66.7%）が大きくなっている。

仕事と子育ての両立について

問26. あなたのご家庭の生計の主たる担い手(稼ぎ手)はどなたですか。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の主たる担い手



「パートナー」が最も大きく57.2%となっている。次いで、「本人」が40.0%、「本人の親」「その他」が1.2%、「パートナーの親」が0.4%となっている。

【男女別】

男性は「本人」が91.4%と最も大きく、次いで「パートナー」が5.7%、女性は「パートナー」が73.0%で最も大きく、次いで「本人」が24.1%となっている。

【男性年齢別】

「本人」の割合は、各年代とも90.5～92.4%となっている。

「パートナー」については、「35～44歳」の割合（6.8%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「パートナー」の割合は、各年代とも69.4～76.3%となっており、「35～44歳」で76.3%と最も大きくなっている。

「本人」の割合は、「45歳以上」で26.4%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「本人」について、「勤め人」が91.3%、「自営業・自由業」で88.2%となっている。「パートナー」では、「勤め人」6.0%、「自営業・自由業」5.9%となっている。

【女性職業別】

「パートナー」について、「無職」が90.0%で最も大きく、「自営業・自由業」が75.8%、「その他」が71.4%、「勤め人」が70.2%となっている。「本人」では、「その他」28.6%、「勤め人」27.2%、「自営業・自由業」で18.2%となっている。

【共働きの有無別】

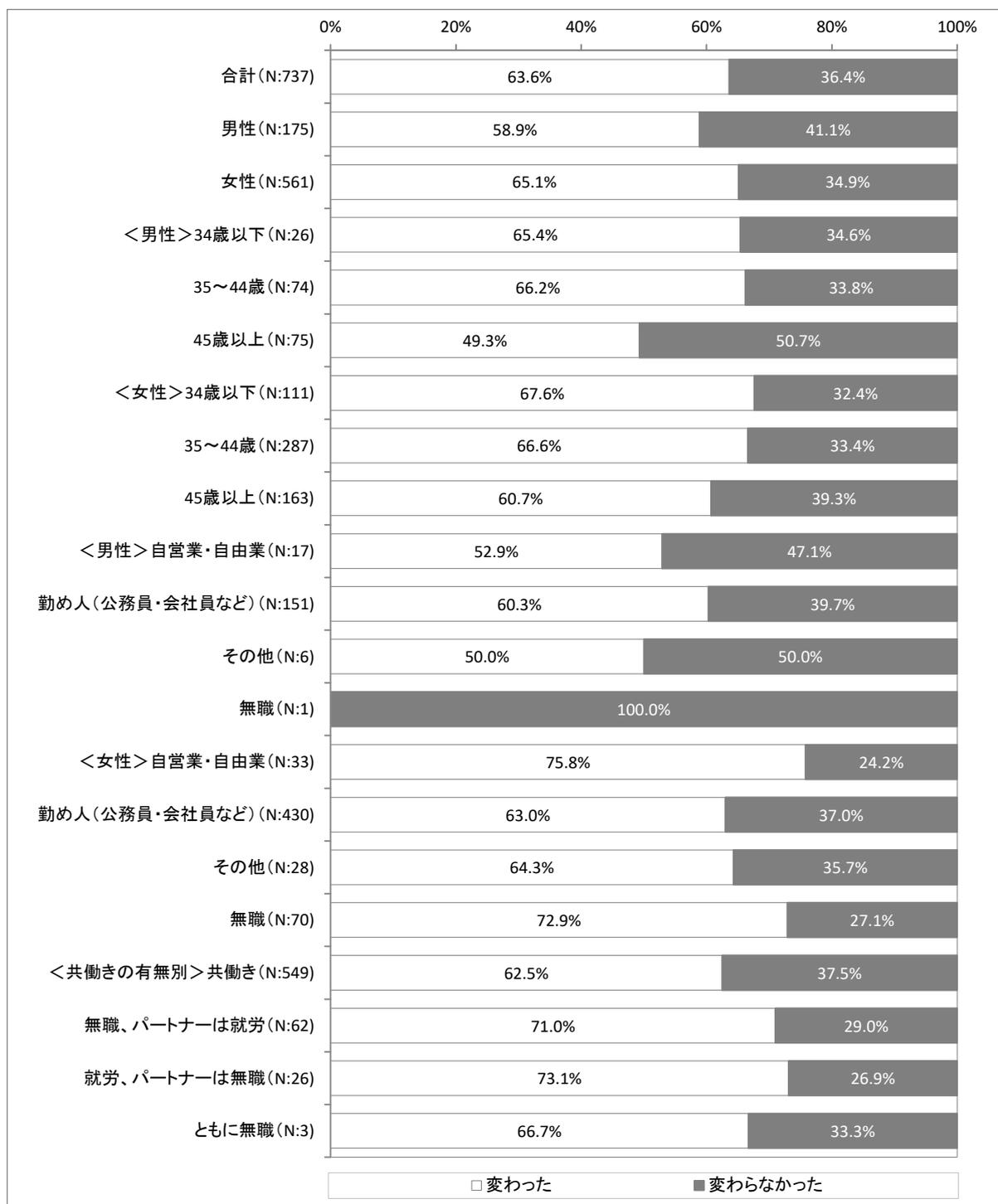
「共働き」では「パートナー」が63.9%、「本人」が33.8%となっている。

「本人は就労、パートナーは無職」では「本人」が92.3%、「パートナー」が7.7%となっている。

「本人は無職、パートナーは就労」では「パートナー」が100%となっている。

問27. あなたのご家庭では、結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけにして、あなた又はあなたのパートナーの仕事のしかたが変わりましたか。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の仕事の仕方の変化



全体では「変わった」が 63.6%、「変わらなかった」が 36.4%となっており、「変わった」が「変わらなかった」より 27.2 ポイント大きくなっている。

【男女別】

「変わった」は、男性が 58.9%、女性が 65.1%となっている。

「変わらなかった」は男性が 41.1%、女性が 34.9%となっている。

【男性年齢別】

「変わった」は、「35～44 歳」の割合（66.2%）が最も大きくなっており、「変わらなかった」は、「45 歳以上」の割合（50.7%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「変わった」は、「34 歳以下」の割合（67.6%）が最も大きく、年代が下がるにつれ大きくなっている。

「変わらなかった」は、「45 歳以上」の割合（39.3%）が最も大きく、年代が上がるにつれ大きくなっている。

【男性職業別】

「変わった」は、「勤め人」が 60.3%、「自営業・自由業」で 52.9%となっており、「勤め人」の割合が 7.4 ポイント大きくなっている。

【女性職業別】

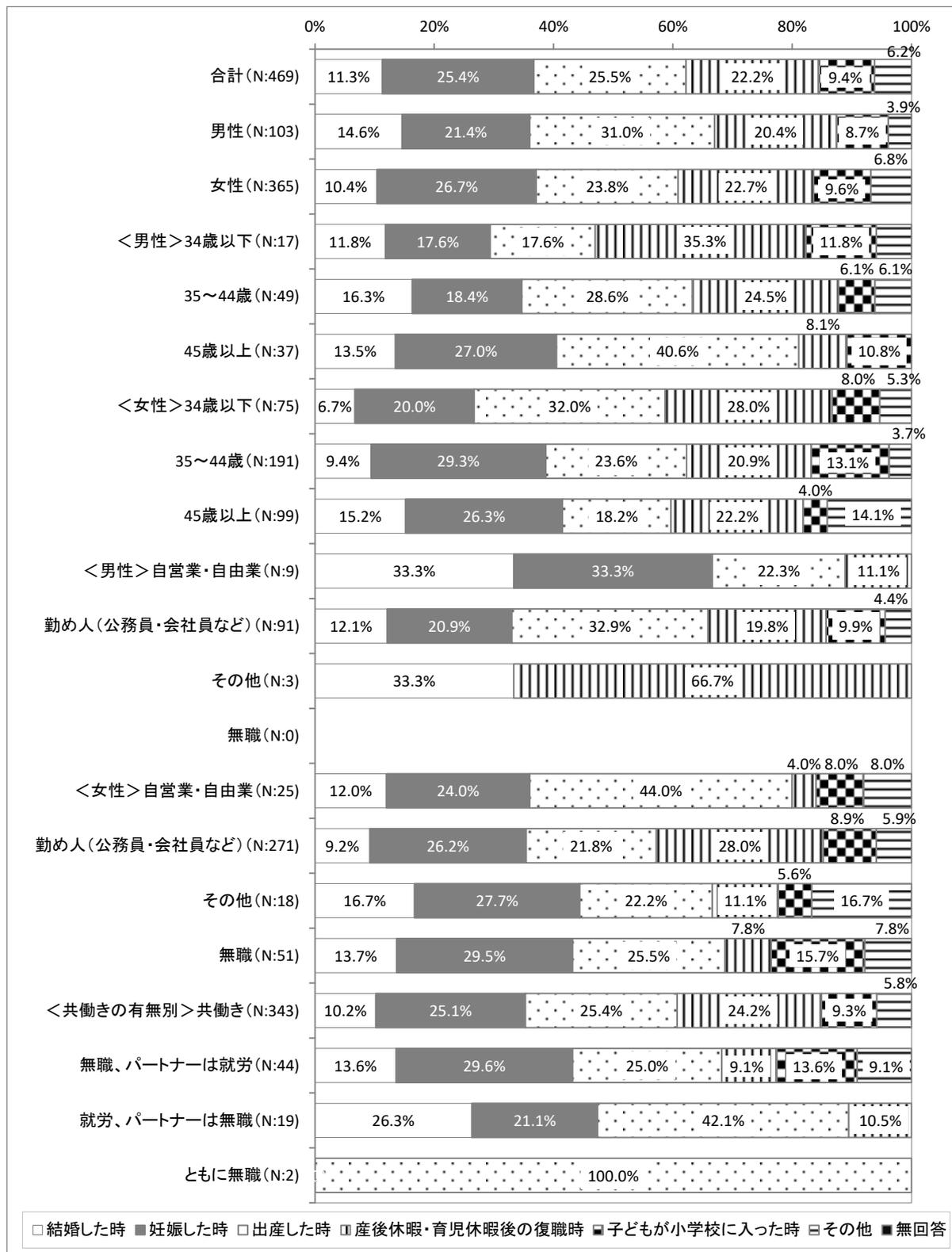
「変わった」は、「自営業・自由業」が 75.8%と最も大きくなっており、「無職」が 72.9%、「その他」64.3%、「勤め人」63.0%の割合になっている。

【共働きの有無別】

「変わった」について、「本人は就労、パートナーは無職」（73.1%）、「本人は無職、パートナーは就労」（71.0%）の割合になっており、「共働き」（62.5%）より大きくなっている。

問28. (問27で「1. 変わった」とお答えの方にお聞きます)
 もっとも大きく仕事の仕方が変わったのはいつですか。

・ 性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の仕事の仕方の変化時期



仕事の仕方が変わった時期については、「出産した時」が25.5%で最も大きく、次いで、「妊娠した時」が25.4%、「産後休暇・育児休暇後の復職時」が22.2%、「結婚した時」が11.3%、「子どもが小学校に入った時」が9.4%となっている。

【男女別】

男性については、「出産した時」が31.0%と最も大きくなっており、「妊娠した時」が21.4%となっている。女性については、「妊娠した時」が26.7%と最も大きくなっており、「出産した時」が23.8%、「産後休暇・育児休暇後の復職時」が22.7%となっている。

【男性年齢別】

「出産した時」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で40.6%と最も大きくなっているが、前回調査では、年代が下がるにつれて大きくなっていた。「妊娠した時」は「45歳以上」で27.0%と最も大きくなっている。

「産後休暇・育児休暇後の復職時」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で(35.3%)最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「出産した時」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で32.0%と最も大きくなっている。「妊娠した時」の割合は、「35～44歳」で29.3%、「産後休暇・育児休暇後の復職時」の割合は、「34歳以下」で28.0%と最も大きくなっている。

「結婚した時」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で15.2%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「結婚した時」、「妊娠した時」について、「自営業・自由業」の割合（どちらも33.3%）が「勤め人」より大きくなっている。「出産した時」、「産後休暇・育児休暇後の復職時」については「勤め人」の割合（それぞれ32.9%、19.8%）が「自営業・自由業」より大きくなっている。

【女性職業別】

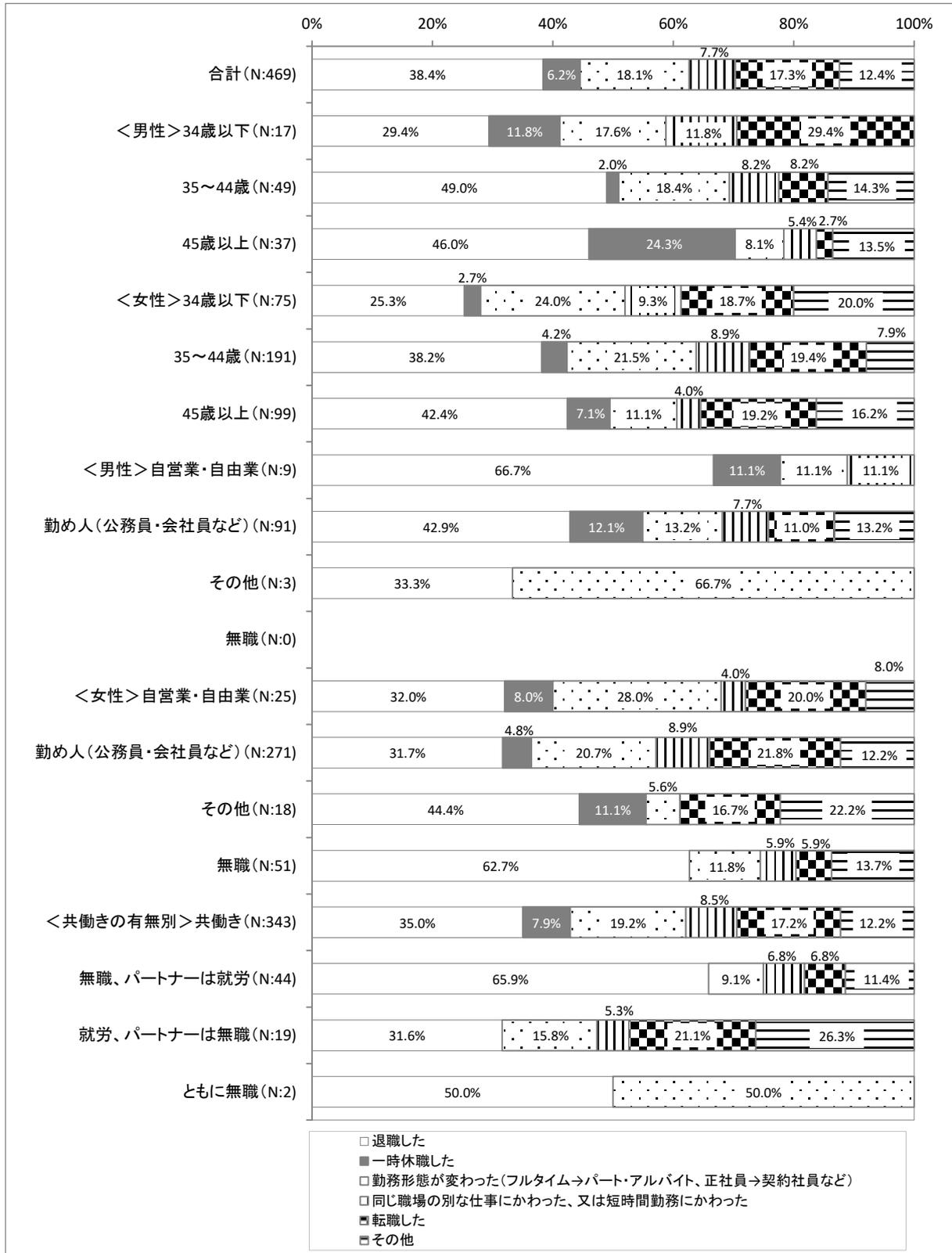
「妊娠した時」は、「無職」の割合（29.5%）が最も大きくなっているが、他の就業状況でも24.0～27.7%となっている。「出産した時」の割合は「自営業・自由業」（44.0%）が最も大きくなっており、他の就業状況では21.8～25.5%となっている。「産後休暇・育児休暇後の復職時」は「勤め人」が28.0%となっており、「自営業・自由業」より24ポイント大きくなっている。「結婚した時」については、「その他」が16.7%と最も大きくなっている。

【共働きの有無別】

「共働き」について、「結婚した時」、「子どもが小学校に入った時」、「その他」の割合（それぞれ10.2%、9.3%、5.8%）が、他の就業状況より小さく、「出産した時」、「妊娠した時」、「産後休暇・育児休暇後の復職時」の割合（それぞれ25.1%、25.4%、24.2%）が大きくなっている。

問29. (問27で「1. 変わった」とお答えの方にお聞きします)
 問28の時点で、どのように仕事の仕方が変わりましたか？

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の仕事の仕方の変化



結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけとする仕事の変化については、「退職した」が38.4%、「一時休職した」が6.2%で、両者を合わせた就労中止は44.6%となっている。

一方、「勤務形態が変わった」18.1%、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」7.7%、「転職した」17.3%を合わせた就労継続は43.1%となっている。

前回調査では、「退職した」47.6%、「一時休職した」6.2%を合わせた就労中止が53.8%、就労継続が35.3%となっており、前回調査と比べて、「退職した」が9.2ポイント減少し、一時休職と合わせた就労中止も9.2ポイント減少している。就労継続の割合は7.8ポイント増加している。

【男性年齢別】

「退職した」、「勤務形態が変わった」は、「35～44歳」の割合（それぞれ49.0%、18.4%）が最も大きくなっている。「転職した」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」は、「34歳以下」の割合（それぞれ29.4%、11.8%）が最も大きくなっている。

「一時休職した」については、「45歳以上」の割合（24.3%）が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「退職した」は年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で42.4%と最も大きくなっている。「勤務形態が変わった」、「同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった」については、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」でそれぞれ24.0%、9.3%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「退職した」の割合は「自営業・自由業」の割合（66.7%）が「勤め人」の割合（42.9%）より大きくなっている。

「転職した」については、「勤め人」の割合が11.0%となっている。

【女性職業別】

「退職した」の割合は「無職」で62.7%と最も大きくなっている。

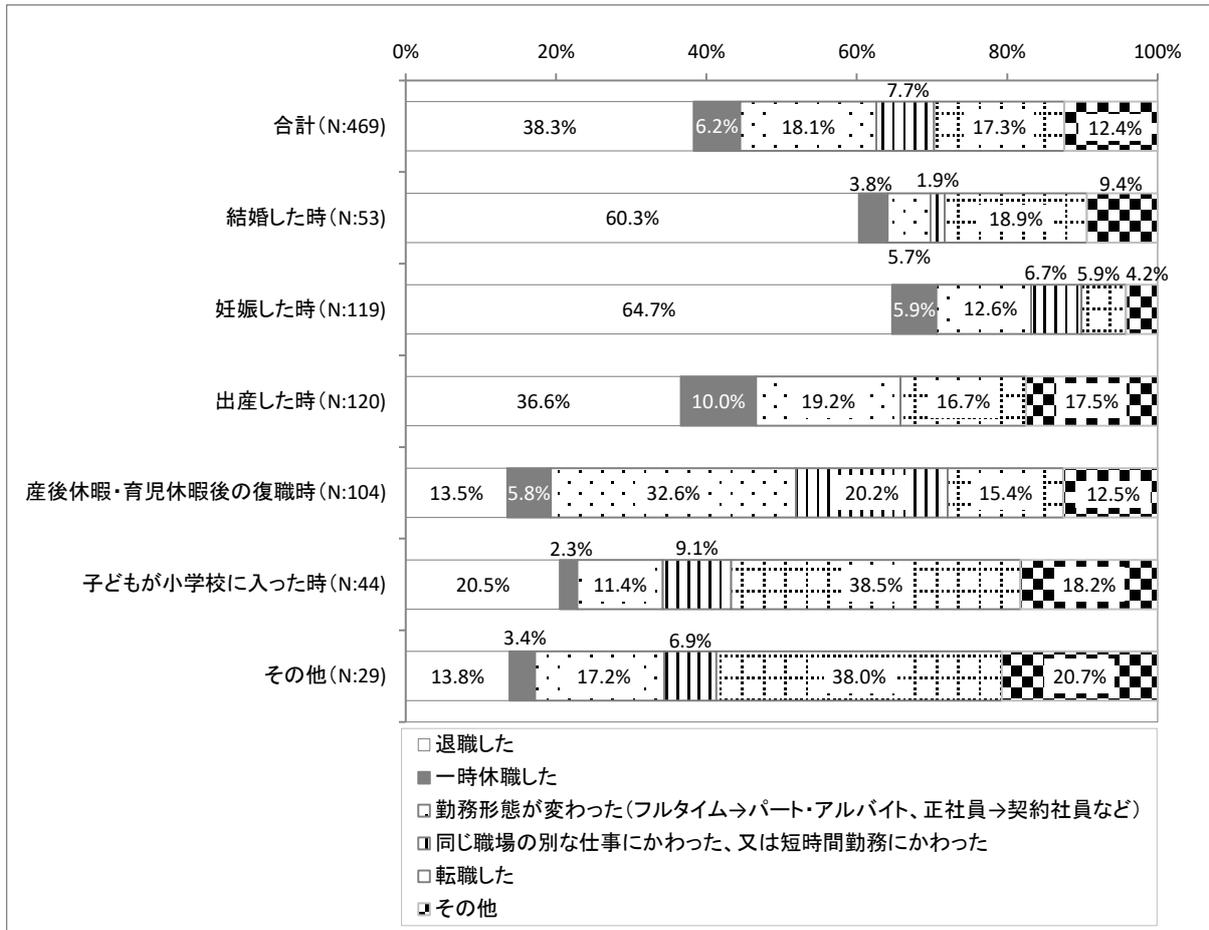
「勤務形態が変わった」については、「自営業・自由業」の割合（28.0%）が「勤め人」の割合（20.7%）より大きくなっている。

「転職した」については、「勤め人」（21.8%）、「自営業・自由業」（20.0%）の割合に大きな差はない。

【共働きの有無別】

「退職した」の割合は、「本人は無職、パートナーは就労」（65.9%）が大きくなっている。「転職した」割合は、「本人は就労、パートナーは無職」（21.1%）が大きくなっている。

・ 仕事の変化の時期と仕方



【時期別】

「結婚した時」、「妊娠した時」については、退職した割合が 60%以上となっている。「出産した時」においても「退職した」の割合（36.6%）が最も大きい。

「産後休暇・育児休暇後の復職時」は、「勤務形態が変わった」の割合（32.6%）が最も大きい。

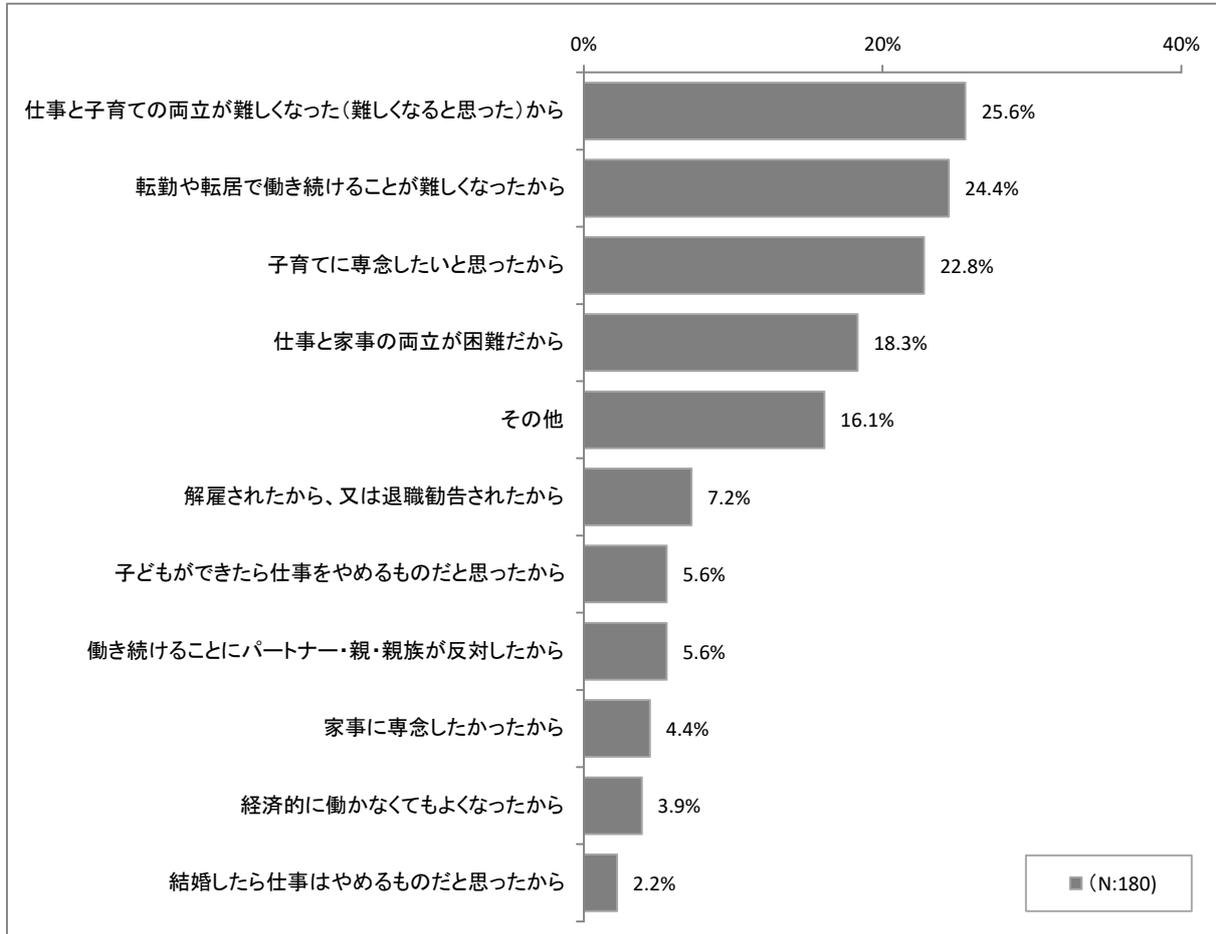
「子どもが小学校に入った時」については、「転職した」の割合（38.5%）が最も大きく、次いで、「退職した」が 20.5%となっている。

また、「退職した」「一時休職した」を合わせた就労中止は「妊娠した時」70.6%、「結婚した時」64.1%、「出産した時」46.6%で就労継続より大きくなっており、一方で、「勤務形態が変わった」から「転職した」までの就労継続は「産後休暇・育児休暇後の復職時」68.2%、「その他」62.1%、「子どもが小学校に入った時」59.0%で就労中止より大きくなっている。

問30. (問29で「1. 退職した」とお答えの方にお聞きします)

あなた又はあなたのパートナーが仕事をやめた理由は何ですか。(3つまで)

・仕事をやめた理由

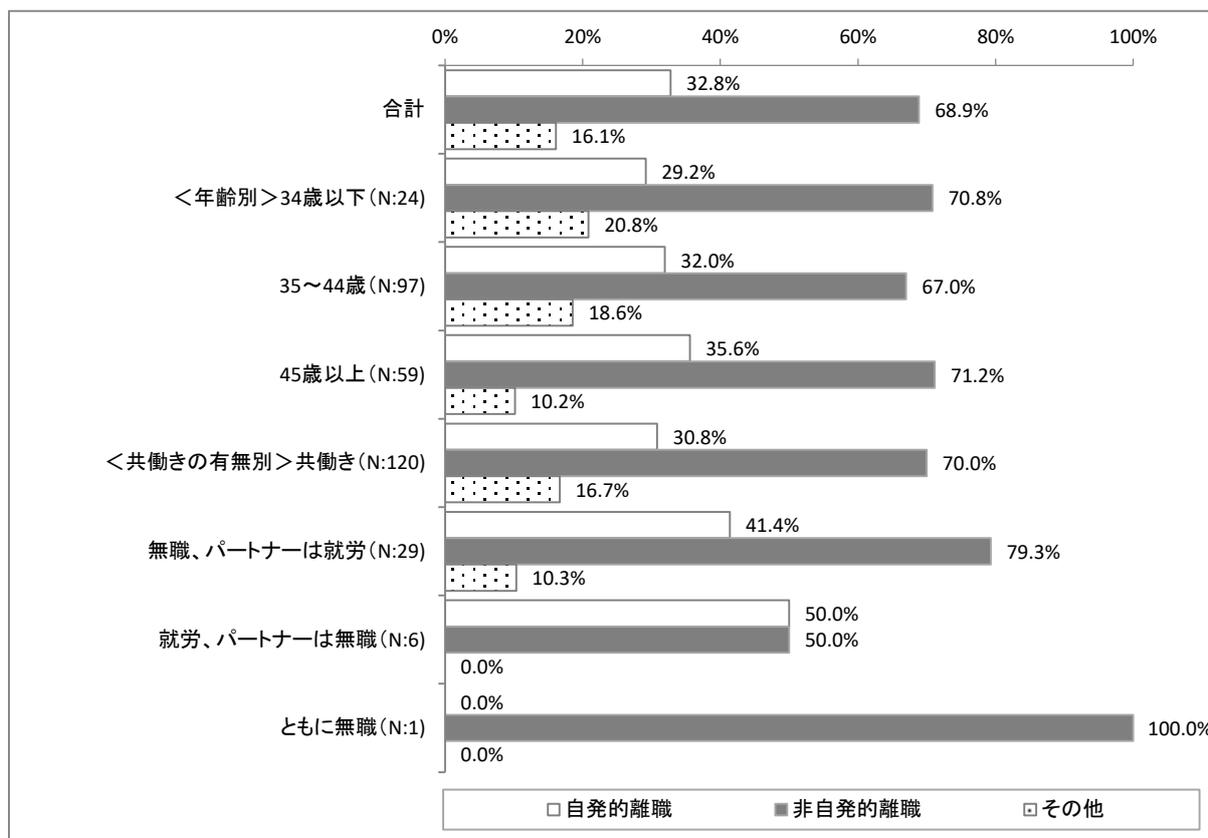


「仕事と子育ての両立が難しくなった(難しくなると思った)から」の割合が25.6%と最も大きく、次いで「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから」24.4%、「子育てに専念したいと思ったから」22.8%、「仕事と家事の両立が困難だから」18.3%の順となっている。

前回調査では、「仕事と子育ての両立が難しくなったから」が26.6%、「子どもがいると働き続けることが難しい職場だったから」22.3%、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから」22.3%、「子育てに専念したいと思ったから」21.9%の割合、順位となっており、前回と比べて1位は同じである。

上位項目では、「仕事と子育ての両立が難しくなったから」が1ポイント減少、「転勤や転居で働き続けることが難しくなったから」が2.1ポイント、「子育てに専念したいと思ったから」が0.9ポイント増加している。

・年齢別、共働きの有無別の仕事をやめた理由



退職の理由を「自発的離職」と「非自発的離職」に区分すると、「非自発的離職」が68.9%と、前回調査（75.4%）より6.5ポイント減少した。

自発的離職	非自発的離職
子育てに専念したいと思ったから	仕事と子育ての両立が困難だから
子どもができたから仕事はやめるものと思ったから	転勤や転居で働き続けることが難しくなったから
家事に専念したかったから	仕事と家事の両立が困難だから
経済的に働かなくてもよくなったから	解雇されたから、又は退職勧告されたから
結婚したら仕事はやめるものだと思ったから	働き続けることにパートナー・親・親族が反対したから

【年齢別】

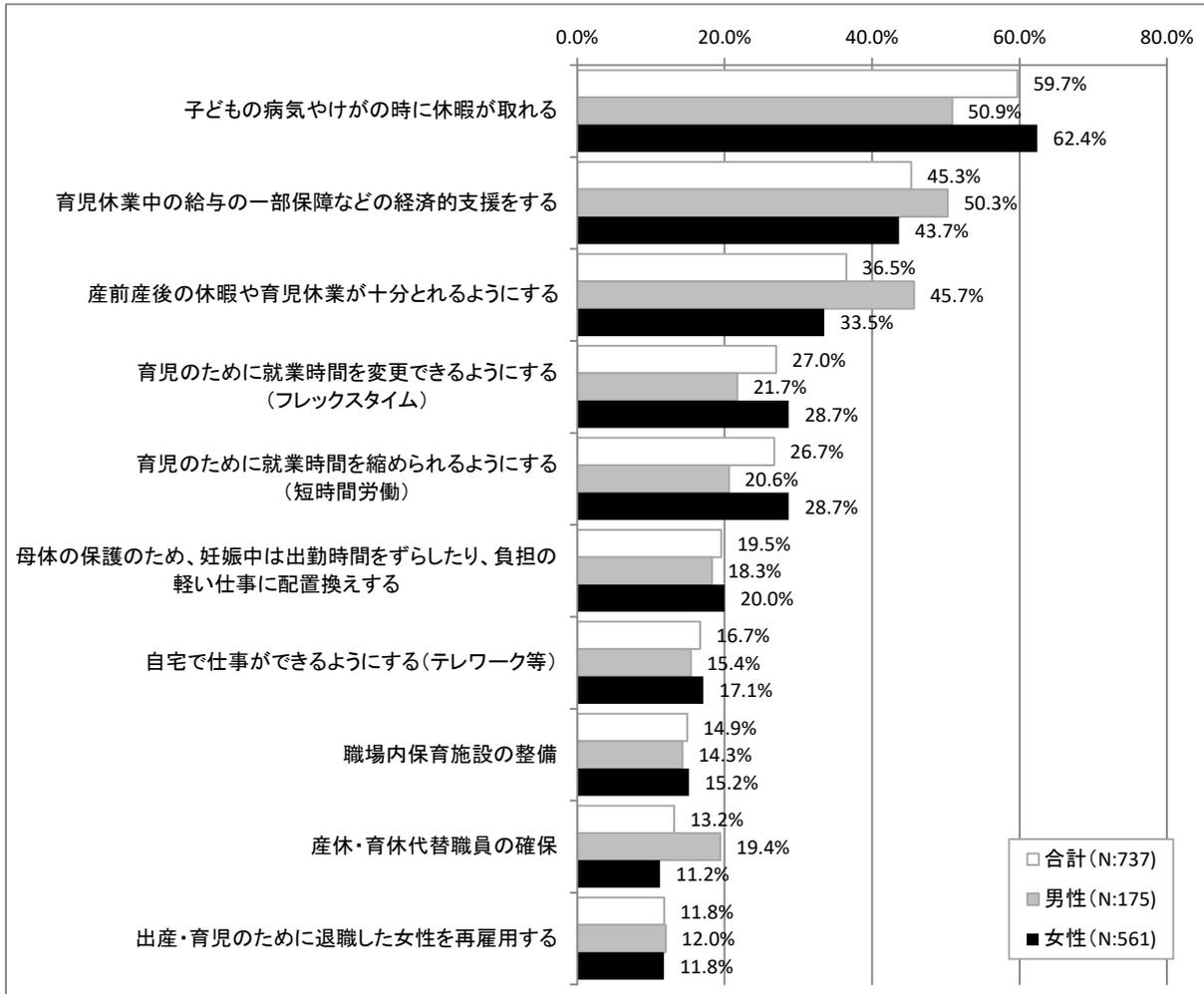
各年代で「非自発的離職」が「自発的離職」を大きく上回っている。「非自発的離職」の割合は「34歳以下」で70.8%、「35~44歳」で67.0%、「45歳以上」では71.2%となっている。「自発的離職」は年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で35.6%と最も大きい。

【共働きの有無別】

「自発的離職」について、「共働き」30.8%、「本人は無職、パートナーは就労」が41.4%であるのに対し、「本人は就労、パートナーは無職」50.0%となっている。

問31. 子育てと仕事を両立しやすくするためには、職場にどのような制度が必要だと思いますか。
(3つまで)

・両立する上で必要な職場の制度



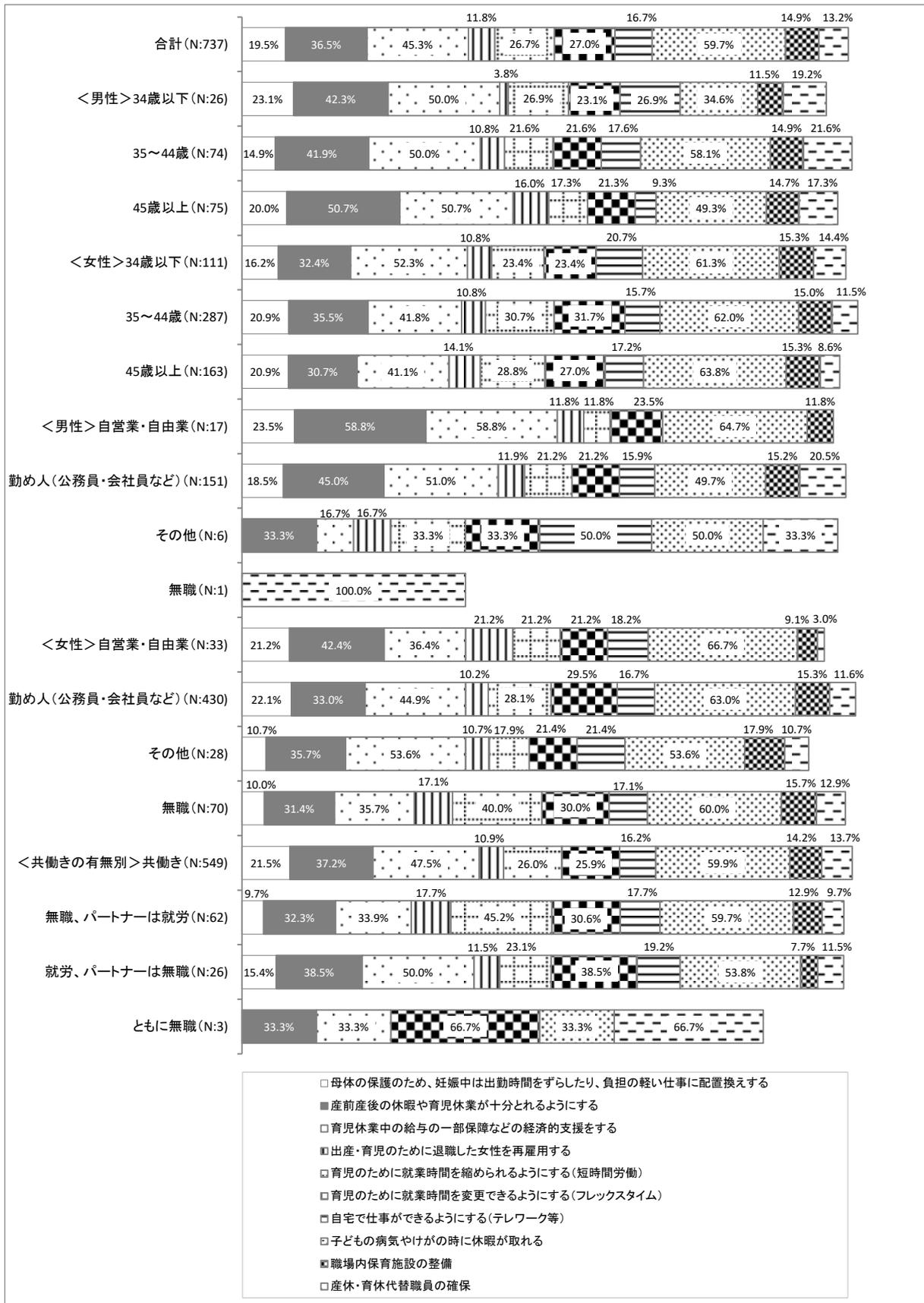
「子どもの病気やけがの時に休暇が取れる」の割合が59.7%と最も大きく、次いで「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」45.3%、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」36.5%の順となっている。

前回調査では、「子どもの病気やけがの時に休暇が取れるようにする」58.5%、「産前産後の休暇や育児休業が十分とれるようにする」52.0%、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」41.6%という割合、順序となっており、前回と比べて「産前産後の休暇や育児休業が十分とれるようにする」と「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の順位が入れ替わり、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」が15.5ポイント減少している。

【男女別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が取れる」は、女性（62.4%）の方が男性（50.9%）よりも大きく、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」は、男性（50.3%）の方が女性（43.7%）よりも大きくなっている。「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」は男性 45.7%、女性 33.5%、「産休・育休代替職員の確保」は男性 19.4%、女性 11.2%で男性の方が大きく、「育児のために就業時間を変更できるようにする（フレックスタイム）」は男性 21.7%、女性 28.7%、「育児のために就業時間を縮められるようにする（短時間労働）」は男性 20.6%、女性 28.7%で女性の割合が大きい。

・性・年齢別、性・職業別、共働きの有無別の両立する上で必要な職場の制度



【男性年齢別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」の上位3項目については、各年代で大きな割合を占めている。

また、「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」の割合は、「35～44歳」で58.1%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」の上位3項目については、各年代で大きな割合を占めている。

また、「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で63.8%と最も大きくなっている。「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(52.3%)と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」について、「自営業・自由業」の割合が「勤め人」よりも大きくなっている。

【女性職業別】

「子どもの病気やけがの時に休暇が十分取れるようにする」、「産前産後の休暇や育児休業が十分取れるようにする」について、「自営業・自由業」の割合が「勤め人」よりも大きくなっている。

「育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする」の割合は、「勤め人」が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

【共働きの有無別】

「母体の保護のため、妊娠中は出勤時間をずらしたり、負担の軽い仕事に配置換えする」の割合は、「共働き」で他の就労状況よりも大きくなっている。

【自由回答より】

- ・子どもが病気になった時や、保育園・学校の行事の時、休みがとりづらい。
休みを取りやすい環境が欲しい。
- ・企業に対して産休育休に関する考えを改めるように啓発してほしい。

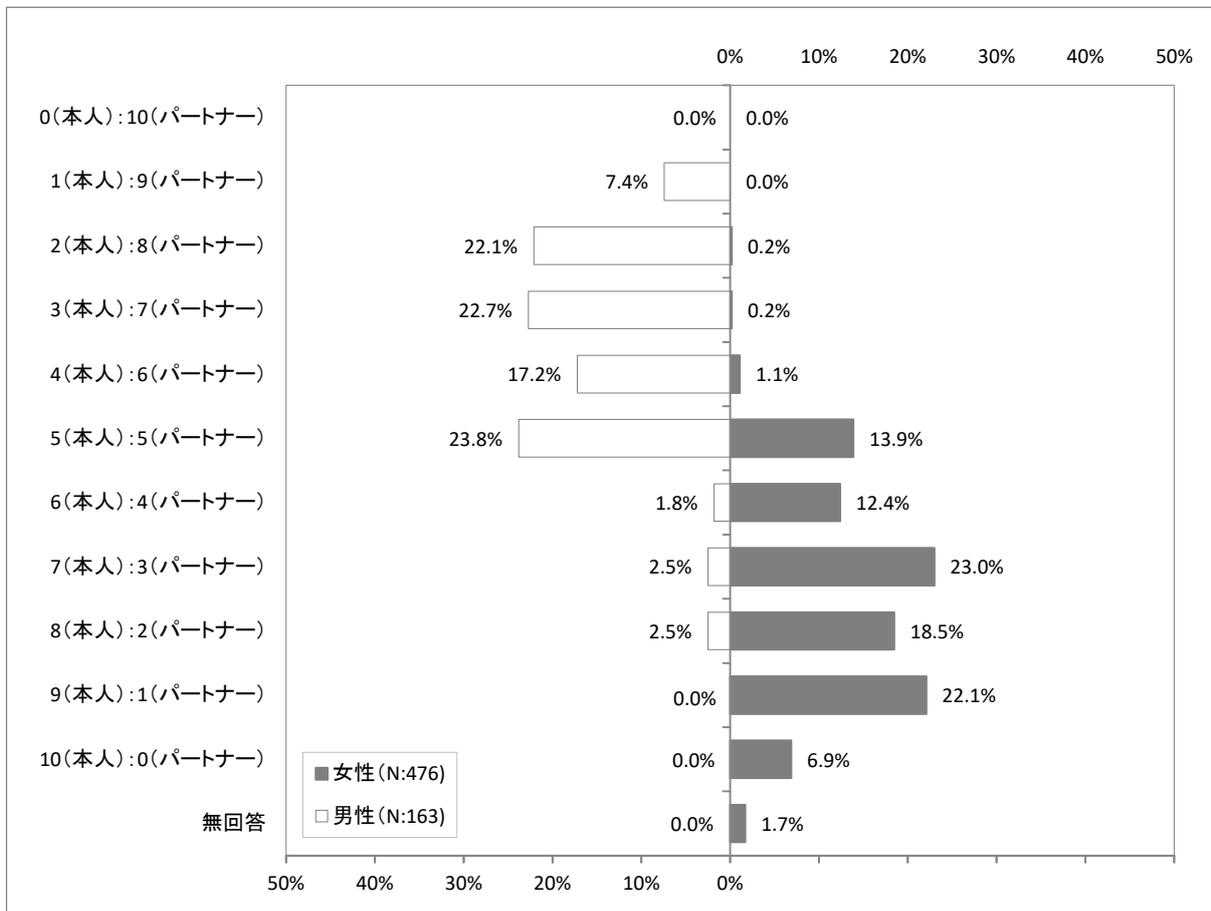
夫婦の家事・育児参加について

(パートナーのいらっしゃる方にお聞きします)

問32. 実態として、あなたとあなたのパートナーは、どの程度の割合で子育てと家事の役割を分担していますか。

問33. あなたの期待として、あなたとあなたのパートナーは、どの程度の割合で子育てと家事の役割を分担すべきだとお考えですか。

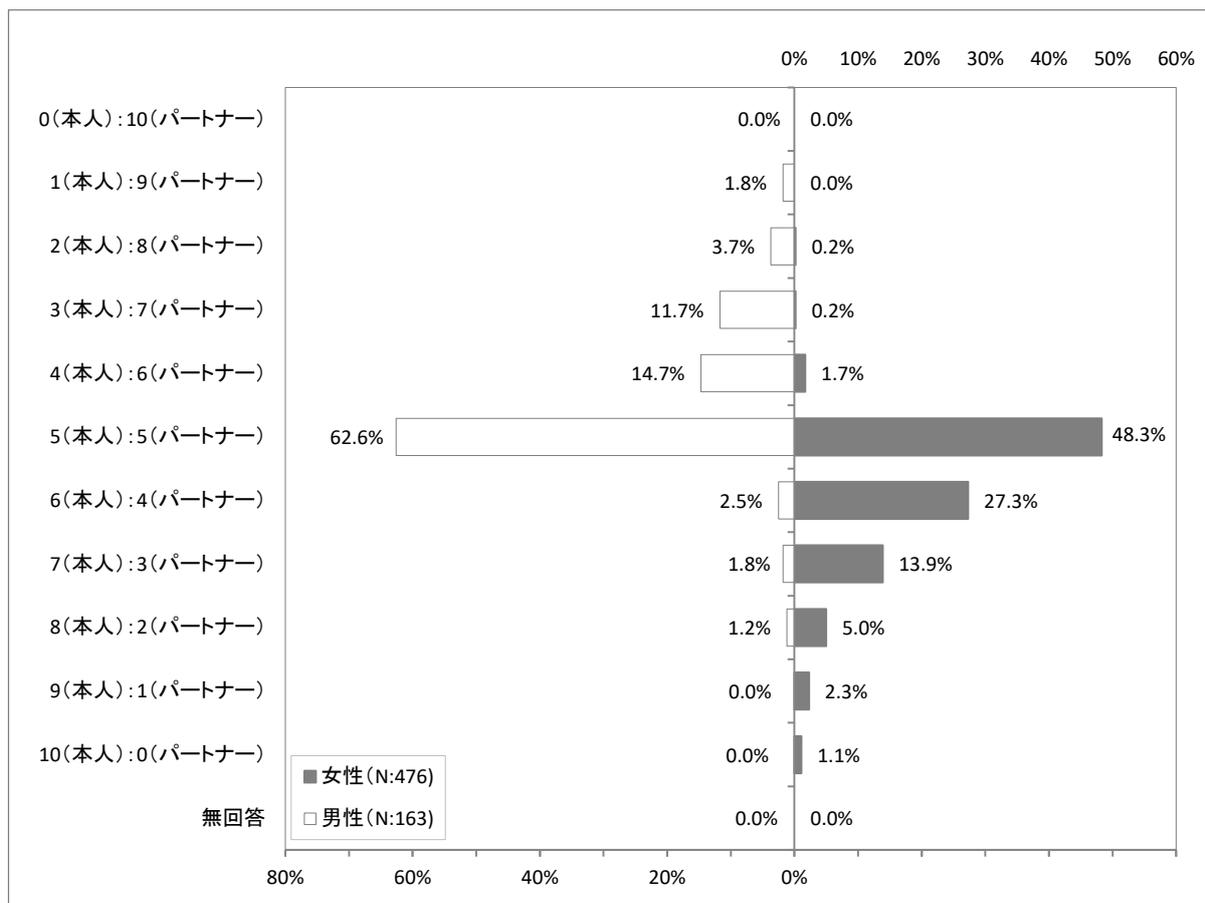
・男女別の子育て役割分担の実態



夫婦間の子育てについての役割分担の実態について全体を10として配分してもらった結果、男性は自分の役割分担が4以下と感じている人が全体の69.4%を占めている。

女性は「7」が23.0%と最も割合が大きく、6以上で全体の82.9%を占めている。

・ 男女別の子育て役割分担の期待



期待としてどの程度の分担割合が適切と考えているかについては、男女ともに「5」の割合が大きいですが、男性は6以上が5.5%に止まり、3～5に全体の89.0%が集中している。女性は、5～7に全体の89.5%が集まっている。

・ 育児負担の実態と期待の平均

子育て	共働き状況	実態	期待
女性の考え	共働き	7.2	5.8
	総数	7.3	5.8
男性の考え	共働き	3.7	4.7
	総数	3.6	4.5

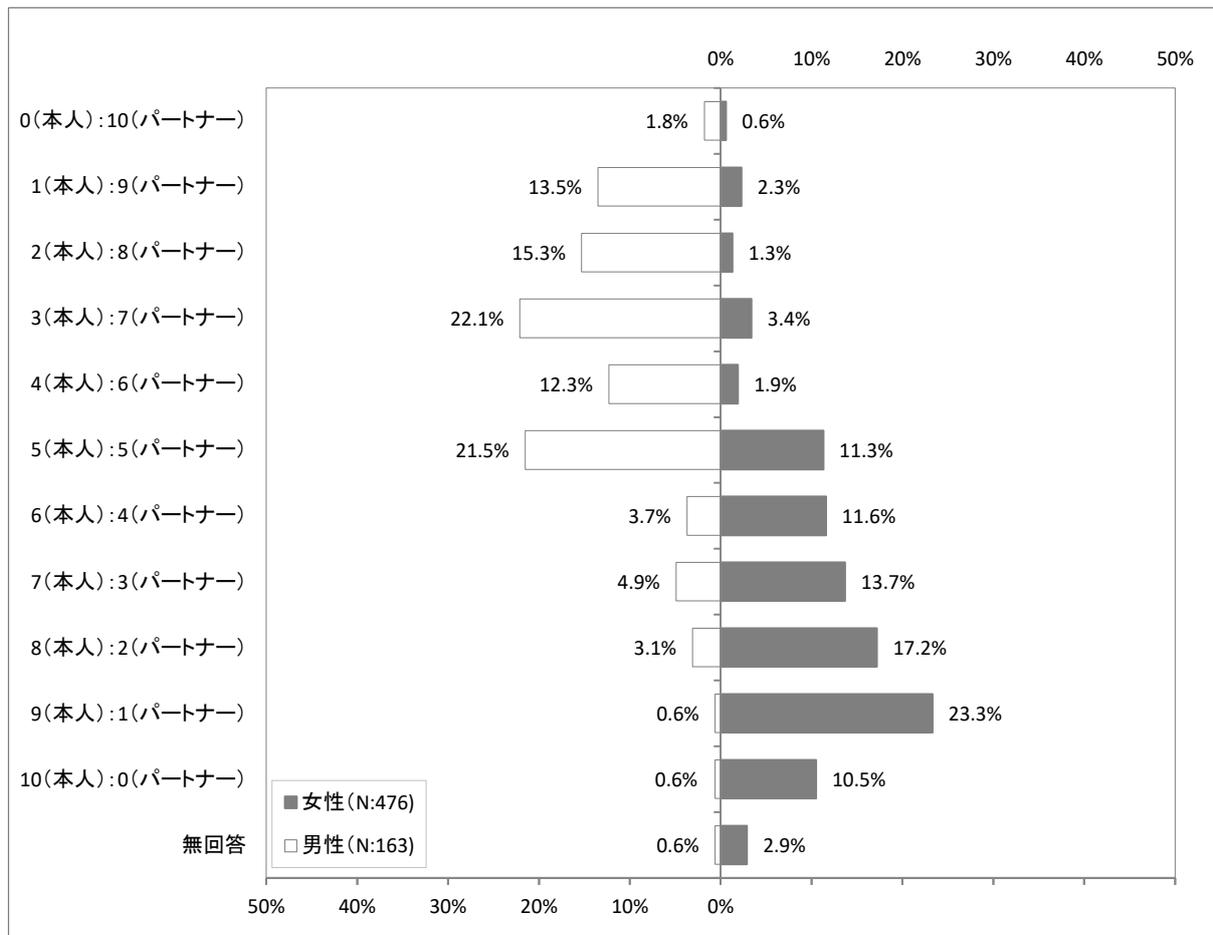
夫婦それぞれの分担割合について平均値を出すと、女性の考えでは実態が7.2～7.3、期待が5.8となり、男性の考えでは実態が3.6～3.7、期待が4.5～4.7となっている。

男性、女性とも共働きと総数で実態・期待の数値に大きな乖離は見られない。

女性は、実態が期待を、共働きが1.4、総数が1.5上回っている。

前回調査では、女性の考えで実態が共働き7.3、総数7.4、期待が共働き5.9、総数6.0、男性の考えで実態が共働き3.5、総数3.3、期待が共働き4.4、総数4.3となっている。前回と比べて、男性は共働き・総数で実態が大きくなっているが、女性は共働き・総数で実態・期待ともに小さくなっている。

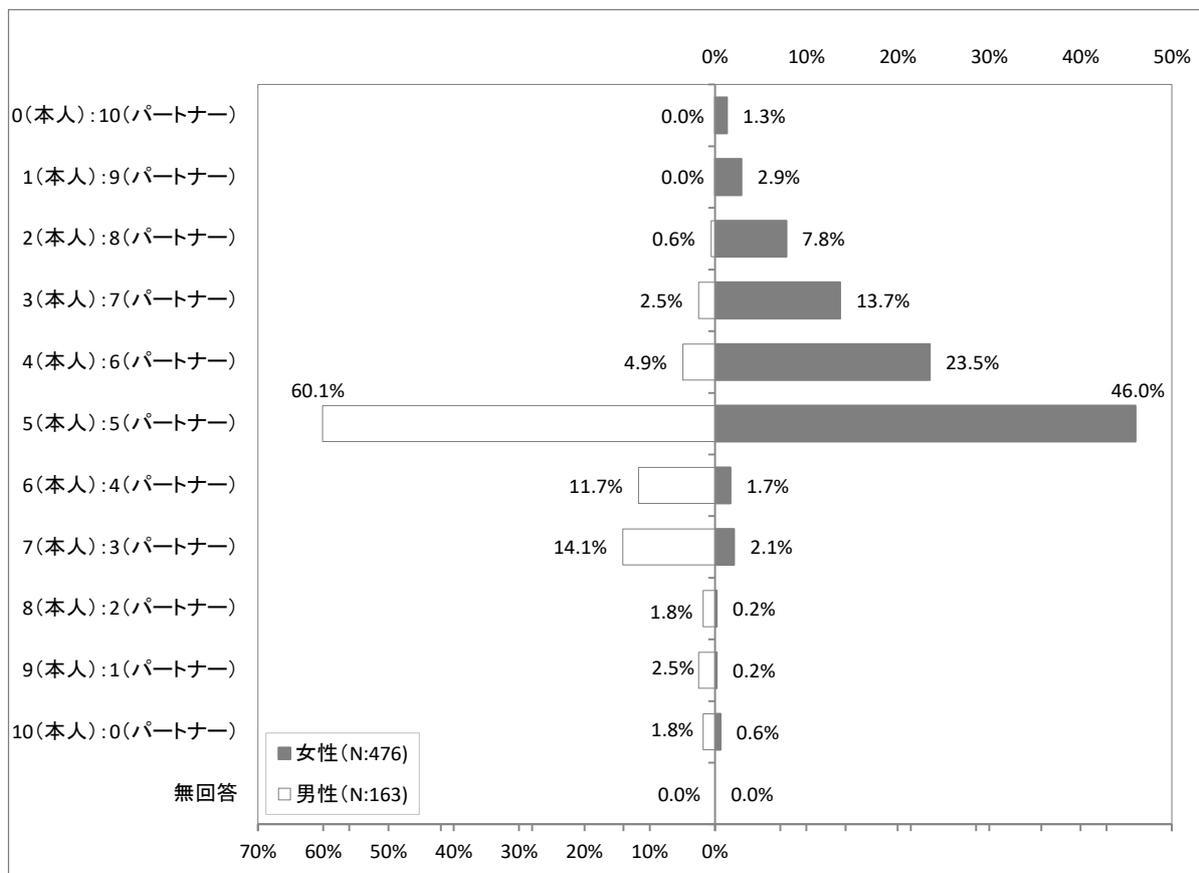
・男女別の家事役割分担の実態



夫婦間の家事に関する役割分担の実態について全体を10として配分してもらった結果、男性は「3」が22.1%と最も大きく、4以下で全体の65.0%を占めている。

女性は「9」が23.3%と最も多く、6以上で全体の76.3%を占めている。

・ 男女別の家事役割分担の期待



期待としてどの程度の分担割合が適切と考えているかについては、半々の分担がよいと考えている人が最も多い。(男性60.1%、女性46.0%)

男性では、自分の分担が妻よりも少ない4以下が全体の8.0%で、前回調査に比べて40.7ポイント減少している。

女性では、自分の分担を4以下とする回答が49.2%で、前回調査に比べて47.8ポイント増加している。また、6以上が全体の4.8%で前回調査(64.0%)に比べて59.2ポイント減少している。性別に関係なく、女性が多く分担することが適切と考えている人は少なくなっている。

・ 家事負担の実態と期待の平均

家事負担	共働き状況	実態	期待
女性の考え	共働き	6.9	4.3
	総数	7.0	4.2
男性の考え	共働き	3.8	5.3
	総数	3.6	5.5

夫婦それぞれの分担割合について平均値を出すと、女性の考えでは実態が6.9～7.0、期待が4.2～4.3、男性の考えでは実態が3.6～3.8、期待が5.3～5.5となっている。女性の負担が子育て同様に大きいという結果になっている。

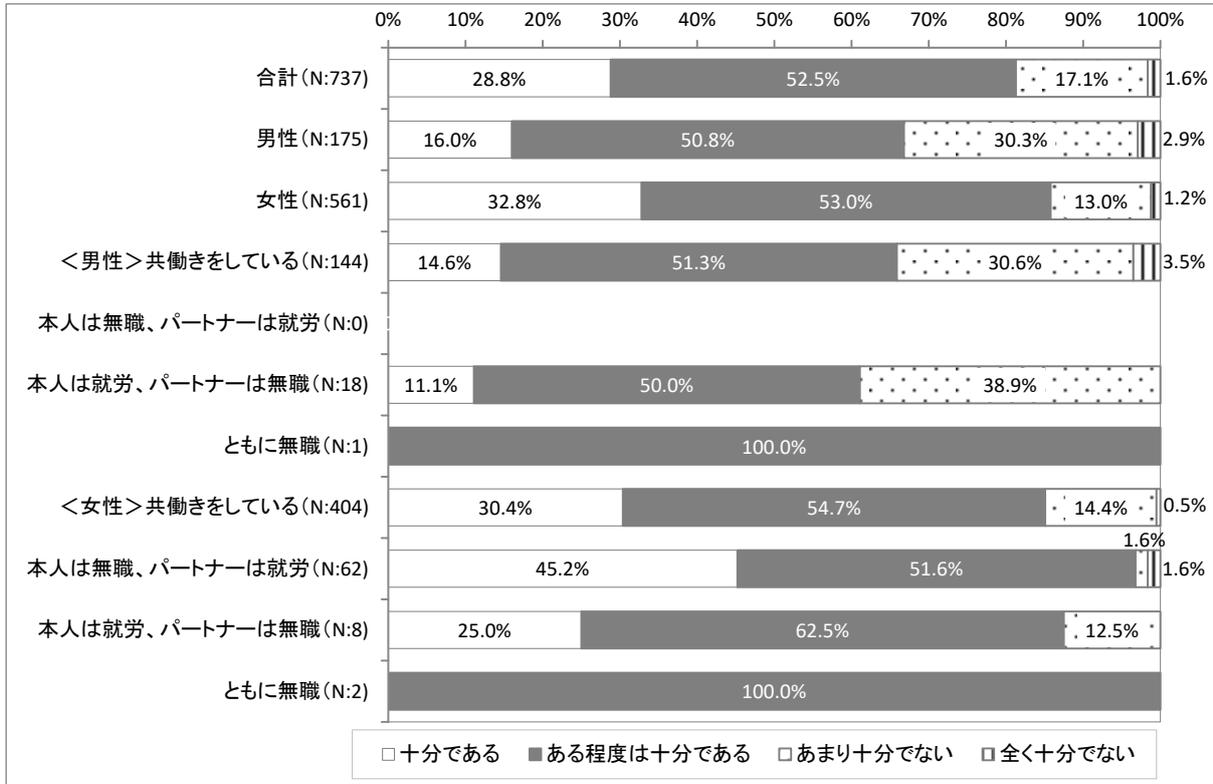
なお、女性、男性ともに、共働きと総数で数値に大きな乖離は見られない。

前回調査では、女性の考えで実態が共働き7.8、総数7.9、期待が共働き6.2、総数6.3、男性の考えで実態が共働き3.2、総数3.0、期待が共働き4.1、総数4.0となっている。

前回と比べて、女性の共働き・総数で実態・期待全てにおいて0.9～2.1小さくなっているのに対して男性は0.6～1.5大きくなっている。

問34. あなたの子育てへの関わりは十分だと思いますか。

・ 男女別、性・共働きの有無別の子育てへの関わり



自分自身の子育てへの関わりについては、「十分である」と「ある程度は十分である」の合計で81.3%を占めている。

【男女別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、男性66.8%に対して女性85.8%となっている。特に、「十分である」の割合は、女性(32.8%)が男性(16.0%)となっており約2倍の差が見られる。

【男性の共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働き」(65.9%)の方が「本人は就労、パートナーは無職」(61.1%)よりも大きくなっている。「あまり十分でない」は「本人は就労、パートナーは無職」(38.9%)の方が「共働きをしている」(30.6%)よりも大きくなっている。

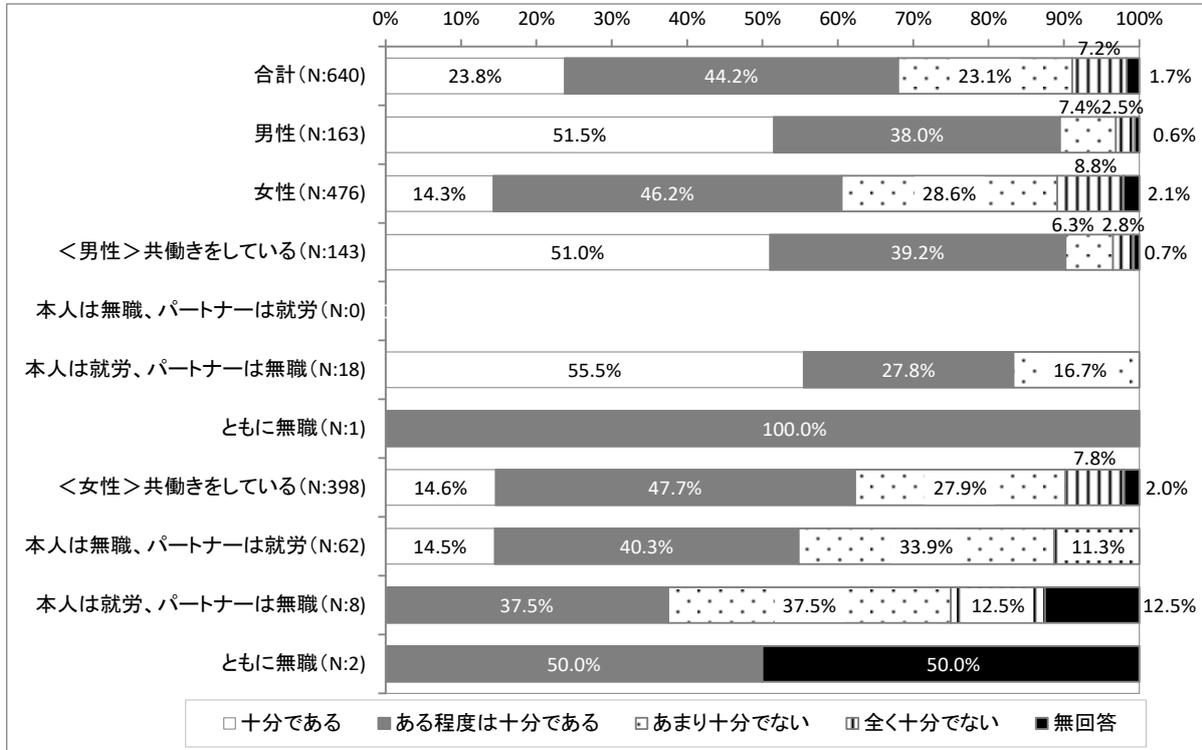
【女性の共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働き」(85.1%)の方が「本人は無職、パートナーは就労」(96.8%)、「本人は就労、パートナーは無職」(87.5%)よりも小さくなっている。

問35. (パートナーのいらっしゃる方にお聞きします)

あなたのパートナーの子育てへの関わりは十分だと思いますか。

・ 男女別、性・共働きの有無別のパートナーの子育てへの関わり



パートナーの子育てへの関わりについての評価は、「十分である」、「ある程度は十分である」が合計で68.0%を占めている。

【男女別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、男性（89.5%）の方が女性（60.5%）よりも29ポイント大きくなっている。特に、「十分である」の割合が、男性51.5%に対し女性14.3%となっており、男性のパートナーに対する評価が高く、女性のパートナーに対する評価が低い結果となっている。

【男性共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働きをしている」（90.2%）、「本人は就労、パートナーは無職」（83.3%）で「共働きをしている」の割合が大きい。

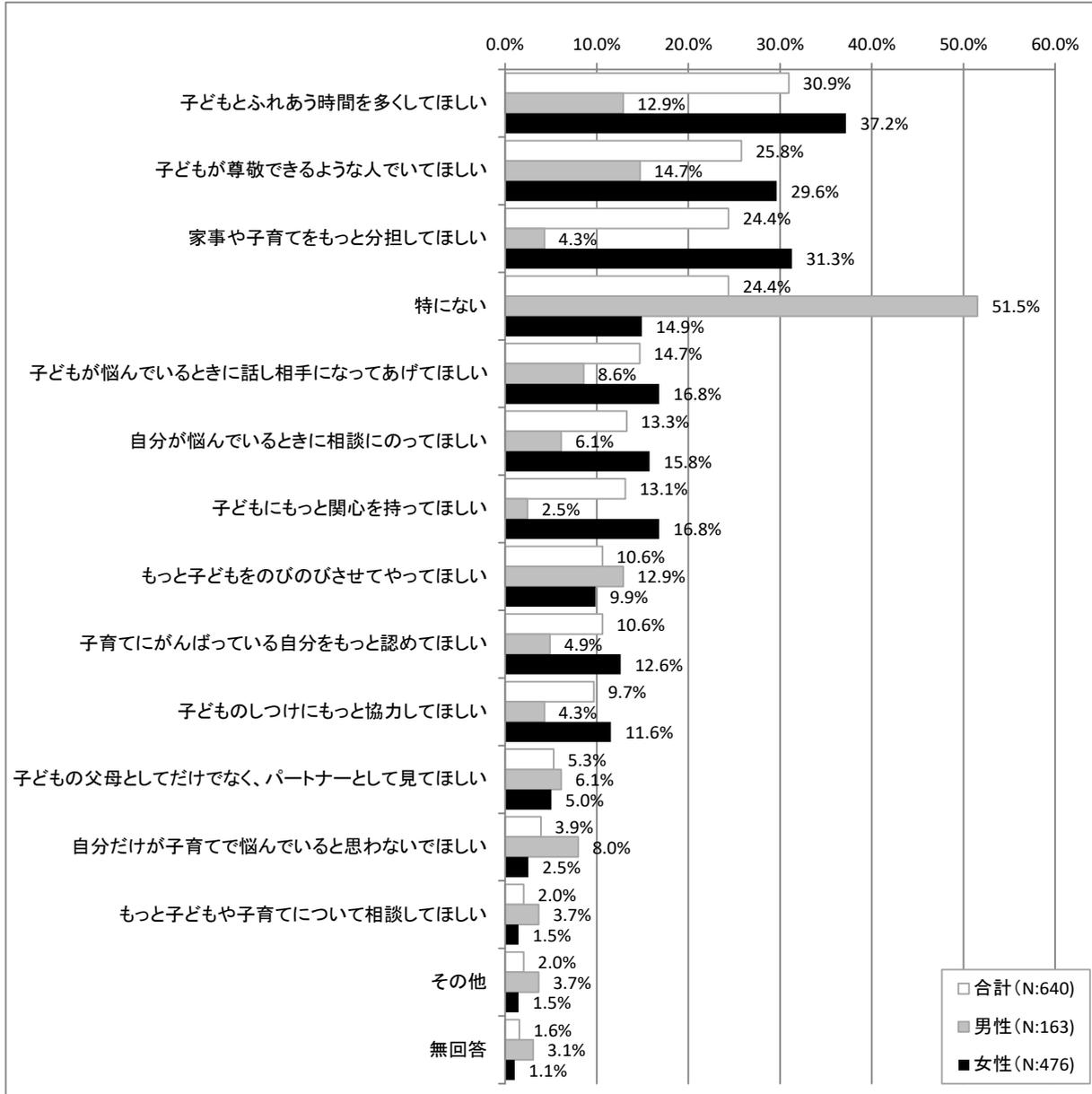
【女性共働きの有無別】

「十分である」、「ある程度は十分である」の合計は、「共働きをしている」（62.3%）、「本人は無職、パートナーは就労」（54.8%）で「共働きをしている」の割合が大きい。

問36. (パートナーのいらっしゃる方にお聞きします)

あなたは、子育てに関してパートナーにどのようなことを望みますか。(3つまで)

・子育てに関してパートナーに望むこと



「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」の割合が30.9%と最も大きく、次いで「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」25.8%、「家事や子育てをもっと分担してほしい」「特にない」24.4%、「子どもが悩んでいるときに話し相手になってあげてほしい」14.7%の順となっている。

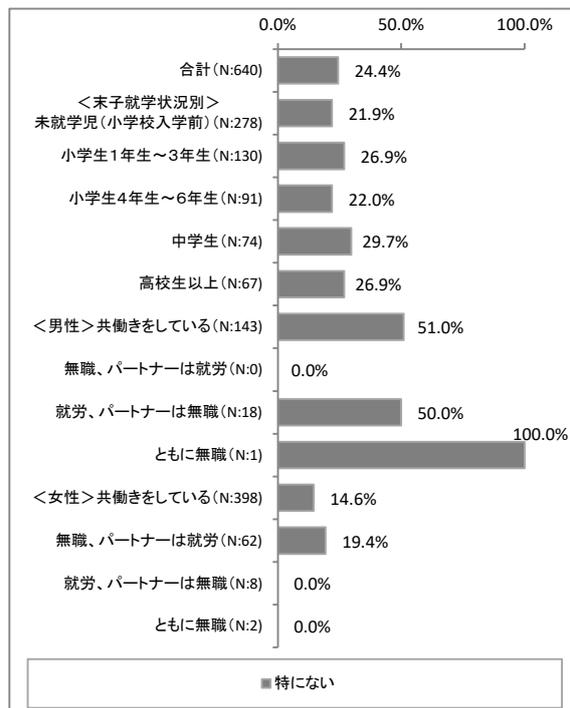
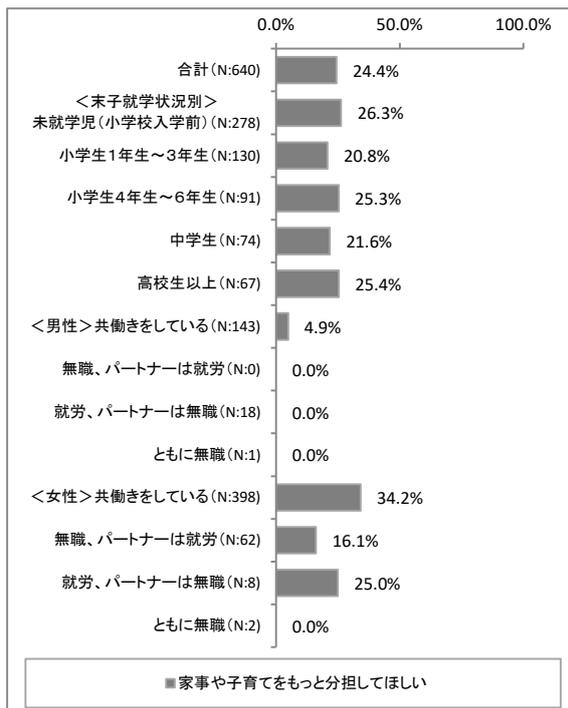
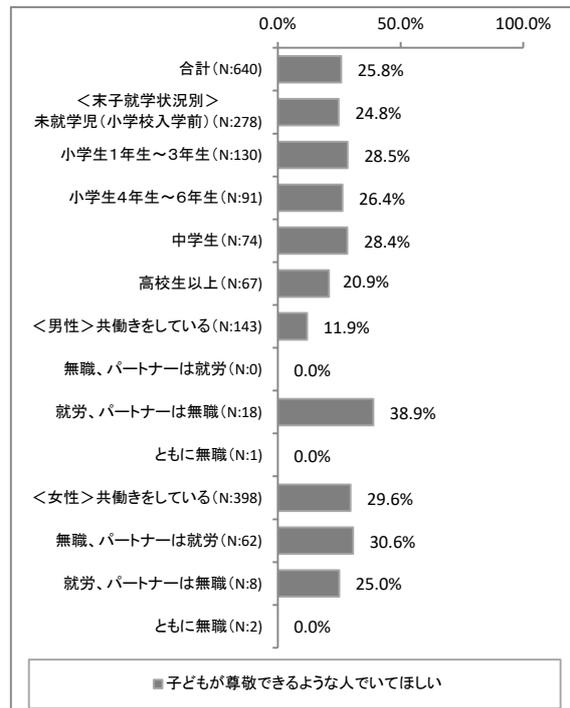
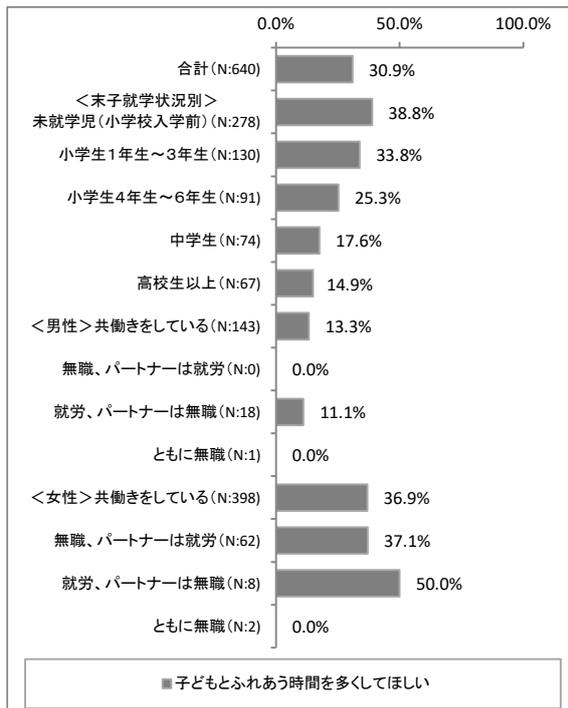
【男女別】

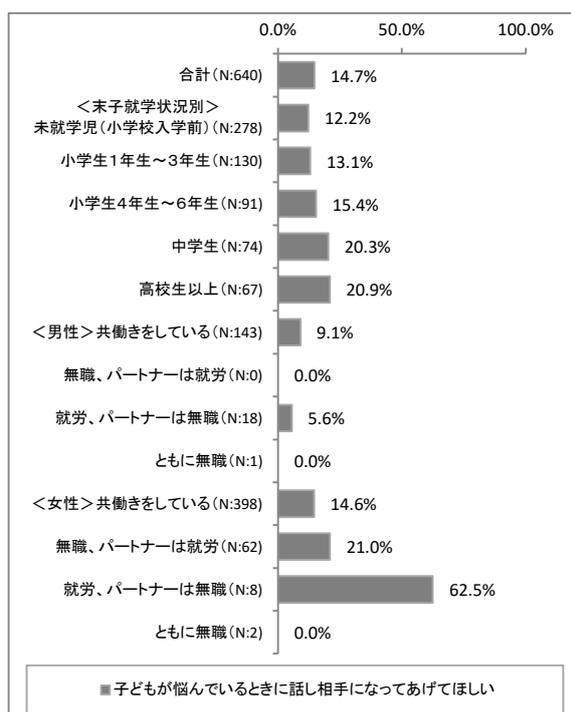
男性では、「特にない」51.5%、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」14.7%、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「もっと子どもをのびのびさせてやってほしい」ともに12.9%、「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい」8.6%の割合、順位となっている。

女性では、「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」37.2%、「家事や子育てをもっと分担してほしい」31.3%、「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」29.6%、「子どもが悩んでいる時に話し相手になってあげてほしい」「子どもにもっと関心を持ってほしい」ともに16.8%、「自分が悩んでいる時に相談にのってほしい」15.8%の割合、順位となっている。

なお、「特にない」の割合は、男性51.5%に対し女性14.9%と、3倍以上の差が見られる。

・末子就学状況別、性・共働きの有無別のパートナーに望むこと（上位5位）





【末子の就学状況別】

「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」は、年代が下がるにつれ大きくなっており、「未就学児」の割合（38.8%）が最も大きくなっている。

「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」（20.9～28.5%）、「家事や子育てをもっと分担してほしい」（21.6～26.3%）は、就学状況による傾向は認められない。

【男性共働きの有無別】

「子どもが尊敬できるような人でいてほしい」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」の方が「共働きをしている」よりも大きくなっている。「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「子どもが悩んでいるときに話し相手になってあげてほしい」は、「共働きをしている」の方が大きくなっている。

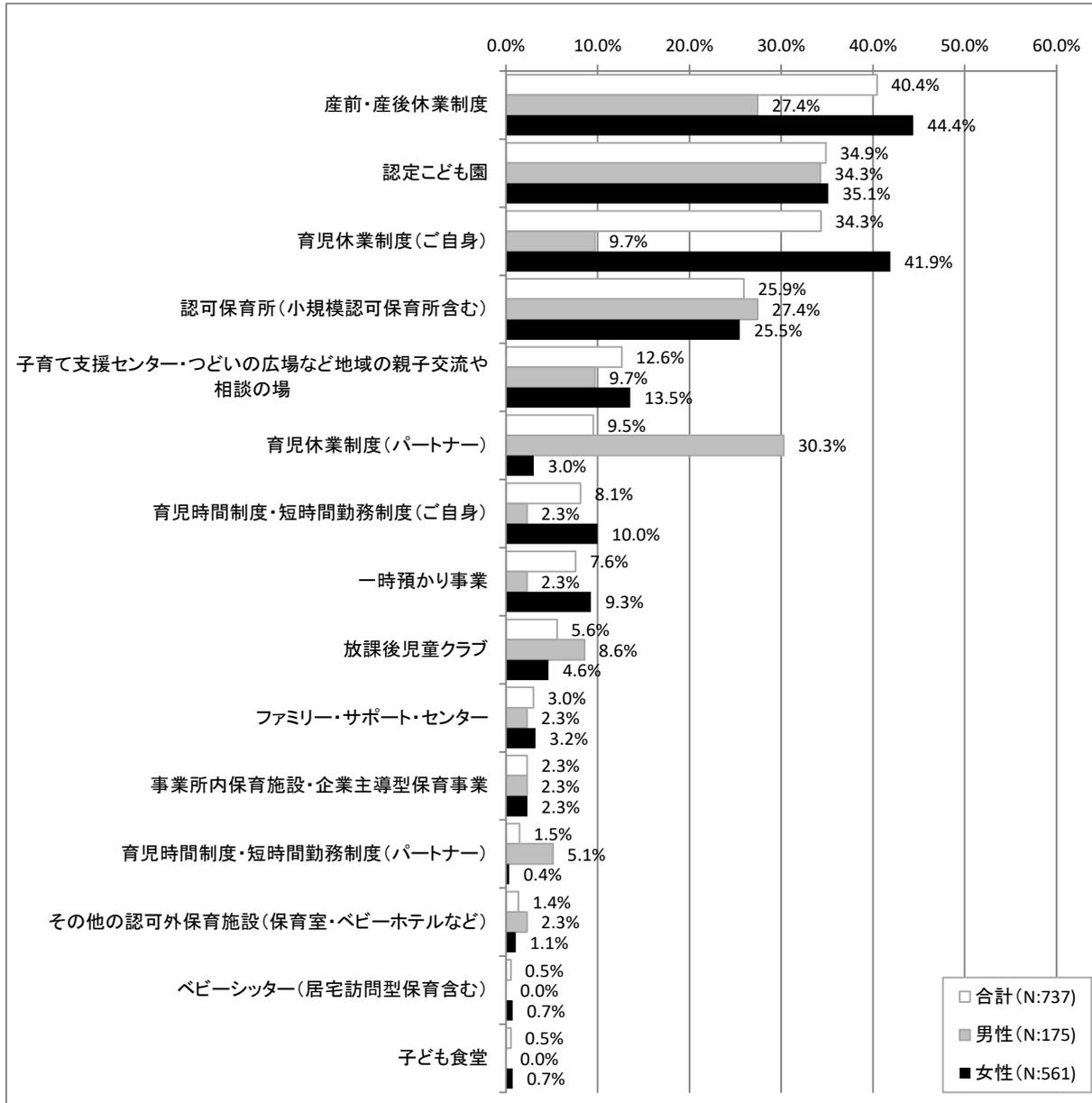
【女性共働きの有無別】

「家事や子育てをもっと分担してほしい」の割合は、「共働きをしている」の方が「本人は就労、パートナーは無職」、「本人は無職、パートナーは就労」よりも大きくなっている。

「子どもとふれあう時間を多くしてほしい」、「子どもが悩んでいるときに話し相手になってあげてほしい」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」の割合が大きくなっている。

問37. お子さんが3歳になるまでの間、以下の制度や施設を利用しましたか。(3つまで)

・ 3歳までに利用したことがある制度や施設



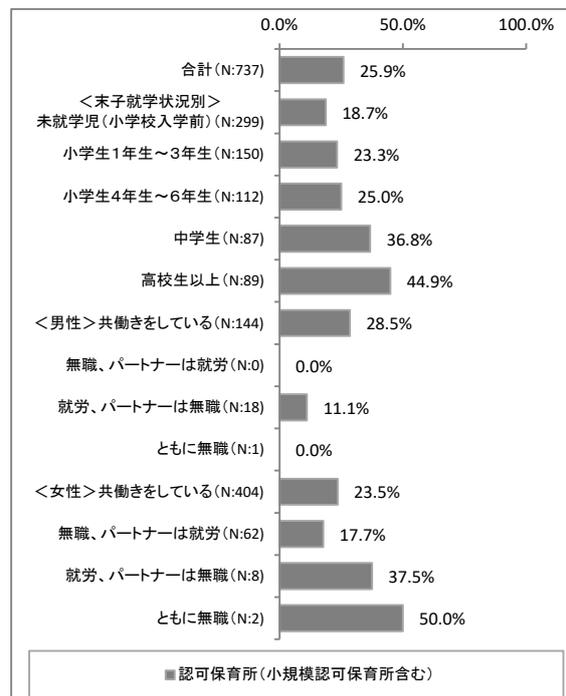
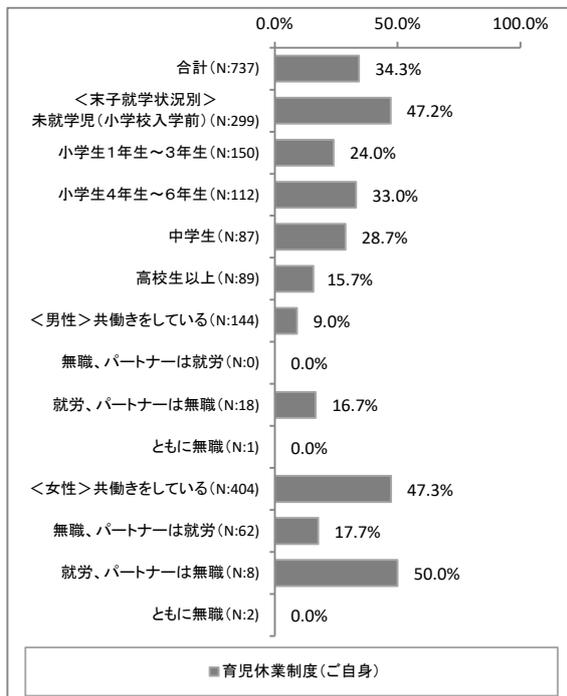
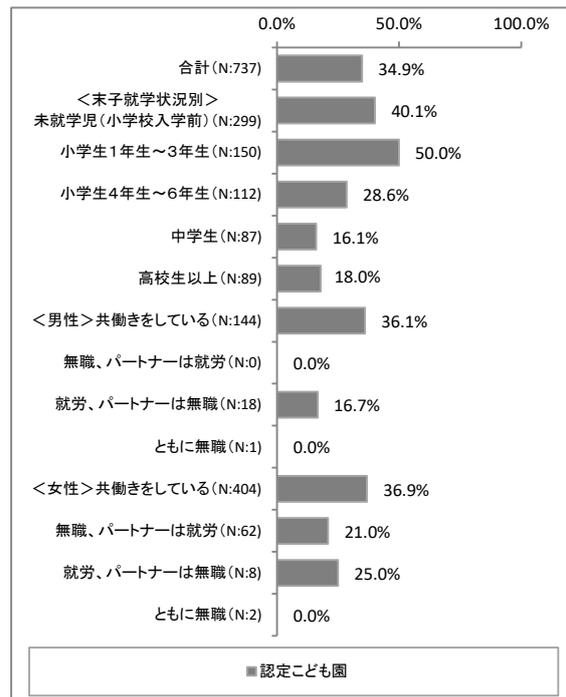
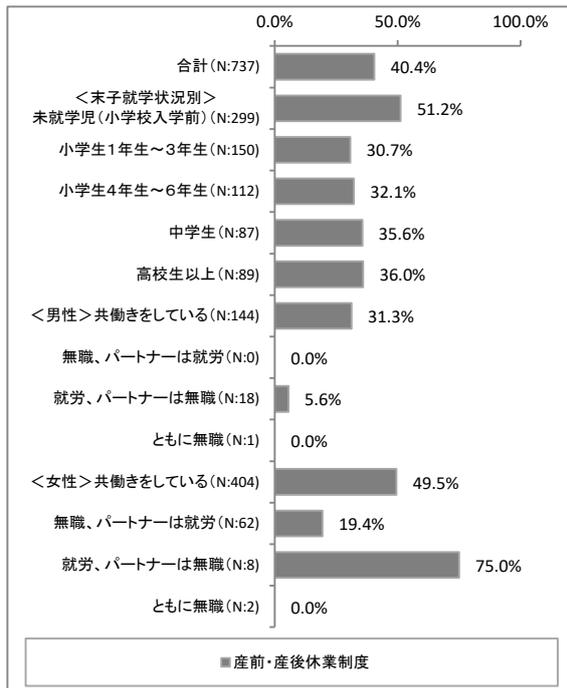
「産前・産後休業制度」の割合が40.4%と最も大きく、次いで「認定こども園」34.9%、「育児休業制度(ご自身)」34.3%、「認可保育所(小規模認可保育所含む)」25.9%、「子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場」12.6%の順となっている。他の項目については全て10%以下となっている。

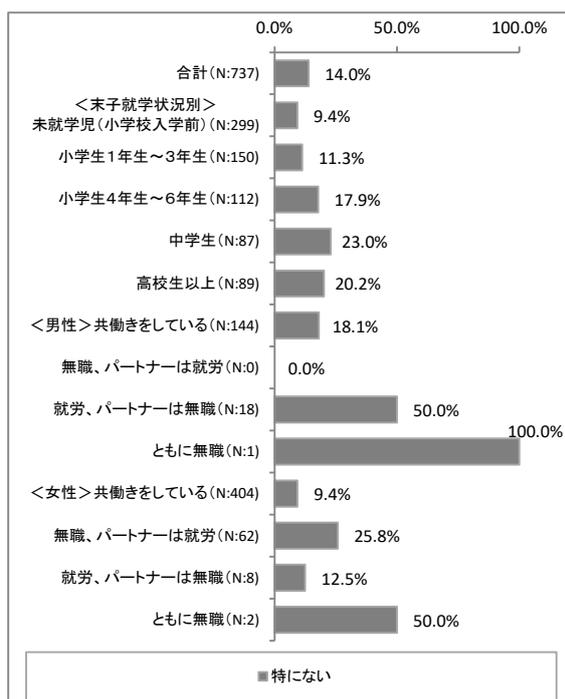
【男女別】

「産前・産後休業制度」で女性が44.4%、男性が27.4%となっている。

「育児休業制度(ご自身)」利用の割合は、女性が41.9%、男性9.7%、「育児休業制度(パートナー)」利用の割合は、女性3.0%、男性30.3%となっており、男性の「育児休業制度」の利用の割合は女性に比べ小さい。

・末子就学状況別、性・共働きの有無別の3歳までに利用した制度や施設（上位5位）





【末子の就学状況別】

「産前・産後休業制度」、「育児休業制度（ご自身）」は、「未就学児」の割合（それぞれ 51.2%、47.2%）が最も大きくなっている。

「認可保育所（小規模認可保育所含む）」は、年代が上がるにつれ大きくなっており、「高校生以上」の割合（44.9%）が最も大きくなっている。

「認定こども園」は、「小学生1年生～3年生」の割合（50.0%）が最も大きくなっており、次いで「未就学児」（40.1%）となっている。

【男性共働きの有無別】

「産前・産後休業制度」、「認可保育所（小規模認可保育所含む）」、「認定こども園」は、「共働きをしている」の割合（それぞれ 31.3%、28.5%、36.1%）が最も大きくなっている。

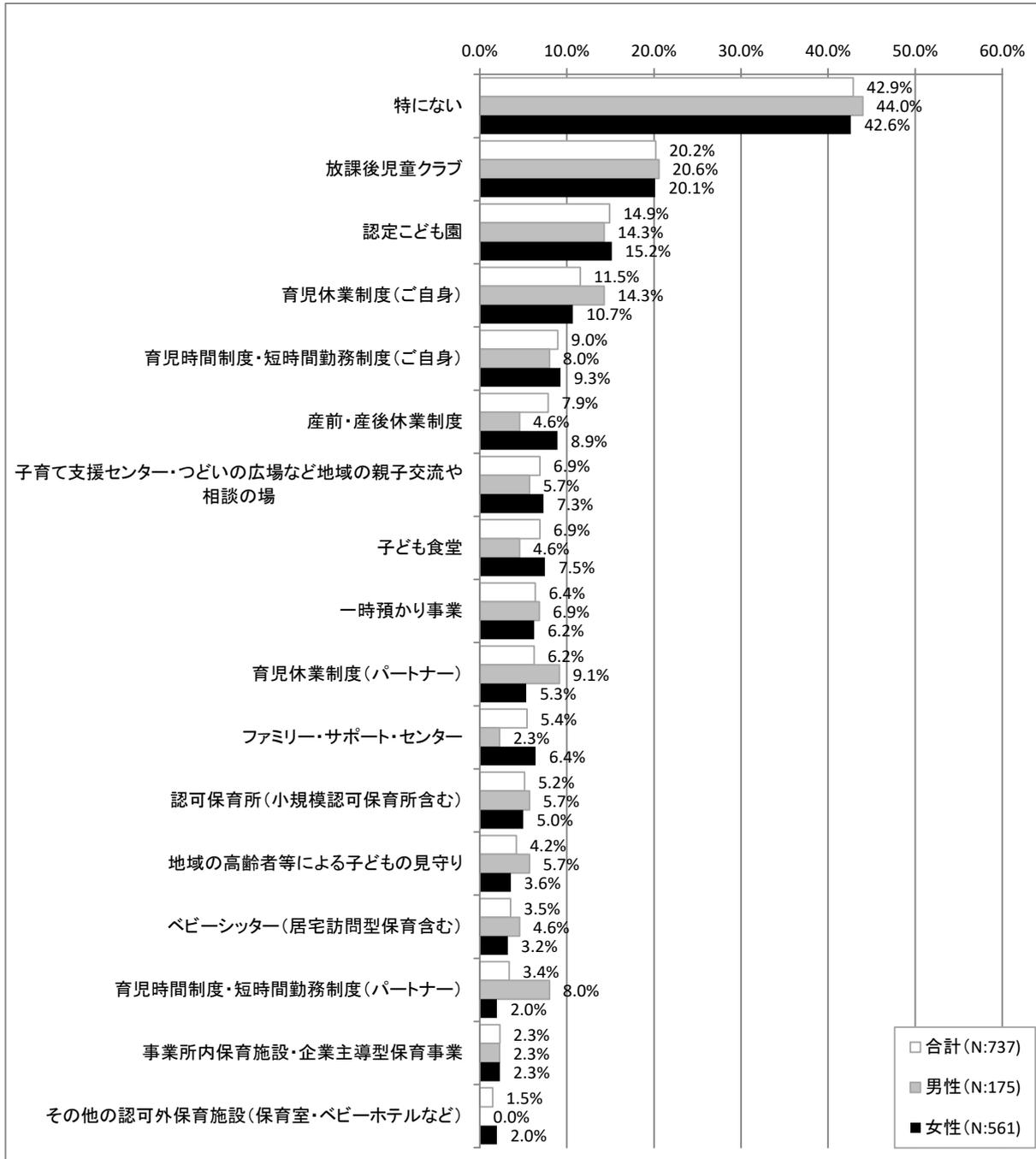
「本人は就労、パートナーは無職」では、「育児休業制度（ご自身）」（16.7%）、「認定こども園」（16.7%）の割合が大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

「産前・産後休業制度」、「育児休業制度（ご自身）」、「認可保育所（小規模認可保育所含む）」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」で（それぞれ 75.0%、50.0%、37.5%）と最も大きくなっている。「認定こども園」は、「共働きをしている」（36.9%）の割合が大きくなっている。

問38. 今後利用したい制度や施設等がありますか。(3つまで)

・ 今後利用したい制度や施設



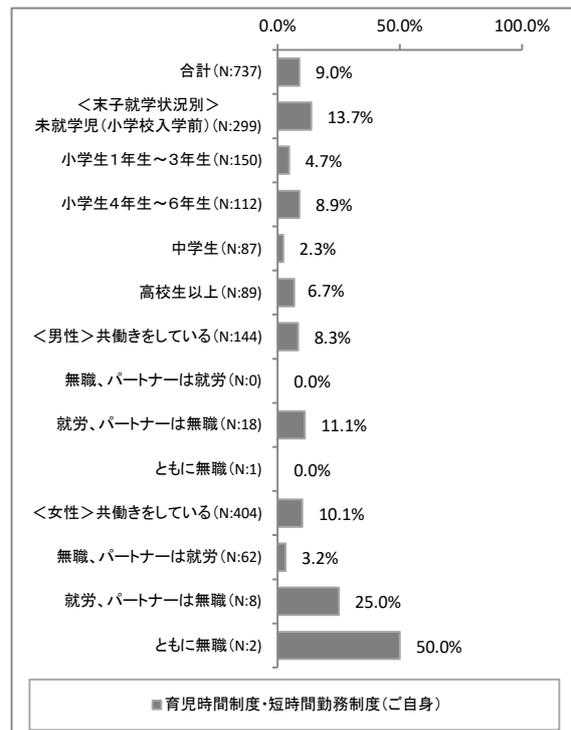
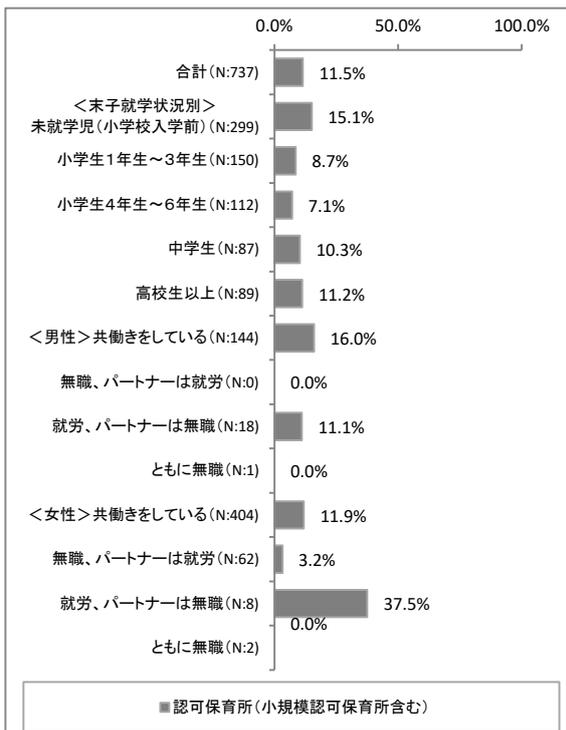
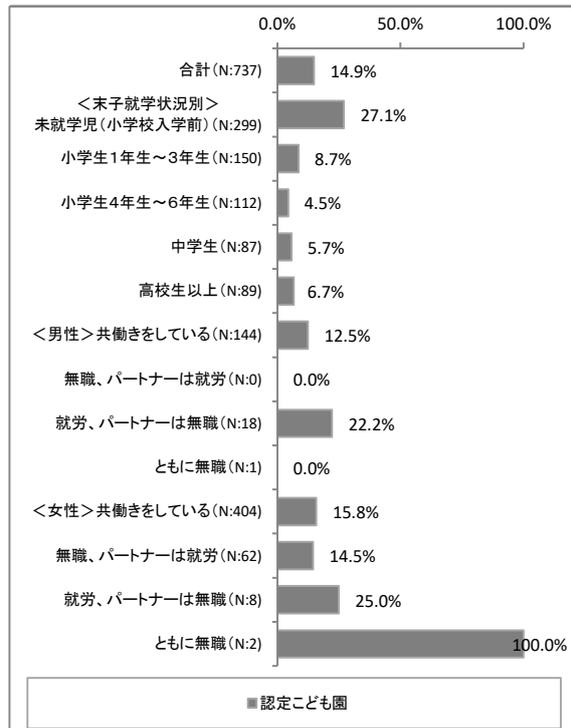
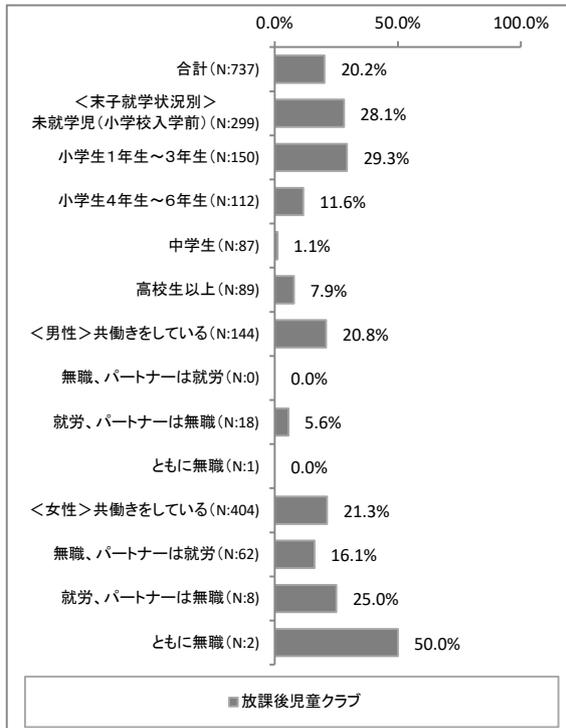
「特にない」が42.9%と最も多く、次いで「放課後児童クラブ」20.2%、「認定こども園」14.9%、「育児休業制度(ご自身)」11.5%の順となっている。他の項目については全て10%以下となっている。

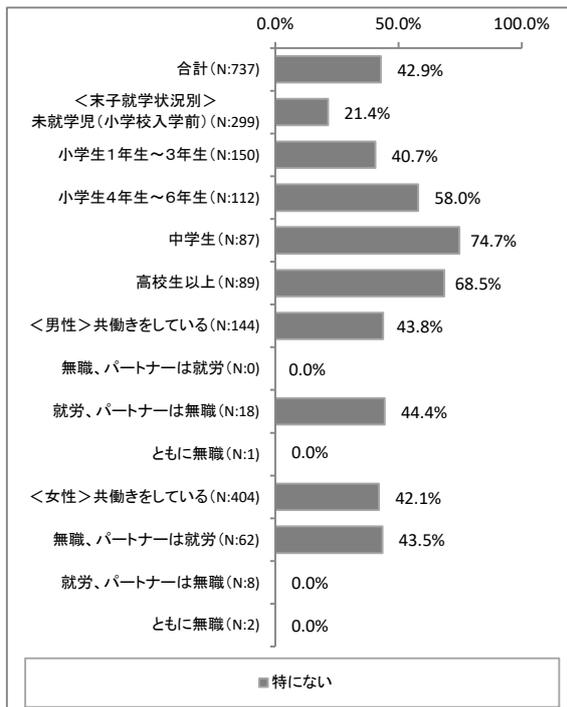
【男女別】

「特にない」で男性 44.0%、女性 42.6%となっている。

「放課後児童クラブ」の割合は、男性 20.6%、女性 20.1%、「認定こども園」の割合は、男性 14.3%、女性 15.2%となっており、男性と女性の差は1ポイント未満である。

・ 末子就学状況別、性・共働きの有無別（上位5位）





【末子の就学状況別】

「放課後児童クラブ」は、「小学生1年生～3年生」の割合（29.3%）が最も大きくなっている。

「認定こども園」、「認可保育所（小規模認可保育所含む）」、「育児時間制度・短時間勤務制度（ご自身）」は、「未就学児」の割合（それぞれ27.1%、15.1%、13.7%）が最も大きくなっている。

【男性共働きの有無別】

「放課後児童クラブ」、「認可保育所（小規模認可保育所含む）」は、「共働きをしている」の割合（それぞれ20.8%、16.0%）が最も大きくなっている。

「本人は就労、パートナーは無職」では、「認定こども園」（22.2%）、「育児時間制度・短時間勤務制度（ご自身）」（11.1%）の割合が大きくなっている。

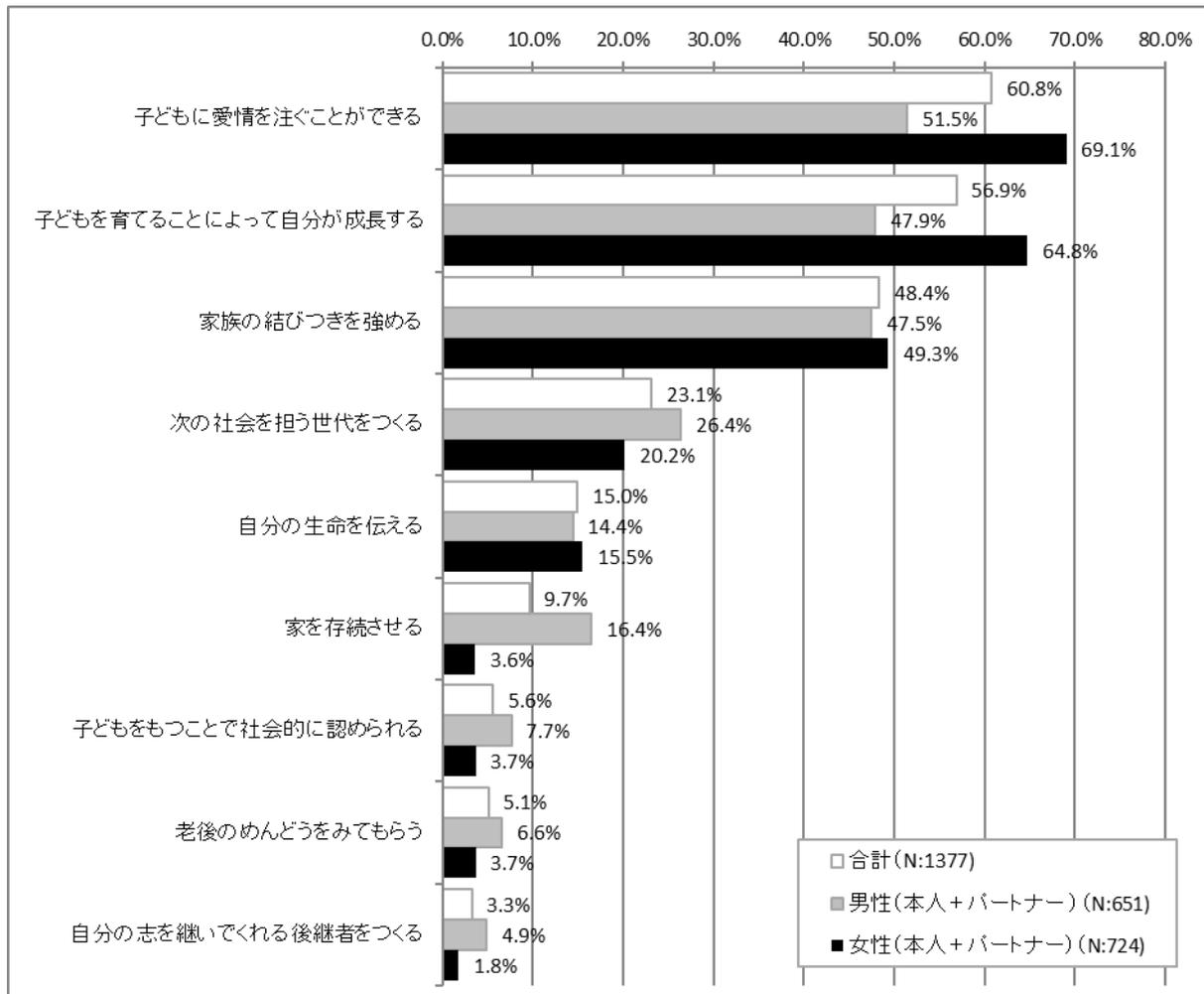
【女性共働きの有無別】

「放課後児童クラブ」（25.0%）、「認定こども園」（25.0%）、「認可保育所（小規模認可保育所含む）」（37.5%）、「育児時間制度・短時間勤務制度（ご自身）」（25.0%）、「本人は就労、パートナーは無職」の割合が大きくなっている。次いで「共働きをしている」の割合（それぞれ21.3%、15.8%、11.9%、10.1%）が大きくなっている。

育児に関する意識について

問39. あなたとあなたのパートナーは、子どもを産み育てることの喜びや良さはどのようなことだと思いますか。(3つまで)

・子どもを生み育てることの喜びや良さ（回答者とパートナーの合計）



「子どもに愛情を注ぐことができる」が60.8%と最も大きく、次いで「子どもを育てることによって自分が成長する」56.9%、「家族の結びつきを強める」48.4%、「次の社会を担う世代をつくる」23.1%、「自分の生命を伝える」15.0%の順となっている。

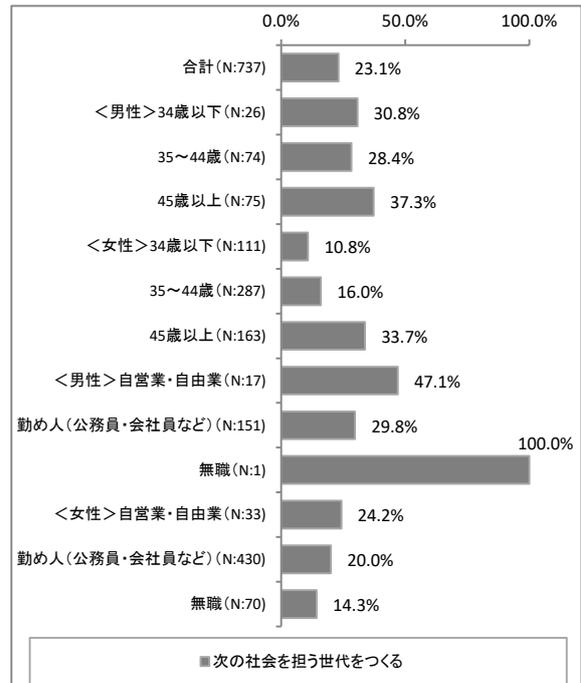
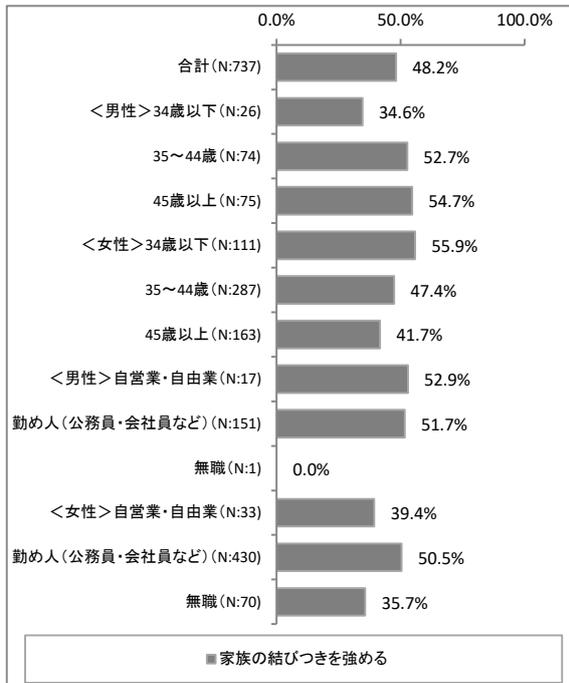
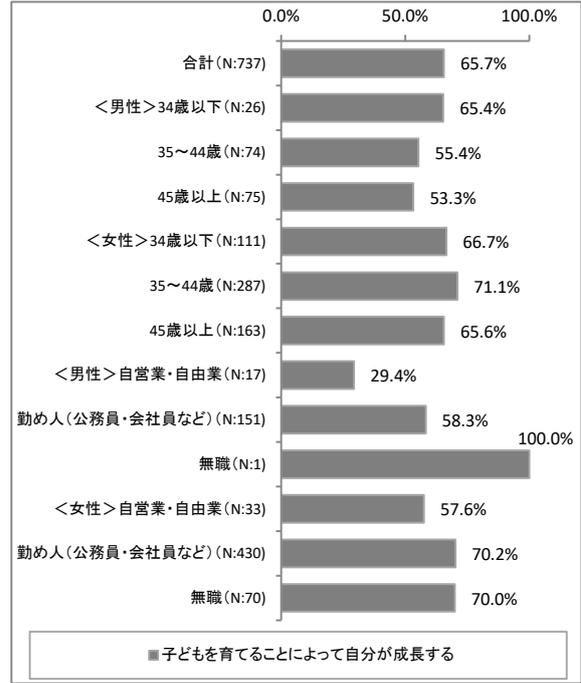
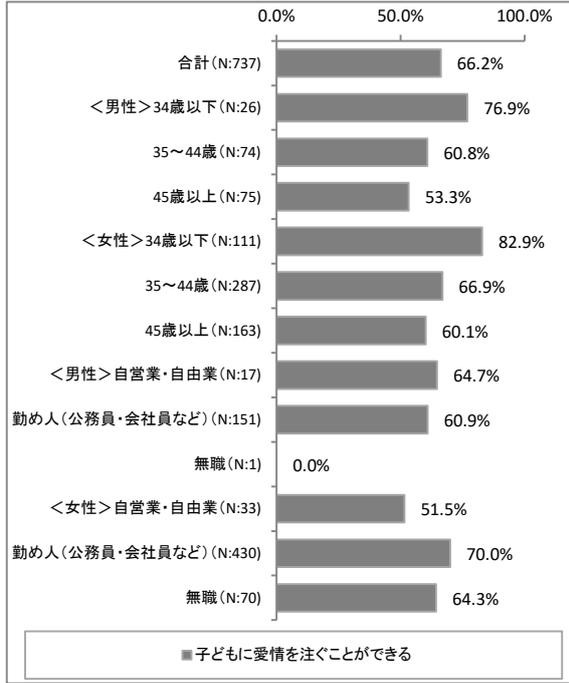
前回調査では、「子どもを育てることによって自分が成長する」が69.9%、「子どもに愛情を注ぐことができる」67.8%、「家族の結びつきを強める」53.6%、「次の社会を担う世代をつくる」20.7%、「自分の生命を伝える」19.4%の順位となっている。前回調査と比べて「子どもに愛情を注ぐことができる」が7ポイント減少、「子どもを育てることによって自分が成長する」が13ポイント減少、「家族の結びつきを強める」が5.2ポイント減少、「次の社会を担う世代をつくる」は2.4ポイント増加している。

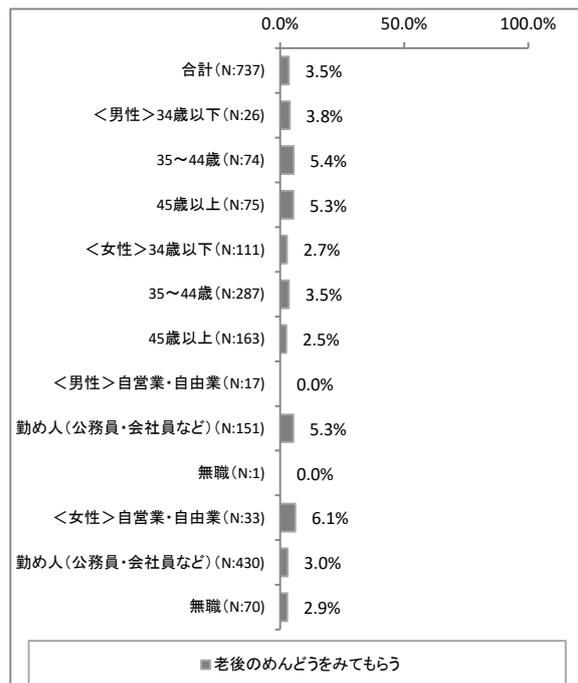
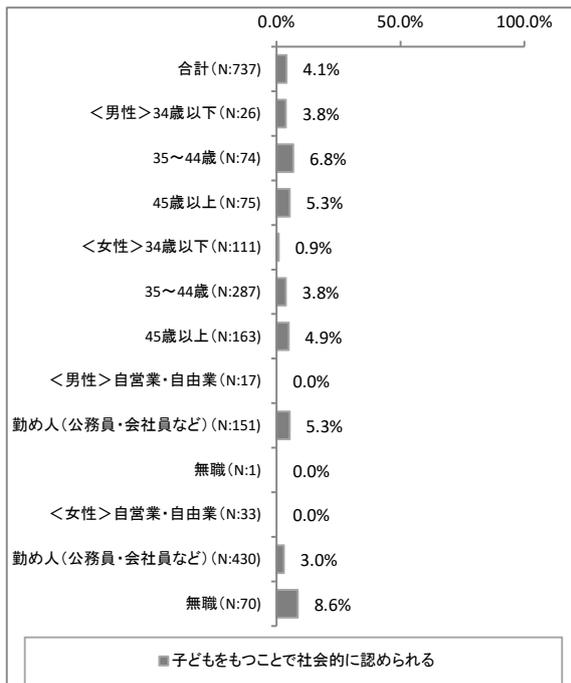
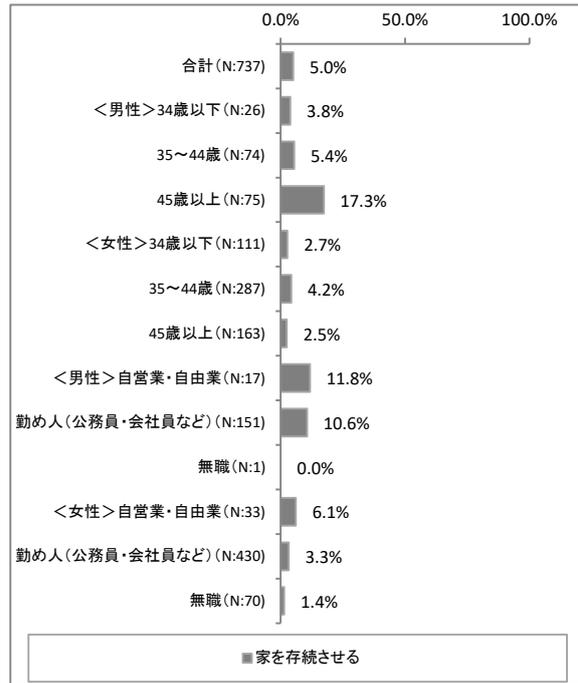
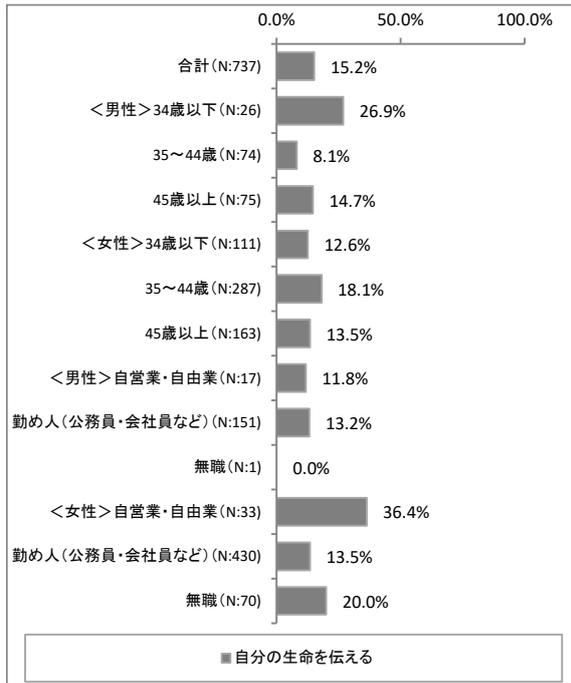
【男女別】

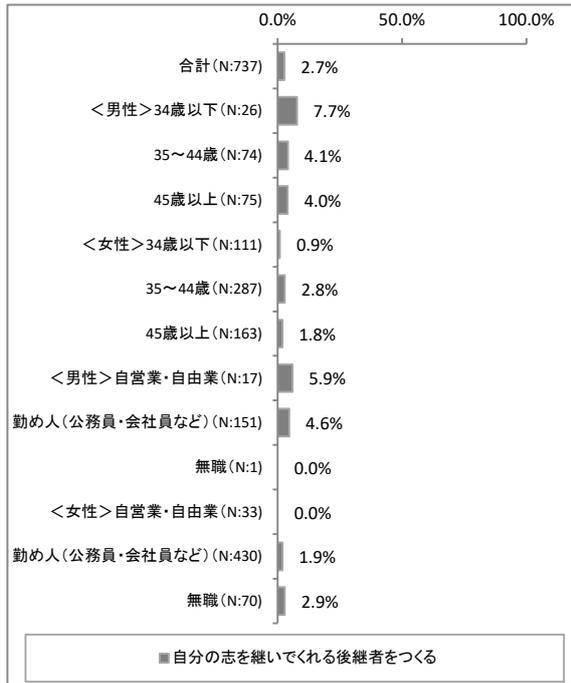
上位4項目の順位は男女とも同じであるが、「子どもに愛情を注ぐことができる」、「子どもを育てることによって自分が成長する」がともに女性が17ポイント程度大きくなっている。

「家を存続させる」の割合は、男性（16.4%）の方が女性（3.6%）よりも大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の子どもを生き育てることの喜びや良さ（回答者本人）







【男性年齢別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」、「子どもを育てることによって自分が成長する」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で（それぞれ76.9%、65.4%）最も大きくなっている。「家族の結びつきを強める」の割合は年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」が54.7%で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」、「家族の結びつきを強める」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で（それぞれ82.9%、55.9%）最も大きくなっている。

「次の社会を担う世代をつくる」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で（33.7%）最も大きくなっている。

【男性職業別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」、「家族の結びつきを強める」、「次の社会を担う世代をつくる」については、「自営業・自由業」の割合（それぞれ64.7%、52.9%、47.1%）が「勤め人」よりも大きくなっている。

「子どもを育てることによって自分が成長する」、「自分の生命を伝える」については、「勤め人」の割合（それぞれ58.3%、13.2%）が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

【女性職業別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」、「子どもを育てることによって自分が成長する」、「家族の結びつきを強める」については、「勤め人」の割合（それぞれ70.0%、70.2%、50.5%）が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

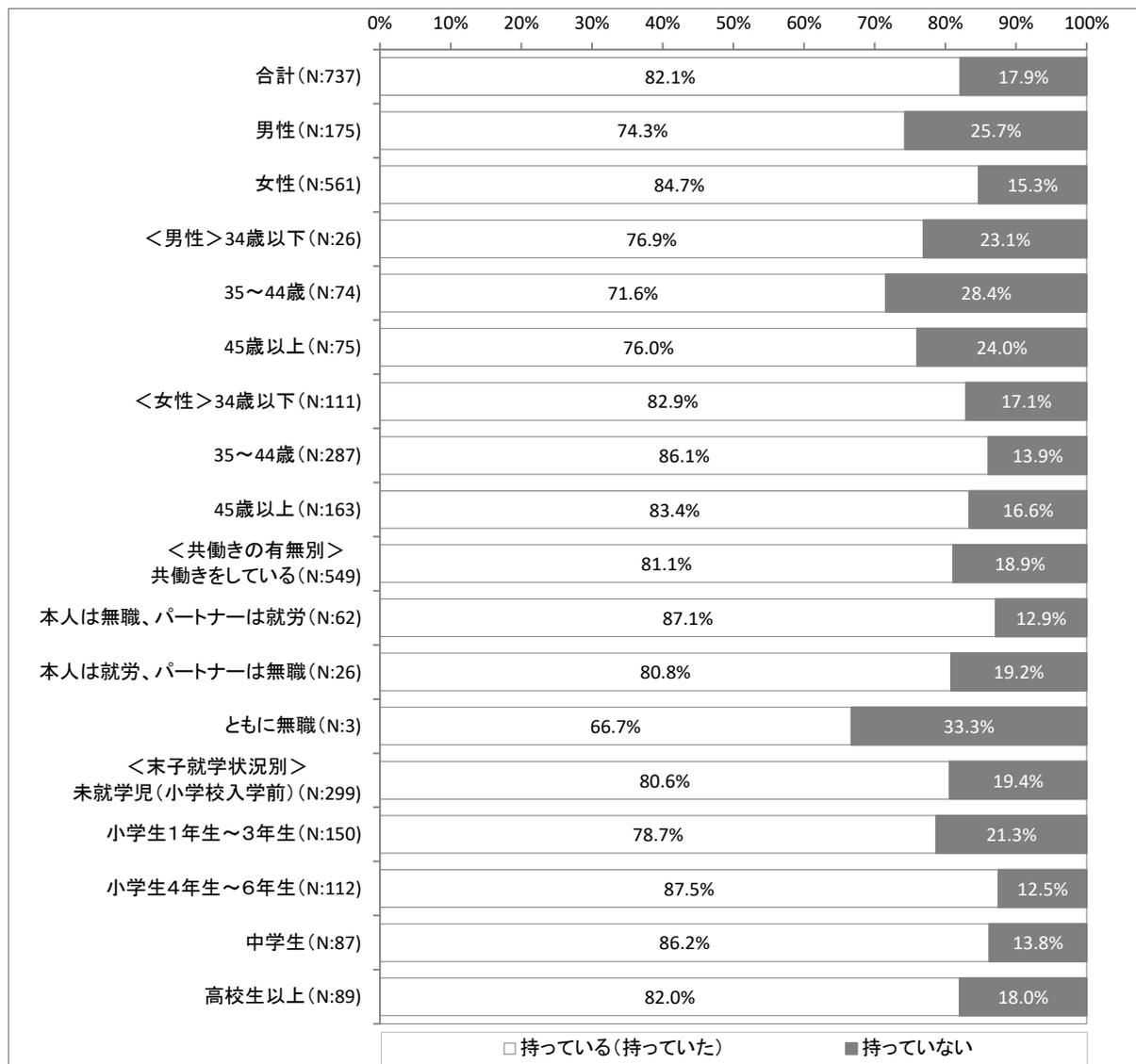
「自分の生命を伝える」、「次の社会を担う世代をつくる」については、「自営業・自由業」の割合（それぞれ36.4%、24.2%）が「勤め人」よりも大きくなっている。

【自由回答から】

- ・子どもがいることで自分達の生活も豊かになったと思う。
- ・子育ては大変だけれど、子供のいる日々は幸せだ。
- ・子供が凄く得意なことに邁進していることで私も成長できたり、周りの環境に感謝することがいっぱいあり、子育てをしていく楽しさを一番感じている。

問40. あなたは子育てをする上で、不安や悩み、あるいは辛さを持っていますか。
(持っていましたか)

・ 性、年齢別、共働きの有無別、就学状況別の子育てをする上での不安・悩み・辛さ



「持っている(持っていた)」が82.1%、「持っていない」が17.9%となっている。

【男女別】

「持っている(持っていた)」で女性が84.7%、男性が74.3%となっており、女性が男性より10.4ポイント大きい。

【男性年齢別】

「持っている(持っていた)」の割合は、「34歳以下」で76.9%と最も大きくなっていて、「45歳以上」76.0%、「35~44歳」で71.6%となっている。

【女性年齢別】

「持っている（持っていた）」の割合は、「35～44 歳」で 86.1%と最も大きくなっていて、「45 歳以上」83.4%、「34 歳以下」82.9%となっている。

【共働きの有無別】

「持っている（持っていた）」について、「本人は無職、パートナーは就労」が 87.1%で最も大きく、次いで「共働きをしている」が 81.8%、「本人は就労、パートナーは無職」が 80.8%となっている。

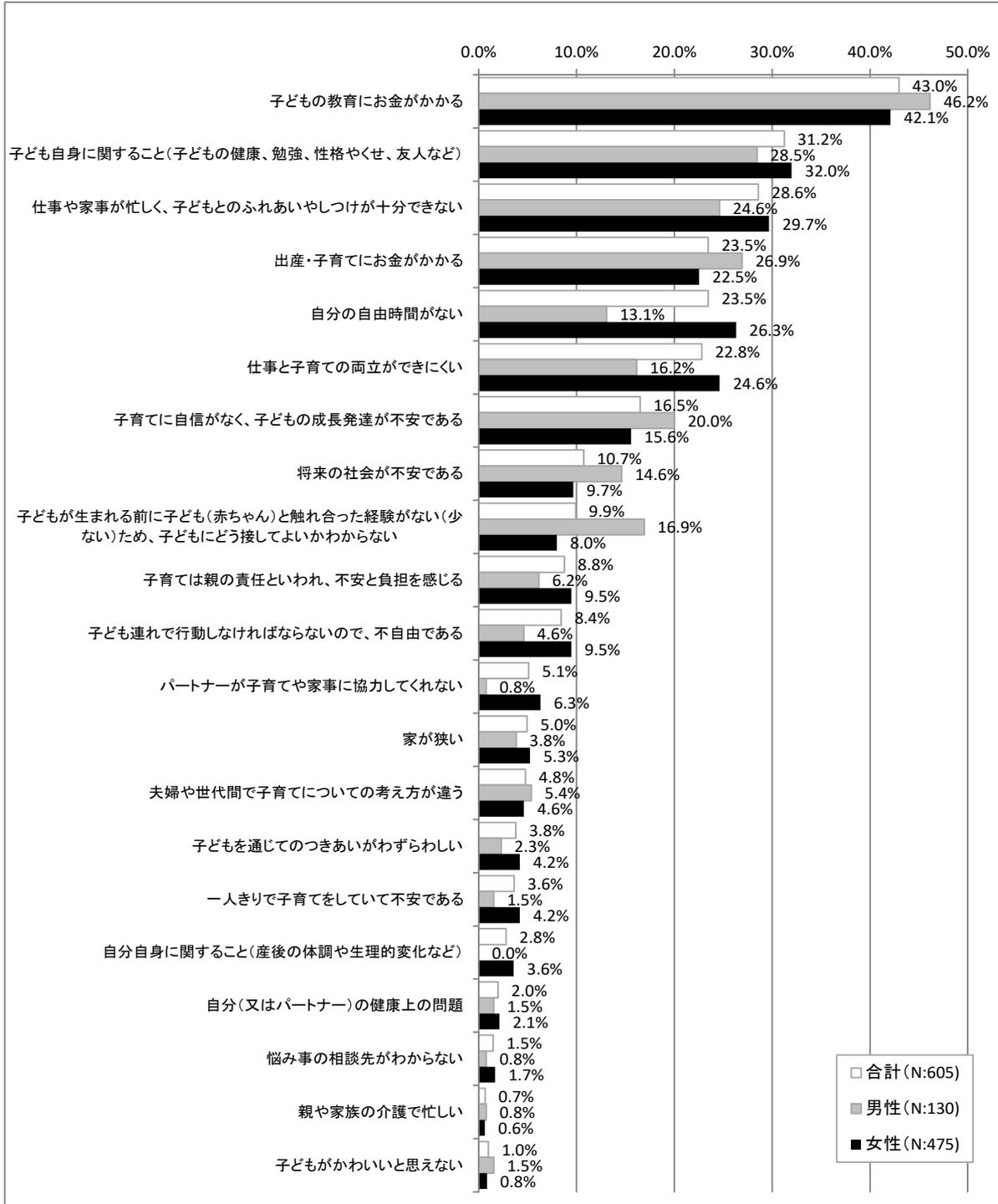
【末子就学状況別】

「持っている（持っていた）」の割合は、「小学生 4 年生～6 年生」が 87.5%と最も大きく、次いで「中学生」86.2%、「高校生以上」82.0%、「未就学児（小学校入学前）」80.6%、「小学生 1 年生～3 年生」78.7%の順となっている。

問41. (問40で「1. 持っている(持っていた)」とお答えの方にお聞きます)

あなたは、子育てをする上で、どのようなことに辛さ・不安・悩みを持ちましたか。(持っていますか)(3つまで)

・子育てをする上での辛さ・不安・悩み



「子どもの教育にお金がかかる」が43.0%と最も大きく、次いで「子ども自身に関すること（子どもの健康、勉強、性格やくせ、友人など）」31.2%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」28.6%、「出産・子育てにお金がかかる」、「自分の自由時間がない」とともに23.5%の順となっている。

前回調査では、「子ども自身に関すること」が37.6%と最も大きく、次いで「出産・育児にお金がかかる」33.1%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」30.8%、「自分の自由時間がない」20.5%、「仕事と育児の両立ができにくい」17.6%という割合、順位となっている。

今回1位の「子どもの教育にお金がかかる」（43.0%）は、今回調査より追加されたが、前回と比べて、「子ども自身に関すること」が6.4ポイント、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」が2.2ポイント、「出産・子育てにお金がかかる」（前回「出産・育児にお金がかかる」）が9.6ポイント減少している。「自分の自由時間がない」は3ポイントの増加となっている。

【男女別】

男性では、「子どもの教育にお金がかかる」46.2%、「子ども自身に関すること」28.5%、「出産・子育てにお金がかかる」26.9%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」24.6%、「子育てに自信がなく、子どもの成長発達が不安である」20.0%の割合、順位となっている。

女性では、「子どもの教育にお金がかかる」42.1%、「子ども自身に関すること」32.0%、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」29.7%、「自分の自由時間がない」26.3%、「仕事と子育ての両立ができにくい」24.6%の割合、順位となっている。

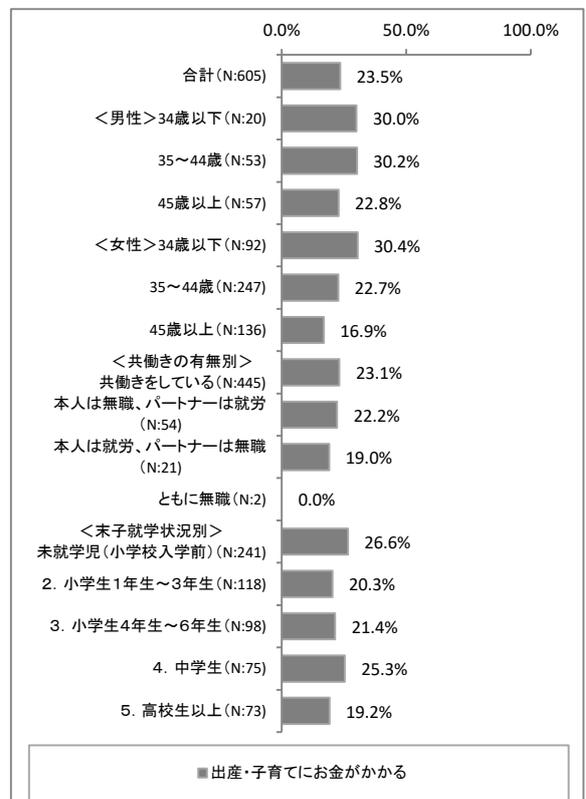
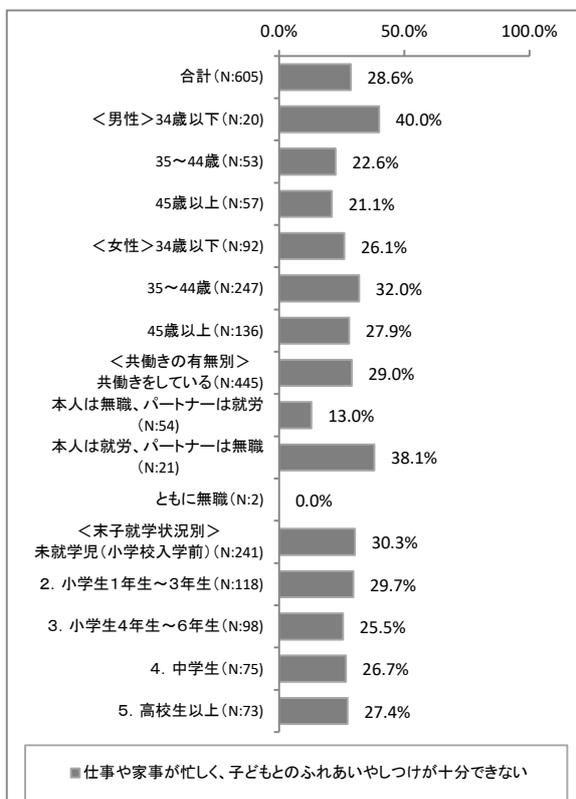
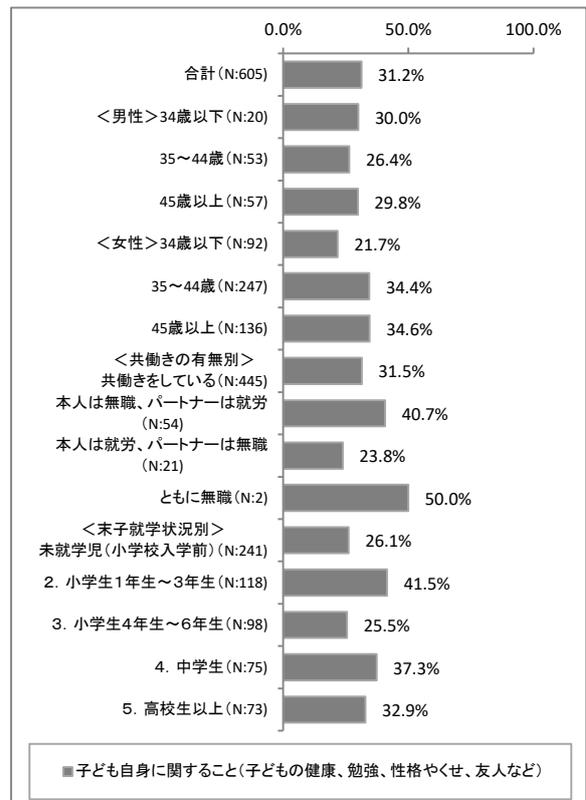
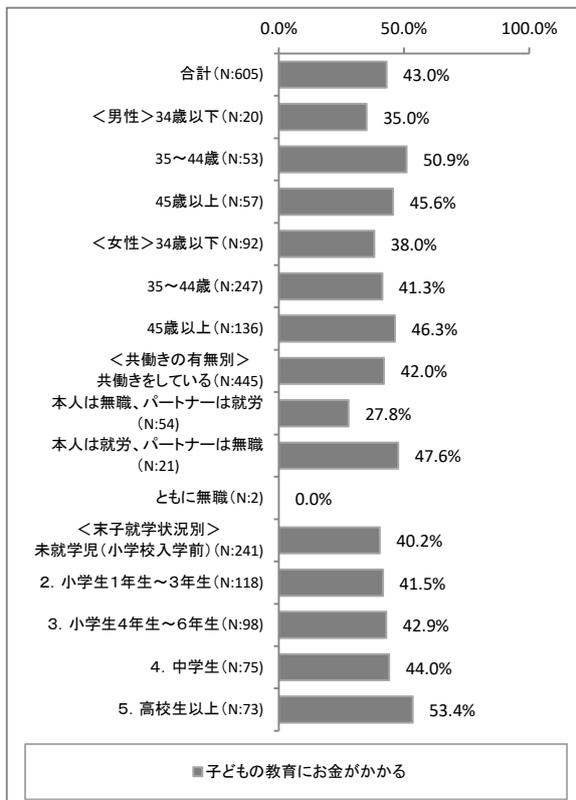
「子どもの教育にお金がかかる」、「出産・子育てにお金がかかる」の割合は、男性の方が女性よりも大きい。

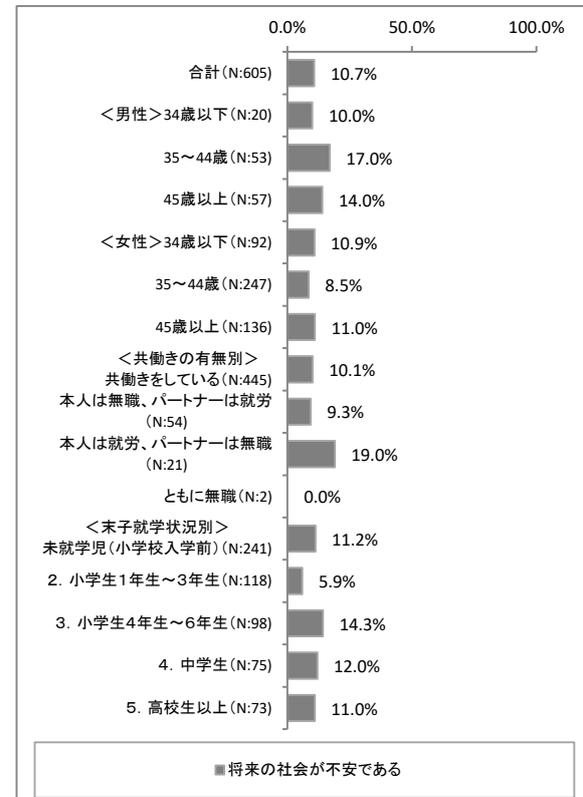
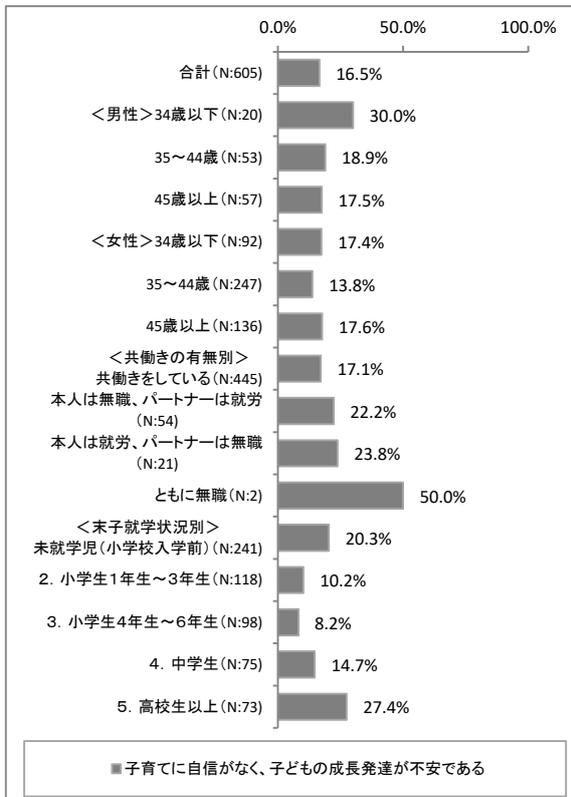
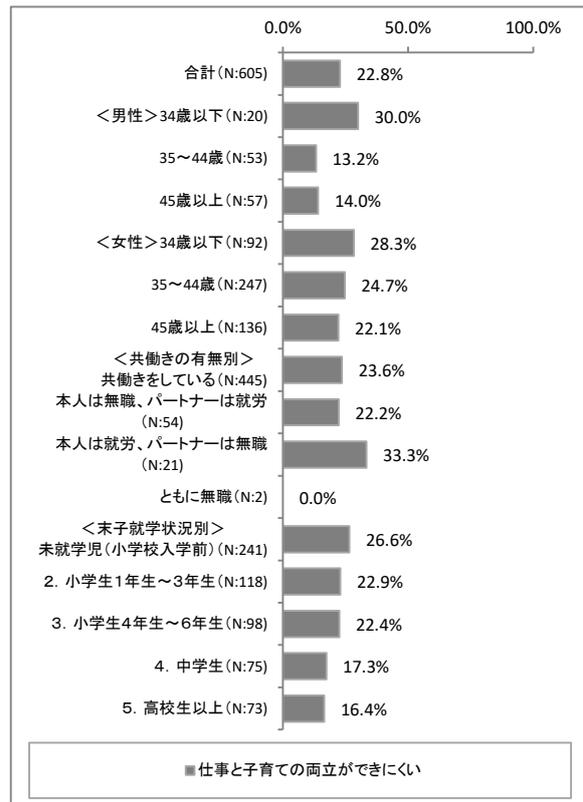
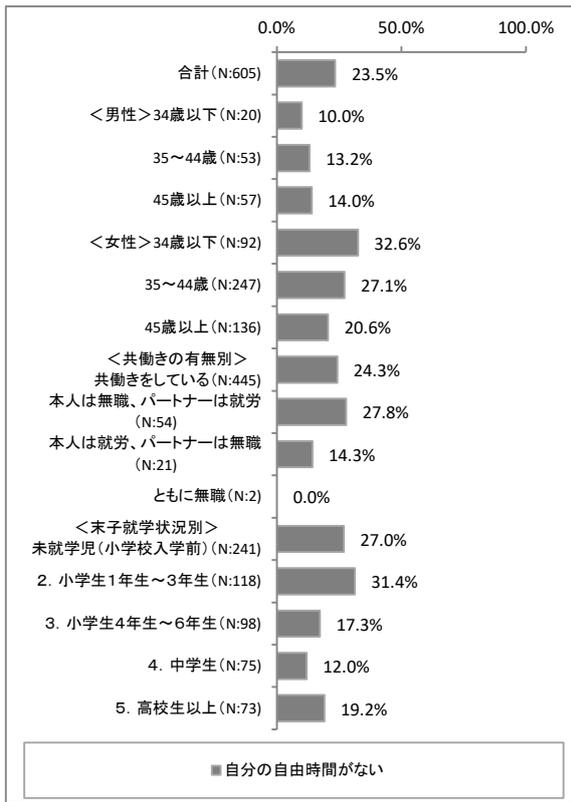
一方、「子ども自身に関すること」、「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」、「自分の自由時間がない」の割合は、女性の方が男性よりも大きい。

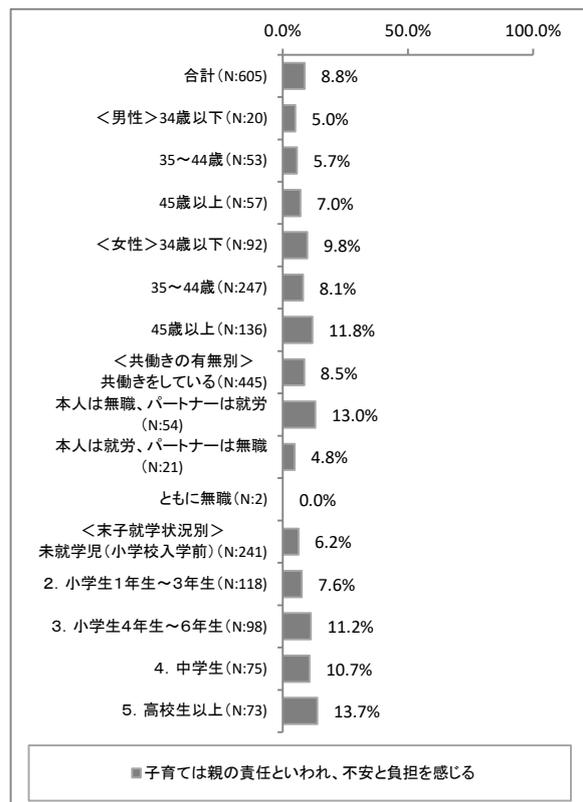
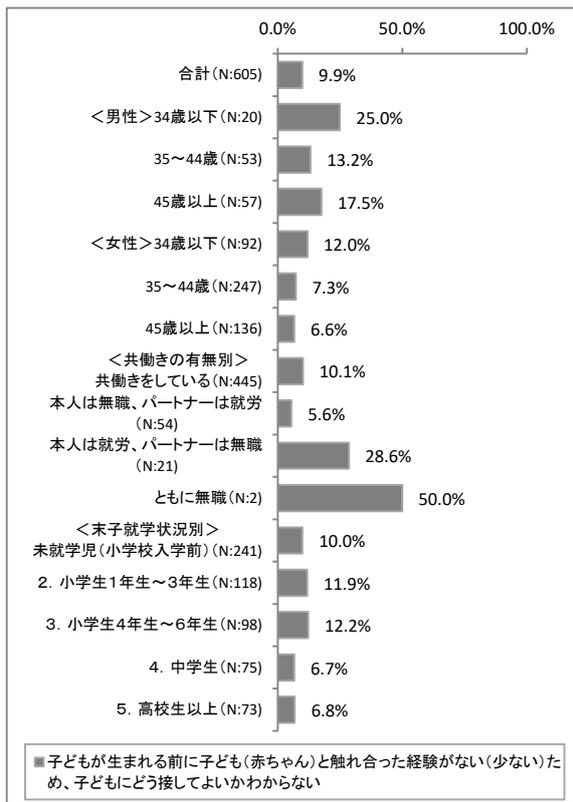
【自由回答から】

- ・出産、子育て、教育など、お金はかかるので、負担を少なくして欲しいという気持ちは大きい。
- ・子どもを産み育てることは何事にも変えられない喜びを感じるが、実際に仕事の多忙さ、家事、教育費と悩むことも多い。
- ・子育ての悩みがあっても気軽には相談できない。知らない人に相談するには勇気がいる。
- ・子育て支援に月一で通っているが、時間も短くなかなか悩みが解決しない。専門の方が増えたらいいと感じる。

・性・年齢別、共働きの有無別、末子就学状況別の辛さ・不安・悩み







【男性年齢別】

「子どもの教育にお金がかかる」は、「35~44歳」で50.9%と最も大きい。

「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(40.0%)が最も大きく、他年代より17ポイント以上大きい。

【女性年齢別】

「子どもの教育にお金がかかる」、「子ども自身に関する事」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」(それぞれ46.3%、34.6%)で最も大きくなっている。

「自分の自由時間がない」、「出産・子育てにお金がかかる」、「仕事と子育ての両立ができてにくい」、「子どもが生まれる前に子ども(赤ちゃん)と触れ合った経験がない(少ない)ため、子どもにどう接してよいかわからない」は、「34歳以下」(それぞれ32.6%、30.4%、28.3%、12.0%)で最も大きくなっている。

【共働きの有無別】

「共働き」の割合が他の就労状況よりも大きいのは、「出産・子育てにお金がかかる」(23.1%)となっている。

「本人は無職、パートナーは就労」の割合が他の就労状況よりも大きいのは「子ども自身に関する事」(40.7%)で、「本人は就労、パートナーは無職」の割合が他の就労状況よりも大きいのは「子どもの教育にお金がかかる」(47.6%)となっている。

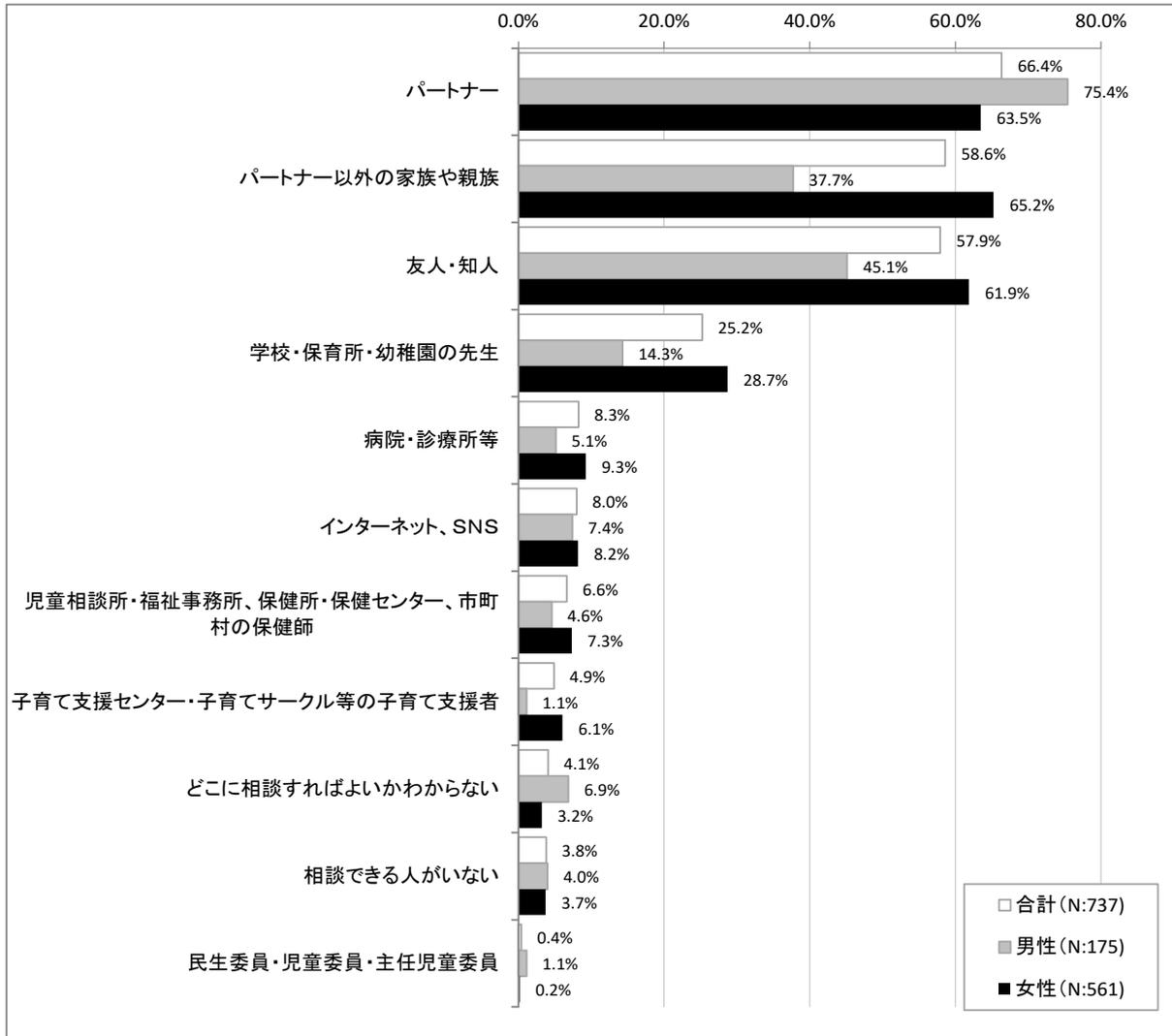
【末子の就学状況】

「仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」、「出産・子育てにお金がかかる」、「仕事と子育ての両立ができにくい」の割合は、「未就学児」で最も大きくなっている。

「子どもの教育にお金がかかる」は、年代が上がるにつれて大きくなっている。「高校生以上」で53.4%と最も大きく、「未就学児」の40.2%と13.2ポイントの差が見られる。

問42. あなたは、子育ての不安や悩みをどなた(どこ)に相談していますか。(あてはまるものすべて)

・子育ての不安や悩みの相談先



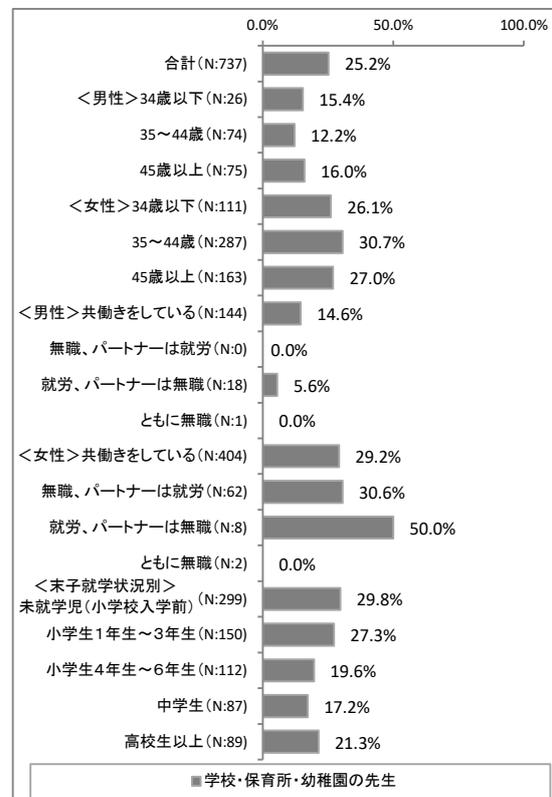
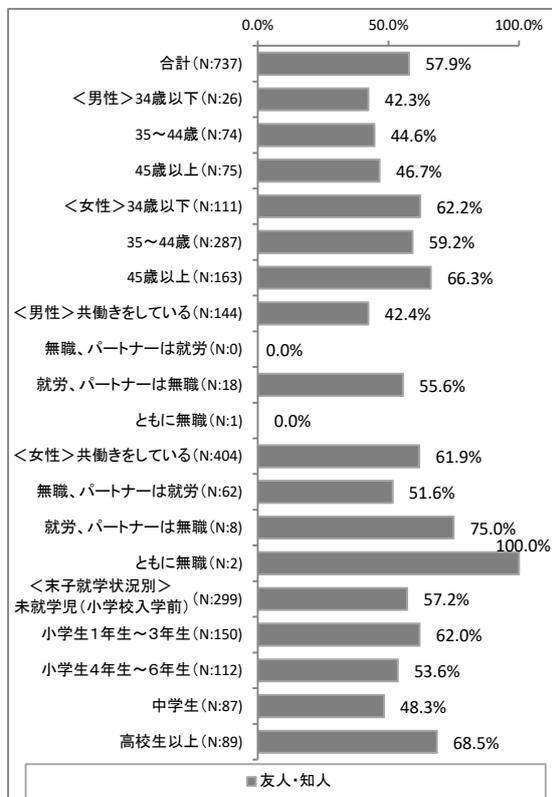
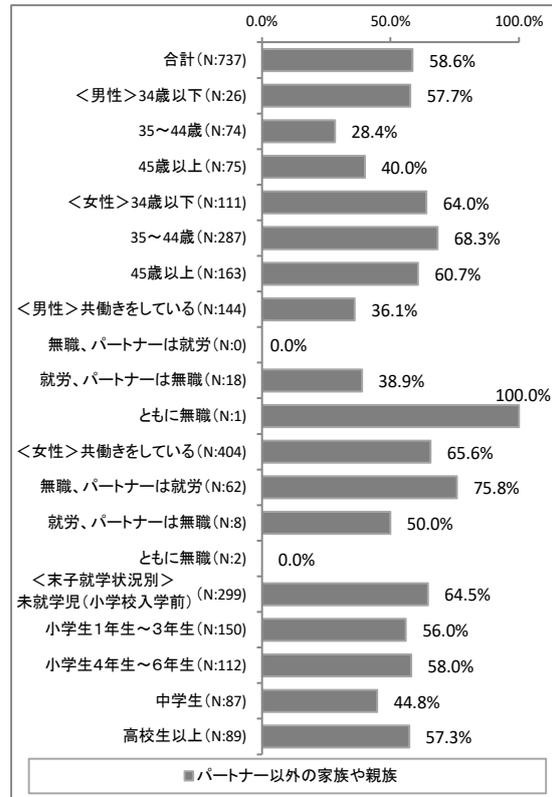
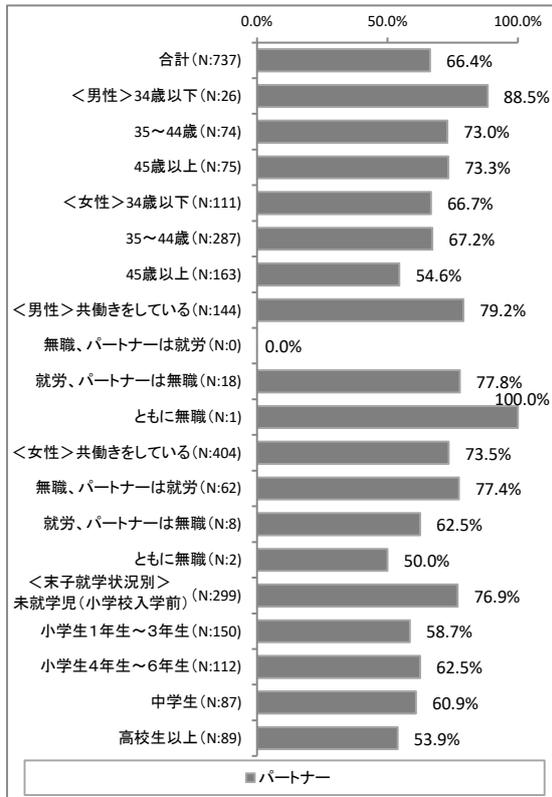
「パートナー」の割合が66.4%と最も大きく、次いで「パートナー以外の家族や親族」が58.6%、「友人・知人」が57.9%、「学校・保育所・幼稚園の先生」25.2%の順となっている。

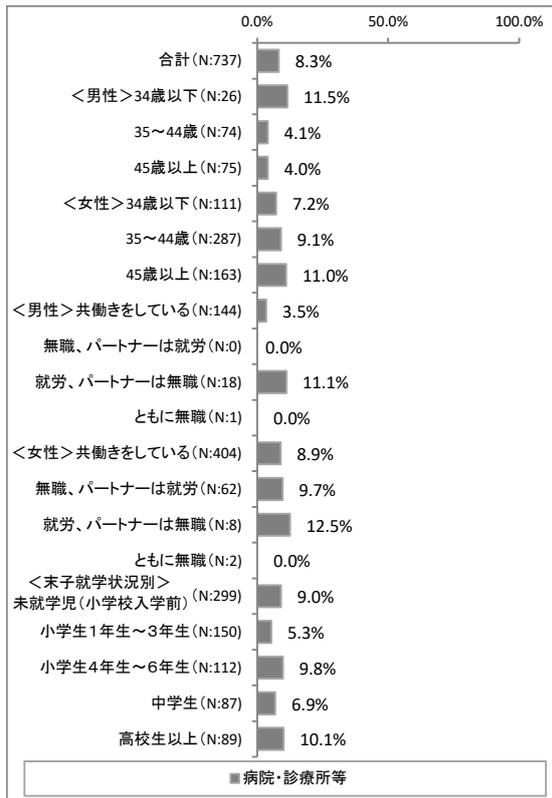
前回調査では、「友人・知人」が68.5%、「配偶者」が67.1%、「配偶者以外の家族や親族」63.2%、「学校・保育所・幼稚園の先生」31.5%という割合、順位となっている。前回と比べて、「友人・知人」10.6ポイント、「パートナー（配偶者）以外の家族や親族」が4.6ポイント、「学校・保育所・幼稚園の先生」が6.3ポイント減少している。

【男女別】

男女別では、「パートナー（男性75.4%、女性63.5%）」の割合は男性の方が大きい、「パートナー以外の家族や親族（男性37.7%、65.2%）」、「友人・知人（男性45.1%、61.9%）」、「学校・保育所・幼稚園の先生（男性14.3%、女性28.7%）」は女性の方が大きくなっている。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の不安や悩みの相談先（上位5項目）





【男性年齢別】

「パートナー」、「パートナー以外の家族や親族」の割合は、「34歳以下」（それぞれ 88.5%、57.7%）が最も大きくなっている。「友人・知人」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合が 46.7%で最も大きい。

【女性年齢別】

「パートナー以外の家族や親族」、「パートナー」の割合は、「35~44歳」（それぞれ 68.3%、67.2%）が最も大きくなっている。「友人・知人」の割合は、「45歳以上」の割合が 66.3%で最も大きい。

【男性共働きの有無別】

「パートナー」の割合は、「共働き」（79.2%）で「本人は就労、パートナーは無職」より大きくなっている。「友人・知人」、「パートナー以外の家族や親族」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」（それぞれ 55.6%、38.9%）で「共働き」より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

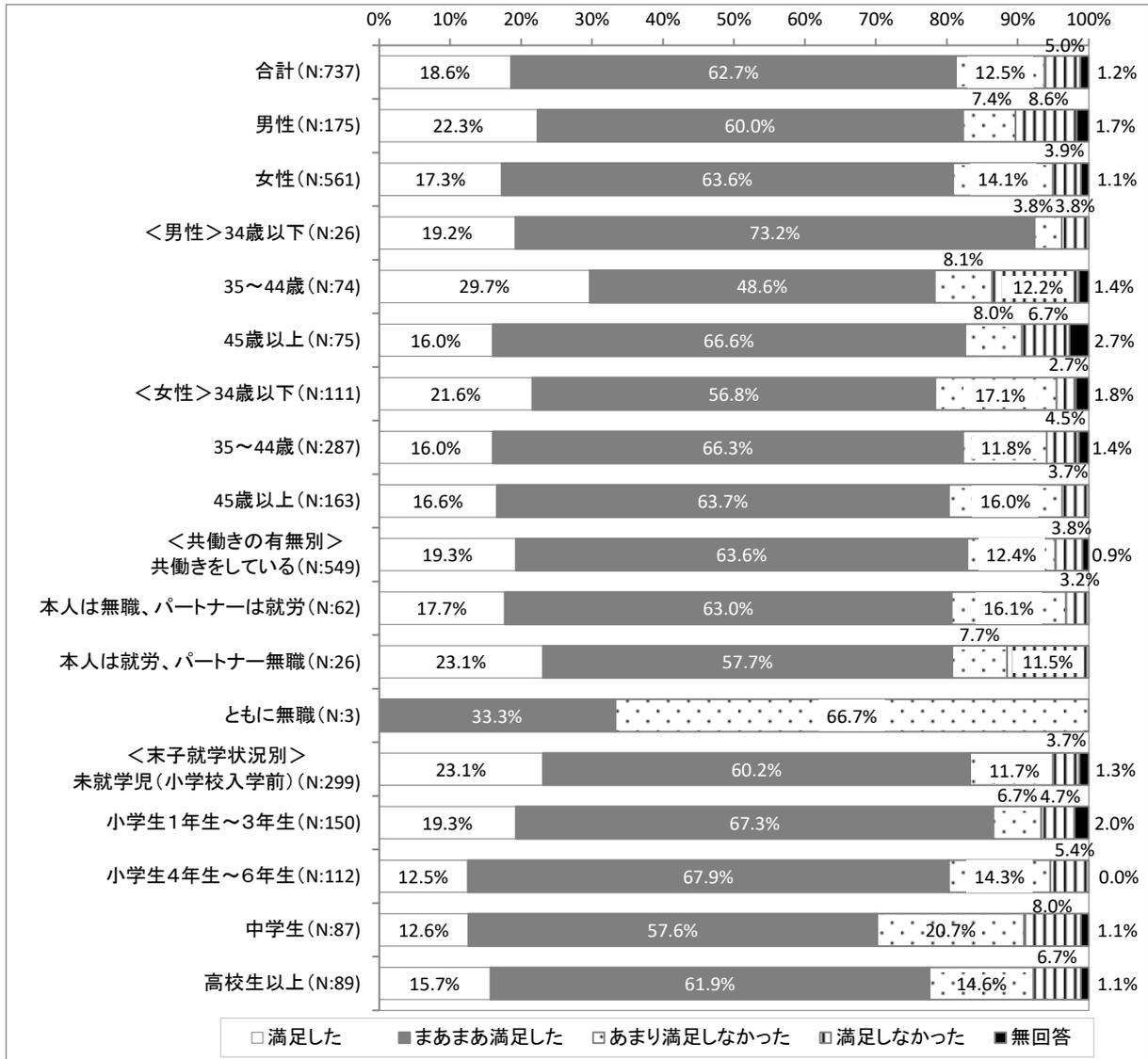
「パートナー」、「パートナー以外の家族や親族」の割合は、「本人は無職、パートナーは就労」（それぞれ 77.4%、75.8%）が他就業状況より大きい。「友人・知人」は「本人は就労、パートナーは無職」（75.0%）が大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「パートナー」、「パートナー以外の家族や親族」、「学校・保育所・幼稚園の先生」の割合は、「未就学児」（それぞれ 76.9%、64.5%、29.8%）が最も大きくなっている。

問43. 相談の結果、子育ての不安や悩みが解決するなど、満足しましたか。

・子育ての不安や悩みの相談結果の満足度



「満足した」が18.6%、「まあまあ満足した」が62.7%で、合計すると81.3%が満足している。「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計は17.5%となっている。

【男女別】

「満足した」で男性が22.3%、女性が17.3%で女性が5ポイント小さくなっている。「満足した」、「まあまあ満足した」の合計では、男性が82.3%、女性が80.9%となっており、女性が1.4ポイント小さくなっている。

【男性年齢別】

「満足した」は「35～44歳」で29.7%、「まあまあ満足した」は「34歳以下」で73.2%と最も大きくなっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計では、「34歳以下」が92.4%と最も大きくなっている。一方で、「35～44歳」で「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計が20.3%と大きくなっている。

【女性年齢別】

「満足した」、「まあまあ満足した」の合計は、「35～44歳」が82.3%、「45歳以上」が80.3%、「34歳以下」が78.4%の順となっている。「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計も、「34歳以下」が19.8%、「45歳以上」が19.7%、「35～44歳」が15.5%と、同じ順位となっている。

【共働きの有無別】

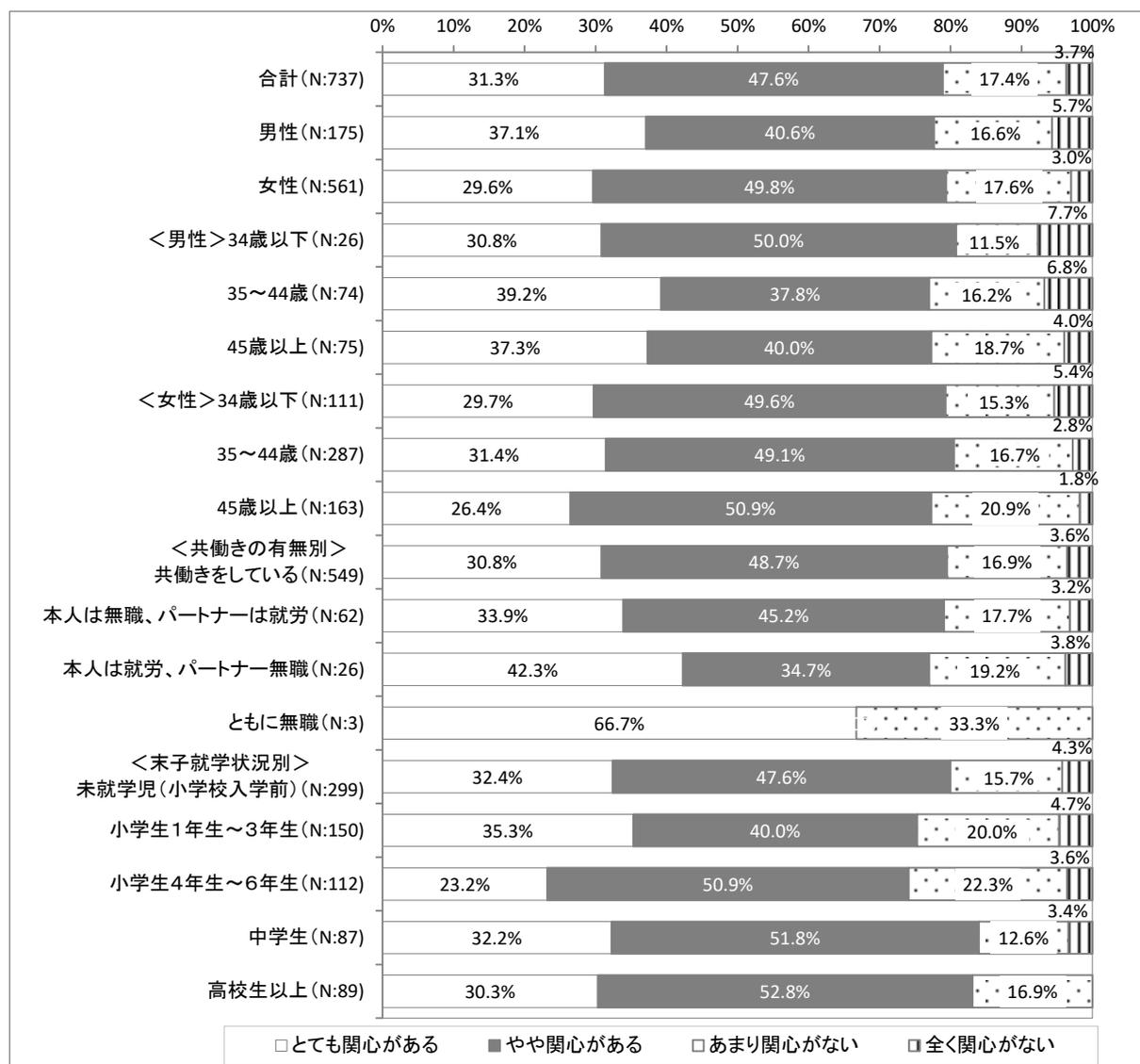
「満足した」は「本人は就労、パートナーは無職」で23.1%と最も大きくなっている。「まあまあ満足した」は「共働き」が63.6%、「本人は無職、パートナーは就労」が63.0%となっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計では、「共働き」で82.9%と最も大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「満足した」の割合は、「未就学児」23.1%、「まあまあ満足した」の割合は、「小学生4年生～6年生」67.9%で最も大きくなっている。「満足した」と「まあまあ満足した」の合計では、「小学生1年生～3年生」が86.6%で最も大きくなっている。「あまり満足しなかった」、「満足しなかった」の合計は、「中学生」で28.7%と最も大きくなっている。

問44. あなたは児童虐待に関心がありますか。

・児童虐待の関心度



「とても関心がある」が31.3%、「やや関心がある」が47.6%で、合計すると78.9%が児童虐待に関心がある。「あまり関心がない」、「全く関心がない」の合計は21.1%となっている。

【男女別】

「とても関心がある」で男性が37.1%、女性が29.6%で女性が7.5ポイント小さくなっている。「とても関心がある」、「やや関心がある」の合計では、男性が77.7%、女性が79.4%となっている。

【男性年齢別】

「とても関心がある」は「35～44歳」で39.2%、「やや関心がある」は「34歳以下」で50.0%と最も大きくなっている。「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計では、「34歳以下」が80.8%と最も大きくなっている。「あまり関心がない」、「全く関心がない」の合計は、「35～44歳」で23.0%、「45歳以上」で22.7%となっている。

【女性年齢別】

「とても関心がある」、「やや関心がある」の合計は、「34歳以下」で79.3%、「35～44歳」で80.5%、「45歳以上」が77.3%で、「35～44歳」が最も大きい。「あまり関心がない」、「全く関心がない」の合計は、「45歳以上」が22.7%、「34歳以下」が20.7%、「35～44歳」が19.5%の順となっている。

【共働きの有無別】

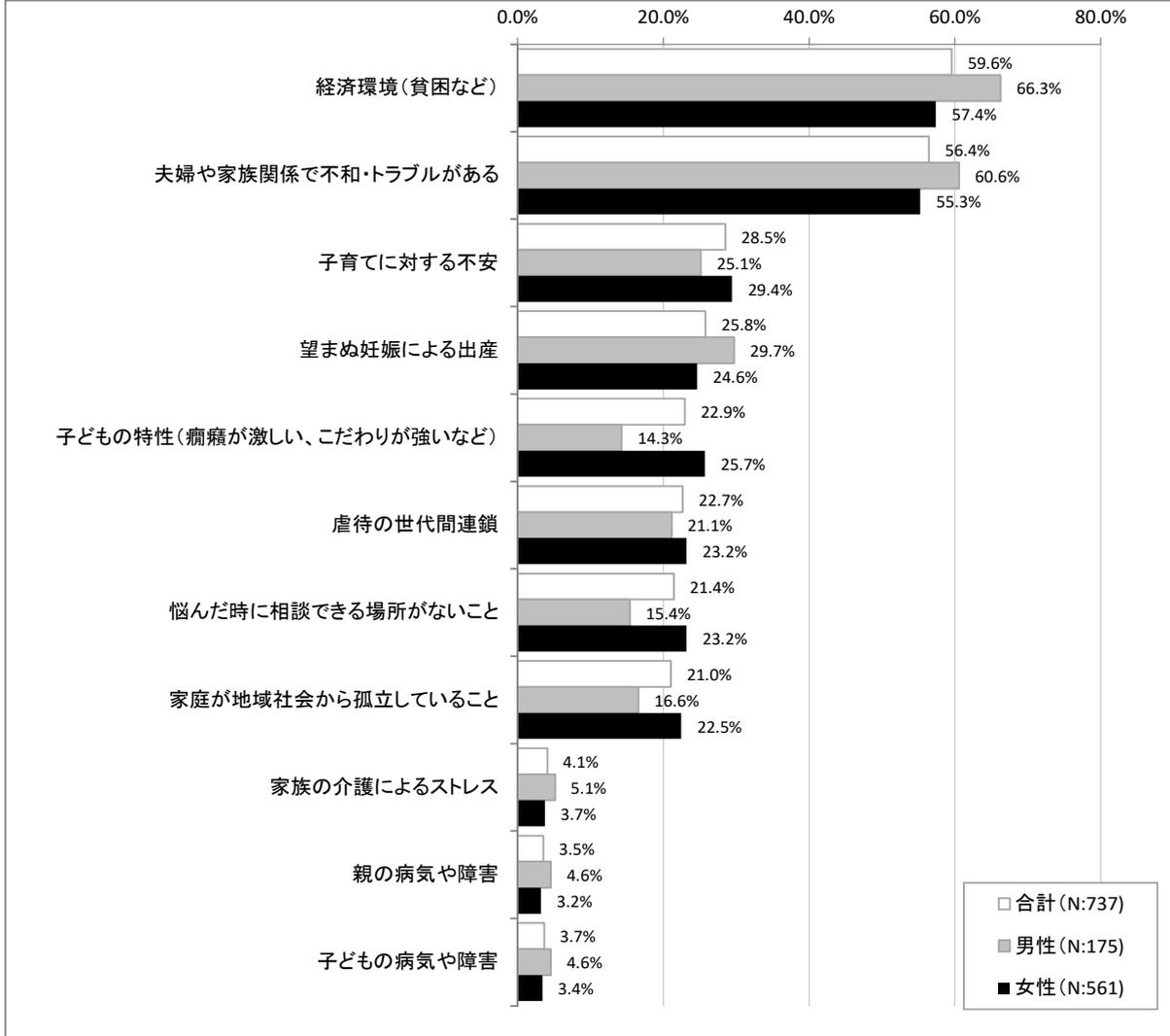
「とても関心がある」は「本人は就労、パートナーは無職」で42.3%と最も大きくなっている。「やや関心がある」は「共働き」が48.7%、「本人は無職、パートナーは就労」が45.2%となっている。「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計では、「共働き」で79.5%と最も大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「とても関心がある」の割合は、「小学生1年生～3年生」35.3%、「やや関心がある」の割合は、「高校生以上」52.8%で最も大きくなっている。「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計では、「中学生」が84.0%で最も大きくなっている。「あまり関心がない」、「全く関心がない」の合計は、「小学生4年生～6年生」が25.9%、「小学生1年生～3年生」が24.7%と大きくなっている。

問45. あなたは、なぜ児童虐待が起こると思いますか。(3つまで)

・児童虐待の原因

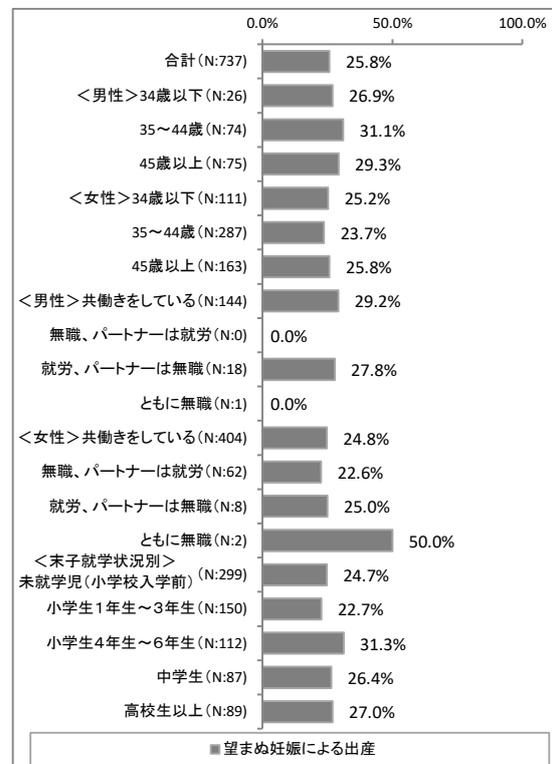
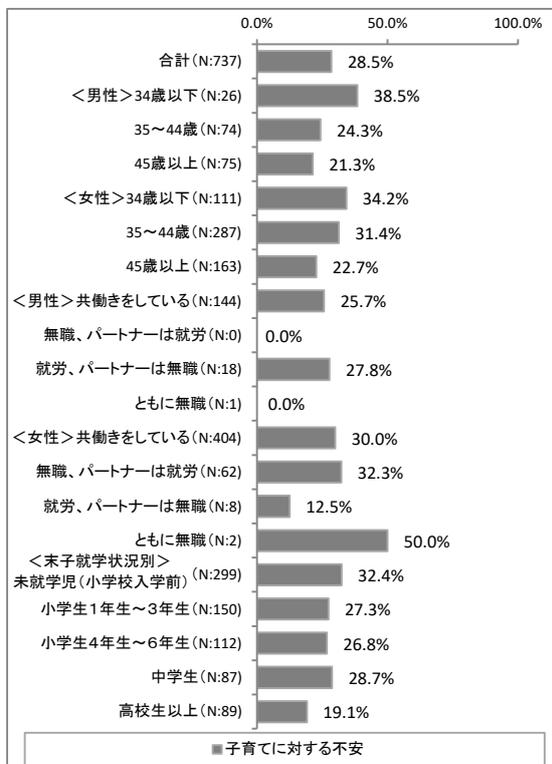
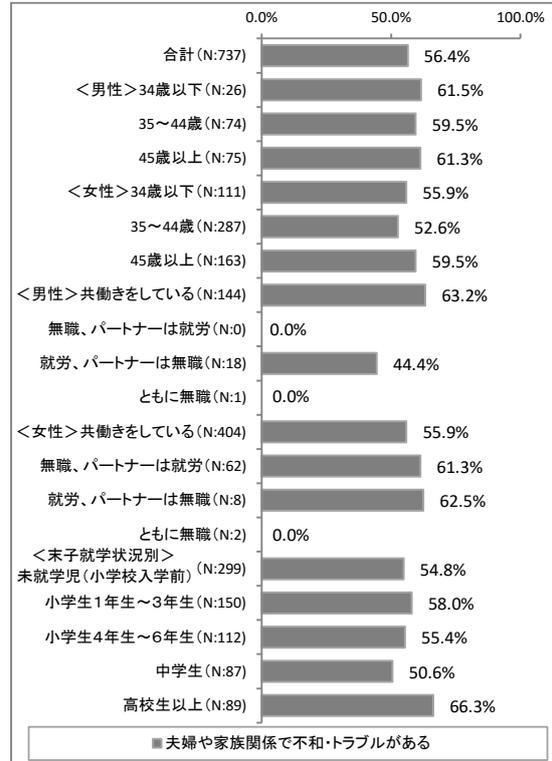
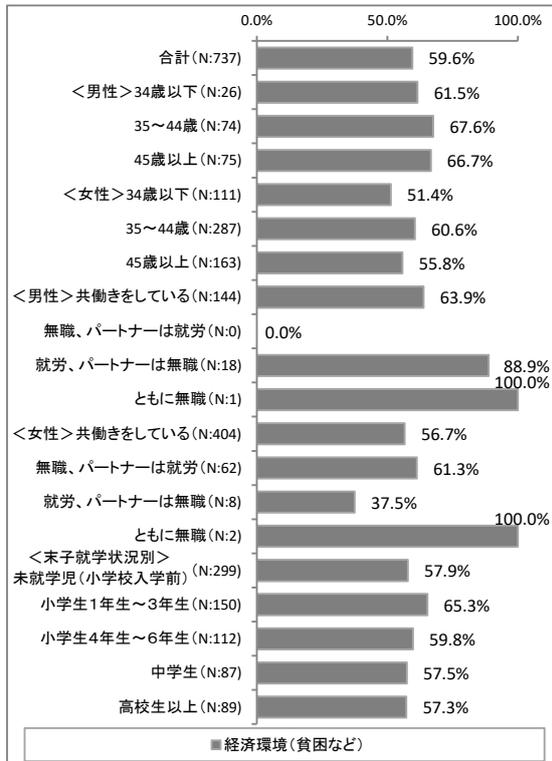


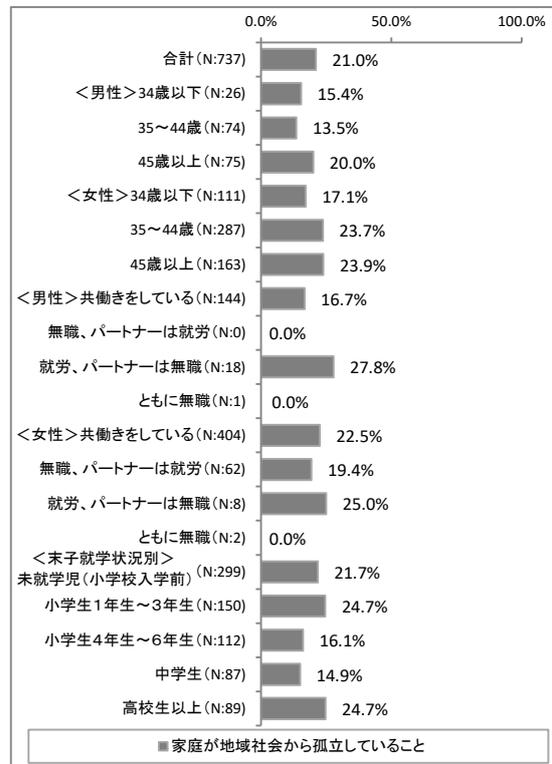
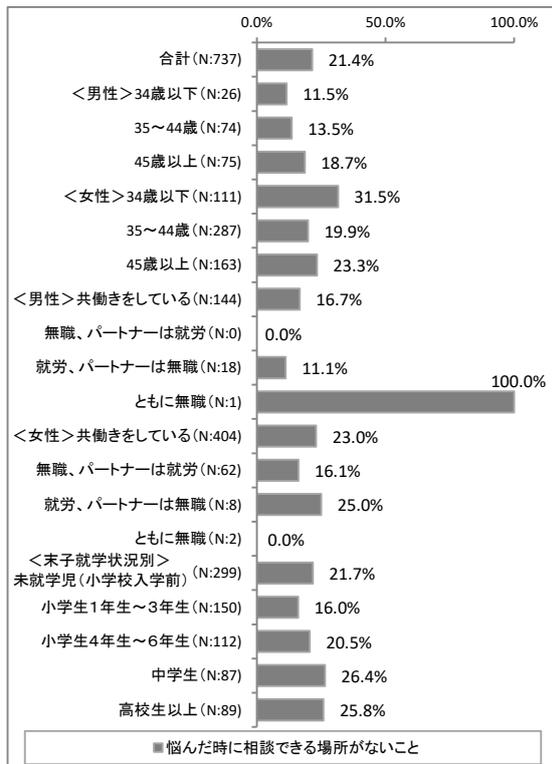
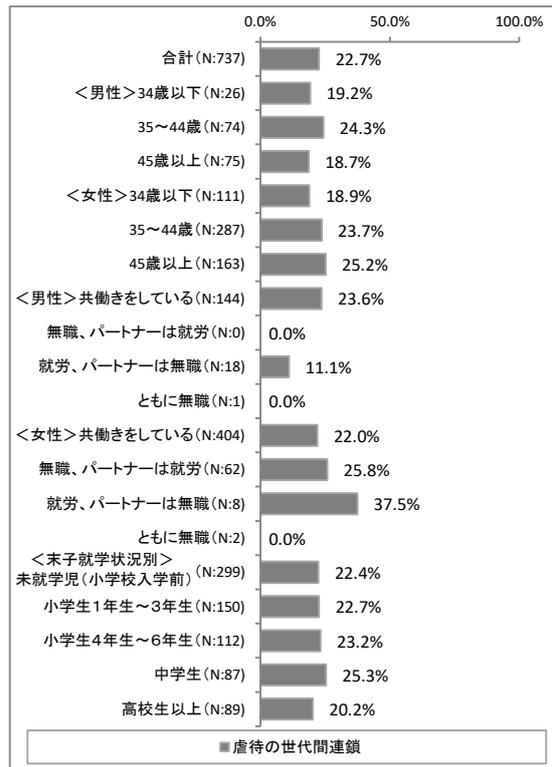
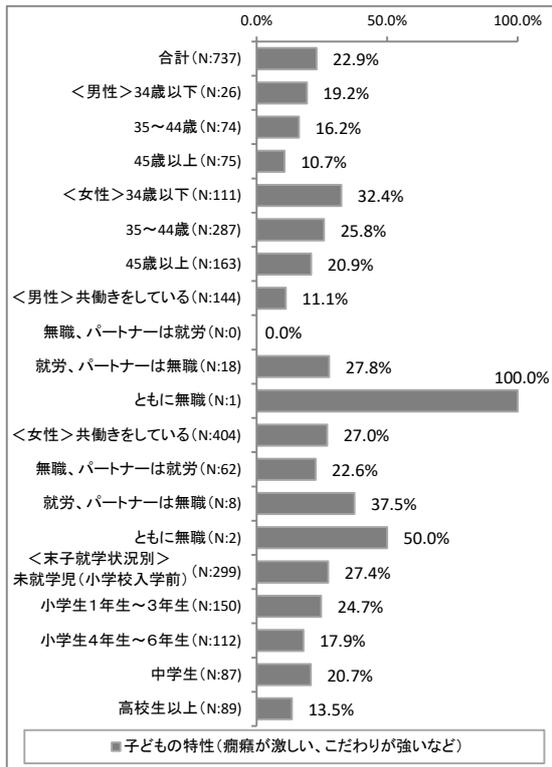
「経済環境（貧困など）」が 59.6%と最も大きく、次いで「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」が 56.4%、「子育てに対する不安」28.5%の順となっている。

【男女別】

男女別では、「経済環境（貧困など）」の割合は男性 66.3%に対し女性 57.4%、「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」の割合は男性 60.6%に対し女性 55.3%と、男性の割合が大きくなっている。また、「子どもの特性（癇癪が激しい、こだわりが強いなど）」の割合は男性 14.3%に対し女性 25.7%と、女性が 11.4 ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の児童虐待の原因





【男性年齢別】

「経済環境（貧困など）」の割合は、「35～44歳」で67.6%、「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」の割合は、「34歳以下」で61.5%と大きくなっている。「子育てに対する不安」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」の割合が38.5%で最も大きい。

【女性年齢別】

「経済環境（貧困など）」の割合は、「35～44歳」で60.6%、「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」の割合は、「45歳以上」で59.5%と大きくなっている。「子育てに対する不安」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」の割合が34.2%で最も大きい。

【男性共働きの有無別】

「経済環境（貧困など）」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」（88.9%）で「共働き」より大きくなっている。「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」の割合は、「共働き」（63.2%）で「本人は就労、パートナーは無職」より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

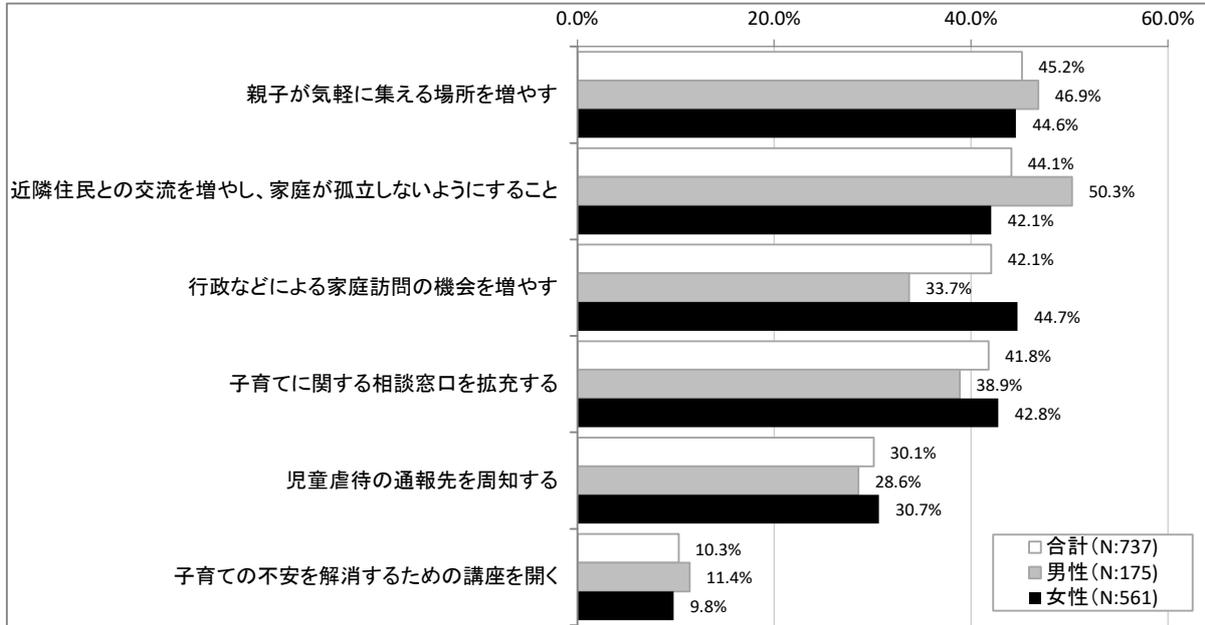
「経済環境（貧困など）」の割合は、「本人は無職、パートナーは就労」（61.3%）が他就業状況より大きい。「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」は「本人は就労、パートナーは無職」（62.5%）が他就業状況より大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「経済環境（貧困など）」の割合は、「小学生1年生～3年生」の割合（65.3%）が最も大きくなっている。「夫婦や家族関係で不和・トラブルがある」は「高校生以上」（66.3%）が他就学状況より大きくなっている。

問46. 虐待の未然防止のための方策として、あなたの考えに近いものは次のうちどれですか。
(3つまで)

・虐待の未然防止のための方策

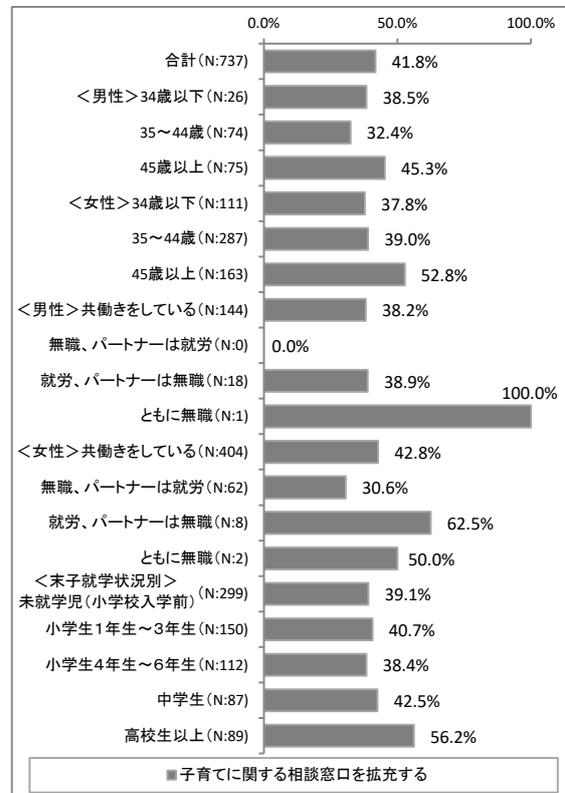
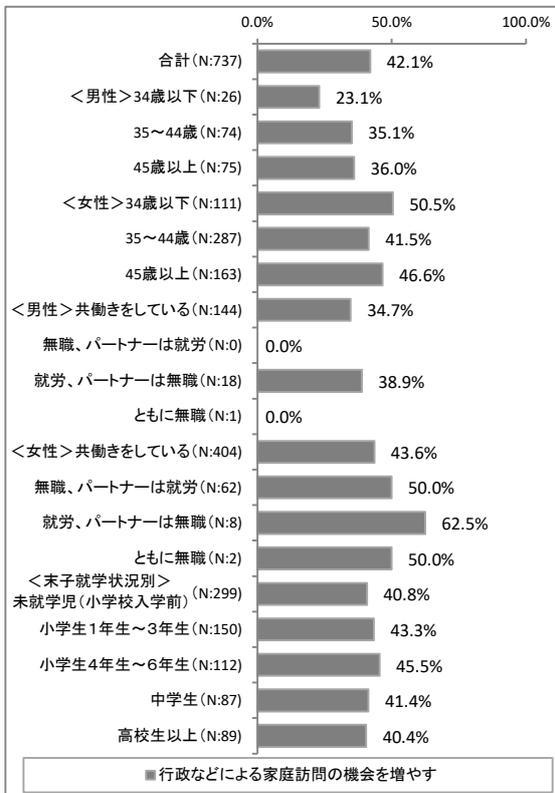
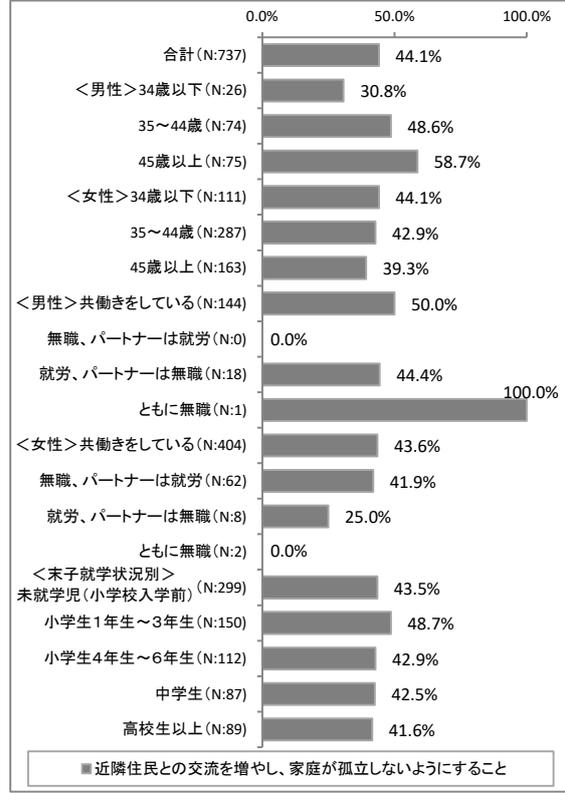
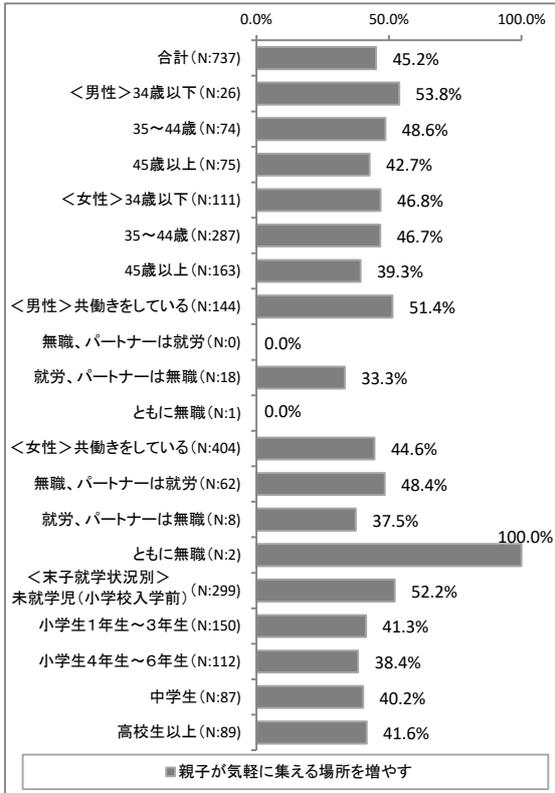


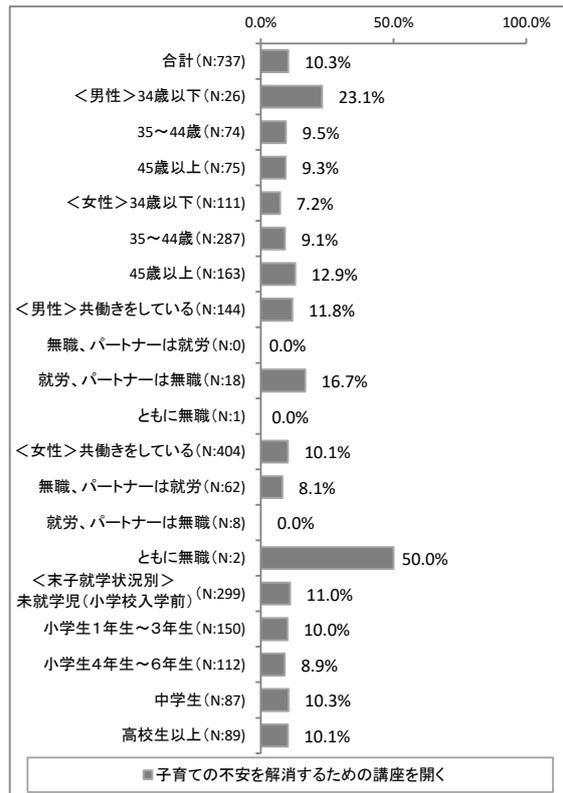
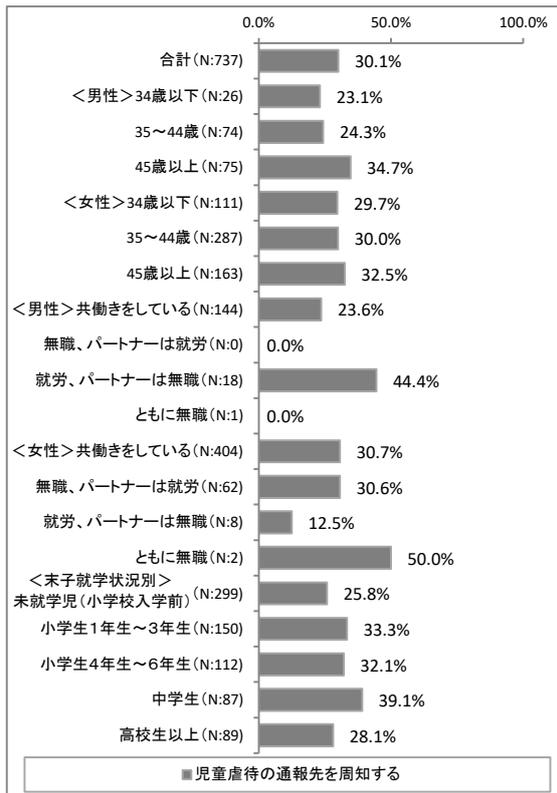
「親子が気軽に集える場所を増やす」が45.2%と最も大きく、次いで「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」が44.1%、「行政などによる家庭訪問の機会を増やす」が42.1%、「子育てに関する相談窓口を拡充する」が41.8%の順となっている。

【男女別】

男性では「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」の割合が50.3%と最も大きくなっており、「親子が気軽に集える場所を増やす」の46.9%より3.4ポイント大きい。女性は「行政などによる家庭訪問の機会を増やす」(44.7%)、「親子が気軽に集える場所を増やす」(44.6%)の割合が最も大きく、次いで「子育てに関する相談窓口を拡充する」42.8%、「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」42.1%となっている。また、「行政などによる家庭訪問の機会を増やす」が11ポイント、女性の方が男性よりも大きくなっていて、「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」は、男性の方が女性よりも8.2ポイント大きくなっていて。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の虐待の未然防止のための方策





【男性年齢別】

「親子が気軽に集える場所を増やす」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」で53.8%と最も大きくなっている。「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合が58.7%で最も大きい。

【女性年齢別】

「子育てに関する相談窓口を拡充する」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で52.8%と最も大きくなっている。「親子が気軽に集える場所を増やす」、「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」の割合がそれぞれ46.8%、44.1%で最も大きい。

【男性共働きの有無別】

「親子が気軽に集える場所を増やす」、「近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること」の割合は、「共働き」（それぞれ51.4%、50.0%）で「本人は就労、パートナーは無職」より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

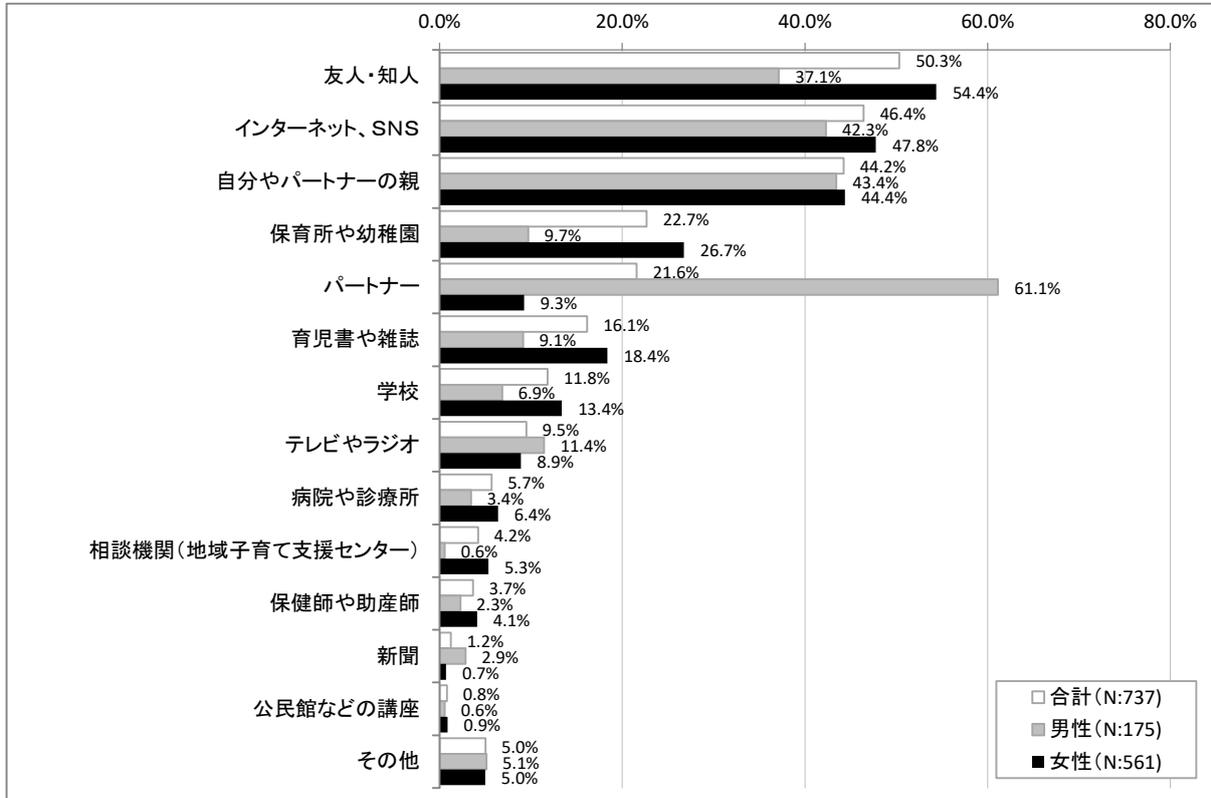
「行政などによる家庭訪問の機会を増やす」、「子育てに関する相談窓口を拡充する」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」（どちらも62.5%）が他就業状況より大きい。「親子が気軽に集える場所を増やす」は「本人は無職、パートナーは就労」（48.4%）が他就業状況より大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「親子が気軽に集える場所を増やす」の割合は、「未就学児」の割合（52.2%）が最も大きくなっている。「子育てに関する相談窓口を拡充する」は「高校生以上」（56.2%）が他就学状況より大きくなっている。

問47. あなたは、子育ての知識を主にどこから得ていますか。(3つまで)

・子育ての知識の情報源



「友人・知人」が 50.3%と最も大きく、次いで「インターネット、SNS」46.4%、「自分やパートナーの親」44.2%の順となっている。以下、「保育所や幼稚園」、「パートナー」、「育児書や雑誌」、「学校」が続いている。

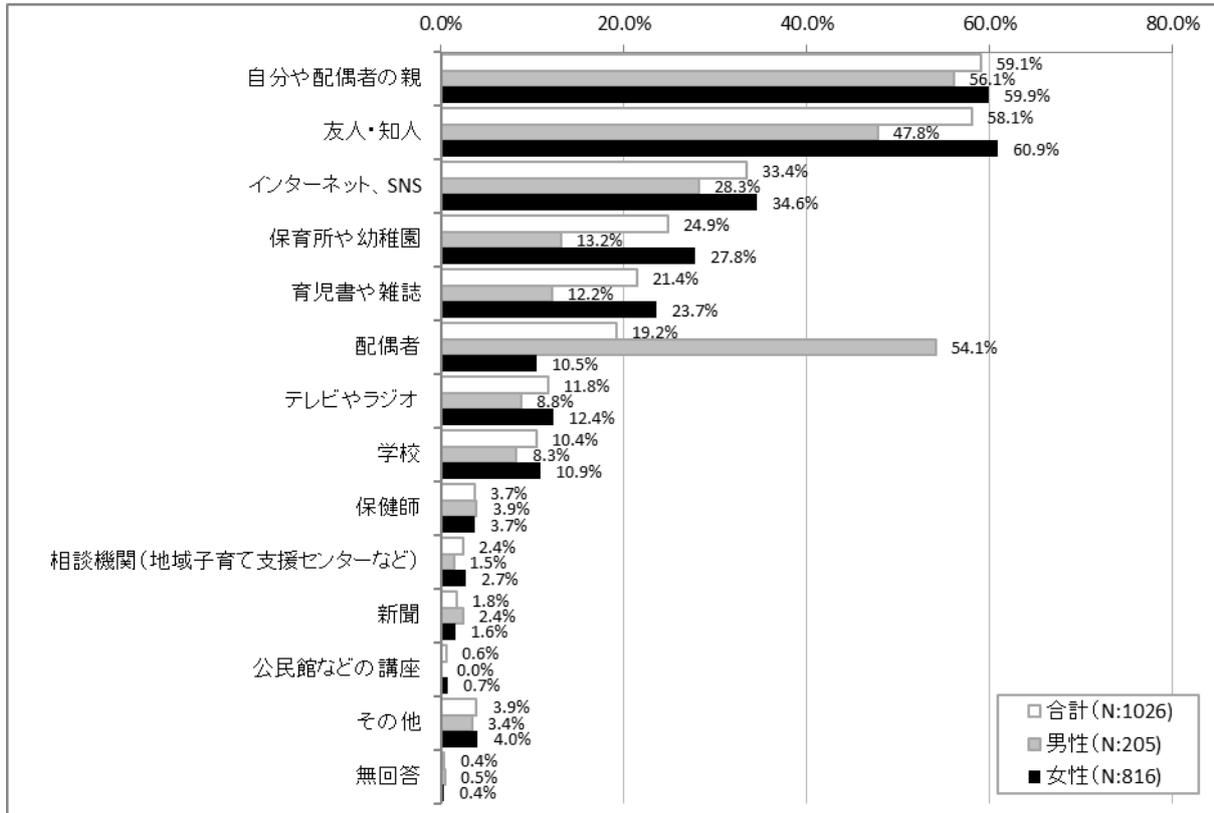
前回調査では、「自分や配偶者の親」59.1%、「友人・知人」58.1%、「インターネット、SNS」33.4%の割合、順位で、以下、「保育所や幼稚園」、「育児書や雑誌」、「配偶者」、「テレビやラジオ」が続いている。前回と比べて、「自分やパートナー（配偶者）の親」が 14.9 ポイント減少しているが、「インターネット、SNS」は 13 ポイント増加している。

【男女別】

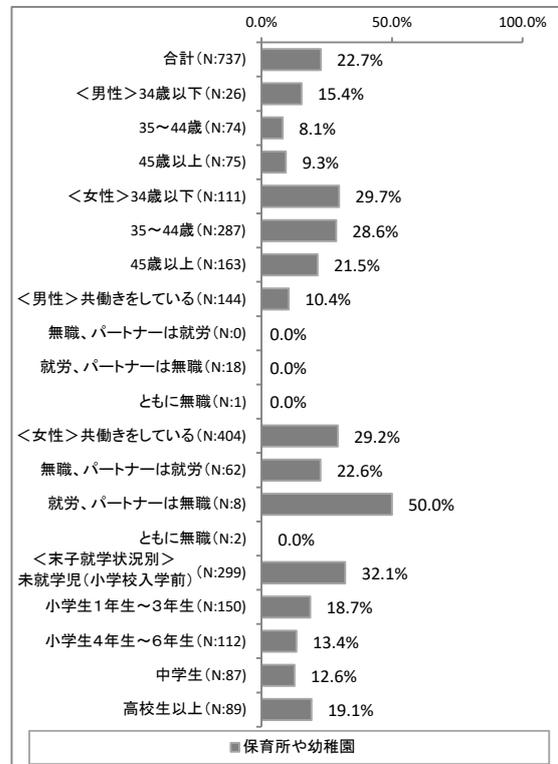
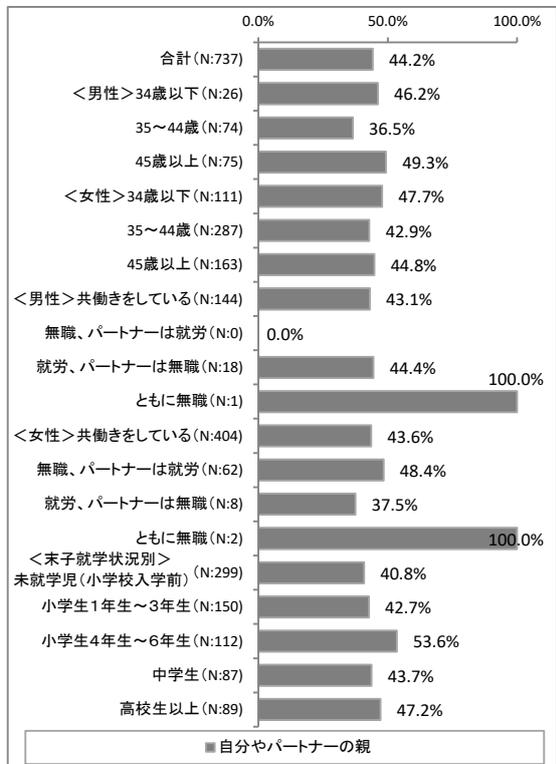
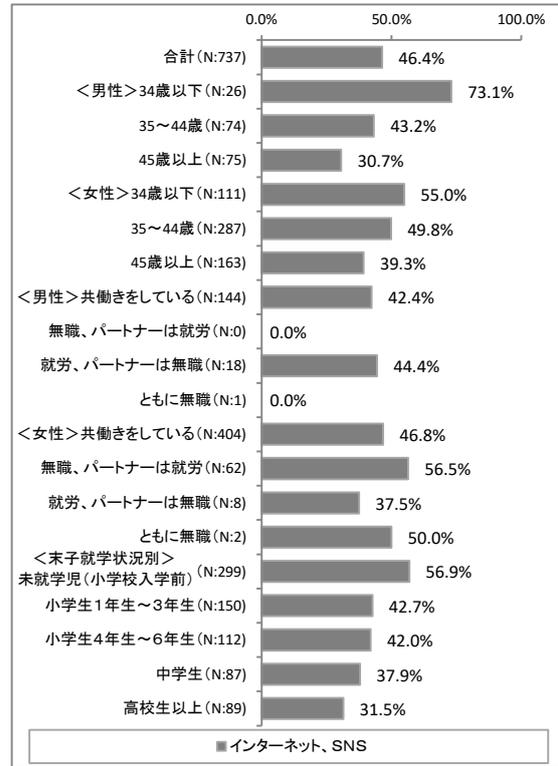
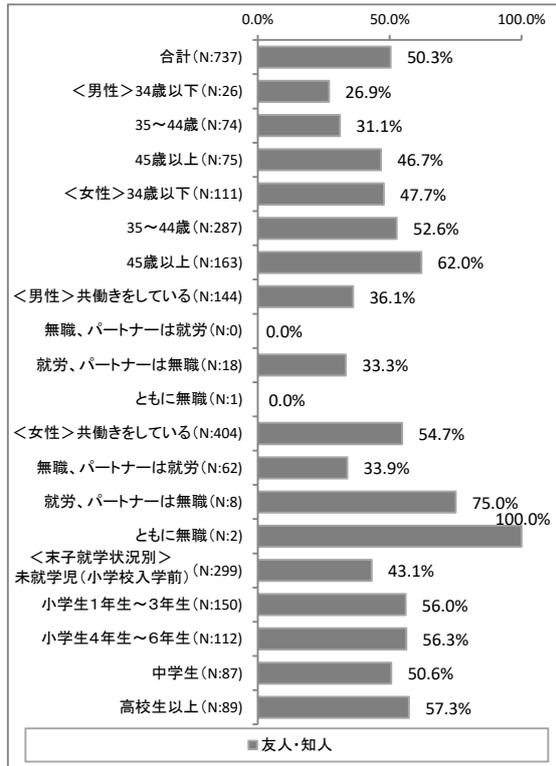
男性では、「パートナー」61.1%、「自分やパートナーの親」43.4%、「インターネット、SNS」42.3%、「友人・知人」37.1%の割合、順位となっている。

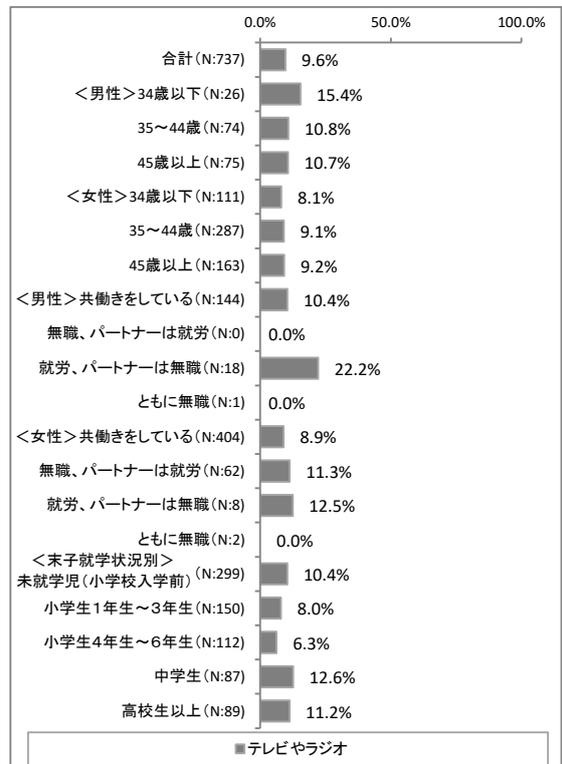
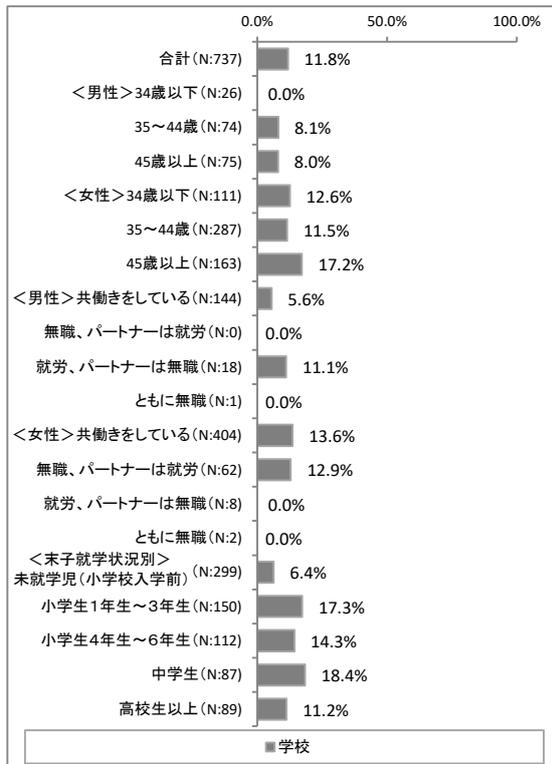
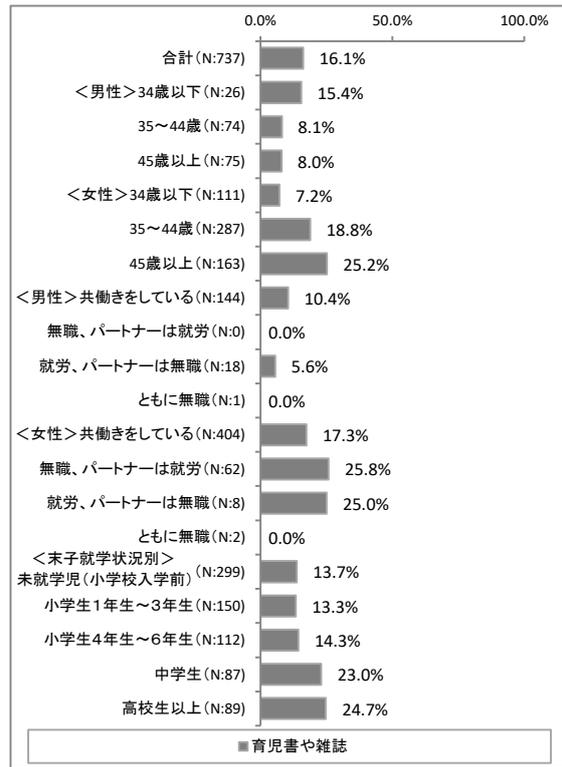
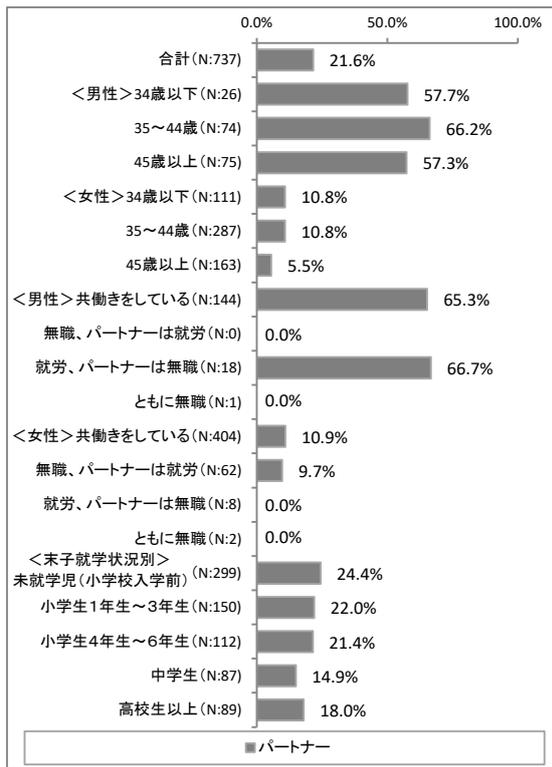
女性は「友人・知人」(54.4%)、「保育所や幼稚園」(26.7%)で男性との差がそれぞれ 17.3 ポイント、17 ポイント見られる。「パートナー」の割合は、男性 (61.1%)の方が女性 (9.3%)よりも大きくなっており、51.8 ポイントの差が見られる。

(参考) 前回調査



・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の子育ての情報源（上位8項目）





【男性年齢別】

「パートナー」は各年代とも 57%以上となっている。「インターネット、SNS」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34 歳以下」で 73.1%と最も大きくなっている。「友人・知人」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45 歳以上」で 46.7%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「友人・知人」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45 歳以上」で 62.0%となっている。

「インターネット、SNS」、「保育所や幼稚園」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34 歳以下」でそれぞれ 55.0%、29.7%となっている。

【男性共働きの有無別】

「パートナー」、「インターネット、SNS」、「自分やパートナーの親」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」（それぞれ 66.7%、44.4%、44.4%）が「共働き」より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

「友人・知人」は、「本人は就労、パートナーは無職」（75.0%）の割合で、「共働き」（54.7%）と 20.3 ポイントの差がみられる。

【末子の就学状況別】

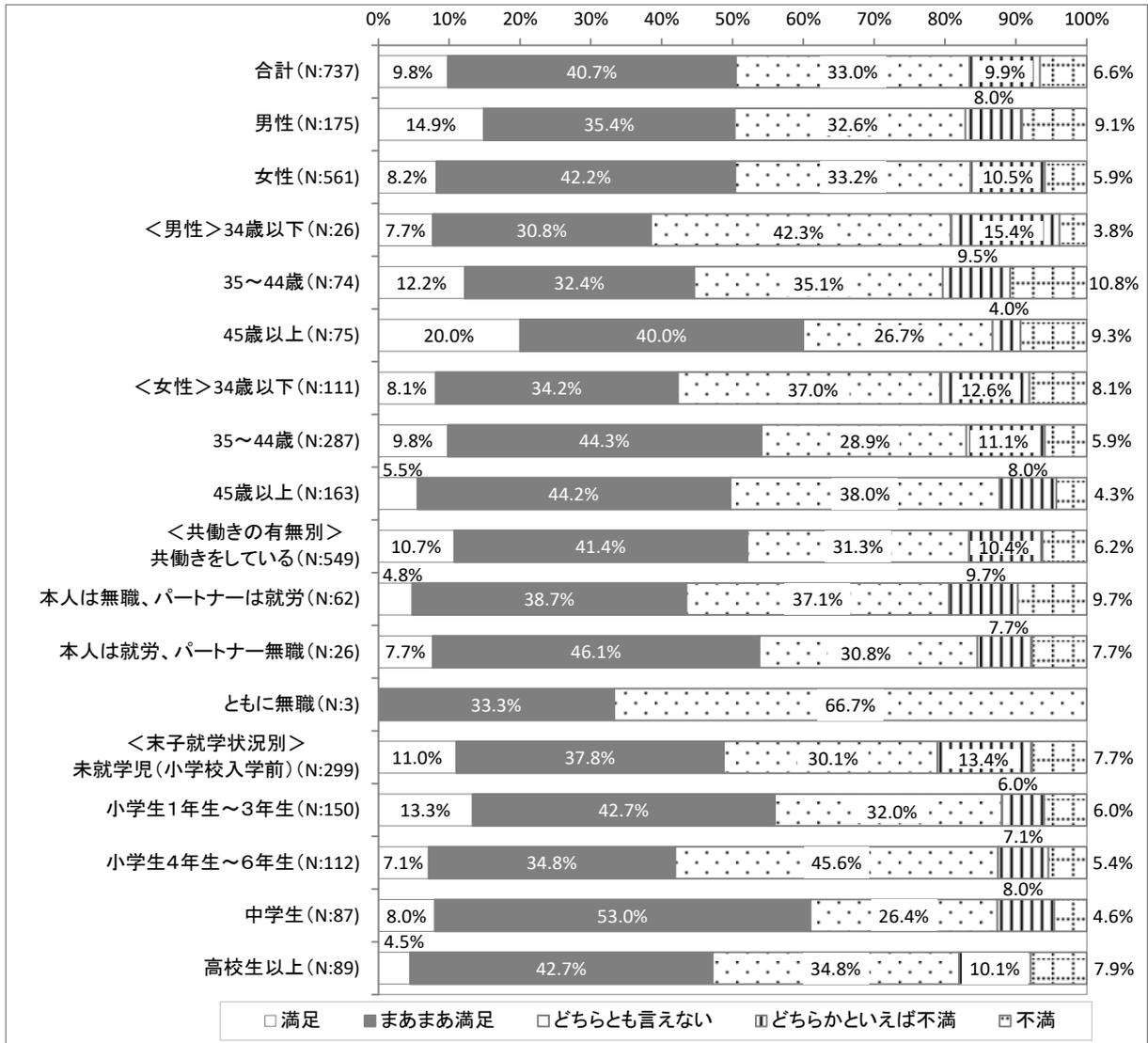
「インターネット、SNS」、「保育所や幼稚園」、「パートナー」の割合は、「未就学児」（それぞれ 56.9%、32.1%、24.4%）が他就学状況よりも大きくなっている。

「友人・知人」、「育児書や雑誌」の割合は、「高校生以上」（それぞれ 57.3%、24.7%）が他就学状況よりも大きくなっている。

保育環境について

問48. 本県の保育環境に満足していますか。

・ 本県の保育環境



「満足」が9.8%、「まあまあ満足」が40.7%で、合計すると50.5%が満足している。「どちらかといえば不満」、「不満」の合計は16.5%となっている。

【男女別】

「満足」で男性が14.9%、女性が8.2%で女性が6.7ポイント小さくなっている。「満足」、「まあまあ満足」の合計では、男性50.3%、女性50.4%となっており、その差は0.1ポイントである。

【男性年齢別】

「満足」は「45歳以上」で20.0%、「まあまあ満足」は「45歳以上」で40.0%と最も大きくなっている。「満足」と「まあまあ満足」の合計では、「45歳以上」が60.0%と最も大きくなっている。一方で、「どちらかといえば不満」、「不満」の合計が「35～44歳」で20.3%と最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「満足」、「まあまあ満足」の合計は、「35～44歳」が54.1%、「45歳以上」が49.7%、「34歳以下」が42.3%となっている。「どちらかといえば不満」、「不満」の合計は、「34歳以下」が20.7%、「35～44歳」が17.0%、「45歳以上」が12.3%となっている。

【共働きの有無別】

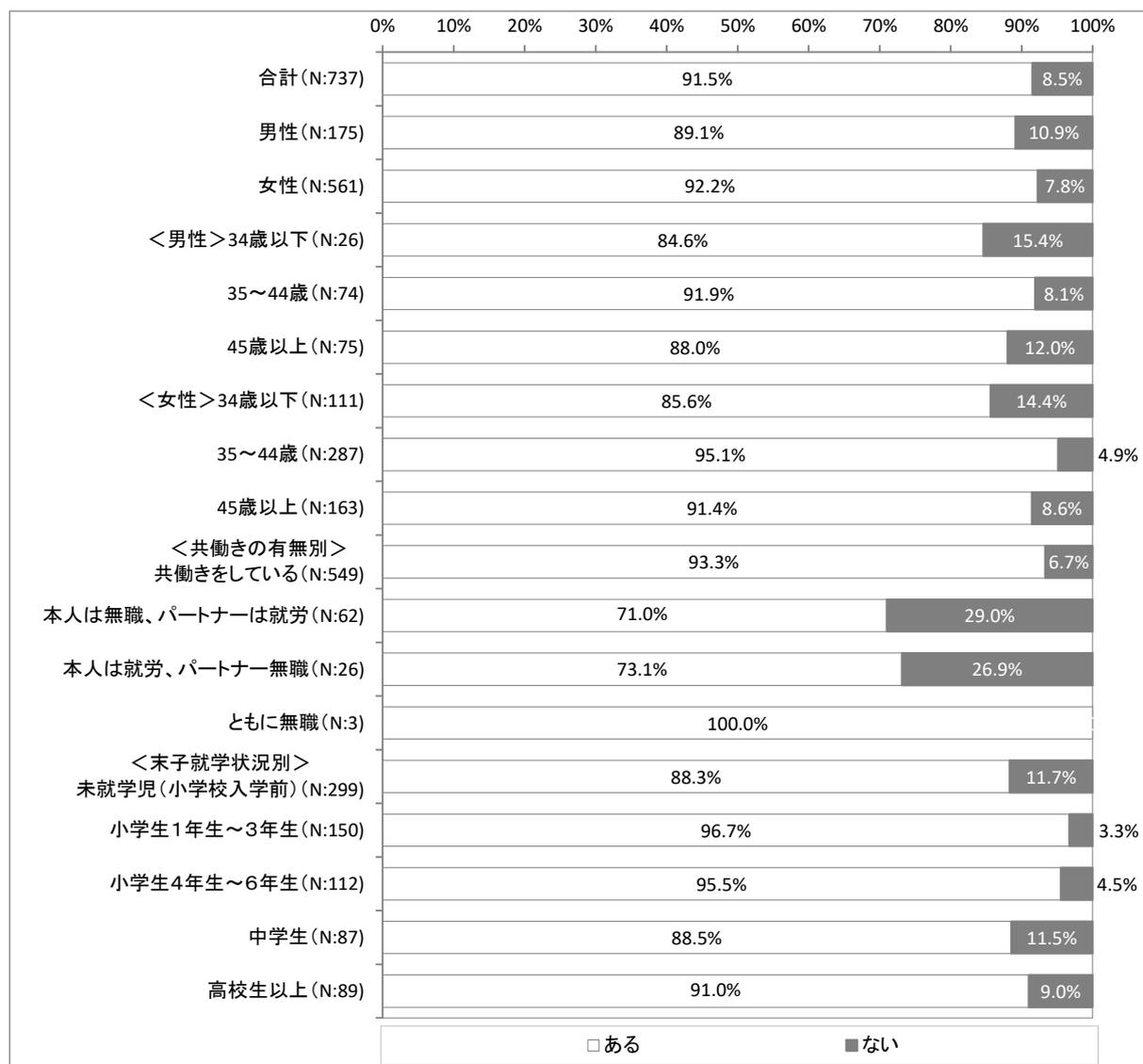
「満足」は「共働き」で10.7%と最も大きくなっている。「まあまあ満足」は「本人は就労、パートナーは無職」が46.1%、「共働き」が41.4%となっている。「満足」と「まあまあ満足」の合計では、「本人は就労、パートナーは無職」で53.8%と最も大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「満足」の割合は、「小学生1年生～3年生」13.3%、「まあまあ満足」の割合は、「中学生」53.0%で最も大きくなっている。「満足」と「まあまあ満足」の合計では、「中学生」が61.0%で最も大きくなっている。「どちらかといえば不満」、「不満」の合計は、「高校生以上」で18.0%と最も大きくなっている。

問49. お子さんを保育施設に入所させていますか。あるいは、過去に入所させていたことがありますか。

・保育施設入所状況



「ある」が91.5%で、ほとんどが保育施設に入所させている、あるいは、過去に入所させていたことがある。

【男女別】

「ある」で男性が89.1%、女性が92.2%となっている。

【男性年齢別】

「ある」は「35~44歳」が91.9%で最も大きくなっており、「45歳以上」で88.0%、「34歳以下」が84.6%となっている。

【女性年齢別】

「ある」は「35～44歳」が95.1%で最も大きくなっており、「45歳以上」で91.4%、「34歳以下」が85.6%となっている。

【共働きの有無別】

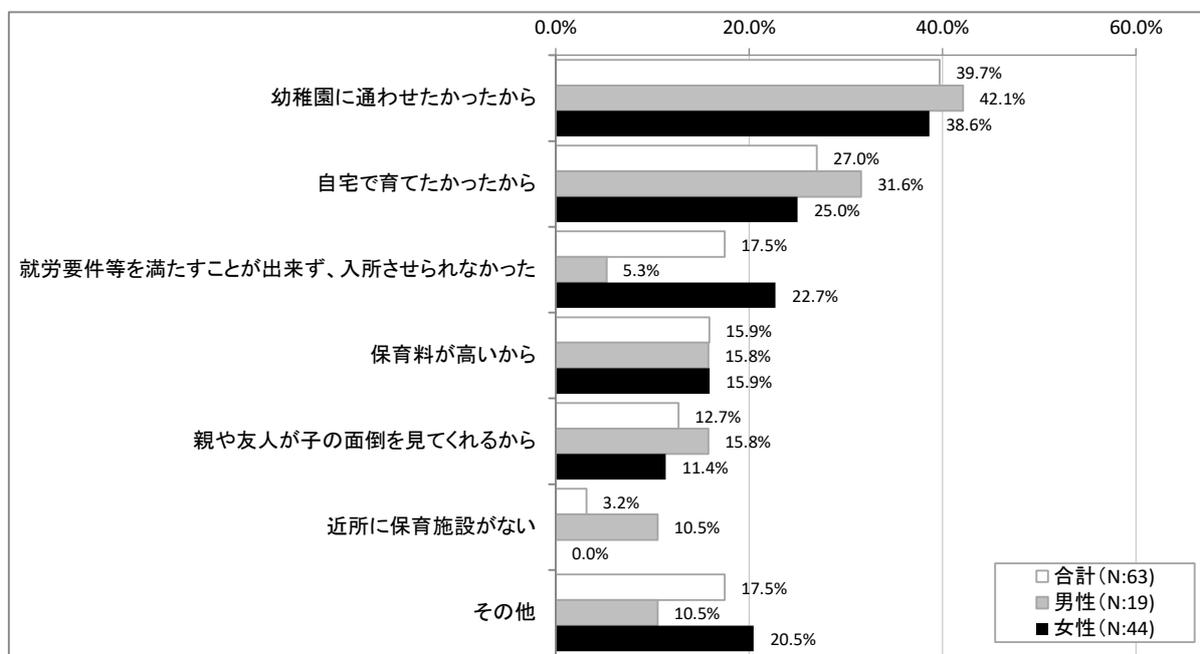
「ある」は「共働き」で93.3%と最も大きくなっている。「本人は就労、パートナーは無職」で73.1%、「本人は無職、パートナーは就労」が71.0%となっている。

【末子の就学状況別】

「ある」の割合は、「小学生1年生～3年生」96.7%、「小学生4年生～6年生」95.5%、「高校生以上」91.0%、「中学生」88.5%、「未就学児」88.3%となっている。

問50. お子さんを保育施設に入所させていない、または、入所させていなかった理由を教えてください。(3つまで)

・ 保育施設未入所の理由

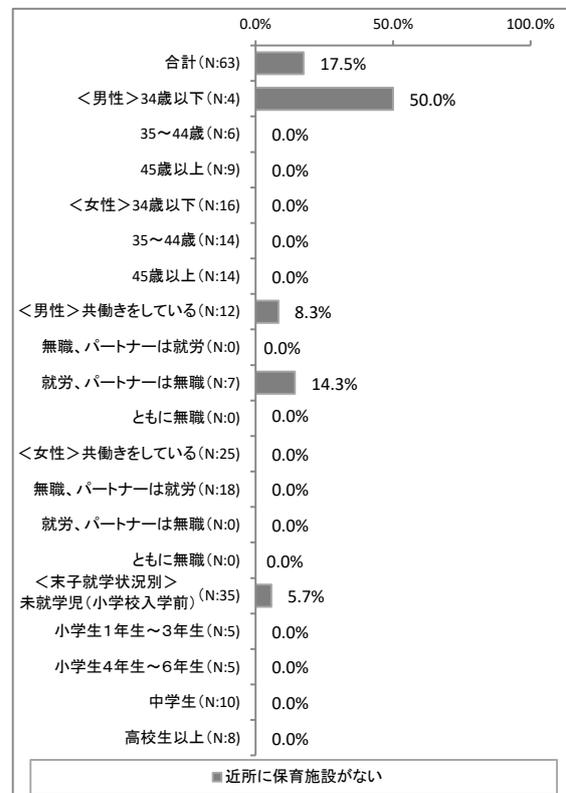
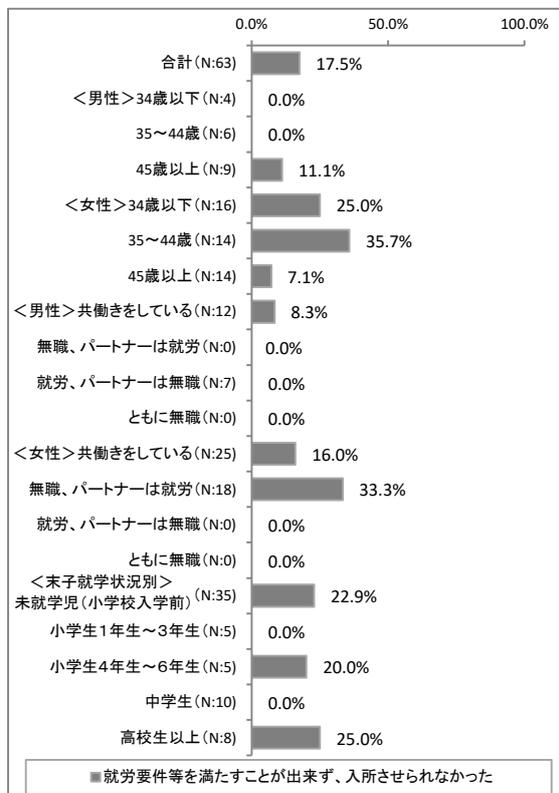
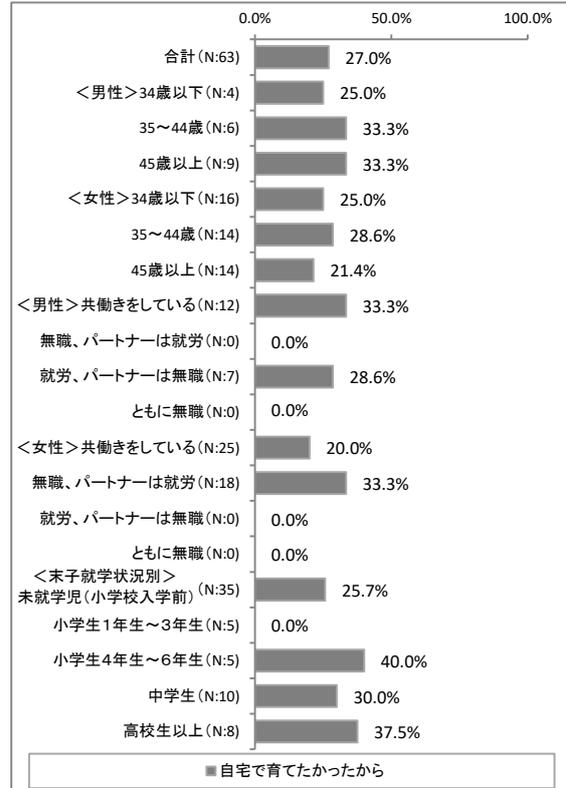
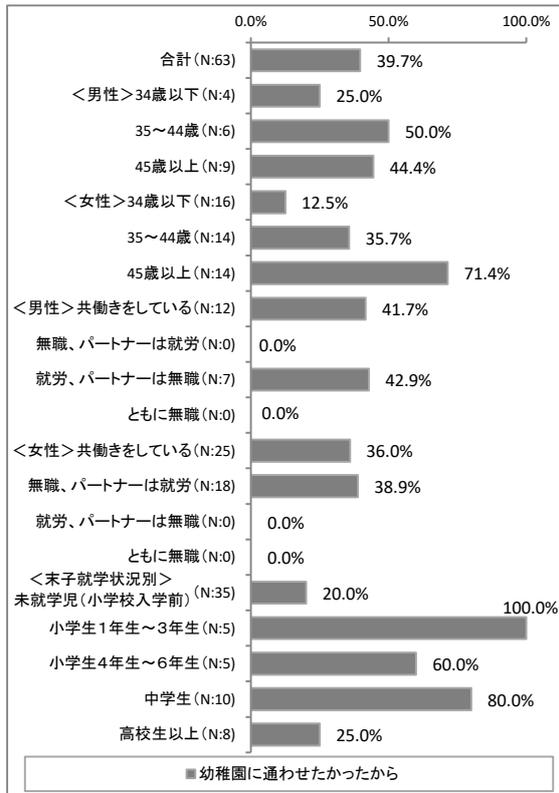


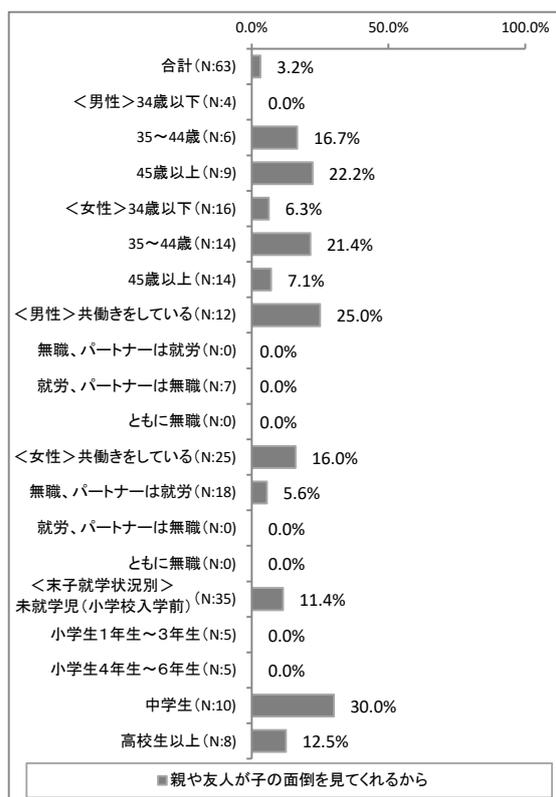
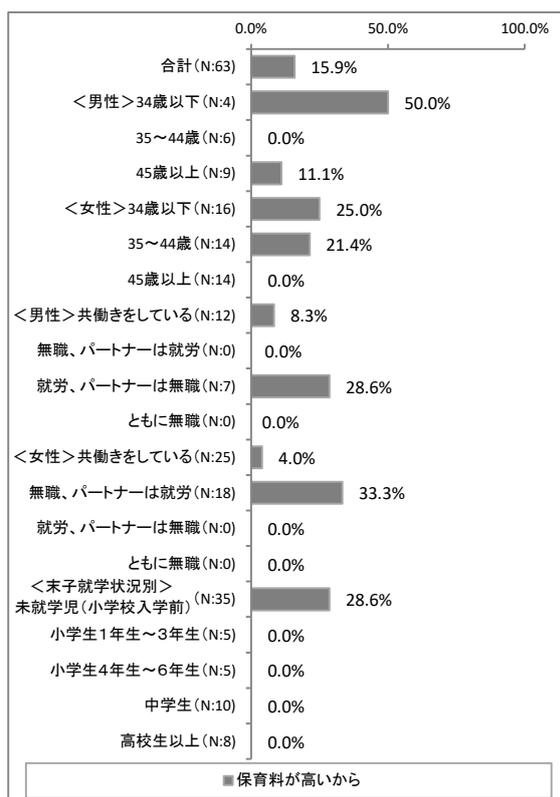
「幼稚園に通わせなかったから」の割合が39.7%と最も大きく、次いで「自宅で育てたかったから」が27.0%、「就労要件等を満たすことが出来ず、入所させられなかった」が17.5%、「保育料が高いから」が15.9%の順となっている。

【男女別】

男性では「幼稚園に通わせなかったから」の割合が42.1%と最も大きくなっており、「自宅で育てたかったから」の31.6%より10.5ポイント大きい。女性は「幼稚園に通わせなかったから」38.6%、次いで「自宅で育てたかったから」25.0%となっている。また、「就労要件等を満たすことが出来ず、入所させられなかった」(22.7%)が、女性の方が男性よりも17.4ポイント大きくなっていて、「近所に保育施設がない」は、男性10.5%、女性0.0%で、男性の方が女性よりも10.5ポイント大きくなっていてる。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の保育施設未入所の理由





【男性年齢別】

「幼稚園に通わせたかったから」の割合は、「35~44歳」で50.0%となっている。「自宅で育てたかったから」の割合は、「35~44歳」、「45歳以上」でどちらも33.3%となっている。

【女性年齢別】

「幼稚園に通わせたかったから」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」で71.4%と最も大きくなっている。「自宅で育てたかったから」の割合は、「35~44歳」が28.6%、「34歳以下」が25.0%となっている。

【男性共働きの有無別】

「幼稚園に通わせたかったから」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」42.9%、「共働き」41.7%で1.2ポイントの差となっている。「自宅で育てたかったから」の割合は、「共働き」33.3%で、「本人は就労、パートナーは無職」(28.6%)より大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

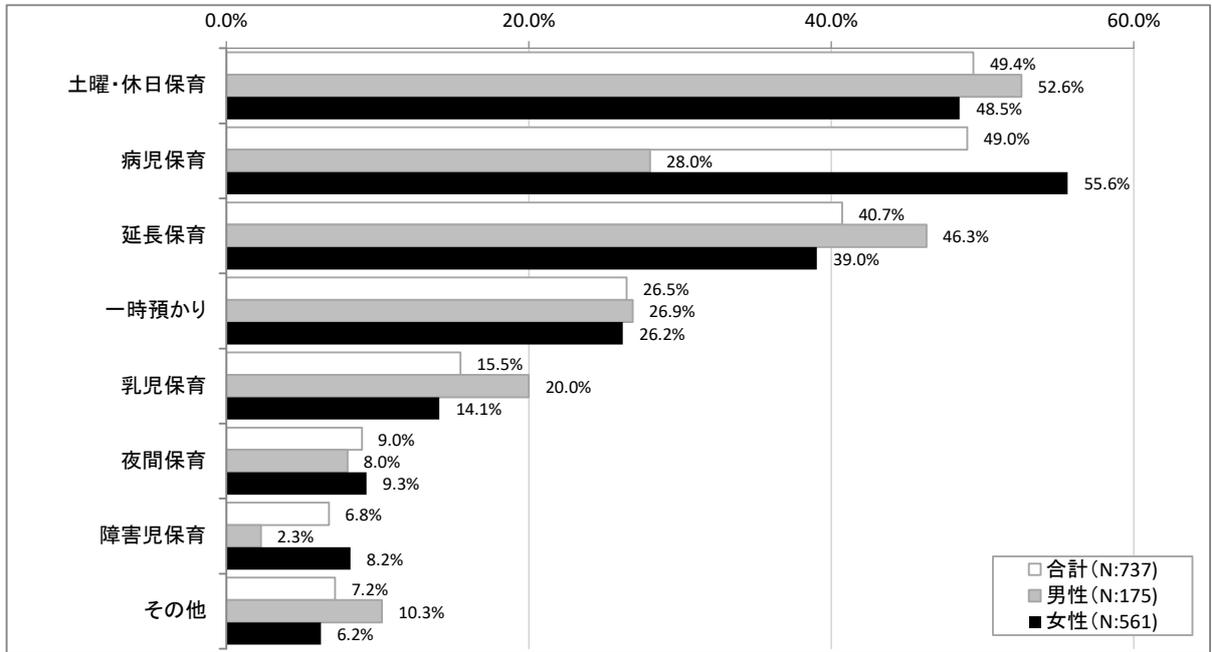
「幼稚園に通わせたかったから」の割合は、「本人は無職、パートナーは就労」(38.9%)、「共働き」(36.0%)となっている。「自宅で育てたかったから」の割合は、「本人は無職、パートナーは就労」33.3%で、「共働き」(20.0%)より13.3ポイント大きい。

【末子の就学状況別】

「幼稚園に通わせたかったから」の割合は、「小学生1年生~3年生」で100.0%、「中学生」で80.0%となっている。「自宅で育てたかったから」の割合は、「小学生4年生~3年生」の割合(40.0%)が他就学状況より大きくなっている。

問51. 保育サービス等で充実してほしいことは何ですか。(3つまで)

・ 保育サービス等の希望

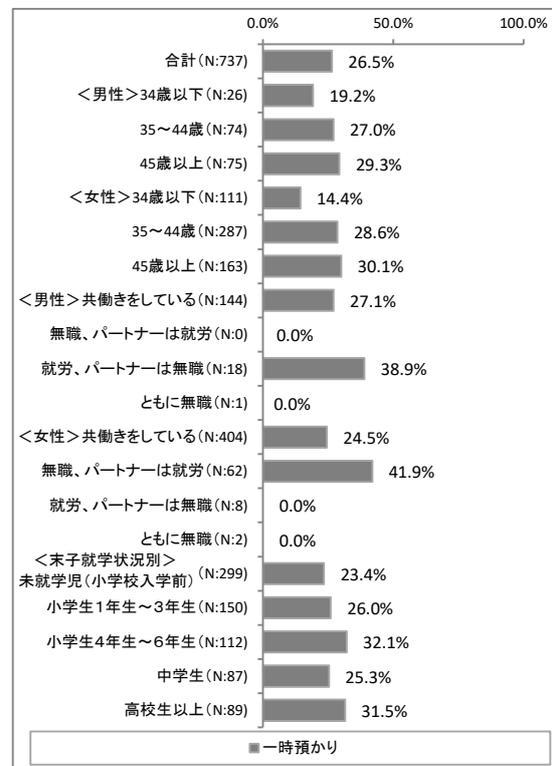
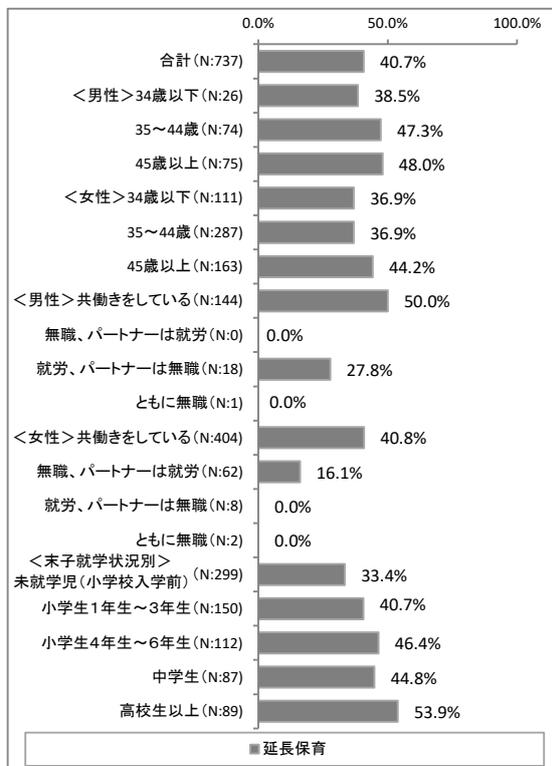
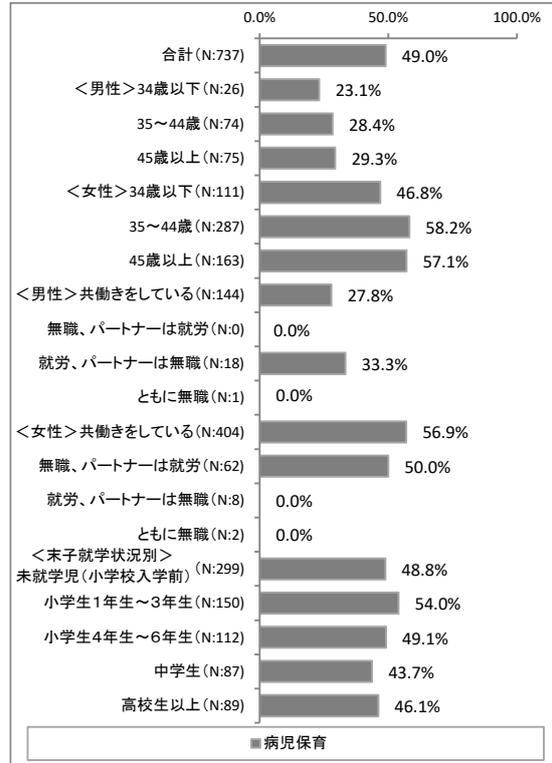
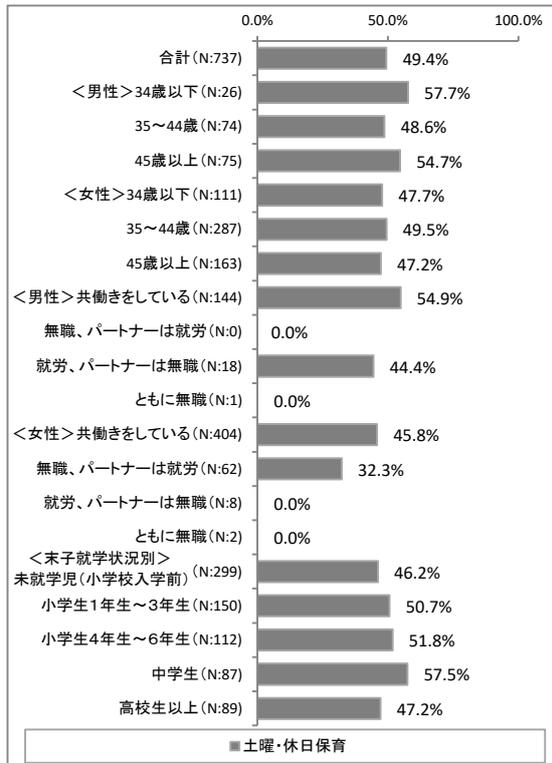


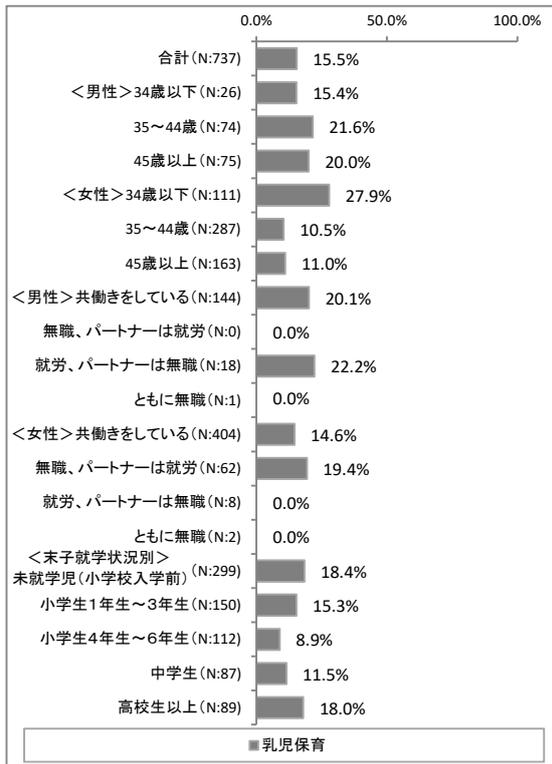
「土曜・休日保育」が49.4%と最も大きく、次いで「病児保育」が49.0%、「延長保育」が40.7%、「一時預かり」26.5%、「乳児保育」15.5%の順となっている。

【男女別】

男性では「土曜・休日保育」の割合が52.6%と最も大きくなっており、「延長保育」の46.3%より6.3ポイント大きい。女性は「病児保育」の割合が55.6%と最も大きく、次いで「土曜・休日保育」が48.5%となっている。また、「病児保育」が女性（55.6%）の方が男性（28.0%）よりも27.6ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・共働きの有無別、末子就学状況別の保育サービス等の希望





【男性年齢別】

「土曜・休日保育」の割合は、「34歳以下」で57.7%となっている。「病児保育」、「延長保育」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合がそれぞれ29.3%、48.0%で最も大きい。

【女性年齢別】

「土曜・休日保育」の割合は、「35～44歳」で49.5%と他年代より大きくなっているが、「34歳以下」でも47.7%、「45歳以上」でも47.2%となっている。「病児保育」の割合は、「35～44歳」で58.2%と大きくなっている。「一時預かり」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」の割合が30.1%で最も大きい。

【男性共働きの有無別】

「土曜・休日保育」の割合は、「共働き」(54.9%)で「本人は就労、パートナーは無職」(44.4%)より10.5ポイント、「延長保育」の割合は、「共働き」(50.0%)で「本人は就労、パートナーは無職」(27.8%)より22.2ポイント、大きくなっている。

「病児保育」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」(33.3%)で「共働き」(27.8%)より5.5ポイント、「一時預かり」の割合は、「本人は就労、パートナーは無職」(38.9%)で、「共働き」(27.1%)より11.8ポイント大きくなっている。

【女性共働きの有無別】

「病児保育」、「土曜・休日保育」、「延長保育」の割合は、「共働き」(それぞれ56.9%、45.8%、40.8%)が「本人は無職、パートナーは就労」より大きい。「一時預かり」は「本人は無職、パートナーは就労」(41.9%)が「共働き」(24.5%)より大きくなっている。

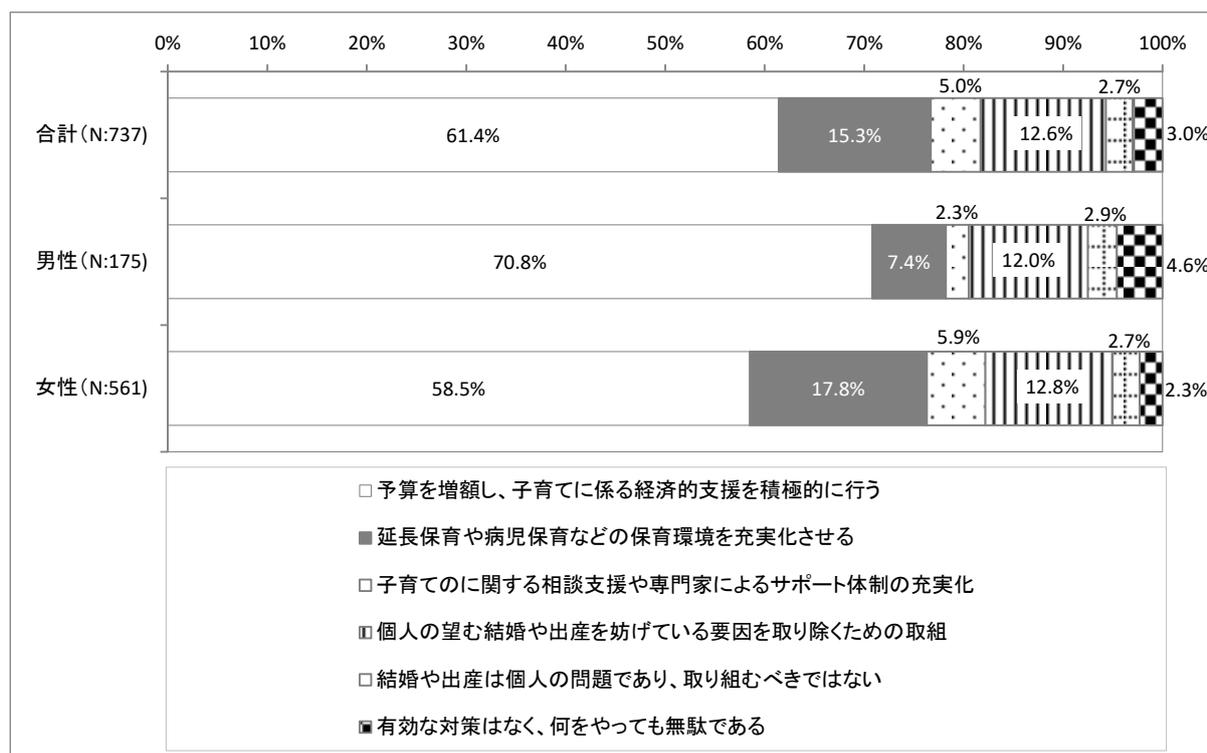
【末子の就学状況別】

「土曜・休日保育」の割合は、「中学生」の割合（57.5%）が最も大きくなっている。「病児保育」は「小学生1年生～3年生」（54.0%）が他就学状況より大きくなっている。

子ども数の減少について

問52. 少子化に対して、県はどのように取り組むべきだと考えますか。

・少子化に対して、県はどのように取り組むべきかの考え

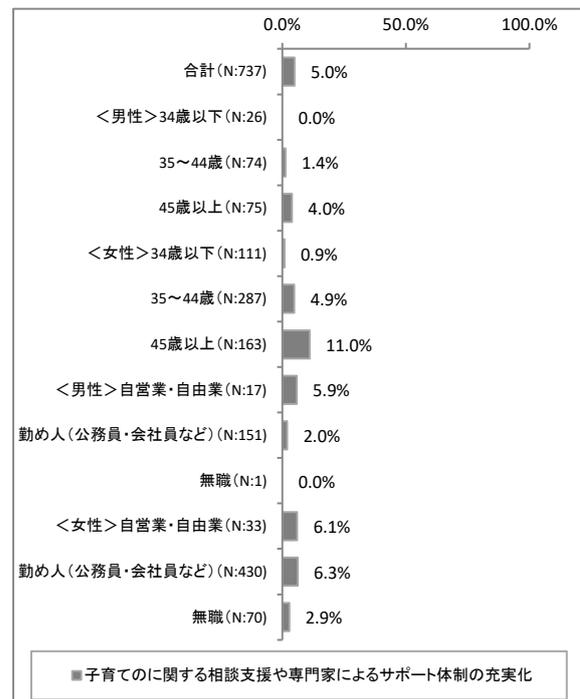
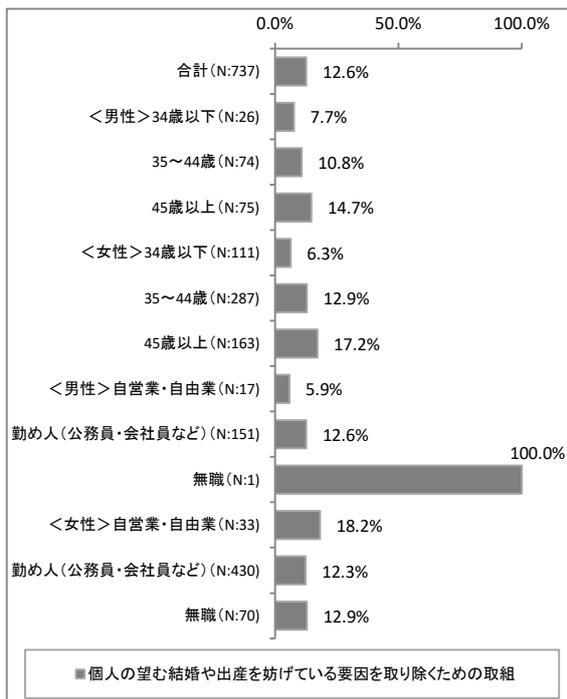
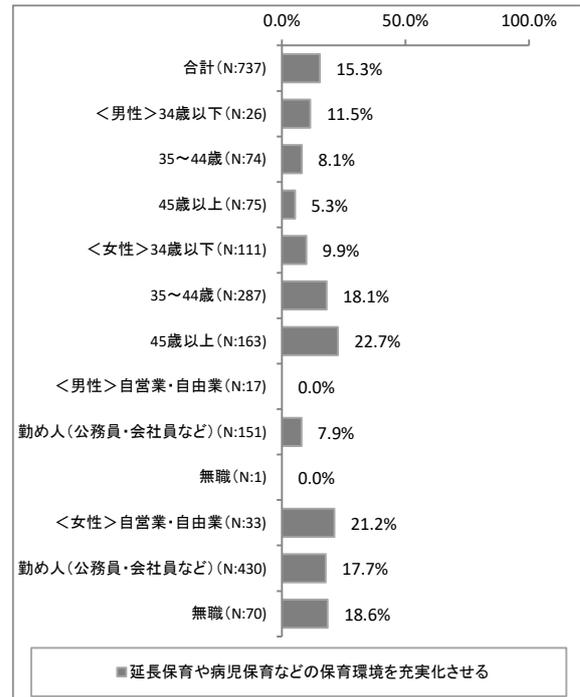
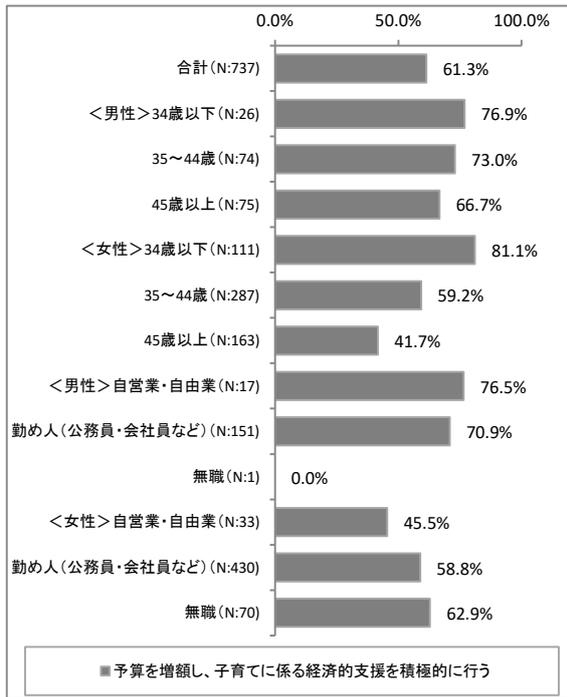


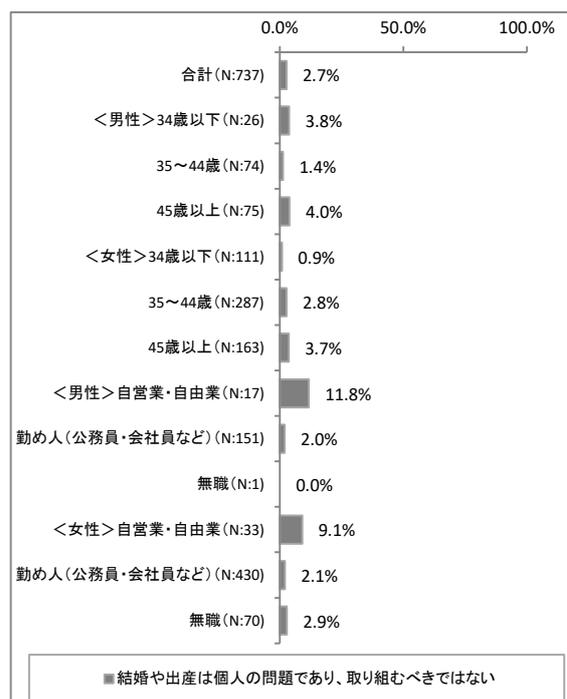
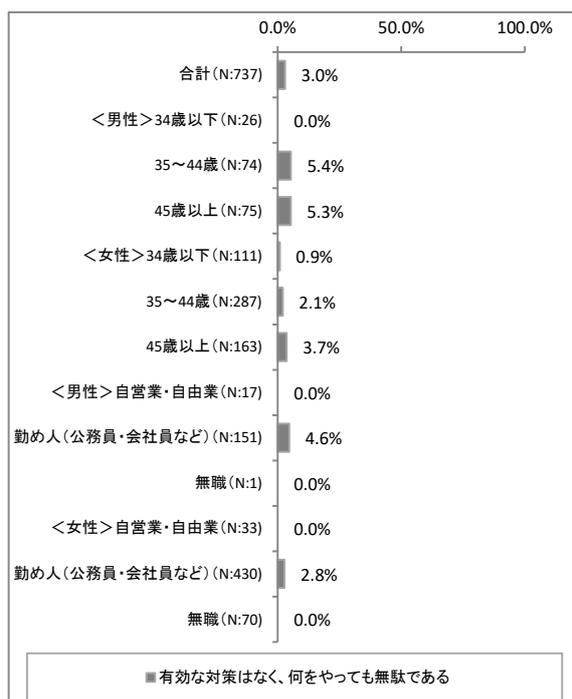
「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」が 61.4%、「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる」が 15.3%、「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取組」が 12.6%と、この3項目で全体の 89.3%を占めている。その他の項目は、いずれも割合が 5%以下となっている。

【男女別】

「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」で男性（70.8%）が女性（58.5%）よりも 12.3ポイント大きくなっており、「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる」で女性（17.8%）が男性（7.4%）よりも 10.4ポイント大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の少子化に対して、県はどのように取り組むべきかの考え





【男性年齢別】

「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」は、「34歳以下」(76.9%)で他の年代よりも大きくなっている。

また、「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(11.5%)で最も大きい。「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取組」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」(14.7%)で最も大きい。

【女性年齢別】

「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(81.1%)で最も大きい。

「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる」、「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取組」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」(それぞれ22.7%、17.2%)で最も大きい。

【男性職業別】

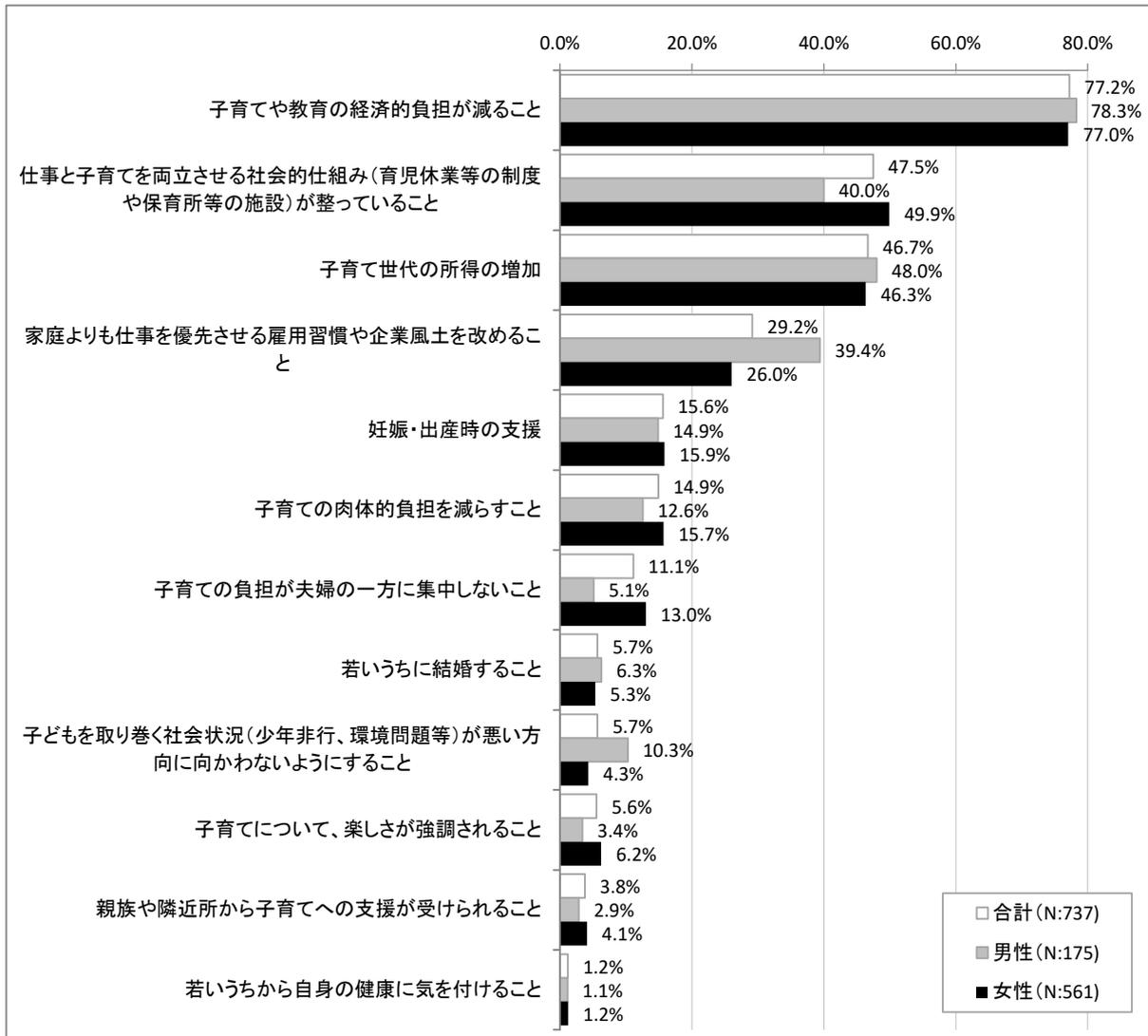
「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」は、「自営業・自由業」(76.5%)で「勤め人」より5.6ポイント大きい。

【女性職業別】

「予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う」、「延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる」の割合は、「無職」(それぞれ62.9%、18.6%)が最も大きい。「個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取組」については、「自営業・自由業」(18.2%)が最も大きい。

問53. 出生率を向上させるために必要なことは何だと思いますか。(3つまで)

・出生率を向上させるために必要なことについての考え（本人回答）

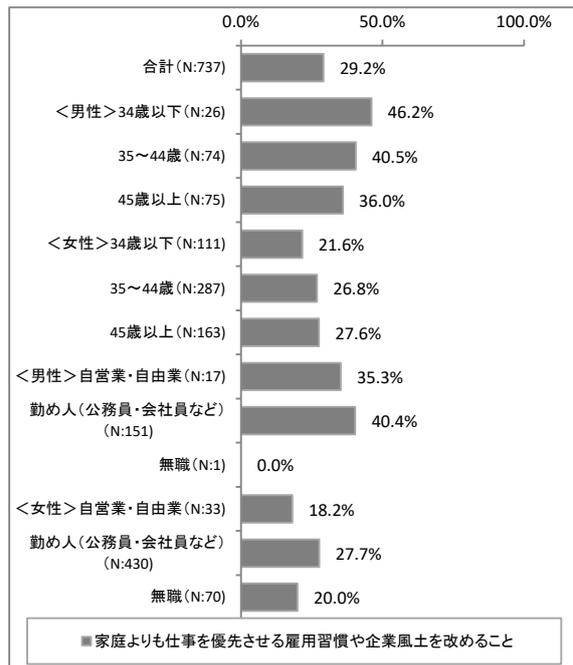
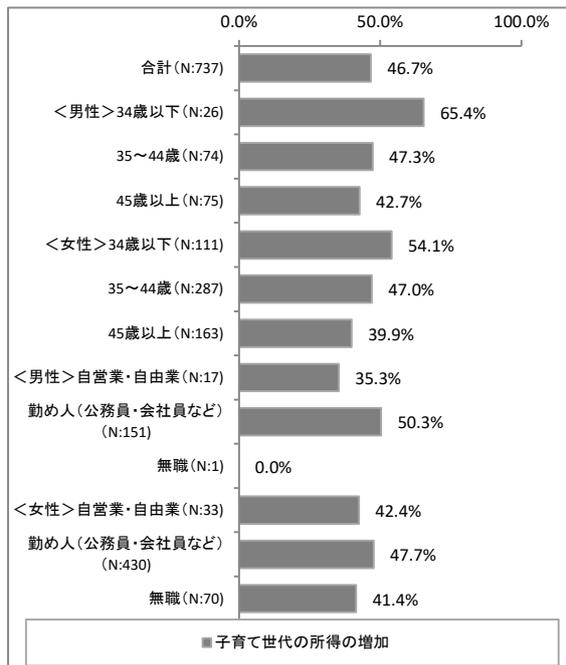
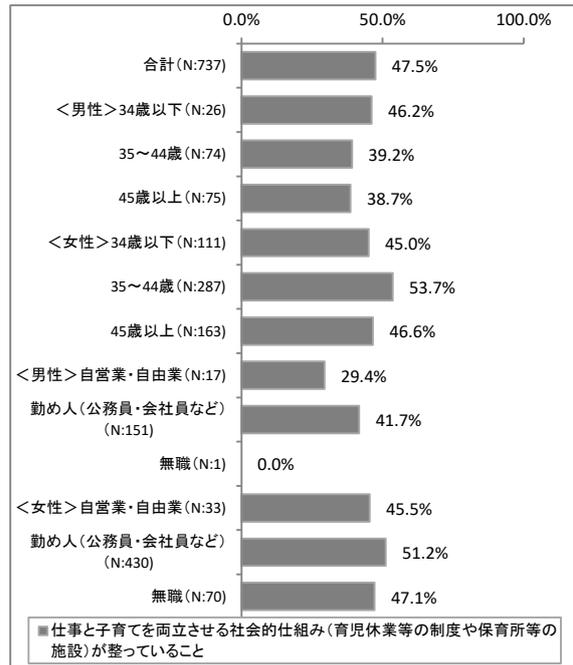
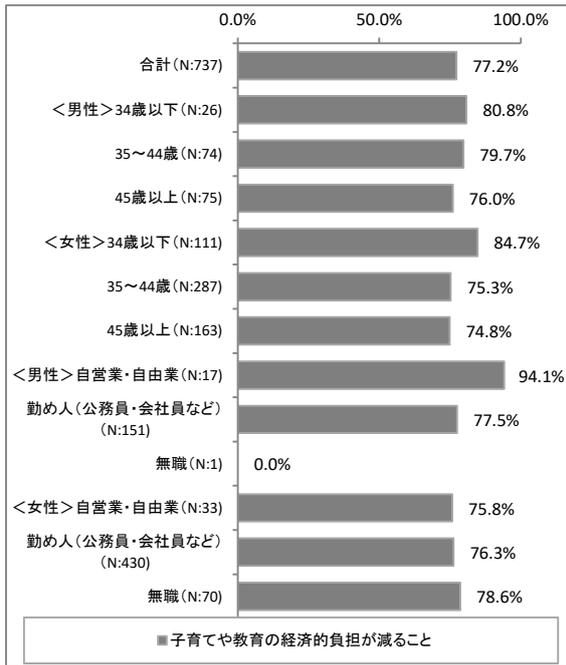


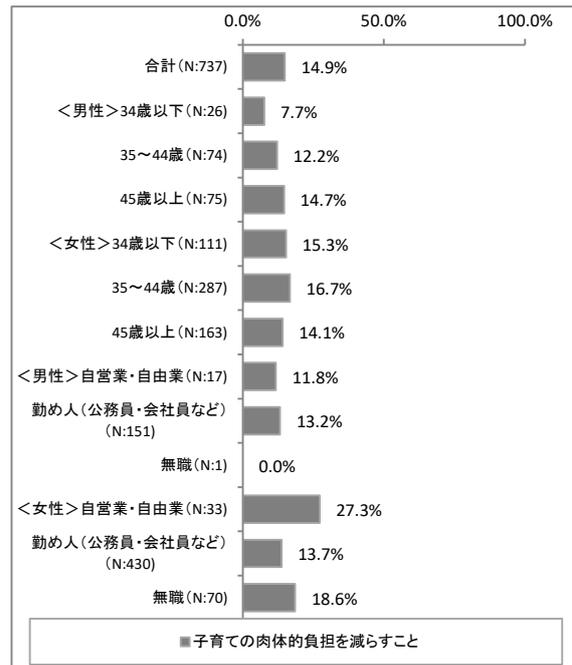
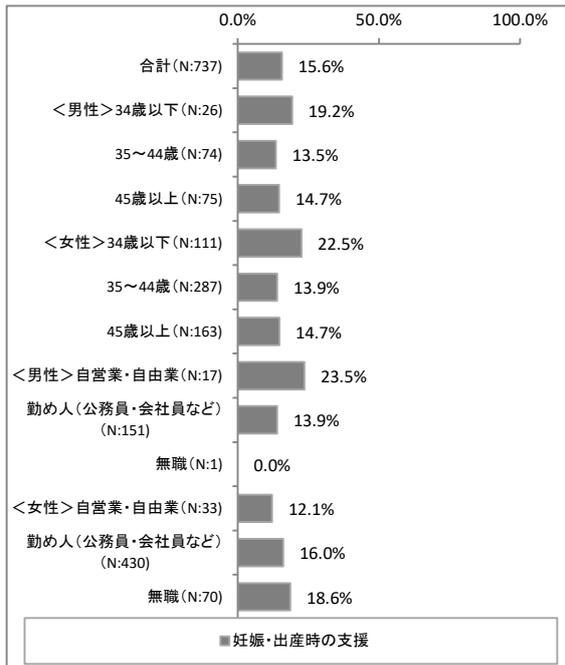
「子育てや教育の経済的負担が減ること」が77.2%と最も大きく、次いで「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」47.5%、「子育て世代の所得の増加」46.7%、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること」29.2%の順となっている。

【男女別】

「子育てや教育の経済的負担が減ること」は男性（78.3%）、女性（77.0%）と男女の差はあまり見られない。「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」の割合は、女性（49.9%）の方が男性（40.0%）よりも大きく、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること」は、男性（39.4%）の方が女性（26.0%）よりも大きくなっている。

・性・年齢別、性・職業別の出生率を向上させるために必要なことについての考え（本人回答）





【男性年齢別】

「子育てや教育の経済的負担が減ること」、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること」、「子育て世代の所得の増加」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（それぞれ80.8%、46.2%、65.4%、46.2%）で最も大きくなっている。

「子育ての肉体的負担を減らすこと」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（14.1%）で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「子育てや教育の経済的負担が減ること」、「子育て世代の所得の増加」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（それぞれ84.7%、54.1%）で最も大きくなっている。

「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」の割合は、「35~44歳」で53.7%と最も大きくなっている。

【男性職業別】

「子育てや教育の経済的負担が減ること」は「自営業・自由業」の割合（94.1%）が「勤め人」（77.5%）よりも大きくなっている。また、「子育て世代の所得の増加」、「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」、「家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること」は「勤め人」の割合（それぞれ50.3%、41.7%、40.4%）で「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

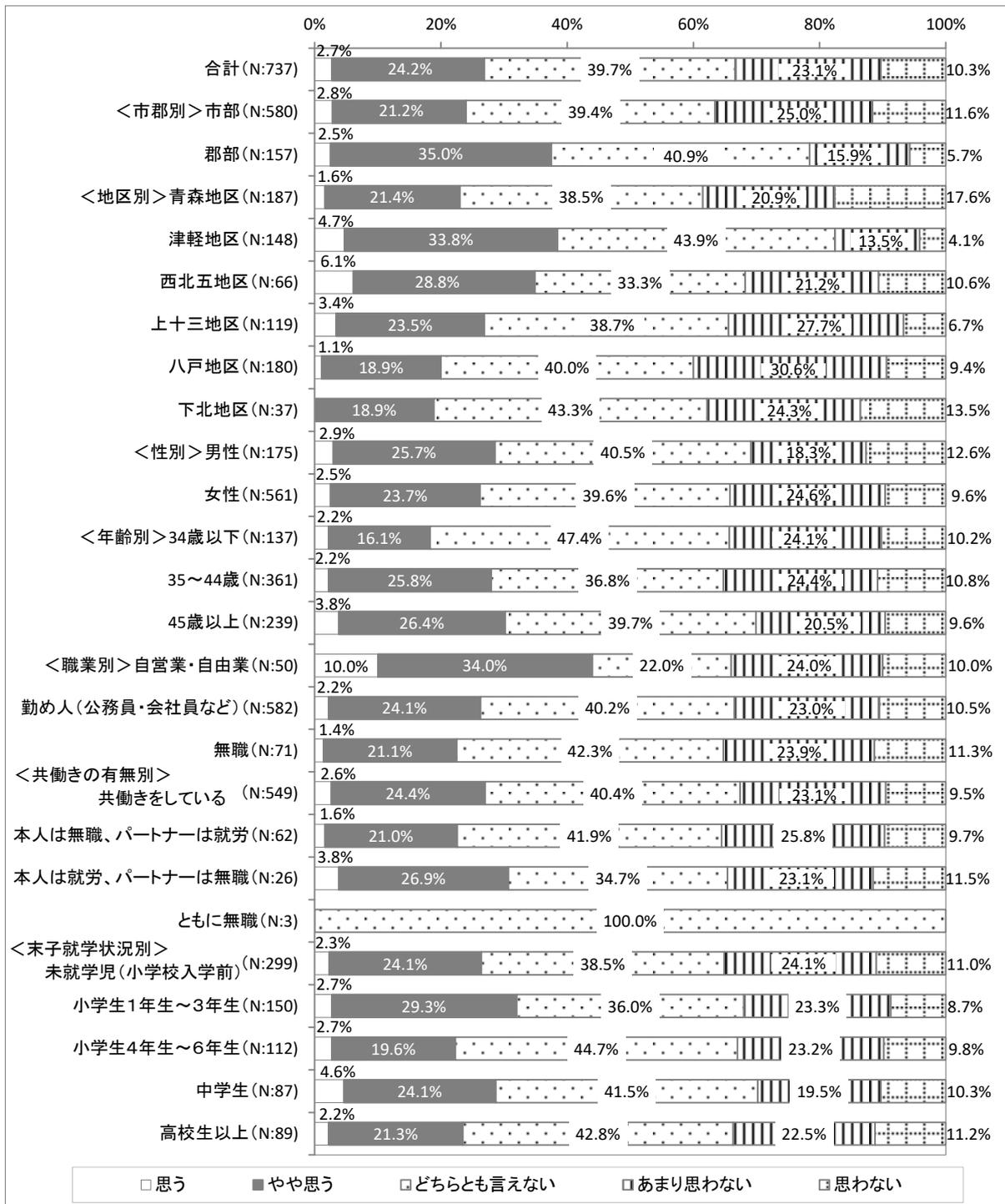
【女性職業別】

「子育てや教育の経済的負担が減ること」は、「無職」の割合（78.6%）が一番大きくなっている。「仕事と子育てを両立させる社会的仕組み（育児休業等の制度や保育所等の施設）が整っていること」、「子育て世代の所得の増加」は、「勤め人」の割合（それぞれ51.2%、47.7%）が「自営業・自由業」よりも大きくなっている。

子育て支援のための行政への要望等について

問54. 青森県は、子育てしやすい環境が整っていると思いますか。

・市郡、地区、性、年齢、職業、共働き有無、就学別の青森県の子育て環境



「どちらとも言えない」の割合が39.7%で最も大きく、「やや思う」24.2%、「あまり思わない」23.1%、「思わない」10.3%、「思う」が2.7%となっている。「思う」と「やや思う」の合計が26.9%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が33.4%となっており、子育てしやすい環境だと「思わない」と「あまり思わない」の方が6.5ポイント大きい。

【市郡別】

市部では「思う」と「やや思う」の合計が24.0%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が36.6%となっており、「思わない」「あまり思わない」が12.6ポイント大きい。群部では「思う」と「やや思う」の合計が37.5%、「思わない」と「あまり思わない」の合計が21.6%となっており、子育てしやすい環境だと「思う」「やや思う」が15.9ポイント大きい。

【地区別】

「思う」と「やや思う」の合計は、「津軽地区」38.5%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「八戸地区」40.0%が最も大きくなっている。また、合計の差が最も大きいのは「津軽地区」で「思う」「やや思う」の合計が、「思わない」「あまり思わない」の合計(17.6%)より20.9ポイント大きくなっている。

【男女別】

「思う」と「やや思う」の合計は、男性が28.6%、女性が26.2%となっている。「思わない」と「あまり思わない」の合計では、男性が30.9%、女性が34.2%となっている。

【年齢別】

「思う」と「やや思う」の合計では、年代が上がるにつれ大きくなり、「45歳以上」で30.2%となっている。一方で、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「35～44歳」が35.2%で最も大きくなっている。合計の差が最も大きいのは「34歳以下」で16ポイントとなっている。

【職業別】

「思う」と「やや思う」の合計では、「自営業・自由業」が44.0%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「無職」35.2%が最も大きくなっている。

【共働きの有無別】

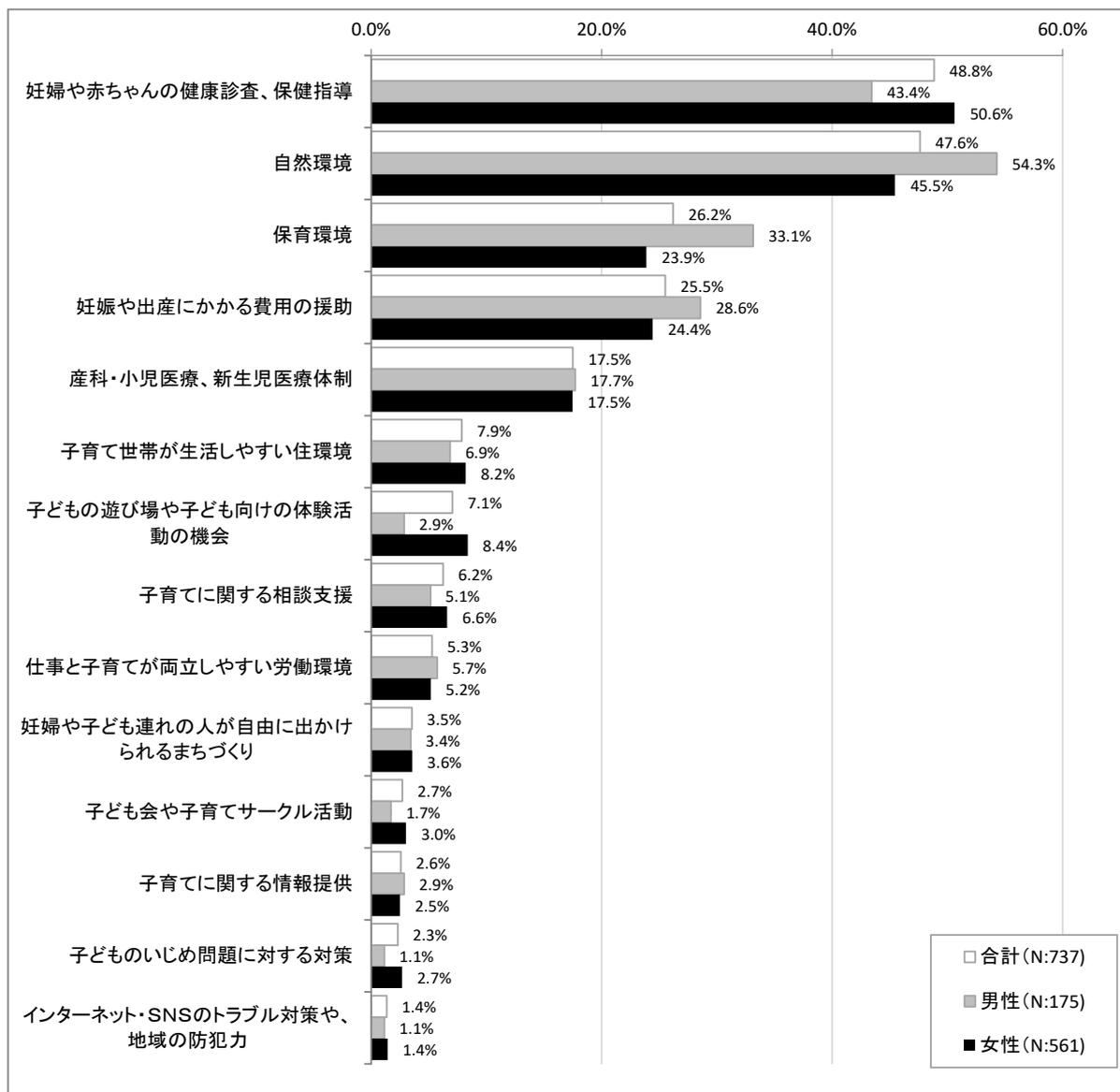
「思う」と「やや思う」の合計では、「本人は就労、パートナーは無職」が30.7%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「本人は無職、パートナーは就労」35.5%が最も大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「思う」と「やや思う」の合計では、「小学生1年生～3年生」が32.0%で最も大きく、「思わない」と「あまり思わない」の合計では、「未就学児」35.1%が最も大きくなっている。

問55. あなたが青森県での子育てで満足していることや充実していると思うことを教えてください。
(5つまで)

・青森県の子育てで満足や充実していると思うこと



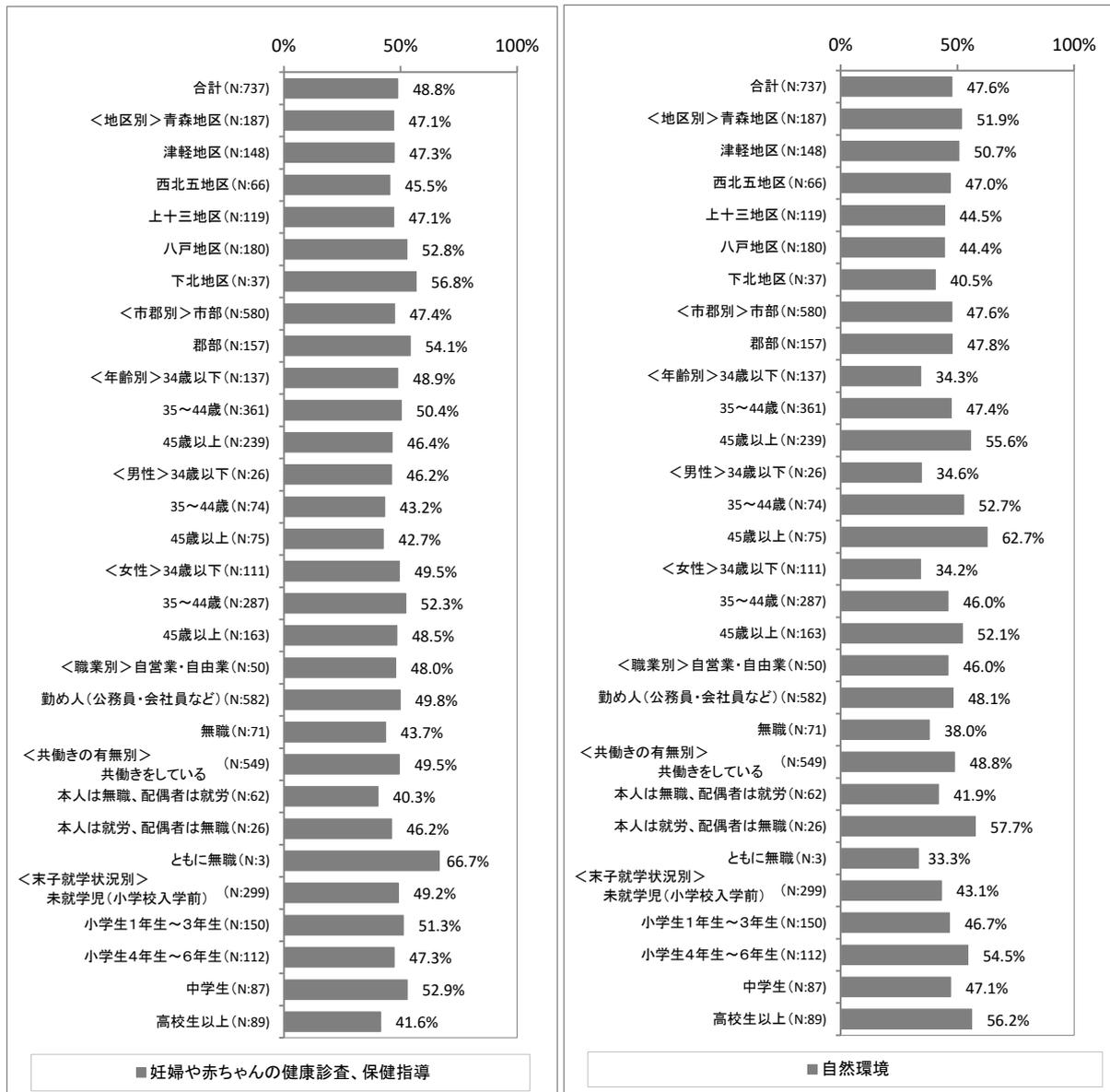
「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合が48.8%と最も大きく、次いで「自然環境」が47.6%、「保育環境」26.2%、「妊娠や出産にかかる費用の援助」25.5%の順となっている。

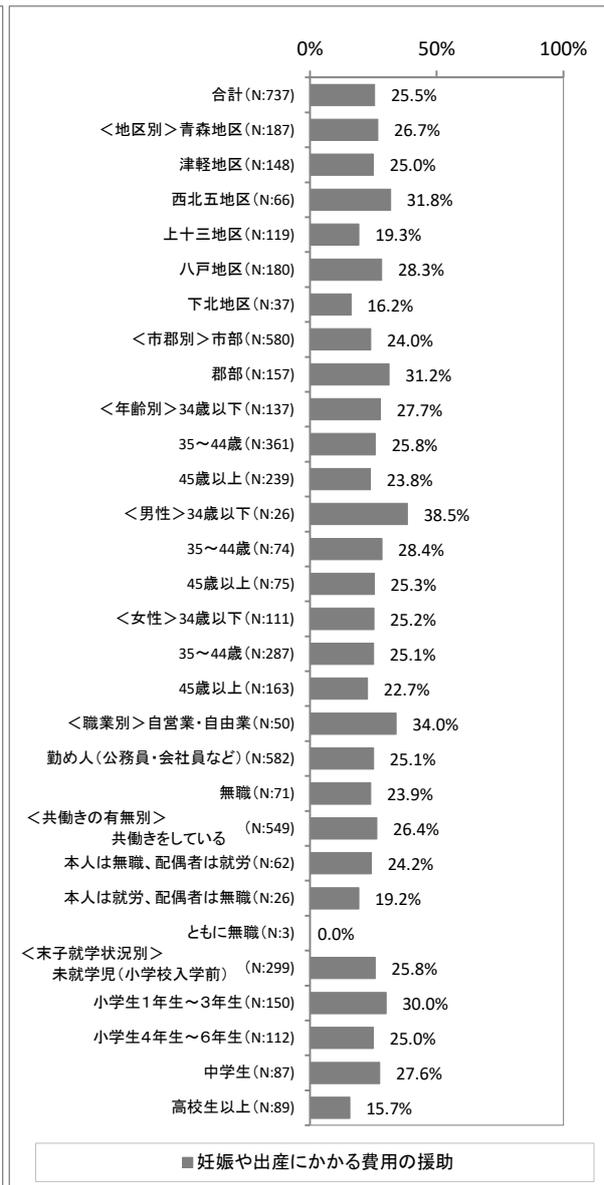
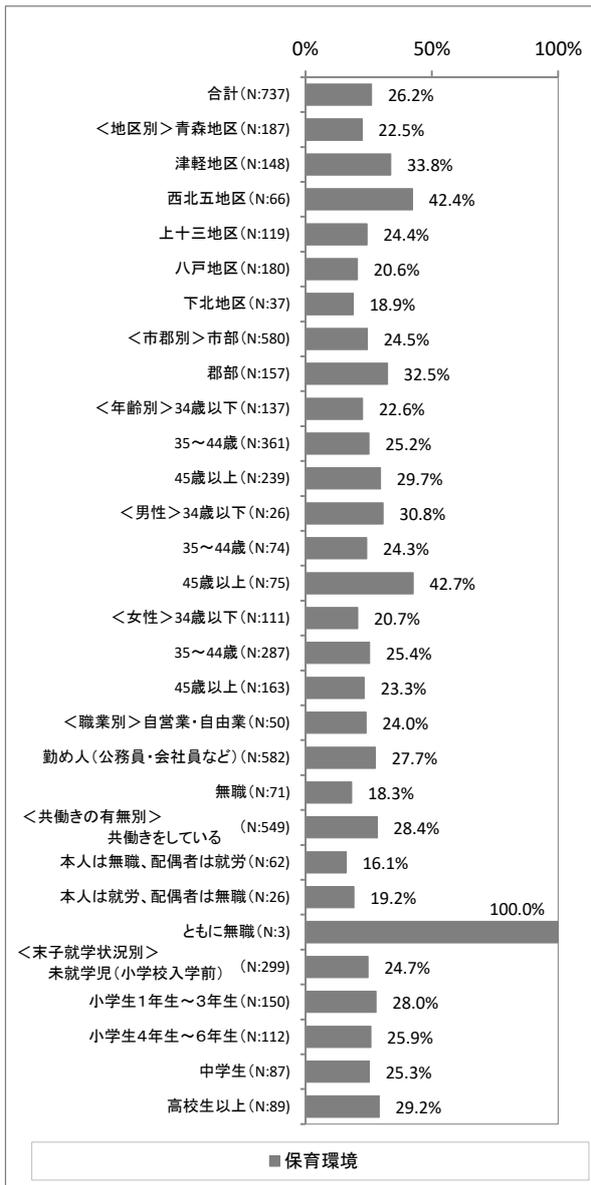
【男女別】

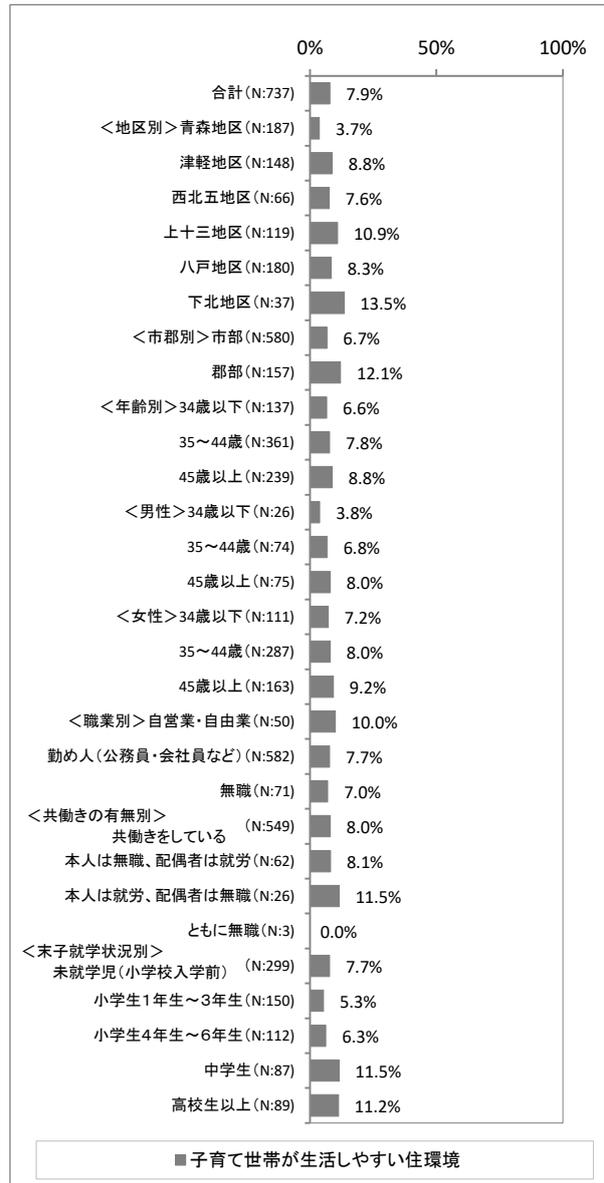
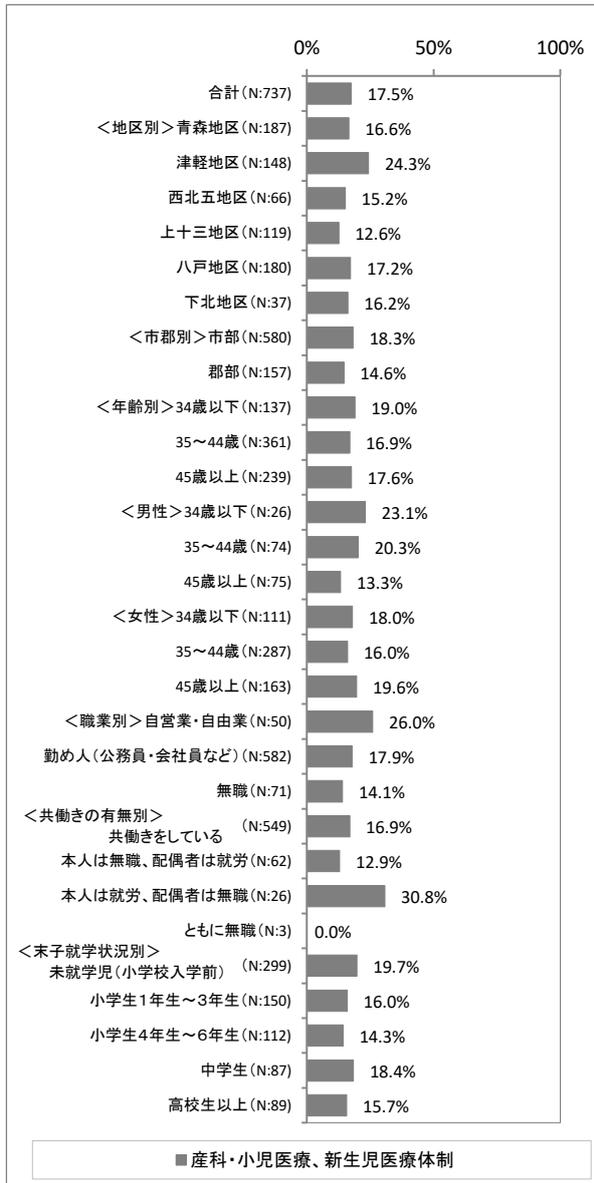
男性では「自然環境」の割合が54.3%と最も大きくなっており、「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」(43.4%)より、10.9ポイント大きい。女性は「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合が50.6%と最も大きく、次いで「自然環境」45.5%、「妊娠や出産にかかる費用の援助」24.4%、「保育環境」が23.9%の順となっている。また、「保育環境」が9.2ポイント、「自然環境」が8.8ポイント、男性の方が女性よりも大きくなっていて、「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」は、女性の方が男性よりも7.2ポイント大きくなっていて。

・ 地区、市郡、年齢、性、職業、共働き有無、就学別

青森県の子育てで満足・充実していると思うこと（上位6位）







【地区別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合は、「下北地区」で56.8%、「自然環境」は「青森地区」(51.9%)が最も大きくなっているが、他の地区も40%を超える割合となっている。

「保育環境」は「西北五地区」が42.4%で、他地区に比べ8.6～23.5ポイント大きくなっている。

「妊娠や出産にかかる費用の援助」は「西北五地区」31.8%、「産科・小児医療、新生児医療体制」は「津軽地区」24.3%、「子育て世帯が生活しやすい住環境」は「下北地区」13.5%で最も大きくなっている。

【市郡別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」、「保育環境」、「妊娠や出産にかかる費用の援助」、「子育て世帯が生活しやすい住環境」の割合は、郡部の方が市部より大きくなっている。

「自然環境」は市部(47.6%)、郡部(47.8%)で大きな差はないが、「産科・小児医療、新生児医療体制」の割合は、市部(18.3%)の方が郡部(14.6%)より3.7ポイント大きくなっている。

【年齢別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合は、「35～44歳」が50.4%で最も大きくなっている。「自然環境」、「保育環境」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなり「45歳以上」(それぞれ55.6%、29.7%)が最も大きくなっている。「妊娠や出産にかかる費用の援助」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(27.7%)が最も大きくなっている。

【男性年齢別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」、「妊娠や出産にかかる費用の援助」、「産科・小児医療、新生児医療体制」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」(それぞれ46.2%、38.5%、23.1%)が最も大きくなっている。

「保育環境」の割合は、「45歳以上」(42.7%)が最も大きくなっている。

「自然環境」、「子育て世帯が生活しやすい住環境」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなり、「45歳以上」(それぞれ62.7%、8.0%)が最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合は、「35～44歳」が52.3%で最も大きくなっている。「自然環境」、「子育て世帯が生活しやすい住環境」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなり「45歳以上」(それぞれ52.1%、9.2%)が最も大きくなっている。

「保育環境」の割合は、「35～44歳」(25.4%)、「産科・小児医療、新生児医療体制」の割合は、「45歳以上」(19.6%)が最も大きくなっている。

【職業別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」、「自然環境」、「保育環境」の割合については、「勤め人」（それぞれ49.8%、48.1%、27.7%）の方が「自営業・自由業」より大きくなっている。

「妊娠や出産にかかる費用の援助」、「産科・小児医療、新生児医療体制」は「自営業・自由業」（それぞれ34.0%、26.0%）の方が「勤め人」より大きくなっている。

【共働きの有無別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」、「保育環境」、「妊娠や出産にかかる費用の援助」については、「共働き」（それぞれ49.5%、28.4%、26.4%）の方が、他の就業状況よりも大きくなっている。

「本人は就労、パートナーは無職」では、「自然環境」、「産科・小児医療、新生児医療体制」、「子育て世帯が生活しやすい住環境」の割合（それぞれ57.7%、30.8%、11.5%）が、他の就労状況よりも大きくなっている。

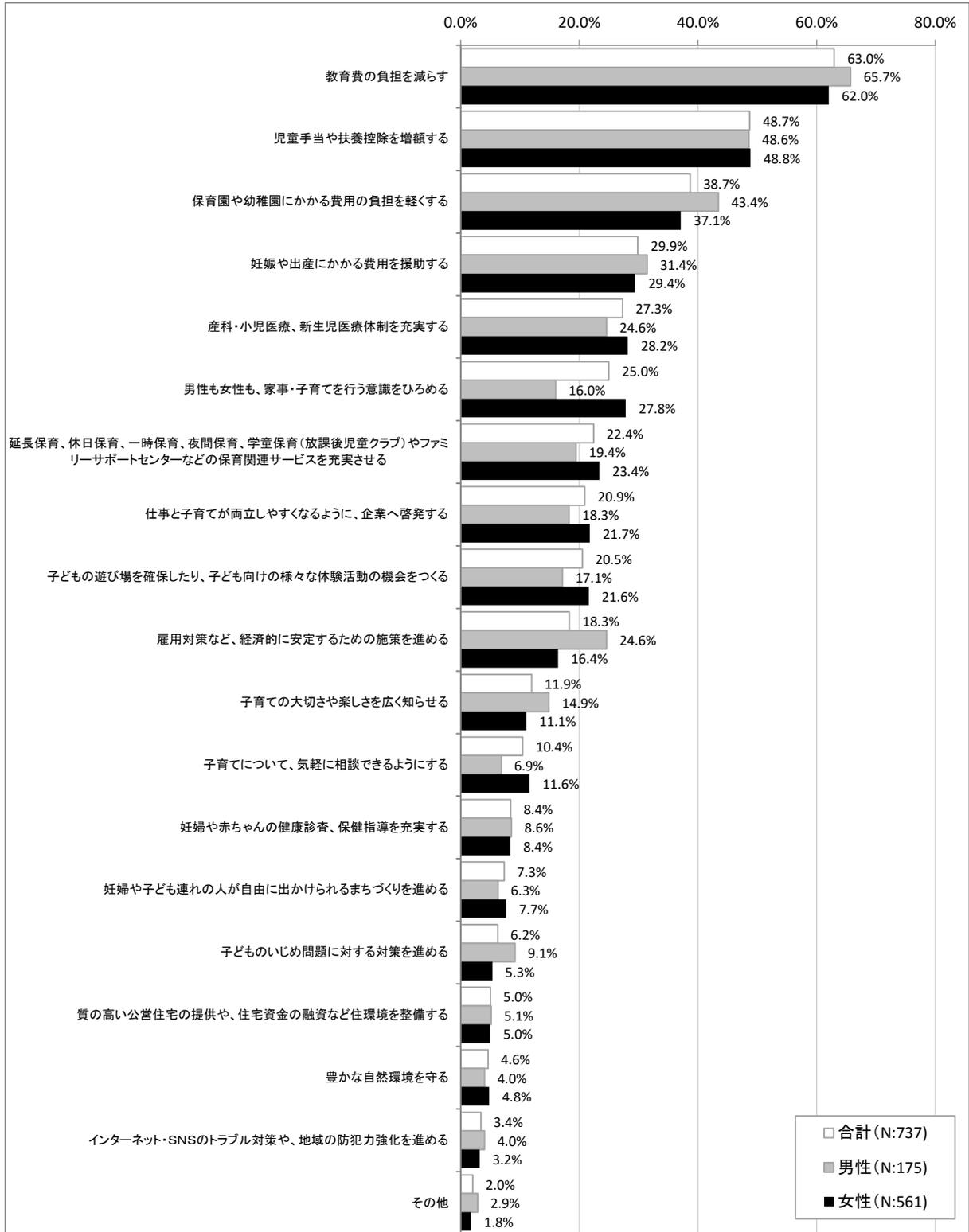
【末子の就学状況別】

「妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導」の割合は、「中学生」で52.9%となっており、他の就学状況よりも大きくなっている。「自然環境」、「保育環境」は、「高校生以上」の割合（それぞれ56.2%、29.2%）が最も大きくなっている。

「妊娠や出産にかかる費用の援助」は「小学生1年生～3年生」（30.0%）、「産科・小児医療、新生児医療体制」は「未就学児」（19.7%）、「子育て世帯が生活しやすい住環境」は「中学生」（11.5%）で最も大きくなっている。

問56. あなたは、健やかに子どもを生み育てるため、県にどのような支援を手厚くして欲しい(又は足りない)と考えますか。(5つまで)

・県に最も期待する政策



「教育費の負担を減らす」の割合が63.0%と最も大きく、次いで「児童手当や扶養控除を増額する」48.7%、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」38.7%、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」29.9%、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」27.3%の順となっており、経済支援の割合が大きくなっている。

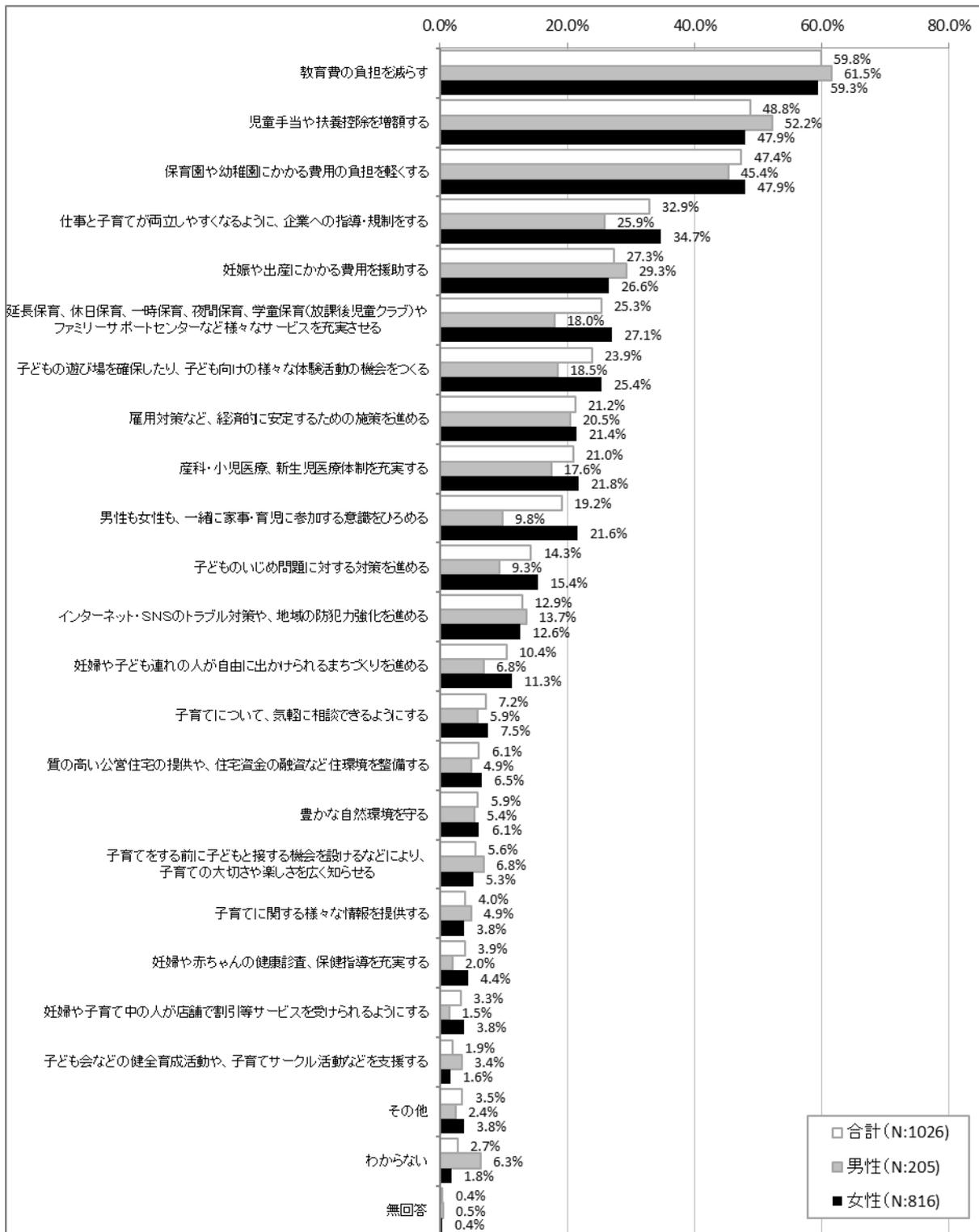
前回調査と比べて、「教育費の負担を減らす」が3.2ポイント、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」が2.6ポイント、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」が6.3ポイント増加しているのに対して、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」が8.7ポイント減少している。

【男女別】

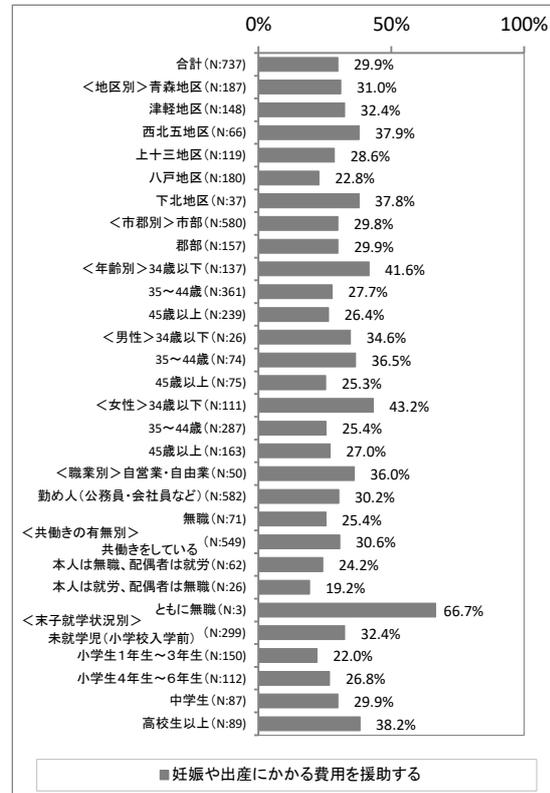
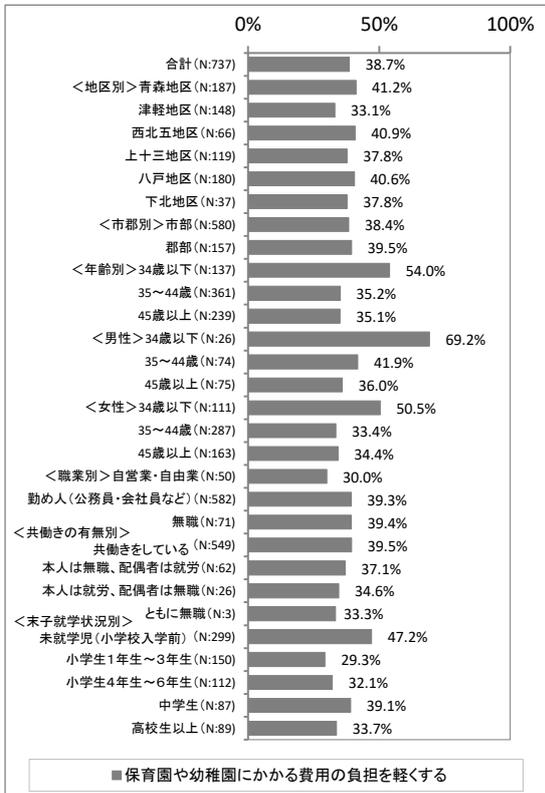
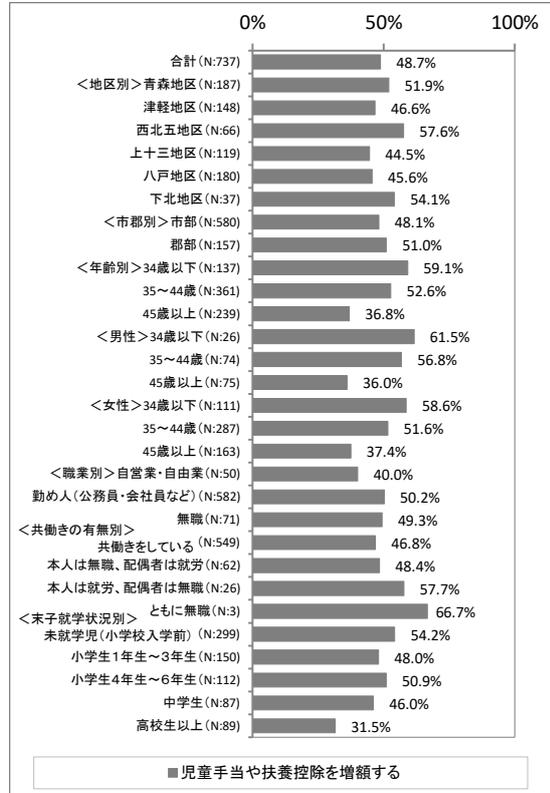
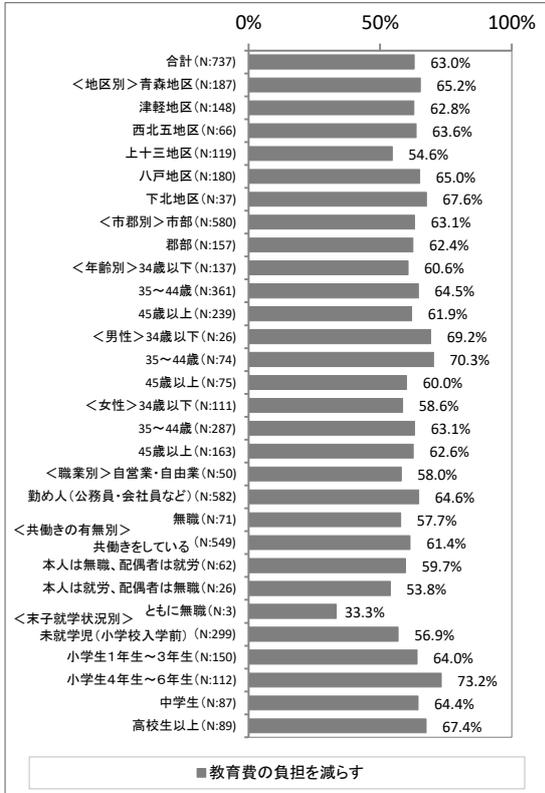
男性では、「教育費の負担を減らす」が65.7%、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」が43.4%となっており、女性より大きくなっている。

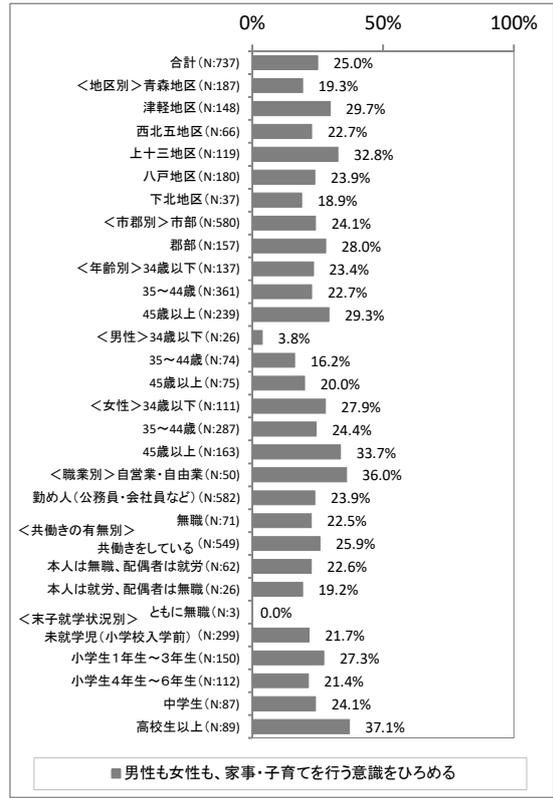
女性では、上位項目の割合、順位が全体（合計）とほとんど一致している。「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」（27.8%）が11.8ポイント、女性の方が男性よりも大きくなっている。

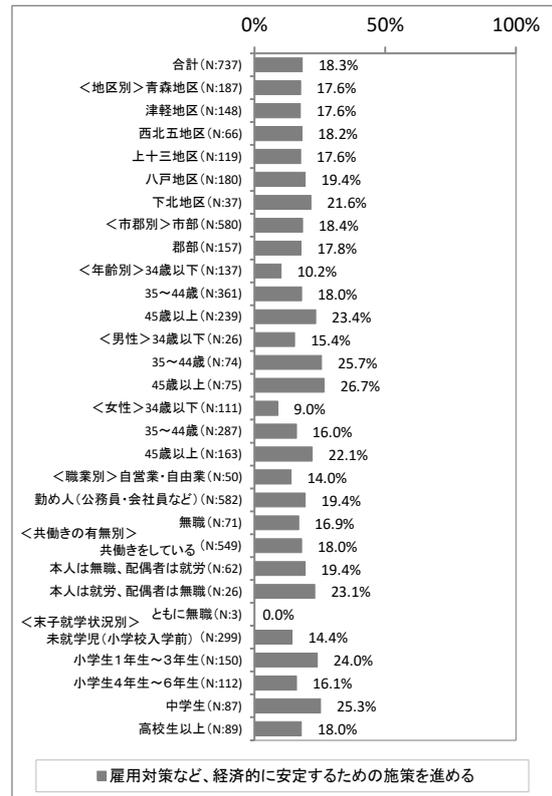
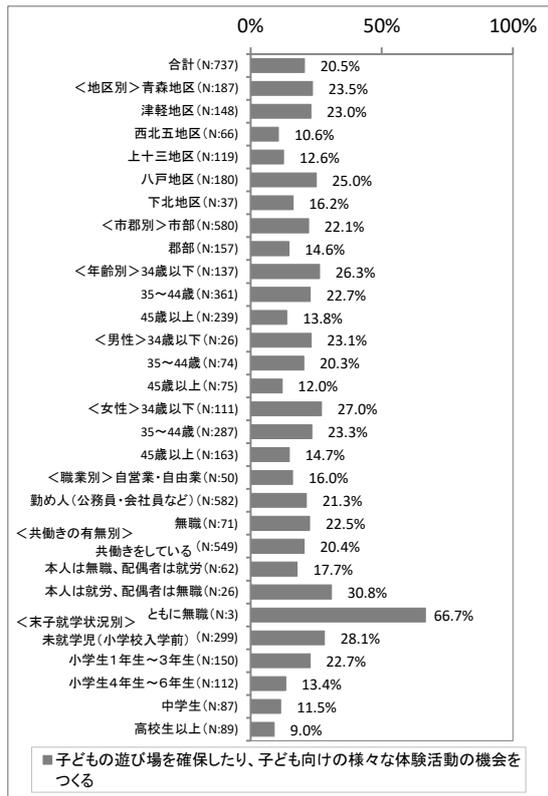
(参考) 前回調査



・ 地区別、市部・郡部別、年齢別、性・年齢別、職業別、共働きの状況別、末子就学状況別の県に最も期待する政策（上位 10 項目）







【地区別】

「教育費の負担を減らす」、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」については「下北地区」の割合（それぞれ 67.6%、37.8%、21.6%）が他の地区よりも大きくなっている。

「児童手当や扶養控除を増額する」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」については「西北五地区」の割合（それぞれ 57.6%、37.9%）が他の地区よりも大きくなっている。

「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」については「青森地区」の割合（41.2%）が他の地区よりも大きくなっている。

「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」については「津軽地区」の割合（それぞれ 27.7%、24.3%）が他の地区よりも大きくなっている。

「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」については「上十三地区」の割合（32.8%）が他の地区よりも大きくなっている。

また、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」については「八戸地区」の割合（25.0%）が他の地区よりも大きくなっている。

【市部・郡部別】

「教育費の負担を減らす」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」については、市部の方が郡部より大きくなっている。特に大きな差が見られるのが、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」で市部の方が7.5ポイント大きくなっている。また、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」は市部（29.8%）、郡部（29.9%）とほぼ同じ割合となっている。

「児童手当や扶養控除を増額する」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」
「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」は、郡部の方が市部より大きくなっている。特に「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」では、郡部の方が3.9ポイント大きくなっている。

【年齢別】

「児童手当や扶養控除を増額する」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（それぞれ59.1%、54.0%、41.6%、26.3%）で最も大きくなっている。

「教育費の負担を減らす」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」の割合は、「35～44歳」（それぞれ64.5%、24.9%）で最も大きくなっている。

「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（それぞれ31.8%、29.3%、23.4%、23.4%）で最も大きくなっている。

【男性年齢別】

「教育費の負担を減らす」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」の割合は、「35～44歳」（それぞれ70.3%、23.0%）で最も大きくなっている。

「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（それぞれ26.7%、26.7%、21.3%、20.0%）で最も大きくなっている。

「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「児童手当や扶養控除を増額する」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（それぞれ69.2%、61.5%、23.1%）で最も大きくなっている。

【女性年齢別】

「教育費の負担を減らす」については、「35～44歳」の割合（63.1%）が最も大きくなっている。

「児童手当や扶養控除を増額する」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」の割合は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「34歳以下」（それぞれ58.6%、27.0%）で最も大きくなっている。

「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「45歳以上」（それぞれ34.4%、24.5%、22.1%）で最も大きくなっている。

【職業別】

「妊娠や出産にかかる費用を援助する」、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」は、「自営業・自由業」が他の就業状況より大きくなっている。また、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」については、「自営業・自由業」の方が「勤め人」より12.1ポイント大きくなっている。

「教育費の負担を減らす」、「児童手当や扶養控除を増額する」、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」は、「勤め人」が他の就業状況より大きくなっている。また、「児童手当や扶養控除を増額する」については、「勤め人」の方が「自営業・自由業」より10.2ポイント大きくなっている。

「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」については、「無職」（39.3%）、「勤め人」（39.4%）となっており「自営業・自由業」より大きくなっている。

【共働きの有無別】

「教育費の負担を減らす」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「妊娠や出産にかかる費用を援助する」、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」については、「共働き」が他の就労状況よりも大きくなっている。

「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」では、「本人は就労、パートナーは無職」が他の就労状況よりも大きくなっている。

【末子の就学状況別】

「妊娠や出産にかかる費用を援助」、「男性も女性も、家事・子育てを行う意識をひろめる」、「産科・小児医療、新生児医療体制を充実する」、「仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する」については、「高校生以上」（それぞれ 38.2%、37.1%、31.5%、28.1%）の割合が最も大きくなっている。

「児童手当や扶養控除を増額する」、「保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする」、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」の割合は、「未就学児」（それぞれ 54.2%、47.2%、28.1%）が最も大きくなっていて、「子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる」については、子どもの年代が下がるにつれて大きくなっている。

なお、「延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連サービスを充実させる」については「小学生1年生～3年生」（24.7%）、「教育費の負担を減らす」については「小学生4年生～6年生」（73.2%）、「雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める」については「中学生」（25.3%）の割合が最も大きくなっている。

自由回答のまとめ

子どもや子育て及び結婚についてのご意見やお考えを自由に書いてもらったところ、367人（49.8%）の方が記述してくださった。

以下は、全ての記述内容を「親・大人」、「経済的負担」、「保育料」、「相談」、「就労」、「子育て支援」、「サークル・講座」、「交流」、「社会環境」、「学校・教育」、「学童保育」、「医療」、「育児」、「遊び場・施設」、「遊び」、「行政」、「交通」、「調査票」、「その他」の19項目に分類し、まとめたものである。

回答内容	件数	項目
子供の人権に対する大人側の認知が全体的に低い。子供との関わりを仕事とする保育士、幼稚園教諭ですら子供を軽んじる人が多く、昔の教育観の根深さを痛感する。	1	親・大人
虐待は良くないと理解はしていても、精神的肉体的余裕がなくなった瞬間に自身が親にされてきた、今なら虐待と呼ばれる子育てをしてしまうことにショックを受けることがある。	1	親・大人
父親が家に居ても、母親の負担が多い。男性の育休制度もあるが、人によって育児への参加度が異なると思うので、良し悪しだと思う。	1	親・大人
子どもをたくさん持つことは少子化対策につながるが、キャパシティを越えた人数の子どもを作らないようにすることも必要だと思う。	1	親・大人
子供には伸び伸びと成長して欲しいのですが、良い事と悪い事はしっかり理解できるように色々と経験させたい。しかし、最近の教育は過保護過ぎるところがあり、子供達が成長する為に必要な経験を奪ってしまう様な教育環境な気がする。先生方が好き勝手している子供を注意すると親がクレームの電話をしたり、教育委員会へ直接クレームの電話をしたりなど、先生方が注意するのが怖くて何も言えない様な状況になっている場合もある。このままでは、子供達も正しく成長出来ないし、親ももっと人として成長しなければ理想的な子育ては無理な気がする。	1	親・大人
親の自立が大事。	1	親・大人
青森は、地方の他県と比べても、若くして結婚し子供を産んで離婚するパターンがととも多いように感じる。親が離婚・再婚をむやみに繰り返し家庭環境が複雑な中で育ったり、親にネグレクトされて祖父母に養育されているような子が周りにも沢山いる。	1	親・大人
子どもの成長に一番影響を与えるのは家庭環境だと思っている。よく笑う家庭で育つ子は笑う子が多いと思うし、勤勉な家庭で育つ子は勤勉な子が多いと思う。子どもや子育てについては、親の意識が変わると良くも悪くも変わると思う。言い方は悪いが、『親次第』だと思う。	1	親・大人
子育て支援を行う際、1人親世帯、低所得世帯に偏る事無く、子供の教育に掛かる費用に支援を充実して頂きたい。子育て世帯全般で言えば、地方と市内では、高校通学に対する費用でも負担の違いがありますし、教育面で直接的に掛かる費用を分け隔て無く支援して頂きたい。	1	経済的負担
部活や習い事をさせる時間やお金をもっとほしい。	1	経済的負担
就学時の経済的負担を軽減して頂ければ目指す将来のありたい姿に希望を持って努力出来る。	1	経済的負担
青森県全体として年収が乏しいため、子どもを望む事を諦める世帯、共働きしないと生活できない世帯等が周りに多い。自分の子どもには広い視野で将来を考えてほしいと望む。	1	経済的負担
光熱費や燃料費の高騰化が辛い。	1	経済的負担
子供の医療費、学校給食が無料になり助かっているが、税金や値上げ高騰で意味のないものになっていると感じる。	1	経済的負担
収入が増えないのに税金ばかりで、本当に行きづらい世の中。今の日本のままでは、子供は増やせないし、生きるのに必死。いつ食べていけなくなるか不安。	1	経済的負担
物価上昇に伴い、もっと給付金の増額や手当の回数が増えたら子育てしやすいと思う。	1	経済的負担
所得が少ない割に費用がかかる。	1	経済的負担
子育てに思った以上にお金がかかる上に物価高で全てにおいて大変。低所得者以外の人にもフォローして欲しい。	1	経済的負担
小学校の放課後児童会に子供を預けているが、仕事の勤務時間の関係で迎えが難しい。ファミリーサポートを利用しているが都合がつかなくなったり利用料が負担。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
教育費や給食費、医療費を全ての市町村で平等にして欲しい。	1	経済的負担
働くお母さんにもっと働き方改革だったり保育サービス、教育費援助などしてほしい。	1	経済的負担
3子以上を産み育てている、育てた家庭への税優遇。	1	経済的負担
金利無し奨学金の拡充。	1	経済的負担
教育費は保育園～大学まで無料にすべき、希望する優秀な人材には留学支援。	1	経済的負担
出産後も負担が軽くなるような制度があれば、出産する人も増えるのではないか。	1	経済的負担
出産金増額。子育て支援増額。	1	経済的負担
出産費用を無料にするべき。少子化の中、物価高騰もあり、未来を担う子どもたちに、経済的支援は必要だ。	1	経済的負担
もう一人子供がほしかったが、住宅ローンの支払いがあり、今の収入を減らすことは難しいため諦めた。産休、育休中もまるまるお給料と同じ補助がもらえたら子供を作ってもいいのと思う。	1	経済的負担
2人目は保育料、給食費などずっと半額。3人目からは無料など、負担を軽減してほしい。	1	経済的負担
県の問題ではなく国の問題ではあるが、所得制限のかかっている家庭からすれば、子どもと過ごす時間を削って必死に働き、稼いだお金を自分の子どもに使いたいのに、他の家庭に配分する財源のために取り上げられる。税金を払えば払うほど児童手当や子どもの医療費免除、保育施設の保育料減額などの福祉サービスは受けられなくなる。自分の子のために働いているはずなのに何の罰ゲームなのだろうと思う。	1	経済的負担
私自身、身をもって経験している最中ですが、子育てには、基本的に現在も将来的にもお金が必要です。いくら、相談窓口を増やして相談したところで収入は増えません。 要望として、保育料、学校給食などを無料化する等対策など子育てに関する負担を軽減する事により、安心して子を産める、育てられる環境を青森県として構築していただくようお願いしたいと考えます。	1	経済的負担
保育料無料。	1	経済的負担
子供を預けるにもお金がかかり、子供2人を保育園に入れて必死で働いても給料がほぼ保育料や税金でなくなると思うと働けない。	1	経済的負担
生活を支えるために仕事復帰しようと思いますが、フルで残業もした前年度の所得により、復帰後時短で働くのに高額な保育料がくるため、保育料がネックになってしまう。	1	経済的負担
3歳未満の保育料の負担がとても大きい。保育料を無料にして欲しい。	1	経済的負担
長期的な経済的な支援があれば出産する人も増えると思う。	1	経済的負担
育児休業給付金が産後2ヶ月以上経たなければ支給にならない。 毎月のローンなど固定費の支払いもあり、生活していくのがやっと。	1	経済的負担
頻繁な金銭的な支援、もしくは増額等あればよいが、例えば年末に子供1人に対し、3千円・5千円の支援があれば助かる。	1	経済的負担
保育留学なども青森は環境的に行きやすいと思うので、制度化することで、一時的な利用だったものが、子育てには良い地域だと知ってもらうことで、青森の住民の確保にも将来的にはつながっていくのではないかと思います。	1	経済的負担
いくら子供を産めと言われても、産むのは簡単ですが育て上げるとなると金銭的な面でとても大変です。経済状況が厳しい人は子供を産むのは大変だと思います。	1	経済的負担
子供3人目から児童手当が増えるとか色々噂があるが、それくらいで3人目を産もうとは思えない。今小学生2人を育てている事で家計がカツカツです。その状況で3人目を産むとかハードすぎる。結局得するのは今3人、4人と子供が既にいる家庭なのだろうと思う。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
まだ産まれてもいない子供の費用は免除され、産まれてからがお金のかかる子供の費用の手当は少ないと感じる。	1	経済的負担
3歳児以上の給食費無料、未満児の保育園料減額。	1	経済的負担
(インフルや手足口病など、感染するものを含む) 登園できない病気で休んだときの保育園料割引。	1	経済的負担
40代でも安心安全に出産、育児を出来る環境や支援をお願いしたい。	1	経済的負担
自治体でプレミアム商品券なども発売したりしていますが、購入するお金を捻出することも難しい。現金支給をしてくれた方がよっぽど助かる。	1	経済的負担
子供が4人いてお金がかかるのに、高収入ということで、県や市からの恩恵(手当)はなく、逆に税金を多く納めなくてはならない。収入に関係なく、多子家庭には何かしらの恩恵があるべきだと思う。	1	経済的負担
聞き取り調査を綿密に行い、状況に応じて離婚だけでなく、別居者にも扶養手当や児童手当が受給できるようにして欲しい。	1	経済的負担
子供へのインフルエンザ予防接種の補助金がない。	1	経済的負担
医療費控除して欲しい。	1	経済的負担
スマホ補助金が必要。	1	経済的負担
もっと補助金が欲しい。	1	経済的負担
給付金を多くしてほしい	1	経済的負担
支援金の増額を強く要望します。	1	経済的負担
一時的なお金配りではなく、継続的な支援の構築を望みます。	1	経済的負担
介護職のパートで勤務日数を増やさないと所得が低いので子供との時間が減るのがすごくストレスですし負担。パートにも手厚い政策を考えていただきたい。	1	経済的負担
子供が大きくなるにつれて補助金が少なくなる。大きくなった方がお金かかる。	1	経済的負担
医療費や病気や障害のための普通の子にはかからない費用は沢山あり、その為に仕事の時間を増やしたりしてギリギリの生活です。障害児でも小学校に行っているので普通に学校と給食費払っています。障害児や病気の子がいる家庭の学校費用の軽減措置を希望します。 世帯収入だけではなく、子供の数、障害児、病児を養っている、全てを考え給付金を支給して欲しい。	1	経済的負担
医療ケアが必要な子を育てている。今後も医療や療育がこの子には必要なのですが、所得制限の為に、医療費、療育費が毎月バカになりません。NICUに入院時は使える制度が高額医療のみで、毎月10万円以上数ヶ月払っている。その後の治療の為に入院、手術をした際も使える制度は高額医療のみ。他の子は無料で受けられる医療が、なぜ所得により医療費の差がここまで出るのでしょうか。二人目、三人目を本来であれば考えていましたが、今の現状や今後の事を考えると、金銭面を現実的に考えて難しいのかなと思っている。地域によっても子どもの医療費には差があるようですが、毎年高い納税をしても、子どもの制度までも手厚くしてもらえない、この社会で誰が産みたいと考えるのだろうかと思う。このように考えている医療ケア児を育てる親御さんはたくさんいると思う。	1	経済的負担
医療費控除の所得制限廃止。	1	経済的負担
ひとり親の医療費助成を大学卒業までにしてほしい。	1	経済的負担
医療費が無料になった点は大変感謝している。	1	経済的負担
医療費無料と給食費無料はとても助かっている。	1	経済的負担
今の税制優遇措置をもっと手厚くしてもらいたいが、そうすると子供達の税金負担が大きくなることも懸念されますし、物価の高騰もあり国県市町村は大変だと思う。	1	経済的負担
不登校児、障害児への支援のフリースクールなどが高い。遠い場所にあつたりすると、夫婦で仕事ができない人もいる。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
ひとり親世帯で子どもに発達障害がある場合など、今の制度では家族の援助を受けずにフルタイムで就労することは難しいと感じている。フルタイムで働けないのであればそれに見合う手当の拡充など検討していただきたい。	1	経済的負担
青森県は、全国的に見ても年収が低い。お金に関する不安が、子供を望みにくい要因と感じている。	1	経済的負担
全国で最低賃金なのに、物価が安いわけでもなく、自分たちの生活もやっとなら子供がいると生活出来ない家庭が多いのに、人口減だの子供の数がと言う事がまず間違っているとおもう。 非課税世帯だけが優遇されて、自分たちのように税金も払って住宅ローンも払っている家庭が国からの補助を何も受けられないのはどうかと思う。青森県独自の補助制度などを作らないと無理。	1	経済的負担
賃金が低く支援もなければ、税金の負担も大きい。子供をのびのびと育てられない。県外へ人が流れるのはしょうがない。 子供たちには県外でいい仕事に就いて、安定した収入を得て、楽しい人生を送って欲しいと望んでいる。	1	経済的負担
経済的な豊かさがなければ子どもを持つと思わないし、まして結婚したいとも思わない。雇用や、生活支援、最低賃金底上げなど様々な対策をしなければ、県のこどもはいつかなくなる。喫緊の課題であるし、無視はできない。	1	経済的負担
小中学校毎に毎月かかる費用を平等にして欲しい。母子家庭で公営住宅に入れずにいるため、家賃補助があると大変助かる。子どもが大きくなるが引越しも出来ずにいる。	1	経済的負担
子供の修学旅行費や卒業制作費、部活の道具などでお金が足りない。部活が愛好会になり、先生の負担は軽減されたかもしれないが、親の負担が増えている。	1	経済的負担
出生率については若者が1人で生活していくだけで精一杯で、家庭を持つことで経済的な負担が大きくなるため、結婚する人が減っていると思う。物価高等で更に負担は大きくなっているが、給料が上がるなどの対応もなく、今後はますます結婚する人が減っていくと思う。保育の拡充などの問題以前に経済的な対策がまず最初に解決していかなければいけないことだと思う。	1	経済的負担
世帯主の収入を上げ、共働きを軽減し、子育てしている家庭にはお金が沢山貰えると、大げさぐらいにアピールしないと、子供を育てる人、結婚や出産が出来る人が減っていく。 経済的不安は少子化に一番つながると思います。	1	経済的負担
どの年代もお金がかかる。	1	経済的負担
子供を沢山産んでも経済的に育てやすい制度を作してほしい。	1	経済的負担
給与所得が少ないのに育児にかかる費用が多い。収入を増やすためにフルタイムで働く必要があるため、親世帯の近くに住もうと考え、自分の土地(農地)に家を建てようとしたが、農地のため家を建てることができないと言われた。土地を買って家を建てるほどの余力はない。行政機関は貧民からお金を搾取して、私腹を肥やすことしか考えていない。無駄な政治家はたくさんいる。その分資金を少子化や育児に使うべきだ。収入が増えないのに税金を上げられた上での異次元の少子化対策とは、元も子もない。甚だ滑稽である。	1	経済的負担
学校に勤めているが、所得が低い家庭が本当に多い。子育てのサポートも大切だが、確かな生活の基盤を作れるような支援が急がれると思う。	1	経済的負担
現在2人目妊娠中でパートで働いているが、悪阻による点滴通院や切迫流産による自宅安静により収入が減少した。パートのため産休育休がなく、産前産後の収入もない。妊娠しても元気に働ける人もいれば、働きたくても働けない人もいるので、そのような人に経済的な支援が少しでもあれば安心して妊娠出産できるのではないかと思った。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
経済的に貧困していることにより親も周りも心にも余裕がなくなる。 自分の事でいっぱいだと相手に優しくできない。ほとんどは経済的問題。 青森県の所得も低いから、子どもへの影響が増える。 子どもが子育てが、というよりもっと根本の問題だと思う。	1	経済的負担
経験として、経済的に安定すると気持ちに余裕ができ、安定して子育てができる。	1	経済的負担
子どもは風邪や感染症にかかりやすいため、仕事をしていると子どもが熱を出す度に毎回親のどちらかが休まなくてはならない。自営業で仕事をしているため、仕事が出来ないと誰もカバーしてくれないため収入減に直結する。 そのため、仕事をしながら子育てを両立するためには周囲の理解の他にも、経済的なサポートが必須だと思う。会社員に対するサポートだけでなく、自営業に対するサポートもお願いしたい。	1	経済的負担
子供のために育休をとって、自分自身も子育てを楽しみたいと思っても経済的収入が減るので難しい。ある程度恵まれており、子育てに前向きな自分でもそう思うので、もっと負担に思う人は多いはず。	1	経済的負担
若いうちに結婚、出産しないと出生率は上がるわけがない。若い世代は給料も低すぎる。県内就職しても若いうちは都会以上に給与が安い、休みも少ない等、このままでは子どもが増える要素がないと思う。	1	経済的負担
税金の緩和。	1	経済的負担
帰郷したら奨学金免除するなど、大々的に若者を呼び込んでほしい。	1	経済的負担
給与が低く、親元を離れる余裕がないため、狭くても安全で綺麗なところに住めるよう家賃の援助があるといい。	1	経済的負担
子供を持つことで、衣食住や時間等様々な事が変化する。家族が増えた分収入が増えるなら、生活もしやすく、悩むことなく過ごすこともできるが、いくらパートナーや家族が居て協力を得ても限界がある。ちょっとした熱で保育園から呼び出されたり、病気で1週間近く休暇を取らざるを得ないなど。働きたくても妻は制限されてしまい、働けず、収入を増やすことが出来ない。妻も夫（男性）と同様に安心して働く事が出来れば、自身の収入も増える。増えた分、生活も潤い子供の為、自分やパートナーの老後にも費用を使うことが出来るのではないか。子供との時間を大事にするか、今しかない子供の成長を犠牲にしても働くか、全てが満足することは出来ないものかと考えながら生活している。何とか変えてもらいたい。	1	経済的負担
明石市を参考にしてみようか。 ・出産一時金一人当たり 500 万～1000 万 ・高校 3 年生まで医療費無償化 ・学費・給食費高校生 3 年生まで無償化 ・保育料の完全無料化	1	経済的負担
親の介護施設利用にもお金がかかると思うと不安が大きい。	1	経済的負担
下の子供が 18 才になり、思ったことは小さい子供を育てるより大きくなってからの方がお金がかかるという事です。小学生になり習い事や塾、食費等。中学生高校生になると学費も洋服もお小遣いも高い。児童手当を 3 才まで 15000 円の意味がわかりません。大きくなるにつれて金額を増やした方が良いと思っています。3 才までの子育てにかかるお金は想定内だと思います。今の、産んで 3 年経ったら放置！の様なやり方では少子化は止まらなないと考えます。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
今の若い方はどう思っているか分からないが、出産、子育て、教育など、お金はかかるので、負担を少なくして欲しいという気持ちは大きい。子供を産んで育てることは本当に大変なことだと思うので、金銭面や休める環境が整っていないと出生率は上がらないと思う。国が色々制度を整えてくれたとしても、会社側がそのような制度をちゃんと理解してくれないと、妊娠している側は大変だと思う。 私は子ども4人いますが、正直、子どもたちみんなを大学まで進学させられるかどうかは自信がない。今後成長するにつれて、奨学金等の制度は整っていくと思いますが、教育費や給食費の負担があるだけでもだいぶ救われる。 将来を担う次の世代が減少しているということは大きな課題だと思うので、今後、休業や時短、金銭面での負担軽減等の制度がより充実することを願っている。	1	経済的負担
保育園の料金が高くて大変だった。	1	保育料
保育料について 第二子半額・第三子無料となるのが第一子と同時に保育園入所している場合のみなのは疑問に思う。第一子が小学生になれば、戸籍上の第二子は一人目とカウントされ満額の保育料となる。第二子が小学生になれば戸籍上の第三子も一人目とカウント。年齢の離れた兄弟であれば、半額や無料の対象になれない。何故、勝手に子供を数え直すのか。一人の子を育てるにはお金が掛かる。それが複数となれば2倍、3倍と増える。年齢差関係無く、全ての世帯が対象となるように本当の子供の人数でカウントしてほしい。	1	保育料
夫の転勤にて青森県に在住しているが、知らない環境や信頼できる人のサポートがないため、仕事をしたくてもなかなか始めることができない。	1	相談
中には悩みを打ち明けられない保護者もいて、保健センターに話せば「目をつけられる」といって話さない人もいる。県の保健センター、保育園・幼稚園は情報を共有し、子どもと保護者の支援に加え、背中を押してあげられるような優しい環境を整えてほしい。	1	相談
重度心身障害児を持つ親です。養護学校高等部進学を控え、介護両立支援制度を利用しながら正社員で働き続けたいと思っているが、気軽に相談できる方法があればよい。	1	相談
発達障害について、学校での様子等から、支援に繋がる声かけを早い段階からして欲しかった。	1	相談
子育ての悩みがあっても気軽には相談できない。知らない人に相談するには勇気がある。	1	相談
こどもが病気になった時や、保育園・学校の行事の時、休みがとりづらい。休みを取りやすい環境が欲しい。	5	就労
結婚も出産・子育ては、給与所得が増えないとどうにもならない。	3	就労
保育士の給与・手当の見直しが必要。	3	就労
有給が取れない、使えない状況がある。	2	就労
企業に対して産休育休に関する考えを改めるように啓発してほしい。	2	就労
少子化対策には、若者が就労できる体制づくりが第一だと考える。	2	就労
有給の権利をもっと企業にしっかりと理解してもらいたい。 従業員の働き方に関してもっとメスを入れてもらいたい。	1	就労
子供を産みたい、育てたいと思っても、仕事を続けることを考えると産休、育休があっても一定期間休むことにためらいが出てしまう。	1	就労
職員の配慮で妊娠中、つわりやお腹がはったりした時は休み（年休）を使わせてもらったり配慮してもらいましたが、働きながら仕事する事は妊婦は大変かつ、配慮してもらえない職種は多々あると感じた。	1	就労

回答内容	件数	項目
小中学は年間行事が出ているので、子の年間行事を会社が把握し参観日や行事は基本的には休みとするとしてくれれば、毎回休み申請をする心苦しさが減り、その他の急な病気での休みが取りやすいと思う。	1	就労
子どもの急な体調不良などで仕事を休まなければいけなかったり、送迎が必要な場面も多く、働いているとできないこともあった。 特に子どもが小さいときは調整ばかりしていた。	1	就労
少子化については、大学で県外へ出てしまった優秀な若い人材を呼び戻す雇用を生み出すことが重要であり、賃金の底上げが必要。	1	就労
仕事(求人)が無いのに移住促進してみたり、若者の県外流出等で騒いでいるが、同じ職種でも県外の方が給与が高いのだから県外で就職するのは当然のような気がする。自分の子どもも県外で就職した方が幸せになれるのではないかと考えてしまう。	1	就労
子どもをもう一人か二人持ちたいと考えているが、経済的な面で躊躇している。子育て世代への支援や所得制限撤廃、年少扶養控除の復活など、生みやすい環境を求む。	1	就労
小さい子どもがいる方も働きやすい職場が増えてほしい。私が今働いている職場は休みにくい、社員は残業あり、妊婦さんは働きたくても勤務時間を減らされ、育休も半年しかもらえない。家庭の収入や家族の協力がないと子どもは増えないと思う。	1	就労
子育てと仕事の両立が出来ず辞職した。自分以外が全員新人となり、1人だけ超過勤務の連続で、産後8か月で職場復帰したこともあり、身体を壊した。 上司によっては、パワーハラスメント、セクハラが問題化されないこともあり、働き方改革だけではなく、人事配置にも重要性がある。	1	就労
現在求職中ですが、障害がある子、小さい子がいる事を理由に採用に至らない。 子どもを育てるために仕事をしなければいけないのに、子どもを理由に働けないのは納得が出来ない。この先どうやって育てていけばよいか不安。	1	就労
夫は仕事の休みが取れず、子供が小さな頃は全部一人でやった。男性の子育て参加に企業も対策すべき。	1	就労
様々な有料サービスを利用できる経済力が必要。様々なサービスはたくさんの雇用にもつながる。	1	就労
男性が多い職場だと、仕事と子育てを両立しやすいとは言えない環境である。 出産を機に退職した人を前回と同じ条件で再雇用できるような制度ができれば嬉しい。	1	就労
産休育休を取得させた中小企業にも、取得手当のようなものを手厚くしてほしい。 金銭的にも体力的にも、産休育休を取得されると負担はかなり大きくなるため、現状のままでは、出産の可能性のある女性は雇用できなくなる。	1	就労
職場での妊娠や出産に関する理解が得られないため、子育てしにくく感じる。	1	就労
子どもを増やすには、子どもを産みたい人がどれくらいいて、産みたいのに産まない、産まない理由がわかれば自ずと選択肢は増えてくると思うが、個人的な経験では、経済的理由よりも、勤め先の職場風土が妨げになっていた。経済的理由を解決するには予算をあてれば良いが、職場風土の改善は金をかけても解決は難しいと感じている。	1	就労
同僚男性社員が育休を職場に申請したところ、許可がおりなかった。 まだまだ男性が育休取得する事が難しく、取得できる雰囲気ではない。 男性も子供と居る時間が増やせるようにしてほしい。	1	就労
仕事の両立について、フルタイム職員だと子どもと接する時間が少ない部分に罪悪感、虐待ではと持念を抱えてしまいながら仕事に打ち込まなければいけない。その反面、子どもの病気で急に仕事を休むとなると職場の人に迷惑がかかるのではと心配し、結果どちらの立場でも気持ちが楽になることはない時間を過ごさなければならぬのが辛い。	1	就労

回答内容	件数	項目
児童手当や、子育て支援の手当を増やしてほしい	3	子育て支援
一時預かり施設やベビーシッター等、身近で利用できれば助かる。	3	子育て支援
待機児童がなくなるように考えてほしい。	2	子育て支援
保育園入所の条件を緩和してほしい	2	子育て支援
病児保育施設の受入人数を増やしてほしい。	2	子育て支援
妊婦健診は補助券ではなく、無料化や保険適用を検討してほしい。	2	子育て支援
発達に不安がある親子が、気軽に相談できる場所や施設が欲しい	2	子育て支援
自分が子供の時に比べると大きな公園が増えたり児童手当が出たりと、子育て環境は多方面で格段に良くなっていてありがたい。	1	子育て支援
むつ市のようにどこの市町村も保育園のオムツ無料にしてほしい。	1	子育て支援
育休中だからと上の子の保育園を時短にするのはいかがなものかと思う。	1	子育て支援
現在法律的に医療的ケアが必要な子も保育園も利用できるようになっているが、どの保育園も「実績や経験が無いから」「職員の数が足りないから」「何かあっても責任はとれない」等様々な理由で受け入れてもらえない。悩みや受け入れを断られている医療的ケア児の保護者もいるので、そちらにも範囲を広げて頂きたい。	1	子育て支援
保育園等が0歳から無償化になると助かる。不妊治療でもお金がかかり、産んでからもお金がかかるので、産んだ後の補償の拡充があれば、もう1人産みたいと思う。	1	子育て支援
3歳までの保育園代の補助を手厚くしてほしい。	1	子育て支援
ファミリーサポートのような、制度をもっと増やして欲しい。市外に共働きで、保育園、小学校の送り迎えに不安があるため。	1	子育て支援
自分の住んでいる地域は待機児童もなく保育園が決まってよかった。人数の少ないクラスでちゃんと見てもらえているという安心感がある。	1	子育て支援
保育園や小学校の給食やおやつをもっと体に良い物（オーガニックや無添加、グルテンフリー等）に統一してほしい。 家であげたことのない食事やおやつを食べて来ることが不安。	1	子育て支援
函館市のように、ほぼ全ての保育園内に毎日未就園児と親子が行ける子育てセンターが常設されて、子育て支援専用の保育士が配置されているような環境が望ましい。転勤族で大変だった中、函館市だけはサポート体制、子育てしやすい環境がそろっていて唯一移住を考えた場所だった。転勤族や仕事していない親とその未就園児社会的に孤立しやすいので、サポートしてほしい。	1	子育て支援
子供を持ってみて、初めて子育てしにくいと分かった。赤ちゃんを連れて買い物に行っても、大きい施設やデパート以外は、ベビーカーも、オムツ替えや授乳室も無い。	1	子育て支援
不妊治療へのサポート、産前産後の定期検診と任意で参加できる検診の拡充、併設した相談窓口の設置と広報で育児への不安を解消出来ると考える。	1	子育て支援
不妊治療の助成金が欲しい。	1	子育て支援
ひとり親で病院勤務のため、日曜や夜間の預かり保育が有れば、仕事がしやすいです。	1	子育て支援
発達障害児を育てていると、親子共々精神的に滅入ってしまう時があるので、お互いリフレッシュ出来る、中高生まで利用可能な一時預かりが欲しい。(児童相談所に相談しても、病院から医療保護入院させてもらおうしかないと言われた)	1	子育て支援
明るく楽しい生きがいのある育成指導。	1	子育て支援
幼児期の教育を充実。	1	子育て支援
フードパントリーなどありがたいが、日曜日は行けないなど、多々不便に思うことがある。	1	子育て支援

回答内容	件数	項目
出産一時金が50万円にアップしたが、市民病院で出産した時、10万円オーバーした。個人病院で出産した友人はオーバーしなかったとのこと。市で経営している病院は高いと感じる。 市町村によっては、検診などを助成してもらえないところがある。(特に田舎は助成が少ない)	1	子育て支援
子育て支援センターは、市町村によって活発な所とそうでないところがある。(特に田舎は日にちが少ない)	1	子育て支援
家事や子育てがもっと夫婦で半々に出来る習慣作りが出来るようになれば良いと思う。妊婦の時期に夫婦で保育施設の見学ができる取り組みがあると、初めて親になる方々にとって先のことを考えるきっかけや子育てへの不安感を和らげるきっかけにもなるのではないかと思う。	1	子育て支援
虐待に関して、どんなに可愛い自分の子でも自分の心が折れそうな時、何も悪くない子供を叫んで叱ったりした。とても後悔している。もっと遊んであげたかった。	1	子育て支援
双子出産直後に保健師さんが訪問してくださり気持ちがとても救われた。	1	子育て支援
自分の心に余裕がないと、健やかな子育てが出来ないということを実感した。生活するための金銭面が安定し、自分や子育ての悩みなどを相談出来る人がいたり精神面でも誰かに支えてもらい、自分の心も安定している生活が送れれば、楽しく子育てが出来ると実感した。	1	子育て支援
自分の住む地域では、子育て世代への応援が手厚い。入園している認定こども園が地域密着で行事も多く、子供ものびのびと成長しているようで、良かった。いまはまだ未就学児しかいないが、特に大きな不満はない。	1	子育て支援
子育て支援に月一で通っているが、時間も短くなかなか悩みが解決しない。専門の方が増えたらいいと感じる。	1	子育て支援
病後児保育やタクシーに随分助けてもらった。送迎つきの習い事も助かった。	1	子育て支援
働きながらも子育て出来る安心して見てくれる所を増やして欲しい	1	子育て支援
手当でお金を支給してもらるのは確かに有り難いが、共働きが子育てしやすい環境にならない限り、子どもを沢山産みたいとは思わない。	1	子育て支援
現状でも、だいぶ助けられていると思っている。	1	子育て支援
宿泊できる産後ケアがあればいい。	1	子育て支援
少子化だと困ることも事実ですが、子育てに対してプラスな面を強調して出産を薦めるのは、その時に感じた理想とその後の子育ての現実とのギャップに苦しめられてしまう気がする。プラスもマイナスも伝えた上で、子育てを支援しますの方が良い。	1	子育て支援
コロナ禍により、他の家族と触れ合うイベントがなくなってしまった。家族で参加できるイベントが増えればいい。	2	交流
親同士が気を遣いすぎていて、知人友人の子供に叱れない親が多いと思う。何かあったらすぐ学校などに頼りすぎている親が多い。親自身が頼りない印象。コミュニケーションを積極的に取らない親が子供にコミュニケーションの仕方は教えられないと思う。	1	交流
小児特性慢性疾患や障害児の親の交流会を広く開催して欲しいです。	1	交流
コロナ禍を経て、以前のように開かれた子育て支援や、公園・町内会の充実があると良い。	1	交流
母親ばかりが大変にならないよう、父親も積極的に家事や育児に参加出来るようになれば楽しい社会になるのではないか。	5	社会環境
親が懸命に育児をしていることが多い中、「虐待」などをマスコミが過度に取り上げることがかえって「煽り」に繋がると思う。「虐待」の例よりも、親の育児工夫などの良い点をどんどん発信してほしい。その方が地域も国も明るくなる。	1	社会環境

回答内容	件数	項目
望まない妊娠から虐待へと繋がると思うので 性交渉をすることは 妊娠に繋がることだと言うことを 小さい時からきちんと教えていくべき(そういう時間を作るべき)。 覚悟がないのに遊びで出来てしまっただけは産まれる前に殺されたり(中絶)産まれてから殺されたり… 若い人達にももっと命の大切さを分かって欲しい。ゲームのようにリセットしたり、復活したりはできないのだから。	1	社会環境
虐待問題について、その時の環境だけでなく、親の性質、育ってきた環境が大きく関係していると考えます。今の子ども達が健全に育っていくためには、0歳児からの育ちが大事だと職場の保育施設で学んでいます。虐待対策、子育て環境対策として、 ①自分の現在の状態を客観的に判断できる人を育てること ②助けが必要な状態であるにも関わらず、助けを求められない人、必要と感ぜられない人を減らす教育 ③心に余裕を持つことのできる環境(職場環境、子育て環境)を整備することが必要と考えます。	1	社会環境
貧困、ストレスが、虐待を招く。自分が親から叩かれて育ったため、それが普通だとおもってしまう。	1	社会環境
子どもを育てるにはどうしてもお金がかかる。しかし子育てしている人たちだけを支援するのではなく、子どもを持たない又は持てない人たちも納得して豊かになれる世の中になれば良い。雇用を増やしたり、賃金を上げたり、県全体で豊かになっていけばもっと子どもを持とうと思う人が増えたり、子育てしやすい環境になるのではないかと。	1	社会環境
子供たちにも結婚・出産を勧めるつもりはなく、まずは自分自身の生活が成り立つよう将来を考えて欲しいと伝えている。 世の中が良くなる兆しが全く見えない中で、「孫が見たい」とは少しも思えない。	1	社会環境
少子化対策にお金をかけてもその流れは止まらないと思う。 所得向上など暮らしに余裕を持たせることで、そこから子どもを持とうと思うようになるのではないかと。	1	社会環境
金銭面のフォローがもっともあれば、少子化対策に繋がると思う。	1	社会環境
子供は欲しいと思っている未婚の人は多いと思う。少子化対策として1番力を入れるべきなのは、婚活だと思う。また、晩婚化&未婚が進んでいるので、学校の授業で、卵子の老化を取り上げるべきだと思う。何歳でも産めるんだという認識を改めさせた方がいい。 もっと若い世代に結婚や子供を持つことへの素晴らしさを教えていければいいのでは。	1	社会環境
昔みたいに子供ができたので仕事辞めますでもいいと思う。専業主婦でも食べていける環境が必要。	1	社会環境
毎日忙しいが、不妊治療してやっと授かり、かわいい子供に出会えて幸せです。もっと不妊治療に理解がある社会になってほしい。	1	社会環境
買い物などに出かければ、感染症流行下だということに子どもに無断で触れてくる人達がいて、安心して出かけることもままならない。	1	社会環境
キャリアを持ち教育能力の高い女性程仕事が忙しく子を持つことを躊躇している。低所得者に金銭的補助をしても子供のために使っていないケースも良く聞く。金銭的補助よりも安心して子供を育てられる保育環境や職場環境の意識の醸成を望む。	1	社会環境
子どもに優しい世の中、もっと周りが積極的に関わってくれる世の中であればいい。青森、そして日本は子育てし辛いだろうと思う。	1	社会環境
のびのびと子育てが出来ると環境。 経済的余裕が生まれ子供の将来の選択肢が広がること。 青森に居たいと思わせるような発展。	1	社会環境

回答内容	件数	項目
結婚や出産に対するパワハラ、マタハラ等の意識改革をする。主に地域性や世代による古い考えを無くしていかなければ変わらない。	1	社会環境
我が家の3人の子供はある程度成長しましたが、0~3才の時期は熱も出るし、産後は自分の体調を崩したり、子供から風邪がうつったり、そんな時に気軽に子供を預けられる存在などがいるとグッと子育ては楽になると思う。また、私の場合は義父母や父母に預かってもらうことが可能でしたが、近くにそうゆう存在がいない場合、気分転換もできずにストレスがたまると思う。子供は可愛くても、全然言うことをきかなくて自分でどうしたらいいかわからなくなったことがたびたびありました。そんな時にそっと手をさしのべてくれる誰かがいるといいなと思う。	1	社会環境
有名企業は都会にあるので、学力の高い子供は県外へ進学後、就職し帰ってこない。子供が減る。	1	社会環境
結婚、子育ての基礎は、自分が過ごした家庭環境が全てだと思う。 結婚したいと思える、また子供が欲しいと思える家庭が築く事ができればと思う。	1	社会環境
青森の自然環境は子どもにとって宝物だと思う。青森の良さを伝え、それを愛する心情を育めば良いと思う。	1	社会環境
望まない妊娠は無理に産まなくてもよいこと。	1	社会環境
少子化がどんどん進むのは、結婚を望まない女性が増えたのだと思う。正社員と社会保険で、所得と、老後に満足しているからでは、ないでしょうか？	1	社会環境
子どもは宝だと思うが、子どもを望んでもうまくいかないことがある。社会全体で大切にしていけることが必須だと思うのですが、悲しい現実として子どもに我慢を強い実態もある。子どもや子育てしている人たちを温かく見守ってくれる社会であってほしいと願っている。	1	社会環境
集団検診で子供の発達状況が同じ年の子の比べ遅いと言われた。私は子育てもしたことがないし、不安でしかなかったです。焦りや不安から、できない子にイライラしてしまう。 発達の遅さを伝える時は言葉を選んで不安にさせないように、余裕を持って子育てできるように寄り添ってあげて欲しい。	1	社会環境
仕事をしている女の人が妊娠、出産となると休まなければいけない。 そうなる女の人を雇う企業が少なくなる。 女の人が不利にならない社会作りが出来ればよいと思うが、まだまだ意識が低い方が多いのが現状。	1	社会環境
少子化の解決策ですが、根本の所で若者が結婚しない、出来ないのが最大のネックだと思う。私の会社でも、男女問わず適齢期と呼ばれる社員が何人も結婚していない。 夫婦になる人が増えればおのずと子供も増えると思う。 個人的な考えだが、生まれてしまった子供の補助やらを増やしても子供は増えない。良い畑を作る事を考える方が良いと思う。	1	社会環境
私は子供が4人いますが、他の方に「4人もいるの?!」とよく言われ4人いたら恥ずかしいのかと思ってしまう。そう言うところもなくして、暖かい気持ちで見守ってもらえれば、子育てしやすい、いい環境になるのではと思う。	1	社会環境
今の若い子は異性に興味が薄い割合が増えている。子育て世帯を増やすというよりは、いかに結婚している方に多く産んでもらうかを考えたほうがいいのかと思った。	1	社会環境

回答内容	件数	項目
物価上昇によって夫婦共働き（フルタイム）が当たり前になっていますが、年配の世代にはなかなか共働きの意識がない。 会社では当たり前に残業があり、PTAがいまだにあり、町会の仕事を任せられ、子育て世代の負担は大きい。昔とは違うということをもう少し理解してほしい。 子供をもつ女性でも働きやすい社会や、子育てしやすい街づくりは、行政も県民も双方の意識が変わらなければやっていけない。	1	社会環境
若者世代に負担ばかり強いるので、経済的余裕がなく結婚できない、子供がいないのループだと思う。	1	社会環境
出生前は不妊治療などにかかる経費、いつ子どもができるのかという周囲のプレッシャーなど煩わしいことがありました。子どもをもつことは義務ではないのに苦しかった。	1	社会環境
子どもを生んで育てることは、とてもやりがいがあるが、お金と時間と体力が必要。子どもを生まない、育てない人も、将来、私たちの子どもの世話になって生きるのだから、子どもを生んで育てている人が社会から恩恵を受けることができるようになってほしい。	1	社会環境
昔に比べると、経済的なことや環境はずいぶんと良くなっていると思う。	1	社会環境
子どもを産み育てることは何事にも変えられない喜びを感じるが、実際に仕事の多忙さ、家事、教育費と悩むことも多い。これらが少しでも改善したら、安心して子どもを産もうと思う人が増えるのではないかとと思う。	1	社会環境
極端に言ったら、子育て世代との住み分け。 地域や高齢の方が皆子供に好意的な関心があるわけではない。	1	社会環境
母親が義父母から干渉されすぎない環境が望ましい。	1	社会環境
あと二人子どもを欲しいと思っているが、夫婦ともに仕事と育児に追われ、子どもを作る行為をする時間と体力がなく、毎日が過ぎていく。平日は子ども園に通っているが、土曜日は両親が仕事じゃないと預かってくれない。休む時間や部屋を片付ける時間もない。 足りないのは、親の時間なのではないだろうか。自分達にとっては、親の時間を作ることが少子化対策になる。	1	社会環境
結婚し、子育てと仕事を両立していくなかで、自身が体調不良を感じるが増えた。働く女性の健康に関して、もっと関心を持って欲しい。具合が悪くても、我慢して仕事や家事をしている。男性には、なかなか理解してもらえない。	1	社会環境
子供は可愛くても仕事が忙しいとパートナーに頼るしかない上に、仕事だけしていれば済むっていいと言われることが悩み。	1	社会環境
女性にとっては負担かもしれないが、子供ができて育てる大変さと喜びを持つのは自然だと思う、そう思えないのは不自然だと思う。	1	社会環境
相手の価値観や気持ちを理解するために教育があるという考えに、県民一人ひとりがシフトしてほしい。 相手の価値観や気持ちを理解するために教育があるという感覚を身につけるのは、一夜ではできないことなので、長い時間をかけてゆっくりと感覚を育てあげることがとっても大切です！	1	社会環境
環境面・経済面共に子育てがしやすい環境を整えば良いと思う。	1	社会環境
これから結婚、出産、子育てと新しい生活をおくるであろう方々が未来を想像できる環境、社会をお願いしたい。自分達も少しでも子ども達が未来を想像できるように育てていきたい、協働していきたいと努めてみます。出来ることからコツコツとから大きな流れへつながるように願っている。	1	社会環境

回答内容	件数	項目
今の多様性と呼ばれるご時世は「子供を産み育てる」ことが「普通」でなくなっており、いかに「産めるのに産まない」方に支援できるかが大切だと思う。もちろんそれを支える職場の方への支援も必要ですし、社会全体での少子化対策・支援を望みます。	1	社会環境
若者が暮らしやすい町づくりが必要。また、子育てしやすい社会環境の整備を求める。	1	社会環境
いじめのない学校作りをしてほしい。学校は何も動いてくれない。保護者と学校側はもっと連携とるべき。	3	学校・教育
働いていると、子供の習い事、部活動など送り迎えは出来ない。時間と金があったら子供の希望に添えるのに、それが出来ない最低な親だなとたまに思う時がある。	1	学校・教育
部活などの練習試合を土曜日に入れなくてほしい。土曜日仕事だし、小さい企業だと有給も使えない。	1	学校・教育
学校改革に伴い部活動のクラブ化は理解できるが、経済的格差が生まれつつあるように思える。交通費や大会への宿泊費用、学校で共有で使用していた物の購入は全て各家庭の負担に。 土日は親の付き添いや手伝い、遠方への送迎が必要になり、出来る家庭と出来ない家庭が出てきている。 親の負担が大きすぎて子供がやりたい部活動を諦め、才能ある子も経済的に断念するのは非常に残念でならない。格差社会が生まれぬよう、どの子にも平等な教育改革である事を願う。	1	学校・教育
〇〇市の給食が美味しくないで、ほとんど食べないで帰ってきている。	1	学校・教育
小学校でアレルギーに対する給食がないことが困る。アレルギー食材を除去するだけで、結果内容・栄養が一品分削られているだけで、給食費は満額とるのに、対応食などがなく、考えられていない。アレルギーに対する考えや配慮が無さすぎる。	1	学校・教育
小学校は給食センターからではなく各小学校の給食室で作った物にしてほしい。	1	学校・教育
給食施設で給食が食べられるようにすること。	1	学校・教育
小学校の給食の無料化を青森県全体で行ってほしい。	1	学校・教育
不登校の子供が通えるフリースクール的な場所が少ない。学校という場所に行けない子供は、孤立してしまう。	1	学校・教育
不登校の子供のための公立の学校があればいい。フリースクールなどあるが、経済的に通わせたくても通わせられないのが現状。	1	学校・教育
幼稚園と保育園の教育方針の違い。 幼稚園に預け教育してもらいたいが、フルタイムの仕事の為、保育園に預けるしかない状況。	1	学校・教育
教室へのクーラー設置、プールの適正な維持管理をお願いします。	1	学校・教育
発達が遅れている子供は、普通のクラスに入れないで、養護学校にに入れて欲しい。理由として教員免許と養護学校の資格が違うので教え方も違うし、そのせいで子供がいじめられる。	1	学校・教育
施設や学校内への外部の介入等、障害ある子供の目線で、対応してほしい。	1	学校・教育
青森県の子は県外の大学に進学→進学先で就職するパターンも多い。もう少し、県内の大学に青森県の子が入りやすくしてほしい。	1	学校・教育
養護学校の場所を増やして欲しい。 現状学校は部屋の数に足りずに増築しているその為、外で遊ぶ場所、運動、研修をする所が減っているの、学校を新たに作って欲しい。	1	学校・教育
義務教育なのに市営バスで通う件をなんとかして欲しい。(バス代無料化、又は自転車可など)	1	学校・教育
幼いうちは子育てしやすい環境はあるように思うが、小学校以上になると都市に比べるとかなり学力格差を感じる。	1	学校・教育

回答内容	件数	項目
自分は田舎に住んでいるが、街の高校への通学が非常に不便だった。	1	学校・教育
私が住む地域は保育施設の待機児童の問題は少ないのですが、高校が無くなってしまい、高校生以上の教育環境充実、遠距離通学に関する補助制度の充実を強く希望します。	1	学校・教育
スポーツクラブを学校でやってほしい。他の場所に行かずに、学校でできたら助かる。	1	学校・教育
村に住んでいると習い事等をさせたくても、送り迎えが大変で諦めた。経済的な問題ではなく市部と差が有りすぎる。高校まで痛感した。	1	学校・教育
親にも寄り添って欲しいが、子供最優先で保育、学習環境の充実と子供の心に寄り添える先生を育てることが急務だと思う。	1	学校・教育
もっと現実的側面から、子ども達に学業の大切さを周知して、学ぶ事で自分の人生にどんな選択肢が増えるのか、学びから逃げるとどんなリスクが生み出されてしまうのか、積極的に示してあげるのが大事だと思っている。	1	学校・教育
保育園でも小学校でも中学校でも、平気で先生からハラスメントを受けている。直接話をしても全く悪いとも思わない態度。根本的に、上に立つ人たちにはいい顔(報告)して、それを鵜呑みにしてしまう形態が悪。アンケートなどをやるにしても、個人が特定できる形式でやるから、本音がでるわけがない。うわべだけの改革面はもう本当にやめたらいいと思う。	1	学校・教育
他県から引っ越して来て感じた事は、子供に関わる仕事に従事している人間の質、能力が低い事。支えてくれるはずの人間に嫌な思いを親と子両方でさせられることが多い。人によって当たり外れがあり、“ハズレ”の割合が他の地域より高いのではないかと思う。	1	学校・教育
〇〇小学校は人数が多すぎて先生が対応しきれない。 先生によっては、障害があるんじゃないかと遠回しに発言されたり、病院に行くようなケガでも、連絡の必要無しと勝手に判断される。 子どもにその場で注意せず、あとから親に言うてくる。	1	学校・教育
地図で青森県の右側にあたる地域に国公立大学、又は一定水準の私立大学が無く進学へ経済的負担が増すため子育て環境が制限されている。進学で県外へ出ざるを得ず、最終的に人口も減ってきている。	1	学校・教育
お金の支援ではなく、大学までの学費の無償化。	1	学校・教育
預かり時間の延長や、期間(日祝やお盆、年末年始)の見直しをして欲しい。	4	学童保育
昼食・軽食の提供があれば安心して仕事ができる。	3	学童保育
〇〇市の学童の料金が他の地域より高い。もう少し安くなってほしい。2人目が半額とはいえ2人合わせて7千円は高い。	1	学童保育
学童でスポーツからピアノ、習字、英語やそろばん教室など、習い事がやれたらいい。	1	学童保育
学童の活動内容があまりに薄く、宿題は教えてもらえず、テレビを見せているだけなので子供が行きたがらない。人数も許容オーバーで活動している。 習い事や遊びを通して、たくさんの経験ができれば将来に生きてくる。 先生によってはやる気も感じられず、暴言吐くような人に子供たちは任せられない。	1	学童保育
学童の無料化をお願いしたい。	1	学童保育
青森県でも住む場所で育児の環境が大きく変わる。 〇〇市は保育園は土日の対応ができなかった。農家が多く、土曜の学童も15時終了で使えないため、夏休みに別の学童にお願いしたが、対応が酷く1回きりの利用で終わった。医療費が中学までかからないのは良いが、農家でない仕事をする私には、本当に頭を悩ませる問題だった。	1	学童保育
小児科が少なく不安に思う。	2	医療
書面でのやりとりが不便。もっと手軽にしてほしい。	1	医療

回答内容	件数	項目
〇〇から弘前大学医学部附属病院まで通っているが、真冬や手術があると通うのが大変。なぜ大きい手術は津軽が主にやっており、南部地方や八戸市にはないのか。	1	医療
むつ、下北地域は信頼できる医師が少なく、医療設備に乏しいため救急時に不安を感じている。また、研修医ばかりでなく優秀な医師の配置、医療設備の充実を望む。特に小児科は多忙なので、増員があってもよいと思う。 (個人病院の小児科医は傲慢さが目立ち、親が連れて行きたくないと、よく周りから聞く)	1	医療
小児科行く前に、相談できる窓口があると嬉しい。予約が必要であったり、休診で行けなかったり、他の病院に行くことになり困る。 土日祝日営業の小児科と平日営業の小児科があると嬉しい。	1	医療
夜間急患の病院の診療時間が短くて困ったことがあった。	1	医療
市に産科がなくなったり、小児科他、耳鼻科、眼科など医療機関が少ないことで隣の市の病院に連れて行くことが多く大変さを感じる。	1	医療
コロナにかかった際に〇〇市は気軽に見れる病院がなく、受診前に医療用検査キット購入し、検査してから受診となると、人数がいる場合費用がかさむ。 市街地まで行かないと病院がなく具合悪いなか行くのが不便。 子どもを気軽に見てくれる、仕事している親が行きやすい病院も子育て支援には必要です。 様々な件、検討していただければ助かります。よろしくお願い致します。	1	医療
コロナ禍以降、子供が風邪の症状があっても診察してくれない病院が多くて困ったので、受け入れてくれる医療機関を増やして欲しい。	1	医療
父親母親2人で、協力して子育てをすることが大事だと思う。	2	育児
親子ともども笑顔で子育てをしていきたい。	2	育児
青森県でしか子育てをしたことがないので、ほかの県がどのように育てやすいのか、または育てにくいのかわからない。 自然が身近にあり外で遊べる環境がたくさんある青森県は、子供にとっていい環境なのではないかなと感じている。最近ではわざわざ高いお金を払って田舎の保育園に留学する都会の子もいるようで、そんなことをしなくても我が子は思いっきり外を走り回って遊んでいる。	1	育児
子供を育てやすい環境を作ってほしい。	1	育児
自分の子供は大好きで、日々の成長を見るのはとても楽しい。	1	育児
親子のコミュニケーションが大事だと思う。褒めること、安心感が心を育てることに繋がる。毎日の積み重ねが大事。	1	育児
子育てを若い世代だけに任せるのではなく、高齢者等すべての世代で積極的に関わって頂きたい。	1	育児
室内で遊べる場所を増やして欲しい。	14	遊び場・施設
遊びに行ける場所が少ないのもっと増やして欲しい。	10	遊び場・施設
屋外で遊べる場所を増やして欲しい。	3	遊び場・施設
青森は冬が長いので、乳幼児だけではなく、小中学生、高校生も気軽に遊べる屋内型施設を作るべき。子どもたちは友達と遊ぶ場所もなく、カラオケや、ゲームセンターしかない。悪天候でも楽しめる施設が多いと、家族連れの旅行客も増えるし、一石二鳥で経済にも良いと思う。そして、地元の子どもたちの運動不足の解消にもなる。	1	遊び場・施設
何か買いたい物があっても、若者は五所川原エルムやイオンモールに出掛けて行きます。 商業施設を誘致して、県庁所在地から変えて行って欲しい。	1	遊び場・施設
乳幼児を連れて行ける施設が少ない。公的施設の拡充もしくは商業施設を誘致する等、親子で楽しめる施設を増やして貰えるといいと思う。	1	遊び場・施設

回答内容	件数	項目
子供を連れていける遊び場を、スーパーの中に作っていただければ、利用しやすく助かる。 屋外施設、公園は、今年の夏は暑すぎるためほとんど行けなかった。	1	遊び場・施設
障害の子供の塾など、学べる場が学校以外でほしい	1	遊び場・施設
ヒロロのように無料で、保育士の先生もいて、子どもを安全に遊ばせられるような場所があればいい。	1	遊び場・施設
都会に比べて習い事の種類やテーマパークが少なく、その分、何か体験型の取り組みがあれば応募している。自治体主催や補助の取り組みも多いので、もっと充実させてほしい。	1	遊び場・施設
室内で遊ぶことが多く、遊ぶ仲間もいつも同じ。 公園など安全な場所で年代にとらわれず友達100人作って欲しい	1	遊び場・施設
たくさん子どもたちが広々と遊べるような屋外屋内施設を作ってほしい。人数制限のないレジャーランドのような大きな遊び場がほしい。	1	遊び場・施設
ボール遊びや走り回れる場所が少なく感じる。特に野球やサッカーができる場所が少ない。そのような場所を増やしてほしい。	1	遊び場・施設
冬場でも、安く親子で楽しめる運動施設の充実が望ましい。子は無料に近い値段に設定し、親も安くしてほしい。そうすれば、親子の触れ合いも出来て健康増進もできて、短命県返上につながると思う。	1	遊び場・施設
キッズスペースや遊べる場所などの情報提供をしてくれると嬉しい。	1	遊び場・施設
学童は教室が狭く動き回れない。長期の休みに預ける際は運動不足が心配。	1	遊び場・施設
商業施設などの授乳室やオムツ替えの場所が少なかったり汚かったり古かったり暑かったりと、快適でない。	1	遊び場・施設
雨の日や、長い休みなど、連れて行ける場所が少なく困った。年齢がバラバラな子供を連れて行っても、それぞれが楽しめる場所が増えたればいいと思う。	1	遊び場・施設
子供がもっと楽しめる施設があればいい。「青森はなにもないからつまらない」と、子供ですらそういった発言が出る。大人になったら県外に出るのが必然な環境になっていると思う。	1	遊び場・施設
五所川原エルムのような大人も子供もワクワクする場所があると子育てしやすいです。	1	遊び場・施設
県営浅虫水族館のようなレジャー施設があれば来訪人口が増え経済対策、雇用対策となると思う。	1	遊び場・施設
イベントではなく、中心街に若い子達が行きたくなるお店屋さんがあれば良いと思う。 リーズナブルな服屋さん、コスメ店、雑貨屋さん、映画館、冬でも遊べる施設など。中心街の活性化を願っている。	1	遊び場・施設
青森県は海あり、山あり、自然が多く、子連れで参加できる色んなイベントも増えたし、美術館や丸山遺跡、古くなったけどプラネタリウムなどの施設もあり、環境はなかなかいいと思っている。	1	遊び場・施設
子供が遊べる場所(レジャー施設等)が少なく、気軽に休日出掛ける場所が、いつも同じになってしまう事があり、また、どの家庭も行く場所は大体一緒なのか非常に混雑していて、子供が自由に動き回るのに気を遣う場面が多い。公園は以前と比べると遊具が減ってきており、遊具の順番待ちが長かったり、使えない場面が多々ある。	1	遊び場・施設
市町村によって子育ての環境、医療や教育、保障などにバラつきがなく、県内どこに住んでも平等であって欲しい。	2	行政
進学や就職を機に県外に転出する若者も少なくないため、少年から青年になっても住み続けられる街になるよう、産官学民が連携して政策を立案・展開していくべきと考える。	2	行政

回答内容	件数	項目
3人目がいるともらえる手当のシステムがよくわからない。1人目でも2人目でも変わらないのでは？	1	行政
国の方針にはなってしまうが、生産性の低い高齢者の高額医療費に費やすのではなく、子供の医療費、教育関連費、環境問題に予算を振りむけるべき。給食業者が赤字、というのも、結局は子供にふりかかる問題だと思う。 児童手当の拡充はありがたいが、ただばらまかれるよりも、予算を子供に振り分ける方がいいと思う。高所得者には児童手当よりも子供の控除を復活させたほうが効果的なのでは？	1	行政
発達障害や知的障害などの相談窓口を統一して欲しい。「こちらは管轄外ですので〇〇に行ってください」などが多かったので支援、療育、手当、手続きなどを一括で済ませられる窓口があるとありがたい。現状自ら情報を求めないと教えて貰えない事も多く、知らずに損をしてしまうことも多いので全ての情報も教えてくれる窓口があると嬉しい。	1	行政
市や県の政策に満足していますか？の問いがありましたが、そもそも何に取り組んでいるか分からない。 出産一時金、出産手当、育児手当等の他に何か取り組みはありますか？ 不妊治療費用の免除で少子化を改善しようとしていることがわからない。	1	行政
少子化問題は明確な解決策はないと考えますが、少子化問題を大きく取り上げて結婚や、子育て多子の大変さばかりメディアなどが取り上げたり、行政が少子化対策室など創設すると、これから結婚を考えたり、3人目4人目を検討する家庭には、それが障害であるかのように感じてしまうと思う。 そうならないために、結婚の素晴らしさや多子の喜びを強調する雰囲気作りが欠かせない考える。青森県はこどもみらい課など素晴らしいネーミングだと思う。	1	行政
〇〇市はとても子育てしにくい。なぜ生活保護の方ばかりが優遇されているのか。	1	行政
自治体によって給食費や保育料(二人目以降)に差があるので統一してほしい。	1	行政
5年前に転勤してきました。前の勤務先と違うのは、子育てやワークライフバランスの施策をやろうとしていたか、やらされていたかが顕著です。50代付近の年代が変われない。その割合が圧倒的に高い。 狭い世界しかみていませんが、青森県で感じることは有形の施策どころより、意識改革が必要でしょう。	1	行政
明石市と同じことをしてもらえれば良いと思う。	1	行政
子供に特化した対策ももちろん必要だと思うが、一番は子育てをするのに余裕を持てる位の経済対策が必須だと思う。 やはり経済に余裕があればマイナスの思考も生まれにくく、地域も子育てに寛容になれるのではないかと。 現状皆が自分の事で精一杯になり、回りに気を配る余裕すらなくなっている様に感じる。	1	行政
私は他県の出身で転勤により青森県に住んでいるため、青森県の病院やこどもに関する施設を探すのに時間がかかったので、もっと情報を発信して欲しい。	1	行政
結婚前に考えていたよりも、子育ても結婚生活も、大変だけど想像以上に楽しい。高齢での結婚、出産でしたが、現時点では、このタイミングで出会ったパートナーと子ども達と共に人生を歩むことができ幸せだと思っている。子育て支援は何より経済的支援と雇用支援だと個人的に考えている。子ども家庭庁のような外的な支援ではなく、安心して子育てができる政策、支援にこのアンケートが役立つことを期待している。	1	行政

回答内容	件数	項目
医療費控除について 市町村により、医療費控除に格差があることが問題であると考察する。とくに、特別職国家公務員が根ざす地域においては、所得額の基準に置いて、夫婦共働きの家庭は、医療費控除を受けることすらできず、誰のための控除なのか甚だ疑問である。高収入者の義務として納税を果たすことに理解はできるものの、その還元が無いようであれば、第二子、第三子を考える余裕はない。	1	行政
少子高齢化に対するアプローチについて 昨今の県政に置いて、少子高齢化を抑止するために実施された施策が「真に必要な施策」であるとは思えない。少子高齢化を真剣に抑止するためには、弱者救済よりも、費用対効果の高い施策を実施すべき。	1	行政
行政は受身ではなく、自ら動いて発信や活動をしてほしい。 質問にあったような相談窓口を増やしても、相談しに行く人が増えるとは思えない。おそらく、窓口が増えたこと知らないだろうし、それを周知出来ていない。それくらい情報を得るのは難しい。 役所に作っても駐車場は狭いし、遠いし、行こうと思えない。	1	行政
県外にも住んでいたことがあるので、市町村によって税金も違えば、福祉、子育て支援の制度や税金の減税や免除などの取り組みが様々で違いがありすぎる感じている。 現状は子育て世代への生活のしやすさ、援助はほぼ感じていない。 秋田に住んでいた頃は、子育てや医療、福祉、生活支援の取り組みはが、何年も前からあり、その支援も受けていた。 青森県に戻ってからは何もかもが遅く、下手をすれば支援も無い。本当に住みづらい。子育てもしづらい。住民が少なくなってもしょうがないと思う。 とにかく取り組みが遅い。話も通じない。役所は聞く耳も持っていない。 少子化を止めたいから他県の良いところ見習って先導きって県が取り組むべきだと思う。	1	行政
県が子育て支援に関して、どのような取り組みをしているのかがよく把握できていない。	1	行政
Iターンで、青森に移住してきたが子育てしやすいと感じたことがない。 教育環境も遅れているし、移住したことでの子供へのメリットはあまり感じない。	1	行政
両親祖父母が子育てに積極的に関わってやっと成り立つ子育てなので、どれか1つでも欠ければ外部を利用するしかなくなるが、その手段すら知らない母親もいる。 Q&A で年齢に合わせたサービスやお金に関することが時系列でわかるといい。	1	行政
県として、子どもがいない世帯に子どもを持たせたいのか、子どもがいる世帯に、二人目三人目を持たせたいのか、狙いを明確にして取り組んでいただきたい。	1	行政
子育てに予算を回す約束を果たしてほしい。	1	行政
ひとり親に対する支援が過重だと思う。	1	行政
高齢者や生活保護受給者に対し、慢性的に執行されている予算を、真に必要なゼロベースで見直し、未来を担う子どものために予算を使って欲しい。政治にも女子枠を設け、女性の視点を取り入れる事を望む。声だけでかい、目の前の自分の周りのことのみには興味のない政治家ばかりな気がする。	1	行政
子育て環境の充実は、県が強制的に実施しないと全く向上していかない。市町村での温度差が激しい。	1	行政
遊ぶ所がないので、他へ旅行にいき、他の県にお金を落とすことになる。 税金で働いているのだから、青森県をよくする政策をしてほしい。	1	行政

回答内容	件数	項目
上の子を短時間保育で保育園に通わせており、切迫流産の自宅安静のため送り迎えが厳しく標準時間に変更したい旨を相談しましたが、市役所の手続きの関係上(月初に切り替わる)無理なので延長代を自費でお願いしますと言われた。妊娠前に事前に相談していたので、切り替えられるものだと思っていたが、手続きの関係上で自費になるのはどうなのかと思った。切迫流産は突然なるものですから。	1	行政
少子化の解決策は、若者の県内定着と早期の結婚、そして安定した所得の確保だと思う。青森モデルを確立できるように、知事に期待している。	1	行政
先日、知事と女性達が意見を交わしているところをニュースで見た。何故女性だけなのか、また、参加した女性の考えにも認識の偏りを感じた。家事育児は女性だけのものではなく、我がことと考え、主体的に、当然のこととして行っている男性の意見も聞くべきではないか。また、子育て世代の上の世代への教育も必要だと考える。	1	行政
これから産まれてくる子供を増やす施策が、なぜこれほどまでに遅れたのか。超高齢化が明らかに見えていたのに、出生率の上昇や子育て世代への支援は後回しにされて、高齢者に対する施策だけ整備されていく。これは立法と行政の怠慢だと思う。今すぐ安心して、子供を産める、育てられる施策、政策を実行してほしい。	1	行政
県が運営する全県版の婚活支援(マッチング)ポータルがスタートしているようだが、最近は婚活や恋愛に踏み切れない方、所謂お一人様に満足している方が増えていっているように感じられるので、周知活動はもとより、利用に当たって敷居が低くなるような運用の仕方を期待している。	1	行政
障害児のサポートをもっと充実させてほしい。	1	行政
小学校給食費の無償化は、子育て世代からすると本当に良かったと思う。	1	行政
現在子供を持ち育てる人達は国の宝を育てているのと同じだと思うので、教育にかかる手当などには所得制限等を設けずに積極的に支援するべきだと思う。	1	行政
歩道が狭く、安全に歩ける歩道が少ない。また、雪が積もると歩道自体がなくなり不便。	4	交通
自転車が行き通るスペースが狭く危ないので広くする。	1	交通
街灯が少なく夜が暗いので、部活から帰ってくる夕方、夜が心配。	1	交通
アンケートの選択項目に当てはまるものがないことがあり、その他や自由記述欄があれば回答しやすかった。	3	調査票
複数回答数に制限があり全てを回答できないため、結果が考えと一致しているとは言えない。	2	調査票
選択回答の中に適切な回答を設けないことに、恣意的な意見を収集したい意図が見えた。 特にNo. 67の設問に対して、出産適齢期年代の定着率など、県として何を課題としているのか提示しないまま選択の中だけから答えを求めることは不適切だと感じた。	1	調査票
子育てというと、誕生から学童期、そして成人までと広く、どの時期に関してお聞きになりたいのかがわかりづらく、本当に県が聞き出したい情報は得られないのではないかと感じた。 また、子どもが複数いると、どの子のどの時期かで回答したい内容が異なるため、アンケートとしては不出来だったと思う。 子ども・子育て、そして少子化対策について、行政はあまり現実味をもって仕事をしていないのではという印象を持ち、とても残念に思う。もっとしっかり親の意見を聞いて、施策に反映して欲しい。	1	調査票
アンケートを見る限り「健全な子ども・普通の子ども」が主なような気がした。	1	調査票

回答内容	件数	項目
子どもを育てるなら青森県！と思い、東京都から生まれ育った青森県に帰ってきた。離婚をしましたが、豊かな人や自然の中で、母子共に心も体も元気に暮らしており、また、仕事と家庭の両立ができる環境があり、満足度が高い。	1	その他
健康、子育て、仕事、パートナーとの関係、どれか一つが不調でも充実感が得られない。 子どもには健康で自分らしくいてくれたら親として幸せだ。	1	その他
思いやりのある子に育ってくればそれで良い。	1	その他
私は子育てをしてきて、社会環境やお金のこともあるとは思いますが、自身が子供とどう向き合うか、子供の好きや得意なことを親がどう伸ばしてあげるかだとも思っている。 今、子供が凄く得意なことに邁進していることで私も成長できたり、周りの環境に感謝することがいっぱいあり、子育てをしていく楽しさを一番感じている。	1	その他
子どもは自分の力で強く生き抜いて欲しいと思う。	1	その他
子育ては大変だけれど、子供のいる日々は幸せだ。	1	その他
子供の成長は早く、気づけば親のもとを離れていってしまうものだと思いながら子育てをすることで、その時間を噛みしめることができる。	1	その他
わりと頑丈に育ち満足している。	1	その他
健康に育てて欲しい。ただそれだけ。	1	その他
こどもがいることで自分達の生活も豊かになったと思う。	1	その他

使用調査票

子どもと子育て及び結婚に関する調査 (子どもを持つ親対象調査)

－アンケート調査ご協力のお願い－

青森県では、県民の子どもと子育て及び結婚に関する意識などを把握し、次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくりを進めるための基礎資料を得ることを目的に、「子どもと子育て及び結婚に関する調査」を実施しています。今回の調査は、平成6・13・20・25・30年に続いて6回目となります。

アンケートは、県内にお住まいの方から、0～18歳のお子様がいらっしゃる2,000世帯を住民基本台帳より無作為に選ばせていただき、お願いしております。今後、子育て支援施策を進めていくための大切な資料となりますので、ぜひご協力くださるようお願いいたします。

アンケートは無記名です。ご回答いただいたアンケートは、すべて統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することは決してありません。どうぞありのままをお答えください。

集計した結果は、県のホームページ等で公表する予定です。

(ご案内)

- 1 この調査は、令和5年9月1日現在、0～18歳までのお子さんがいらっしゃるご家庭を対象としています。
お子様の保護者のうち、お一人だけに回答していただきますがパートナーの方のお考えを伺う設問もありますので、パートナーがいる方は、協力して回答をお願いします。
- 2 この調査は、ウェブアンケート形式で実施します。ご自身のスマートフォン等からお答えください。(通信料は自己負担となりますのでご了承ください。)
回答に当たっては、別添の「ウェブアンケート回答方法のご案内」をご確認ください。
- 3 該当する回答が無い場合でも、一番近いと思う選択肢を必ず選んでください。
回答数は質問によって異なりますのでご注意ください。
回答期間 令和5年9月11日～令和5年9月25日
- 4 アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で500名様にデジタルギフト(QUOカードPay)500円分を進呈します。アンケート終了後にお申し込みください。
- 5 調査についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

青 森 県

【調査についてのお問い合わせ先】

健康福祉部 こどもみらい課 子育て支援グループ

電 話 017-734-9301

FAX 017-734-8091

E-mail KODOMO@pref.aomori.lg.jp

問6 現在、あなたと同居している方を、次のうちからすべて選んでください。
 (あなたから見た続柄でお答えください。) (複数選択)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 婚姻しているパートナー | 2. 子ども |
| 3. 父母 (パートナーの父母を含む) | 4. 孫 |
| 5. 祖父母 (パートナーの祖父母を含む) | 6. 子どものパートナー |
| 7. 兄弟姉妹 (パートナーの兄弟姉妹を含む) | |
| 8. 内縁の関係等のパートナー | |
| 9. その他 | |

回 答
 記 入 欄

問7 現在、あなたが一緒に暮らしている家族の人数は、あなたを含めて何人ですか。(1つ)

- | | |
|---------|-------|
| 1. 1人 | 2. 2人 |
| 3. 3人 | 4. 4人 |
| 5. 5人 | 6. 6人 |
| 7. 7人以上 | |

回 答
 記入欄

問8 お子さんは何人いらっしゃいますか。(別居中の子も含めてください) (1つ)

- | | |
|---------|-------|
| 1. 1人 | 2. 2人 |
| 3. 3人 | 4. 4人 |
| 5. 5人以上 | |

回 答
 記入欄

問9 お子さんの就学状況についてお答えください。
 (年齢の小さいお子さんから順に記入してください。※5番目まで)

就学状況 (1つ)

- | |
|------------------|
| 1. 未就学児 (小学校入学前) |
| 2. 小学生1年生～3年生 |
| 3. 小学校4年生～6年生 |
| 4. 中学生 |
| 5. 高校生以上 |

<input type="text"/>				
----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

問10 あなたの世帯の合計年収についてお答えください。(1つ)

- | |
|-------------------|
| 1. 100万円未満 |
| 2. 100万円～200万円未満 |
| 3. 200万円～300万円未満 |
| 4. 300万円～500万円未満 |
| 5. 500万円～700万円未満 |
| 6. 700万円～1000万円未満 |
| 7. 1000万円以上 |

回 答
 記入欄

結婚に対する意識についてお聞きします

次の問11～問18はパートナーがいる方が対象です。パートナーがいない方は問19へお進みください。

問11 あなたが現在のパートナーと結婚した年齢をお答えください。

答

歳

問12 あなたが現在のパートナーと知り合ったきっかけについてお答えください。(1つ)

回答
記入欄

1. 学校で
2. 職場や仕事の関係で
3. 幼なじみ・隣人関係
4. 学校以外のサークル活動、習いごと等
5. 友人や兄弟姉妹を通じて
6. 見合いで(親せき・上役等の紹介も含む)
7. 結婚相談所で
8. 婚活イベントで
9. インターネット、SNSを通じて
10. 街なかや旅先で
11. アルバイトで
12. その他

問13 現在のパートナーと交際する前のあなたの結婚に対する意識についてお答えください。(1つ)

回答
記入欄

1. なるべく早めに結婚したいと考えていた
2. 適当な時期が来たら結婚と考えていた
3. 生涯独身でもよいと考えていた
4. 特に考えていなかった

問 1 4 あなたが現在のパートナーと結婚する前に考えていた結婚の条件についてお答え
ください。(3つまで)

回 答
記 入 欄

1. 自分が就業すること
2. 自分の雇用が安定すること
3. 世帯で一定の収入の見込みが立つこと
4. 結婚資金(挙式や新生活の準備費用)を確保すること
5. パートナーの雇用が安定すること
6. 自分またはパートナーが仕事をやめること
7. 仕事や事業の状況が落ち着くこと
8. 結婚生活のための住居を確保すること
9. 健康上の問題が解決すること
10. 年齢上の問題が解決すること
11. 子どもができること(持つこと)

問 1 5 あなたが現在のパートナーと結婚する前に考えていたパートナーの条件についてお答え
ください。(3つまで)

回 答
記 入 欄

1. 価値観が近いこと
2. 家事分担
3. 家事や家計をまかせられること
4. 共通の趣味があること
5. 職種
6. 学歴
7. 金銭感覚
8. 一緒にいて楽しいこと
9. 容姿が好みであること
10. 経済力があること
11. 親が同意してくれること
12. 年齢
13. 自分の仕事を理解してくれること
14. 自分の親と同居してくれること

問 1 6 あなたが現在のパートナーとの結婚を最終的に決めた直接のきっかけは何ですか。
(1つ)

回 答
記 入 欄

1. 結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)が用意できた
2. 収入や住居など結婚のための経済的基盤ができた
3. 自分または相手の仕事の事情
4. できるだけ早く一緒に暮らしたかった
5. 年齢的に適当な時期だと感じた
6. できるだけ早く子どもがほしかった
7. 子どもができた
8. 友人や同年代の人たちの結婚
9. 親や親戚の勧め

--

問 17 あなたとあなたのパートナーは、結婚することの利点はどのようなことだと思いますか。（3つまで）

「特に利点がない」と考える場合は「9」のみを記入してください。

パートナーのお考えは、パートナーにお聞きになって記入してください。

答
入欄

回
記

<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神的な安らぎの場が得られる 2. 人間として成長できる 3. 経済的に余裕が持てる 4. 社会的信用や対等な関係が得られる 5. 生活が便利になる 6. 親や周囲の期待に応えられる 7. 仕事がしやすくなる 8. 子どもや家族を持てる 9. 特に利点はない 	あなた	<input type="text"/>
		<input type="text"/>
		<input type="text"/>
	あなたの パートナー (パートナーが いる方のみ)	<input type="text"/>
		<input type="text"/>
		<input type="text"/>

問 18 あなたとあなたのパートナーは、結婚することの不利益はどのようなことだと思いますか。（3つまで）

「特に不利益はない」と考える場合は「8」のみを記入してください。

パートナーのお考えは、パートナーにお聞きになって記入してください。

答

回

<ol style="list-style-type: none"> 1. やりたいことの実現が制約されてしまう 2. 自由に使えるお金が減る 3. 子育て・家事等の負担が重くなる 4. 人との付き合いが増え、煩わしい 5. 仕事がしにくくなる 6. 異性との交際が自由にできない 7. パートナーの考えを考慮することが煩わしい 8. 特に不利益はない 	あなた	<input type="text"/>
		<input type="text"/>
		<input type="text"/>
	あなたの パートナー (パートナーが いる方のみ)	<input type="text"/>
		<input type="text"/>
		<input type="text"/>

問 19 あなたはこれまでに離婚した経験がありますか。

1. ある 2. ない 3. 答えたくない

回 答
記 入 欄

<input type="text"/>

理想の子ども数・現実の子ども数についてお聞きします

問 2 0 あなたとあなたのパートナーにとって理想的な子どもの数は何人ですか。(1つ)
 パートナーのお考えは、パートナーにお聞きになって記入してください。

1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人	5. 5人以上	6. 望んでいない

回 答
記 入 欄

あなた

あなたの
パートナー

(パートナーがいる方のみ)

問 2 1 あなたとあなたのパートナーは、現実に何人の子どもを持つ予定ですか。
 現在おられるお子さんも含めてお答えください。(1つ)
 パートナーのお考えは、パートナーにお聞きになって記入してください。

1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人	5. 5人以上	6. 望んでいない

回 答
記 入 欄

あなた

あなたの
パートナー

(パートナーがいる方のみ)

問 2 2 (問 2 0「理想とする子ども数」よりも問 2 1「予定の子ども数」が
少ない方のみにお聞きします)

「理想とする子ども数」より「予定の子ども数」が少ない理由は何ですか。(2つまで)
 パートナーのお考えは、パートナーにお聞きになって記入してください。

<ol style="list-style-type: none"> 1. 高年齢になってから生むのはいやだから 2. 子どもの教育にお金がかかるから 3. 食費、衣服費、こづかいなど、子どもを育てるのにお金がかかるから 4. 子育ての心理的、肉体的負担が重いから 5. 家が狭いから 6. 自分(パートナー)の仕事に差し支えるから 7. 自分達の趣味やレジャーと両立しないから 8. 一番末の子が自分(パートナー)の定年退職までに成人してほしいから 9. 前回の妊娠・出産が大変だったから 10. 家庭の収入が減っているから 11. 親や家族の介護で忙しいから 12. その他 	<p style="text-align: right;">あなた <input style="width: 50px; height: 30px;" type="text"/></p> <hr/> <p style="text-align: right;">あなたの パートナー <input style="width: 50px; height: 30px;" type="text"/></p> <p style="text-align: right;">(パートナーが いる方のみ)</p>
---	---

妊娠・出産についてお聞きします

問23 過去に不妊治療の経験はありますか。(1つ)

回答
記入欄

欄

1. ある 2. ない 3. 答えたくない

問24 現在、不妊治療をしていますか。(1つ)

回答
記入欄

1. している 2. していない 3. 答えたくない

問25 (問23または問24で1と回答した方にお聞きします。) 不妊治療で困ったことはどんなことですか。(3つまで)

回答
記入欄

欄

1. 仕事と治療の両立 2. 金銭的負担
3. 職場の理解が不十分 4. 友人や家族の理解が不十分
5. 治療中の心理的負担 6. 治療中の身体的負担
7. 治療できる医療機関が少ない 8. 相談相手がいない
9. 治療内容や医療機関に関する情報が少ない
10. 治療開始が遅れ、治療期間や回数が制限された

仕事と子育ての両立についてお聞きします

問26 あなたのご家庭の生計の主たる担い手(稼ぎ手)はどなたですか。(1つ)

回答
記入欄

1. あなた 2. パートナー 3. あなたの親 4. パートナーの親
5. その他

問27 あなたのご家庭では、結婚・妊娠・出産・子育てをきっかけにして、あなた又はあなたのパートナーの仕事のしかたが変わりましたか。(1つ)

回答
記入欄

1. 変わった 2. 変わらなかった

問28 (問27で「1. 変わった」とお答えの方のみにお聞きします) もっとも大きく仕事の仕方が変わったのはいつですか。(1つ)

回答
記入欄

1. 結婚したとき
2. 妊娠したとき
3. 出産したとき
4. 産後休暇・育児休暇後の復職時
5. 子どもが小学校に入ったとき

6. その他

問29 (問27で「1. 変わった」とお答えの方のみにお聞きします)
問28の時点で、どのように仕事のしかたが変わりましたか。(1つ)

回答
記入欄

1. 退職した
2. 一時休職した
3. 勤務形態が変わった
4. 同じ職場の別な仕事にかわった、又は短時間勤務にかわった
5. 転職した
6. その他

問30 (問29で「1. 退職した」とお答えの方のみにお聞きします)
あなた又はあなたのパートナーが仕事をやめた理由は何ですか。(3つまで)

回答
記入欄

欄

1. 結婚したら仕事はやめるものだと思ったから
2. 家事に専念したかったから
3. 仕事と家事の両立が困難だから
4. 経済的に働かなくてもよくなったから
5. 子育てに専念したいと思ったから
6. 仕事と子育ての両立が困難だから
7. 子どもができたら仕事をやめるものだと思ったから
8. 働き続けることにパートナー・親・親族が反対したから
9. 転勤や転居で働き続けることが難しくなったから
10. 解雇されたから、又は退職勧告されたから
11. その他

問31 子育てと仕事を両立しやすくするためには、
職場にどのような制度が必要だと思いますか。(3つまで)

回答
記入欄

1. 母体の保護のため、妊娠中は出勤時間をずらしたり、負担の軽い仕事に配置換えする
2. 産前産後の休暇や育児休業が十分とれるようにする
3. 育児休業中の給与の一部保障などの経済的支援をする
4. 出産・育児のために退職した女性を再雇用する
5. 育児のために就業時間を縮められるようにする(短時間労働)
6. 育児のために就業時間を変更できるようにする(フレックスタイム)
7. 自宅で仕事ができるようにする(テレワーク等[※])
8. 子どもの病気やけがの時に休暇が取れる
9. 職場内保育施設の整備
10. 産休・育休代替職員の確保

ご夫婦の家事・育児参加についてお聞きします

問 3 2 (パートナーのいらっしゃる方のみにお聞きします)

実態として、あなたとあなたのパートナーは、どの程度の割合で子育てと家事の役割を分担していますか。(全体を10として配分してください。例 5 : 5)

回答記入欄	あなた	:	あなたのパートナー
①子育て	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>	:	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>
②家事	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>	:	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>

問 3 3 あなたの期待として、あなたとあなたのパートナーは、どの程度の割合で子育てと家事の役割を分担するべきだとお考えですか。

(全体を10として配分してください。例 5 : 5)

回答記入欄	あなた	:	あなたのパートナー
①子育て	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>	:	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>
②家事	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>	:	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/>

問 3 4 あなたの子育てへの関わりは十分だと思いますか。(1つ)

1. 十分である	2. ある程度は十分である
3. あまり十分でない	4. 全く十分でない

回 答
記 入
欄

問 3 5 (パートナーのいらっしゃる方のみにお聞きします)

あなたのパートナーの子育てへの関わりは十分だと思いますか。(1つ)

欄

1. 十分である	2. ある程度は十分である
3. あまり十分でない	4. 全く十分でない

回 答
記 入
欄

問36 (パートナーのいらっしゃる方のみにお聞きします)

あなたは、子育てに関してパートナーにどのようなことを望みますか。
(3つまで)

特にない場合は「14」のみを記入してください。

1. 家事や子育てをもっと分担してほしい
2. 子どもとふれあう時間を多くしてほしい
3. もっと子どもをのびのびさせてやってほしい
4. 子どものしつけにもっと協力してほしい
5. 子どもにもっと関心を持ってほしい
6. 子どもが悩んでいるときに話し相手になってあげてほしい
7. 自分が悩んでいるときに相談にのってほしい
8. もっと子どもや子育てについて相談してほしい
9. 子育てにがんばっている自分をもっと認めてほしい
10. 自分だけが子育てで悩んでいると思わないでほしい
11. 子どもが尊敬できるような人でいてほしい
12. 子どもの父母としてだけでなく、パートナーとして見てほしい
13. その他
14. 特にない

回 答
記 入 欄

**問37 お子さんが3歳になるまでの間、以下の制度や施設を利用しましたか。
(3つまで)**

1. 産前・産後休業制度
2. 育児休業制度 (ご自身)
3. 育児休業制度 (パートナー)
4. 育児時間制度・短時間勤務制度 (ご自身)
5. 育児時間制度・短時間勤務制度 (パートナー)
6. 認可保育所 (小規模認可保育所含む)
7. 認定こども園
8. 事業所内保育施設・企業主導型保育事業
9. その他の認可外保育施設 (保育室・ベビーホテルなど)
10. ベビーシッター (居宅訪問型保育含む)
11. ファミリー・サポート・センター
12. 一時預かり事業
13. 子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場
14. 放課後児童クラブ
15. 子ども食堂
16. 特にない

回 答
記 入 欄

問 3 8 今後利用したい制度や施設等がありますか。
(3つまで)

1. 産前・産後休業制度
2. 育児休業制度（ご自身）
3. 育児休業制度（パートナー）
4. 育児時間制度・短時間勤務制度（ご自身）
5. 育児時間制度・短時間勤務制度（パートナー）
6. 認可保育所（小規模認可保育所含む）
7. 認定こども園
8. 事業所内保育施設・企業主導型保育事業
9. その他の認可外保育施設（保育室・ベビーホテルなど）
10. ベビーシッター（居宅訪問型保育含む）
11. ファミリー・サポート・センター
12. 一時預かり事業
13. 子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場
14. 地域の高齢者等による子どもの見守り
15. 放課後児童クラブ
16. 子ども食堂
17. 特にない

回 答
記 入 欄

育児に関する意識についてお聞きします

問 3 9 あなたとあなたのパートナーは、子どもを生み育てることの喜びや良さはどのようなことだと思いますか。（3つまで）
パートナーのお考えは、パートナーにお聞きになって記入してください。

1. 自分の生命を伝える
2. 家を存続させる
3. 次の社会を担う世代をつくる
4. 子どもを育てることによって自分が成長する
5. 子どもに愛情を注ぐことができる
6. 家族の結びつきを強める
7. 自分の志を継いでくれる後継者をつくる
8. 老後のめんどろをみてもらう
9. 子どもをもつことで社会的に認められる

あなた

あなたの
パートナー
(パートナーが
いる方のみ)

回 答
記 入 欄

問 4 0 あなたは子育てをする上で、不安や悩み、あるいは辛さを持っていますか。
(持っていましたか) (1つ)

回 答
記 入 欄

1. 持っている（持っていた） 2. 持っていない

--

問 4 1 (問 4 0 で「1. 持っている (持っていた)」とお答え方のみにお聞きします)

あなたは、子育てをする上で、どのようなことに辛さ・不安・悩みを
持ちましたか (持っていますか) (3 つまで)

回 答
記 入 欄

1. 子どもが生まれる前に子ども (赤ちゃん) と触れ合った経験がない (少ない) ため、子どもにどう接してよいかわからない
2. 子育てに自信がなく、子どもの成長発達が不安である
3. 仕事や家事が忙しく、子どもとのふれあいやしつけが十分できない
4. 自分の自由時間がない
5. 仕事と子育ての両立ができにくい
6. 子ども連れで行動しなければならないので、不自由である
7. 子育ては親の責任といわれ、不安と負担を感じる
8. 出産・子育てにお金がかかる
9. 子どもの教育にお金がかかる
10. 子ども自身に関すること (子どもの健康、勉強、性格やくせ、友人など)
11. 自分自身に関すること (産後の体調や生理的变化など)
12. 夫婦や世代間で子育てについての考え方が違う
13. パートナーが子育てや家事に協力してくれない
14. 家が狭い
15. 子どもを通じてのつきあいがわずらわしい
16. 悩み事の相談先がわからない
17. 子どもがかわいいと思えない
18. 将来の社会が不安である
19. 自分 (又はパートナー) の健康上の問題
20. 一人きりで子育てをしていて不安である
21. 親や家族の介護で忙しい

問 4 2 あなたは、子育ての不安や悩みをどなた (どこ) に相談していますか。

(あてはまるものすべて)

どこに相談すればよいかわからない場合は「1 1」のみを記入してください。

回 答
記 入 欄

1. パートナー
2. パートナー以外の家族や親族
3. 友人・知人
4. 学校・保育所・幼稚園の先生
5. 児童相談所・福祉事務所、保健所・保健センター、市町村の保健師
6. 病院・診療所等
7. 民生委員・児童委員・主任児童委員
8. 子育て支援センター・子育てサークル等の子育て支援者
9. インターネット、SNS
10. 相談できる人がいない
11. どこに相談すればよいかわからない

問 4 3 相談の結果、子育ての不安や悩みが解決するなど、満足しましたか。
(1 つ)

回 答

1. 満足した	2. まあまあ満足した
3. あまり満足しなかった	4. 満足しなかった

記入欄

**問 4 4 あなたは児童虐待に関心がありますか。
(1つ)**

1. とても関心がある	2. やや関心がある
3. あまり関心がない	4. 全く関心がない

回答
記入欄

問 4 5 あなたは、なぜ児童虐待が起こると思いますか。(3つまで)

1. 経済環境（貧困など）	2. 夫婦や家族関係で不和・トラブルがある
3. 家庭が地域社会から孤立していること	4. 家族の介護によるストレス
5. 子育てに対する不安	6. 親の病気や障害
7. 悩んだ時に相談できる場所がないこと	8. 望まぬ妊娠による出産
9. 子どもの病気や障害	
10. 子どもの特性（癇癪が激しい、こだわりが強いなど）	
11. 虐待の世代間連鎖	

回答
記入欄

**問 4 6 虐待の未然防止のための方策として、あなたの考えに近いものは次のうちどれですか。
(3つまで)**

1. 近隣住民との交流を増やし、家庭が孤立しないようにすること
2. 子育てに関する相談窓口を拡充する
3. 子育ての不安を解消するための講座を開く
4. 児童虐待の通報先を周知する
5. 行政などによる家庭訪問の機会を増やす
6. 親子が気軽に集える場所を増やす

回答
記入欄

**問 4 7 あなたは、子育ての知識を主にどこから得ていますか。
(3つまで)**

1. パートナー	2. 自分やパートナーの親
3. 友人・知人	4. 保育所や幼稚園
5. 学校	6. 保健師や助産師等
7. 病院や診療所	
8. 相談機関（地域子育て支援センターなど）	9. 公民館などの講座
10. 育児書や雑誌	11. 新聞
12. テレビやラジオ	13. インターネット、SNS
14. その他	

回答
記入欄

保育環境についてお聞きします

問48 本県の保育環境に満足していますか。(1つ)

回 答
記 入

欄

1. 満足 2. まあまあ満足 3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満 5. 不満

問49 お子さんを保育施設に入所させていますか。あるいは、過去に入所させていたことがあますか。(1つ)

回 答
記 入

欄

1. ある 2. ない

問50 お子さんを保育施設に入所させていない、または、入所させていなかった理由を教えてください。(3つ)

回 答
記 入 欄

1. 自宅で育てたかったから
2. 幼稚園に通わせたかったから
3. 保育料が高いから
4. 就労要件等を満たすことが出来ず、入所させられなかった
5. 近所に保育施設がない
6. 親や友人が子の面倒を見てくれるから
7. その他

問51 保育サービス等で充実してほしいことは何ですか。(3つ)

回

答

記 入

欄

1. 乳児保育
2. 延長保育
3. 一時預かり
4. 障害児保育
5. 土曜・休日保育
6. 夜間保育
7. 病児保育
8. その他

子ども数の減少についてお聞きします

問52 少子化に対して、県はどのように取り組むべきだと考えますか。(1つ)

回答
記入欄

1. 予算を増額し、子育てに係る経済的支援を積極的に行う
2. 延長保育や病児保育などの保育環境を充実化させる
3. 子育てに関する相談支援や専門家によるサポート体制の充実化
4. 個人の望む結婚や出産を妨げている要因を取り除くための取組
5. 結婚や出産は個人の問題であり、取り組むべきではない
6. 有効な対策はなく、何をやっても無駄である

問53 出生率を向上させるために必要なことは何だと思えますか。(3つまで)

回答
記入欄

1. 子育てや教育の経済的負担が減ること
2. 子育ての肉体的負担を減らすこと
3. 仕事と子育てを両立させる社会的仕組み(育児休業等の制度や保育所等の施設)が整っていること
4. 家庭よりも仕事を優先させる雇用習慣や企業風土を改めること
5. 妊娠・出産時の支援
6. 子育て世代の所得の増加
7. 子どもを取り巻く社会状況(少年非行、環境問題等)が悪い方向に向かわないようにすること
8. 親族や隣近所から子育てへの支援が受けられること
9. 子育ての負担が夫婦の一方に集中しないこと
10. 子育てについて、楽しさが強調されること
11. 若いうちに結婚すること
12. 若いうちから自身の健康に気を付けること

子育て支援のための行政への要望等についてお聞きします

問54 青森県は、子育てしやすい環境が整っていると思えますか。

回答
記入欄

1. 思う
2. やや思う
3. どちらとも言えない
4. あまり思わない
5. 思わない

--

問 5 5 あなたが青森県での子育てで満足していることや充実していると思うことを教えてください。（5つまで）

答
欄

回

記入

1. 妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導
2. 産科・小児医療、新生児医療体制
3. 妊娠や出産にかかる費用の援助
4. 子育てに関する相談支援
5. 保育環境
6. 仕事と子育てが両立しやすい労働環境
7. 子どもの遊び場や子ども向けの体験活動の機会
8. 子ども会や子育てサークル活動
9. 自然環境
10. 子育て世帯が生活しやすい住環境
11. 妊婦や子ども連れの人が自由に出かけられるまちづくり
12. 子育てに関する情報提供
13. 子どものいじめ問題に対する対策
14. インターネット・SNSのトラブル対策や、地域の防犯力

問 5 6 あなたは、健やかに子どもを生き育てるため、県にどのような支援を手厚くして欲しい（又は足りない）と考えますか。（5つまで）

1. 男性も女性も家事・子育てを行う意識をひろめる
2. 子育ての大切さや楽しさを広く知らせる
3. 妊婦や赤ちゃんの健康診査、保健指導を充実する
4. 産科・小児医療、新生児医療体制を充実する
5. 子育てについて、気軽に相談できるようにする
6. 妊娠や出産にかかる費用を援助する
7. 保育園や幼稚園にかかる費用の負担を軽くする
8. 教育費の負担を減らす
9. 児童手当や扶養控除を増額する
10. 延長保育、休日保育、一時保育、夜間保育、学童保育（放課後児童クラブ）やファミリーサポートセンターなどの保育関連 様々な サービスを充実させる
11. 仕事と子育てが両立しやすくなるように、企業へ啓発する
12. 子どもの遊び場を確保したり、子ども向けの様々な体験活動の機会をつくる
13. 豊かな自然環境を守る

回 答
記入欄

14. 質の高い公営住宅の提供や、住宅資金の融資など住環境を整備する
15. 妊婦や子ども連れの人が自由に出かけられるまちづくりを進める
16. 子どものいじめ問題に対する対策を進める
17. インターネット・SNSのトラブル対策や、地域の防犯力強化を進める
18. 雇用対策など、経済的に安定するための施策を進める
19. その他

問57 最後に、子どもや子育てについて、ご意見やお考えをご自由にお書きください。

問58 最後までご協力いただきありがとうございました。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で500名様にデジタルギフト（QUOカードPay）500円分を進呈します。賞品当選のお知らせ等に必要となりますので、抽選への参加を希望される場合は、あなたのメールアドレスをお知らせください。

※本アンケートでご提供いただくメールアドレスは、賞品の当選のお知らせ以外には使用致しません。

※賞品当選のご資格は、メールアドレスのご記入がある方のみとなりますのでご注意ください。

※入力した内容に誤りがあると、賞品を送付できませんので、ご注意ください。

子どもと子育て及び結婚に関する調査
(独身者対象)

結果報告書

令和6年3月

青森県

目次

調査結果のまとめ	1
調査結果	
・回答者およびその家族の状況	8
・交際に関する意識・実態	24
・結婚活動に関する意識・実態	37
・結婚に関する意識	54
・妊娠・出産に関する意識	97
・子どもに関する意識	105
資料編	
・自由回答まとめ	
・調査票	

調査結果のまとめ

調査結果のまとめ

< 1 > 交際に関する意識・実態

(1) 現在の交際状況

現在の交際状況について、「交際している人はいない」の割合が、63.9%で最も大きく、次いで「交際している人がおり、結婚を考えている」が27.6%、「交際している人がいるが、結婚は考えていない」が8.5%となっている。

前回調査と比べて、「交際している人はいない（前回72.7%）」が8.8ポイント減少、「交際している人がおり、結婚を考えている（前回16.8%）」が10.8ポイント増加している。

(2) 交際相手と知り合ったきっかけ

現在、交際相手がいる方が、現在の交際相手と知り合ったきっかけは、「職場や仕事の関係で」の割合が28.1%で最も大きく、次いで「インターネット、SNS」が27.3%、「学校で」15.8%、「友人や兄弟姉妹を通じて」が10.5%となっている。

前回調査と比べて、「インターネット、SNS（前回13.2%）」が14.1ポイント増加している。

(3) 交際への意識

「交際している人はいない」と回答した方の交際に対する意識は、交際相手が「欲しい」の割合が44.1%、次いで「どちらでもよい」35.1%、「欲しいと思わない」20.8%となっている。

前回調査と比べて、「どちらでもよい（前回26.6%）」が8.5ポイント、「欲しいと思わない（前回11.6%）」が9.2ポイント増加している。

(4) 交際相手を欲しいと思わない理由

現在、交際している人がいなく、交際相手を「欲しいと思わない」と回答した方のその理由としては、「自分の趣味に力を入れたい」の割合が最も大きく57.1%、次いで「恋愛が面倒」が54.5%、「恋愛に興味が無い」41.6%となっている。

前回調査と比べて、「他人と恋人として交際することに不安がある（前回6.1%）」が16ポイント、「恋愛が面倒（前回61.2%）」が6.7ポイント、「恋愛に興味が無い（前回49.0%）」が7.4ポイント減少している。

(5) 過去の交際状況

交際している人がいない方で、過去に交際相手が「いた」と回答した人は58.9%、「いたことはない」と回答した人は39.7%となっている。

交際している人がいない方で、過去に交際相手がいた方の、交際相手がいなかった期間は、「1年以上3年未満」の割合が最も大きく30.2%、「1年未満」27.1%、「5年以上10年未満」23.4%、「3年以上5年未満」19.3%となっている。

< 2 > 結婚活動に関する意識・実態

(1) 結婚活動の有無

現在の結婚活動について、「特に考えていない（まだわからない）」の割合が73.9%で最も大きく、次いで「結婚相手にめぐり会う可能性がないのでしていない」が12.1%、「している」が8.6%、「結婚相手にめぐり会う可能性があると思うのでしていない」が5.4%となっている。

結婚活動を「している」と回答した方は、平均で26.9歳に活動を始めており、男女別では、男性27.3歳、女性が26.5歳となっている。

(2) 結婚活動における必要なサポート

結婚活動において現在又は将来に必要なサポートとしては、「特にない」の割合が55.3%で最も大きく、次いで「知人からの異性の紹介」が31.3%、「合コンやパーティの開催」が16.2%、「行政等が行う結婚支援のためのマッチング（お見合）システム」が14.3%、「婚活サイトのサービス」11.6%となっている。

(3) 結婚活動で利用するイベント・セミナー

結婚活動でよく利用する（又は将来的に利用してみたいイベント・セミナー）では、「特にない」の割合が最も大きく64.6%となっている。他の項目では、「交流パーティ」が15.9%、「街コン」12.4%、「スポーツ」11.1%、「アウトドア」10.7%となっている。

(4) 結婚活動にかかる費用

結婚活動（出会いのためのイベント参加費やお相手とお出掛けや食事代など）のために月にいくらからいかけることができるかについて、「お金はかけたくない」の割合が40.4%で最も大きく、次いで「5,001円～10,000円」が24.2%、「5,000円以内」が17.1%、「10,001円～30,000円」が15.9%となっている。

(5) マッチングシステムやアプリの利用状況

結婚活動におけるマッチングシステムやマッチングアプリの利用状況について、利用したことが「ある」の割合が33.7%、利用したことが「ない」が66.3%となっていて、男女別では、「ある」が男性34.5%、女性32.8%、「ない」が男性65.5%、女性67.2%となっている。

(6) 「あおり出会いサポートセンター」について

「あおり出会いサポートセンター」の認知度は、「知らない」の割合が82.2%、「知っているが、会員登録はしていない。」が17.3%、「知っていて、会員登録をしている。」が0.5%となっている。

「知っているが、会員登録はしていない。」方の理由は、「サポートセンターの事業やサービス内容を詳しく知らない」の割合が27.0%で最も大きく、次いで「積極的な結婚活動することに抵抗がある」が23.0%、「サポートセンターを利用せずに異性と出会いたい」が22.0%、「利用したいサービスがない」が17.0%、「登録手続きをする時間が取れない」が11.0%となっている。

(7) マッチングシステム「AI であう」について

「AI であう」について、「知らない」の割合が、86.6%で最も大きく、次いで「知っているが、会員登録はしていない。」が13.1%、「知っていて、会員登録をしている。」が0.3%となっている。

「知っているが、会員登録はしていない。」方の理由は、「マッチングシステムを利用することに不安や抵抗感がある」が30.2%で最も大きく、次いで「マッチングシステムを利用したいと思わない」が26.3%、「面談や書類の取得など登録手続きをする時間が取れない」、「登録料が高い」、「マッチングシステムを使わずに異性と出会いたい」がそれぞれ14.5%となっている。

＜3＞結婚に関する意識

（1）結婚に対する希望

結婚に対する希望では、「適当な時期がきたら結婚したい」の割合が31.4%と最も大きく、次いで「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」19.7%、「なるべく早めに結婚したい」18.5%、「特に考えていない」16.9%となっている。

前回調査に比べて「特に考えていない」が10.6ポイント減少、「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」が6.2ポイント増加している。

現在、「交際している人はいない」と回答した方では、「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」が25.9%と最も大きい、「なるべく早めに結婚したい」は15.1%、「適当な時期がきたら結婚したい」は、21.9%となっており、37%は結婚願望がある。

「なるべく早めに結婚したい」と回答した場合の結婚希望平均年齢は、全体では30.3歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて結婚希望年齢も上がっており、「35～39歳」で38.7歳となっている。また、「適当な時期がきたら結婚したい」を選択した場合の結婚希望平均年齢は、「なるべく早めに結婚したい」と同じ30.3歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて希望年齢も上がっており、「35～39歳」では38.2歳となっている。男女別では男性が30.6歳、女性が30.0歳となっている。

（2）結婚していない背景

現在、結婚していない背景としては、「適当な相手がない」の割合が43.2%で最も大きく、次いで「経済的に余裕がない」が40.2%、「自由や気楽さを失いたくない」が38.2%、「異性との出会いの場がない」が31.6%、「精神的に余裕がない」が18.0%となっている。

前回調査と比べて、「経済的に余裕がない（前回31.3%）」が8.9ポイント、「自由や気楽さを失いたくない（前回28.8%）」が9.4ポイント増加している。

（3）結婚を考える際の条件

結婚をしたいと希望している方が結婚を考える際の条件として、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」の割合が54.1%と最も大きく、次いで「精神的に落ち着くこと」26.6%、「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）を確保すること」22.6%、「仕事や事業の状況が落ち着くこと」22.1%となっている。

（4）結婚相手に求める条件

結婚をしたいと希望している方が結婚相手に求める条件としては、「人柄」の割合が79.2%と最も大きく、次いで「価値観が近いこと」46.9%、「経済力」40.0%、「家事・育児の能力や姿勢」26.3%、「自分の仕事への理解や協力」23.3%となっている。

(5) 結婚することの利点

結婚することの利点について、「利点がある」の割合が75.0%、「利点はない」25.0%となっている。

利点がある理由としては、「精神的な安らぎの場が得られる」の割合が58.8%で最も大きく、次いで「愛情を感じている人と暮らせる」53.9%、「子どもや家族を持てる」51.6%となっている。

(6) 結婚することへの不安

結婚することに対する不安について、「不安がある」73.9%、「不安はない」26.1%となっており7割以上が結婚することに不安があると考えている。

不安がある理由としては、「やりたいことの実現が制約されてしまう」の割合が48.4%で最も大きく、次いで「自由に使えるお金が減る」44.4%、「育児・家事等の負担が重くなる」36.2%、「家族に対する責任が重くなる」28.0%、「人との付き合いが増え、煩わしい」25.7%となっている。

(7) 結婚への障壁

結婚への障壁について、「障壁になることがあると思う。」57.0%、「障壁になることはないと思う。」43.0%となっており半数以上が結婚への障壁があると考えている。

理由としては、「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」の割合が40.9%で最も大きく、次いで「職業や仕事上の問題」33.0%、「結婚生活のための住居」26.7%、「親との同居や扶養」17.9%、「親の承諾」16.1%となっている。

(8) 結婚の意思と考えが変化する可能性

結婚の意思がないと答えた方で、結婚の意思が「あった」方の割合は34.6%、「なかった」方は64.1%となっている。また、結婚の意思がない方で、「いずれ結婚するつもり」に考えが変化する可能性は、「あると思う」23.1%、「ないと思う」75.6%となっている。

「いずれ結婚するつもり」に考えが変わる場合の理由は、「結婚したいと思う相手が現れる」が55.6%、次いで「収入や貯蓄が増える」33.3%、「結婚に関する法律や制度が変わる」22.2%、「雇用・労働条件が改善する」16.7%、「家事・育児を男女で分け合う社会になる」16.7%となっている。

< 4 > 妊娠・出産に関する意識

(1) プレコンセプションケアについて

「プレコンセプションケア」（将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと）という言葉について、「聞いたことがない。」の割合が、90.7%で最も大きく、次いで「聞いたことはあるが、詳しいことはわからない。」が6.4%、「聞いたことがあり、内容も理解している。」が2.9%となっている。

健康のために心掛けていることは、「特に心掛けていることはない」の割合が最も大きく30.7%となっている。次いで、「バランスの良い食事」が16.4%、「適正体重をキープすること」が14.7%、「禁煙や受動喫煙を避ける」14.5%となっており、他の項目は10%以下になっている。

(2) 妊娠率の低下

妊娠・出産を望んでいる方が、男性も女性も35歳前後で様々な原因で妊娠率が低下することの認識について、「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」の割合が46.6%で最も大きく、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」が32.0%、「知らなかった」は20.7%、「男性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は0.7%となっている。

(3) 将来の出産及び子育てに必要なと思うサポート

妊娠・出産を望んでいる方が、将来の出産及び子育てに必要なと思うサポートについては、「妊娠や出産にかかる費用の援助」の割合が64.6%と、前回調査（47.0%）と比べて17.6ポイント増加している。次いで「子どもの教育費の負担軽減」35.2%、「幼稚園・保育所などの充実（休日、夜間保育等含む）24.5%、「幼稚園・保育所などの費用負担の軽減」23.7%、「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」20.9%、「勤務先の産休・育児休業制度、育児短縮勤務制度」17.8%、「不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備」17.4%、「パートナーの家事・子育てへの協力」17.4%となっている。

<5>子どもに関する意識

(1) 赤ちゃんや子どもとの触れ合い

兄弟姉妹や友人、地域の赤ちゃんや子どもとのふれあい頻度は、「たまに」の割合が31.4%で最も大きく、次いで「ほとんどない」23.7%、「全くない」27.1%、「日常的に」が17.8%となっている。

(2) 欲しい子どもの人数

今後、欲しい子どもの人数は、「2人」の割合が44.4%で最も大きく、次いで「3人」が14.0%、「欲しくない」が28.2%となっている。また、「1人」～「5人以上」と回答した合計（子どもが欲しい）は、「20～24歳」81.7%、「25～29歳」75.7%、「30～34歳」65.3%、「35～39歳」59.3%となっており、年代が下がるにつれ子どもが欲しい割合は大きくなっている。

(3) 第一子の出産年齢

子どもが欲しい方の理想的な第一子の出産年齢としては、「25～29歳に出産」の割合が39.8%で最も大きく、次いで、「30～34歳に出産」が37.8%、「35歳以降に出産」が17.6%、「24歳まで出産」が4.8%となっている。理想的な出産年齢の平均は、30.0歳となっており、男女別では、男性が31.3歳、女性は29.1歳となっている。年代別では「20～24歳」27.6歳、「25～29歳」29.2歳、「30～34歳」32.6歳、「35～39歳」が33.3歳で年代が上がるにつれて、理想的な出産年齢も高くなっている。

(4) 子どもが欲しい理由

子どもが欲しい（「1人」～「5人以上」）と回答した方の理由としては、「子どもに愛情を注ぐことができる」の割合が57.7%で最も大きく、次いで「子どもを育てることによって自分が成長する」39.4%、「家族の結びつきを強める」38.0%、「次の社会を担う世代をつくる」21.9%、「自分の生命を伝える」18.5%となっている。

(5) 子どもが欲しくない理由

子どもが「欲しくない」と回答した方の理由としては、「現状では経済的に厳しい」の割合が44.8%で最も大きくなっている。次いで、「育児をする精神的な余裕がない」が38.7%、「将来の教育費が心配」が28.8%、「子育てする体力に自信がない」が16.6%、「自分や夫婦の時間がとれない」が15.3%、「仕事に影響が出る、子育てと仕事を両立できない」が12.9%、「子どもいじめ問題や犯罪が多く不安である」が10.4%となっている。

前回調査と比べて、「育児をする精神的な余裕がない（前回26.3%）」が12.4ポイント増加している。

(6) 子育てで不安に思っていること

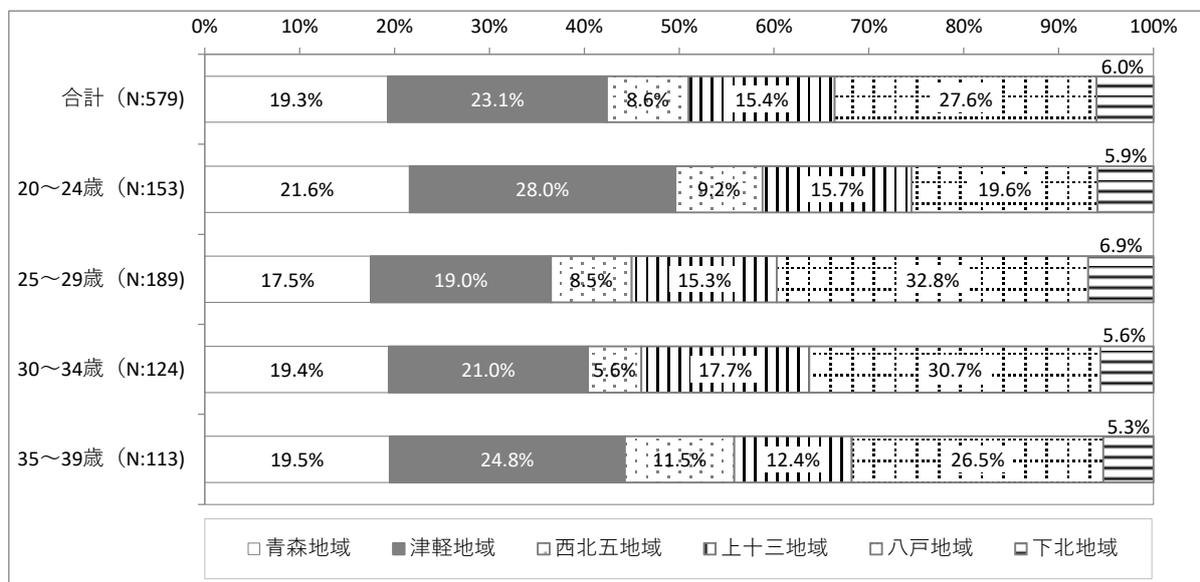
子育てで不安に思っていることは、「経済的にやっていけるか」の割合が59.2%で最も大きく、次いで「子育てするのが大変そう」46.3%、「仕事に影響が出そう」30.6%、「子育てに自信がない」30.2%、「精神的な面で子育てができるか」25.0%となっている。

調査結果

回答者およびその家族の状況

問1. あなたがお住まいの市町村名を教えてください。

・ 居住地域

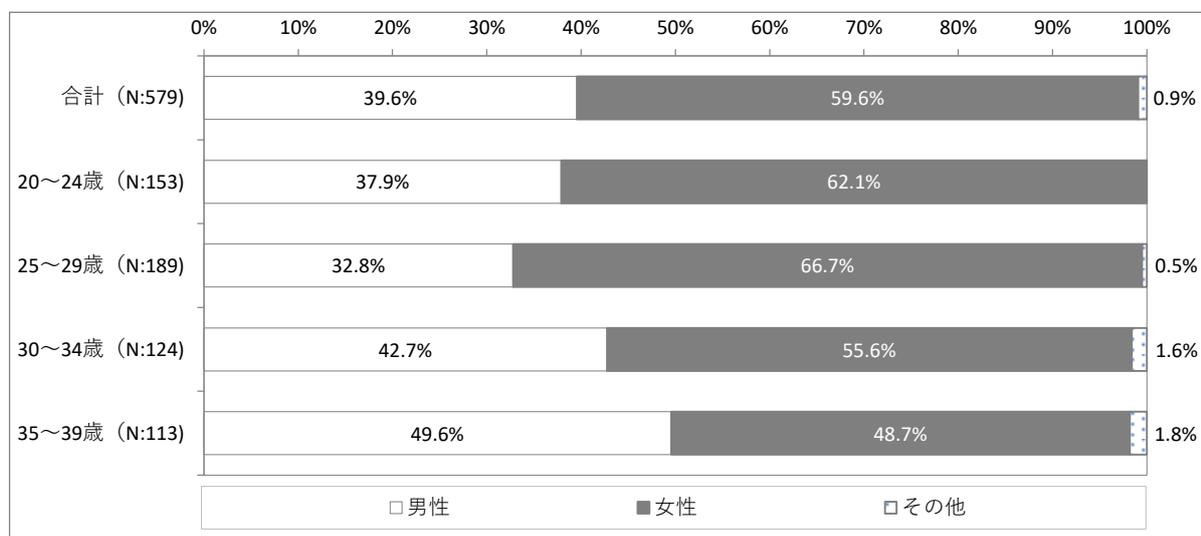


回答者の居住地域の分布を県内6つの保健医療圏別に見ると、「八戸地域」27.6%、「津軽地域」23.1%、「青森地域」19.3%、「上十三地域」は15.4%、「西北五地域」、「下北地域」は10%未満であった。

年代別では、「下北地域」はどの年代も6%前後となっている。「20～24歳」は「津軽地域」(28.0%)の割合が最も大きく、「八戸地域」は「25～29歳」(32.8%)、「30～34歳」(30.7%)、「35～39歳」(26.5%)の各年代で最も大きくなっている。「25～29歳」では、割合が最も大きい「八戸地域」(32.8%)が、他地域より10ポイント以上大きくなっており、「下北地域」(5.6%)が最も小さくなっている。

問2. あなたの性別を教えてください。

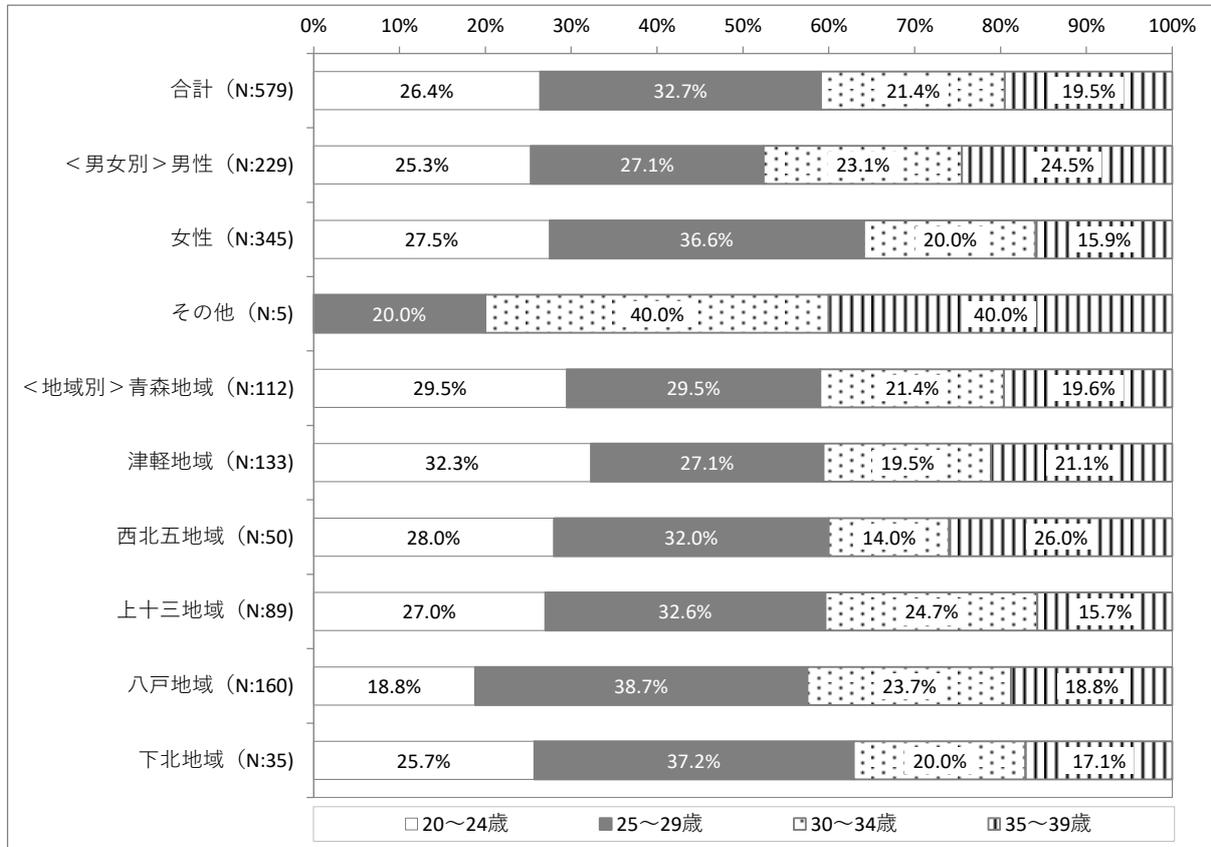
・性別



全体では、男性の割合が 39.6%、女性の割合が 59.6%、その他の割合が 0.9%となっている。
また、男性は「25～29歳」の割合（32.8%）が最も小さく、「35～39歳」の割合（49.6%）が最も大きくなっており、女性は「35～39歳」の割合（48.7%）が最も小さく、「25～29歳」の割合（66.7%）が最も大きくなっている。

問3. あなたの年齢をお答えください。(令和5年9月1日現在) (1つ)

・年齢



全体では、「20～24歳」が26.4%、「25～29歳」32.7%、「30～34歳」21.4%、「35～39歳」19.5%と「25～29歳」の割合が最も大きくなっている。「20～29歳」では59.1%、「30～39歳」が40.9%で20歳代が30歳代より18.2ポイント大きくなっている。

【男女別】

「20～24歳」は男性25.3%、女性27.5%、「25～29歳」は男性27.1%、女性36.6%、「30～34歳」は男性23.1%、女性20.0%、「35～39歳」は男性24.5%、女性15.9%となっている。

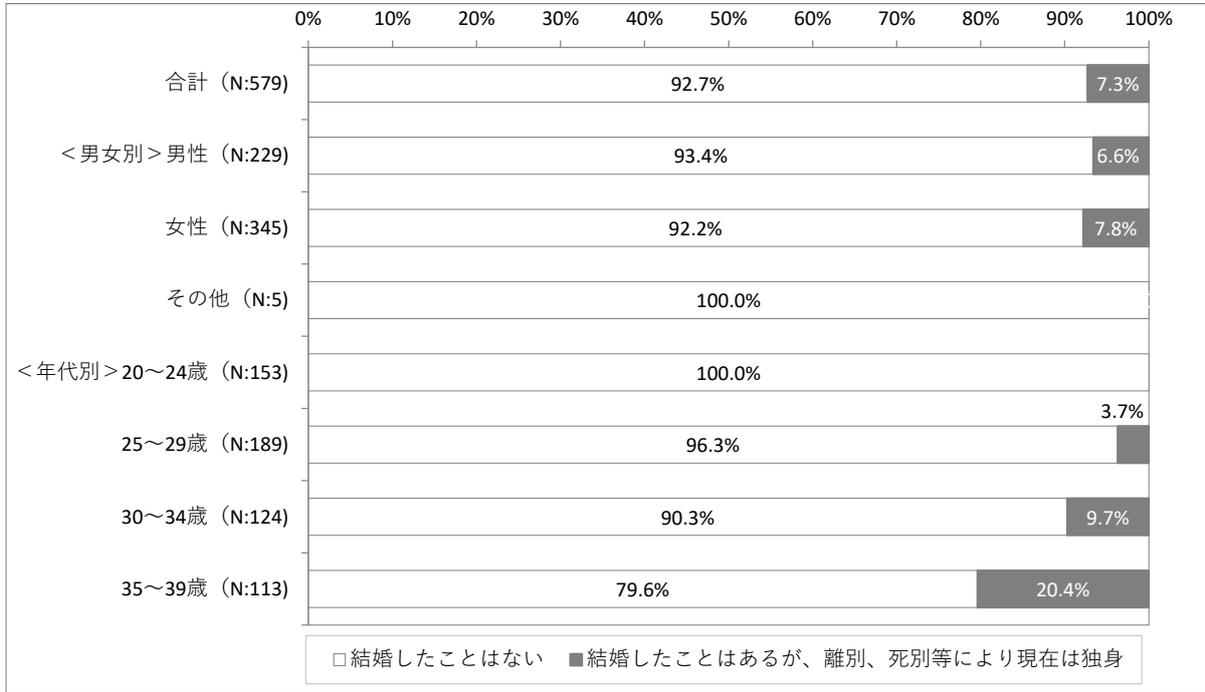
20歳代の割合は女性が男性より大きく、30歳代は男性が女性より大きくなっている。

【地域別】

「八戸地域」では、「25～29歳」の割合が38.7%と最も大きくなっており、「20～24歳」、「35～39歳」は、それぞれ18.8%と最も小さくなっている。「20～24歳」は「津軽地域」が32.3%、「30～34歳」は「上十三地域」が24.7%、「35～39歳」は「西北五地域」が26.0%と最も大きくなっている。

問4. あなたは、これまで結婚したことがありますか。(1つ)

・結婚経験の有無



全体で、「結婚したことはない」は92.7%となっており、「結婚したことはあるが、離別、死別等により現在は独身」が7.3%となっている。

【男女別】

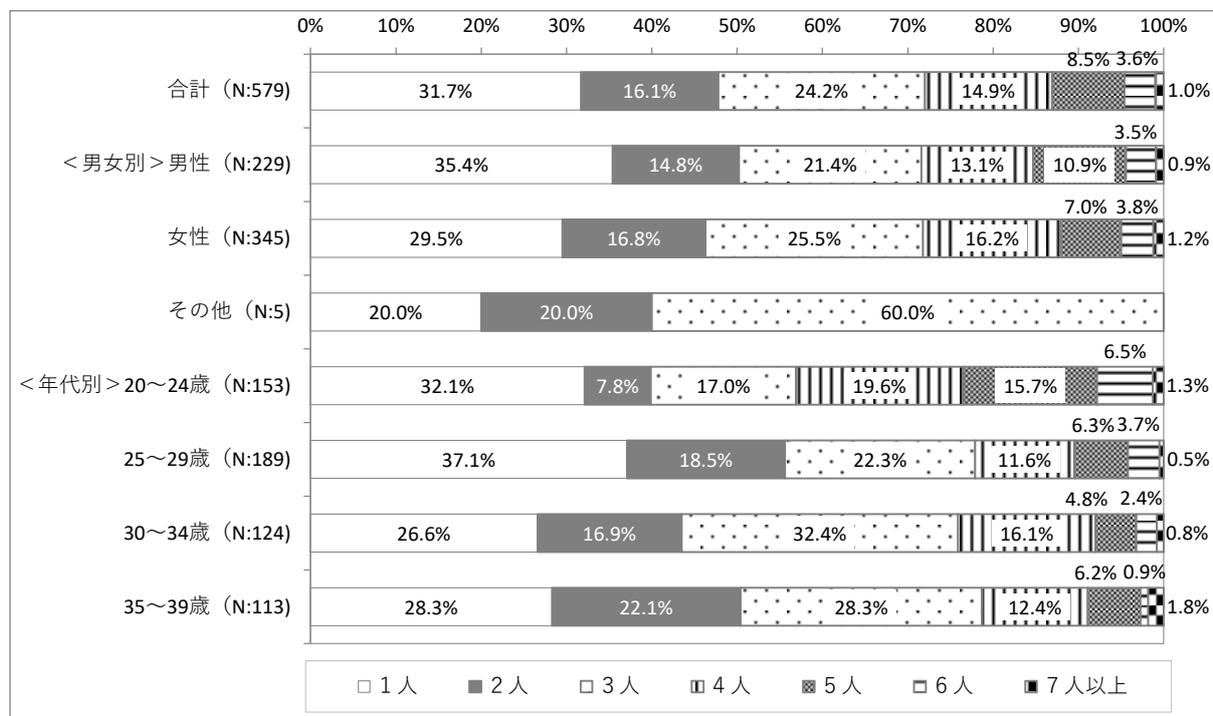
「結婚したことはない」が男性93.4%、女性92.2%、「結婚したことはあるが、離別、死別等により現在は独身」が男性6.6%、女性7.8%で、結婚経験者の割合は女性の方が大きくなっている。

【年代別】

「20～24歳」は「結婚したことがない」が100%となっている。「結婚したことはあるが、離別、死別等により現在は独身」は、年代が上がるにつれ割合が大きくなっており、「35～39歳」では、「結婚したことがない」が79.6%、「結婚したことはあるが、離別、死別等により現在は独身」が20.4%となっている。

問5. 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、あなたを含めて何人ですか。(1つ)

・同居人数



全体では、「1人」の割合(31.7%)が最も大きく、次いで「3人」24.2%、「2人」16.1%、「4人」14.9%の順となっている。同居人数の平均は2.7人となっている。

【男女別】

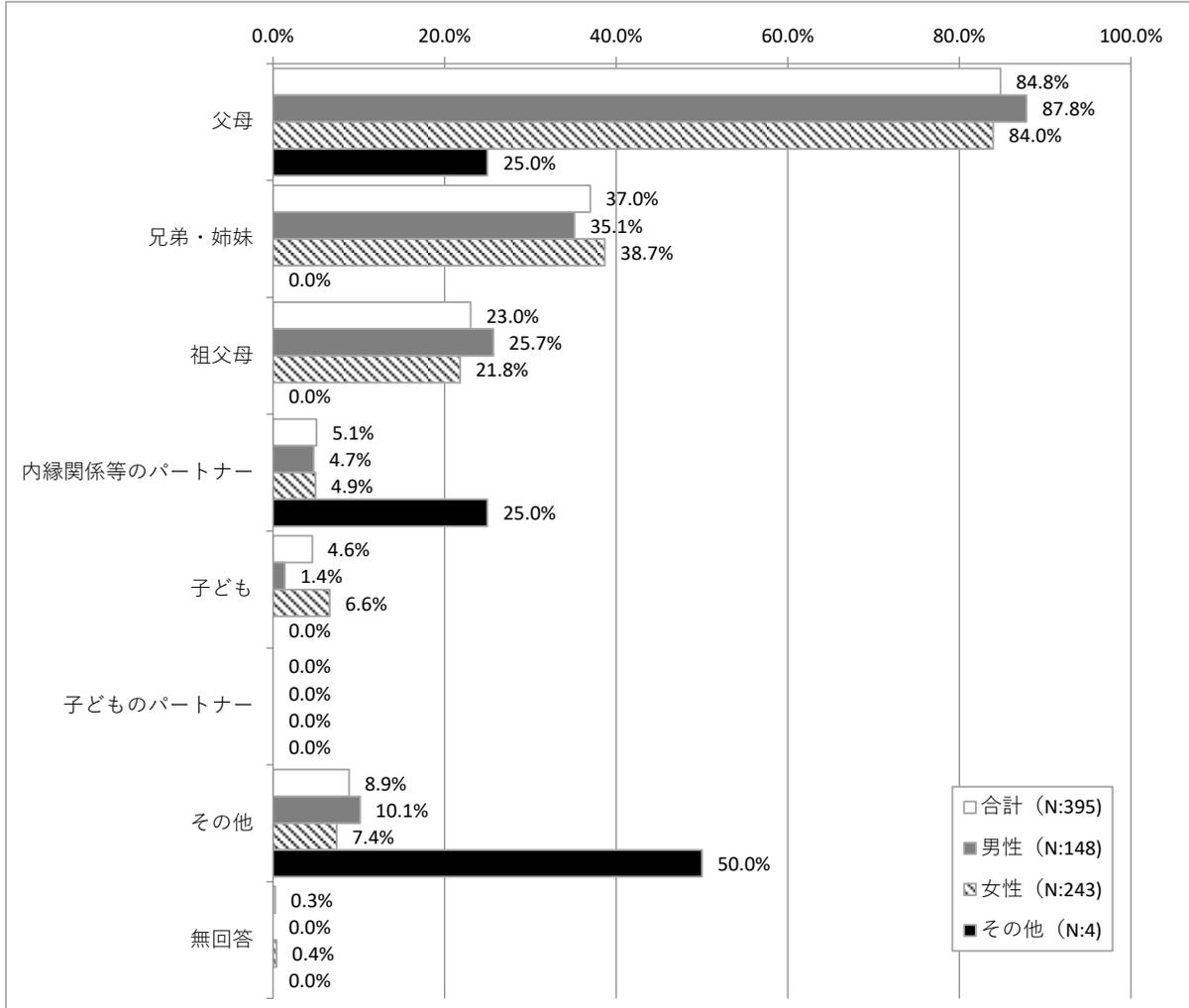
「1人」の割合は、男性35.4%、女性29.5%で男性の方が女性より大きくなっている。「3人」は、男性21.4%、女性25.5%、「2人」は男性14.8%、女性16.8%、「4人」は男性13.1%、女性16.2%でそれぞれ女性の方が男性より大きくなっている。

【年代別】

「1人」は「25～29歳」の割合(37.1%)が最も大きくなっている。「3人」は「30～34歳」の割合(32.4%)が最も大きく、「2人」は「35～39歳」の割合(22.1%)が最も大きくなっている。同居人数の平均は、「20～24歳」3人、「25～29歳」2.4人、「30～34歳」2.7人、「35～39歳」2.6人となっている。

問6. 一緒に暮らしている人が2人以上と回答した方にお聞きします。
 現在、あなたと同居している方を、次のうちからすべて選んでください。
 (あなたから見た続柄でお答えください。)

・同居家族（合計・男女別）

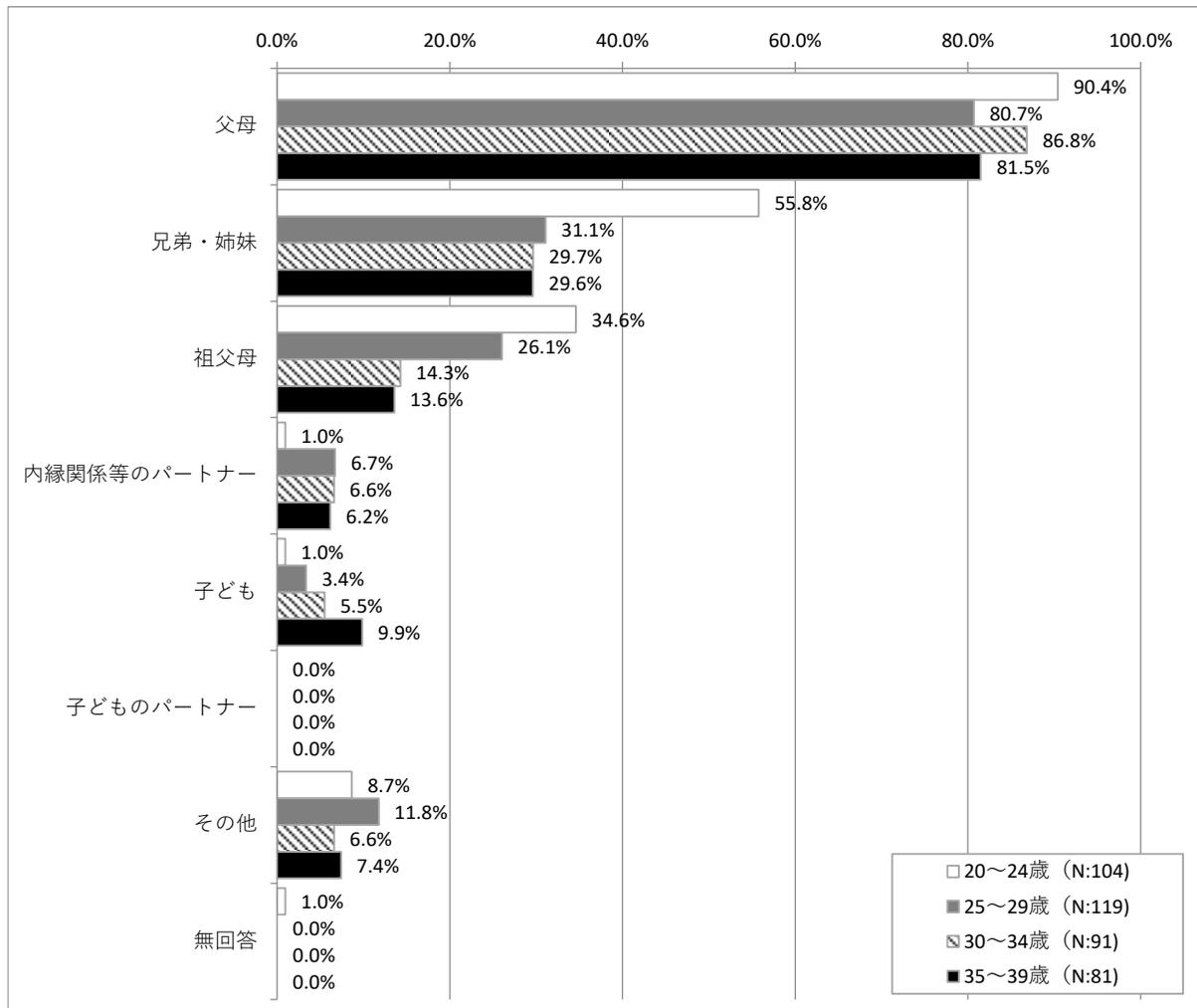


全体では、「父母」の割合（84.8%）が最も大きく、次いで「兄弟・姉妹」37.0%、「祖父母」23.0%、「内縁関係等のパートナー」5.1%、「子ども」4.6%の順となっている。

【男女別】

「父母」は男性87.8%、女性84.0%で男性が3.8ポイント大きくなっている。「兄弟・姉妹」は男性35.1%、女性38.7%で女性が3.6ポイント大きくなっている。

・同居家族（年代別）



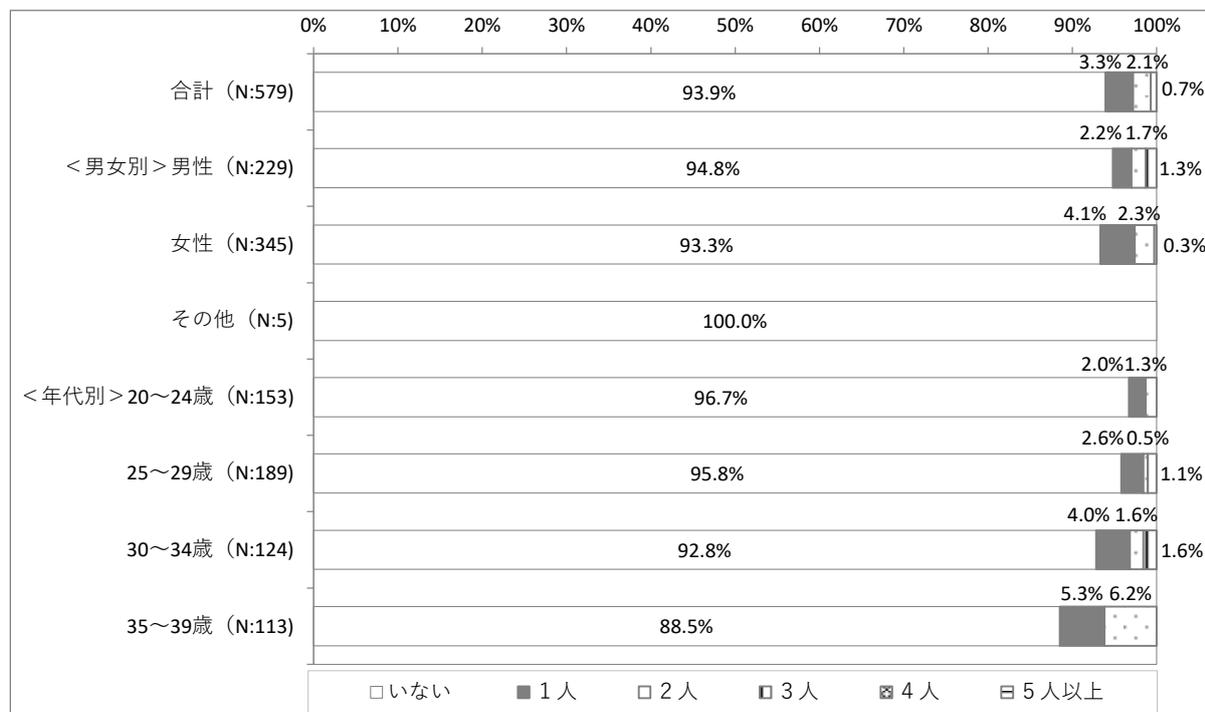
【年代別】

「父母」の割合は全年代で80%を超え、特に「20~24歳」が90.4%と最も大きい。「兄弟・姉妹」、「祖父母」は年代が下がるにつれ大きくなり、「20~24歳」の割合（それぞれ55.8%、34.6%）が最も大きい。また、「子ども」は年代が上がるにつれ大きくなり、「35~39歳」で9.9%と最も大きくなっているが、前回調査に比べて10.1ポイント減少している。

問7. お子さんの状況についてお答えください。

- ① お子さんの人数(同居・別居問わず)(1つ)
- ② (お子さんがいる場合)お子さんの就学状況(1つずつ)

・子どもの人数



全体で、子どもは「いない」が 93.9%、子どもの人数は「1人」が 3.3%、「2人」が 2.1%、「3人」0.7%となっている。

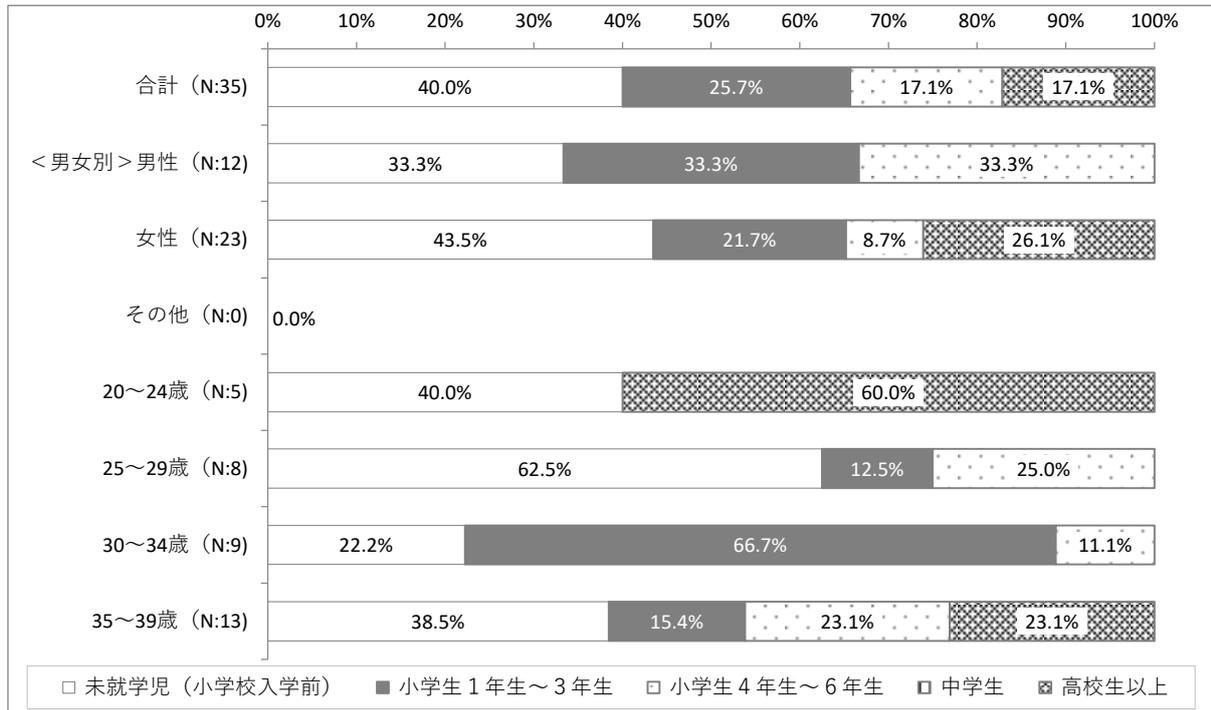
【男女別】

子どもの人数は「1人」は男性 2.2%、女性 4.1%、「2人」は男性 1.7%、女性 2.3%、「3人」は男性 1.3%、女性 0.3%となっており、「1人」、「2人」は女性の割合が大きくなっているが、「3人」は男性の方が大きくなっている。

【年代別】

子どもがいる割合は、年代が上がるにつれ大きくなっている。「30~34歳」では「1人」が最も大きく 4.0%、「35~39歳」では、「2人」が 6.2%で最も大きくなっている。

・一番下の子どもの就学状況



子どもがいる方で、一番下の子どもの就学状況は、「未就学児 (小学校入学前)」の割合が 40.0%と最も大きく、次いで「小学生 1 年生～3 年生」が 25.7%、「小学生 4 年生～6 年生」、「高校生以上」がともに 17.1%となっている。

【男女別】

男性は、「未就学児 (小学校入学前)」、「小学生 1 年生～3 年生」、「小学生 4 年生～6 年生」とともに 33.3%となっている。

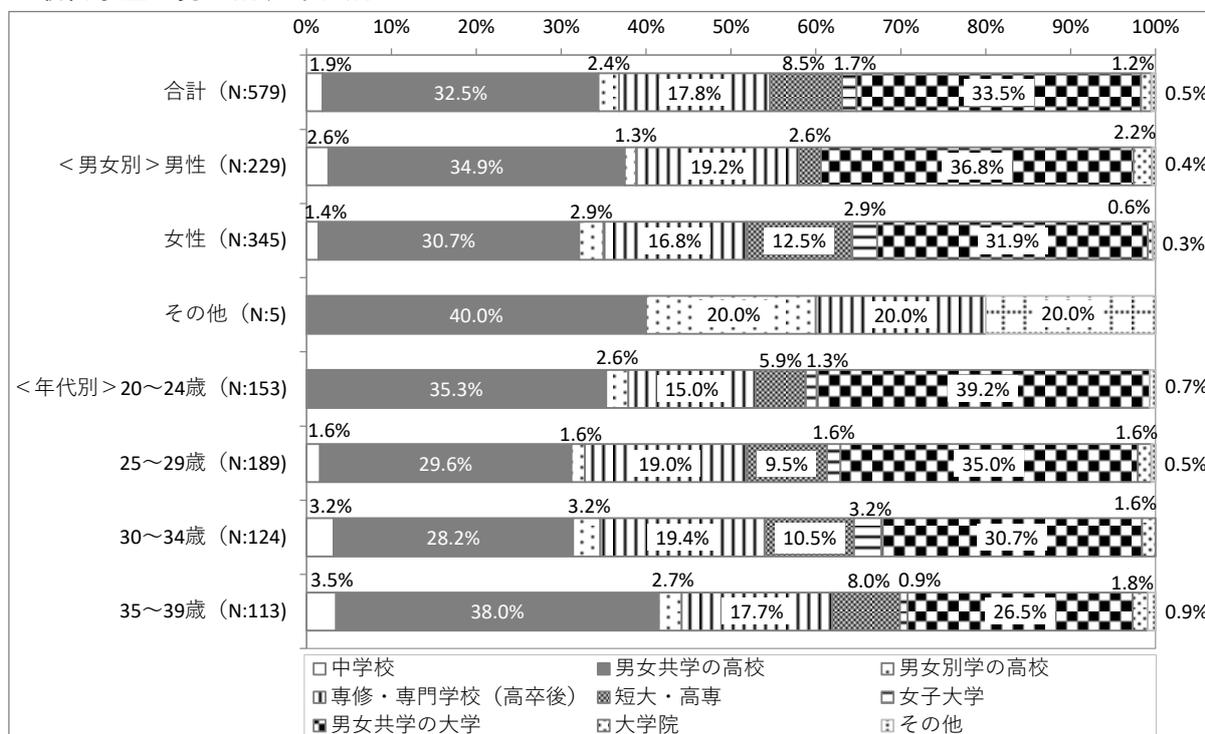
女性は、「未就学児 (小学校入学前)」43.5%、「小学生 1 年生～3 年生」21.7%、「小学生 4 年生～6 年生」8.7%、「高校生以上」26.1%となっている。

【年代別】

年代別では、「25～29 歳」で「未就学児 (小学校入学前)」62.5%、「30～34 歳」で「小学生 1 年生～3 年生」66.7%、「35～39 歳」で「未就学児 (小学校入学前)」38.5%が最も大きい割合となっている。

問8. あなたの最終学歴をお答えください。(1つ)

・最終学歴 男女別、年代別



全体では、「男女共学の大学」33.5%、「男女共学の高校」が32.5%、「専修・専門学校(高卒後)」17.8%、「短大・高専」8.5%の順となっている。また、「男女共学の高校」・「男女別学の高校」の合計である「高校卒」、「専修・専門学校(高卒後)」・「短大・高専」の合計である「短大卒」、「女子大学」・「男女共学の大学」・「大学院」の合計である「大学卒」の割合では、「高校卒」34.9%、「短大卒」26.3%、「大学卒」36.4%となっており、前回調査と比べて「大学卒」が5.4ポイント増加している。

【男女別】

「男女共学の高校」の割合は男性34.9%、女性30.7%、「男女共学の大学」は男性36.8%、女性31.9%と、ともに男性の方が大きくなっている。前回調査と比べて「男女共学の大学」の女性が9.1ポイント増加している

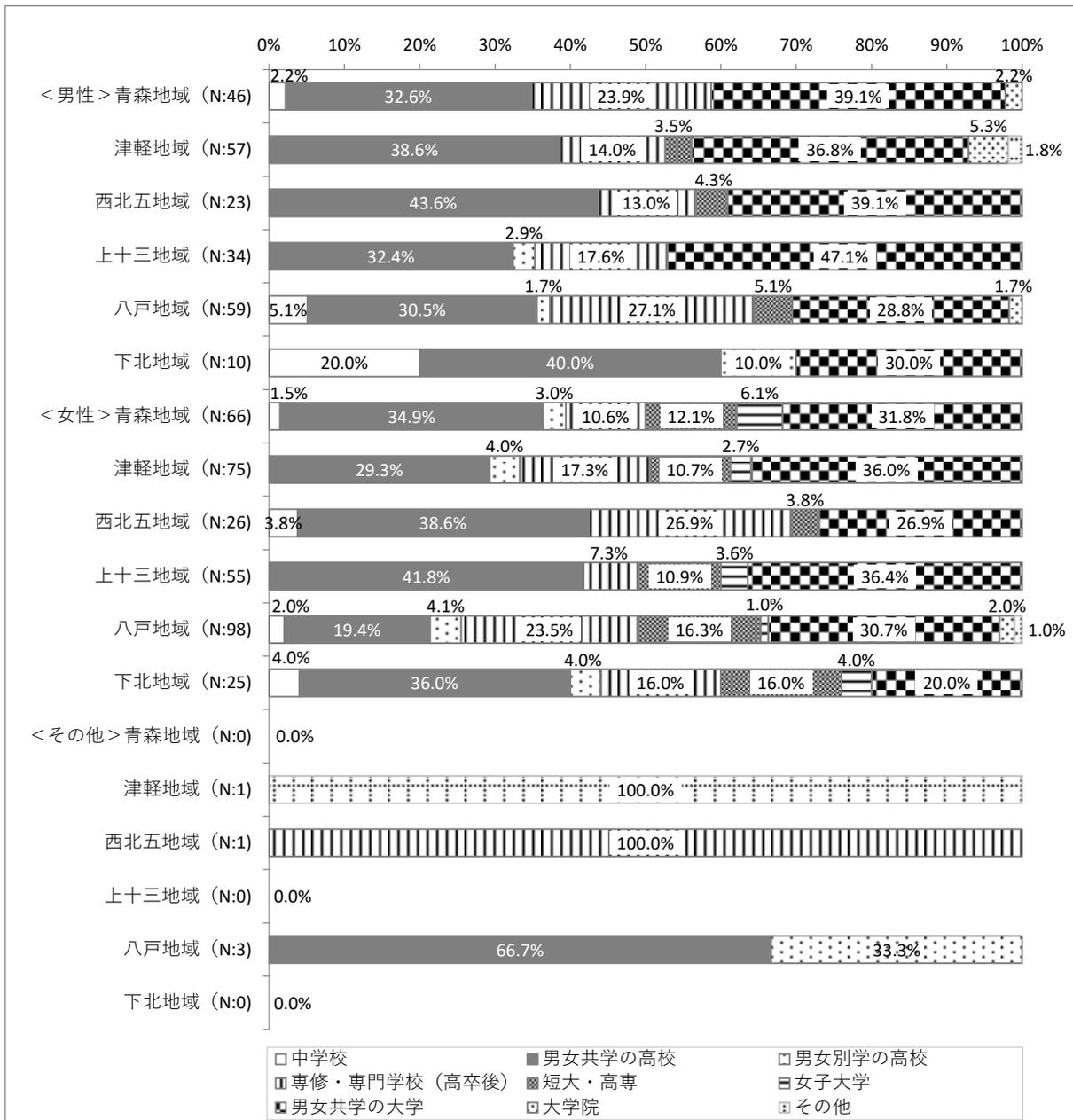
「高校卒」、「短大卒」、「大学卒」別では、「高校卒」は男性36.2%、女性33.6%、「短大卒」は男性21.8%、女性29.3%、「大学卒」は男性39.0%、女性35.4%で、「短大卒」は女性が男性より7.5ポイント大きくなっている。

【年代別】

「男女共学の高校」の割合は、「35～39歳」が38.0%、「男女共学の大学」は「20～24歳」が39.2%と最も大きくなっている。

「高校卒」、「短大卒」、「大学卒」別でみると、「35～39歳」は、「高校卒」の割合が40.7%と最も大きく、「大学卒」が29.2%となっており、他の年代と違い「大学卒」より「高校卒」が大きくなっている。「20～24歳」は「大学卒」の割合が最も大きく40.5%、「高校卒」37.9%となっている。

・最終学歴 地域別男女別

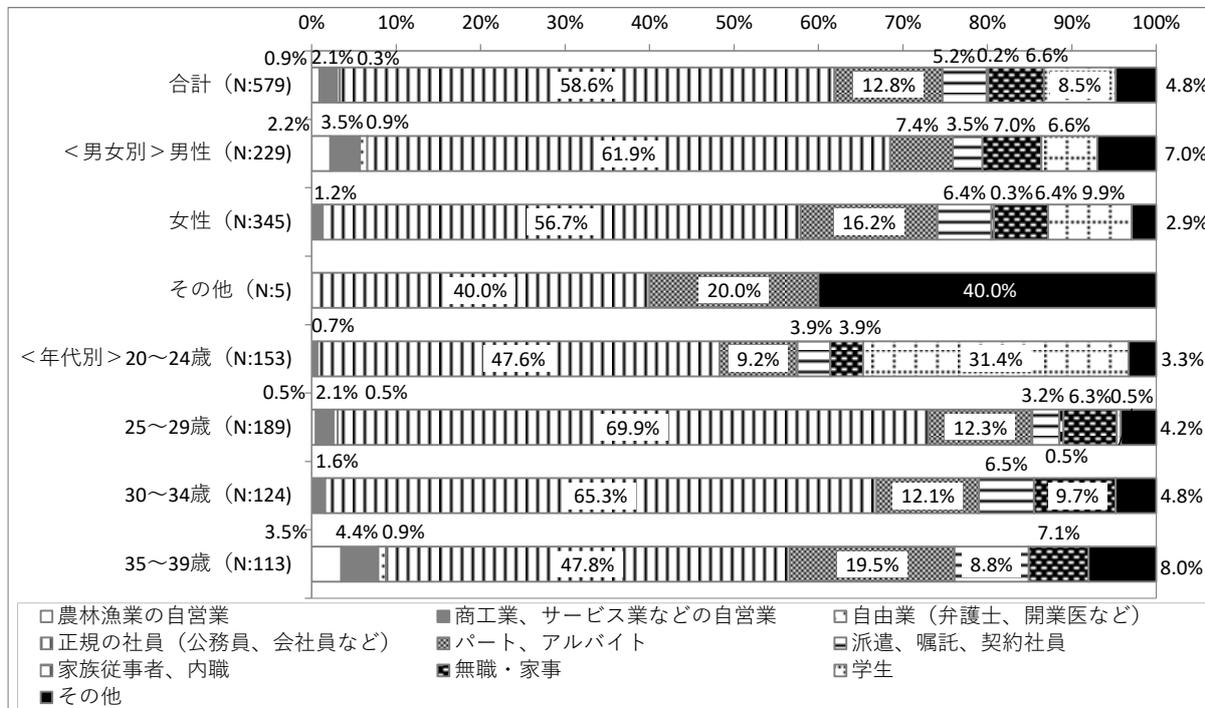


【地域別・男女別】

「高校卒」、「短大卒」、「大学卒」別で見ると、「大学卒」の割合は全体では男性が女性より大きくなっているが、「八戸地域」では女性が男性より 2.2 ポイント大きくなっている。また、「短大卒」は「青森地域」を除く全ての地域において女性の割合が大きく、「下北地域」では 32 ポイント、「西北五地域」では 13.4 ポイント大きくなっている。

問9. あなたのお仕事についてお答えください。

・職業の状況



全体では、「正規の社員（公務員、会社員など）」の割合が 58.6%と最も大きく、次いで「パート、アルバイト」が 12.8%、他の項目については 10%以下となっている。また、「正規の社員（公務員、会社員など）」の割合 58.6%に対し、「非正規（パート、アルバイト、派遣、嘱託、契約社員の合計）」の割合は 18.0%になっている。

「正規の社員（公務員、会社員など）」・「パート、アルバイト」・「派遣、嘱託、契約社員」を合計した「雇用割合」は 76.6%、「無職・家事」・「学生」・「その他」を除く「就労割合」は 80.1%となっている。

【男女別】

「正規の社員（公務員、会社員など）」は男性 61.9%、女性 56.7%で男性の方が大きく、「パート、アルバイト」は男性 7.4%、女性 16.2%、「派遣、嘱託、契約社員」は男性 3.5%、女性 6.4%と女性の方が男性より大きくなっている。

「非正規」の割合は、男性 10.9%、女性 22.6%で女性の方が男性より 11.7 ポイント大きくなっている。

「雇用割合」は、男性 72.8%、女性 79.3%と女性の方が男性より 6.5 ポイント大きくなっており、「就労割合」では、男性 79.4%、女性 80.8%で女性の方が 1.4 ポイント大きい。

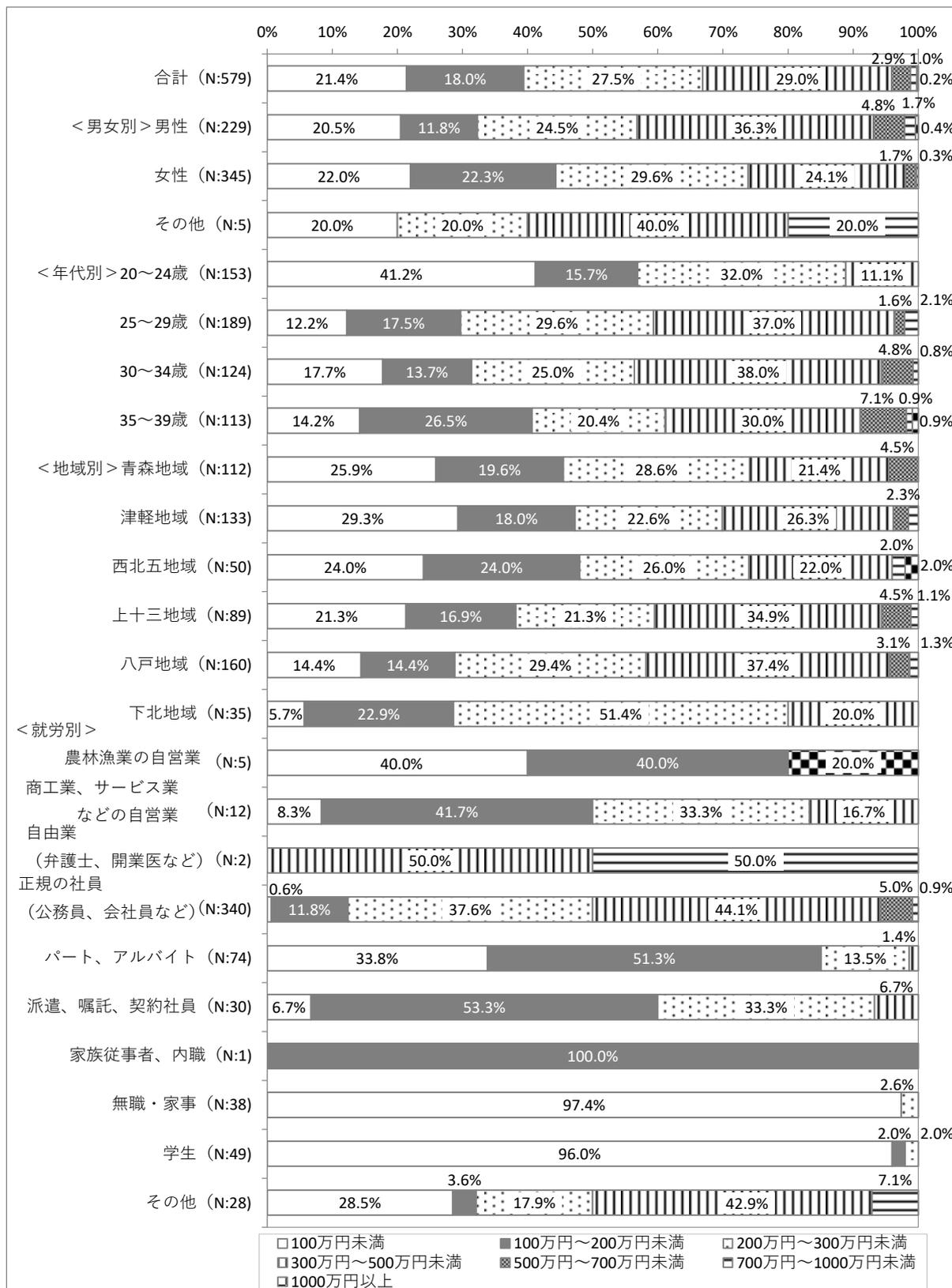
【年代別】

「正規の社員（公務員、会社員など）」では、「25～29歳」の割合が69.9%と最も大きく、次いで「30～34歳」が65.3%となっている。「パート、アルバイト」の割合は、「35～39歳」19.5%、「25～29歳」12.3%、「30～34歳」12.1%となっている。

「非正規」の割合は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「35～39歳」が28.3%と他の年代より大きくなっている。「雇用割合」では「35～39歳」が76.1%に対し、「25～29歳」（85.4%）が最も大きく、「就労割合」では、「35～39歳」が84.9%に対し、「25～29歳」（89.0%）が最も大きくなっている。

問10. あなたの年収をお答えください(1つ)

・ 年収の状況



全体では、「300万円～500万円未満」の割合が29.0%と最も大きく、前回調査と比べて10.3ポイント増加している。次いで「200万円～300万円未満」が27.5%、「100万円未満」21.4%、「100万円～200万円未満」18.0%となっており、500万円以上は4.1%となっている。年収が200万円以上の割合は60.6%と前回調査と比べて16.8ポイント増加している

【男女別】

「100万円未満」が男性20.5%、女性22.0%、「100万円～200万円未満」が男性11.8%、女性22.3%、「200万円～300万円未満」では、男性24.5%、女性29.6%と、いずれも女性の割合の方が大きくなっている。「300万円～500万円未満」は男性36.3%、女性24.1%、「500万円～700万円未満」は男性4.8%、女性1.7%と男性の割合の方が大きくなっている。年収が200万円以上の割合は、男性67.7%、女性55.7%と12ポイントの差が見られる。また、前回調査と比べて年収が200万円以上は、男性が11ポイント、女性が20.8ポイント増加している。

【年代別】

「20～24歳」は、「100万円未満」が41.2%と最も大きく、他年代の2倍以上になっている。他年代では、「300万円～500万円未満」の割合が最も大きく、「25～29歳」37.0%、「30～34歳」は38.0%、「35～39歳」は30.0%となっている。「200万円～300万円未満」の割合は、年代が下がるにつれ大きくなっており「20～24歳」が32.0%と最も大きく、「35～39歳」が20.4%で最も小さくなっている。

年収が200万円以上の割合は、「25～29歳」は70.3%、「30～34歳」は68.6%、「35～39歳」は59.3%、「20～24歳」は43.1%となっており、前回調査と比べて「25～29歳」は19.7ポイント、「20～24歳」は18.1ポイント、「30～34歳」は17.1ポイント増加している。

【地域別】

「300万円～500万円未満」の割合は、「八戸地域」が37.4%、「上十三地域」が34.9%となっており、他地域より大きくなっている。また、「下北地域」では、「200万円～300万円未満」が51.4%で他地域より20ポイント以上大きくなっている。年収が200万円以上の割合でみると、「下北地域」71.4%、「八戸地域」71.2%が大きくなっており、最も小さい「西北五地域」が52.0%となっており、「下北地域」、「八戸地域」と比べ、それぞれ19.4ポイント、19.2ポイント小さくなっている。

【就労別】

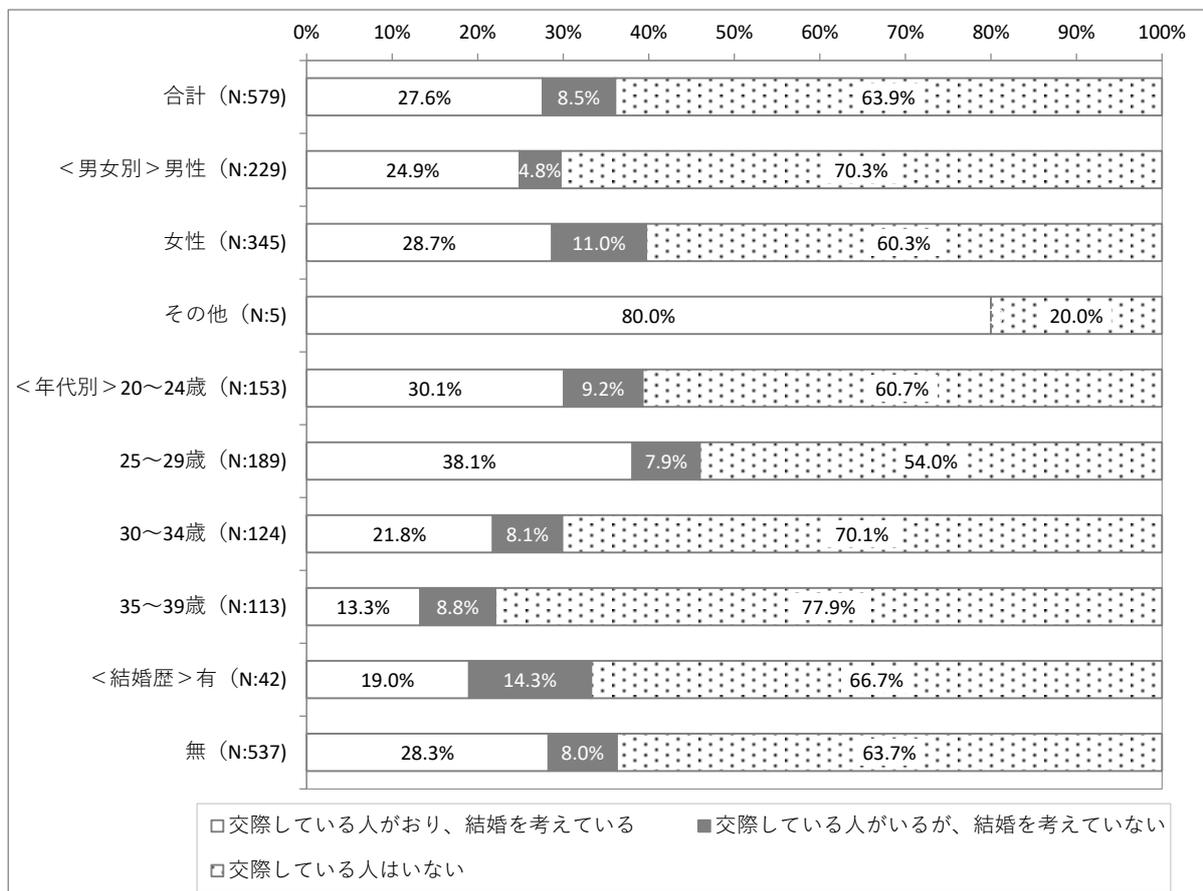
「正規の職員」では、「300万円～500万円未満」44.1%、「200万円～300万円未満」37.6%が大きく、「パート、アルバイト」は「100万円～200万円未満」が51.3%、「100万円未満」が33.8%、「派遣・嘱託・契約職員」は「100万円～200万円未満」が53.3%、「200万円～300万円未満」33.3%となっている。「商工業、サービス業などの自営業」は「100万円～200万円未満」が41.7%、「200万円～300万円未満」が33.3%、「300万円～500万円未満」が16.7%となっている。

年収が200万円以上の割合は、「自由業（弁護士、開業医など）」100%、「正規の職員」87.6%、「商工業、サービス業などの自営業」50.0%、「派遣・嘱託・契約職員」40.0%、「農林漁業の自営業」20.0%、「パート、アルバイト」14.9%となっている。

交際に関する意識・実態

問11. あなたは現在、交際している相手はいらっしゃいますか(内縁関係のパートナーも含む)。(1つ)

・ 交際相手の有無



全体では、「交際している人はいない」の割合が、63.9%で最も大きく、次いで「交際している人がおり、結婚を考えている」が27.6%、「交際している人がいるが、結婚は考えていない」が8.5%となっている。

前回調査と比べて、「交際している人はいない(前回72.7%)」が8.8ポイント減少、「交際している人がおり、結婚を考えている(前回16.8%)」が10.8ポイント増加している。

【男女別】

「交際している人がおり、結婚を考えている」は男性24.9%、女性28.7%、「交際している人がいるが、結婚は考えていない」は男性4.8%、女性11.0%となっている。「交際している人はいない」は男性70.3%、女性60.3%となっており、前回調査と比べて男性が4.7ポイント、女性が10.7ポイント減少している。

【年代別】

「25～29歳」では、「交際している人がおり、結婚を考えている」の割合（38.1%）が他の年代より大きくなっており、「交際している人はいない」の割合は54.0%で、最も小さくなっている。

「35～39歳」では、「交際している人がおり、結婚を考えている」の割合（13.3%）は他の年代より小さくなっており、「交際している人はいない」の割合は77.9%で、最も大きくなっている。

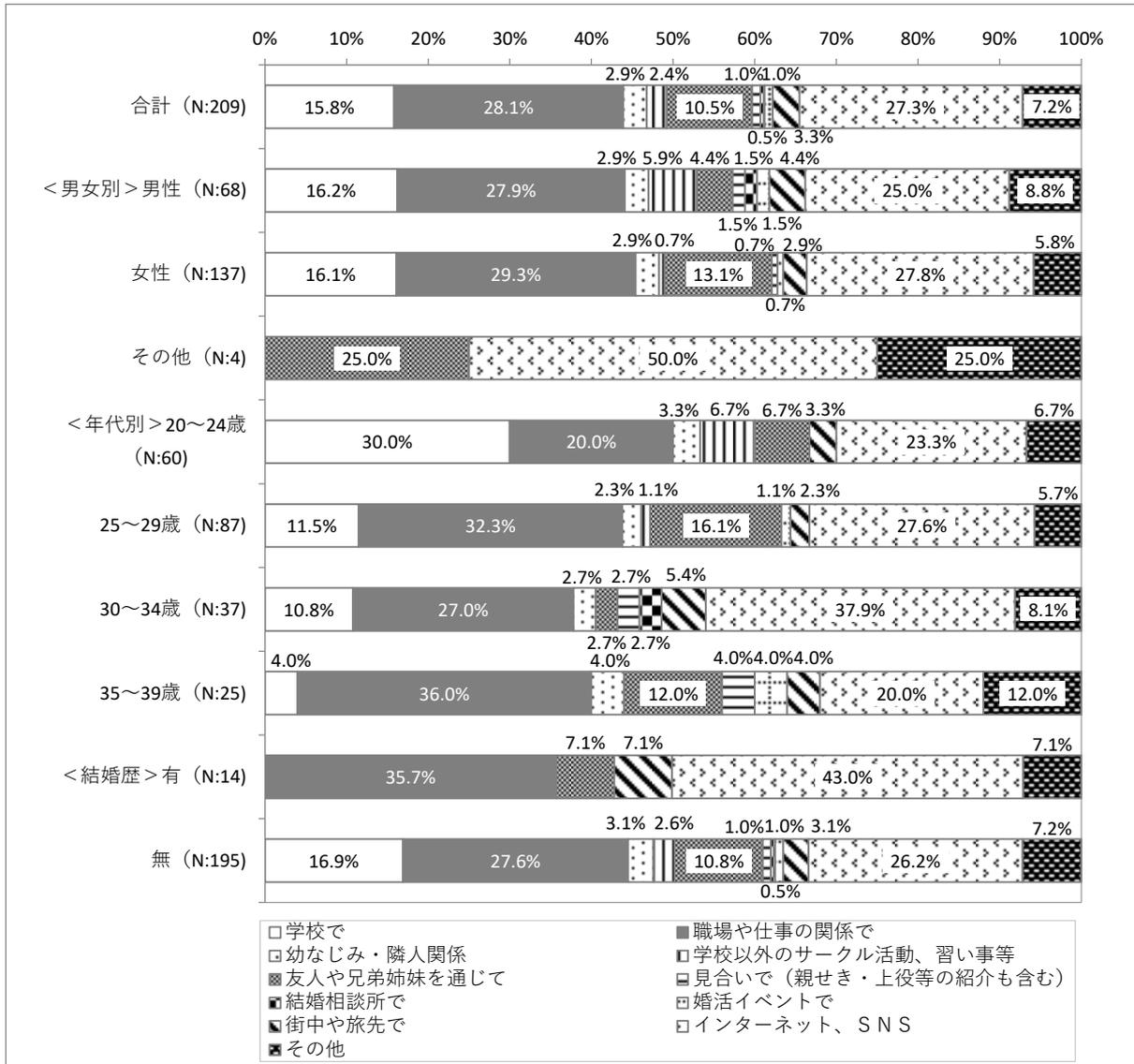
【結婚歴有無別】

「交際している人がおり、結婚を考えている」は、「結婚歴有」19.0%、「結婚歴無」28.3%となっており、結婚経験がある方が9.3ポイント大きくなっている。「交際している人がいるが、結婚は考えていない」は、「結婚歴有」14.3%、「結婚歴無」8.0%、「交際している人はいない」は、「結婚歴有」66.7%、「結婚歴無」63.7%となっている。

問12. 交際相手がいる方にお聞きます。

現在交際している方と知り合ったきっかけを教えてください。(1つ)

・現在交際している方と知り合ったきっかけ



全体では、「職場や仕事の関係で」の割合が28.1%で最も大きく、次いで「インターネット、SNS」が27.3%、「学校で」15.8%、「友人や兄弟姉妹を通じて」が10.5%となっている。他の項目については10%以下となっている。前回調査と比べて「インターネット、SNS」が14.1ポイント増加している。

【男女別】

「友人や兄弟姉妹を通じて」は男性4.4%、女性13.1%となっており、女性の割合が8.7ポイント大きくなっている。「学校以外のサークル活動、習い事等」は男性が5.9%で女性は0.7%となっており、男性の割合が5.2ポイント大きくなっている。

【年代別】

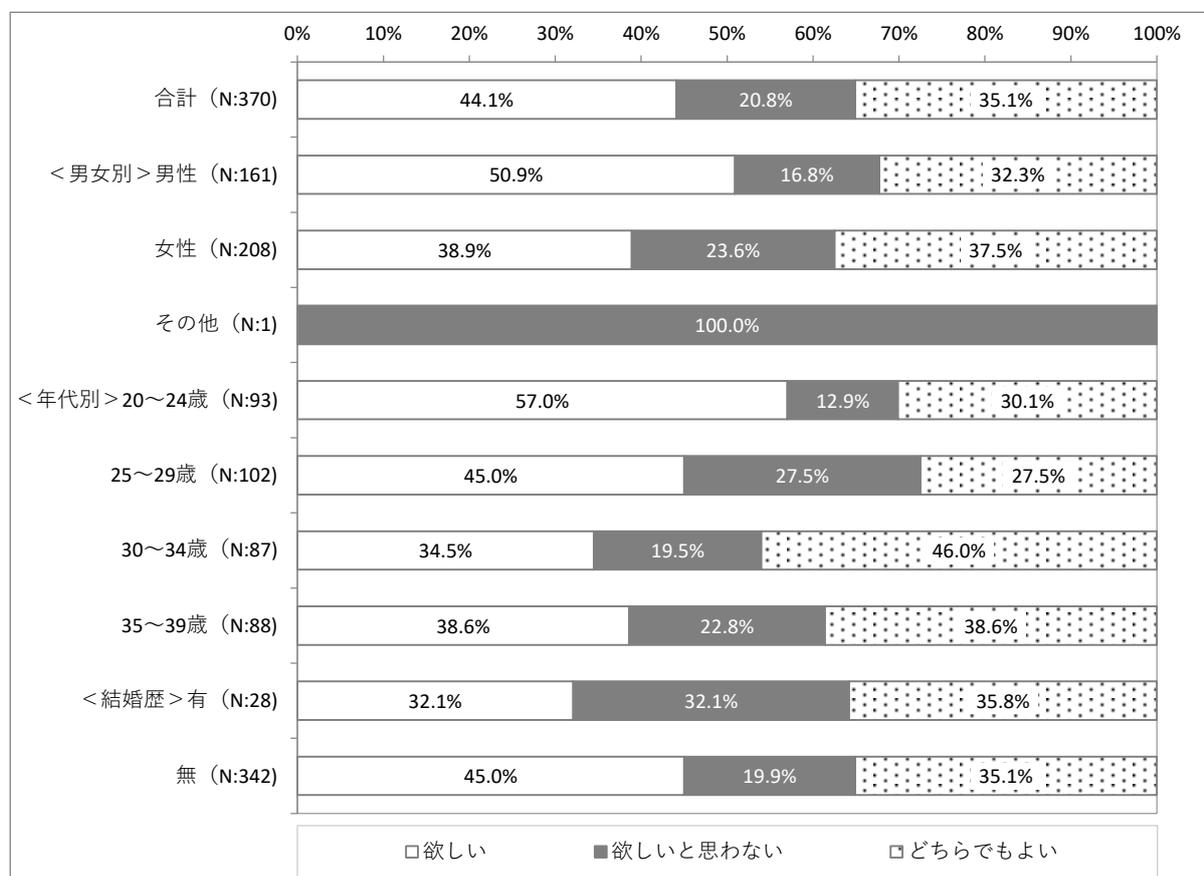
「学校で」の割合は、年代が下がるにつれ大きくなっており「20～24歳」が30.0%と最も大きく、「35～39歳」が4.0%で最も小さくなっている。「職場や仕事の関係で」は、「35～39歳」の割合（36.0%）が最も大きく、「25～29歳」32.3%、「30～34歳」27.0%、「20～24歳」20.0%となっている。「インターネット、SNS」では、「30～34歳」が37.9%と前回調査と比べて20.7ポイント大きくなっている。「友人や兄弟姉妹を通じて」の割合は、「25～29歳」が16.1%で最も大きく、「30～34歳」が2.7%で最も小さくなっている。

【結婚歴有無別】

「結婚歴有」は、「インターネット、SNS」が43.0%、「職場や仕事の関係で」が35.7%で、「結婚歴無」の割合（それぞれ26.2%、27.6%）に比べて、それぞれ16.8ポイント、8.1ポイント大きくなっている。「結婚歴無」は、「学校で」16.9%、「友人や兄弟姉妹を通じて」10.8%も10%以上の割合となっている。

問13. 交際している人がいない方にお聞きます。
交際相手が欲しいと思いますか。(1つ)

・ 交際相手は欲しいか



全体では、交際相手が「欲しい」の割合が44.1%、次いで「どちらでもよい」35.1%、「欲しいと思わない」20.8%となっている。

【男女別】

交際相手が「欲しい」は男性が50.9%、女性が38.9%で、男性が12ポイント大きくなっている。一方で、「欲しいと思わない」は、男性が16.8%、女性が23.6%で、女性が6.8ポイント大きくなっている。

【年代別】

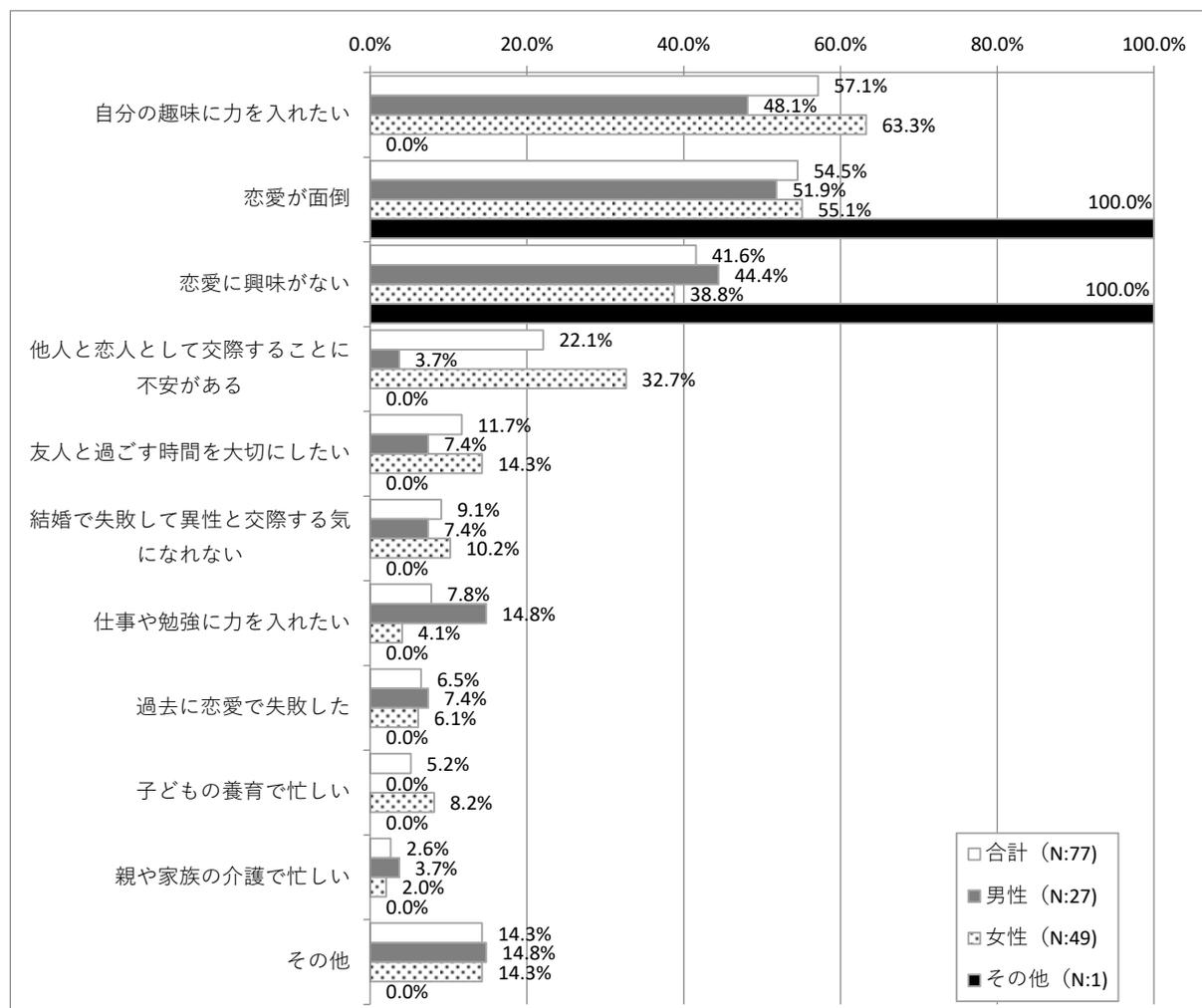
交際相手が「欲しい」の割合は、「20～24歳」57.0%、次いで「25～29歳」45.0%となっており、「30～34歳」が34.5%で最も小さくなっている。「欲しいと思わない」は「25～29歳」が27.5%で最も大きく、次いで「35～39歳」22.8%、「30～34歳」19.5%となっており、「20～24歳」が12.9%で最も小さくなっている。

【結婚歴有無別】

交際相手が「欲しい」は、「結婚歴有」が 32.1%、「結婚歴無」が 45.0%で、「結婚歴無」が 12.9 ポイント大きくなっている。一方で、「欲しいと思わない」は、「結婚歴有」が 32.1%、「結婚歴無」19.9%で、「結婚歴有」が 12.2 ポイント大きくなっている。

問14. 交際している人がいなく、交際相手を欲しいと思わない方にお聞きます。
交際相手を欲しいと思わない理由についてお答えください。(3つまで)

・ 交際相手を欲しいと思わない理由（男女別）

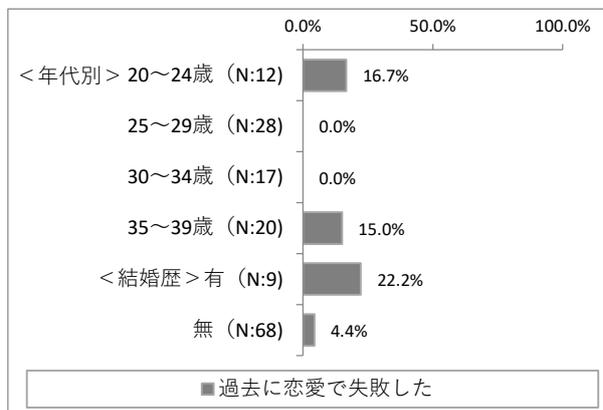
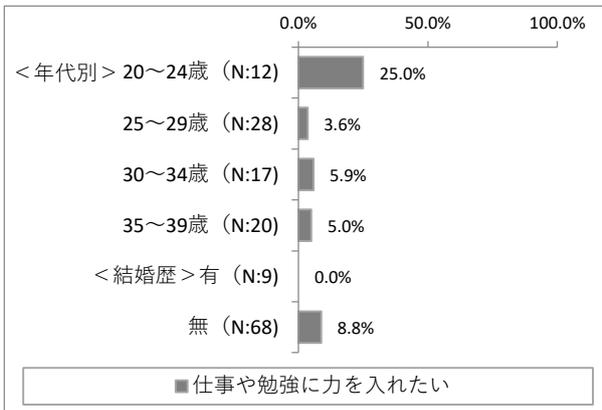
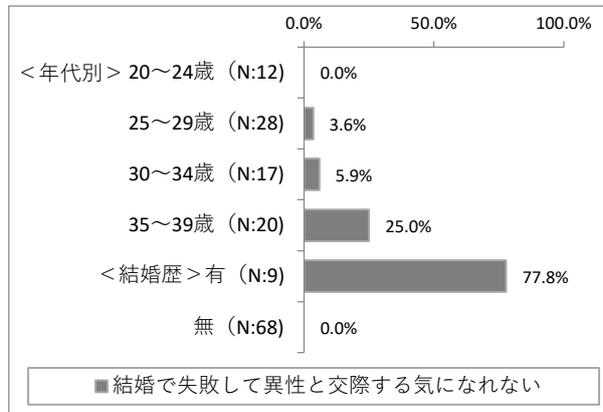
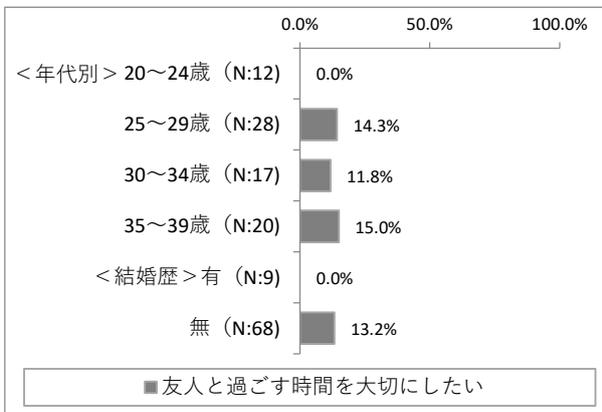
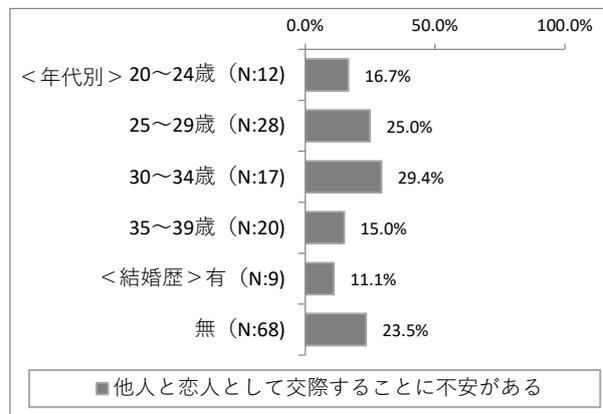
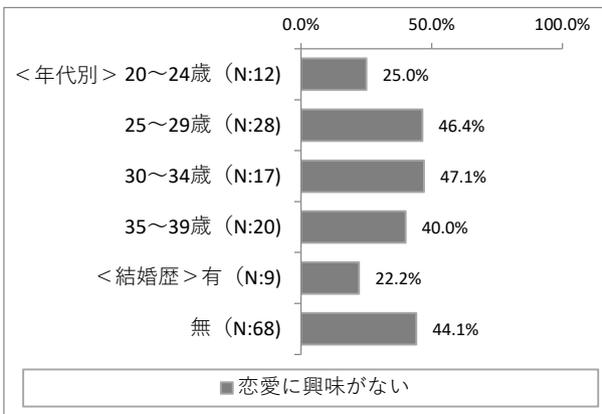
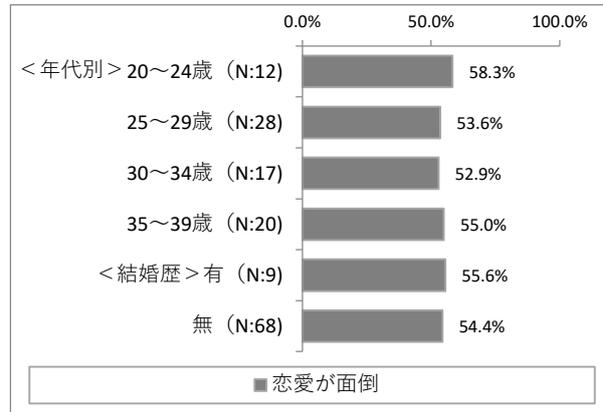
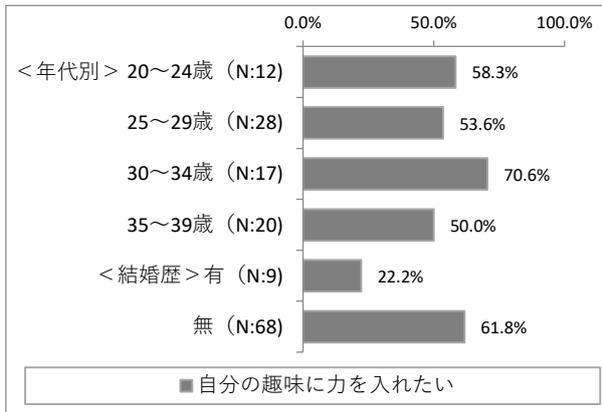


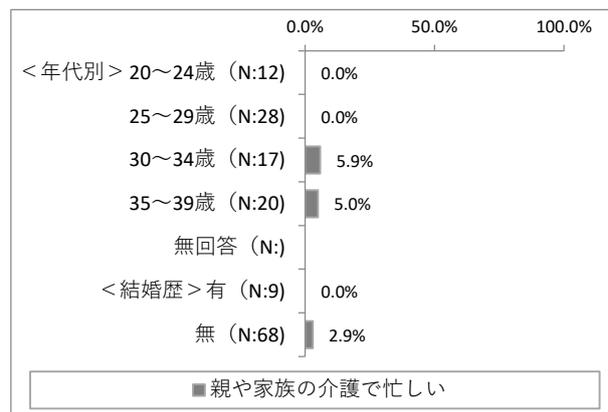
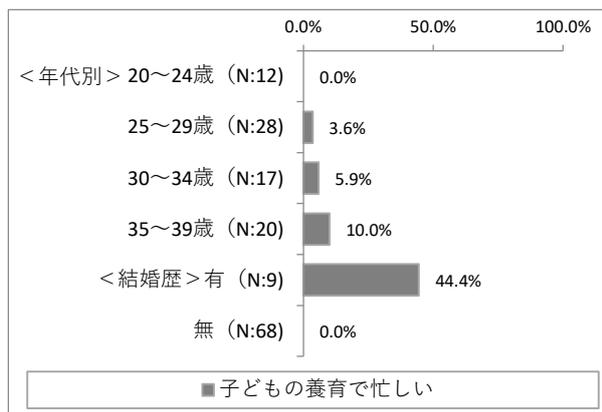
全体では、「自分の趣味に力を入れたい」の割合が最も大きく 57.1%、次いで「恋愛が面倒」54.5%、「恋愛に興味がない」41.6%の順となっている。

【男女別】

「自分の趣味に力を入れたい」は男性 48.1%、女性 63.3%で 15.2 ポイント、「他人と恋人として交際することに不安がある」は男性 3.7%、女性 32.7%で 29 ポイント女性の方が大きくなっている。「恋愛に興味がない」(男性 44.4%、女性 38.8%)、「仕事や勉強に力を入れたい」(男性 14.8%、女性 4.1%)などは、男性の方が大きくなっている。

・交際相手を欲しいと思わない理由（年代別・結婚歴有無別）





【年代別】

「30～34歳」では、「自分の趣味に力を入れたい」、「他人と恋人として交際することに不安がある」の割合（それぞれ70.6%、29.4%）が他年代と比較すると大きくなっている。

「自分の趣味に力を入れたい」、「恋愛が面倒」は全ての年代において50%以上の割合となっている。

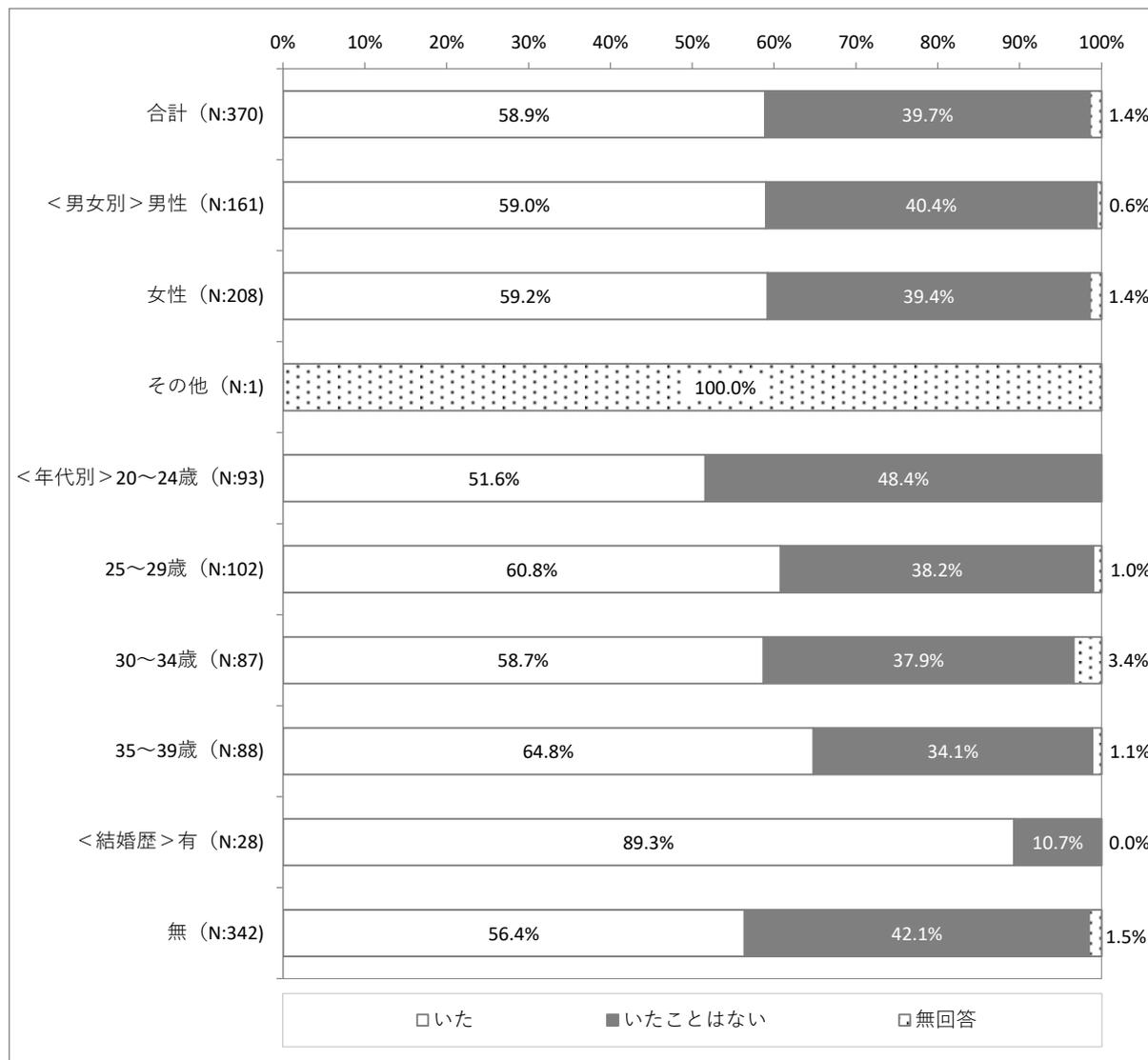
【結婚歴有無別】

「恋愛が面倒」は、「結婚歴有」が55.6%、「結婚歴無」が54.4%で1.2ポイントの差である。「自分の趣味に力を入れたい」は、「結婚歴有」が22.2%、「結婚歴無」が61.8%となっており、「結婚歴無」が39.6ポイント大きくなっている。

また、「結婚で失敗して異性と交際する気になれない」、「子どもの養育で忙しい」は、「結婚歴無」が0%であり、「結婚歴有」の割合は、それぞれ77.8%、44.4%となっている。

問15. 交際している人がいない方にお聞きします。
過去に交際相手はいましたか。(1つ)

・過去に交際相手はいたか



全体では、交際相手が「いた」が58.9%、「いたことはない」39.7%となっている。

【男女別】

交際相手が「いた」は男性が59.0%、女性が59.2%で、0.2ポイントの差である。

【年代別】

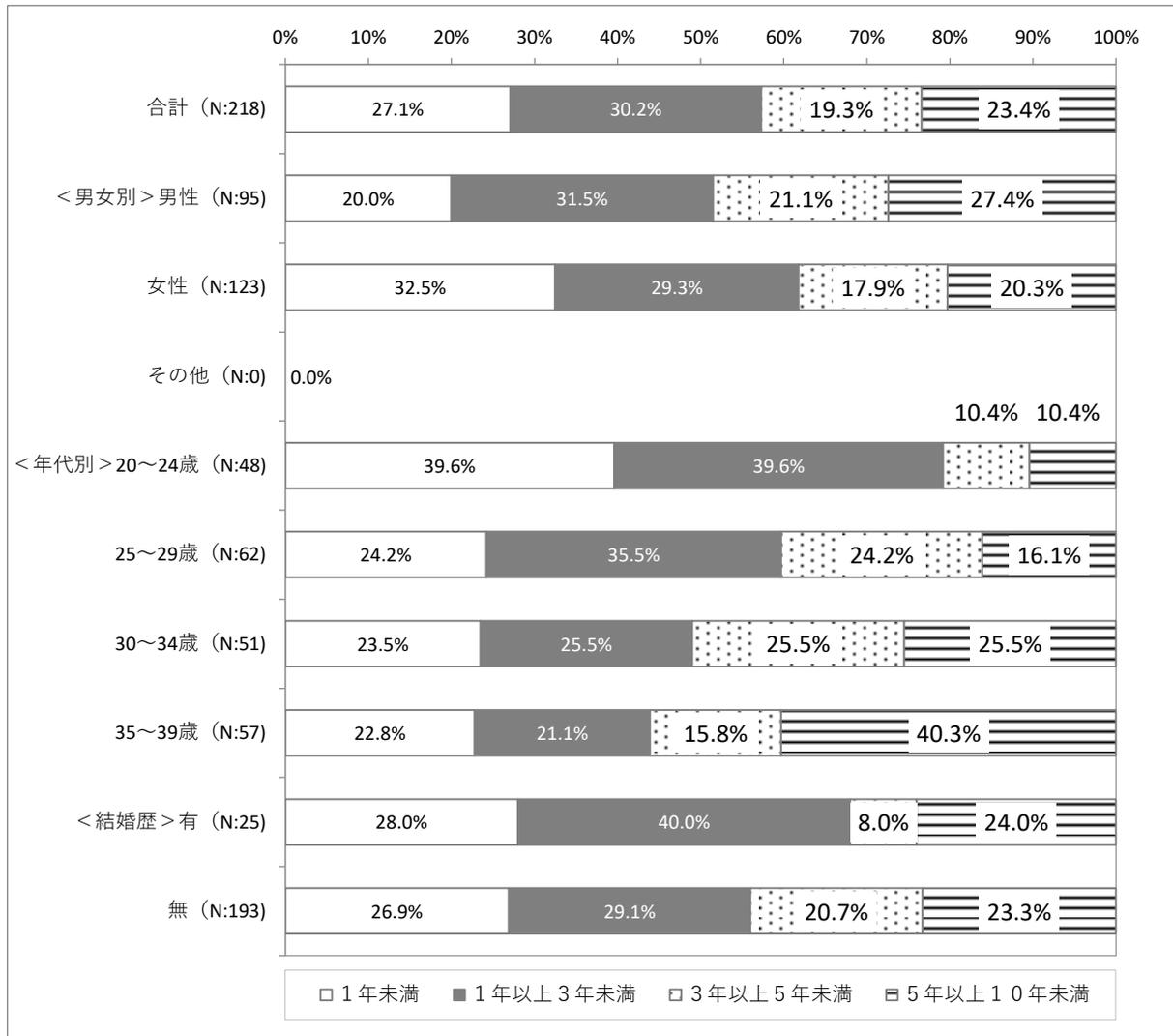
交際相手が「いた」は、「35～39歳」が最も大きく64.8%、「25～29歳」60.8%、「30～34歳」58.7%となっており、「20～24歳」が51.6%で最も小さくなっている。「いたことはない」は、年代が下がるにつれ大きくなっており、「20～24歳」が48.4%で最も大きく、「35～39歳」が34.1%と最も小さくなっている。

【結婚歴有無別】

交際相手が「いた」は、「結婚歴有」が 89.3%、「結婚歴無」が 56.4%となっている。一方で、「いたことがない」は、「結婚歴有」が 10.7%、「結婚歴無」42.1%となっている。

問16. 交際している人がいない方で、過去に交際相手がいた方にお聞きます。
 交際相手は、どのくらいの期間いないか教えてください。(1つ)

・ 交際相手がいない期間



全体では、「1年以上3年未満」の割合が最も大きく30.2%、「1年未満」27.1%、「5年以上10年未満」23.4%、「3年以上5年未満」19.3%となっている。

【男女別】

「1年以上3年未満」は男性31.5%、女性29.3%で2.2ポイントの差があり、「1年未満」は男性20.0%、女性32.5%で女性が12.5ポイント大きくなっている。「5年以上10年未満」は男性27.4%、女性20.3%、「3年以上5年未満」は男性21.1%、女性17.9%となっている。

【年代別】

「1年未満」、「1年以上3年未満」は、「20～24歳」がそれぞれ39.6%となっている。「3年以上5年未満」では、「30～34歳」が25.5%となっている。「5年以上10年未満」は年代が上がるにつれ大きくなっており、「35～39歳」が40.3%で最も大きく、「20～24歳」で10.4%と最も小さくなっている。

【結婚歴有無別】

「1年以上3年未満」は、「結婚歴有」が40.0%、「結婚歴無」が29.1%となっている。「3年以上5年未満」は、「結婚歴有」が8.0%、「結婚歴無」が20.7%で12.7ポイント大きくなっている。

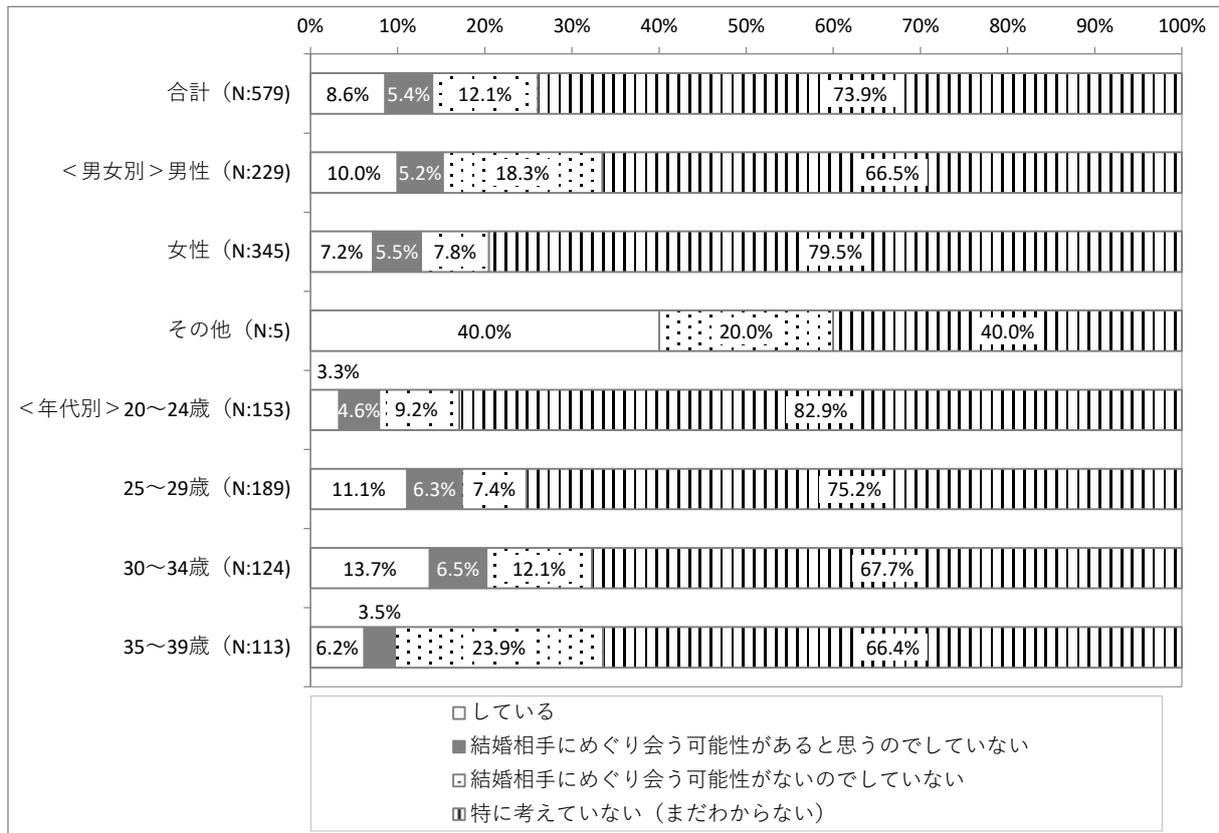
結婚活動に関する意識・実態

問17. あなたは現在結婚活動をしていますか。(1つ)

問18. 現在結婚活動をしている方にお聞きします。

何歳ころから結婚活動を始めましたか。

・結婚活動の有無



全体では、「特に考えていない」の割合が73.9%で最も大きく、次いで「結婚相手にめぐり会う可能性がないのでしていない」が12.1%、「している」が8.6%、「結婚相手にめぐり会う可能性があると思うのでしていない」が5.4%となっている。

【男女別】

「特に考えていない」は男性が66.5%、女性が79.5%で女性が13ポイント大きく、「結婚相手にめぐり会う可能性がないのでしていない」は男性が18.3%、女性が7.8%、「している」は男性が10.0%、女性が7.2%で男性（それぞれ10.5ポイント、2.8ポイント）が大きくなっている。

【年代別】

「特に考えていない」は「20～24歳」の割合（82.9%）が最も大きくなっている。「結婚相手にめぐり会う可能性がないのでしていない」は、「35～39歳」が23.9%で最も大きく、「30～34歳」が12.1%となっている。「している」は「30～34歳」が最も大きく13.7%で、「20～24歳」の割合が3.3%と最も小さい。

・結婚活動を始めた年齢

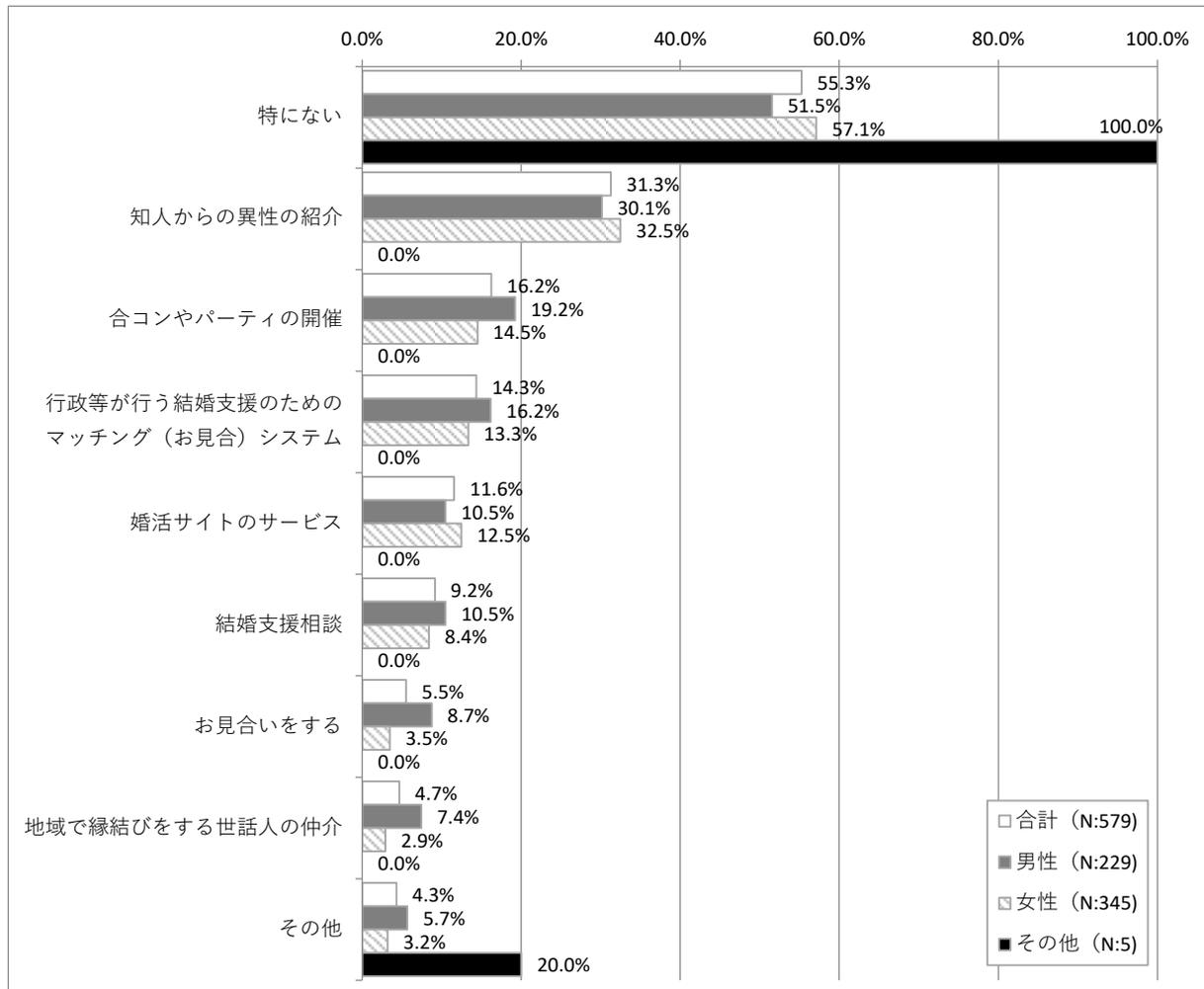
	男女計	男性	女性	その他
合計	26.9歳	27.3歳	26.5歳	26.5歳
20～24歳	23.0歳	23.3歳	22.5歳	-
25～29歳	24.9歳	24.9歳	24.9歳	-
30～34歳	29.2歳	29.6歳	28.7歳	30.0歳
35～39歳	30.3歳	29.3歳	34.0歳	27.0歳

結婚活動を「している」場合、全体では、平均で26.9歳に活動を始めており、男女別では、男性27.3歳、女性が26.5歳となっている。

年代別では、「20～24歳」23.0歳、「25～29歳」24.9歳、「30～34歳」29.2歳、「35～39歳」30.3歳と年代が上がるにつれ、結婚活動を始めた年齢は遅くなっている。

問19. 結婚活動において現在又は将来に必要なサポート(又は実施して欲しい支援)をお答えください。特にない場合は「9. 特にない」のみを記入してください。(3つまで)

・結婚活動における必要なサポート（合計・男女別）

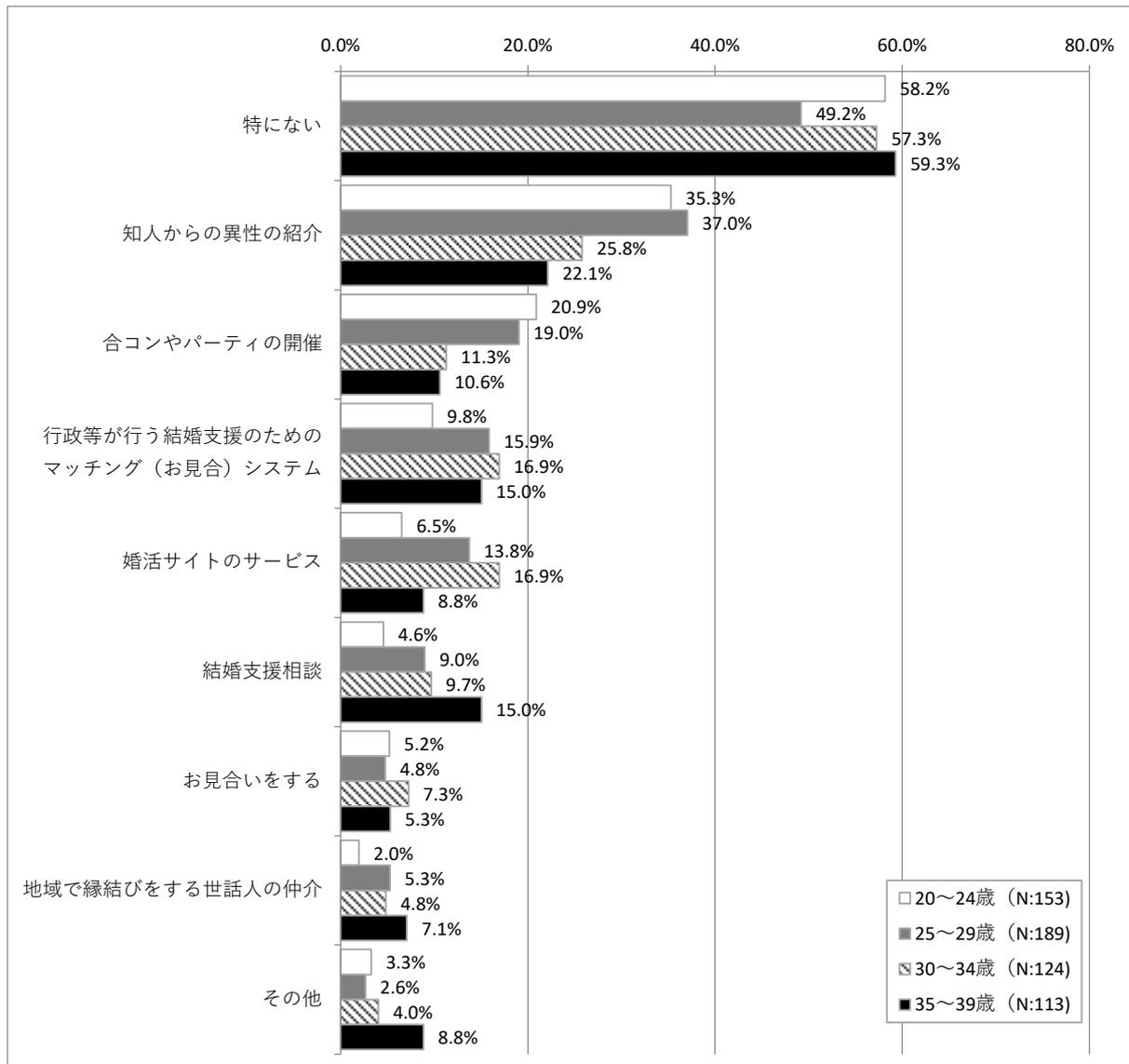


全体では、「特にない」の割合が 55.3%で最も大きく、次いで「知人からの異性の紹介」が 31.3%、「合コンやパーティの開催」が 16.2%、「行政等が行う結婚支援のためのマッチング(お見合)システム」が 14.3%、「婚活サイトのサービス」11.6%となっており、他の項目については 10%以下となっている。

【男女別】

「合コンやパーティの開催」は男性 19.2%、女性 14.5%、「行政等が行う結婚支援のためのマッチング(お見合)システム」は男性 16.2%、女性 13.3%で、男性が女性より大きくなっている。「特にない」は男性 51.5%、女性 57.1%、「知人からの異性の紹介」は男性 30.1%、女性 32.5%、「婚活サイトのサービス」は男性 10.5%、女性 12.5%で女性が男性より大きくなっている。

・結婚活動における必要なサポート（年代別）

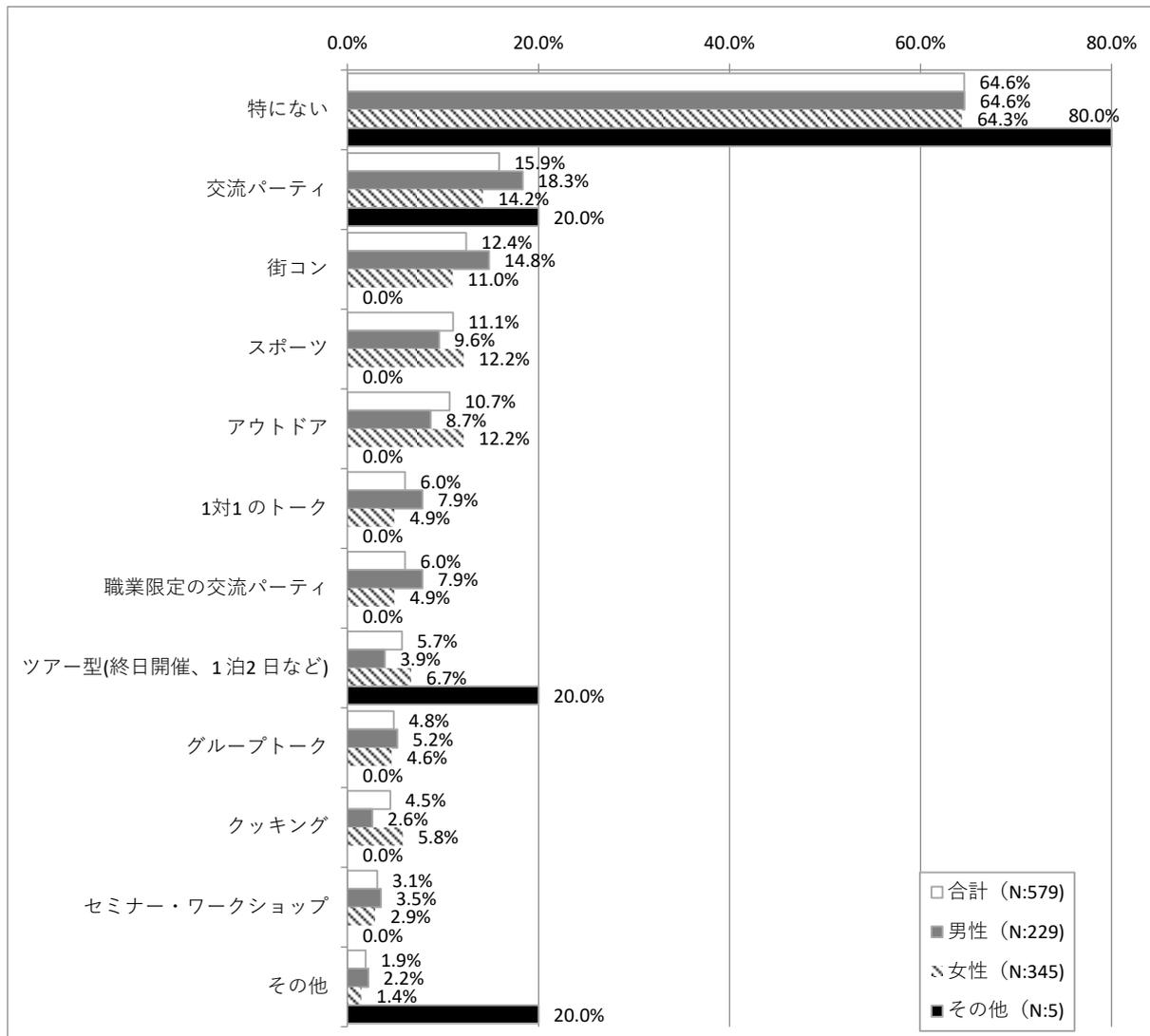


【年代別】

「特にない」は、「35~39歳」が59.3%で大きく、次いで「20~24歳」が58.2%となっている。「知人からの異性の紹介」は、「25~29歳」が37.0%で最も大きく、次いで「20~24歳」が35.3%となっている。「合コンやパーティの開催」は、年齢が下がるにつれ大きくなっており、「20~24歳」が20.9%と最も大きくなっている。

問20. 現在結婚活動でよく利用する(又は今は結婚活動をしていなくても将来的に利用してみたい)イベント・セミナー等について教えてください。特にない場合は「12. 特にない」のみを記入してください。(3つまで)

・結婚活動でよく利用するイベント・セミナー(合計・男女別)

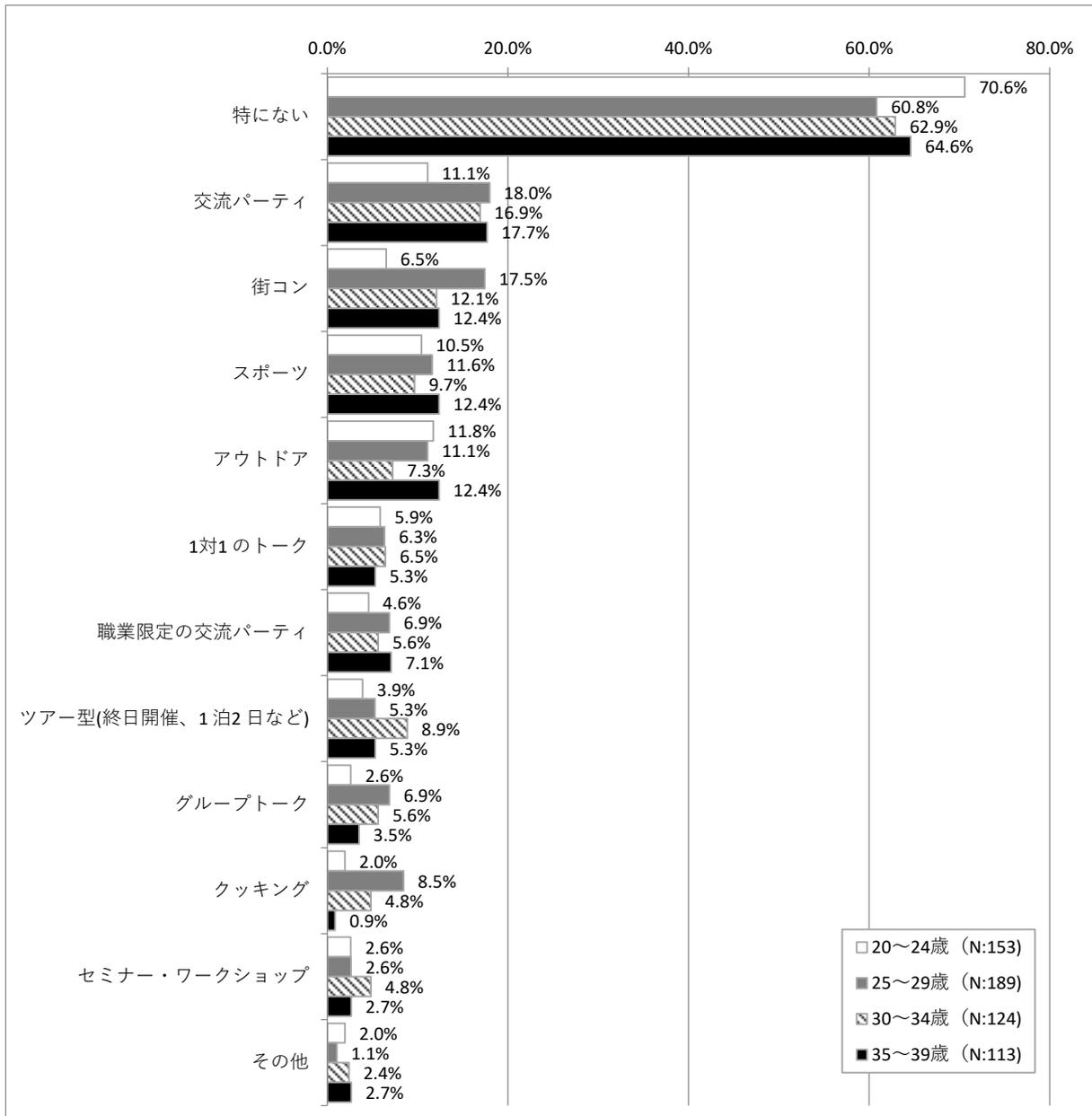


全体では、「特にない」の割合が最も大きく64.6%となっている。他の項目では「交流パーティ」が15.9%、「街コン」12.4%、「スポーツ」11.1%、「アウトドア」10.7%となっており、他の項目は10%以下になっている。

【男女別】

「特にない」は男性64.6%、女性64.3%、「交流パーティ」は男性18.3%、女性14.2%、「街コン」は男性14.8%、女性11.0%と、女性より男性の方が大きく、「スポーツ」「アウトドア」などは男性より女性の方が大きくなっている。

・結婚活動でよく利用するイベント・セミナー（年代別）

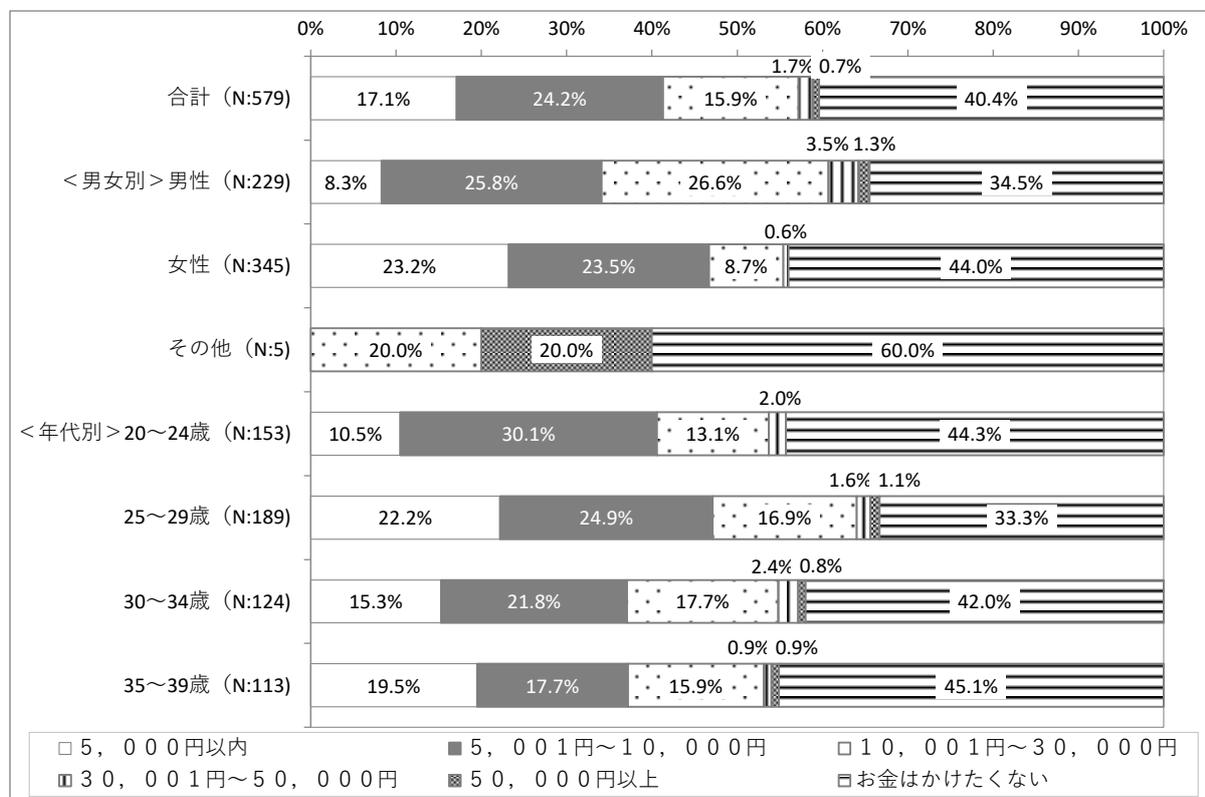


【年代別】

「特にない」は、「20~24歳」、「35~39歳」の割合（それぞれ70.6%、64.6%）が大きくなっている。「25~29歳」は「特にない」が60.8%で最も大きくなっており、「交流パーティ」、「街コン」、「グループトーク」、「クッキング」などは、他年代より大きくなっている。

問21. あなたは結婚活動(出会いのためのイベント参加費やお相手とお出掛けや食事代など)のために月にいくらかいけることができますか。(1つ)

・結婚活動費



全体では、「お金はかけたくない」の割合が40.4%で最も大きく、次いで「5,001円～10,000円」24.2%、「5,000円以内」17.1%、「10,001円～30,000円」15.9%となっている。

【男女別】

「お金はかけたくない」の割合は、男性34.5%、女性44.0%、「5,000円以内」は男性8.3%、女性23.2%で、女性の方が男性よりも大きく(それぞれ9.5ポイント、14.9ポイント)なっている。

「5,001円～10,000円」は、男性25.8%、女性23.5%、「10,001円～30,000円」は男性26.6%、女性8.7%で男性の方が女性より大きく(それぞれ2.3ポイント、17.9ポイント)なっている。

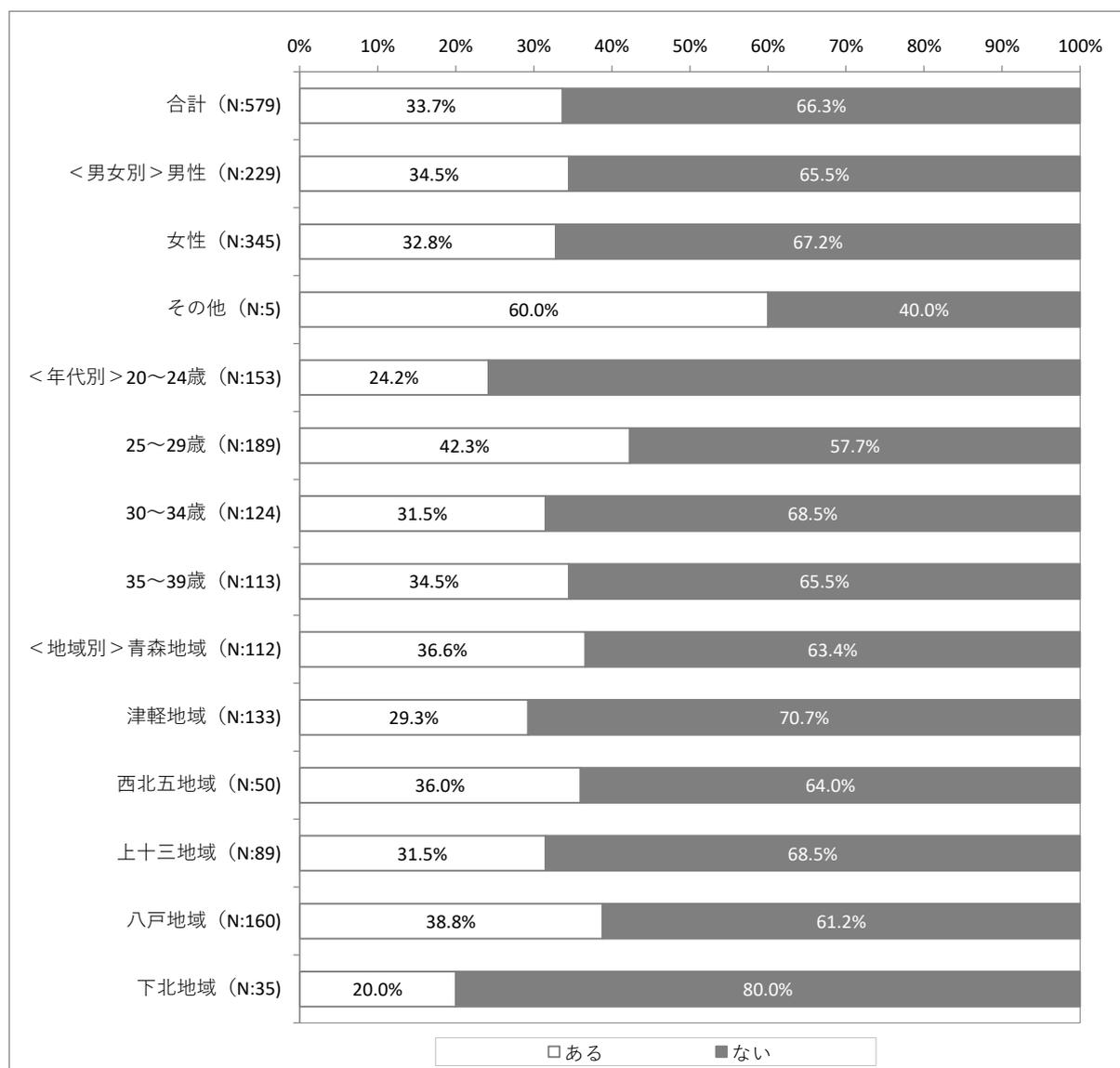
【年代別】

「お金はかけたくない」は「35～39歳」の割合(45.1%)が最も大きくなっている。「5,001円～10,000円」の割合は、年代が下がるにつれ大きくなっており、「20～24歳」が30.1%で最も大きく、「35～39歳」が17.7%と最も小さくなっている。

「5,000円以内」は「25～29歳」で22.2%、「10,001円～30,000円」は「30～34歳」で17.7%と、それぞれ最も大きくなっている。

問22. あなたはマッチングシステムやマッチングアプリを利用したことがありますか。(1つ)

・ マッチングシステムやマッチングアプリの利用状況



全体では、「ある」が33.7%、「ない」が66.3%となっている。

【男女別】

「ある」の割合が男性34.5%、女性32.8%と男性の方が大きくなっている。「ない」の割合は、男性65.5%、女性67.2%となっている。

【年代別】

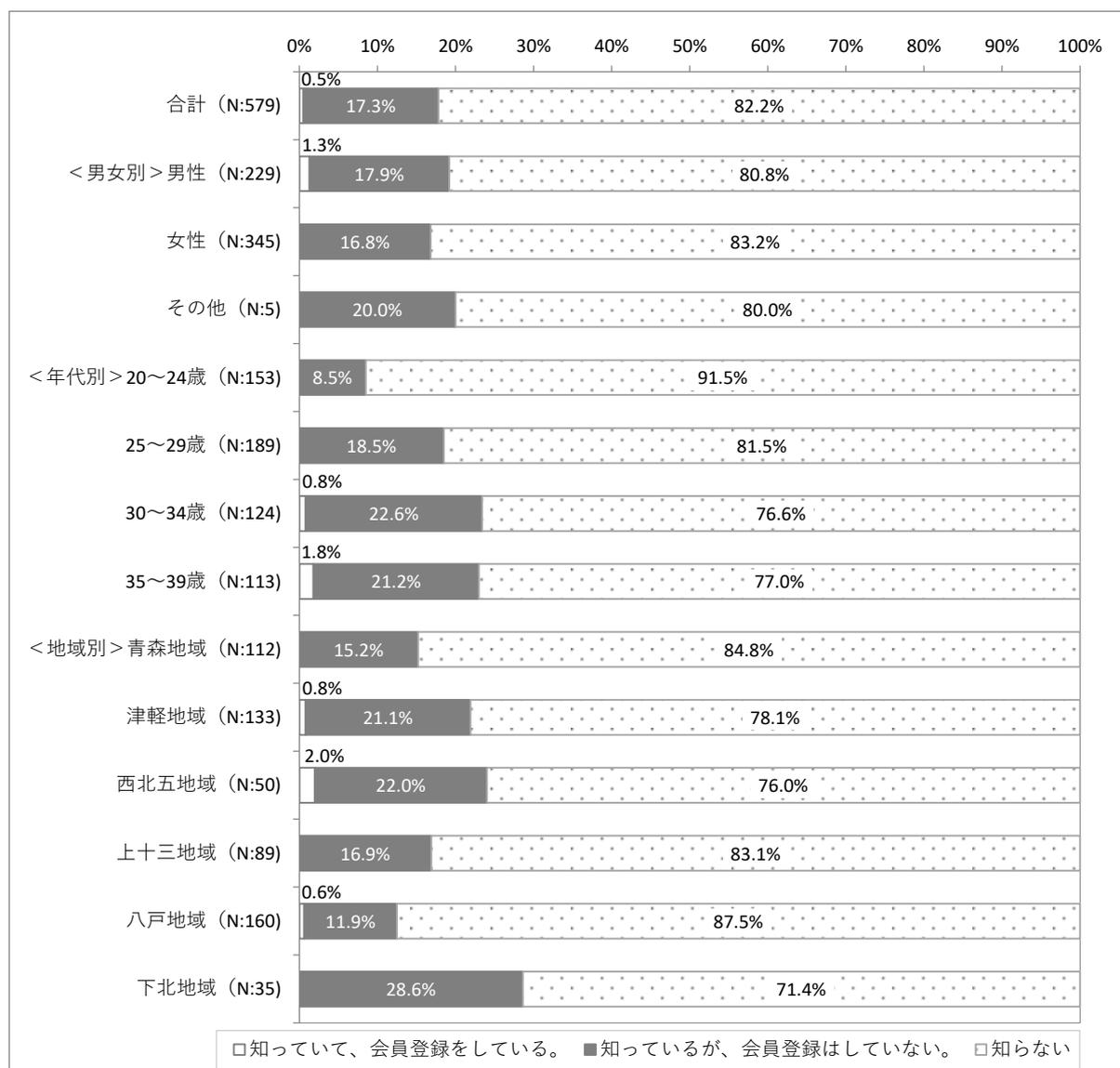
「25～29歳」では、「ある」が42.3%と最も大きく、次いで「35～39歳」は34.5%、「30～34歳」は31.5%、「20～24歳」は24.2%となっている。

【地域別】

「ある」の割合は「八戸地域」が 38.8%と最も大きくなっており、次いで「青森地域」36.6%、「西北五地域」36.0%、「上十三地域」31.5%、「津軽地域」29.3%、「下北地域」20.0%となっている。

問23. あなたは「あおり出会いサポートセンター」を知っていますか。(1つ)

・「あおり出会いサポートセンター」の認知度



全体では、「知らない」の割合が82.2%、「知っているが、会員登録はしていない。」が17.3%、「知っている、会員登録をしている。」が0.5%となっている。

【男女別】

「知らない」は男性が80.8%、女性が83.2%で女性が大きく、「知っているが、会員登録はしていない。」は男性が17.9%、女性が16.8%、「知っている、会員登録をしている。」は男性が1.3%、女性が0%となっている。

【年代別】

「知らない」は「20～24歳」の割合（91.5%）が最も大きくなっている。「知っているが、会員登録はしていない。」は、「30～34歳」が22.6%で最も大きく、「20～24歳」が8.5%と最も小さい。「知っている、会員登録をしている。」は、最も大きい「35～39歳」で1.8%となっている。

【地域別】

「知らない」の割合は、「八戸地域」が87.5%と最も大きくなっており、次いで「青森地域」84.8%、「上十三地域」83.1%となっている。「知っているが、会員登録はしていない。」は、「下北地域」28.6%、「西北五地域」22.0%、「津軽地域」21.1%となっている。

問24.「あおもり出会いサポートセンター」を知っているが、会員登録していない方にお聞きします。
なぜ登録していないのか教えてください。(1つ)

・「あおもり出会いサポートセンター」に登録していない理由



全体では、「サポートセンターの事業やサービス内容を詳しく知らない」の割合が、27.0%で最も大きく、次いで「積極的な結婚活動をすることに抵抗がある」が23.0%、「サポートセンターを利用せずに異性と出会いたい」が22.0%、「利用したいサービスがない」が17.0%、「登録手続きをする時間が取れない」が11.0%となっている。

【男女別】

「利用したいサービスがない」は男性 7.3%、女性 24.2%、「積極的な結婚活動をすることに抵抗がある」は男性 17.1%、女性 27.6%で、女性がそれぞれ 16.9 ポイント、10.5 ポイント大きくなっている。「登録手続きをする時間が取れない」は男性 17.1%、女性 6.9%、「サポートセンターを利用せずに異性と出会いたい」は男性 26.8%、女性 17.2%で男性がそれぞれ 10.2 ポイント、9.2 ポイント大きく、「サポートセンターの事業やサービス内容を詳しく知らない」は男性 31.7%、女性 24.1%となっている。

【年代別】

「25～29 歳」では、「サポートセンターの事業やサービス内容を詳しく知らない」の割合 (40.0%) が他の年代より大きくなっている。「30～34 歳」では、「積極的な結婚活動をすることに抵抗がある」 (28.6%)、「利用したいサービスがない」 (28.5%) の割合が大きくなっている。「35～39 歳」では、「利用したいサービスがない」の割合 (8.3%) は他の年代より小さくなっており、「積極的な結婚活動をすることに抵抗がある」、「サポートセンターを利用せずに異性と出会いたい」、「登録手続きをする時間が取れない」の割合は、それぞれ 25.0%となっている。

【地域別】

「サポートセンターの事業やサービス内容を詳しく知らない」は、「西北五地域」 54.5%、「青森地域」 41.3%が他の地域に比べて大きくなっている。「積極的な結婚活動をすることに抵抗がある」は、「津軽地域」 28.5%、「上十三地域」 26.7%となっている。「サポートセンターを利用せずに異性と出会いたい」は、「下北地域」 30.0%、「西北五地域」 27.3%、「利用したいサービスがない」は、「下北地域」 30.0%、「青森地域」 23.5%となっている。

問25. あなたは県が運営するマッチングシステム「AI であう」を知っていますか。(1つ)

・「AI であう」について



全体では、「知らない」の割合が、86.6%で最も大きく、次いで「知っているが、会員登録はしていない。」が13.1%、「知っている、会員登録をしている。」が0.3%となっている。

【男女別】

「知らない」は男性 84.8%、女性 87.5%、「知っているが、会員登録はしていない。」は男性 14.8%、女性 12.2%、「知っていて、会員登録をしている。」は男性 0.4%、女性 0.3%となっている。

【年代別】

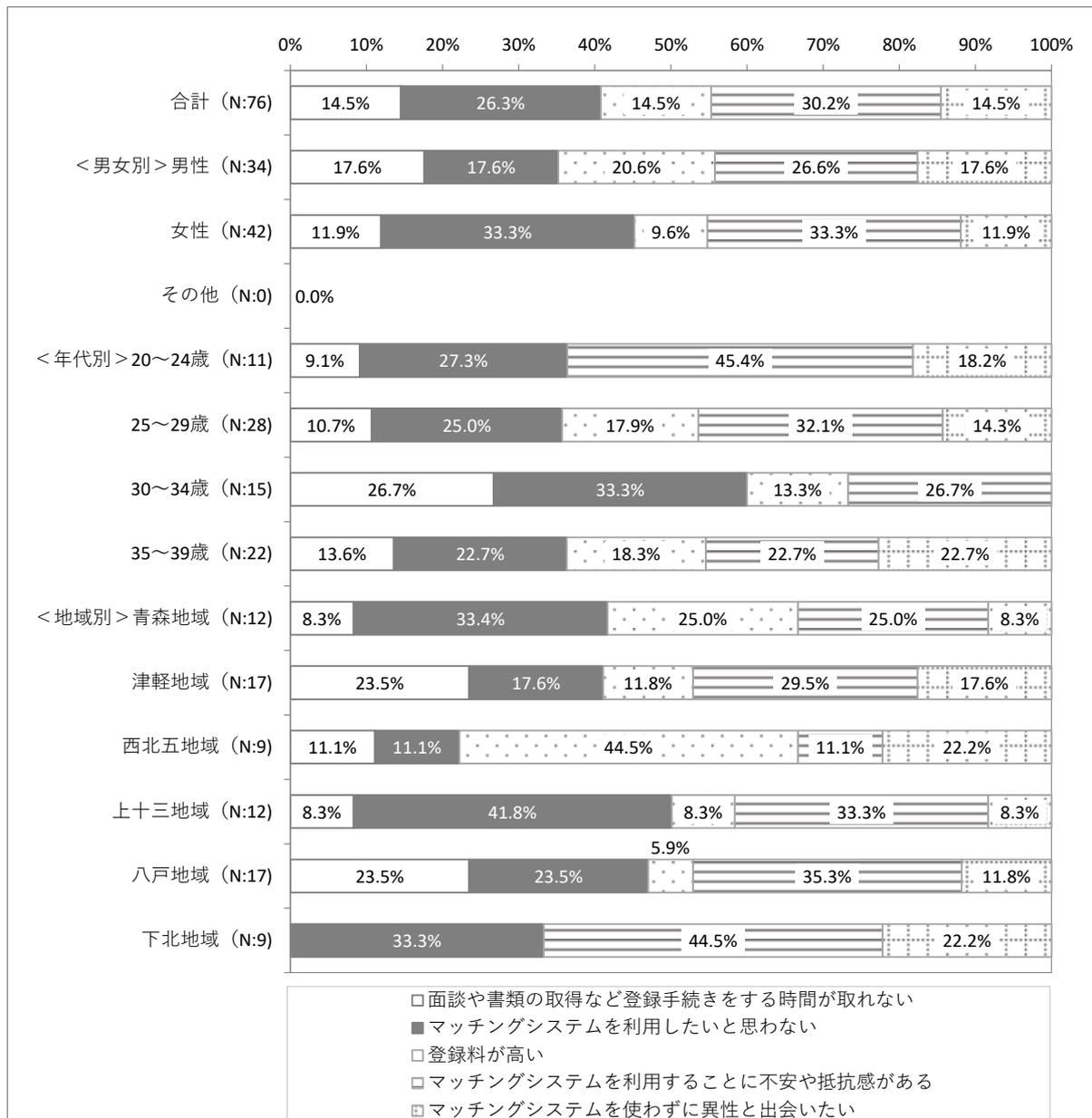
「20～24 歳」では、「知らない」の割合（92.8%）が他の年代より大きくなっている。「知っているが、会員登録はしていない。」の割合は、「35～39 歳」（19.5%）が最も大きく、「20～24 歳」（7.2%）が最も小さくなっている。

【地域別】

「知らない」の割合は、「八戸地域」88.8%、「青森地域」88.4%が大きくなっている。「知っていて、会員登録をしている。」は、「青森地域」0.9%、「八戸地域」0.6%となっている。「知っているが、会員登録はしていない。」は、「下北地域」25.7%、「西北五地域」18.0%となっている。

問26. 「AI であう」を知っているが、登録はしていない方にお聞きします。
なぜ登録していないのか教えてください。(1つ)

・「AI であう」に登録していない理由



全体では、「マッチングシステムを利用することに不安や抵抗感がある」の割合が、30.2%で最も大きく、次いで「マッチングシステムを利用したいと思わない」が26.3%、「面談や書類の取得など登録手続きをする時間が取れない」、「登録料が高い」、「マッチングシステムを使わずに異性と出会いたい」がそれぞれ14.5%となっている。

【男女別】

「マッチングシステムを利用することに不安や抵抗感がある」は男性 26.6%、女性 33.3%、「マッチングシステムを利用したいと思わない」は男性 17.6%、女性 33.3%となっており、女性がそれぞれ 6.7 ポイント、15.7 ポイント多くなっている。「登録料が高い」は男性 20.6%、女性 9.6%で男性が 11 ポイント多くなっている。

「面談や書類の取得など登録手続きをする時間が取れない」、「マッチングシステムを使わずに異性と出会いたい」は、どちらも男性 17.6%、女性 11.9%となっている。

【年代別】

「20～24 歳」では、「マッチングシステムを利用することに不安や抵抗感がある」の割合 (45.4%) が他の年代より大きくなっており、「登録料が高い」の割合は 0%となっている。「マッチングシステムを利用したいと思わない」は「30～34 歳」の割合 (33.3%) が最も大きくなっている。

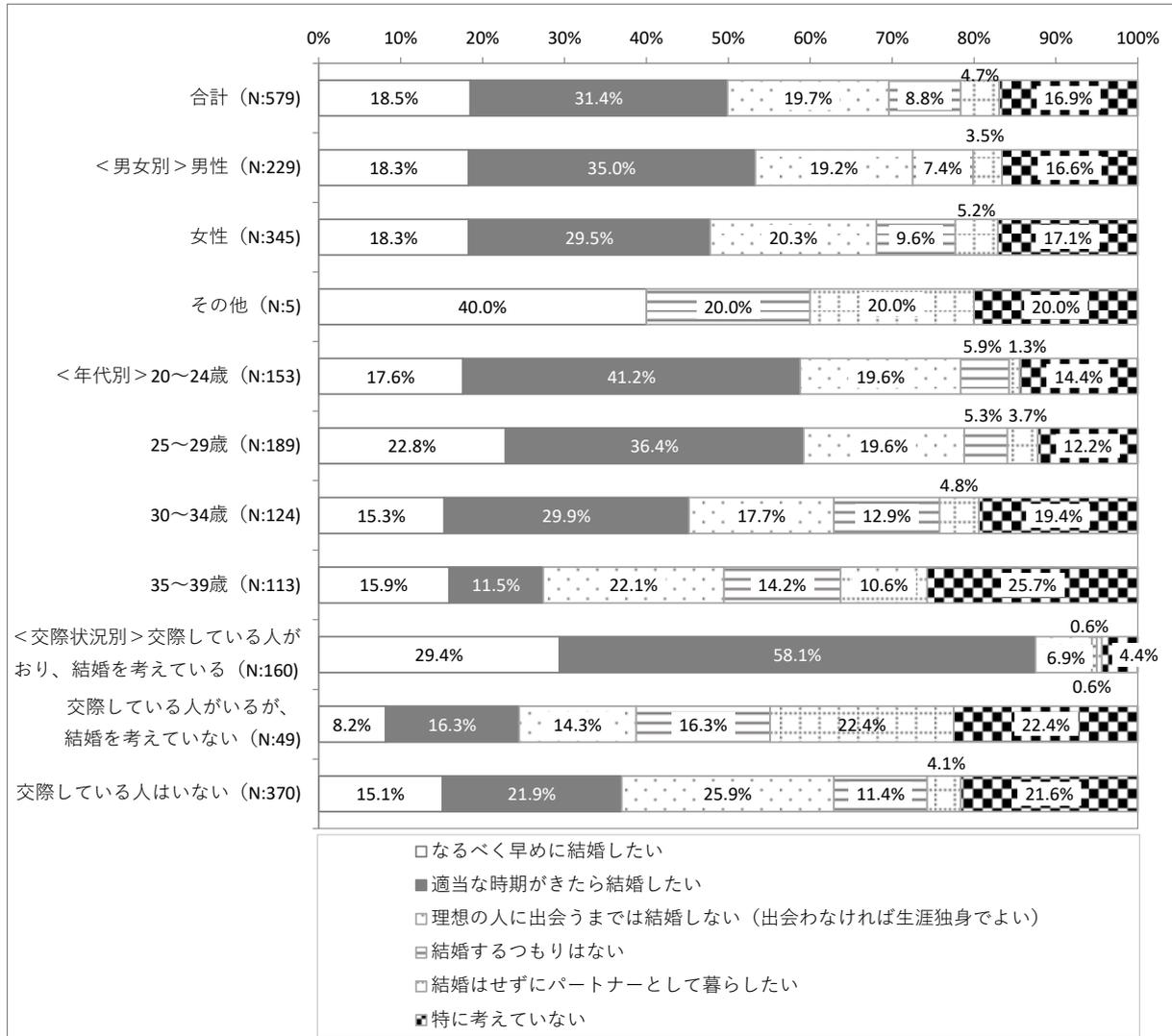
【地域別】

「マッチングシステムを利用することに不安や抵抗感がある」の割合は、「下北地域」44.5%、「八戸地域」35.3%が大きくなっている。「マッチングシステムを利用したいと思わない」は、「上十三地域」41.8%となっている。「登録料が高い」は、「西北五地域」44.5%が他地域より大きくなっている。

結婚に関する意識

問27. あなたの結婚に対する希望を教えてください。(1つ)

・結婚に対する希望



全体では、「適当な時期がきたら結婚したい」の割合が31.4%と最も大きく、次いで「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」19.7%、「なるべく早めに結婚したい」18.5%、「特に考えていない」16.9%となっている。

前回調査に比べて「特に考えていない」が10.6ポイント減少、「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」が6.2ポイント増加している。

【男女別】

「適当な時期がきたら結婚したい」は男性（35.0%）が女性（29.5%）より 5.5 ポイント大きくなっている。

【年代別】

「なるべく早めに結婚したい」は、「25～29 歳」が 22.8%で最も大きく、「30～34 歳」が 15.3%で最も小さくなっている。「適当な時期がきたら結婚したい」の割合は、年代が下がるにつれ大きくなっており、「20～24 歳」が 41.2%で最も大きく、「35～39 歳」が 11.5%と最も大きくなっている。「結婚はせずにパートナーとして暮らしたい」の割合は、年代が上がるにつれ大きくなっており、「35～39 歳」の割合（10.6%）が最も大きくなっている。

「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」は、「35～39 歳」が 22.1%と最も大きくなっているが、「20～24 歳」、「25～29 歳」が 19.6%、「30～34 歳」が 17.7%となっている。

【交際状況別】

「交際している人はいない」と回答した者では、「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」の割合が 25.9%と最も大きい、「なるべく早めに結婚したい」は 15.1%、「適当な時期がきたら結婚したい」は 21.9%となっている。

問28. 結婚したいと思っている方にお聞きします。

あなたは何歳くらいのときに何歳くらいの人と結婚したいと思っていますか。

・結婚希望年齢

	なるべく早めに結婚したい	適当な時期がきたら結婚したい	理想の人に出会うまでは結婚しない (出会わなければ生涯独身でよい)
男性	32.7歳	30.6歳	34.5歳
女性	28.4歳	30.0歳	32.0歳
その他	39.0歳	-	-
20～24歳	24.6歳	27.0歳	28.6歳
25～29歳	28.6歳	29.6歳	31.1歳
30～34歳	33.9歳	34.4歳	36.2歳
35～39歳	38.7歳	38.2歳	38.2歳
平均	30.3歳	30.3歳	33.0歳

「なるべく早めに結婚したい」を選択した場合の結婚希望平均年齢は、全体では30.3歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて結婚希望年齢も上がっており、「35～39歳」で38.7歳となっている。

「適当な時期がきたら結婚したい」を選択した場合の結婚希望平均年齢は、「なるべく早めに結婚したい」と同じ30.3歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて希望年齢も上がっており、「35～39歳」で38.2歳となっている。男女別では男性が30.6歳、女性が30.0歳となっている。

「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」を選択した場合の結婚希望平均年齢は、全体では33.0歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて結婚希望年齢も上がっており、「35～39歳」で38.2歳となっている。男女別では男性が34.5歳、女性が32.0歳となっている。

・結婚相手の年齢

	なるべく早めに結婚したい	適当な時期がきたら結婚したい	理想の人に出会うまでは結婚しない (出会わなければ生涯独身でよい)
男性	29.9歳	29.4歳	31.1歳
女性	29.4歳	30.8歳	33.0歳
その他	32.5歳	-	-
20～24歳	24.8歳	26.7歳	27.9歳
25～29歳	29.7歳	30.1歳	31.1歳
30～34歳	32.1歳	33.6歳	34.1歳
35～39歳	34.2歳	37.5歳	37.6歳
平均	29.6歳	30.2歳	32.3歳

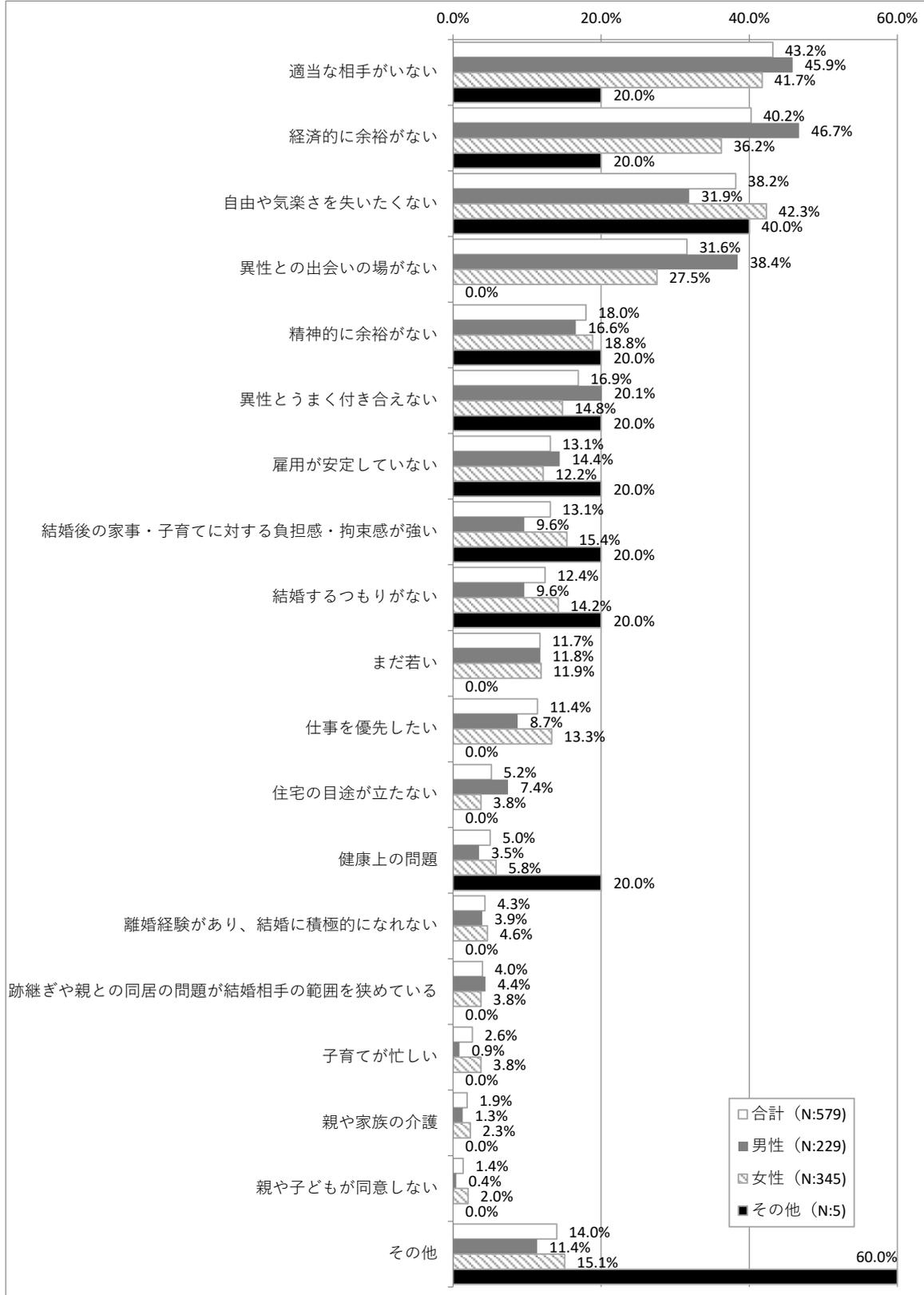
「なるべく早めに結婚したい」を選択した場合の結婚相手の平均年齢は、全体では29.6歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて結婚希望年齢も上がっており、「35～39歳」で34.2歳となっている。

「適当な時期がきたら結婚したい」を選択した場合の結婚相手の平均年齢は、全体では30.2歳となっており、「なるべく早めに結婚したい」より0.6歳平均年齢が高くなっている。年代別では、「なるべく早めに結婚したい」と同様で年代が上がるにつれて希望年齢も上がっており、「35～39歳」で37.5歳となっている。男女別では男性が29.4歳、女性が30.8歳となっている。

「理想の人に出会うまでは結婚しない（出会わなければ生涯独身でよい）」を選択した場合の結婚相手の平均年齢は、全体では32.3歳となっている。年代別では、年代が上がるにつれて結婚希望年齢も上がっており、「35～39歳」では37.6歳となっている。

問29. あなたが、現在、結婚されていない背景には、どのようなことがあると考えますか。
(5つまで)

・結婚していない背景（合計・男女別）



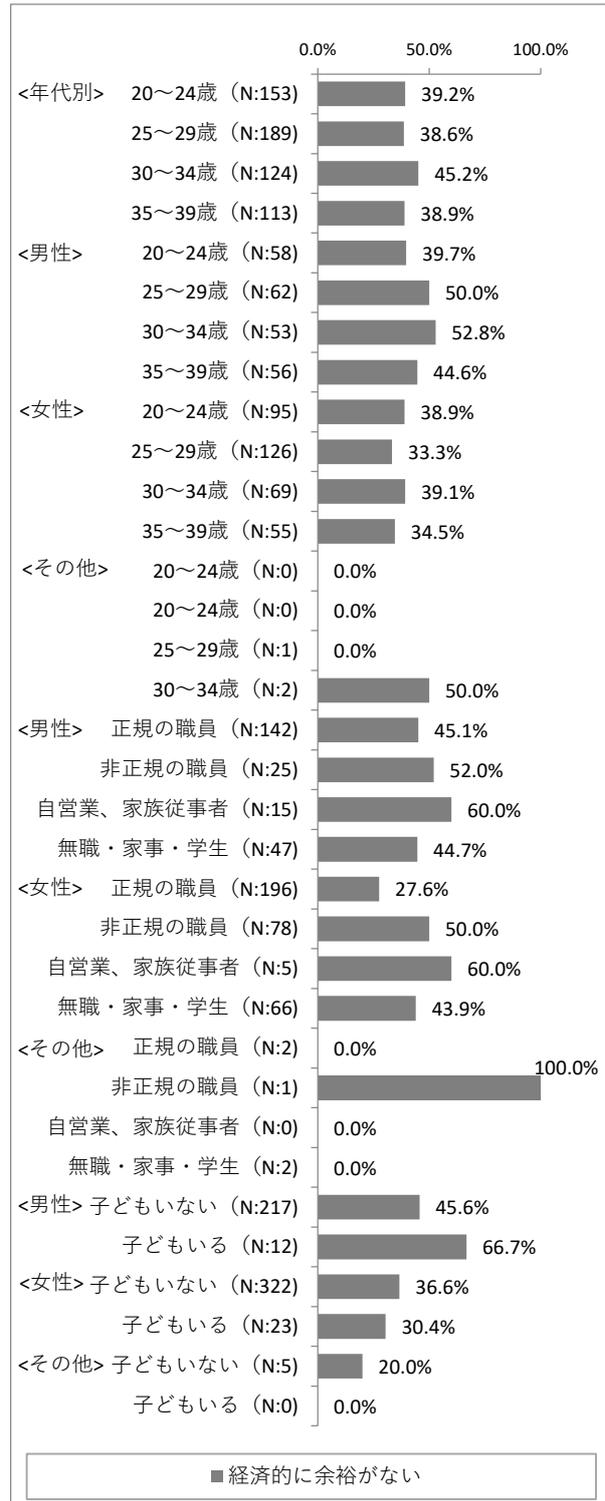
全体では、「適当な相手がいない」の割合が 43.2%で最も大きく、次いで「経済的に余裕がない」が 40.2%、「自由や気楽さを失いたくない」が 38.2%、「異性との出会いの場がない」が 31.6%、「精神的に余裕がない」が 18.0%となっている。

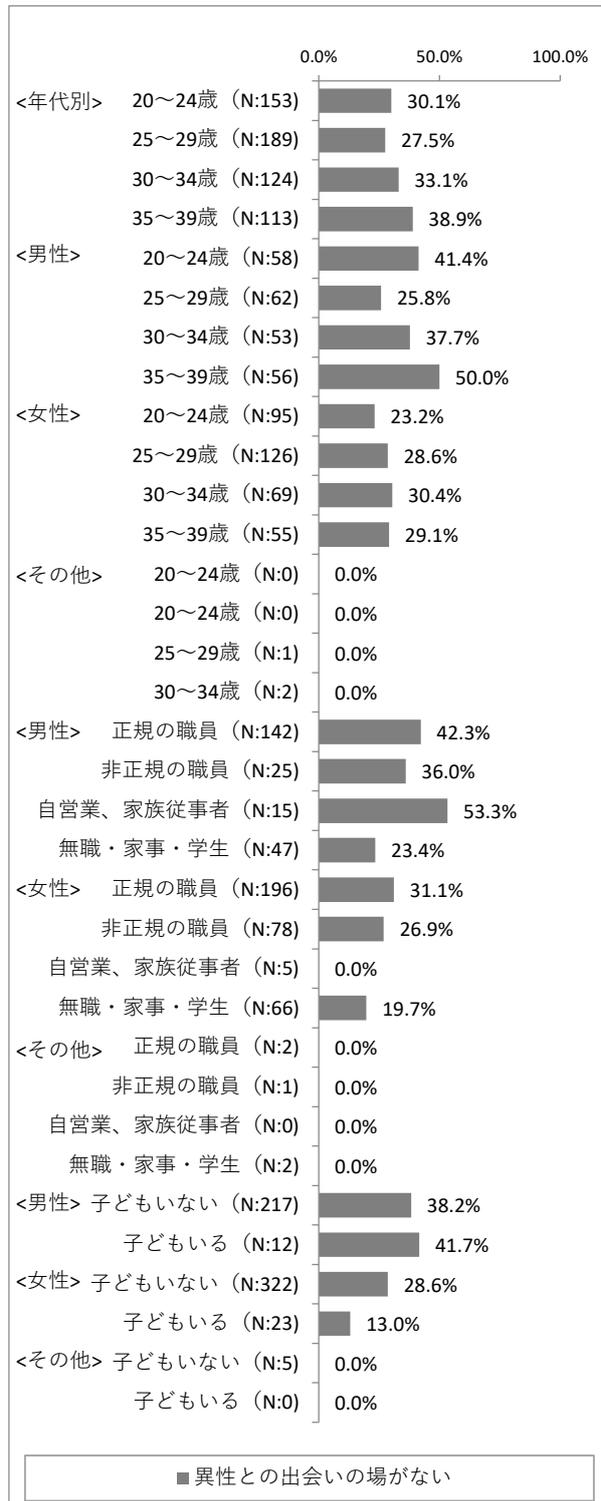
前回調査と比べて、「経済的に余裕がない（前回 31.3%）」が 8.9 ポイント、「自由や気楽さを失いたくない（前回 28.8%）」が 9.4 ポイント増加している。

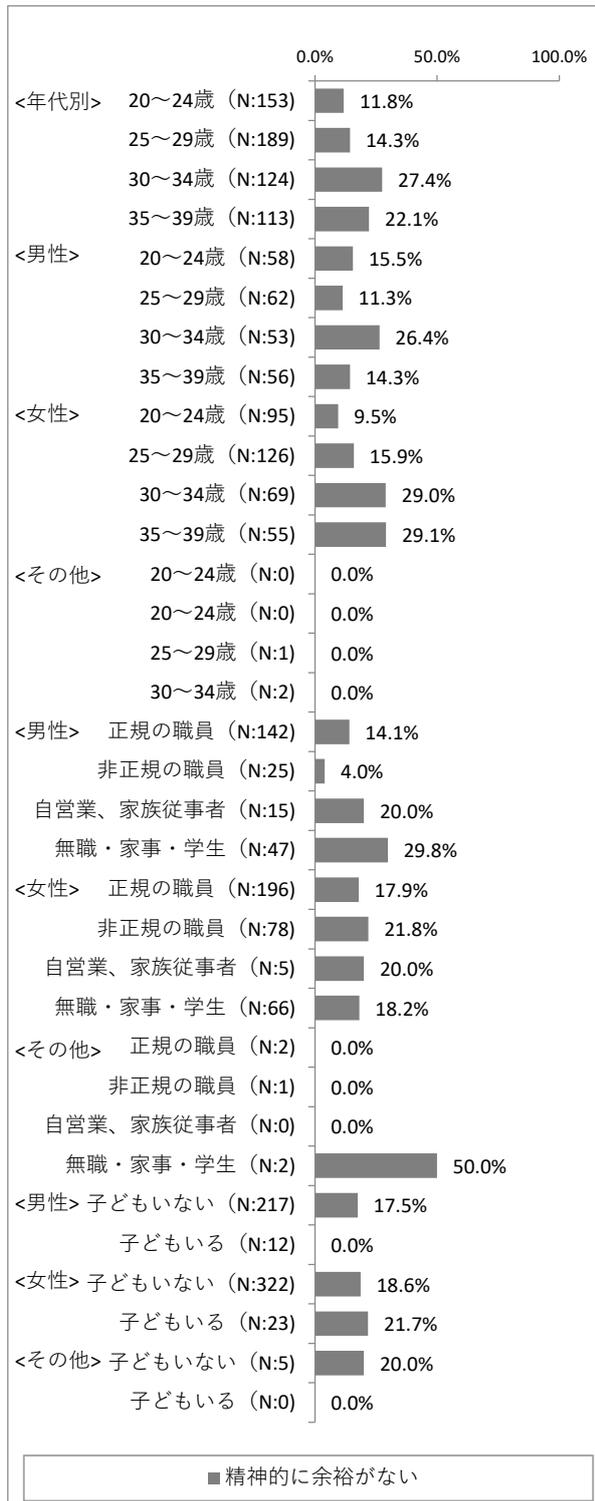
【男女別】

「経済的に余裕がない」（男性 46.7%、女性 36.2%）、「異性との出会いの場がない」（男性 38.4%、女性 27.5%）などは、男性の方が女性より、それぞれ 10.5 ポイント、10.9 ポイント大きいですが、「自由や気楽さを失いたくない」（男性 31.9%、女性 42.3%）は、女性の方が男性より、10.4 ポイント大きくなっている。

・結婚していない背景（年代別・男女別年代別・男女別就労状況別・男女別家族状況別）



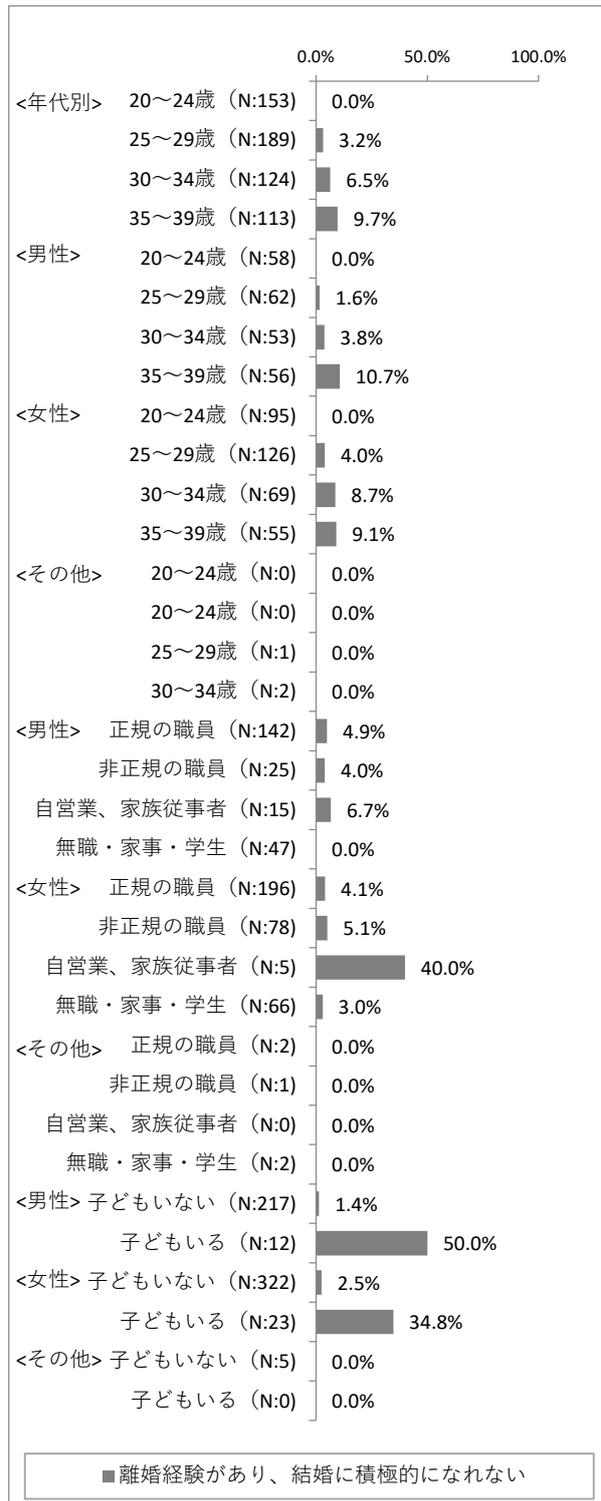
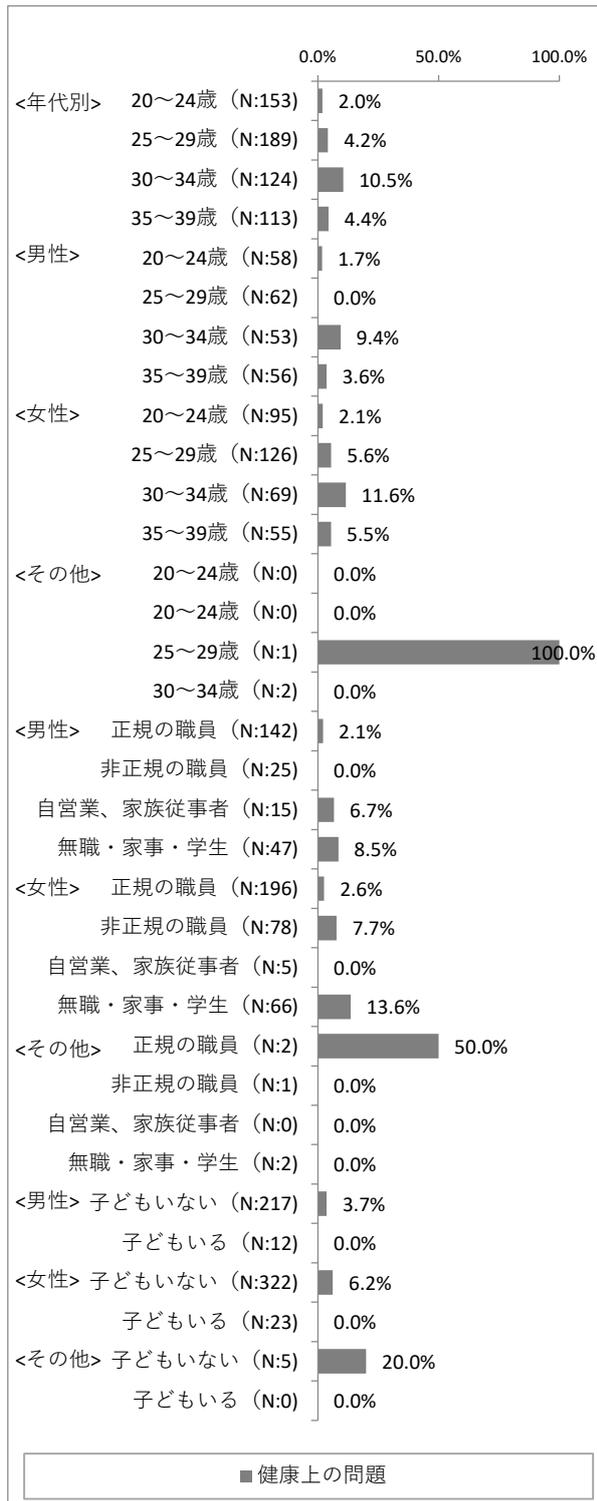






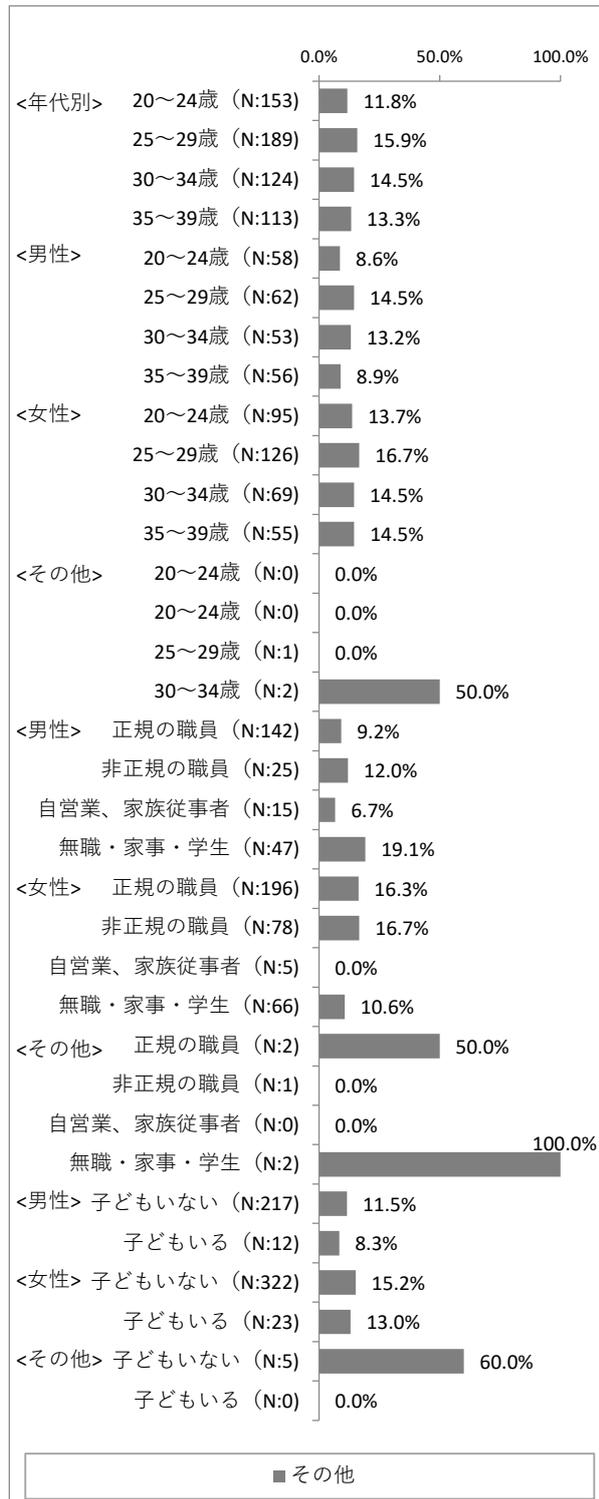












【年代別】

「適当な相手がない」は、「35～39歳」50.4%、「30～34歳」49.2%、「経済的に余裕がない」は、「30～34歳」45.2%、「自由や気楽さを失いたくない」が、「30～34歳」45.2%、「35～39歳」45.1%、「異性との出会いの場がない」が、「35～39歳」38.9%となっており、30歳代の割合が大きくなっている。

「まだ若い」は、「20～24歳」34.0%と「25～29歳」7.9%で、26.1ポイントの差がある。

【男女別年代別】

男性は、「経済的に余裕がない」が、「30～34歳」で52.8%と最も大きくなっており、「20～24歳」(39.7%)の割合とは、13.1ポイントの差がある。「適当な相手がない」は、「35～39歳」で55.4%と最も大きくなっている。「結婚後の家事・子育てに対する負担感・拘束感が強い」は、年代が上がるにつれて大きくなっており、「35～39歳」(17.9%)が、他年代より8ポイント以上大きくなっている。また、「まだ若い」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「20～24歳」が31.0%で最も大きくなっている。

女性は「自由や気楽さを失いたくない」が、年代が上がるにつれて大きくなっており、「35～39歳」で、54.5%と最も大きくなっている。「適当な相手がない」は、「30～34歳」で47.8%と最も大きい。「経済的に余裕がない」は、「20～24歳」が38.9%、「25～29歳」が33.3%、「30～34歳」が39.1%、「35～39歳」が34.5%となっている。

【男女別就労状況別】

男性は、「経済的に余裕がない」は、「自営業、家族従事者」が60.0%、「非正規の職員」が52.0%と大きく、「正規の職員」は45.1%で、前回調査に比べて8ポイント増加している。「雇用が安定していない」は、「非正規の職員」が40.0%、「無職・家事・学生」が21.3%となっており、「正規の職員」7.7%、「自営業、家族従事者」13.3%に比べ大きくなっている。「適当な相手がない」の割合は、「正規の職員」(50.7%)が他の就労状況より大きくなっている。

女性は、「経済的に余裕がない」は、「自営業、家族従事者」が60.0%、「非正規の職員」が50.0%、「正規の職員」が27.6%となっており、前回調査に比べて、「非正規の職員」は17.8ポイント、「正規の職員」は10.3ポイント増加している。「適当な相手がない」の割合は、男性と同様に「正規の職員」(43.9%)が他の就労状況より大きくなっている。

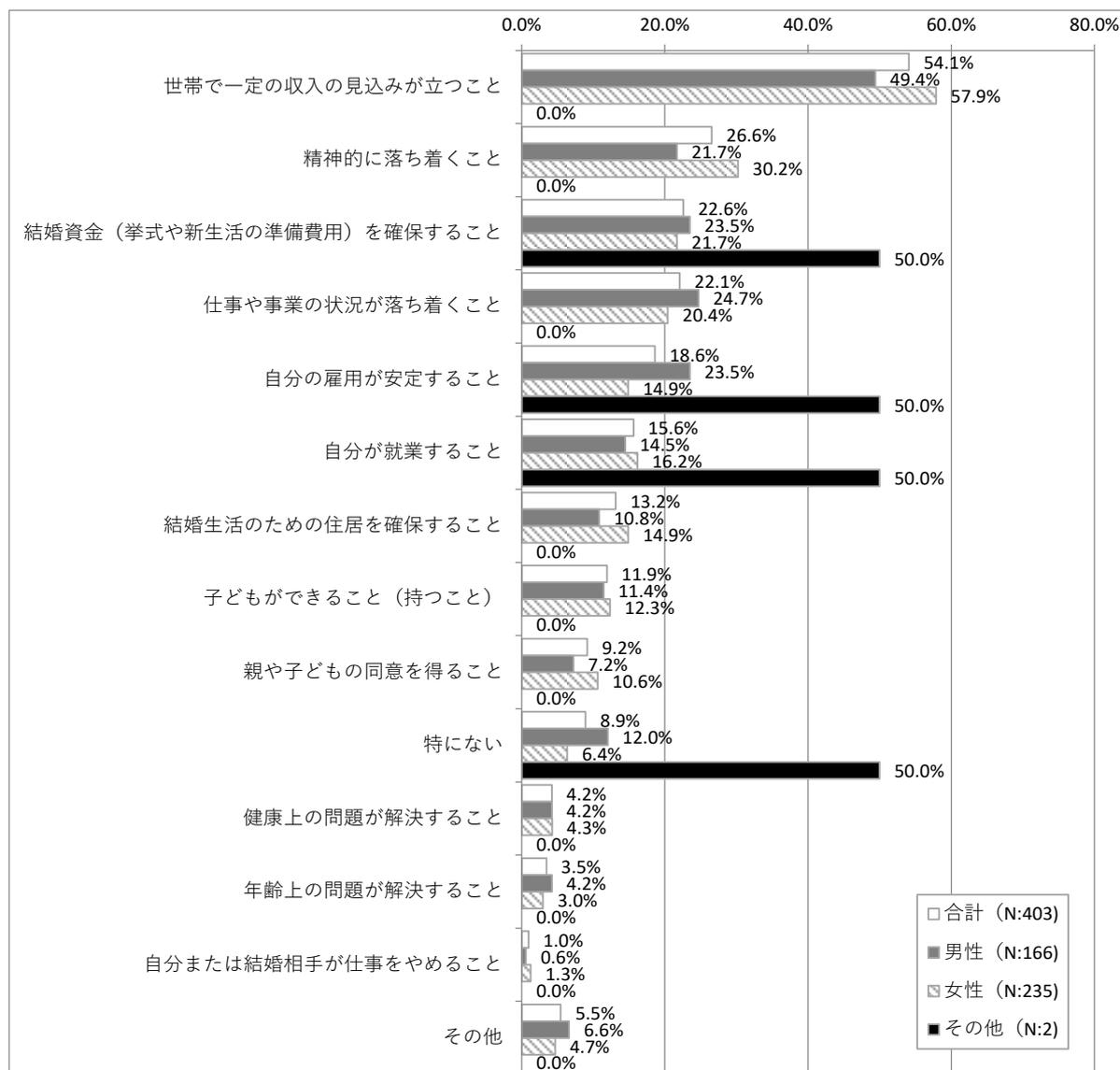
【男女別家族状況別】

男性は、「子どもがいる」では、「経済的に余裕がない」(66.7%)、「離婚経験があり、結婚に積極的になれない」(50.0%)、「適当な相手がない」(41.7%)、「異性との出会いの場がない」(41.7%)の割合が大きくなっている。

女性で「子どもがいる」では、「子育てが忙しい」(52.2%)、「自由や気楽さを失いたくない」(43.5%)、「離婚経験があり、結婚に積極的になれない」(34.8%)、「経済的に余裕がない」(30.4%)の割合が大きくなっている。

問30. 結婚したいと思っている方にお聞きします。あなたが結婚を考える際に、条件となることはありますか。結婚するために重要な条件であると思われるものを教えてください。(3つまで)

・結婚するための条件（合計・男女別）



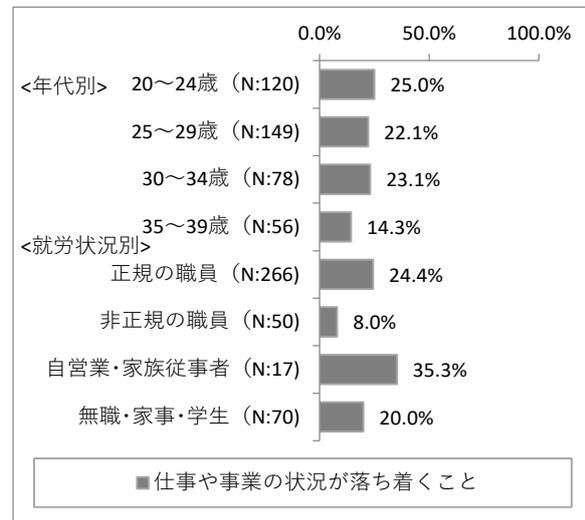
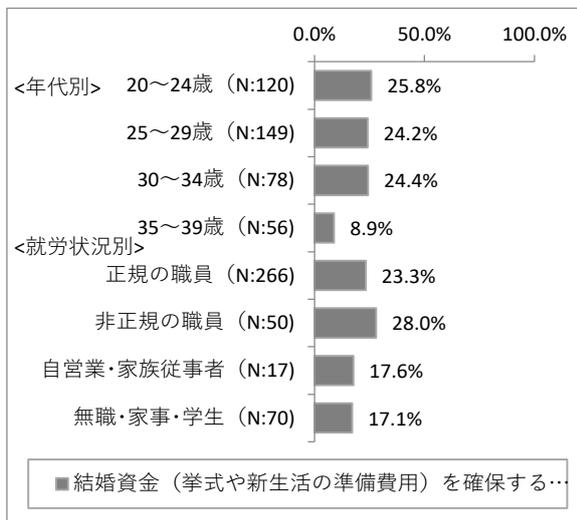
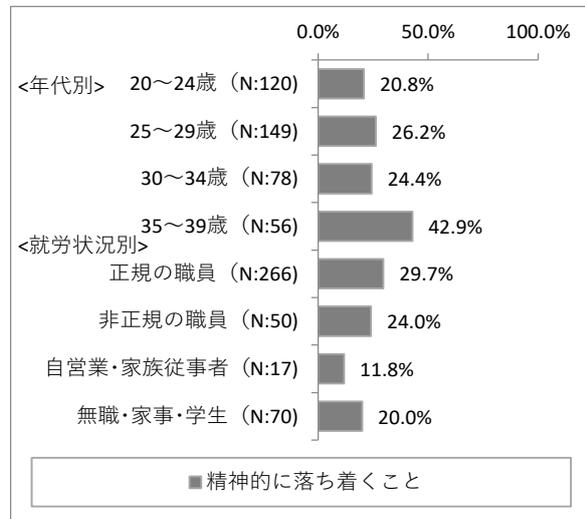
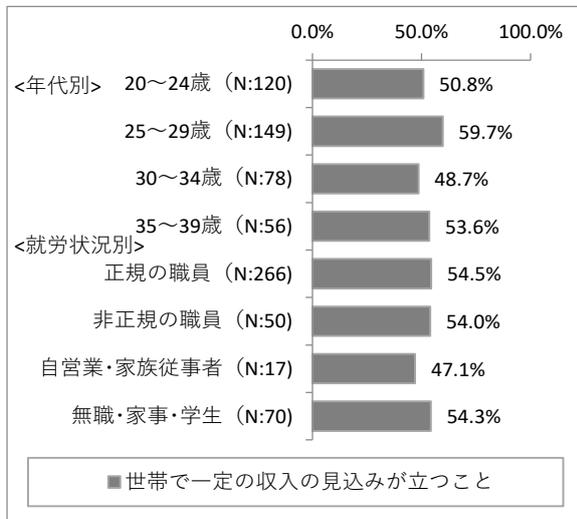
全体では、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」の割合が54.1%と最も大きく、次いで「精神的に落ち着くこと」26.6%、「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）を確保すること」22.6%、「仕事や事業の状況が落ち着くこと」22.1%となっている。

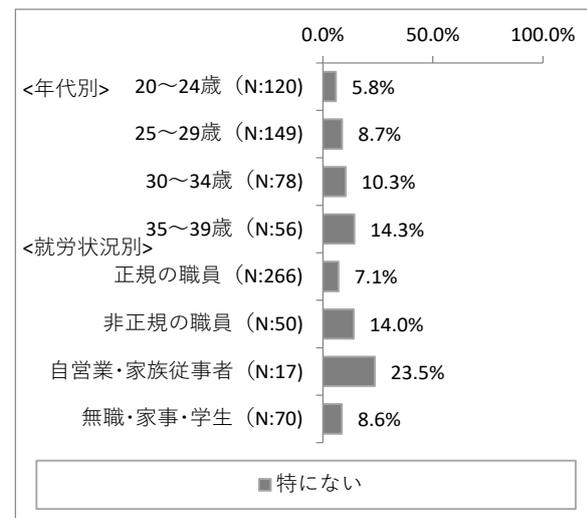
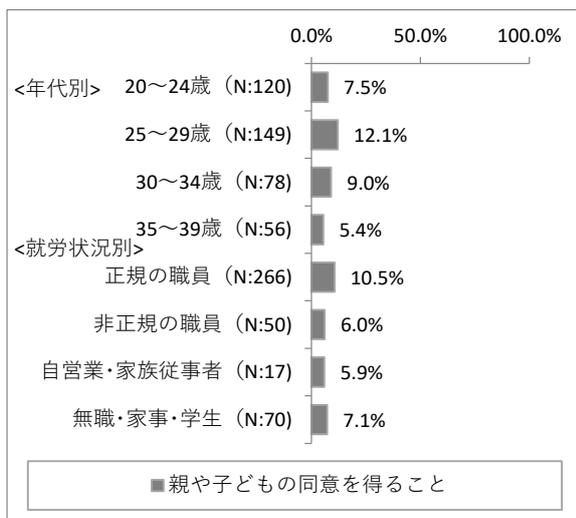
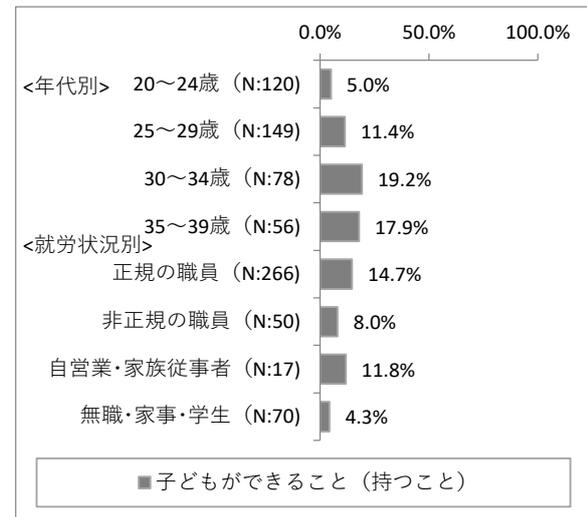
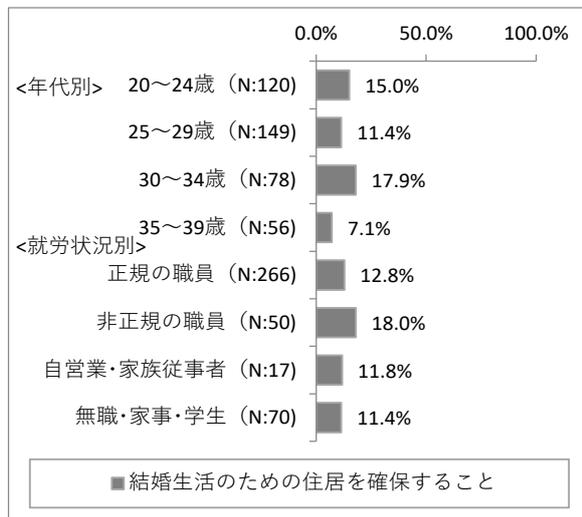
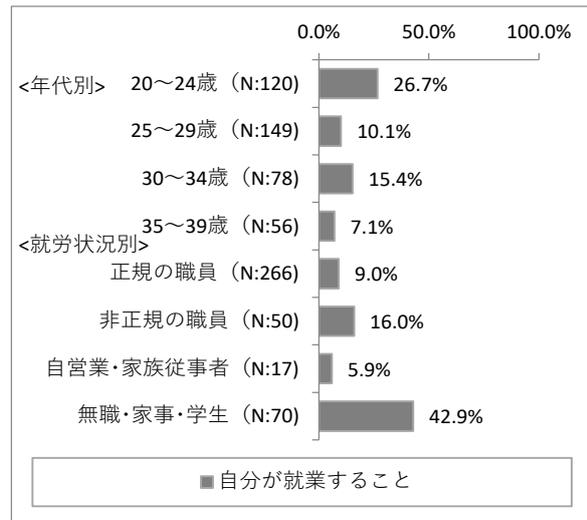
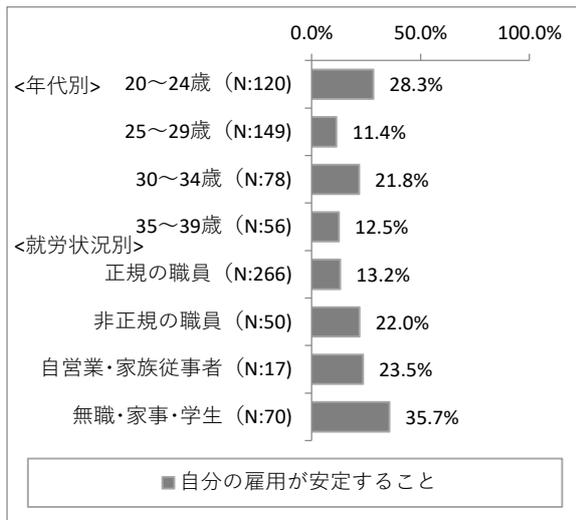
【男女別】

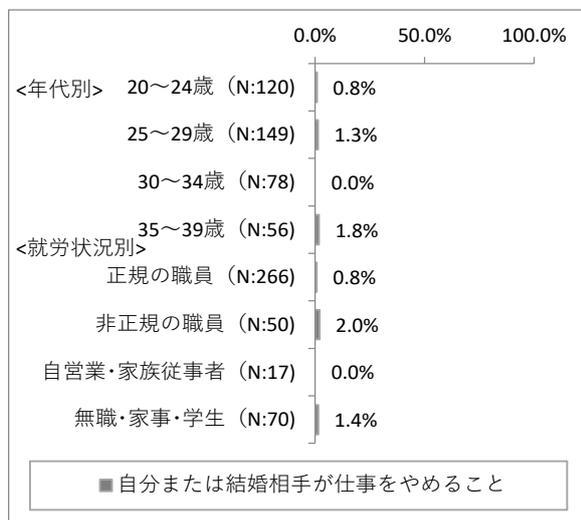
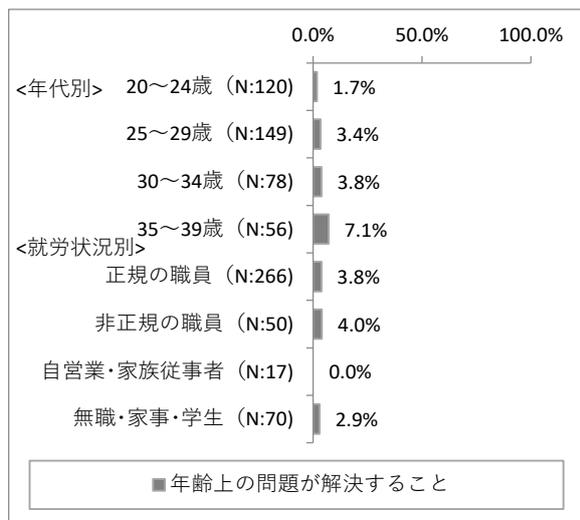
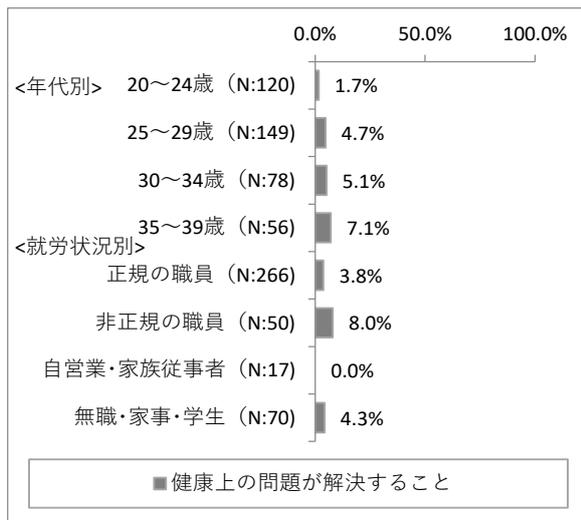
「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は男性が 49.4%、女性が 57.9%で女性の方が 8.5 ポイント、「精神的に落ち着くこと」は男性が 21.7%、女性 30.2%で女性の方が 8.5 ポイント大きくなっている。

「仕事や事業の状況が落ち着くこと」は、男性が 24.7%、女性が 20.4%で男性の方が 4.3 ポイント、「自分の雇用が安定すること」は、男性が 23.5%、女性が 14.9%で男性の方が 8.6 ポイント大きくなっている。

・結婚するための条件（年代別・就労状況別）







【年代別】

「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は、「25～29歳」の割合が59.7%で最も大きく、「精神的に落ち着くこと」は、「35～39歳」の割合が42.9%で最も大きい。

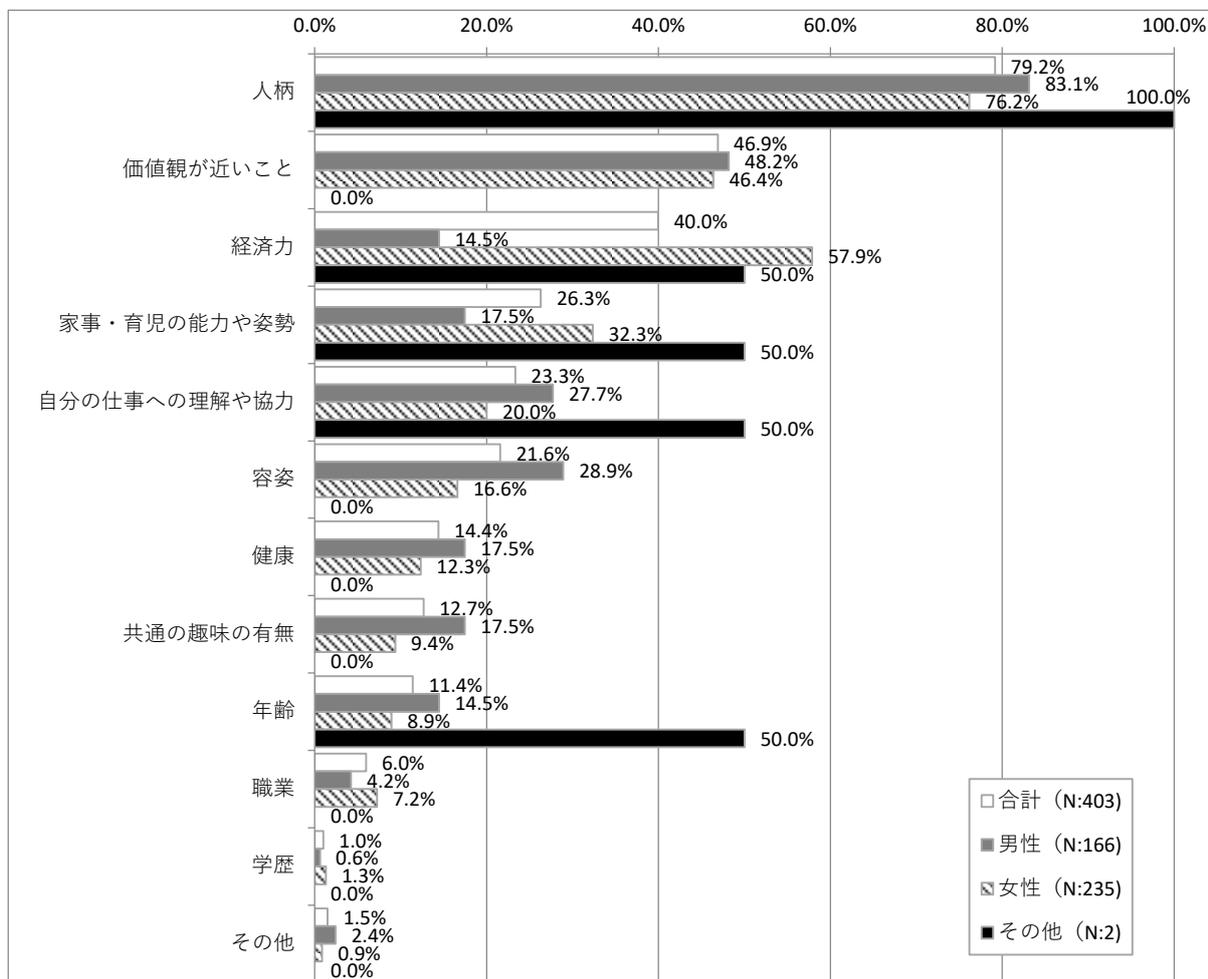
「20～24歳」の割合が最も多いのは、「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）を確保すること」25.8%、「仕事や事業の状況が落ち着くこと」25.0%、「自分の雇用が安定すること」28.3%、「自分が就業すること」26.7%となっている。

【就業状況別】

「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は、「正規の職員」が、54.5%、「非正規の職員」54.0%、「精神的に落ち着くこと」は、「正規の職員」が、29.7%、「非正規の職員」24.0%となっている。「仕事や事業の状況が落ち着くこと」は、「非正規の職員」が8.0%に対して他の就業状況では、「正規の職員」24.4%、「自営業、家族従事者」35.3%と大きくなっている。

問31. 結婚したいと思っている方にお聞きます。
結婚相手に求める条件をお答えください。(3つまで)

・結婚相手に求める条件（合計・男女別）



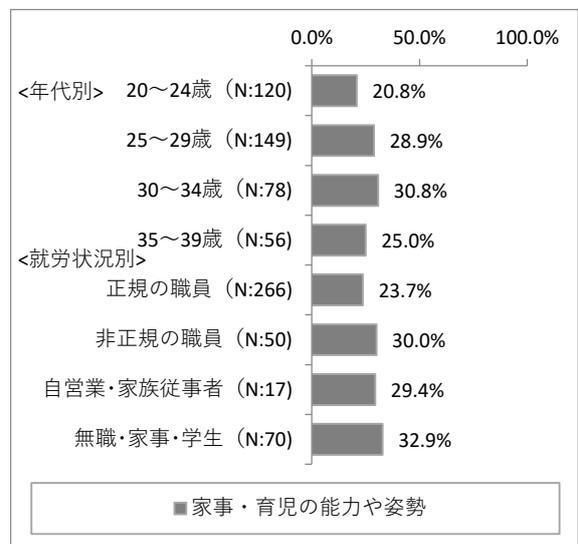
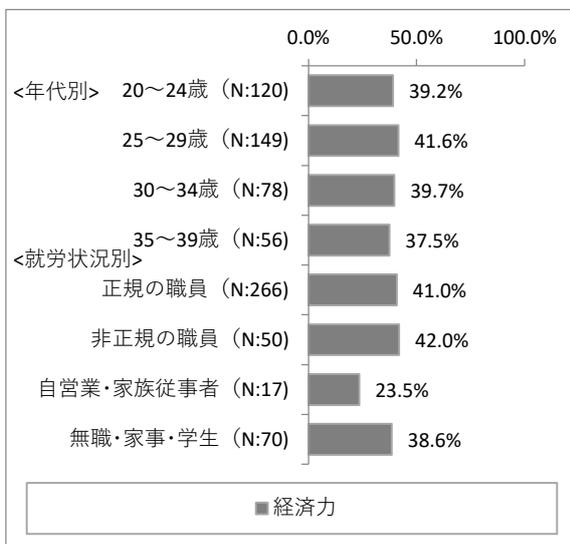
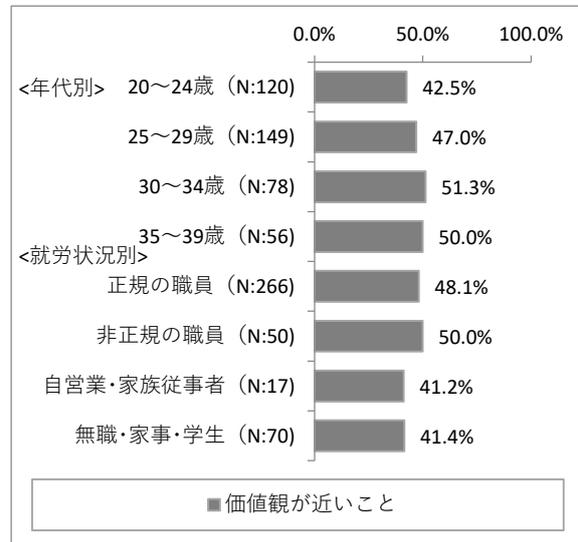
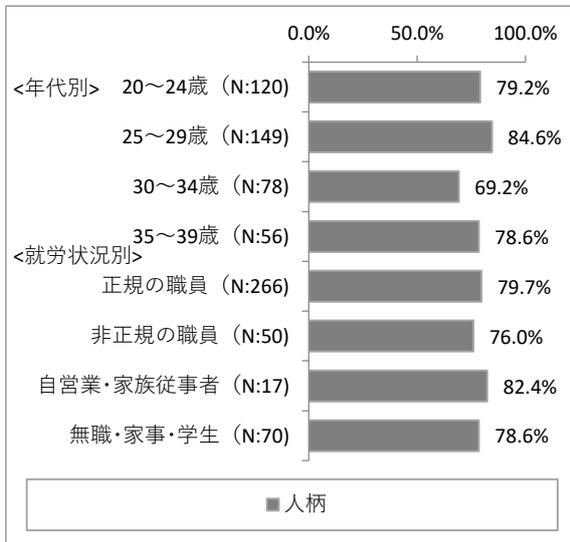
全体では、「人柄」の割合が79.2%と最も大きく、次いで「価値観が近いこと」46.9%、「経済力」40.0%、「家事・育児の能力や姿勢」26.3%、「自分の仕事への理解や協力」23.3%となっている。

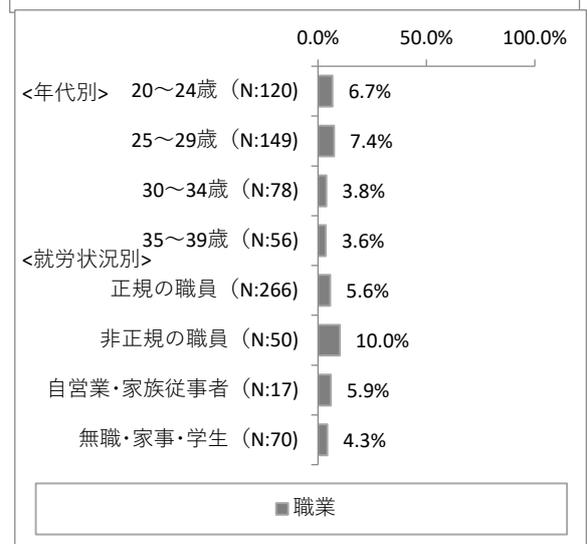
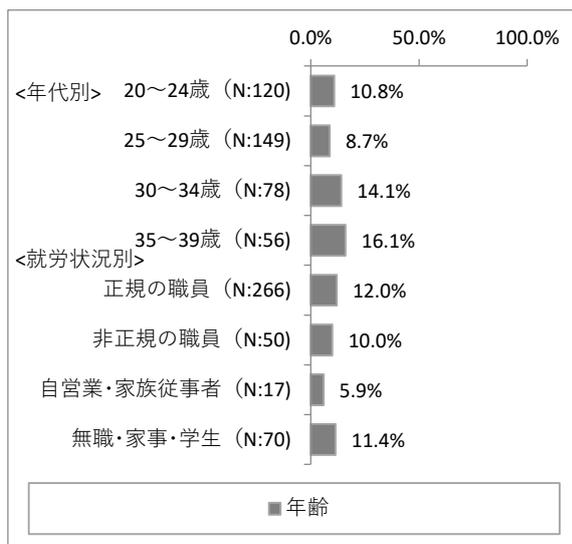
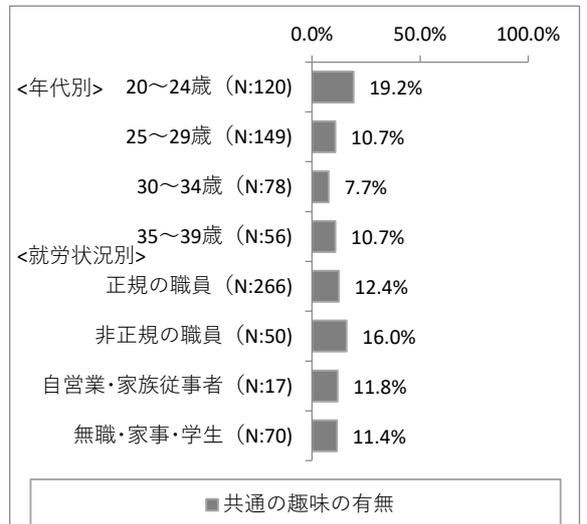
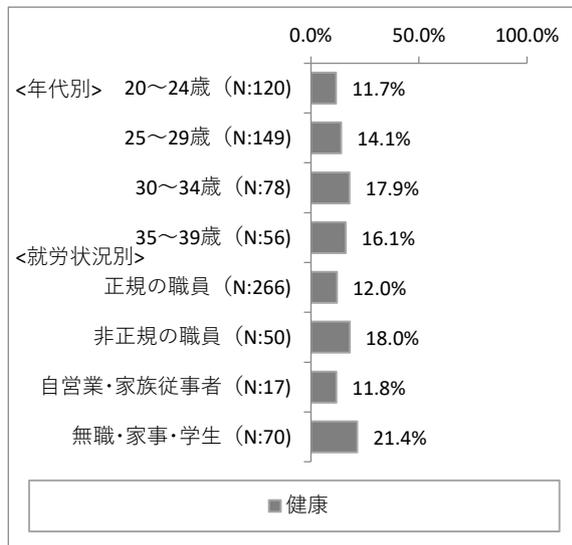
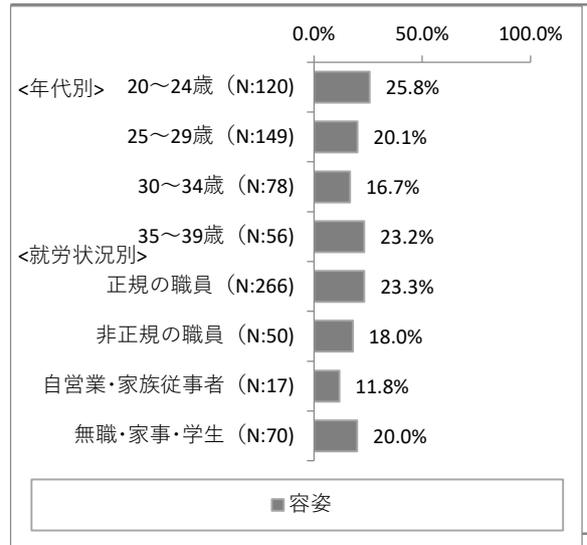
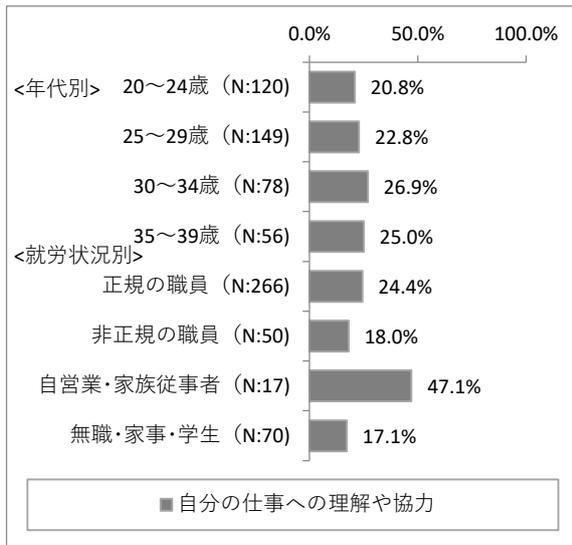
【男女別】

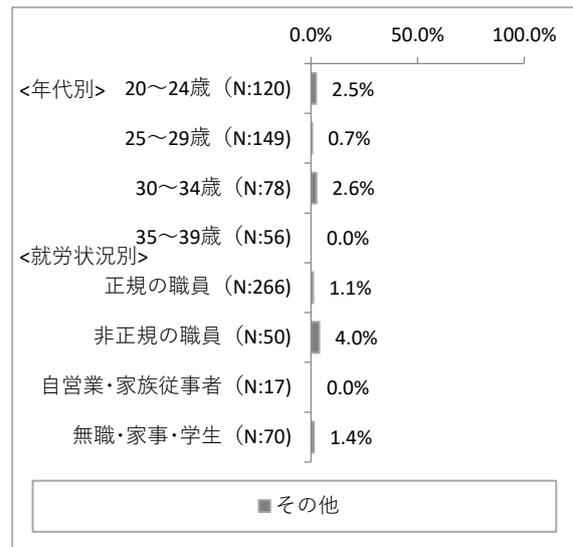
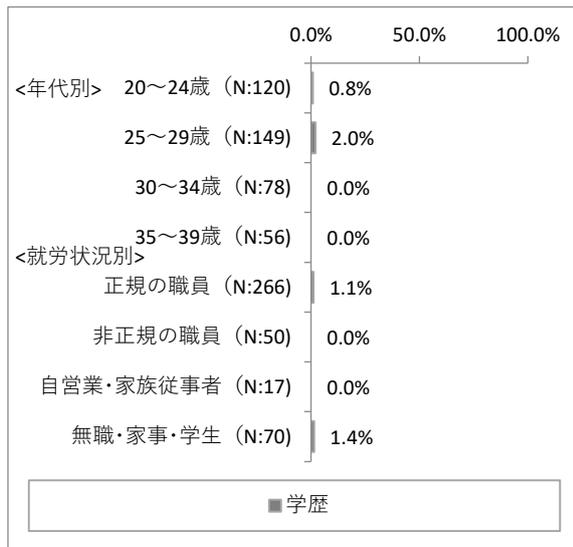
男性と女性では全体の順位と違いが見られる。男性は「人柄」83.1%が1位で順位は変わらないが、2位で「価値観が近いこと」48.2%、3位以降で「容姿」28.9%、「自分の仕事への理解や協力」27.7%となっている。対して、女性は「人柄」76.2%、「経済力」57.9%、「価値観が近いこと」46.4%、「家事・育児の能力や姿勢」32.3%となっている。

また、男性が女性より大きくなっている項目は、「容姿」（男性28.6%、女性16.6%）が12ポイント、「共通の趣味の有無」（男性17.5%、女性9.4%）が8.1ポイント、「自分の仕事への理解や協力」（男性27.7%、女性20.0%）が7.7ポイント、「人柄」（男性83.1%、女性76.2%）が6.9ポイントと差がある。一方で、女性が多くなっている項目は、「経済力」が男性の14.5%に対して57.9%となっており43.4ポイントの大きな差がある。また、「家事・育児の能力や姿勢」（男性17.5%、女性32.3%）は女性が14.8ポイント大きくなっている。

・結婚相手に求める条件（年代別・就労状況別）







【年代別】

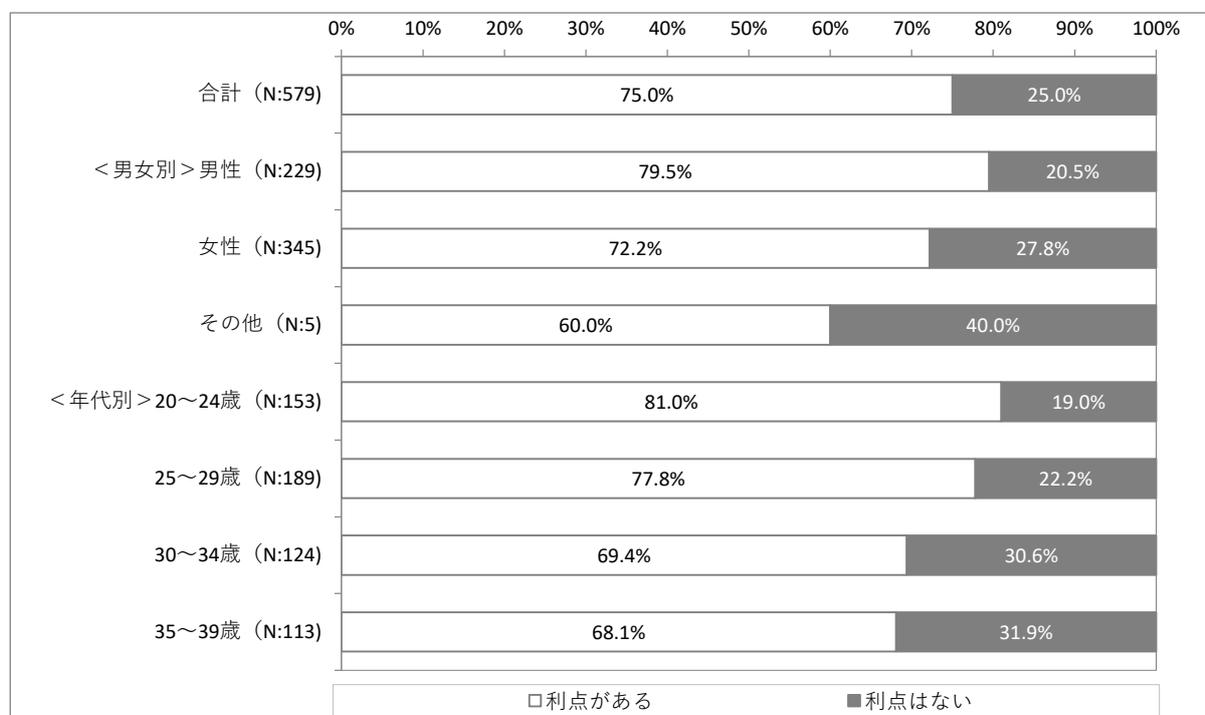
「人柄」、「経済力」は、「25~29歳」の割合（それぞれ 84.6%、41.6%）が最も大きくなっている。「価値観が近いこと」は、「30~34歳」が 51.3%、「35~39歳」50.0%と大きくなっており、「家事・育児の能力や姿勢」は、「30~34歳」が 30.8%と大きくなっている。

【就業状況別】

「人柄」は、「自営業、家族従事者」で 82.4%、「正規の職員」79.7%となっている。「価値観が近いこと」は、「非正規の職員」50.0%、「正規の職員」が 48.1%で、他の就労状況の割合と比べて大きくなっている。「自分の仕事への理解や協力」は、「自営業、家族従事者」が 47.1%となっており、「非正規の職員」の割合（18.0%）と 29.1ポイントの差が見られる。

問32. 一般的に、結婚することの利点はどのようなことだと思いますか。
利点がある場合はその理由を3つ記入してください。

・結婚することの利点

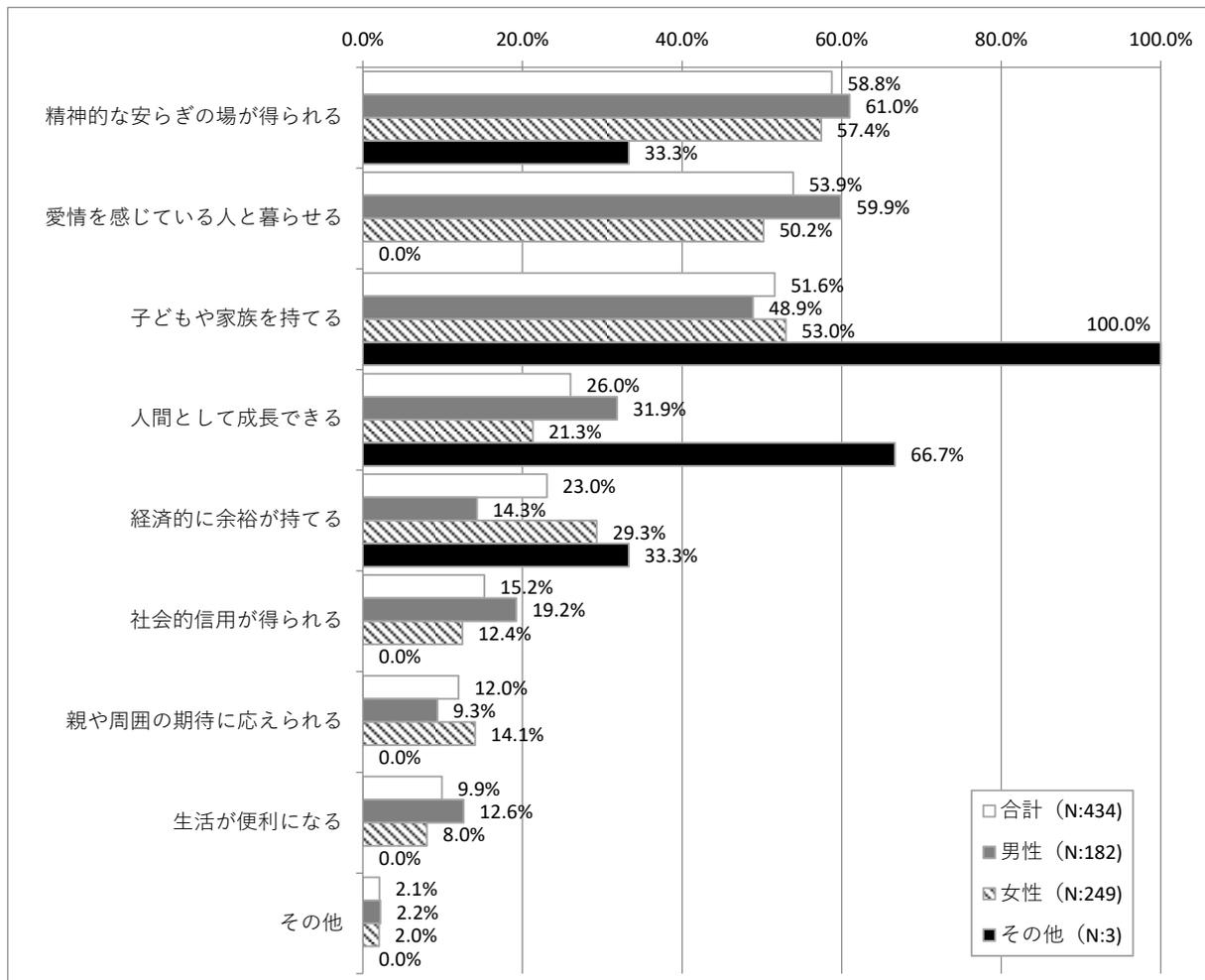


全体では、「利点がある」の割合が 75.0%、「利点はない」25.0%となっており、男女別では、男性が「利点がある」79.5%、「利点はない」20.5%、女性が「利点がある」72.2%、「利点はない」27.8%、その他が「利点がある」60.0%、「利点はない」40.0%となっている。

【年代別】

「利点がある」は年代が下がるにつれて大きくなり、「20～24歳」が81.0%と最も大きく、「35～39歳」で68.1%と12.9ポイントの差がある。「利点はない」は年代が上がるにつれて大きくなり「35～39歳」で31.9%となっている。

・結婚することの利点がある理由（合計・男女別）

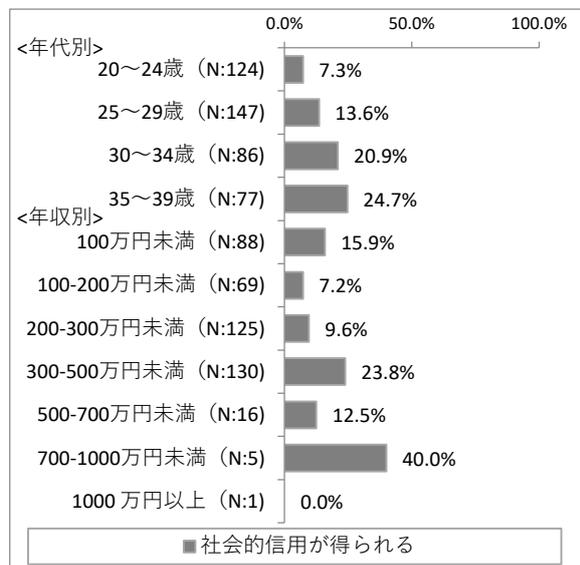
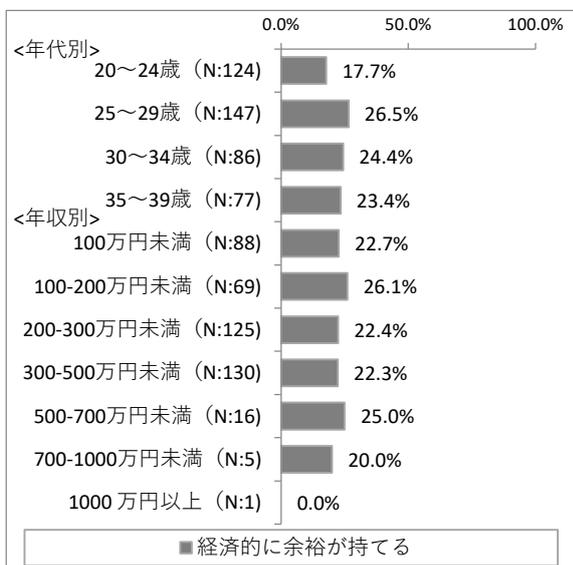
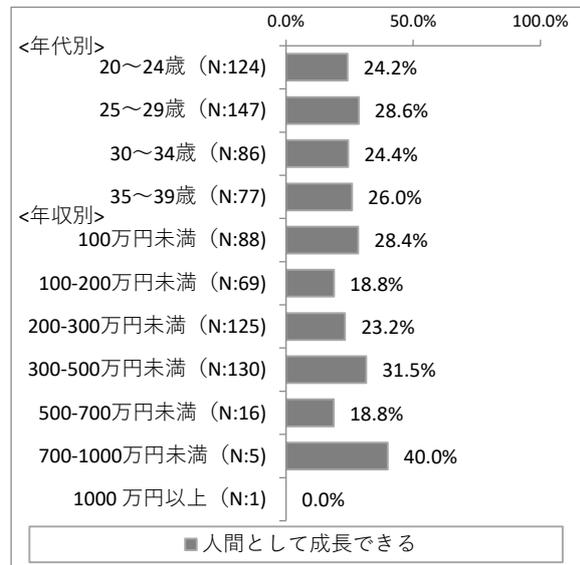
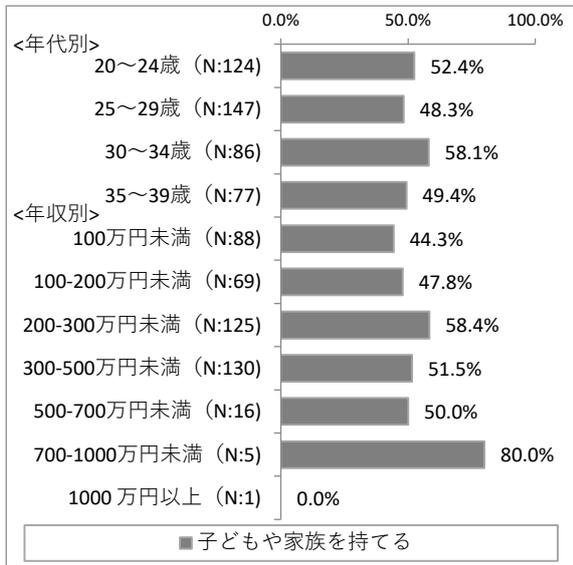
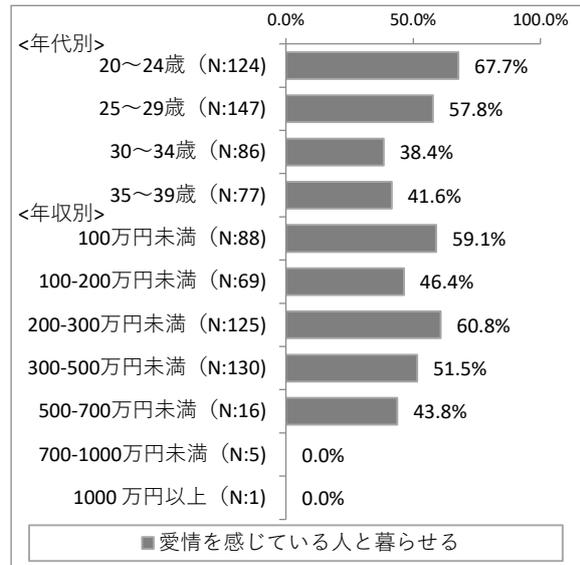
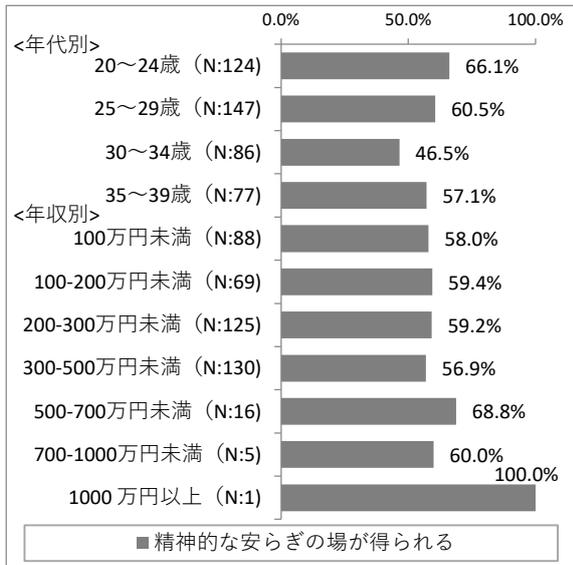


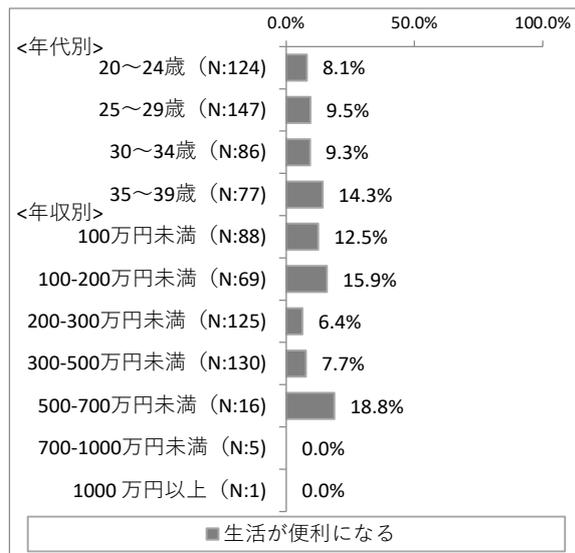
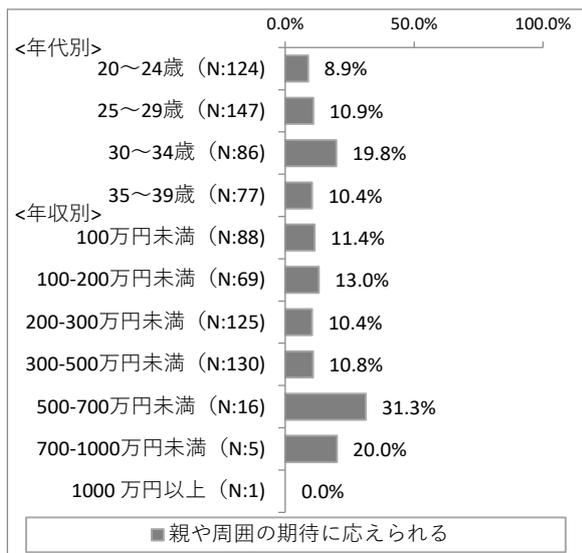
全体では、「精神的な安らぎの場が得られる」が58.8%、次いで「愛情を感じている人と暮らせる」53.9%、「子どもや家族を持てる」51.6%の順となっている。

【男女別】

「人間として成長できる」は、男性の割合（31.9%）が女性（21.3%）より、10.6ポイント大きくなっている。「経済的に余裕が持てる」は男性（14.3%）に対して女性（29.3%）と、女性の方が15ポイント大きくなっている。

・結婚することの利点がある理由（年代別・年収別）





【年代別】

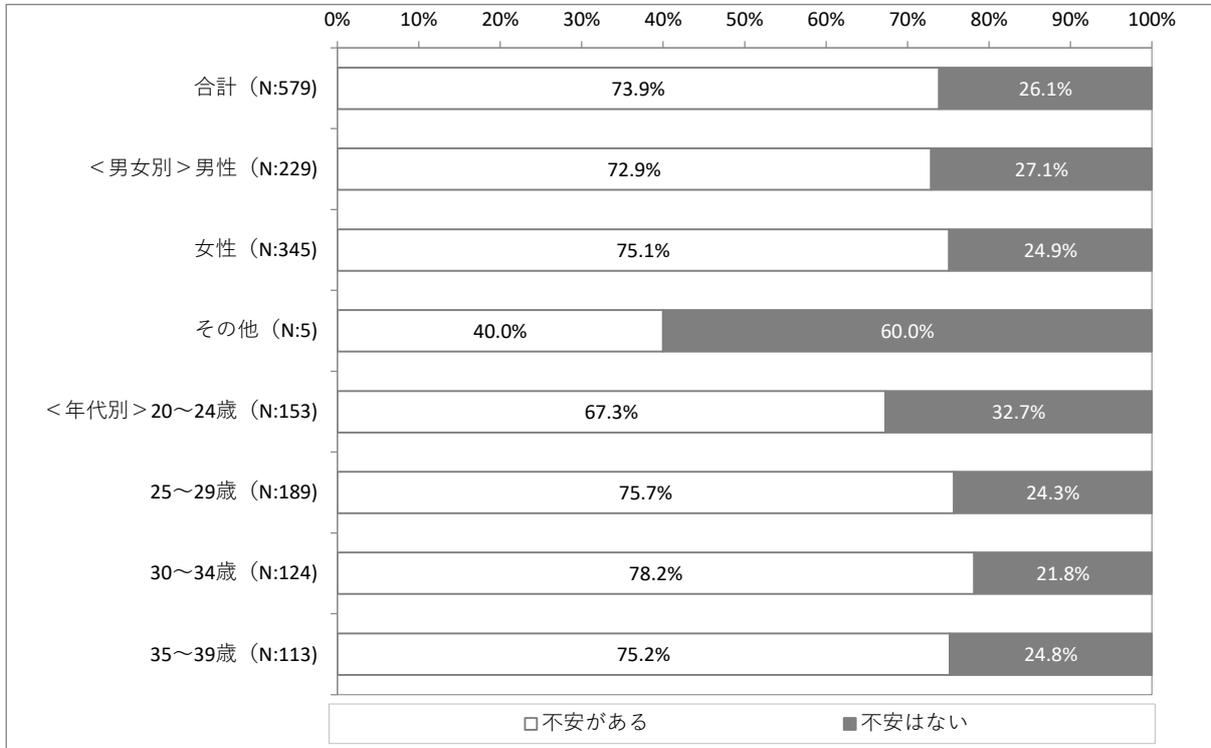
「精神的な安らぎの場が得られる」は、「20～24歳」が66.1%となっている。「愛情を感じている人と暮らせる」は、「20～24歳」が67.7%で、「25～29歳」の57.8%より9.9ポイント大きく、最も小さい「30～34歳」の38.4%より29.3ポイント大きくなっている。

【年収別】

「精神的な安らぎの場が得られる」は、「500～700万円未満」68.8%、「1000万円以上」100%と大きくなっており、「愛情を感じている人と暮らせる」は、「200～300万円未満」、「100万円未満」の割合（それぞれ60.8%、59.1%）が大きくなっている。「子どもや家族を持てる」は、「700～1000万円未満」が80.0%で最も大きく、他の年収とは20ポイント以上の差がある。

問33. 結婚することに対して、不安に思うことはありますか。
不安がある場合はその理由を3つ記入してください。

・結婚することに対する不安



全体では、「不安がある」73.9%、「不安はない」26.1%となっている。

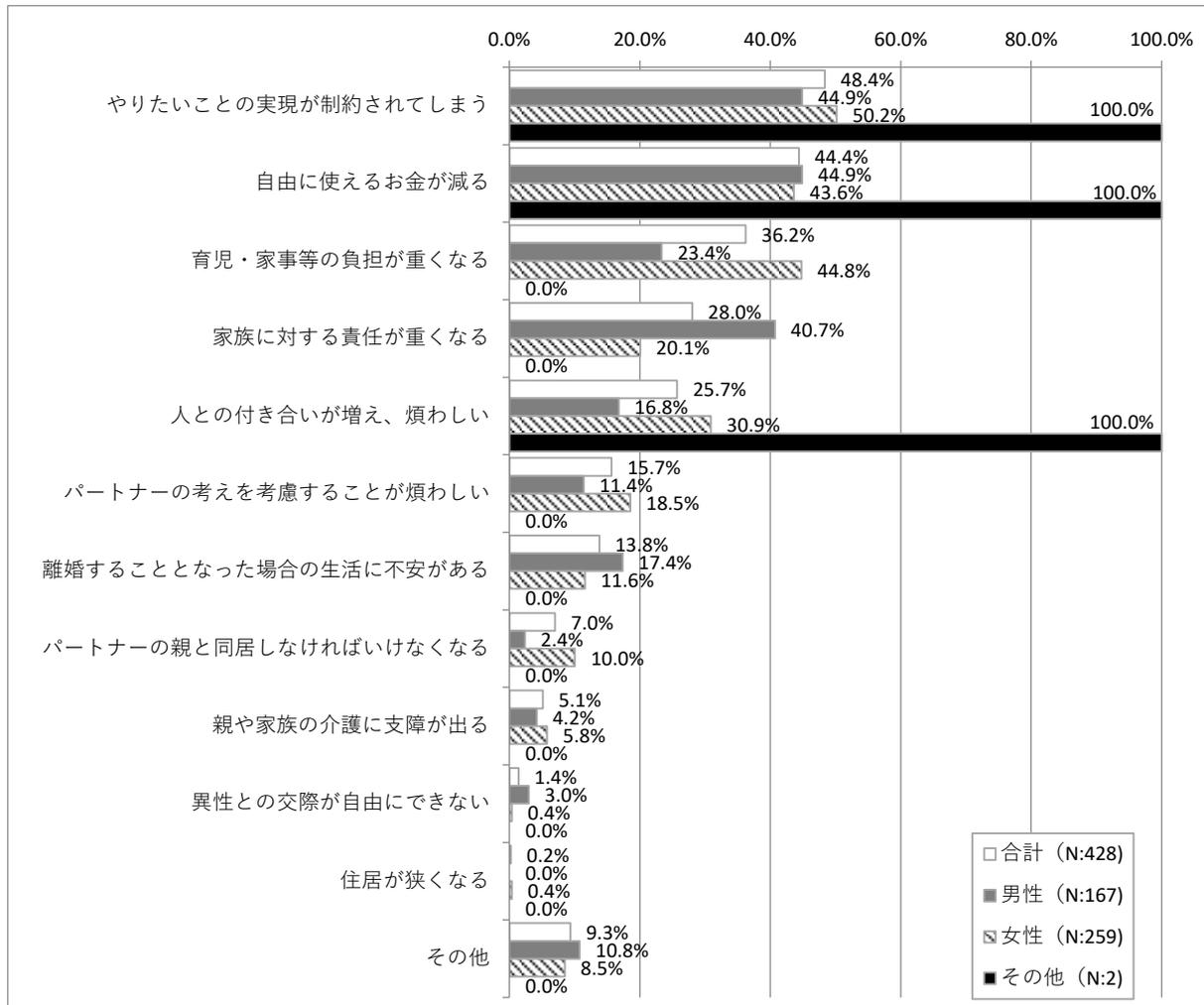
【男女別】

「不安がある」は男性が72.9%、女性が75.1%で女性の方が大きくなっており、「不安はない」は男性27.1%、女性24.9%となっている。

【年代別】

「不安がある」は、「30～34歳」で78.2%と最も大きく、「不安はない」は、「20～24歳」が32.7%となっている。

・結婚することに不安がある理由（合計・男女別）

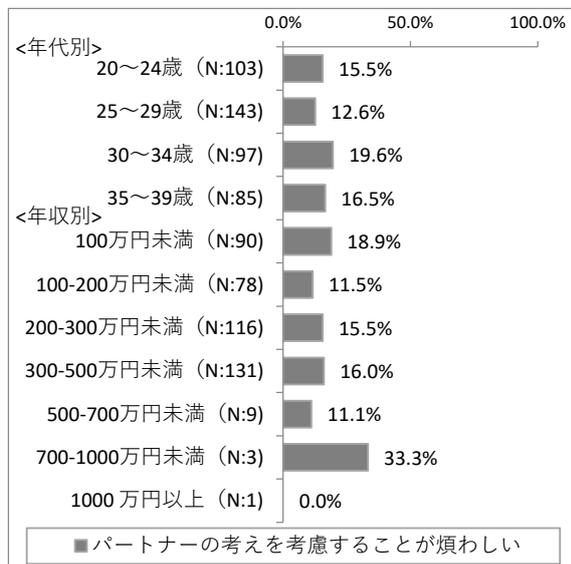
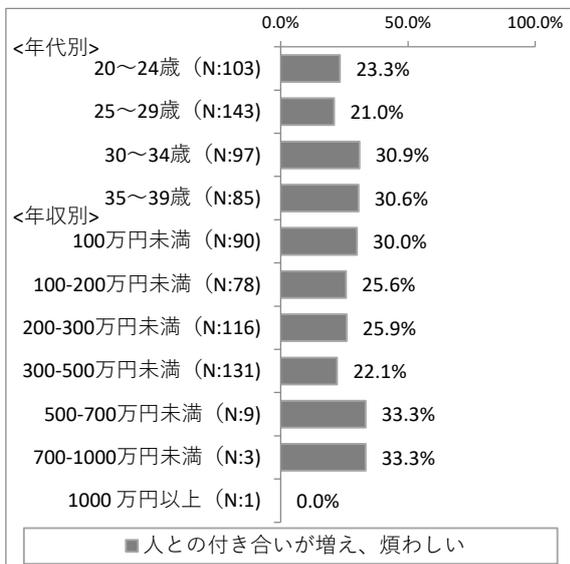
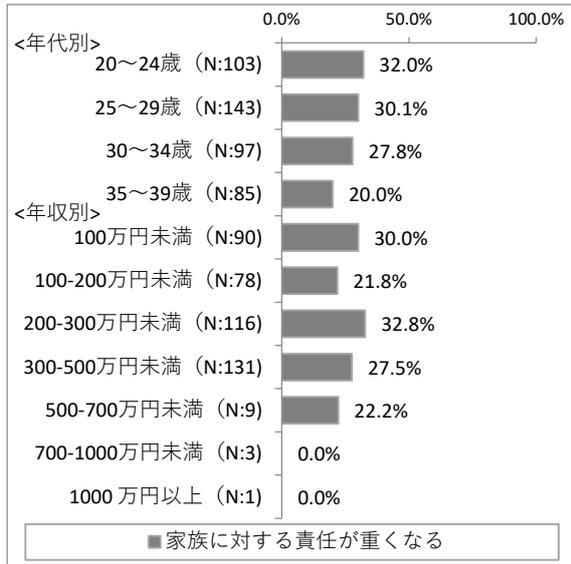
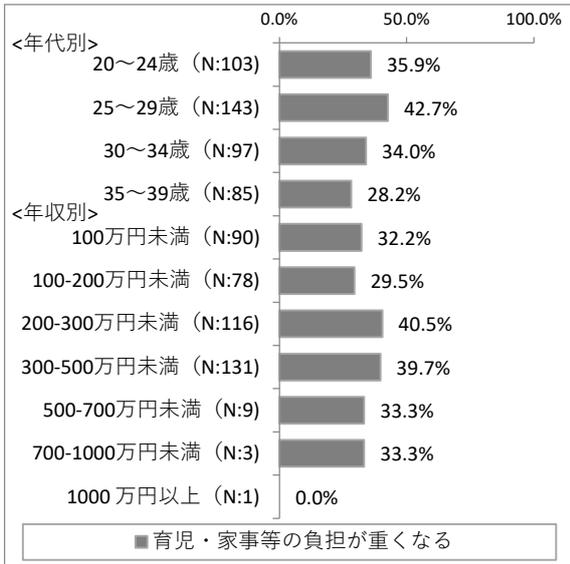
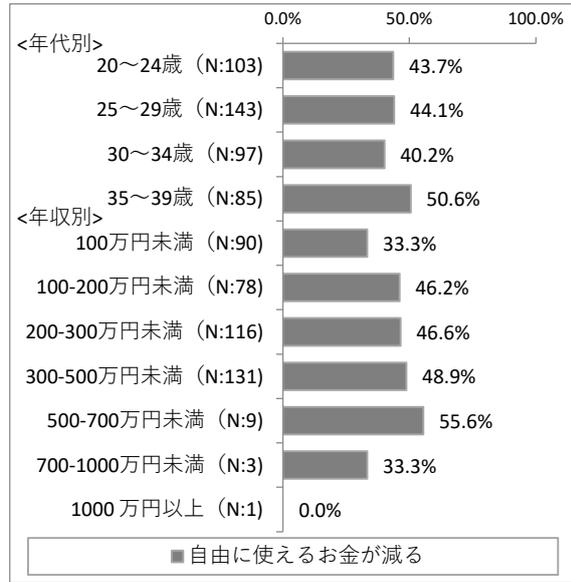
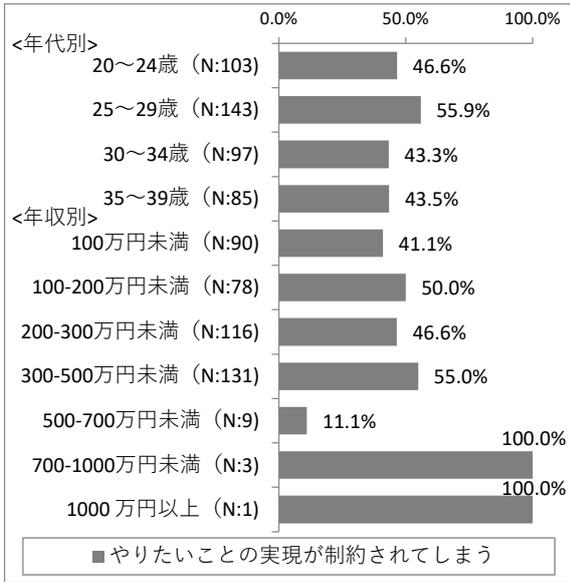


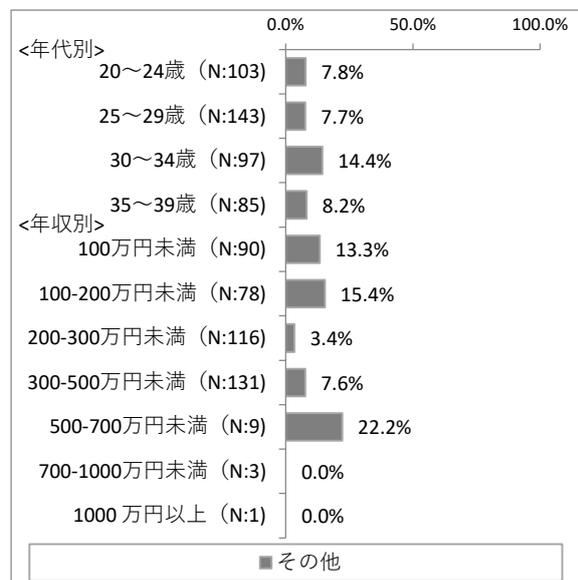
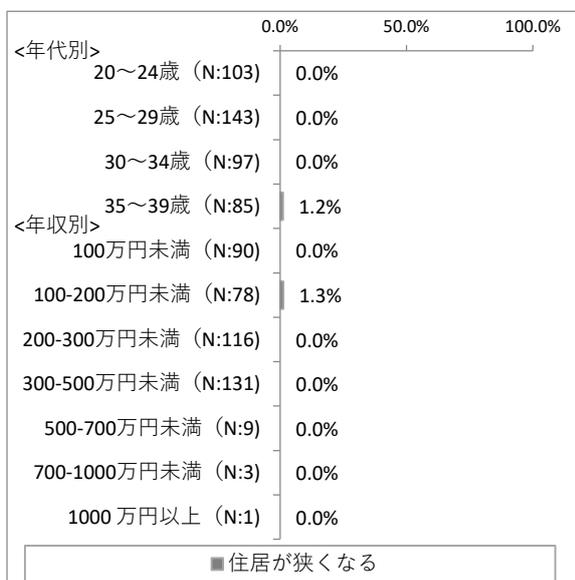
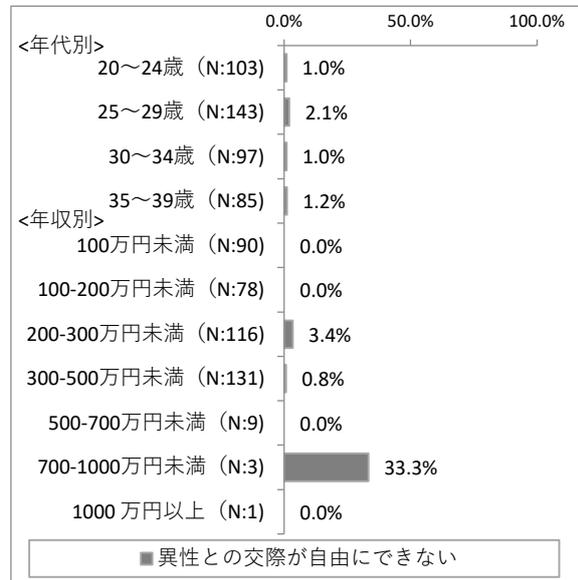
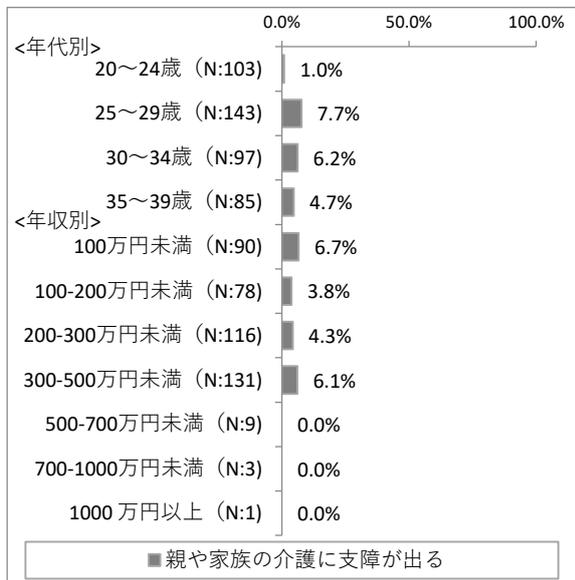
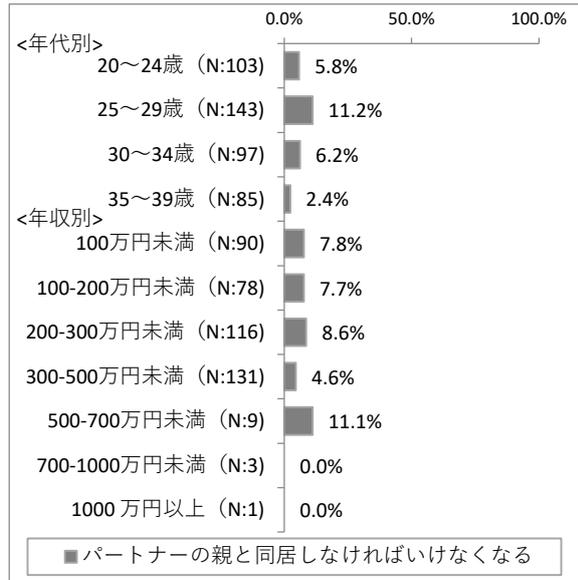
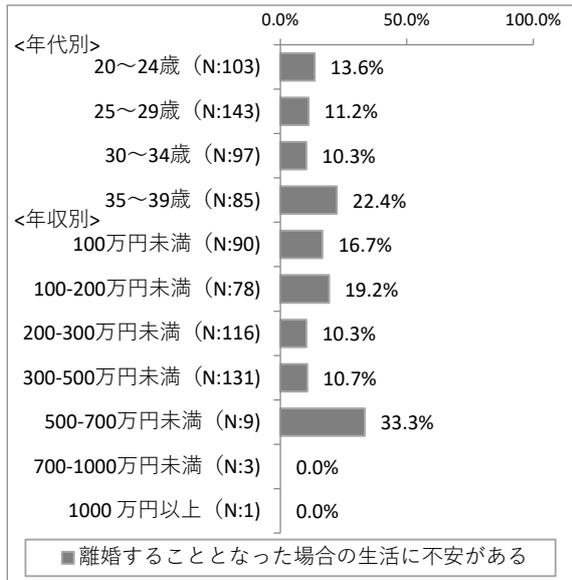
全体では、「やりたいことの実現が制約されてしまう」の割合が48.4%、次いで「自由に使えるお金が減る」44.4%、「育児・家事等の負担が重くなる」36.2%、「家族に対する責任が重くなる」28.0%、「人との付き合いが増え、煩わしい」25.7%の順となっている。

【男女別】

「やりたいことの実現が制約されてしまう」は、男性が44.9%、女性が50.2%で女性の方が5.3ポイント大きく、「自由に使えるお金が減る」は、男性が44.9%、女性が43.6%で男性の方が1.3ポイント大きい。「育児・家事等の負担が重くなる」は、男性23.4%に対し女性が44.8%で女性の方が21.4ポイント大きくなっている。

・結婚することに不安がある理由（年代別・年収別）





① 年代別の結果

「やりたいことの実現が制約されてしまう」は、「25～29歳」の割合（55.9%）が、「自由に使えるお金が減る」は、「35～39歳」の割合（50.6%）が他年代より大きく、「育児・家事等の負担が重くなる」は、最も大きい「25～29歳」（42.7%）が、最も小さい「35～39歳」（28.2%）と比べ14.5ポイント大きくなっている。

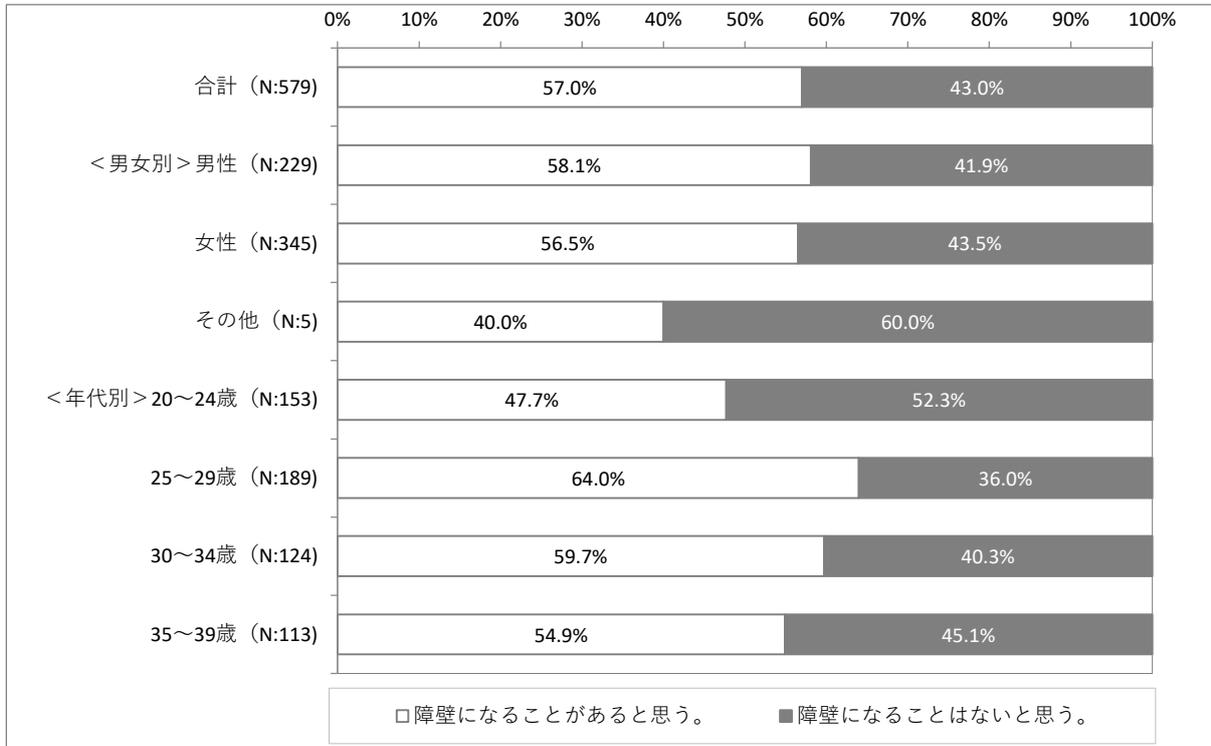
また、「家族に対する責任が重くなる」は、30歳代よりも20歳代の割合が大きく、「人との付き合いが増え、煩わしい」は、20歳代よりも30歳代の割合が大きくなっている。

② 年収別の結果

「やりたいことの実現が制約されてしまう」は、「700～1000万円未満」、「1000万円以上」で100%となっており、「300～500万円未満」の割合は55.0%となっている。「自由に使えるお金が減る」は、「500～700万円未満」の割合が55.6%と最も大きく、「育児・家事等の負担が重くなる」は、「200～300万円未満」が40.5%、「300～500万円未満」が39.7%と、他の年収より大きくなっている。

問34. あなたは現在交際している人と結婚するとしたら、なにか障壁になることがあると思いますか。障壁になることがある場合は具体的な障壁を2つ選択してください。

・結婚への障壁の有無



全体では、「障壁になることがあると思う。」57.0%、「障壁になることはないと思う。」43.0%となっている。

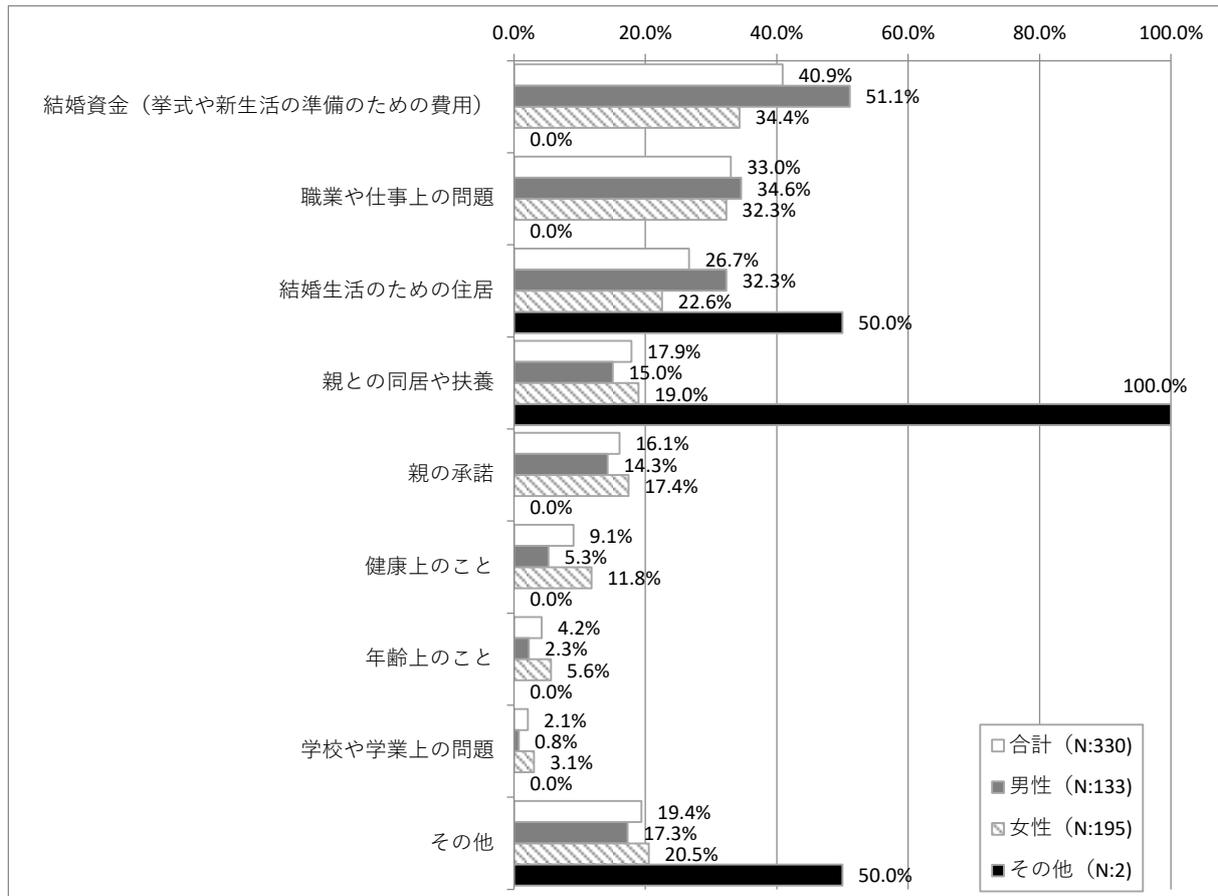
【男女別】

「障壁になることがあると思う。」は男性が58.1%、女性が56.5%、「障壁になることはないと思う。」は男性41.9%、女性43.5%となっている。

【年代別】

「障壁になることがあると思う。」の割合は、「25～29歳」で64.0%と最も大きく、「障壁になることはないと思う。」は、「20～24歳」で52.3%と最も大きくなっている。

・結婚への障壁の理由（合計・男女別）

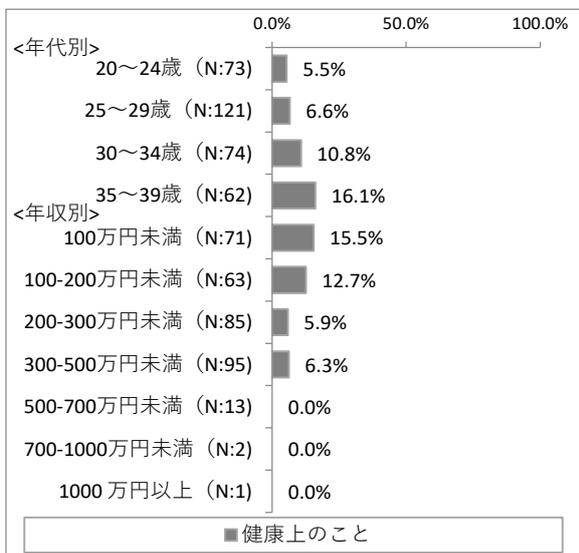
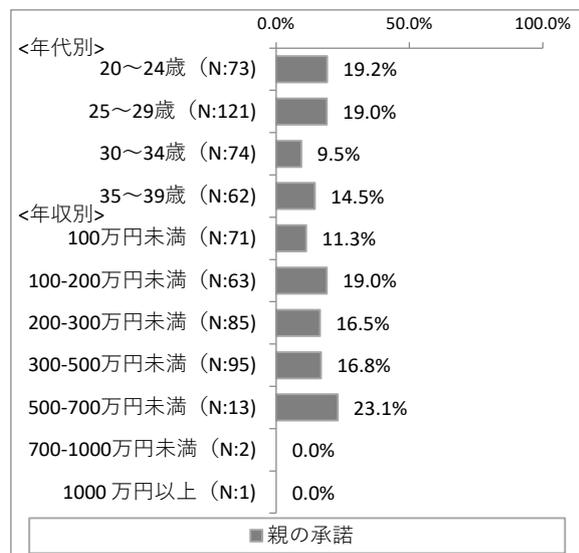
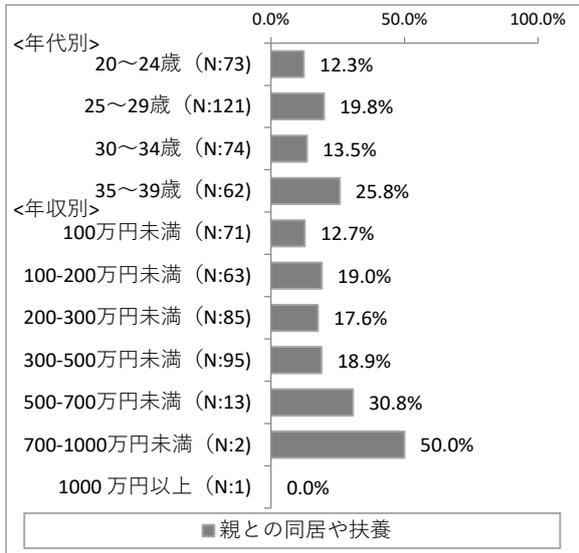
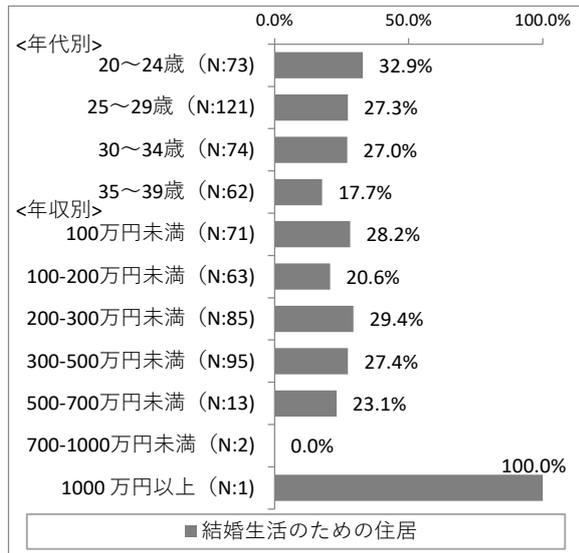
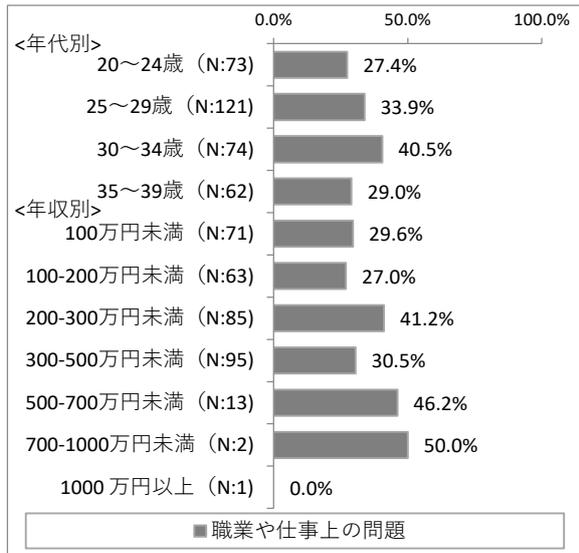
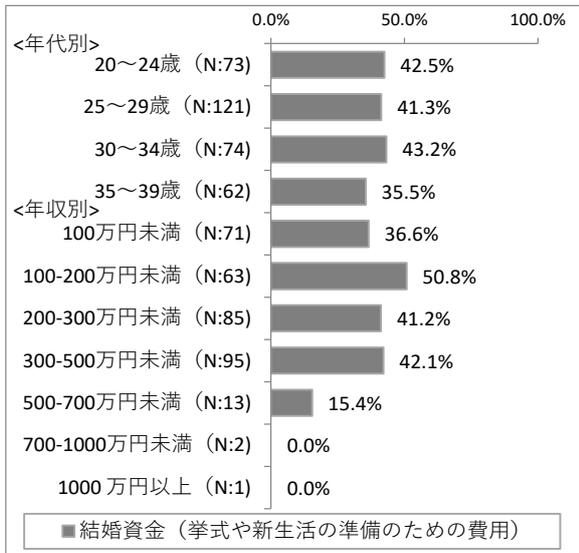


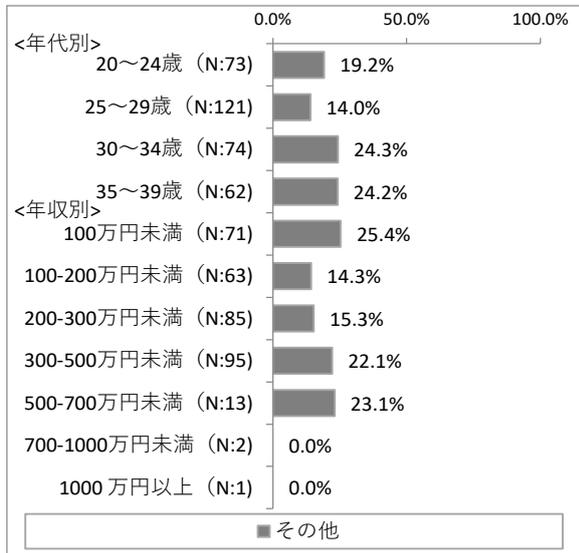
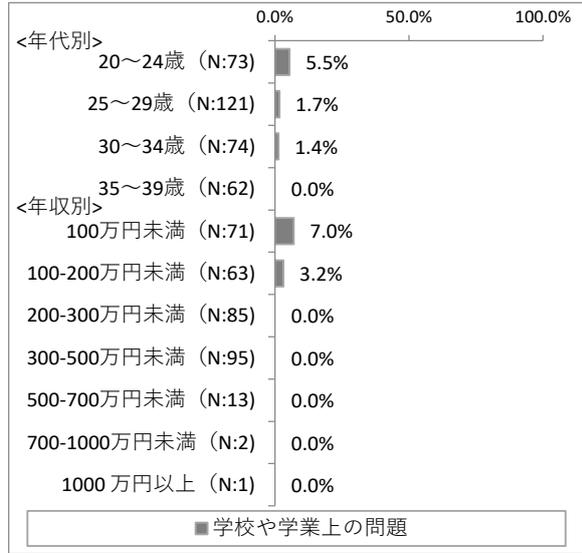
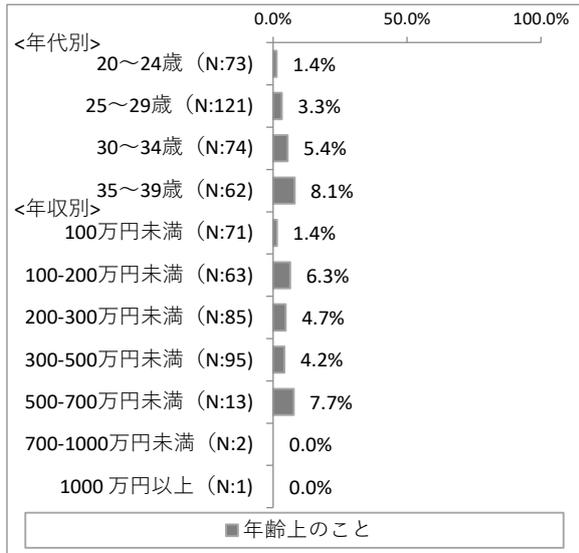
全体では、「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」の割合が40.9%で最も大きく、次いで「職業や仕事上の問題」33.0%、「結婚生活のための住居」26.7%、「親との同居や扶養」17.9%、「親の承諾」16.1%の順となっている。

【男女別】

「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」は、男性が51.1%、女性が34.4%で男性の方が16.7ポイント大きく、「職業や仕事上の問題」は、男性が34.6%、女性が32.3%と男性の方が2.3ポイント大きい。「結婚生活のための住居」は、男性32.3%に対し女性が22.6%で男性の方が9.7ポイント大きくなっている。

・結婚への障壁の理由（年代別・年収別）





【年代別】

「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」は、「20～24歳」42.5%、「25～29歳」41.3%、「30～34歳」43.2%の割合となっている。「職業や仕事上の問題」では、「30～34歳」が40.5%と、他年代より大きくなっている。

また、「結婚生活のための住居」は、年代が下がるにつれて大きくなっており「20～24歳」が32.9%で最も大きく、「35～39歳」は17.7%と最も小さくなっている。

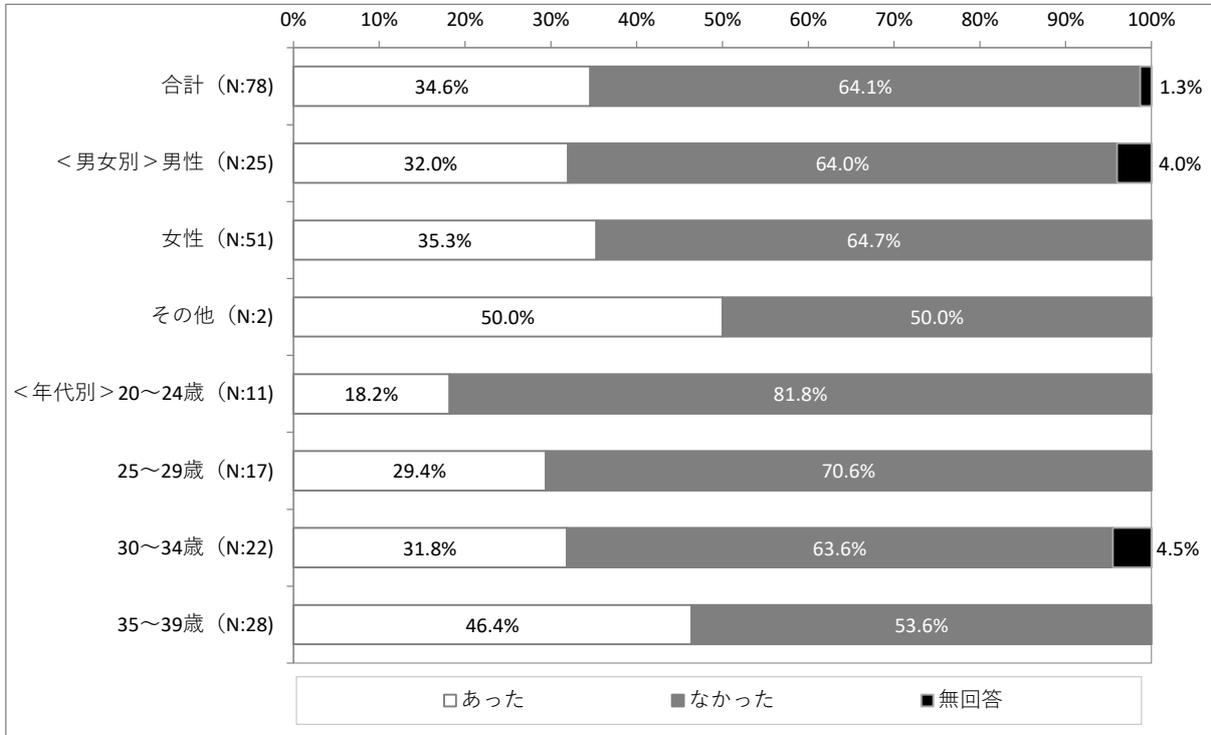
【年収別】

「結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用）」は、「100～200万円未満」の割合（50.8%）が最も大きくなっている。「職業や仕事上の問題」は、「700～1000万円未満」が50.0%となっている。「結婚生活のための住居」は、「1000万円以上」100%、「200～300万円未満」29.4%、「親との同居や扶養」は、「700～1000万円未満」が50.0%、「500～700万円未満」が30.8%と、他の年収より大きくなっている。

問35. 結婚の意思がない方にお聞きします。

あなたは過去に結婚したいという意思がありましたか。

・過去に結婚の意思があったか



全体では、「あった」が34.6%、「なかった」が64.1%となっている。

【男女別】

「あった」が男性32.0%、女性35.3%と女性の方が大きくなっている。「なかった」の割合は、男性64.0%、女性64.7%となっている。

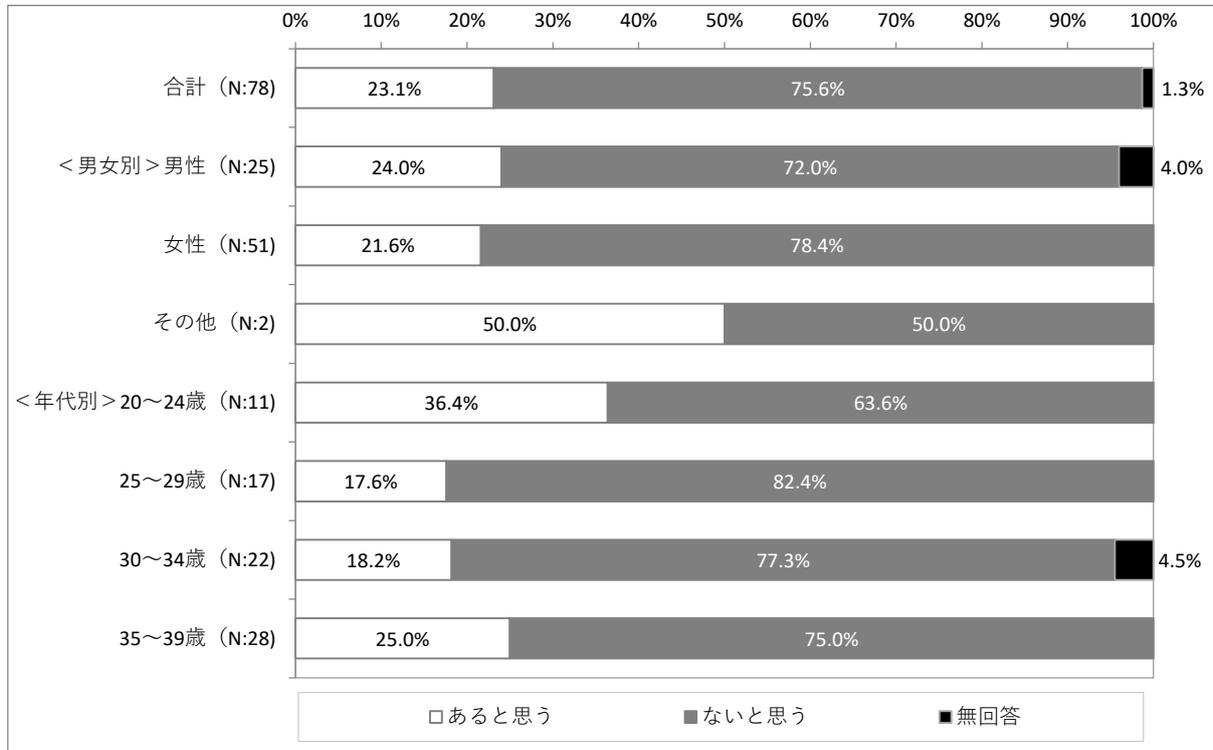
【年代別】

「あった」は年代が上がるにつれて大きくなっており「35～39歳」が46.4%で最も大きく、「20～24歳」は18.2%と最も小さくなっている。

問36. 結婚の意思がない方にお聞きします。

今後、結婚に対する考えが変化する可能性がありますか。「いずれ結婚するつもり」に変わる場合の理由をお答えください。(3つまで)

・結婚に対する考えの変化



全体では、「あると思う」23.1%、「ないと思う」75.6%となっている。

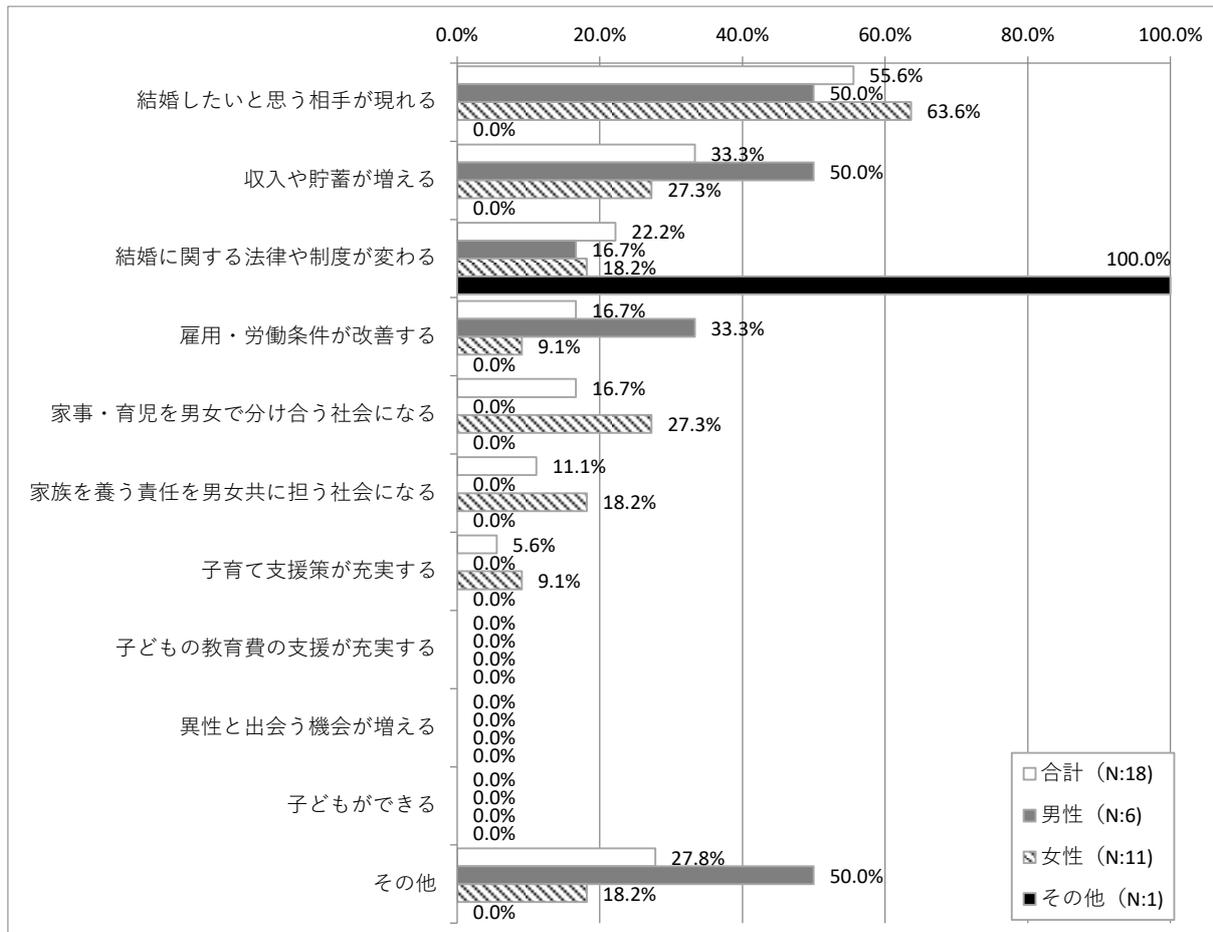
【男女別】

「あると思う」は男性が24.0%、女性が21.6%、「ないと思う」は男性72.0%、女性78.4%となっている。

【年代別】

「あると思う」は、「20～24歳」で36.4%と最も大きく、「ないと思う」は、「25～29歳」が82.4%と最も大きくなっている。

・結婚に対する考えの変化（合計・男女別）



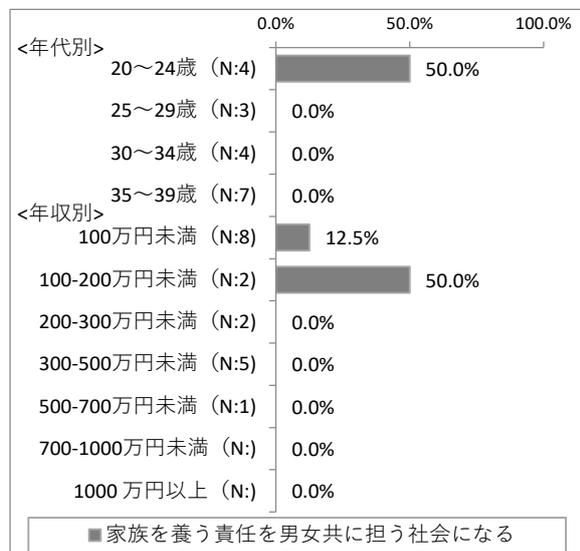
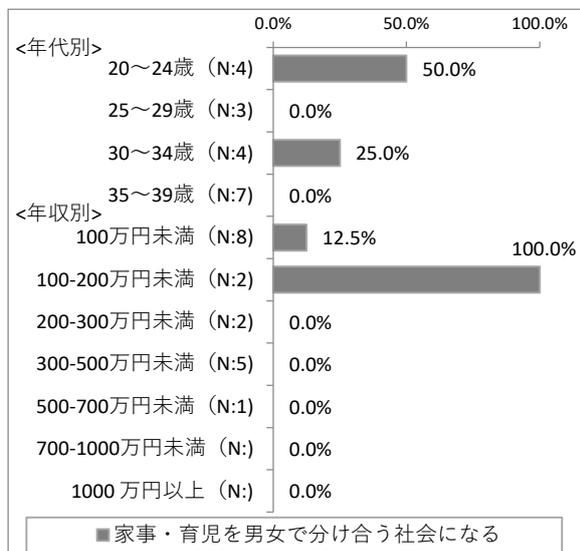
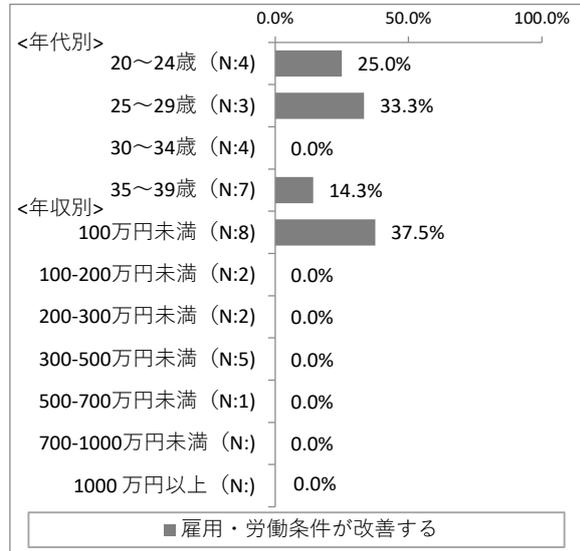
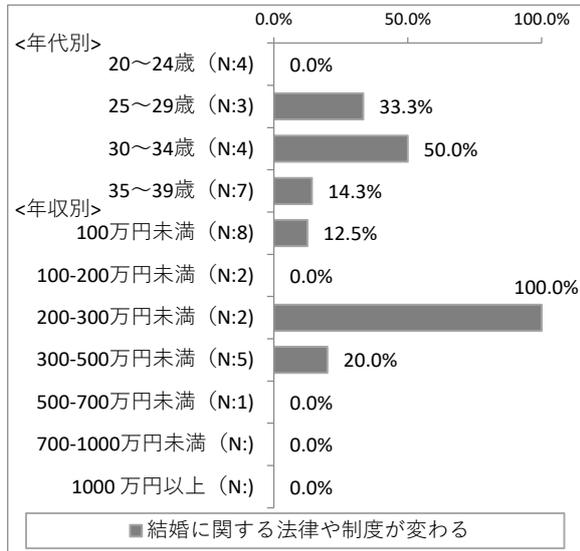
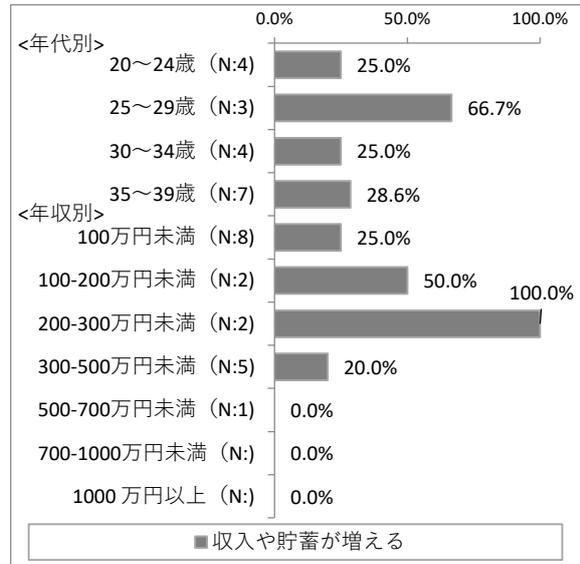
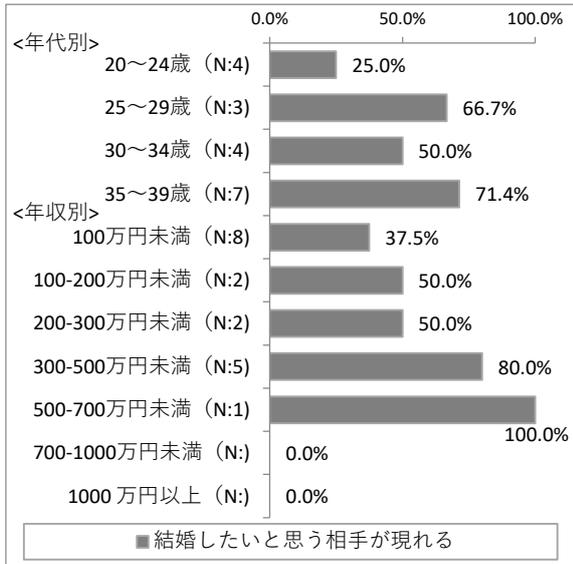
全体では、「結婚したいと思う相手が現れる」が 55.6%、次いで「収入や貯蓄が増える」33.3%、「結婚に関する法律や制度が変わる」22.2%、「雇用・労働条件が改善する」16.7%、「家事・育児を男女で分け合う社会になる」16.7%の順となっている。

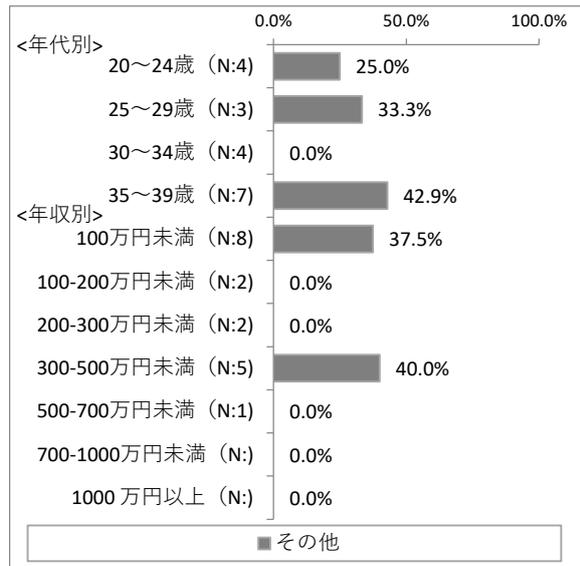
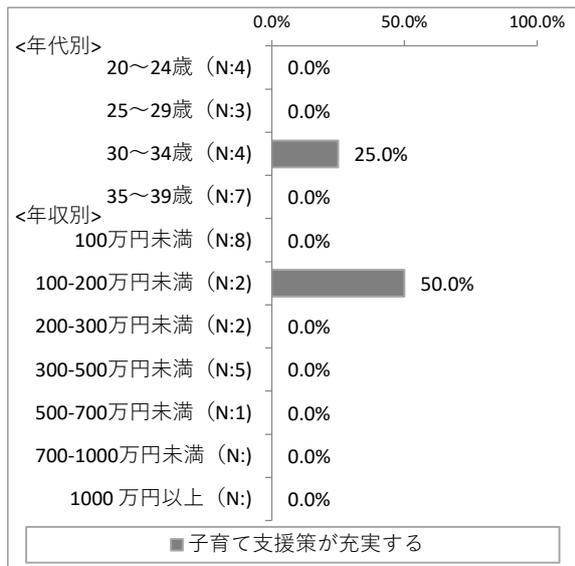
【男女別】

「結婚したいと思う相手が現れる」は、男性が 50.0%、女性が 63.6%で女性の方が 13.6 ポイント大きくなっている。また、「収入や貯蓄が増える」は、男性が 50.0%、女性が 27.3%で 22.7 ポイント、「雇用・労働条件が改善する」は、男性が 33.3%、女性が 9.1%で 24.2 ポイント、それぞれ男性が大きくなっている。

「家事・育児を男女で分け合う社会になる」（女性 27.3%）、「家族を養う責任を男女共に担う社会になる」（女性 18.2%）、「子育て支援策が充実する」（女性 9.1%）では、男性が 0%となっている。

・結婚に対する考えの変化（年代別・年収別）





【年代別】

「結婚したいと思う相手が現れる」は、「35～39歳」71.4%、「25～29歳」66.7%、「30～34歳」50.0%の順となっている。「収入や貯蓄が増える」では、「25～29歳」が66.7%と、他年代と比べ38ポイント以上大きくなっている。

また、「結婚に関する法律や制度が変わる」は、「30～34歳」が50.0%、「雇用・労働条件が改善する」は、「25～29歳」が33.3%となっている。

【年収別】

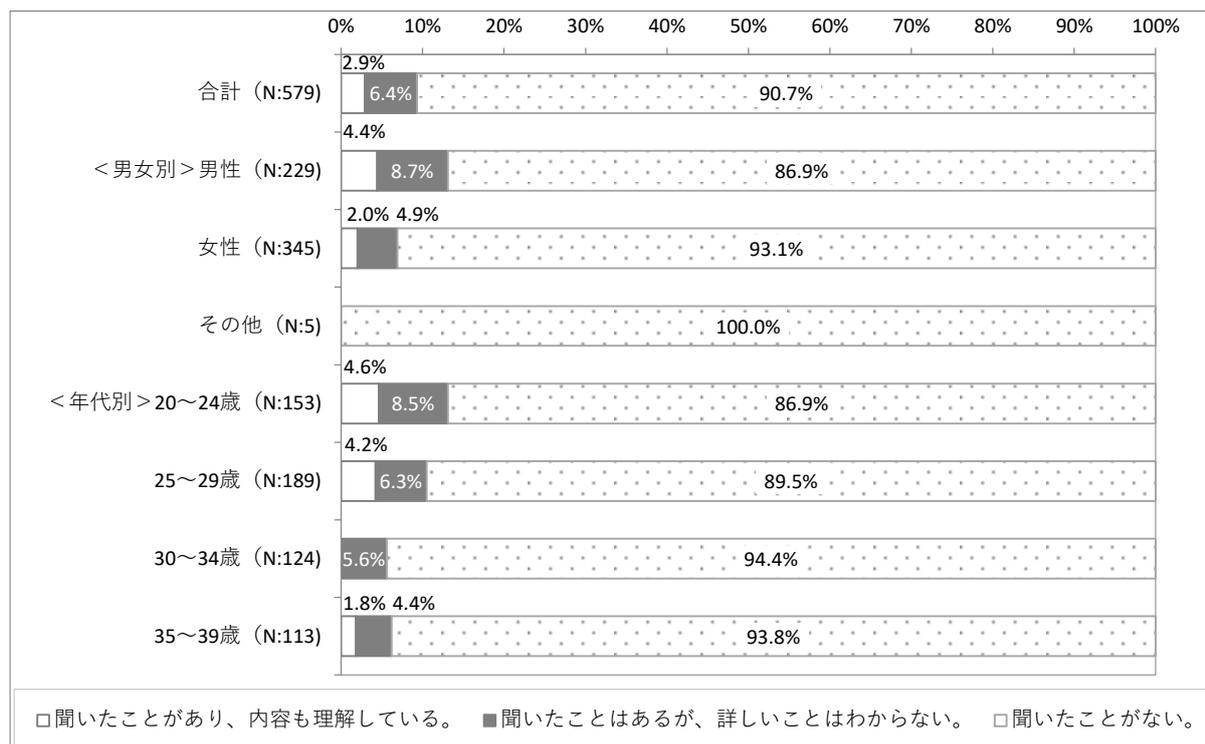
「結婚したいと思う相手が現れる」は、年収が上がるにつれて大きくなっており「500～700万円未満」で100%、「300～500万円未満」で80.0%となっており、「100万円未満」では37.5%と最も小さくなっている。「収入や貯蓄が増える」は、「200～300万円未満」で100%、「100～200万円未満」で50.0%となっている。

妊娠・出産に関する意識

問37. 「プレコンセプションケア」という言葉を聞いたことがありますか。

<プレコンセプションケア: 将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと>

・「プレコンセプションケア」について



全体では、「聞いたことがない。」の割合が、90.7%で最も大きく、次いで「聞いたことはあるが、詳しいことはわからない。」が6.4%、「聞いたことがあり、内容も理解している。」が2.9%となっている。

【男女別】

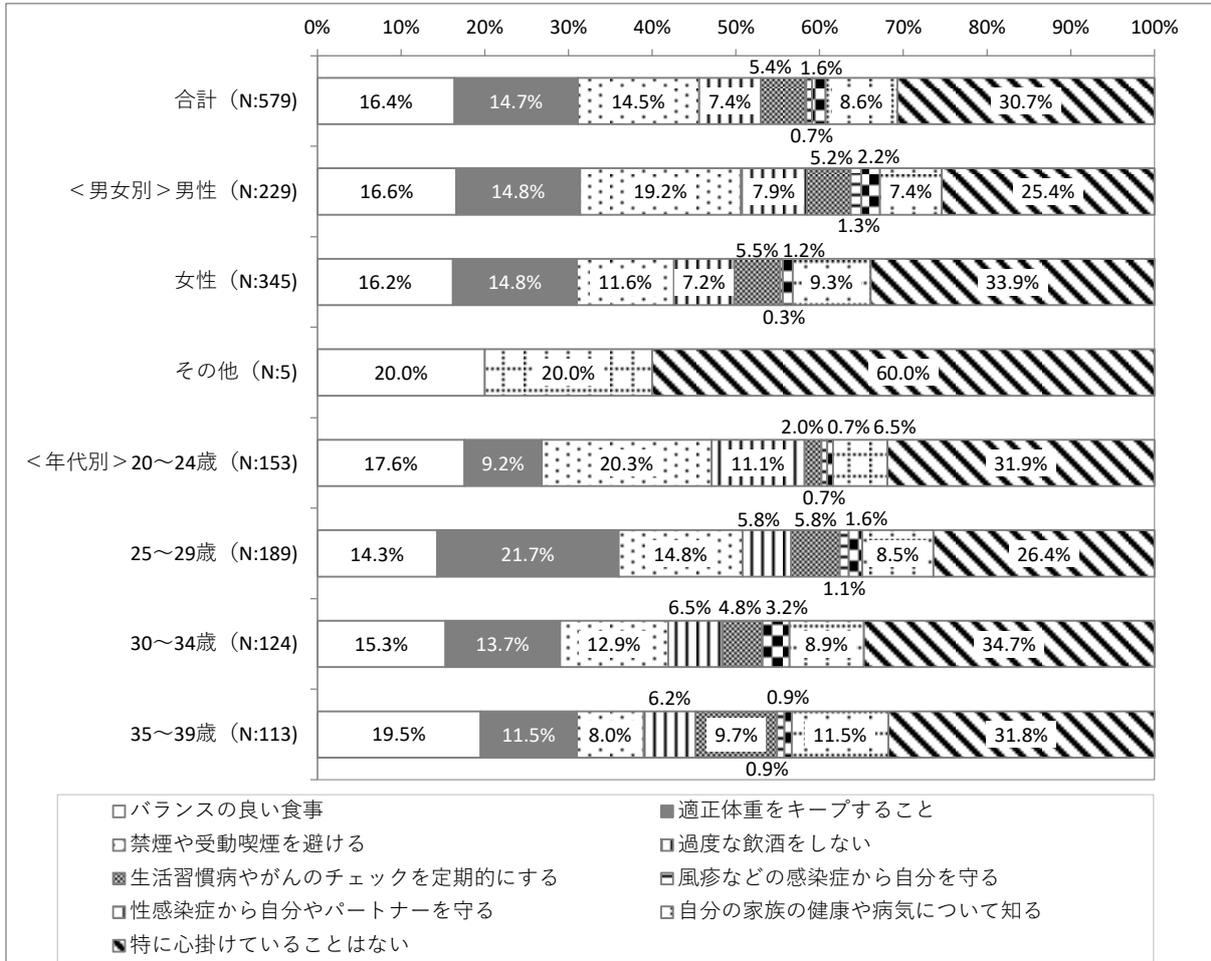
「聞いたことがない。」は男性86.9%、女性93.1%、「聞いたことはあるが、詳しいことはわからない。」は男性8.7%、女性4.9%、「聞いたことがあり、内容も理解している。」は男性4.4%、女性2.0%となっている。

【年代別】

「30~34歳」では、「聞いたことがない。」の割合(94.4%)が最も大きくなっている。「20~24歳」では、「聞いたことはあるが、詳しいことはわからない。」の割合(8.5%)、「聞いたことがあり、内容も理解している。」の割合(4.6%)が他の年代よりも大きくなっている。

問38. プレコンセプションケアは、将来、妊娠を考えている女性だけでなく、女性の健康を支えるパートナーや家族にとっても重要なことです。次のうち、ご自身の健康のために心掛けていることはありますか。

・健康のために心掛けていること



全体では、「特に心掛けていることはない」が最も大きく30.7%となっている。次いで、「バランスの良い食事」が16.4%、「適正体重をキープすること」が14.7%、「禁煙や受動喫煙を避ける」14.5%となっており、他の項目は10%以下になっている。

【男女別】

「特に心掛けていることはない」は男性25.4%、女性33.9%で男性より女性の方が大きくなっている。「バランスの良い食事」(男性16.6%、女性16.2%)、「適正体重をキープすること」(男女ともに14.8%)は、男女による差は見られない。「禁煙や受動喫煙を避ける」(男性19.2%、女性11.6%)は、女性より男性の方が大きくなっている。

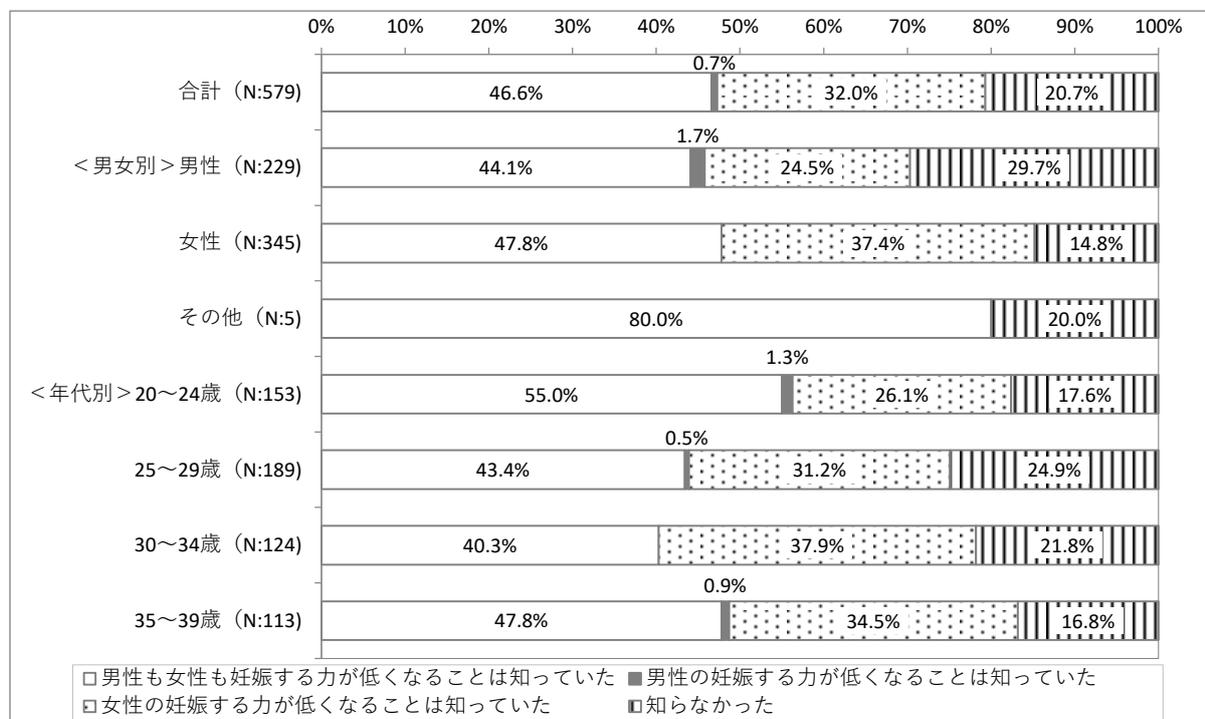
【年代別】

「特に心掛けていることはない」は、「30～34歳」の割合（34.7%）が最も大きく、「25～29歳」の割合（26.4%）が最も小さくなっている。「バランスの良い食事」は、「35～39歳」（19.5%）、「20～24歳」（17.6%）の割合が、他年代より大きくなっている。

「適正体重をキープすること」は「25～29歳」の割合（21.7%）が最も大きく、「禁煙や受動喫煙を避ける」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「20～24歳」が20.3%で最も大きく、「35～39歳」は8.0%と最も小さくなっている。

問39. 男性も女性も35歳前後で様々な原因から妊娠率が低下するということを知っていますか
(1つ)

・妊娠率の低下



全体では、「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」の割合が46.6%で最も大きく、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」が32.0%、「知らなかった」は20.7%、「男性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は0.7%であった。

【男女別】

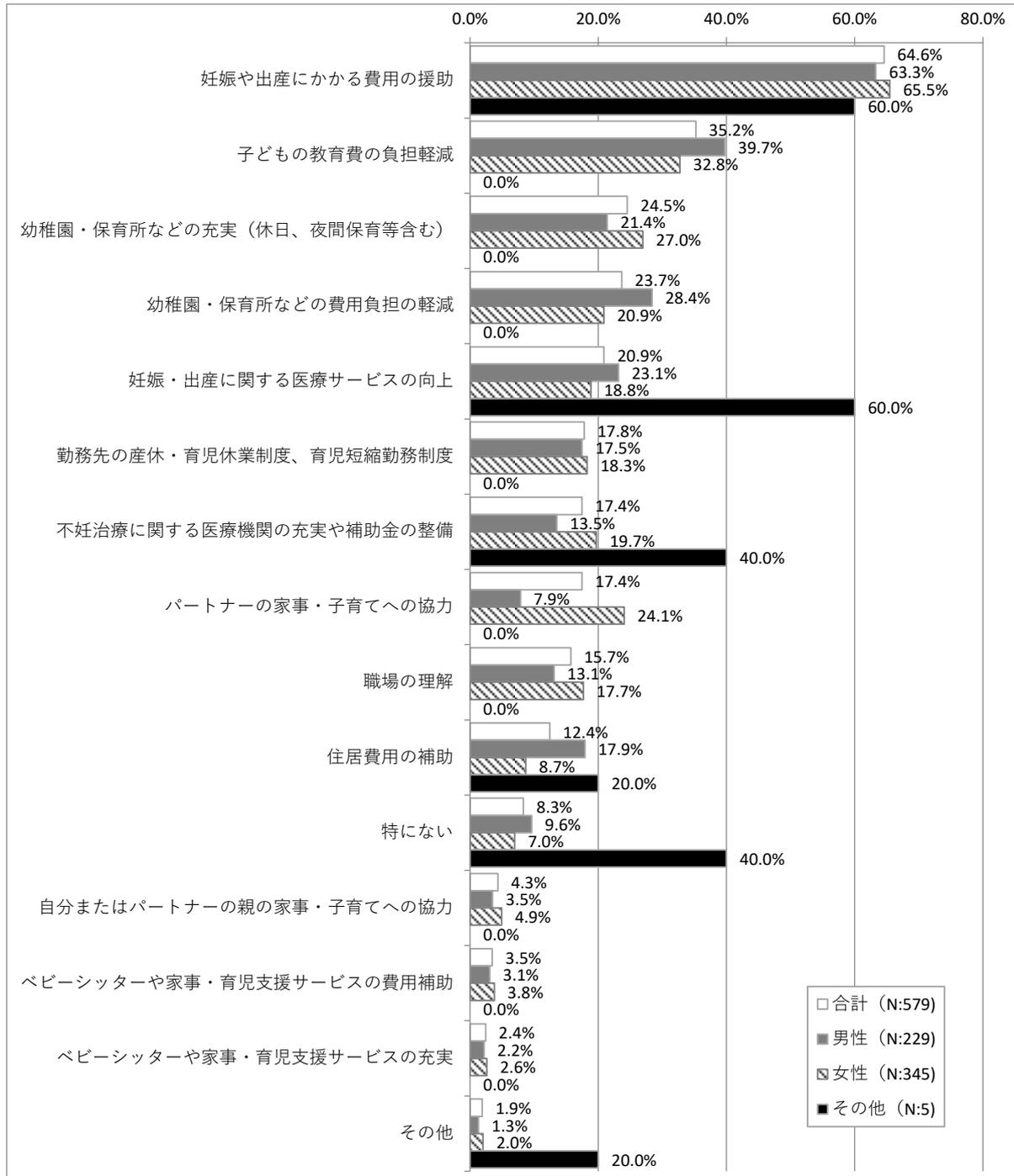
「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」は男性44.1%、女性47.8%、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は男性24.5%、女性37.4%と、ともに女性の方が大きい。「知らなかった」は男性29.7%、女性14.8%で男性の方が大きくなっている。

【年代別】

「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」は「20～24歳」が55.0%と最も大きく、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は、「30～34歳」が37.9%、「知らなかった」は「25～29歳」が24.9%と他年代より大きくなっている。

問40. あなた(又は将来のパートナー)の出産及び子育てに必要なと思うサポートについてお答えください(3つまで)

・将来の出産及び子育てに必要なと思うサポート (合計・男女別)

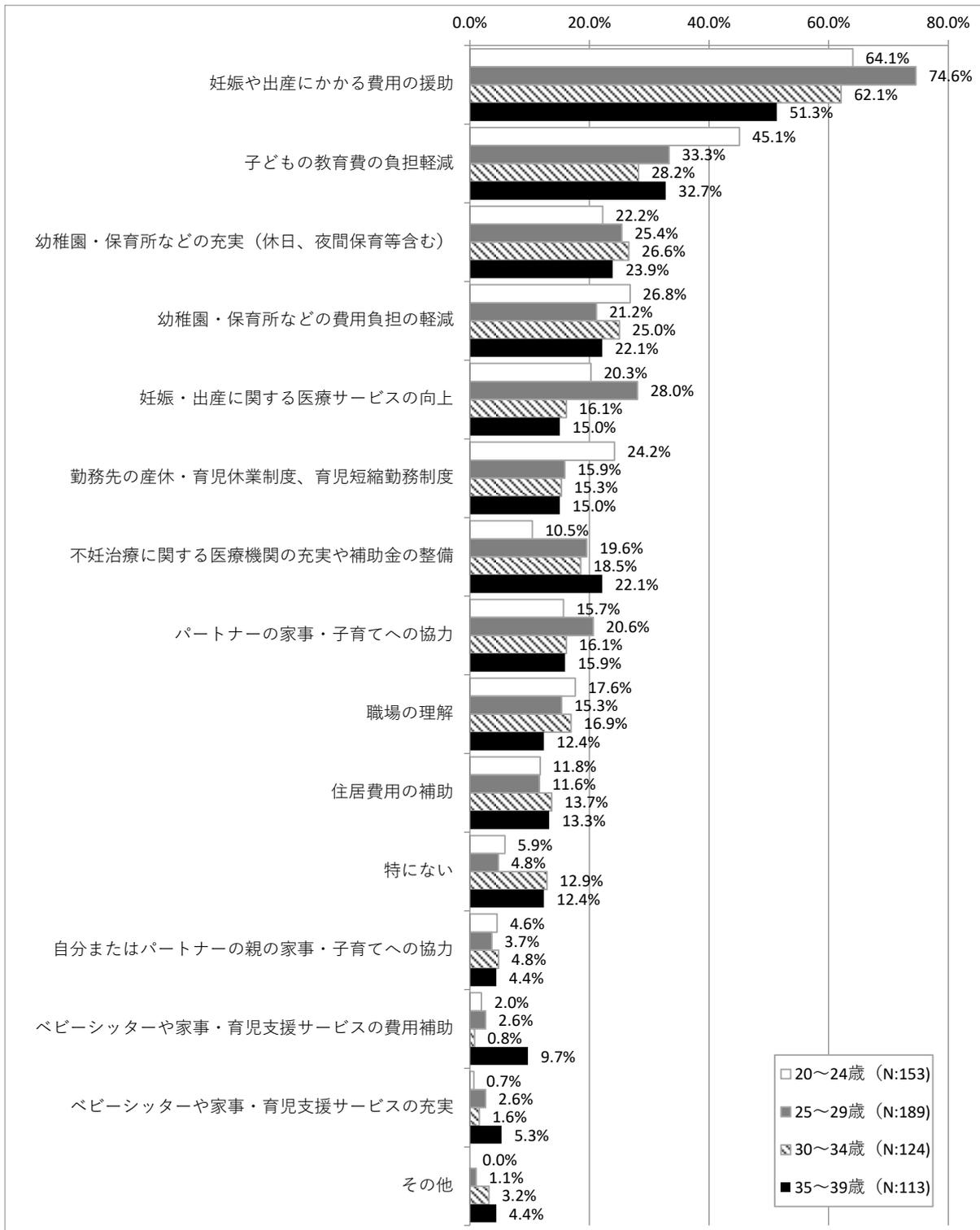


全体では、「妊娠や出産にかかる費用の援助」の割合が64.6%と前回調査と比べて17.6ポイント増加している。次いで「子どもの教育費の負担軽減」35.2%、「幼稚園・保育所などの充実（休日、夜間保育等含む）24.5%、「幼稚園・保育所などの費用負担の軽減」23.7%、「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」20.9%、「勤務先の産休・育児休業制度、育児短縮勤務制度」17.8%、「不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備」17.4%、「パートナーの家事・子育てへの協力」17.4%の順となっている。

【男女別】

「妊娠や出産にかかる費用の援助」は、男性が63.3%、女性が65.5%と女性が2.2ポイント大きくなっている。差が大きい項目は、「パートナーの家事・子育てへの協力」で、男性7.9%、女性24.1%で16.2ポイント女性が大きく、「住居費用の補助」では、男性17.9%、女性8.7%で9.2ポイント男性が大きくなっている。

・将来の出産及び子育てに必要と思うサポート（年代別）



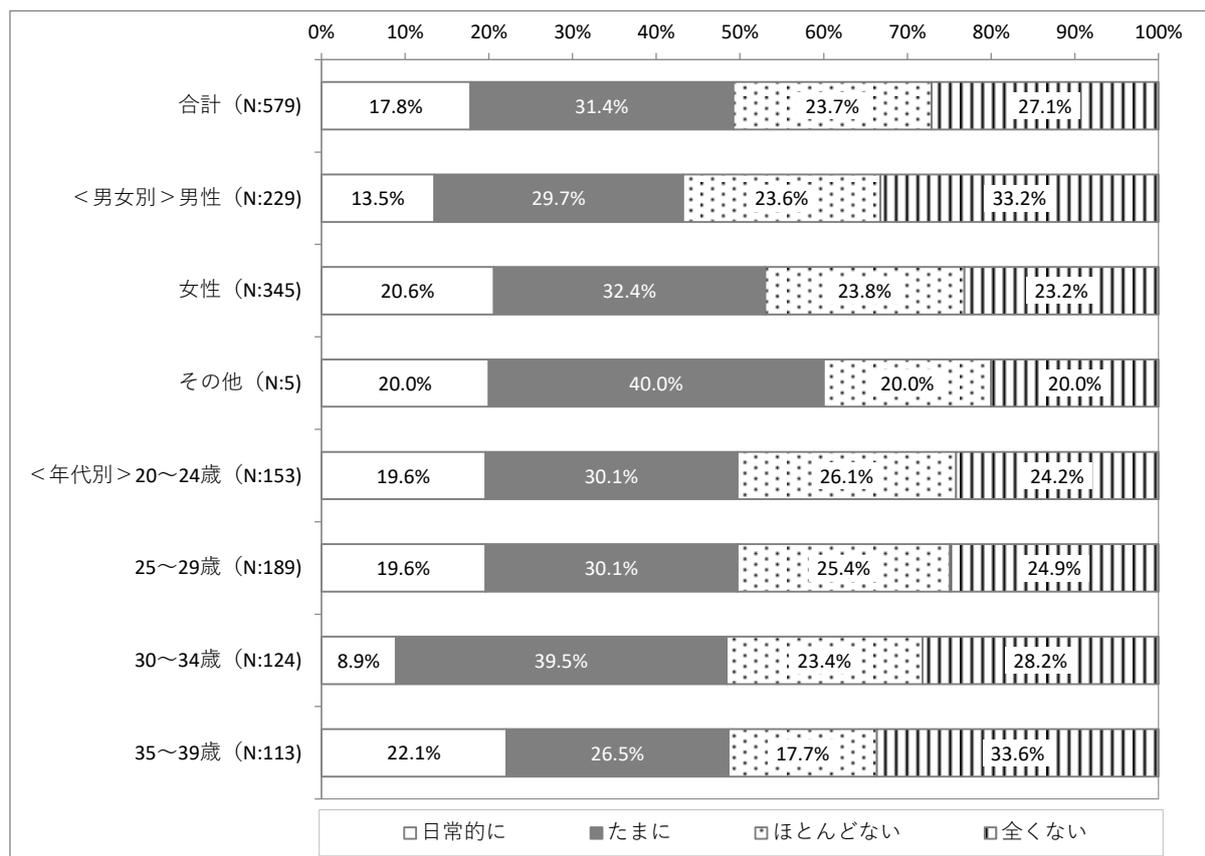
【年代別】

「妊娠や出産にかかる費用の援助」は、全ての年代において 50.0%以上の割合となっている。「子どもの教育費の負担軽減」は、「20～24 歳」が 45.1%、「幼稚園・保育所などの充実（休日、夜間保育等含む）」は、「30～34 歳」26.6%、「幼稚園・保育所などの費用負担の軽減」は、「20～24 歳」が 26.8%となっている。また、「勤務先の産休・育児休業制度、育児短縮勤務制度」は、年代が下がるにつれて大きくなっており、「20～24 歳」が 24.2%となっている。

子どもに関する意識

問41. あなたの、兄弟姉妹や友人、地域の赤ちゃんや子どもとの触れ合いの頻度を教えてください。(1つ)

・赤ちゃんや子どもとの触れ合い



全体では「たまに」の割合が31.4%で最も大きく、次いで「ほとんどない」23.7%、「全くない」27.1%、「日常的に」が17.8%となっている。

【男女別】

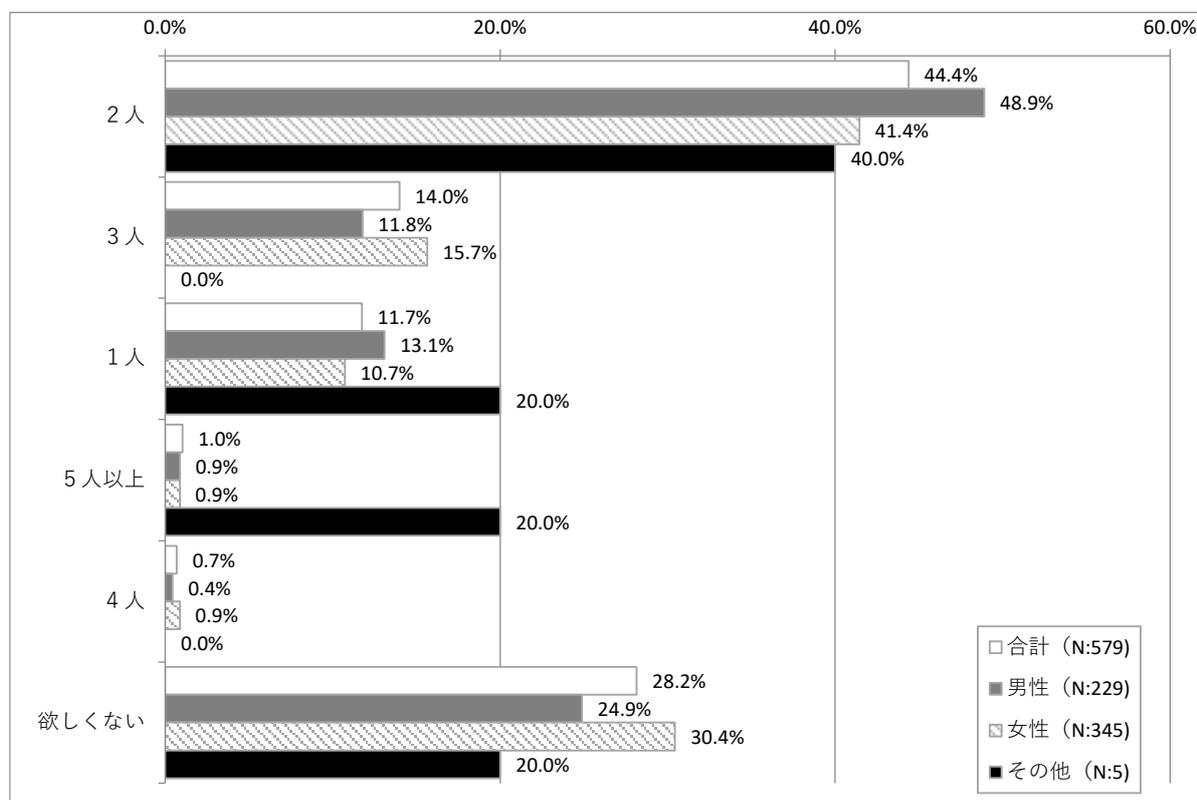
「たまに」は男性29.7%、女性32.4%で女性の方が2.7ポイント大きく、「日常的に」は男性13.5%、女性20.6%と女性の方が7.1ポイント大きい。「ほとんどない」は男性23.6%、女性23.8%と0.2ポイントの差があり、「全くない」は男性33.2%、女性23.2%で、女性に比べ男性の方が10ポイント大きくなっている。

【年代別】

「たまに」の割合は、「20～24歳」(30.1%)、「25～29歳」(30.1%)、「30～34歳」(39.5%)、となっている。「35～39歳」では、「全くない」の割合(33.6%)が他年代より大きくなっている。

問42. あなたは、今後、何人の子どもが欲しいですか。現在、お子さんがいらっしゃる場合は、そのお子さんを含めないで人数をお答えください。同居・別居は問いません。(一つ)

・欲しい子どもの人数（合計・男女別）

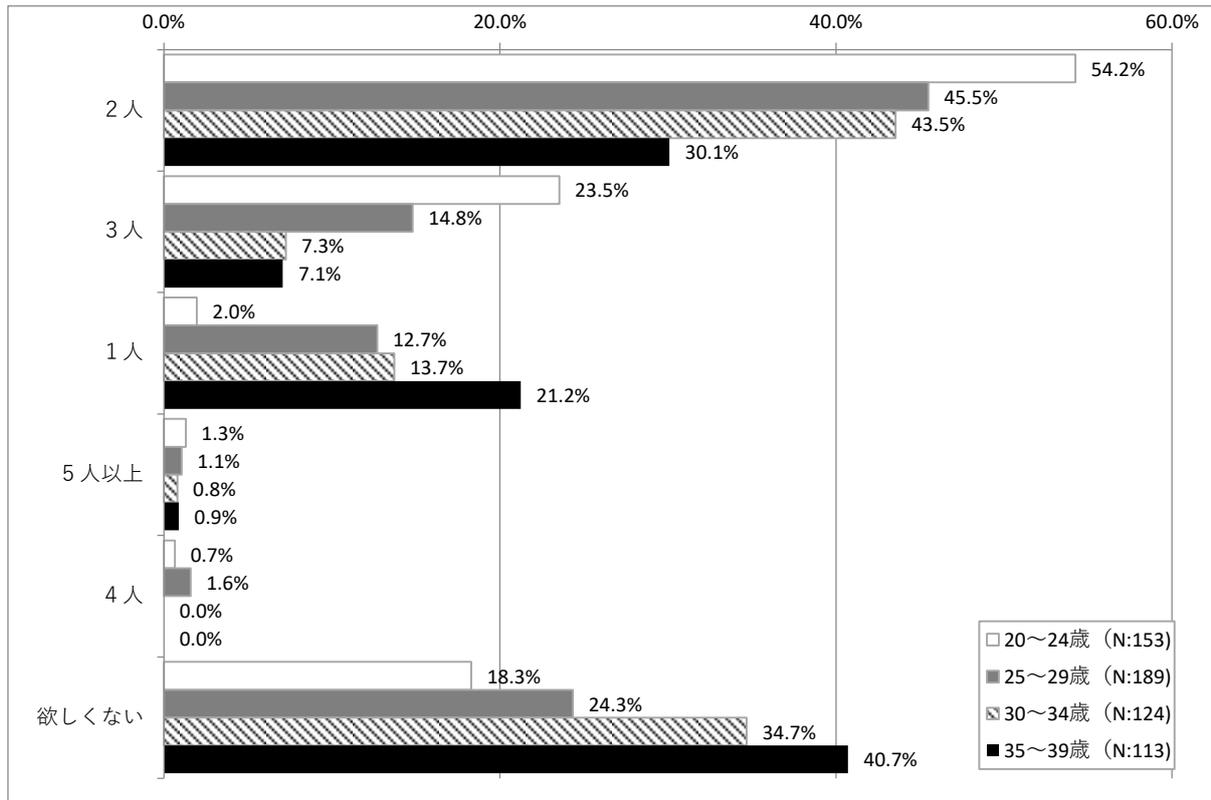


全体では、「2人」の割合が44.4%で最も大きく、次いで「3人」が14.0%、「欲しくない」が28.2%となっている。

【男女別】

「2人」は、男性48.9%、女性41.4%で男性が大きくなっている。また、「1人」～「5人以上」と回答した合計（子どもが欲しい）は、男性75.1%、女性69.6%で男性が女性より5.5ポイント大きくなっている。

・欲しい子どもの人数（年代別）



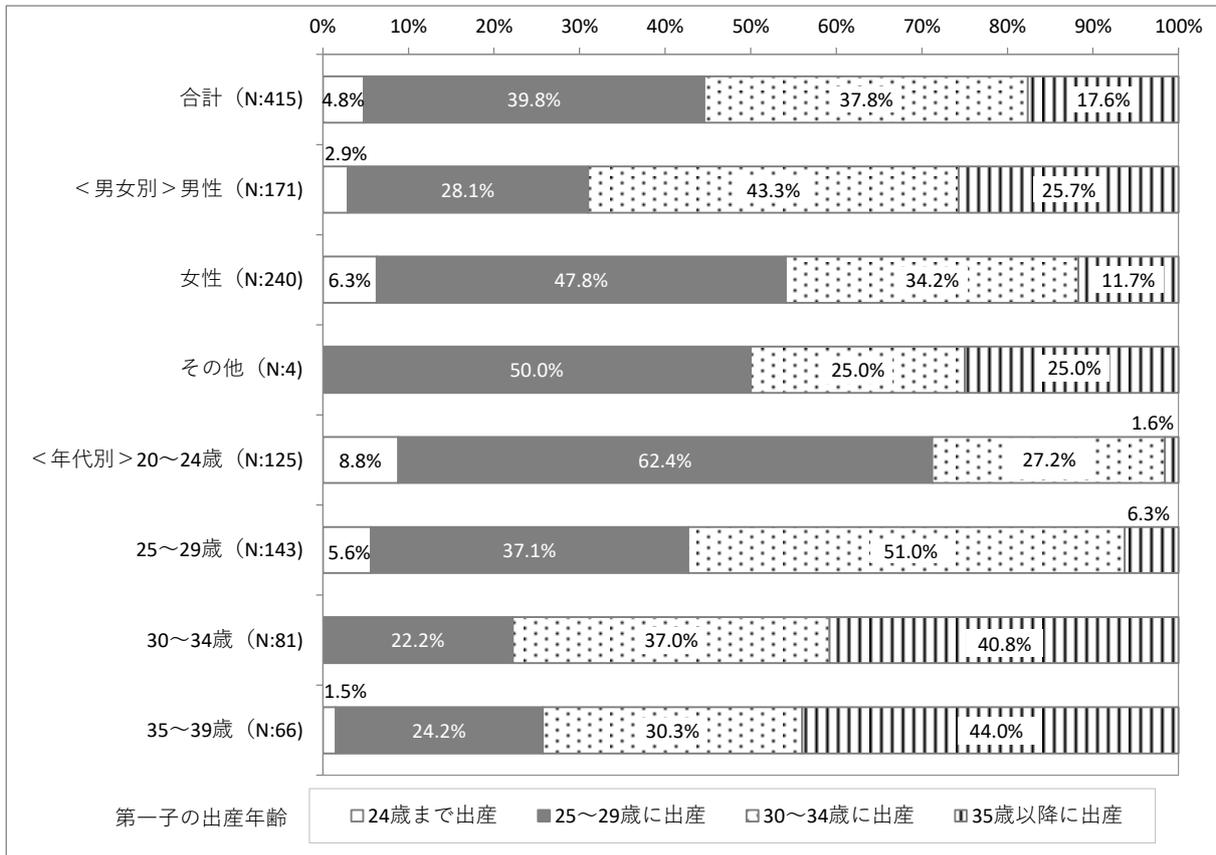
【年代別】

「2人」は、「20～24歳」が54.2%で最も大きくなっており、年代が下がるにつれて大きくなっている。「3人」も同様に、「20～24歳」が23.5%で最も大きくなっており、年代が下がるにつれて大きくなっている。「1人」、「欲しくない」は、「35～39歳」の割合（それぞれ21.2%、40.7%）が他の年代より大きくなっている。

また、「1人」～「5人以上」と回答した合計（子どもが欲しい）は、「20～24歳」81.7%、「25～29歳」75.7%、「30～34歳」65.3%、「35～39歳」59.3%となっており、年代が下がるにつれ子どもが欲しい割合は大きくなっている。

問43. 今後、子どもが欲しい方にお聞きします。あなたにとって、理想的には何歳くらいで第一子を持ちたい(又は持つべきだった)と思いますか。実際にどうであるか別にして、あなたにとっての理想的な年齢をお答えください。(数字を記入)

・理想的な第一子の出産年齢



全体では、「25～29歳に出産」の割合が39.8%で最も大きく、次いで、「30～34歳に出産」が37.8%、「35歳以降に出産」が17.6%、「24歳まで出産」が4.8%となっている。

【男女別】

「25～29歳に出産」が男性28.1%、女性47.8%で19.7ポイント、男性より女性が大きくなっている。「30～34歳に出産」は男性43.3%、女性34.2%で9.1ポイント、「35歳以降に出産」は男性25.7%、女性11.7%で14ポイント、女性より男性が大きくなっている。

【年代別】

「25～29歳に出産」は、「20～24歳」が62.4%で他の年代よりも大きくなっている。「30～34歳に出産」は、「25～29歳」が51.0%で最も大きく、次いで「30～34歳」が37.0%となっている。「35歳以降に出産」は年代が上がるにつれて大きくなっており、「35～39歳」が44.0%で最も大きく、「30～34歳」40.8%、「20～24歳」では1.6%と最も小さくなっている。

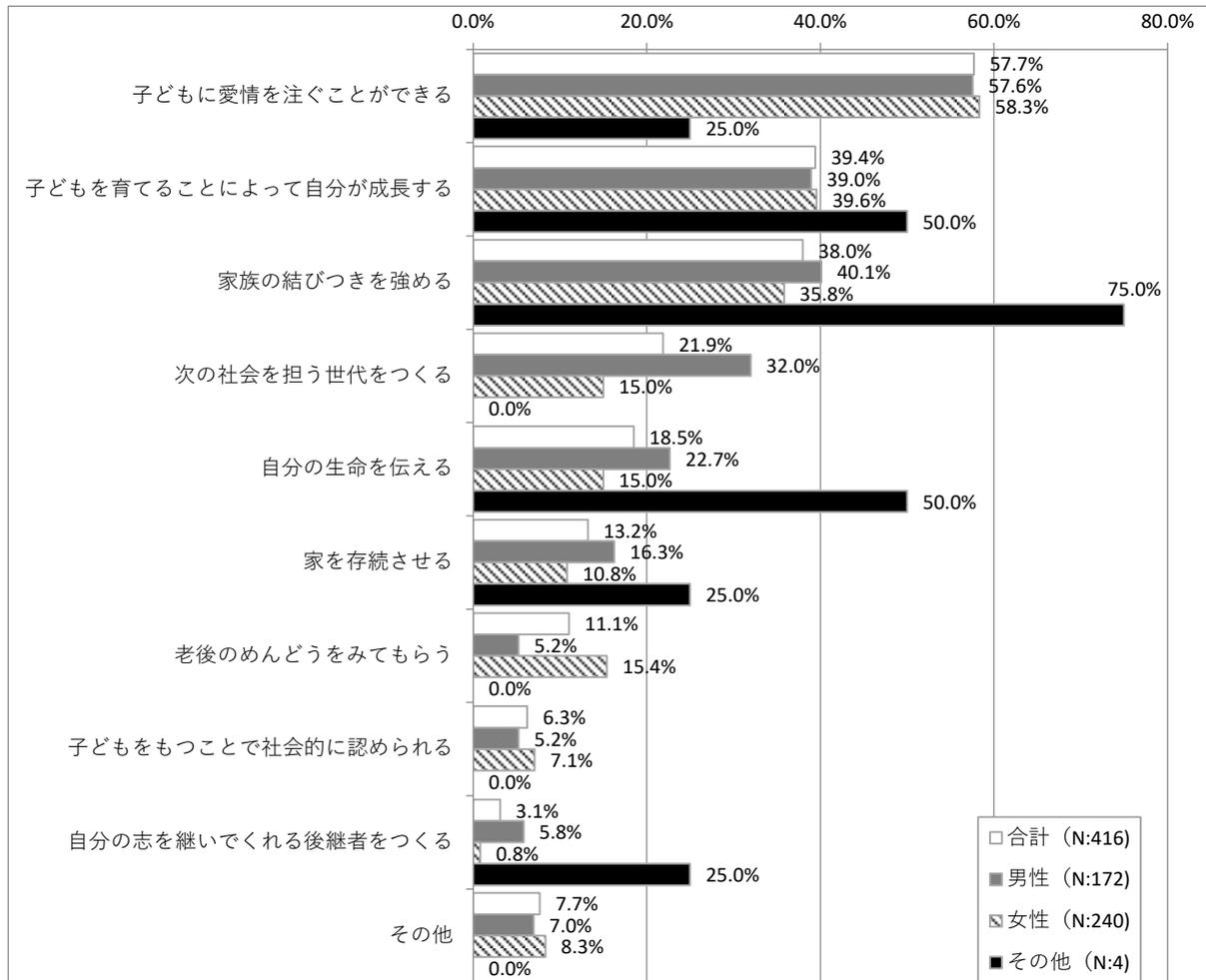
・ 男女別・年代別の理想的な出産年齢の平均

	男女計	男性	女性	その他
合計	30.0歳	31.3歳	29.1歳	29.3歳
20～24歳	27.6歳	28.3歳	27.2歳	-
25～29歳	29.2歳	30.6歳	28.4歳	30.0歳
30～34歳	32.6歳	33.8歳	31.7歳	31.0歳
35～39歳	33.3歳	34.2歳	32.5歳	25.0歳

全体では、30.0歳となっており、男女別では、男性が31.3歳、女性は29.1歳となっている。年代別では「20～24歳」27.6歳、「25～29歳」29.2歳、「30～34歳」32.6歳、「35～39歳」が33.3歳で年代が上がるにつれて、理想的な出産年齢も高くなっている。

問44. 子どもが欲しい方にお聞きします。あなたが子どもを欲しいと思う理由をお答えください。
(3つまで)

・子どもが欲しい理由（合計・男女別）

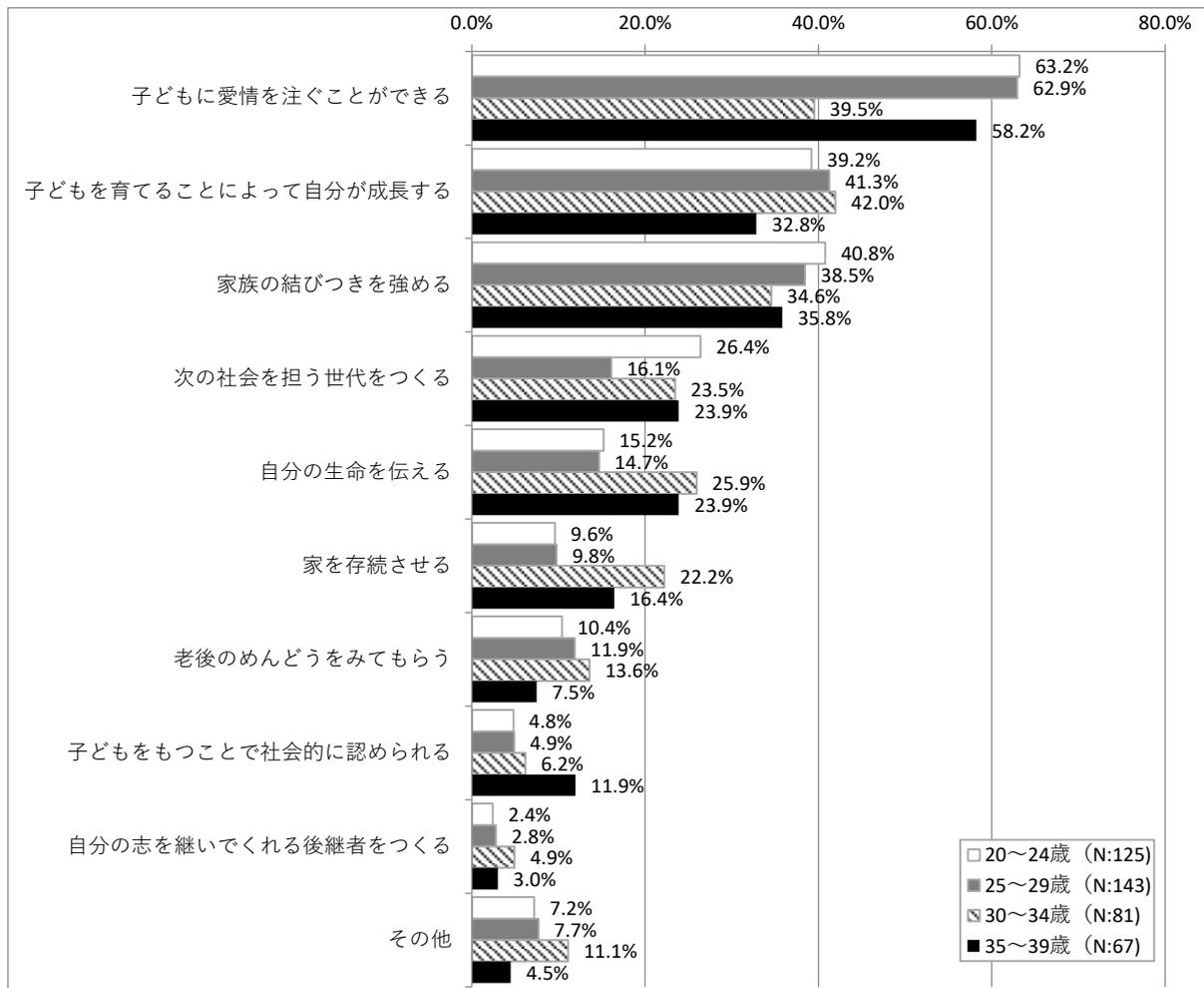


全体では、「子どもに愛情を注ぐことができる」の割合が57.7%で最も大きく、次いで「子どもを育てることによって自分が成長する」39.4%、「家族の結びつきを強める」38.0%、「次の社会を担う世代をつくる」21.9%、「自分の生命を伝える」18.5%となっている。

【男女別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」は、男性57.6%、女性58.3%、「子どもを育てることによって自分が成長する」は、男性39.0%、女性39.6%と、その差は1ポイント未満である。次いで「家族の結びつきを強める」は、男性40.1%、女性35.8%、「次の社会を担う世代をつくる」は、男性32.0%、女性15.0%、「自分の生命を伝える」は、男性22.7%、女性15.0%、「家を存続させる」は、男性16.3%、女性10.8%となっている。「老後のめんどうをみてもらう」、は、男性5.2%、女性15.4%と女性の方が男性より10.2ポイント大きくなっている。

・子どもが欲しい理由（年代別）

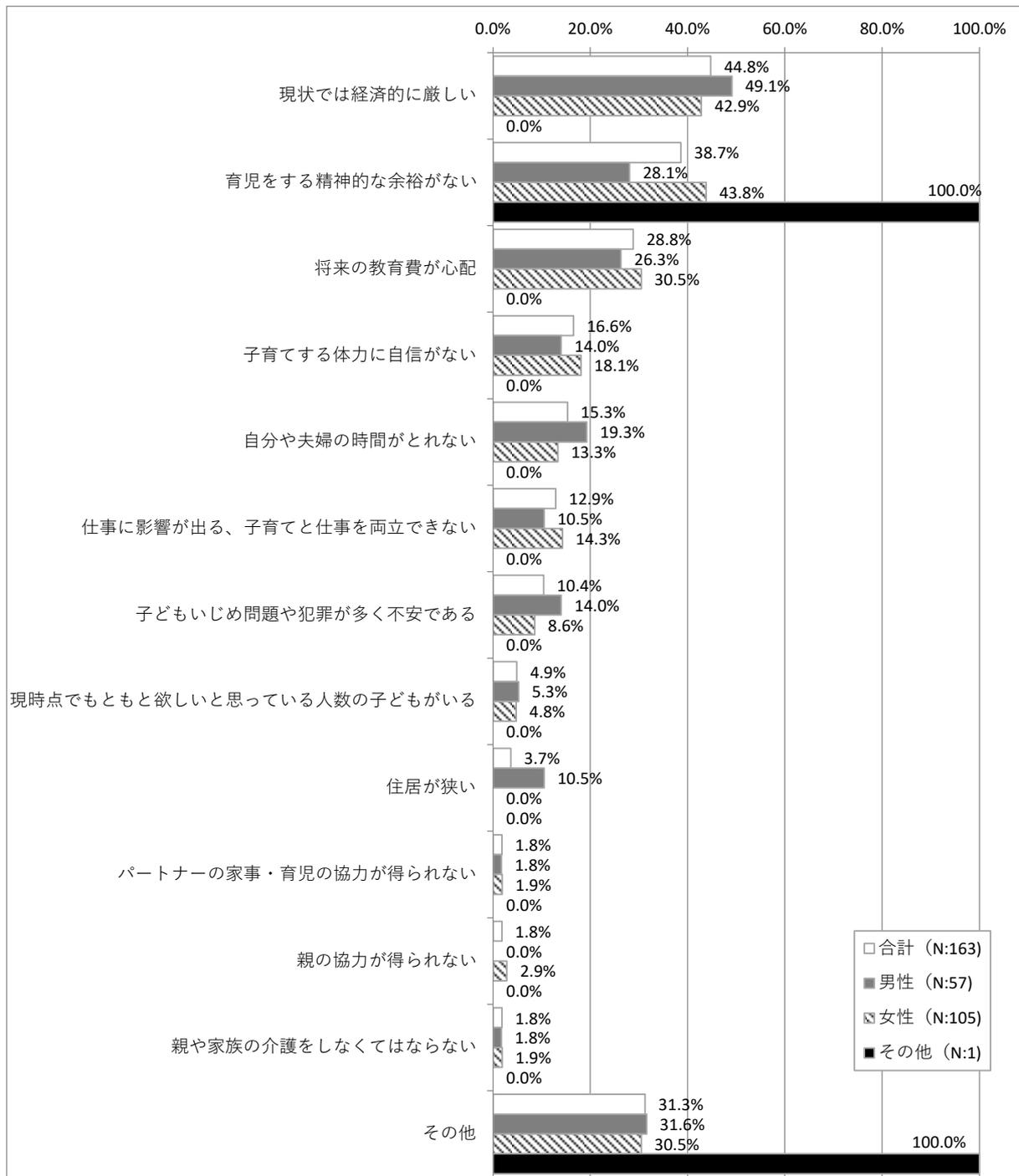


【年代別】

「子どもに愛情を注ぐことができる」は、「20~24歳」が63.2%、「25~29歳」が62.9%で20歳代が60%を上回っている。「子どもを育てることによって自分が成長する」は「30~34歳」が42.0%と最も大きく、「35~39歳」が32.8%で最も小さくなっている。「家族の結びつきを強める」では「20~24歳」が40.8%と最も大きい。「次の社会を担う世代をつくる」では、「20~24歳」が26.4%と最も大きく、「25~29歳」が16.1%と最も小さい。

問45. 子どもが欲しくない方にお聞きします。子どもが欲しくない理由をお答えください。
(3つまで)

・子どもが欲しくない理由（合計・男女別）



全体では、「現状では経済的に厳しい」の割合が44.8%で最も大きくなっている。次いで、「育児をする精神的な余裕がない」が38.7%、「将来の教育費が心配」が28.8%、「子育てする体力に自信がない」16.6%、「自分や夫婦の時間がとれない」15.3%、「仕事に影響が出る、子育てと仕事を両立できない」12.9%、「子どもいじめ問題や犯罪が多く不安である」10.4%の順となっている。

前回調査と比べて、「育児をする精神的な余裕がない（前回26.3%）」が12.4ポイント増加している。

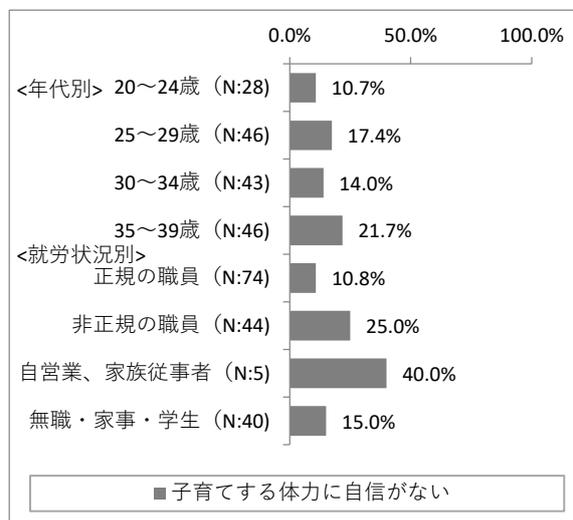
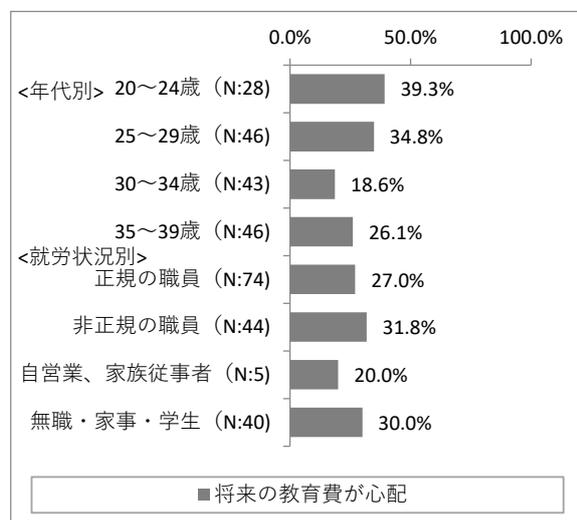
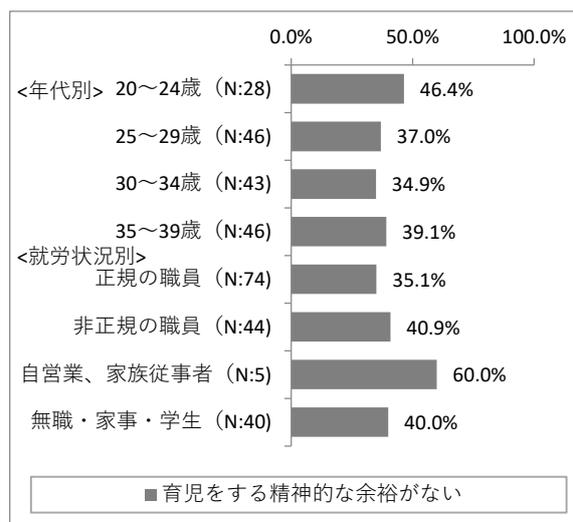
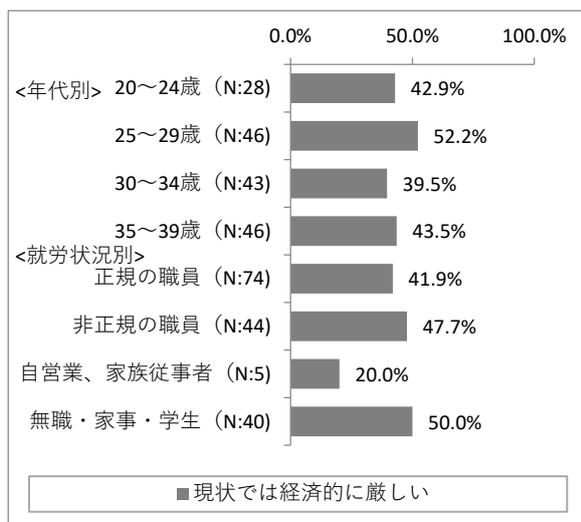
【男女別】

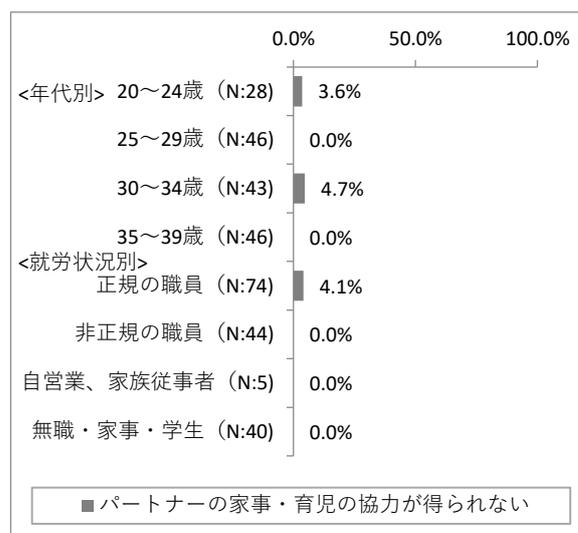
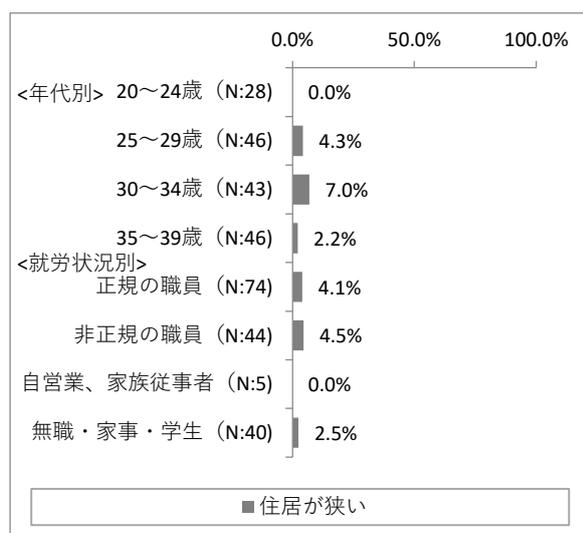
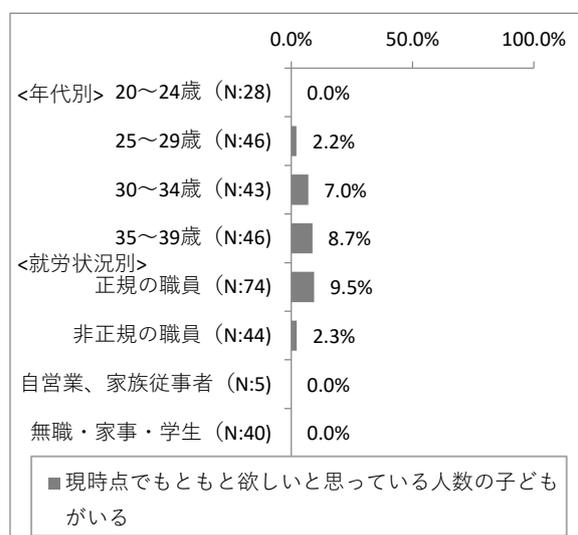
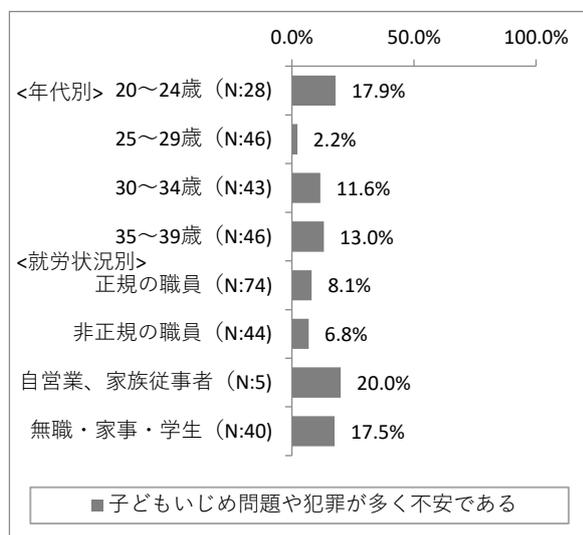
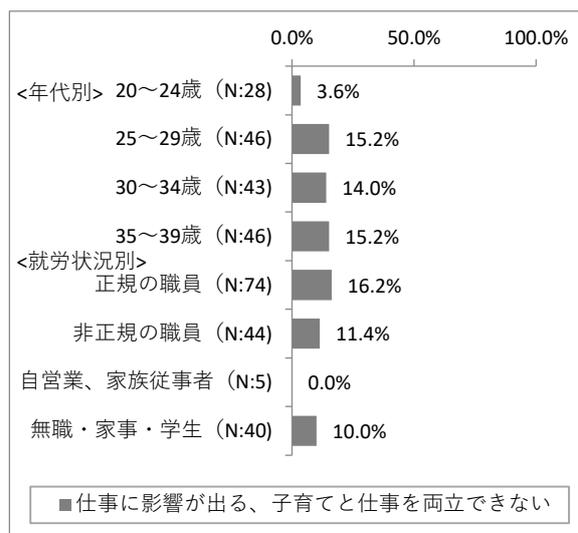
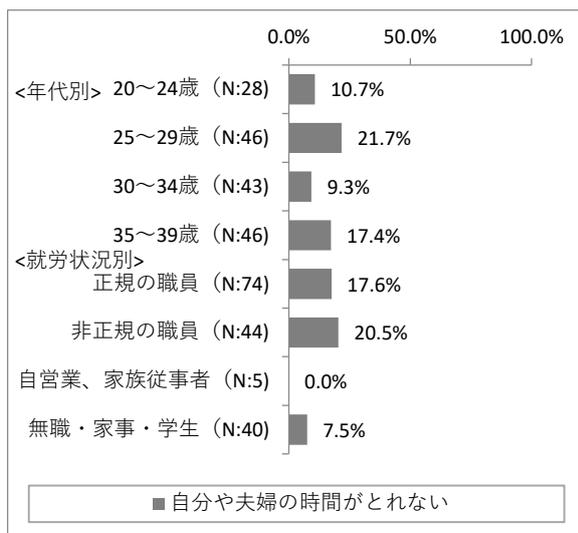
「育児をする精神的な余裕がない」は、男性28.1%、女性43.8%で15.7ポイント女性が大きくなっており、「住居が狭い」は、男性10.5%、女性0%で10.5ポイント男性が大きくなっている。

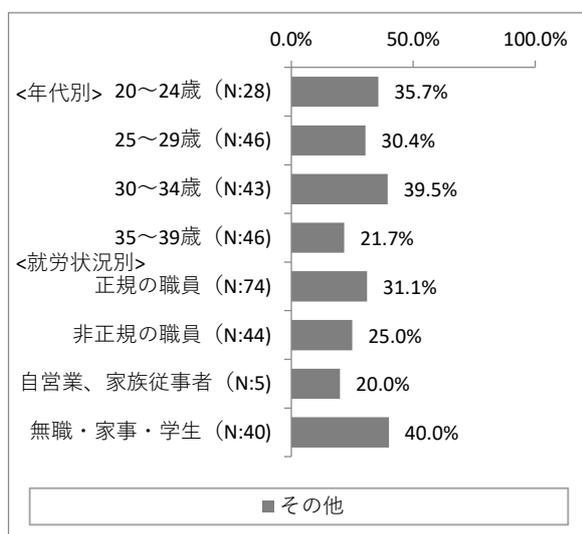
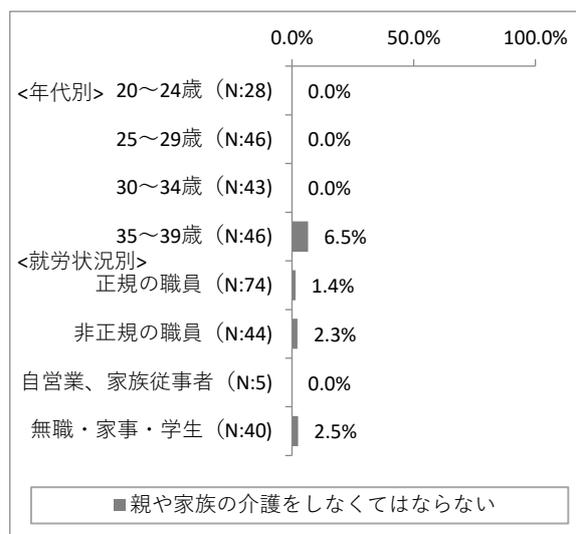
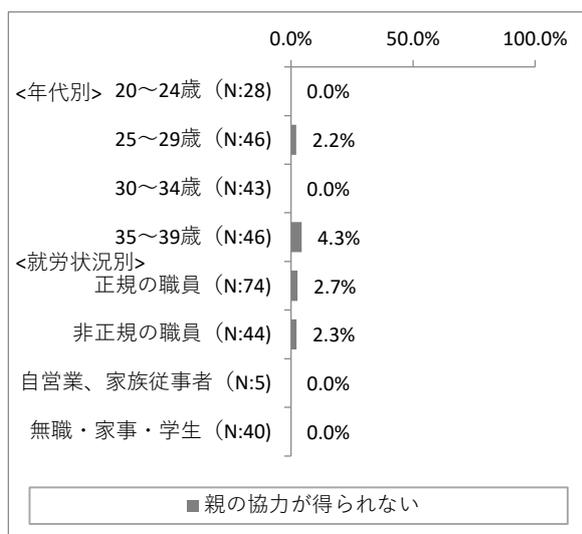
「現状では経済的に厳しい」は、男性49.1%、女性42.9%、「自分や夫婦の時間がとれない」は、男性19.3%、女性13.3%で（それぞれ6.2ポイント、6ポイント）男性が大きくなっている。

「将来の教育費が心配」は、男性26.3%、女性30.5%、「子育てする体力に自信がない」は、男性14.0%、女性18.1%で女性が（それぞれ4.2ポイント、4.1ポイント）大きくなっている。

・子どもが欲しくない理由（年代別・就業状況別）







【年代別】

「現状では経済的に厳しい」、「将来の教育費が心配」といった経済的な理由では、「現状では経済的に厳しい」は、「25～29歳」の割合（52.2%）が最も大きくなり、「将来の教育費が心配」は、「20～24歳」の割合（39.3%）が最も大きくなっている。「育児をする精神的な余裕がない」は、「20～24歳」が46.4%、次いで「35～39歳」が39.1%となっている。また、「自分や夫婦の時間がとれない」は「25～29歳」が21.7%であるのに対して、「30～34歳」が9.3%となっている。

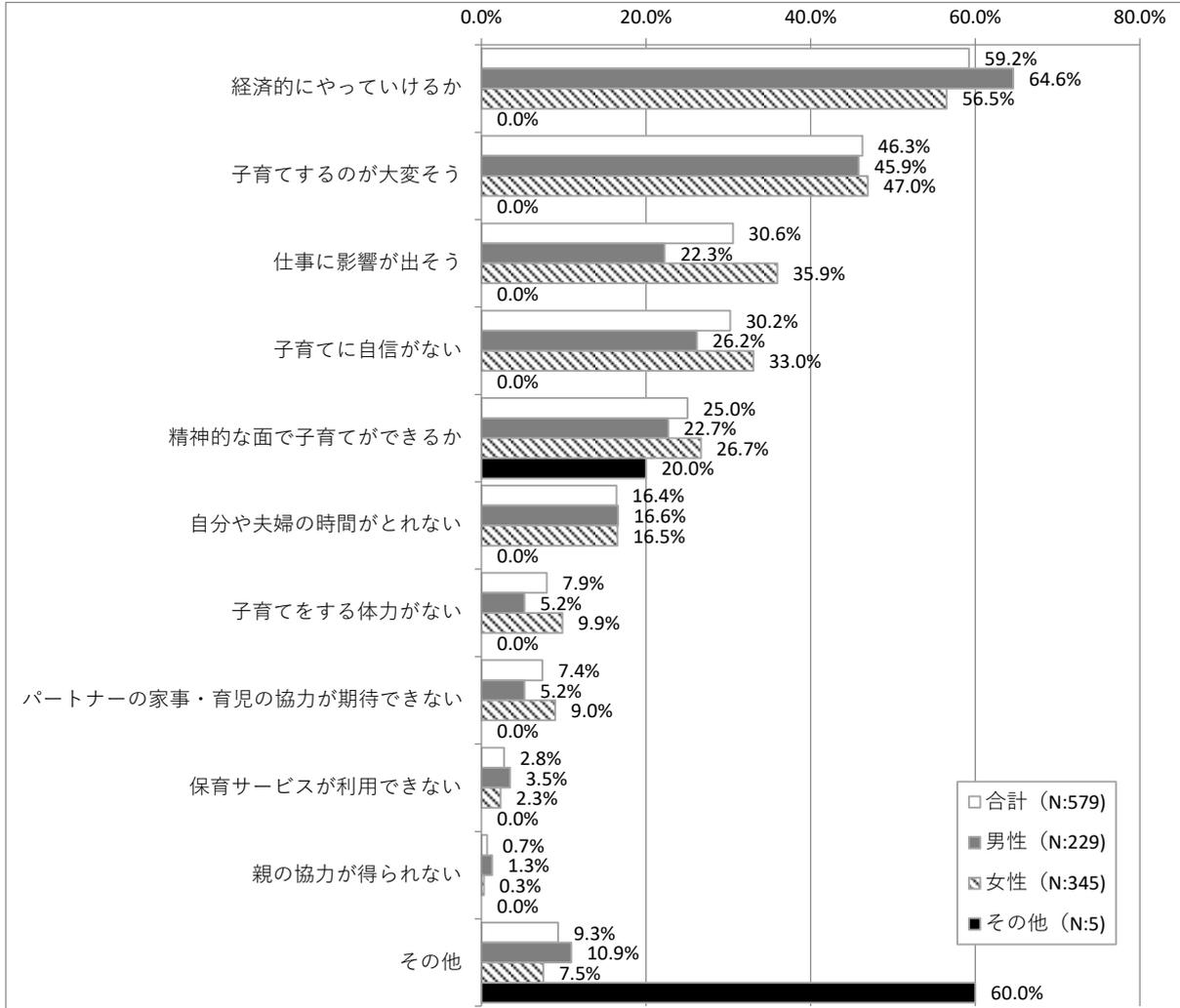
【就業状況別】

「現状では経済的に厳しい」は、「正規の職員」が41.9%、「非正規の職員」47.7%、「自営業、家族従事者」20.0%と、「正規の職員」、「非正規の職員」とともに40%を超えている。「子育てする体力に自信がない」は、「正規の職員」が10.8%、「非正規の職員」25.0%と14.2ポイントの差がある。

また、「育児をする精神的な余裕がない」、「子育てする体力に自信がない」は、「自営業、家族従事者」の割合が大きい。

問46. 子育てで不安に思っていることをお答えください。(3つまで)

・子育てで不安に思っていること (合計・男女別)

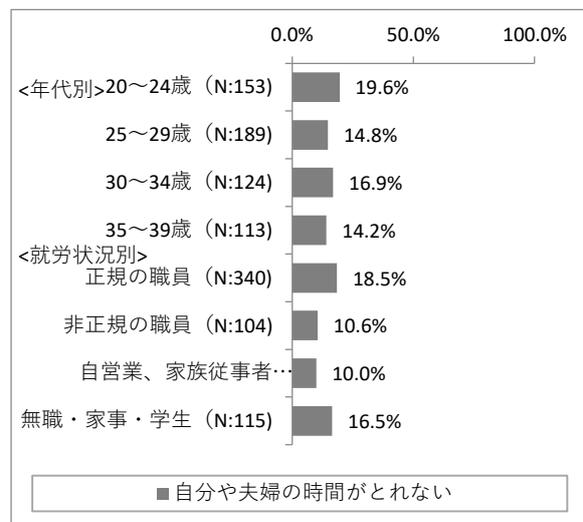
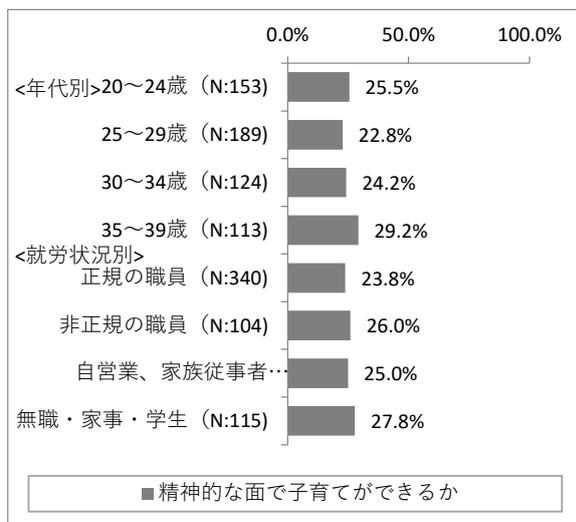
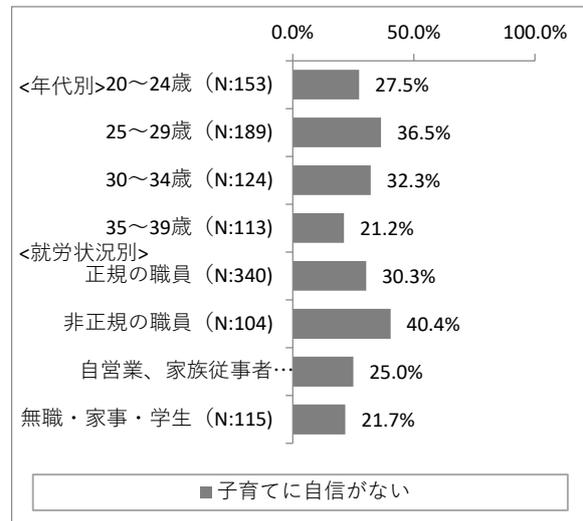
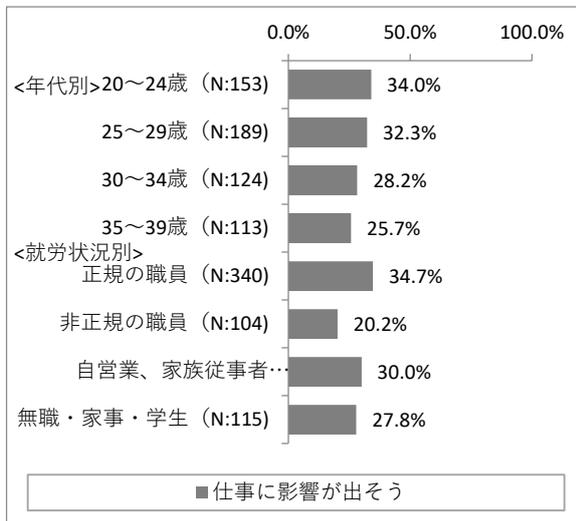
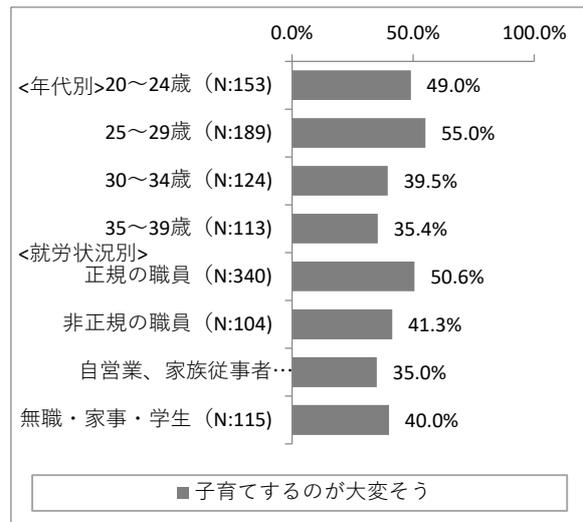
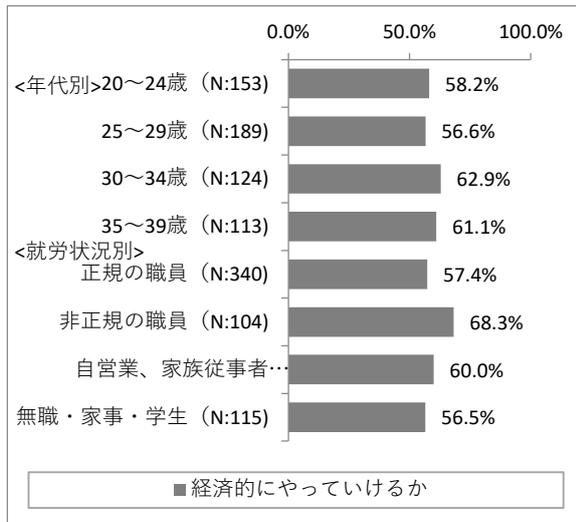


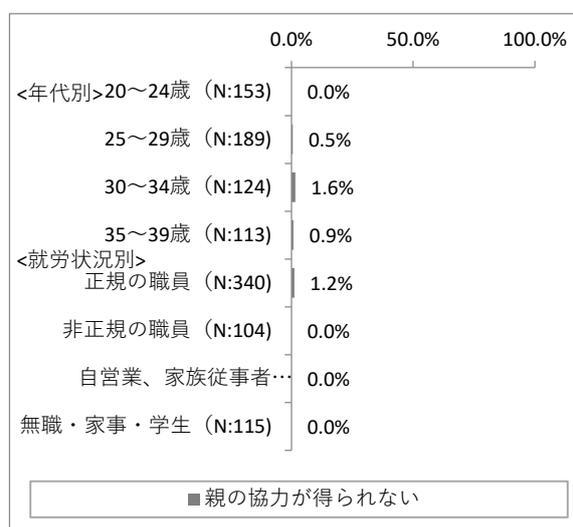
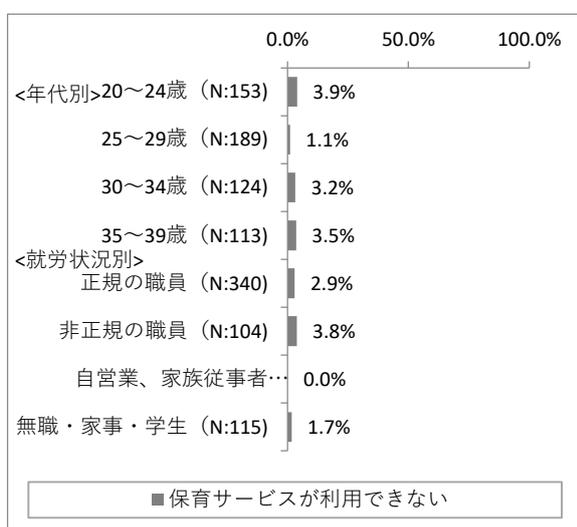
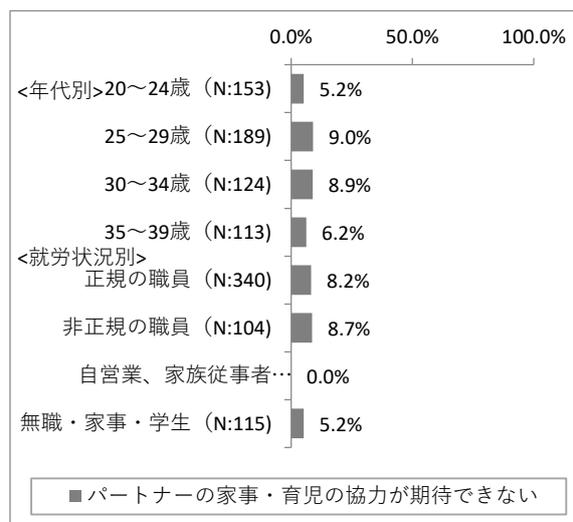
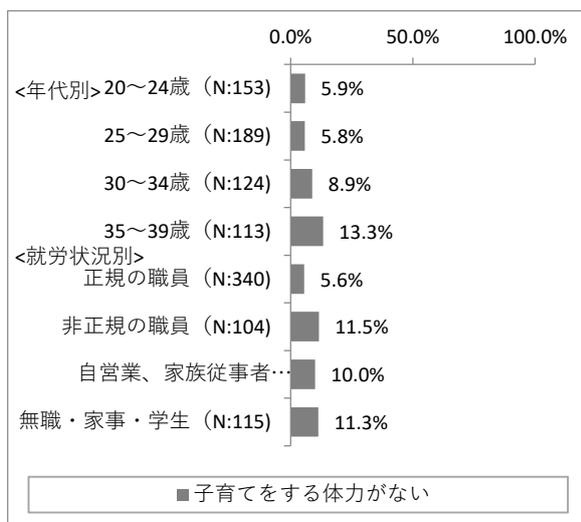
全体では、「経済的にやっていけるか」の割合が59.2%で最も大きく、次いで「子育てするのが大変そう」46.3%、「仕事に影響が出そう」30.6%、「子育てに自信がない」30.2%、「精神的な面で子育てができるか」25.0%となっている。

【男女別】

「経済的にやっていけるか」は、男性64.6%、女性56.5%で、男性が女性より8.1ポイント大きくなっている。「仕事に影響が出そう」は、男性22.3%、女性35.9%で、女性が男性より13.6ポイント大きく、「子育てに自信がない」は、男性26.2%、女性33.0%で、女性が6.8ポイント大きくなっている。

・子育てで不安に思っていること（年代別・就業状況別）





【年代別】

「経済的にやっていけるか」は、「30～34歳」が62.9%、「35～39歳」が61.1%で、20歳代よりも30歳代の割合が大きくなっている。「子育てするのが大変そう」は、「20～24歳」が49.0%、「25～29歳」は55.0%で、30歳代よりも20歳代の割合が大きい。

「仕事に影響が出そう」は、年代が下がるにつれて大きくなっており「20～24歳」が34.0%で最も大きく、「35～39歳」は25.7%と最も小さくなっている。

【就労状況別】

「経済的にやっていけるか」は、「正規の職員」57.4%に対して「非正規の職員」68.3%、「自営業、家族従事者」60.0%となっている。「子育てするのが大変そう」は、「非正規の職員」41.3%に対して、「正規の職員」50.6%、「仕事に影響が出そう」は、「非正規の職員」20.2%に対して、「正規の職員」34.7%となっており、「正規の職員」の割合が、それぞれ9.3ポイント、14.5ポイント大きくなっている。

自由回答のまとめ

結婚支援や少子化対策、子育て支援で考えることや意見、行政への要望を自由に書いてもらったところ、171人（29.5%）の方が記述してくださいました。

以下は、全ての記述内容を「経済的負担」、「相談」、「就労」、「結婚支援」、「交流」、「社会環境」、「学校・教育」、「医療」、「育児・子育て」、「施設」、「行政」、「調査票」、「その他」の13項目に分類し、まとめたものである。

回答内容	件数	項目
経済的に苦しく、子供を産むことを躊躇したり諦めてしまう。もっと生活に余裕がほしい。	8	経済的負担
経済的支援が欲しい。	6	経済的負担
子育て支援金などの支援が必要。	5	経済的負担
結婚、出産、育児にかかる経費の負担軽減が得られれば嬉しい。	4	経済的負担
何をするのにもお金が足りない。	3	経済的負担
賃金を上げて経済的余裕が欲しい。	3	経済的負担
もっと支援や補助金制度を増やしてほしい。	3	経済的負担
制服やジャージ、トレパンやかばんなどで金額がかかってしまうので、そういったものに対する支援があってもいい。	2	経済的負担
結婚以前に金銭的に厳しいので結婚を考える事ができない。	2	経済的負担
出産・保育の時期における経済的支援を特に充当すべきと考える。	2	経済的負担
出産・子育てに費用が掛かりすぎる。	2	経済的負担
奨学金返済が多くて結婚出来ないかもしれない。	2	経済的負担
若い世代は経済的に苦しい人が多いと思うので、結婚というのになかなか結びつかないと思う。	2	経済的負担
不妊治療などのサポートをもっと増えるべき。	2	経済的負担
DV被害などで恋愛、婚活が出来ない人への支援があればいい。	1	経済的負担
子供2人目まで医療費などの無料化など。	1	経済的負担
子供を育てて行く上で、お金がかかるのは仕方ないが、少子化対策のためには2人目以降の手厚い支援が必要だと思う。	1	経済的負担
子供の手当で余裕が出れば二人目の準備ができていくと思う。お金があれば子供は欲しいとは思っている。	1	経済的負担
お金があれば何人でも子供を産み育てられるが、収入が少ないから将来的に持つ子どもは1人かなとパートナーに言われているので、少子化は止まらないんだろうなと思う。子ども1人にかけるお金もどんどん増えているように感じていて不安。	1	経済的負担
義務教育では無い高校や大学などの費用負担をして欲しい。	1	経済的負担
大学卒業まで、授業料無料。	1	経済的負担
給食無償化が始まり、就学援助すら無意味となり、月の学費は一般家庭と変わらない請求。	1	経済的負担
高校生まで給付金を出すのではなく、大学生まで給付金を出してほしい。そうすれば大学に進学する人も増えると思う。	1	経済的負担
今や誰もが高校に行く世の中、高校も義務教育にして欲しい。	1	経済的負担
最低賃金を上げるべき。	1	経済的負担
ピンポイントでの補助より、全体の所得アップに力を入れてもらった方が結果的に少子化対策になるのではないかと。なぜそれがわからないのか、もしくは分かった上でそうしているのか。とにかく希望が持てないことは確か。	1	経済的負担
さまざまな費用の負担軽減。	1	経済的負担
まだ子供がいない世帯に対しても経済的、精神的に負担を軽減する政策が必要だと思う。	1	経済的負担
若者にもっと目を向けてほしい。 税金を払うのに精一杯なのに、結婚して子どもを産むなんて過酷過ぎる。 子育て支援金は有難いが、税金で飛んでいくので足りないと思う。	1	経済的負担
数十年前と比べて税金は倍になり、その時代に働いていた人たちは今や年金暮らし。今の私たちより明らかに手取りは多かったのに、今納税している若者たちは高齢者のために高額な税金を払わなければいけないのか。おかしい。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
物価上昇・増税・昇給したらその分さらに納税額が増える等々とられるお金が多く、将来結婚して子供が生まれても金銭的な不安が大きい。 出産費から学費・通学費に遠方だと寮費等子供にかかる費用が全て無料になれば良いと思う。	1	経済的負担
子育て経済的負担をなくしてほしい。	1	経済的負担
結婚祝い金が欲しい。	1	経済的負担
減税や税金の免除。	1	経済的負担
消費税などの減税を行ってほしい。	1	経済的負担
母子家庭ですが苦勞して正社員として就職し、遅番などをこなしているが、非課税世帯じゃなくなり高校の就学支援金すら受けられない状態。 パートでは暮らせないからと正社員として就職したのに非課税世帯じゃないから貰えないお金もある。戻って来るはずのお金も戻ってこない。 子供に関するお金は非課税世帯、課税世帯関係なく、貰えるお金が戻って来るようにしてもらいたい。修学旅行代も高すぎる。	1	経済的負担
ただ漠然と子どもはいらんと思うってしまう。 自分が生きていくだけで精一杯なのに経済的にも精神的にも肉体的にも自分を削ってまで育てたいとは思わない。 子育て支援策などで子育て家庭に金券をばら撒く政策で、こどもの数だけ金券を貰えるとしても産みたいとは思わないし、ただただ子育て家庭が妬ましく思うだけでつらいのは子育てしている人たちだけでしょ、という思惑を露骨に感じて気持ち悪い。	1	経済的負担
補助金程度では無理。税金をあげてもいいから高校まで医療や学費など諸々が無料なら結婚して子供欲しいと思う。今はデメリットしかない。	1	経済的負担
国への要望になるが、子育てにかかる費用全てを無償にするといった思い切った政策が必要だと思う。	1	経済的負担
子供にかかる医療費や教育費、生活上の必要な費用(オムツや衣料品など、用途を限定した商品券などの発行といった手段があるかと思いますが)を低減するであったり、子を持つ家庭に対する住民税等の低減は可能でしょうか。大胆であるとは思いますが、2人や3人以上の子どもをもうければ、住民税免除であったり、出産時に100万円単位、進学時に数万単位での現金の給付など。	1	経済的負担
子育て世代への支援もそうですが、少子化・人口減少を食い止める、その勢いを緩やかなものにするための方策が必要だと思う。非子育て世帯の方々からの批判もあるとは思いますが、子供を持ちたいとの希望をもつ方への思い切った財政支出をして頂きたい。子どもが欲しいけど経済的な余裕がないであるとか、1人はできたけど、2人目、3人目となると経済的に厳しく、諦める、といったことのないようにできないか。新しい県政に期待し、応援します。	1	経済的負担
サービスや資金援助の充実。	1	経済的負担
児童扶養手当が親と住んでいると貰えない。一緒に住んで居ても生活費は別なのだと思う。	1	経済的負担
妊娠出産に関わる検査等で、保険適用外のものもあるので、保険が適用されるようになればいいと思う。	1	経済的負担
出産費用の補助。	1	経済的負担
出産費用、学費(小学校から大学まで)を無償化。	1	経済的負担
育児金や寄付金を充実してほしい。	1	経済的負担
とりあえず消費税を廃止してほしいしインボイスもいらんない。そもそも政治のせいで自分の生活の余裕さえないのに結婚とか子育てとか考えられないでしょう。	1	経済的負担

回答内容	件数	項目
税金で持っていかれて今子供を持っている人、もてる人が妬ましい。今自分が食べるのにも困る日があり、子供が欲しかった20代は過ぎてしまった。どうにもならない。	1	経済的負担
税金が高いだけで、何もサポートされていない。 議会で昼寝しているような方々が上にいる国で、子どもを育てていくことに不安はある。	1	経済的負担
今の日本は子どもを産めというわりには税金を上げて海外にお金を配って物価は高くなるばかりで、子どもを産もうという気にならない。賃金が全国最下位の〇〇市であればなおさらだ。	1	経済的負担
〇〇は車社会にも関わらず、中心街には有料駐車場が数箇所しかなく、街といいつつ若者、子育て世代向けの商業施設等は希薄で老人ばかりが歩いている。 どんどん若者がいなくなり、子どもが減り、賃金も下がる悪循環。まずは街づくりをしっかりとの方がいいのではないかと。	1	経済的負担
自分が教育費の面でとても苦勞しているの、教育費はせめて高校、可能であれば大学まで無償化して、自分の子供には学びたいと思う学校に行かせたい。経済的な不安がなければ交際や結婚、出産の不安も少しは和らぐ。 パートナーと安定した関係、そして子供が出来てからも安定した生活を送れる日本になれば良いと思う。	1	経済的負担
増税ばかりで生活が苦しいから結婚が遠ざかる。結局は支援とかじゃなく、賃金を上げない限り少子化は止まらない。独身でも楽しめることが多い世の中なので尚更この問題は解決できない。	1	経済的負担
結婚・子育て支援に力を入れてもらえるのありがたいが、実際夫婦や親になった後に、経済的な面から他都道府県へ転出してしまうケースがあると思う。そのため、賃金等の就業面での支援もあると結構・子育て支援へも繋がっていくと思う。	1	経済的負担
自分の周りでは少なくとも、職場は人手不足で低賃金なところが多く身体的、精神的に、人との繋がりのためにお金をかけたいと思える時間が、発展している地域より少ないように感じる。	1	経済的負担
結婚の適齢期の人が少ない現状では、結婚は難しい。また、晩婚化で、結婚自体が厳しい状況なため、周りでも未婚の男性が多い。経済的余裕もないので、収入が増え、安定して仕事ができる環境にならないとこの状況は続くと思う。	1	経済的負担
ひとり親家庭に対する支援の充実をお願いします。	1	経済的負担
シングルマザー、シングルファザーなど貧困な人への物価高騰対策。	1	経済的負担
今日の物価上昇、昇給しても変わらない手取り収入、政府の国民無視の態度、罰金（税金増と助成や補助の減額新しい税金の導入）、親の再婚から再離婚劇を見て、将来の希望が何も見出せない。まずは、国や都道府県を運営している人達が、本当に子供増やしたいという覚悟を見せて欲しい。	1	経済的負担
平均年収が400万にも満たない青森で、結婚や子育てをしようとする人が少ないのは当然ではないでしょうか。	1	経済的負担
物価や税金が上がるような政策をしているので、少子化になるのは必然的だと思う	1	経済的負担
保険料が高く手取りが乏しい。保険料を下げしてほしい。結婚しない要因はそれだけではありませんが、正直苦しい。	1	経済的負担
マイホーム支援をお願いします。	1	経済的負担
離婚している方は養育費もあり、次の恋愛への進みづらさがあると思う。	1	経済的負担
少子化を何とかしたいと考えるのであれば若者が充実した生活を送れるような施策を行なってからではないかと考えます。	1	経済的負担
給料を上げて欲しい。お金がなきゃ生活できない、1人でも苦しいのに。	1	就労
賃金の低さが、結婚や子育てを含め全てのことへの余裕や関心、実行力を無くしている。	1	就労

回答内容	件数	項目
最低賃金が低い。	1	就労
会社側が子育てに理解するように働きかけて欲しい。発熱等で会社から迎えに行かないといけな場面嫌な顔をされたり、偏見を受けたりで、辞めていった女性を見てきたので、会社側が理解しないと子育ては難しいと思う。	1	就労
中小企業は結婚や子育てするといいい顔をしない。有給使わせてくれない。	1	就労
職場での子ども関連の急な欠勤などを、取りやすくする環境を県や市が積極的に作って欲しい。	1	就労
経済的余裕が持てるよう支援、雇用の確保。	1	就労
過疎部での雇用の増加。	1	就労
子供の都合であっても、急遽休めば欠勤扱い。	1	就労
職場によって様々だとは思いますが、仕事を割り振っても結局は仕事ができる人に負担がかかるなどで、自分かけられる時間が少ない、これが現状ではないだろうか。	1	就労
母や親戚が保育士をしています、責任が重い仕事の割には1人では生活していけないような賃金。母は現在の保育園に勤めて10年以上になりますが、昇給はなく、ボーナスは0.5ヶ月分のみ。 安心して子供を預けられる環境にするためにも、そこで働く人たちの処遇改善にもう少し取り組んでいただけると嬉しい。	1	就労
高校教員をしており、部活動を二つ兼部しているので、平日は帰宅が20時になる。土曜日でも部活動があり、大会があれば土日どころか、採用になってからずっとまともに三連休やGWの休みもない。マッチングアプリで出会っても、会うための休み自体が少なく、また大会や模試が続くと1ヶ月ぶりの休みだったりするので、人に会おうという精神的・体力的余裕がない。今は権利を主張する人も多いため、育児や介護の都合で休みを取っていたり、仕事の負担が軽減されていたりするのですが、その人の分の仕事が独身を筆頭に他の人に回される。一部の人を除いて、自分の私生活を犠牲にしないと学校の先生なんてできない。そこを理解してくれる同業者と職場で出会って結婚するのが一番なのだろうと思う。	1	就労
転職支援してほしい。	1	就労
私の職場では、プラチナイクグルミンを取得しているが、実際は子供が体調不良で何日も休んでしまうと出勤率が悪いから雇用の継続が出来ないかもしれないと言われる。イクグルミン認定する基準を上げて欲しい。	1	就労
女性の家事負担が多く、パートナーの自覚がない男性が多すぎるので、夫婦で赤ちゃんのお世話に関する教育を受けるとか、受けられるように仕事でも自由に使える時間を増やすとか、女性にばかり負担がいきやすくないような働き方の見直しが必要だと感じている。	1	就労
独身者が子育て中の既婚者の代わりに仕事量が増えて婚活に気が向かない。女性の多い職場だと特に。	1	就労
結婚や子育て支援も勿論だが、それをサポートする人たち（保育士、教諭、看護師、医師、あるいは子育てする人の同僚など）の給与や勤務時間等の改善にもつとめてほしい。	1	就労
新たに結婚支援、少子化対策、子育て支援するのではなく、全体的に賃金を上げ、新卒で入った会社を辞めてもやり直しやすい社会になれば、それが結婚支援や少子化対策、子育て支援に繋がると思う。	1	就労
産院も少なく、出産後は病児保育もなく、親が休んで子供の面倒を見ないといけなのに職場の理解も得られない。 しかし食べていくためには休めないし残業も必須な基本給という会社ばかり。	1	就労
育児休業など取るのが当たり前になるような制度、会社で義務化できるくらいになったらかなり嬉しいだろうと思う。	1	就労

回答内容	件数	項目
女性が時短勤務をしたりなど、やりたい仕事ができないイメージがまだまだある。今の職場でやりたい部署で働き続けたいので、行政がやっている夜間保育などがあればもっと安心して子供を産もうと思えると思う。	1	就労
仕事と家庭の両立ができる環境、職場の整備。	1	就労
気軽に参加できる出会いの場を増やしてほしい。	6	結婚支援
県がやらなくても結婚相談所やマッチングアプリなど民間に任せて、経済対策のみに重点をくべき。	2	結婚支援
街コンを田舎にももっとほしい。	1	結婚支援
特に期待はしていませんが、男女平等を掲げている世の中で、街コン費用が男性だけ高いことを疑問に思う。	1	結婚支援
病気で働けない状態の人への結婚支援があると嬉しい。引け目があり、恋愛や結婚を諦めている。	1	結婚支援
マッチングサービスは、健康上の問題がない人が対象と見た気がする。現実的に難しいと思うが、病気を持っても結婚に興味がある人もいると思っている。県や市が、結婚、子育て、少子化対策に積極的に調査、支援していくことは素晴らしいことと思うので、ぜひ力を入れて欲しい。	1	結婚支援
〇〇市は結婚支援がないので、もっと考えてほしい。	1	結婚支援
少子化を変えるには、まず結婚する人を増やさないとならないのに、結婚している人のサポートが充実していつているため、根本的な解決が出来ていないと思った。	1	結婚支援
若い世代が結婚できる所得が得られる社会やサポートがあると良いと願っています。	1	結婚支援
遺伝子レベルでの相性の良い人と知り合いたい。	1	結婚支援
AI であろうなどのマッチングアプリは結婚支援や少子化対策の為に行っているのになぜ利用する県民が利用料金を払うのか。無料じゃないと意味が無いと思う。	1	結婚支援
同じ年頃の人が身近にいない。大体いい人は30歳をこえるとみんな結婚している。マッチングアプリなどでもこの辺は田舎なので知り合いの知り合いとか近い人ばかりでとても実用的ではないと思う。	1	結婚支援
案内などを家に郵送すると目に留まり、そういう活動に興味を持つと思う。	1	結婚支援
結婚相談所の料金は高額であることが多く、支援などが必要と思う。	1	結婚支援
インタビューなどで、結婚することによって得られるメリット、デメリットを紹介して欲しい。失敗している人を何人か見てきているので、慎重に決めたいと思っている。	1	結婚支援
結婚支援について、県の行うサービスがあることを初めて知った。結婚に対して積極的に動いたことが無い為、利用に対してなかなか積極的に踏み切れない。結婚を実現した人の事例などを知る機会などがあれば、一度訪れてみたいと少しだけ考えた。	1	結婚支援
少子化が問題であれば、イベント等企画を多めに考えていけばいいのでは。〇〇限定とかは無しにしたり、参加費を少なくするなど。金銭的な部分でも、参加しづらいと思うようなものはやらなくていいと思う。	1	結婚支援
結婚したいし子供も欲しい。子供も好きですし、相手に特に望むこともありません。しかし世間では年収最低400万ぐらいないと結婚できないとも言われており、到底足りないのが現状で、選んでもらえないことなのでしょう。いったいどうしたらいいのかわからない。	1	結婚支援
出会いが無い。	1	交流

回答内容	件数	項目
私の周りで旦那さんの転勤で県外から青森にきたという女性が何人かいて、知り合いがいなくて寂しいという声を聞いた。土日に紅葉を見に行くなど、青森県内の良いところを知ってもらいイベントを開いてみるのも楽しいのではないかと思った。	1	交流
若者が県内に留まるような魅力が青森には足りない。外に足を運びたいと思わせるような様々な企画やイベントを開催してほしい。	1	交流
行政の主導で「出会いの場」を増やし、広く周知してくれるとありがたい。	1	交流
私は登山やイベントが好きなので、そういったイベントで良い出会いがあれば気持ちが変わるかもしれません。 今は積極的に婚活しようと思っていないので、結婚を前提にしたイベントには参加する気はありません。	1	交流
年頃が近い子供たちを対象とした親同士の交流があればいいと思う。	1	交流
結婚も子を持つことは私にとって嗜好品、贅沢品だ。金もないのに子を産んで、惨めな思いを我が子にさせると思うと到底子を産もうとは思えない。結婚も然り、どちらかが働けなくなったら生活がすぐに困窮するような状況では責任は果たせない。	1	社会環境
結婚出産しない人やセクシャルマイノリティへの差別的な政策にならないよう公正性を考えてほしい。産休育休を支える人への手当や、子育て世帯だけではなく全体的な貧困対策が少子化対策に繋がると思う。 今の生活に余裕が無いと、結婚の前に恋愛に前向きになれないと思う。	1	社会環境
女性の社会進出によって、キャリアを積んでから結婚を考える女性が増えているのが現状で、私もキャリアを積んでから結婚したいと考えている。しかし、実際にキャリアを積んでからの結婚だと妊孕性の低下が問題となってしまふ。女性がキャリアを積みながら子育てできる地域にすることが大切ですが、そのためには周囲の人だけでなく、地域の支え、会社の理解が必要だと思う。	1	社会環境
近年のニュースを見ると学校や地域などの様々な場にていじめの存在がようやく表沙汰になってきたことが感じられる。いずれ子供を持ちたい側の身を思うと、こちら側がそのために手を出すことが出来ない場にていじめなどに巻き込まれる可能性が常にゼロパーセントでもない、ということを見ると、とても家庭外の様々な外部へ委託することに不安を大きく感じる。	1	社会環境
結婚＝子供という考えの人は多いと思う。そしてやはり支援、経済問題が1番だと思う。子供を育てていけるのか不安、だから子供はいらない、なら籍をいれる必要はない。事実婚も普通になった現代だからこそ、それで良いという考えは多い。事実婚の方が責任問題、両家の付き合い等、メリットは多い。	1	社会環境
30代になると途端に周りから「20代だったらよかったのに」「早く結婚しないと」と急かされますが、私は働いていたいし、結婚したとしても今度は「孫はまだか」と妊娠を強要される。親世代の結婚観の押し付けや、高齢出産による障害を持って生まれる子どものリスク回避のためにも、里親制度や養子縁組の方の周知に目を向けてはどうかと思う。	1	社会環境
先が暗いと私の周りの人間は言い合っている。そんな中で子どもを産み育てていくのは生まれてくる子どもが可哀想だからという理由で子どもを産まない人もいます。こんな社会では日本は外国人だらけの国になってしまう。もっと日本の若者、これからの担っていく人達が安心して暮らしていける社会づくりをお願いします。	1	社会環境

回答内容	件数	項目
<p>少子化以前に根本的な人口減少(若者が地方や県を離れること)が著しい。 例えば、地方に全国区で展開しているようなフランチャイズチェーン店を誘致したくても、誘致にはある程度の人口があることが条件に挙げられていたりする。 その条件を満たさないと誘致できないし、ないのであれば地方を離れる選択肢を取る人が多くなる悪循環となる。 この悪循環を解消することも少子化対策に関わってくるはずである。</p>	1	社会環境
<p>アロマンティック・アセクシャルについて、またはそういった難しいカタカナを使わなくてもいいので、そういう人がいることをもっと理解して欲しいし、そっとしておいて欲しい。</p>	1	社会環境
<p>一度結婚・出産をして離婚した身にとっては、結婚や子育てのメリットが一切ないので意欲的に再婚をしたいと思わないし子育てしたい気持ちにならない。 ひとりまたはお付き合いしているパートナーがいるくらいが気が楽。 面倒な親戚付き合いもいらない、自分のために自由にお金も時間も使える、という生活に戻ったらもう結婚や子育てをしたいと思います。</p>	1	社会環境
<p>結婚支援について青森県では様々な取り組みをしていることは存じております。しかし、日々の仕事に追われ、結婚するために行動を起こそうとする、パートナーがいない方で、これから結婚をしようと考えられる30代後半は少なくないのではと思っています。パートナーがいたとて、今の仕事の状況を考えると疲れ果ててしまい、自分の幸せのために考える気力もないというところが正直なところだ。</p>	1	社会環境
<p>もっと暮らしやすい世の中になってほしい。</p>	1	社会環境
<p>若者たちが県内に残って、さらに県外からも移住者が増えない限り、少子化政策をやっても効果がないような気がする。</p>	1	社会環境
<p>同性愛者でも子供がもてるようになると良いと思う。</p>	1	社会環境
<p>今どき「結婚しなければ半人前」といった見方をされたり、「いつ結婚するのか」と過度に干渉されることもある。 そういった雰囲気や空気にも嫌気が差し、県外に出ていく人もいるのではないかと。</p>	1	社会環境
<p>男性が管理職になる会社がほとんどだからワンオペの育児の大変さはわからない。保育園から連絡がきて迎えに行くのは母親ばかりだ。</p>	1	社会環境
<p>子育てに力を入れても、成人になった時に半分以上は県外就職。残ったのは高齢者とわずかな若者。 職場は若い人にきついシフトを押し付け、その割に賃金が良くない。人材はいても資格が前提条件で門前払い。根気よく丁寧に育てないと人口は減る一方でそのつけを後々払うことになり、払う頃には打開困難な状況になる。 働く人がいなくなったら支援に使うお金、税収も今より少なくなる。 投資した割に県外へ行く様な新しい命に支援しないで、県外の現役世代が来なくなるような職場や仕組み、雪道の除雪道路インフラ、土地利用など活用すれば人はある程度定住して、人口あるいは子育ては充実し、税収が増えるから大きな予算で色々な事にお金を使う事ができる。 人口を増やすなら、育てるよりもスカウト環境を整えた方が、20年待ってイマイチより効率が良いと思う。歩いている人、車の流れは街を表す鏡だと思う。</p>	1	社会環境
<p>学生の目線から見ると、今の日本で結婚して子供を育てるメリットよりもデメリットの方が大きいように感じる。</p>	1	社会環境

回答内容	件数	項目
<p>スキルアップしながらの結婚、子育てはハードルが高く自分も晩婚化する気がしている。同世代が都会へ行ってしまい、出会いが減っている。色んなカップル、夫婦があり多様性があると思うが、付き合っている時はSNSから人と比べて羨ましく感じてしまう傾向があって不安を感じることもあるので、今現在はマイナスイメージが強くなってしまった。</p> <p>子育ては目まぐるしく、自分の時間を削って子どものために働いたり、生活しているイメージのため、早く経済的に安定して結婚、子育ての準備をしたいと考えている。そのタイミングが合って、苦楽を共にできる人と出会えたら嬉しいと思っている。</p>	1	社会環境
<p>前提として、結婚に対する価値観が変化している。「してもしなくても困らない」のが結婚。30年前は結婚するのが当たり前、特に女性は就業機会の観点からも、独身では経済的に生活ができなかった。しかし、現代では生活が便利になり男女を問わず独身でも困らない状況。</p> <p>アンケートの選択肢には含まれていませんでしたが、精神的・経済的な理由以外に「子どもが苦手」という価値観もある。乱暴な言い方をすれば、子どもは「いてもいなくても困らない」存在です。「将来がさみしくなる」など精神的な不都合を感じる層が多数派と思うが、先述のとおり、家族を持たなくても生活できる現代が、結婚しない・子どもを持たないという選択肢を生んでいる。</p>	1	社会環境
<p>心の余裕が出来ないと、不安で子供を殺害、相談できなくなると事件が多くなりまた違う事件が生まれてしまうから、民間によりそえるもう少し違う行政ができると産みやすい欲しいと思える社会になると思う。</p>	1	社会環境
<p>県内の学校は冷房設備がないところが多いので、子供を安心して通わせられるように冷房を設置してほしい。</p>	1	学校・教育
<p>高校までは義務教育でいい。</p>	1	学校・教育
<p>教育に関するすべての支援の充実化。</p>	1	学校・教育
<p>病児保育可能な施設を増やしてほしい。</p>	3	医療
<p>妊孕性の低下の問題では不妊治療をする人が増えると思う。不妊治療について正しい知識が無いためにマイナスなイメージを持っている人がまだまだ多くいるために治療に踏み出すことが出来ないなどの現象が起きていると思う。不妊治療について多くの人が知識を持ち、理解を示してあげることが大切。</p>	1	医療
<p>私の居る地域は医療や教育、福祉サービスが充実していないと感じる。特に医療の不安が大きく、今後結婚し妊娠したとしても、出産可能な最寄りの医療機関まで車で一時間近くかかる総合病院のみのため、自分に合った産院を選べない等の問題があり不安。医療の充実や人材の育成に力を入れていただければとても有難い。</p>	1	医療
<p>子供を出産するに当たって、痛みの問題もあるため、無痛分娩が出来る病院がほしい。</p>	1	医療
<p>我が家は二人とも発達障害です。青森県ではろくな療育も受けられない。来年、子どもたちと他県へ引っ越す。青森県では子育ても生活もできない。</p>	1	医療
<p>ベビーシッターの制度や補助を拡充して、両親が共に昼寝やプライベートを楽しむ時間を確保できるようにするべきだと思う。親戚などに預けるよりも、プロであるベビーシッターに預けることの方が安心感がある。</p>	1	育児・子育て
<p>子供を預ける場所の確保。</p>	1	育児・子育て
<p>保育士の待遇を改善することで、より子育てがしやすい環境になると考えている。保活などとも呼ばれますが、親の助けありきで考えるのではなく、夫婦で子育てができるだけ完結できるように、行政の支援が必要だと思う。</p>	1	育児・子育て

回答内容	件数	項目
医療面や子供を育てる上での経済的支援とともに、子育てをする親が少しでも笑顔で安心して子供を育てられるような子育てのワンポイントアドバイスや精神的支援を積極的に行って欲しいなと思いました。	1	育児・子育て
子育て支援をどんどん進めてほしい	1	育児・子育て
共働きの予定なので、保育園等が充実してくれるとありがたい。	1	育児・子育て
保育園等のサービス向上。	1	育児・子育て
夫婦共働きが一般的になってきた現代において、もっと出産、育児と仕事が両立できるシステムがあればいいと思った。	1	育児・子育て
子育てできる時間の確保。	1	育児・子育て
十分にこども園のスペースや数はあるのに保育士がいないため、待機児童ができています。それを聞くと、子どもを産んで仕事復帰するときが不安。保育士を増やし県内で働くよう導く策をぜひ実施してほしい。	1	育児・子育て
自分の親は子育てに協力してくれると思うが、協力者はとても重要だと思っている。夫婦だけでは現実的に難しい。ヨーロッパではベビーカーを見かけたら手伝うなど、みんなで子育てする文化があるらしい。日本でそれぞれの子育てに対して口を出すニュースを見かけるが、出来ているところを認め合う文化がもっと広まれば孤独で頑張る親の気持ちが少しでも軽くなり、子育てのハードルも下がると思う。	1	育児・子育て
子育て支援は妊娠から幼少期に掛けるものが多く、より精神的にも経済的にも負担の大きい義務教育以降の支援が乏しいと感じる。 沢山産ませようとする意図は感じるものの、目先ばかりでその後の事は自己責任であり産ませてある程度育てた後からの将来性を感じない。 余程子供を産む事へのメリットがなければ今現在の情勢、経済、行政のままでは、結婚はしても子供は産まないという状況に陥るのではないだろうか。	1	育児・子育て
現在、結婚を前提にお付き合いをしている方がいて、近い将来結婚及び出産を希望している。年齢の近い子供を育てる友達と話をすると、希望する保育園に入ることができなかつたり、仕事を辞めてやりたいことを諦めてしまったということ聞く。 子供が好きなので、自分とパートナーの子供を産みたい気持ちは大いにあるが、その反面仕事と両立できるのか、知識がないが故に自分に子育てがうまくできるかという不安もある。	1	育児・子育て
私が子供の頃は商業施設も市内にあったので、友達と遊ぶ場所・買い物に行くお店が割とあった。 しかし今は、郊外のイオンしかなく、子供たちは家でゲームやスマホにかじりつくばかり。 市の施設は大人目線でしか考えられておらず、芸術を売りにした街にしたいのしょうけど、無駄なところに金を使ってばかりで子供の気持ちを全く考えていないという印象。	1	施設
宮下知事の今後の若者世代への政策に期待している。	1	行政
行政にはお年寄りばかりではなく若い世代や子育て世代への積極的な投資を要望します。 また、住みやすい・育てやすい・人が出ていかない町作りをしていくべきだと思う。	1	行政
各個人への支援を蔑ろにせず、話を聴いたうえでその人に合った別の支援やイベントを紹介してもらえるような活動をしてほしい。	1	行政
中学担任教師の精神的ないじめにより重度の精神障害者にされた。闘病生活のため結婚を考える暇はない。 子供は無職なので何をしても良いという考えが行政にある以上、子供を持つリスクは高くなり安心できない。	1	行政

回答内容	件数	項目
少子化対策は大事ですが、子育ての補助金などを前面に出しても、結婚の意思がない人に対しては効果がないと思う。	1	行政
アンケートの回答に「興味がない」があつて良いと思う。子どもを何人欲しいか、または欲しくないか、ではなく、興味がないので欲しいとも欲しくないとも思わない。	1	調査票
このようなアンケートで、なぜ子どもを欲しいと思わないかに関することをもっと詳しく突き詰め、解決方法を見つけ出して欲しい。	1	調査票
子育て支援、少子化対策もこれからの青森県を支えていく子供達への支援ですから、とても大事なことだと思う。結婚支援もそうですが、様々な意見を集約していただければと思う。	1	調査票
どうせ要望しても変わらない。こんなアンケートのために我々の税金をかけないでほしい、というのが国民の本音だと思う。	1	調査票
アンケートを通してどのような問題があつて結婚や子育てをしない、出来ないのかを聞いてもらえてよかったと思う。素晴らしいアンケートだと思った。青森県の少子化対策が今後どのような形になるか期待している。	1	調査票
アンケートが長すぎて面倒。	1	調査票
このアンケートの回答を進めていく上で、前の回答を踏まえた前提の部分が矛盾する設問があつた。結婚するつもりがあるのに、ないという前提で回答せざるを得なかった。その設問については、「その他」で回答させて頂きました。	1	調査票
家族以外の他人と一緒にいるだけでストレスを感じてしまうため、生涯結婚したいとは思わない。	1	その他
結婚にあまり興味を感じていませんが、今が幸せだと感じており、不幸せになることは望まない。結婚に不幸せのイメージを持っている。	1	その他
土地開発。	1	その他
家族は欲しく無い。1人で過ごしたい。	1	その他

使用調査票

子どもと子育て及び結婚に関する調査 (独身者対象調査)

－アンケート調査ご協力をお願い－

1 対象者

20～39歳の独身者（令和5年9月1日現在、結婚していない方）

※本アンケートは20～39歳の方を無作為に選ばせていただき、アンケートを送付しておりますので、既婚者の方にこのアンケートが届く場合もあります。お手数ですが、既婚者の方に届いた場合には、アンケートに回答せずに処分していただくようお願いいたします。

2 調査の趣旨

青森県では、県民の子どもと子育て及び結婚に関する意識などを把握し、次代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくりを進めるための基礎資料を得ることを目的に、「子どもと子育て及び結婚に関する調査」を実施しています。本調査は、平成6・13・20・25・30年に続いて6回目となります。

アンケートは、県内にお住まいの、20～39歳の方3,000名の方を住民基本台帳から無作為に選ばせていただき、お願いしております。今後、子育て支援施策や結婚支援施策を進めていくための大切な資料となりますので、ぜひご協力くださるようお願いいたします。

アンケートは無記名です。ご回答いただいたアンケートは、すべて統計的に処理し、本調査の目的以外に使用することは決してありません。どうぞありのままをお答えください。

集計した結果は、県のホームページ等で公表する予定です。

(ご案内)

- この調査は、令和5年9月1日現在、20～39歳の独身の方（現在結婚していない方）を対象としています。
封筒の宛名にある方がご回答くださるようお願いいたします。
- この調査は、ウェブアンケート形式で実施します。ご自身のスマートフォン等からお答えください。（通信料は自己負担となりますのでご了承ください。）
回答に当たっては、別添の「ウェブアンケート回答方法のご案内」をご確認ください。
- 該当する回答が無い場合でも、一番近いと思う選択肢を必ず選んでください。
回答数は質問によって異なりますのでご注意ください。
回答期間 令和5年9月11日～令和5年9月25日
- アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で500名様にデジタルギフト（QUOカードPay）500円分を進呈します。アンケート終了後にお申し込みください。
- 調査についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

青 森 県

【調査についてのお問い合わせ先】

健康福祉部 こどもみらい課 子育て支援グループ

電 話 017-734-9301

FAX 017-734-8091

E-mail KODOMO@pref.aomori.lg.jp

あなたとあなたのご家庭についてお聞きします

問1 あなたがお住まいの市町村名を教えてください。

記入欄

<input type="text"/>	市・町・村
----------------------	-------

問2 あなたの性別を教えてください。(1つ)

記入欄

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

問3 あなたの年齢をお答えください。(令和5年9月1日現在) (1つ)

記入欄

1. 20～24歳	2. 25～29歳
3. 30～34歳	4. 35～39歳

問4 あなたは、これまで結婚したことがありますか。(1つ)

記入欄

1. 結婚したことはない
2. 結婚したことはあるが、離別・死別等より現在は独身

問5 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、あなたを含めて何人ですか。(1つ)

回答
記入欄

1. 1人	2. 2人	3. 3人	4. 4人
5. 5人	6. 6人	7. 7人以上	

問6 問5で「2人以上」と回答した方にお聞きします。

現在、あなたと同居している方を、次のうちからすべて選んでください。
(あなたから見た続柄でお答えください。)(複数選択)

1. 子ども
2. 父母
3. 祖父母
4. 子どものパートナー
5. 兄弟・姉妹
6. 内縁関係等のパートナー
7. その他

記入欄

<input type="checkbox"/>					
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

問7 お子さんの状況についてお答えください。

① お子さん的人数（同居・別居問わず。）（1つ）

1. いない	2. 1人	3. 2人	4. 3人
5. 4人	6. 5人以上		

記入欄

--

② （お子さんがいる場合）お子さんの就学状況（1つずつ）

1. 未就学児（小学校入学前）
2. 小学生1年生～3年生
3. 小学校4年生～6年生
4. 中学生
5. 高校生以上

	一番下の お子さん	下から 2番目	3番目	4番目	5番目
就学状況					

問8 あなたの最終学歴をお答えください。（1つ）

1. 中学校	2. 男女共学の高校	3. 男女別学の高校
4. 専修・専門学校（高卒後）	5. 短大・高専	
6. 女子大学	7. 男女共学の大学	8. 大学院
9. その他		

記入欄

--

問9 あなたのお仕事についてお答えください。（1つ）

1. 農林漁業の自営業
2. 商工業、サービス業などの自営業
3. 自由業（弁護士、開業医など）
4. 正規の職員（公務員、会社員など）
5. パート、アルバイト
6. 派遣・嘱託・契約職員
7. 家族従事者、内職
8. 無職・家事
9. 学生
10. その他

記入欄

--

問10 あなたの年収をお答えください。（1つ）

1. 100万円未満
2. 100万円～200万円未満
3. 200万円～300万円未満
4. 300万円～500万円未満
5. 500万円～700万円未満
6. 700万円～1000万円未満
7. 1000万円以上

記入欄

--

交際することについてお聞きします

問 1 1 あなたは現在、交際している相手はいらっしゃいますか（内縁関係のパートナーも含む）。
(1つ)

記入欄

1. 交際している人がおり、結婚を考えている
2. 交際している人がいるが、結婚は考えていない
3. 交際している人はいない

問 1 2 **問 1 1**で1、2、3を回答した方にお聞きします。
現在交際している方と知り合ったきっかけを教えてください（1つ）

記入欄

1. 学校で
2. 職場や仕事の関係で
3. 幼なじみ・隣人関係
4. 学校以外のサークル活動、習い事等
5. 友人や兄弟姉妹を通じて
6. 見合いで（親せき・上役等の紹介も含む）
7. 結婚相談所で
8. 婚活イベントで
9. 街中や旅先で
10. インターネット、SNS
11. その他

問 1 3 **問 1 1**で3を回答した方のみにお聞きします。
交際相手が欲しいと思いますか。（1つ）

記入欄

1. 欲しい
2. 欲しいと思わない
3. どちらでもよい

問 1 4 **問 1 3**で2を回答した方のみにお聞きします。
交際相手を欲しいと思わない理由についてお答えください。（3つまで）

記入欄

1. 仕事や勉強に力を入れたい
2. 自分の趣味に力を入れたい
3. 友人と過ごす時間を大切にしたい
4. 過去に恋愛で失敗した
5. 恋愛が面倒
6. 恋愛に興味がない
7. 他人と恋人として交際することに不安がある
8. 結婚で失敗して異性と交際する気になれない
9. 子どもの養育で忙しい
10. 親や家族の介護で忙しい
11. その他

問 1 5 **問 1 1**で3を回答した方のみにお聞きします。
過去に交際相手はいましたか。（1つ）

記入欄

1. いた
2. いたことはない

問16 問15で1と回答した方にお聞きします。交際相手は、どのくらいの期間いないか教えてください。(1つ)

- 1. 1年未満
- 2. 1年以上3年未満
- 3. 3年以上5年未満
- 4. 5年以上10年未満

記入欄

結婚活動についてお聞きします

問17 あなたは現在結婚活動をしていますか。(1つ)

- 1. している
- 2. 結婚相手にめぐり会う可能性があると思うのでしていない
- 3. 結婚相手にめぐり会う可能性がないのでしていない
- 4. 特に考えていない

記入欄

問18 問17で「1. している」と回答した方のみにお聞きします。何歳ころから結婚活動を始めましたか。(1つ)

記入欄

歳ころ

問19 結婚活動において現在又は将来に必要なサポート(又は実施して欲しい支援)をお答えください。特にない場合は「9」のみを記入してください。(3つまで)

- 1. 知人からの異性の紹介
- 2. 合コンやパーティの開催
- 3. 婚活サイトのサービス
- 4. お見合いをする
- 5. 行政等が行う結婚支援のためのマッチング(お見合)システム
- 6. 結婚支援相談
- 7. 地域で縁結びをする世話人の仲介
- 8. その他
- 9. 特にない

記入欄

<input type="text"/>
<input type="text"/>
<input type="text"/>

問 2 0 現在結婚活動でよく利用する（又は今は結婚活動をしていなくても将来的に利用してみたい）イベント・セミナー等について教えてください。
 特にない場合は「12」のみを記入してください。（3つまで）

1. 交流パーティ
2. グループトーク
3. 1対1のトーク
4. 街コン
5. 職業限定の交流パーティ
6. セミナー・ワークショップ
7. クッキング
8. スポーツ
9. アウトドア
10. ツアー型(終日開催、1泊2日など)
11. その他
12. 特にない

記入欄

問 2 1 あなたは結婚活動（出会いのためのイベント参加費やお相手とのお出掛けや食事代など）のために月にいくらくらいかけることができますか。（1つ）

1. 5,000円以内
2. 5,001円～10,000円
3. 10,001円～30,000円
4. 30,001円～50,000円
5. 50,000円以上
6. お金はかけたくない

記入欄

--

問 2 2 あなたはマッチングシステムやマッチングアプリを利用したことがありますか。（1つ）

1. ある
2. ない

--

問 2 3 あなたは「あおもり出会いサポートセンター」を知っていますか。（1つ）

1. 知っていて、会員登録をしている。
2. 知っているが、会員登録はしていない。
3. 知らない

--

問 2 4 問 2 3で2と回答した方にお聞きします。なぜ登録していないのか教えてください。（1つ）

1. 登録手続きをする時間が取れない
2. 利用したいサービスがない
3. サポートセンターの事業やサービス内容を詳しく知らない
4. 積極的な結婚活動をすることに抵抗がある
5. サポートセンターを利用せずに異性と出会いたい

--

問 2 5 あなたは県が運営するマッチングシステム「AIであう」を知っていますか。(1つ)

- 1. 知っていて、登録をしている。
- 2. 知っているが、登録はしていない。
- 3. 知らない

問 2 6 問 2 5 で 2 と回答した方にお聞きします。なぜ登録していないのか教えてください。(1つ)

- 1. 面談や書類の取得など登録手続きをする時間が取れない
- 2. マッチングシステムを利用したいと思わない
- 3. 登録料が高い
- 4. マッチングシステムを利用することに不安や抵抗感がある
- 5. マッチングシステムを使わずに異性と出会いたい

結婚についてお聞きします

問 2 7 あなたの結婚に対する希望を教えてください。(1つ)

- 1. なるべく早めに結婚したい
- 2. 適当な時期がきたら結婚したい
- 3. 理想の人に出会うまでは結婚しない(出会わなければ生涯独身でよい)
- 4. 結婚するつもりはない
- 5. 結婚はせずにパートナーとして暮らしたい
- 6. 特に考えていない

記入欄

問 2 8 問 2 7 で 1、2、3 と回答した方にお聞きします。あなたは何歳くらいのときに何歳くらいの人と結婚したいと思っていますか。(一つ)

記入欄

あなた 歳ころ

相手 歳ころ

問 2 9 あなたが、現在、結婚されていない背景には、どのようなことがあると考えますか。
(5つまで)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 適当な相手がいない |
| 2. 自由や気楽さを失いたくない |
| 3. 雇用が安定していない |
| 4. 経済的に余裕がない |
| 5. 異性とうまく付き合えない |
| 6. まだ若い |
| 7. 仕事を優先したい |
| 8. 子育てが忙しい |
| 9. 親や家族の介護 |
| 10. 親や子どもが同意しない |
| 11. 住宅の目途が立たない |
| 12. 結婚するつもりがない |
| 13. 精神的に余裕がない |
| 14. 健康上の問題 |
| 15. 異性との出会いの場がない |
| 16. 跡継ぎや親との同居の問題が結婚相手の範囲を狭めている |
| 17. 離婚経験があり、結婚に積極的になれない |
| 18. 結婚後の家事・子育てに対する負担感・拘束感が強い |
| 19. その他 |

記入欄

問 3 0 問 2 7 で 1、2、3 と回答した方にお聞きします。

あなたが結婚を考える際に、条件となることはありますか

結婚するために重要な条件であると考えるものを教えてください。(3つまで) 記入欄

- | |
|-----------------------------|
| 1. 自分が就業すること |
| 2. 自分の雇用が安定すること |
| 3. 世帯で一定の収入の見込みが立つこと |
| 4. 結婚資金(挙式や新生活の準備費用)を確保すること |
| 5. 自分または結婚相手が仕事をやめること |
| 6. 仕事や事業の状況が落ち着くこと |
| 7. 結婚生活のための住居を確保すること |
| 8. 健康上の問題が解決すること |
| 9. 年齢上の問題が解決すること |
| 10. 精神的に落ち着くこと |
| 11. 親や子どもの同意を得ること |
| 12. 子どもができること(持つこと) |
| 13. その他 |
| 14. 特にない |

問 3 1 問 2 7 で 1、2、3 と回答した方にお聞きします。
結婚相手に求める条件をお答えください。(3つまで)

1. 人柄
2. 経済力
3. 年齢
4. 職業
5. 学歴
6. 容姿
7. 健康
8. 家事・育児の能力や姿勢
9. 自分の仕事への理解や協力
10. 共通の趣味の有無
11. 価値観が近いこと
12. その他

記入欄

問 3 2 一般的に、結婚することの利点はどのようなことだと思いますか。
利点がある場合はその理由を3つ記入してください。

1. 利点があると思う
 2. 利点はないと思う
- (利点がある場合)
1. 精神的な安らぎの場が得られる
 2. 人間として成長できる
 3. 経済的に余裕が持てる
 4. 社会的信用が得られる
 5. 生活が便利になる
 6. 親や周囲の期待に応えられる
 7. 愛情を感じている人と暮らせる
 8. 子どもや家族を持てる
 9. その他

記入欄

問 3 3 結婚することに対して、不安に思うことはありますか。
不安がある場合はその理由を3つ記入してください。

1. 不安がある
 2. 不安はない
- (不安がある場合)
1. やりたいことの実現が制約されてしまう
 2. 自由に使えるお金が減る
 3. 育児・家事等の負担が重くなる
 4. 人との付き合いが増え、煩わしい
 5. 家族に対する責任が重くなる
 6. 異性との交際が自由にできない
 7. パートナーの考えを考慮することが煩わしい
 8. 住居が狭くなる
 9. パートナーの親と同居しなければいけない
 10. 親や家族の介護に支障が出る
 11. 離婚することとなった場合の生活に不安がある
 12. その他

記入欄

問34 あなたは現在交際している人と結婚するとしたら、なにか障壁になることがあると思いますか。
障壁になることがある場合は具体的な障壁を2つ選択してください。

1. 障壁になることがあると思う 2. 障壁になることは無いと思う (障壁がある場合) 1. 結婚生活のための住居 2. 結婚資金 (挙式や新生活の準備のための費用) 3. 親の承諾 4. 親との同居や扶養 5. 学校や学業上の問題 6. 職業や仕事上の問題 7. 年齢上のこと 8. 健康上のこと 9. その他	記入欄 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
---	---

問35 **問27で4、5と回答した方にお聞きします。**
あなたは過去に結婚したいという意思がありましたか。

1. あった 2. なかった 3. 問27で「4. 結婚するつもりはない」、「5. 結婚はせずにパートナーとして暮らしたい」以外を回答した方	記入欄 <input type="checkbox"/>
--	---------------------------------

問36 **問27で4、5と回答した方にお聞きします。**今後、結婚に対する考えが変化する可能性はありますか。「いずれ結婚するつもり」に変わる場合の理由をお答えください。
(3つまで)

今後、結婚に対するお考えが変わる可能性は 1. あると思う 2. ないと思う (あるの場合) 1. 雇用・労働条件が改善する 2. 収入や貯蓄が増える 3. 子育て支援策が充実する 4. 子どもの教育費の支援が充実する。 5. 家事・育児を男女で分け合う社会になる 6. 家族を養う責任を男女共に担う社会になる 7. 結婚に関する法律や制度が変わる 8. 異性と出会う機会が増える 9. 結婚したいと思う相手が現れる 10. 子どもができる 11. その他	記入欄 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
--	---

妊娠・出産についてお聞きします

問37 「プレコンセプションケア」という言葉を聞いたことがありますか。

<プレコンセプションケア：将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うこと>

1. 聞いたことがあり、内容も理解している。
2. 聞いたことはあるが、詳しいことはわからない。
3. 聞いたことがない。

記入欄

問38 プレコンセプションケアは、将来、妊娠を考えている女性だけでなく、女性の健康を支えるパートナーや家族にとっても重要なことです。次のうち、ご自身の健康のために心掛けていることはありますか。

1. バランスの良い食事
2. 適正体重をキープすること
3. 禁煙や受動喫煙を避ける
4. 過度な飲酒をしない
5. 生活習慣病やがんのチェックを定期的にする
6. 風疹などの感染症から自分を守る
7. 性感染症から自分やパートナーを守る
8. 自分の家族の健康や病気について知る
9. 特に心掛けていることはない

記入欄

問39 男性も女性も35歳前後で様々な原因から妊娠率が低下するということを知っていますか（1つ）

1. 男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた
2. 男性の妊娠する力が低くなることは知っていた
3. 女性の妊娠する力が低くなることは知っていた
4. 知らなかった

記入欄

問40 あなた（又は将来のパートナー）の出産及び子育てに必要なと思うサポートについてお答えください（3つまで）

1. 妊娠や出産にかかる費用の援助
2. 妊娠・出産に関する医療サービスの向上
3. 不妊治療に関する医療機関の充実や補助金の整備
4. 幼稚園・保育所などの充実（休日、夜間保育等含む）
5. 幼稚園・保育所などの費用負担の軽減
6. ベビーシッターや家事・育児支援サービスの充実
7. ベビーシッターや家事・育児支援サービスの費用補助
8. 子どもの教育費の負担軽減
9. 住居費用の補助
10. パートナーの家事・子育てへの協力
11. 自分またはパートナーの親の家事・子育てへの協力
12. 勤務先の産休・育児休業制度、育児短縮勤務制度
13. 職場の理解
14. その他
15. 特にない

記入欄

子どもについてお聞きします

問4 1 あなたは、兄弟姉妹や友人、地域の赤ちゃんや子どもとの触れ合いの頻度を教えてください。（1つ）

1. 日常的に 2. たまに
3. ほとんどない 4. 全くない

記入欄

問4 2 あなたは、今後、何人の子どもが欲しいですか。現在、お子さんがいらっしゃる場合は、そのお子さんを含めないで人数をお答えください。同居・別居は問いません。（1つ）

1. 1人 2. 2人 3. 3人
4. 4人 5. 5人以上 6. 欲しくない

記入欄

問4 3 **問4 2で子どもを1人以上欲しいと回答した方にお聞きします。**
あなたにとって、理想的には何歳くらいで第一子を持ちたい（又は持つべきだった）
と思いますか。実際にどうであるか別にして、あなたにとっての理想的な年齢をお答え
ください。（数字を入力）

記入欄

問4 4 **問4 2で子どもを1人以上欲しいと回答した方のみにお聞きします。**
あなたが子どもを欲しいと思う理由をお答えください。（3つまで）

1. 自分の生命を伝える
2. 家を存続させる
3. 次の社会を担う世代をつくる
4. 子どもを育てることによって自分が成長する
5. 子どもに愛情を注ぐことができる
6. 家族の結びつきを強める
7. 自分の志を継いでくれる後継者をつくる
8. 老後のめんどうをみてもらう
9. 子どもをもつことで社会的に認められる
10. その他

記入欄

問 4 5 問 4 2 で子どもが欲しくないと回答した方のみにお聞きします。

子どもが欲しくない理由をお答えください。(3つまで)

1. 現時点で、もともと欲しいと思っている人数の子どもがいる
2. 仕事に影響が出る、子育てと仕事を両立できない
3. パートナーの家事・育児の協力が得られない
4. 親の協力が得られない
5. 現状では経済的に厳しい
6. 将来の教育費が心配
7. 住居が狭い
8. 自分や夫婦の時間がとれない
9. 育児をする精神的な余裕がない
10. 子育てする体力に自信がない
11. 子どもいじめ問題や犯罪が多く不安である
12. 親や家族の介護をしなくてはならない
13. その他

記入欄

問 4 6 子育てで不安に思っていることをお答えください。(3つまで)

1. 子育てするのが大変そう
2. 仕事に影響が出そう
3. 子育てに自信がない
4. パートナーの家事・育児の協力が期待できない
5. 親の協力が得られない
6. 保育サービスが利用できない
7. 経済的にやっていけるか
8. 自分や夫婦の時間がとれない
9. 子育てをする体力がない
10. 精神的な面で子育てができるか
11. その他

記入欄

問 4 7 その他、結婚支援や少子化対策、子育て支援で考えることや意見、行政への要望など自由に記載してください。

問 4 8 最後までご協力いただきありがとうございました。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で500名様にデジタルギフト（QUOカードPay）500円分を進呈します。賞品当選のお知らせ等に必要となりますので、抽選への参加を希望される場合は、あなたのメールアドレスをお知らせください。

※本アンケートでご提供いただくメールアドレスは、賞品の当選のお知らせ以外には使用致しません。

※賞品当選のご資格は、メールアドレスのご記入がある方のみとなりますのでご注意ください。

※入力した内容に誤りがあると、賞品を送付できませんので、ご注意ください。

令和5年度青森県子どもと子育て及び結婚に関する調査のための検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 青森県における次世代育成支援対策の推進に関し必要な施策等を検討するための子どもと子育て及び結婚に関する県民意識調査(以下「調査」という。)の実施にあたり、調査内容並びに調査結果に基づく子育て支援施策の方向性等を検討するため、令和5年度青森県子どもと子育て及び結婚に関する調査のための検討委員会(以下「検討委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 調査項目の検討
- (2) 調査報告書の作成
- (3) 調査結果に基づく子育て支援施策の方向性の検討
- (4) その他、調査の実施について必要と認める事項

(組織)

第3条 検討委員会は、委員6名以内をもって組織する。

2 委員は、別表に掲げる関係機関・団体等の関係者、学識経験者等をもって充てる。

(委員長及び副委員長)

第4条 検討委員会に健康福祉部長が指名する委員長1人、副委員長1人を置く。

2 委員長は、検討委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が不在のときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 検討委員会の会議は、必要の都度、青森県健康福祉部長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員が会議に出席できないときは、代理の者を出席させることができる。

4 会議には必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(任期)

第6条 委員の任期は、令和6年3月31日までとする。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、青森県健康福祉部こどもみらい課において行う。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年5月19日から施行する。

(別表)

青森県子どもと子育てに関する調査検討委員会 委員

区 分	団体等名称、役職	氏 名
学 識 経 験 者	八戸学院大学地域経営学部教授	堤 静子
児童福祉関係団体	青森県子ども家庭支援センター部長	吉田 圭子
子育て支援団体	NPO法人ファザーリング・ジャパン東北代表理事	齊藤 望
結 婚 支 援 団 体	あおもり出会いサポートセンターセンター長	小野 康一郎
母子保健関係団体	公益社団法人青森県看護協会	橋爪 直美
行 政 関 係	青 森 労 働 局	八木橋 晃

子どもと子育て及び結婚に関する調査
(令和6年3月発行)

青森県子どもと子育て及び結婚に関する調査のための検討委員会・青森県

<この調査に関するお問い合わせ先>

青森県健康福祉部こどもみらい課

〒030-8570 青森市長島1-1-1

電話 017-734-9301 FAX 017-734-8091

E-mail KODOMO@pref.aomori.lg.jp